Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

1-(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承

1-(1)-②　有形文化財の収集等

1-(1)-②-1　収蔵品一覧表

（単位：件）　令和3年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	131,433	135	1,006	119,942	89	648	8,150	29	200	1,929	13	114	1,412	4	44
絵画	13,771	35	219	11,194	21	105	2,131	9	60	306	4	44	140	1	10
書跡	3,595	37	175	1,920	14	60	1,376	17	78	152	5	29	147	1	8
彫刻	1,456	1	49	1,112	0	24	149	0	3	153	1	16	42	0	6
建築	78	0	2	21	0	0	49	0	1	5	0	0	3	0	1
金工	17,424	3	61	16,426	1	17	603	2	31	169	0	11	226	0	2
刀剣	3,501	21	57	3,464	19	57				16	0	0	21	2	0
陶磁	4,504	0	22	2,964	0	13	1,349	0	3	81	0	0	110	0	6
漆工	4,768	6	32	3,951	4	20	532	0	3	107	2	5	178	0	4
染織	4,885	2	29	3,772	0	20	965	1	8	94	1	1	54	0	0
考古	30,415	5	76	28,621	5	55	699	0	11	745	0	8	350	0	2
民族資料	1,376	0	0	1,264	0	0	0	0	0	101	0	0	11	0	0
歴史資料	6,673	0	12	6,249	0	5	297	0	2	0	0	0	127	0	5
和書	17,560	0	2	17,560	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	2,283	0	2	2,283	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
東洋 絵画	709	4	31	709	4	31									
東洋 書跡	1,729	10	13	1,729	10	13									
東洋 彫刻	813	0	20	813	0	20									
東洋 金工	1,041	0	0	1,041	0	0									
東洋 陶磁	3,057	0	11	3,057	0	11									
東洋 漆工	529	0	4	529	0	4									
東洋 染織	610	0	1	610	0	1									
東洋 考古	5,954	0	2	5,954	0	2									
東洋 民族	3,555	0	0	3,555	0	0									
法隆寺献納宝物	326	11	184	326	11	184									
黒田記念館収蔵品	818	0	2	818	0	2									
準歴史資料(含和書)	0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係の列品」あり
　京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の作品も「日本」に含む
＊列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。
＊列品に編入されていない資料については、「準歴史資料(含和書)」の項目にしるし、列品化整理中の資料と分けて表示している。
＊東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-②-1（参考）

【奈良文化財研究所】

○保管及び所蔵文化財・資料概要（主なもの）　　令和3年3月31日現在

保管及び所蔵文化財・資料名	数
[文化遺産部]	
国宝・重要文化財建造物保存図	約30,100枚
国宝・重要文化財建造物摺拓本	約26,000枚
国宝・重要文化財建造物写真乾板	約32,200枚
北浦定政関係資料（重要文化財）	約1,100点
棚田嘉十郎関係資料	26点
関野貞関係資料	54点
菅原大三郎関係資料	7箱
中村泰寄贈文書	一式
森蘊資料	約4,500点
村岡正資料	約3,000点
小林剛関係資料	約38箱
牛川喜幸関係資料	2,927点
塚原家寄贈資料(歴史資料)	3箱
[都城発掘調査部（平城地区）]	
平城宮跡出土木簡（国宝）	3,184点
興福寺旧境内土壙（一乗院宸殿跡下層）出土品（重要文化財）	一括
平城宮・京出土土器・土製品	31,420箱
平城宮・京出土木製品・金属製品・石製品	36,429箱
平城宮・京出土瓦類	1,004,933箱
平城宮・京出土木簡	252,747点
塚原家寄贈資料(考古資料)	7箱
長屋王家木簡附平城京跡左京三条二坊出土木簡（重要文化財）	1,809点
[都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)]	
軒丸瓦・軒平瓦	約37,020点
丸瓦・平瓦　　土嚢袋	約167,847袋
丸瓦・平瓦　　整理箱	41,700箱
土器　　整理箱	16,850箱
土製品	15,120点
木器・木製品	34,387点
木簡	35,323点
建築部材	約3,000点
金属製品	19,949点
石器・石製品	14,643点
漏刻復原模型	1点
幢幡復原模型（台付き）	一式
飛鳥大仏頭部複製（模刻）	1点
藤ノ木古墳鞍復原模型	1点
富本銭枝銭復原模型	一式
碁盤復原模型	1点
鉄釜鋳造土坑復原模型	1点
[飛鳥資料館]	
高松塚古墳出土品(海獣葡萄鏡 銀製太刀金具 棺金具 ガラス小玉漆塗り木棺)(重要文化財)	一式
須弥山石	1点
石人像	1点
飛鳥寺塔跡出土舎利荘厳具	一式
飛鳥寺出土瓦類	一式
山田寺跡出土品（重要文化財）	一括
和田廃寺鴟尾（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区所属）	1点
川原寺出土水波紋土磚	2点
岡出土車石	8点
飛鳥各地出土瓦類	一式
川原寺裏山出土三尊磚仏	2点
飛鳥川原宮出土唐居敷	1点
高松塚古墳壁画模写（前田青邨、平山郁夫等）	3面
高松塚古墳人物復元衣装	一式
石上神宮七枝刀レプリカ	1点
水落遺跡遺構1/20模型	1点
猿石模刻	一式
亀石模刻	1点
須弥山石復元模刻	1点
石人像復元模刻	1点
出水酒船石模刻	2点
阿武山古墳出土　玉枕　冠帽　復元模型	3点
川原寺伽藍1/50模型	1点
山田寺金堂復原	1点
飛鳥京復原模型	1点
山田寺発掘遺構1/100模型	1点
石舞台古墳1/20模型	1点
飛鳥寺発掘遺構1/100模型	1点
石のカラト古墳1/20模型	1点
野中寺銅造弥勒菩薩半伽像レプリカ	1点
銅造摩耶夫人及天人像レプリカ	4点
威奈大村骨蔵器レプリカ	1点
長谷寺法華説相図レプリカ	1点
諸陵周垣成就記並諸陵図譜	1点
鼓銅図録	1点
高松塚古墳木棺模造	1点
八釣マキト５号古墳石室	1点
十二支拓本（表装済み・収納箱あり）	一式
キトラ古墳模型	1点
山東省済南市解放橋北唐墓石棺　青龍・白虎・小口面拓本	各1点
近藤千尋関連資料	1式

保管及び所蔵文化財・資料名	数
武人復原	1点
山田寺灯籠復原	1点
具注歴木簡レプリカ	1点
天皇木簡レプリカ	1点
壬申の乱ジオラマ	一式
牽牛子塚古墳ミニジオラマ	1点
キトラ古墳出土品金銅製鏡座金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品銀鏡付六花形飾金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀製鞘尻金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀装把レプリカ	1点
キトラ古墳出土品鉄地銀張金象嵌帯執金具レプリカ	3点
キトラ古墳出土品琥珀玉レプリカ	4点
キトラ古墳出土品金銅製鏡座金具復元品	10点
キトラ古墳出土品銅釘復元品	一括
キトラ古墳出土品銀鏡付六花形飾金具復元品	10点
キトラ古墳出土品円環棺金具復元品	10点
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点
鍛冶工房風景想定復元図	1点
銅造観音菩薩立像（夢違観音）複製品	1体
隅田八幡宮人物画像鏡複製品	1点
山田寺仏頭複製品	1点
金銅小野毛人墓誌複製品	1点
筑前国嶋郡川辺里大宝２年戸籍残簡複製品	2点
人頭石（光永寺）複製品	1点
鰐淵寺銅造観音菩薩立像複製品	1点
重要文化財図勝寺銅壺鋳造模型（下道圀依母婦人骨蔵器）	1点
四十八体仏如来坐像複製	1点
丙寅年銘菩薩半跏像複製品	1具
於美阿志神社石塔婆のうち供養具	一括
牽牛子塚古墳出土品	一括
マルコ山古墳出土品	一式
高松塚古墳壁画漆喰印刷複製	一式
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点一式
飛鳥池遺跡出土木簡複製品	13点
暗文土師器復原制作品（脇田宗孝氏制作）	5点
一町長法寺押出仏複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土　蛇行状鉄器複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土　馬鈴複製品	1点
扶桑略記　巻二十一～二十八	7冊
高松塚古墳石室　原寸模型	1台
高松塚古墳石室　1/20模型	1台
[埋蔵文化センター]	
埼玉県真福寺貝塚資料	一式
岡山県福田貝塚資料	一式
埼玉県上福岡貝塚資料	一式
神奈川県田戸遺跡資料	一式
神奈川県子母口貝塚	一式
神奈川県大口坂貝塚資料	一式
能登縄文資料（15遺跡）	一式
千葉県曽谷貝塚資料	一式
長野県石小屋遺跡資料	一式
山形県蛭沢洞窟資料	一式
東京都小豆沢貝塚資料	一式
茨城県広畑貝塚資料	一式
中国・朝鮮瓦磚資料	一式
岡山地方陶棺資料	一式
下総国分寺・尼寺資料	一式
関東地方加曽利B式資料	一式
岩手県足沢遺跡資料	一式
茨城県浮島貝塚資料	一式
千葉県幸田貝塚資料	一式
滋賀県安土遺跡資料	一式
岡山県黒土遺跡資料	一式
神奈川県保土ヶ谷貝塚資料	一式
千葉県姥山貝塚資料	一式
宮城県川下り・響き資料	一式
大木囲貝塚	一式
東貝塚	一式
室浜貝塚	一式
福浦島貝塚	一式
里浜貝塚	一式
東北縄文晩期末資料	一式
東北各地発見縄文資料	一式
北海道資料	一式
発見地不詳縄文資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
現生動物標本	一式
年輪年代学用木材標本	一式

収蔵品・寄託品件数合計（過去5か年）

（単位：件）　令和3年3月31日現在

		平成28年度			平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
収蔵品・寄託品合計	国立博物館 計	139,582	327	2,172	140,448	330	2,193	142,680	332	2,180	143,576	329	2,180	143,928	332	2,207
	東京国立博物館	120,267	143	894	120,569	144	903	122,194	144	897	122,462	141	891	122,593	143	910
	京都国立博物館	13,983	114	818	14,212	115	822	14,509	116	812	14,650	117	815	14,697	117	818
	奈良国立博物館	3,844	65	411	3,855	66	417	3,882	66	418	3,885	65	420	3,917	66	423
	九州国立博物館	1,488	5	49	1,812	5	51	2,095	6	53	2,579	6	54	2,721	6	56
収蔵品	国立博物館 計	127,455	132	983	128,208	134	997	130,211	135	994	131,191	135	1,002	131,433	135	1,006
	東京国立博物館	117,192	88	636	117,460	89	643	119,064	89	644	119,871	89	646	119,942	89	648
	京都国立博物館	7,794	28	198	7,977	29	202	8,075	29	196	8,130	29	200	8,150	29	200
	奈良国立博物館	1,886	13	112	1,893	13	113	1,908	13	113	1,911	13	114	1,929	13	114
	九州国立博物館	583	3	37	878	3	39	1,164	4	41	1,279	4	42	1,412	4	44
寄託品	国立博物館 計	12,127	195	1,189	12,240	196	1,196	12,469	197	1,186	12,385	194	1,178	12,495	197	1,201
	東京国立博物館	3,075	55	258	3,109	55	260	3,130	55	253	2,591	52	245	2,651	54	262
	京都国立博物館	6,189	86	620	6,235	86	620	6,434	87	616	6,520	88	615	6,547	88	618
	奈良国立博物館	1,958	52	299	1,962	53	304	1,974	53	305	1,974	52	306	1,988	53	309
	九州国立博物館	905	2	12	934	2	12	931	2	12	1,300	2	12	1,309	2	12

1-(1)-②-3 令和2年度新収品一覧表

（単位：件）　令和3年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	242			71			20			18			133		
計	69	155	18	1	52	18	9	11	0	10	8	0	49	84	0
絵画	7	8	0	1	2	0	1	6	0	1	0	0	4	0	0
書跡	3	59	0	0	29	0	0	0	0	1	0	0	2	30	0
彫刻	1	18	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	17	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	6	1	0	0	0	0	2	0	0	4	0	0	0	1	0
刀剣	2	9	0	0	0	0			0	0	0	0	2	9	0
陶磁	4	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3	1	0
漆工	5	1	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	2	0	0
染織	7	5	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0	5	1	0
考古	30	31	0	0	0	0	0	0	0	3	6	0	27	25	0
民族資料	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
歴史資料	3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	0	0	16	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	0	0	0	0	0	0									
東洋 書跡	0	15	0	0	15	0									
東洋 彫刻	0	1	0	0	1	0									
東洋 金工	0	0	0	0	0	0									
東洋 陶磁	0	0	0	0	0	0									
東洋 漆工	0	0	0	0	0	0									
東洋 染織	0	1	0	0	1	0									
東洋 考古	0	3	0	0	3	0									
東洋 民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物	0	0	2	0	0	2									
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係の列品」あり
＊列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。

付表・文化財収集件数の推移

5年間の新収品一覧表

（単位：件）

	平成28年度			平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	525			754			2,005			980			242		
小計	63	318	144	64	518	172	154	348	1,503	87	125	768	69	155	18
絵画	13	36	0	18	17	5	8	22	0	31	9	0	7	8	0
書跡	7	42	0	8	47	2	3	50	0	2	8	0	3	59	0
彫刻	1	3	0	5	2	0	2	3	0	1	0	0	1	18	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	1	32	0	3	253	8	3	21	0	3	12	0	6	1	0
刀剣	0	2	0	0	0	10	1	0	0	0	1	0	2	9	0
陶磁	6	143	0	10	123	5	15	44	0	1	11	0	4	2	0
漆工	2	7	0	2	12	93	4	23	0	1	8	0	5	1	0
染織	4	8	0	1	7	47	30	21	0	3	7	0	7	5	0
考古	4	6	4	11	18	2	81	120	2	34	10	0	30	31	0
民族資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
歴史資料	17	8	134	4	2	0	6	1	0	3	50	0	3	1	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料										0	0	767	0	0	16
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	1,500	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	0	4	0	0	1	0	0	15	0	3	1	0	0	0	0
東洋 書跡	1	0	0	0	2	0	0	18	0	0	0	0	0	15	0
東洋 彫刻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	1	0
東洋 金工	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	1	0	0	0	0
東洋 陶磁	1	0	0	2	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
東洋 漆工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 染織	6	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
東洋 考古	0	0	5	0	11	0	0	3	0	0	4	0	0	3	0
東洋 民族	0	27	0	0	21	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
法隆寺献納宝物	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0

1-(1)-②-4 令和2年度新収品一覧
【東京国立博物館】(計71件)

（１）購入（1件）

＜絵画＞（1件）

1　名称	重要文化財　法然上人絵伝（ほうねんしょうにんえでん）	品　　質	紙本着色
作 者 等		員　　数	1巻
時　　代	鎌倉時代・14世紀	寸 法 等	本紙 縦32.7cm 横1,364.0cm
作品概要	巻子装。牙軸。詞書五段、絵六段。 法然上人の伝記を描いた絵巻。もとは九巻構成の琳阿本と呼ばれる系統の作例で、本作はそのうちの第七巻にあたる。琳阿本の名称は、この系統の作品に「向福寺琳阿弥陀仏」との名があることに由来する。琳阿本で九巻全てが揃うのは江戸時代制作の東京・妙定院本であり、本系統の最古作として極めて貴重である。 法然上人の伝記を描いた「法然上人絵伝」は京都・知恩院蔵の四十八巻本（国宝）が有名だが、本作はこの四十八巻本とほぼ同時代に制作され、現存する「法然上人絵伝」のなかでも古い作例である。四十八巻本は既存の「法然上人絵伝」を解体、編集するなど複雑な経緯を経て成立しており、九巻構成の琳阿本は「法然上人絵伝」の初期的な段階をうかがう上でも重要な伝本である。 東京国立博物館には本作ともとは一連であった絵巻（第八巻に相当。A-10571）がある。		

（２）寄贈（52件）

＜絵画＞(2件)

1　名称	平安神宮下絵（へいあんじんぐうしたえ）	品　　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	竹内栖鳳（1864～1942）筆	員　　数	1枚
時　　代	明治時代・明治29年（1896）	寸 法 等	本紙 縦1,846.0cm 横3,782.0cm
作品概要	縦・約1尺前後、横・約1尺4寸強（最後の列だけ横・約7寸5分）の楮紙を縦方向に6枚、横方向に9枚継いで1枚とした大きな料紙に平安神宮の景色を描く。朱線で屏風の1扇ずつの区画（1571×566）が6扇分引かれる。その区画の中に、応天門、大極殿、蒼龍楼、白虎楼、龍尾壇といった主要な建物を墨で描き、周囲の松樹や遠景の山などを淡墨でアタリをとり、その上からやや暗めの朱線で描いている。建物部分には貼紙をしての修正や、明るめの朱による修正が入っている。 1扇の区画の大きさと図様から、明治29年（1896）に平安遷都一千百年記念祭協賛会からの依頼で制作された「円山公園・平安神宮」（6曲1双、A-11781）の左隻の原寸下絵と考えられる。数度の描き直しの跡が見られるが、最後の描線による応天門や大極殿の大きさや位置関係、鴟尾の形状、松樹の形状や位置から完成作の直前の状態と見られる。		

2　名称	粟穂鶉図屏風（あわほうずらずびょうぶ）	品　　質	紙本着色
作 者 等	土佐光起（1617～91）筆	員　　数	8曲1双
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙 各 縦100.9cm 横353.9cm
作品概要	近景に、桔梗、粟、菊、サルトリイバラ、薄や女郎花などの秋草が生い茂る刈田と、落穂を啄むかのような鶉の群れを描き、金砂子の霞と緩やかな水流を隔てた遠景には山を表わす。鶉は土佐光起が得意としたモチーフのひとつ。本図における鳥のかたちや、羽毛の緻密な描写、丸みを帯びた体の立体感をとらえた表現には、筆耕園（TA-487-3）などにみられるような李安忠や徽宗の筆に比定された中国絵画の鶉図を学習した成果がみとめられ、画家の父・土佐光則による濃彩の鶉図（A-1264　雑画帖）とは一線を画す。光起は秋郊鳴鶉図（A-65）をはじめとする鶉図を多数制作し、本画題は近世土佐派の画家たちの代表的なレパートリーとなった。その大半は掛軸である。光起による大画面の鶉図は、秋草鶉図屏風（重要文化財、名古屋市博物館蔵）など僅かに知られているのみであり、本図は鶉図を近世土佐派の代名詞になさしめた光起の大作として高く評価できる。なお、屏風裏面には筆者不詳の金地墨画山水図がある。		

＜書跡＞(29件)

3　名称	賢愚経断簡（大聖武）（けんぐきょうだんかん（おおじょうむ））	品　　質	紙本墨書
作 者 等	伝聖武天皇筆	員　　数	1幅
時　　代	奈良時代・8世紀	寸 法 等	本紙 縦27.0cm 横7.8cm
作品概要	掛軸装。木軸。茶毘紙に『賢愚経』（巻第六、北魏・慧覚等訳）を書写したもの。元巻子本で、当館には巻子本の「賢愚経」（B-2402）もあり、国宝に指定されている。東大寺に伝来し、伝称筆者を聖武天皇としており、「大聖武」、「大和切」と称される。同じ茶毘紙に書写されたもののうち、文字の大きさで「大聖武」「中聖武」「小聖武」と呼び分けられている。「大聖武」は古筆手鑑のはじめに押される、古筆切の筆頭といえるものである。		

4　名称	後撰和歌集巻第三断簡（烏丸切）（ごせんわかしゅうまきだいさんだんかん（からすまるぎれ））	品　　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原定頼筆	員　　数	1幅
時　　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙 縦20.8cm 横14.0cm
作品概要	掛軸装。牙軸。『後撰和歌集』巻第三春下より、和歌三首を書写した部分。金銀の揉み箔を全面に散らした料紙を使っている。粘葉装の冊子本だったもので、下巻は伝わっていないが、その内容は12世紀の『後撰和歌集』の伝本として貴重である。同種のつれの中に、江戸初期の古筆了佐による極札が伝わっており、藤原定頼（992～1045）筆としているものの、定頼とは時代が合わず、12世紀の「本願寺本三十六人家集」（国宝、西本願寺所蔵）の「元貞集」等と同筆である。		

5　名称	針切（はりぎれ）	品　　質	紙本墨書
作 者 等	伝藤原行成筆	員　　数	1幅
時　　代	平安時代・11～12世紀	寸 法 等	本紙 縦21.8cm 横31.2cm
作品概要	掛軸装。牙軸。針のように細い墨線のため「針切」と呼ばれるもの。もとは冊子本で、『重之子僧集』と『相模集』を書写したものだった。本作は『重之子僧集』の書写で、この針切でしか写本が残されていないため貴重である。		

6 名称	小大君集断簡（御蔵切）（こおおぎみしゅうだんかん（おくらぎれ））	品　質	彩箋墨書
作者等	伝小大君筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀	寸法等	本紙 縦19.0cm 横10.5cm
作品概要	掛軸装。牙軸。『小大君集』より和歌一首を書写した部分。同筆の『元真集』『元輔集』『重之集』があり、すべて「御蔵切」の名で呼ばれている。本作には見えないものの雲母摺りを施した唐紙を使っていて、もとは冊子本であった。『小大君集』最古の写本で、伝称筆者の小大君は10世紀末から11世紀初の人物だが、本作は11世紀後半のものと推定される。		

7 名称	月輪切（つきのわぎれ）	品　質	紙本墨書
作者等	伝西行筆	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代・12～13世紀	寸法等	本紙 縦25.6cm 横8.5cm
作品概要	掛軸装。牙軸。西行の自歌合「宮河歌合」の断簡。「宮河歌合」は、西行が自詠の和歌を三十六番で左右に分け、藤原定家が判事をつとめたもの。文治5年（1189）頃に伊勢神宮の外宮に奉納された。本作は、その原本に近い時期の写本と考えられる。		

8 名称	和漢朗詠集巻上断簡（戊辰切）（わかんろうえいしゅうまきじょうだんかん（ぼしんぎれ））	品　質	彩箋墨書
作者等	藤原伊行（?～1149～68-）筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸法等	本紙 縦29.0cm 横20.0cm
作品概要	掛軸装。牙軸。『和漢朗詠集』巻上（秋）より、「前栽」の部分を書写している。もとは、『和漢朗詠集』上下巻を完存していた巻子本で、昭和3年（1928）、一橋徳川家から売立に出されて分割された。その年の干支により「戊辰切」と呼ばれる。巻上は藤原伊行筆、巻下はその父・藤原定信筆で、父子で揮毫したものであった。金銀箔が散らされた料紙を使っている。		

9 名称	二条家三卿之芳翰（にじょうけさんきょうのほうかん）	品　質	紙本／彩箋墨書
作者等	藤原俊成（1114～1204）、伝藤原定家、伝藤原為家（1197～1275）筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀（第1紙）、鎌倉時代・13世紀（第2・3紙）	寸法等	本紙 縦21.6cm 横46.6cm
作品概要	掛軸装。牙軸。三葉の異なる古筆切を一つの掛軸に装幀している。右第一紙は、藤原俊成（1114～1204）筆の「日野切」で『千載和歌集』巻十二恋二を書写した部分。『千載和歌集』全二十巻は、後白河法皇の撰進により俊成は撰者となり文治三年（1187）奏上した。もとは冊子本で上下二冊であったと推定され、巻十一以降の下帖分しか伝わっていないが、撰者自身の自筆本として貴重である。第二紙は、上下に藍の繊維を漉き込んだ雲紙に『後撰和歌集』巻十一恋三から和歌を四首書写したもの。ただ、歌の順序が違っているのと作者や詞書が省略されている。伝定家筆の「後撰和歌集」断簡としてほかのつれが確認されていない（小松茂美『古筆学大成』巻六）。第三紙は、『拾遺和歌集』巻一春より和歌一首を書写。これもほかにつれが確認されていない（同上巻八）。		

10 名称	後撰和歌集巻十二断簡（紹巴切）（ごせんわかしゅうまきじゅうにだんかん（じょうはぎれ））	品　質	紙本墨書
作者等	藤原定家（1162～1241）筆	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代・13世紀	寸法等	本紙 縦22.3cm 横14.0cm
作品概要	掛軸装。牙軸。『後撰和歌集』巻十二恋四より和歌三首を書写した部分。里村紹巴（1525～1602）が所蔵していたことによりこの名称で呼ばれる。もとは上下二冊の冊子本だったが、巻十一以降の下帖部分しか伝わっていない。藤原定家筆の『後撰和歌集』として有名な古筆切である。		

11 名称	古今和歌集巻三断簡（通切）（こきんわかしゅうまきさんだんかん（とおしぎれ））	品　質	彩箋墨書
作者等	藤原定実（?-1077～1119-?）筆	員　数	
時　代	平安時代・12世紀	寸法等	本紙 縦22.2cm 横14.0cm
作品概要	掛軸装。牙軸。『古今和歌集』を書写した元粘葉装の冊子本で、縦に筋の入った「筋切」とこの「通切」は料紙の表裏である。本作は、紙の漉き跡である布の目が見えており、大きな篩（ふるい）を意味する「とおし」という道具の名から、「通切」と呼ばれる。『古今和歌集』巻三夏の巻末部分のため、和歌一首の左側に余白が広がっている。筆者は、藤原佐理と伝称されてきたが、現在では、当館の国宝「古今和歌集（元永本）」と同じ藤原定実（？～1077～1119～？）と推定されている。		

12 名称	後撰和歌集巻十断簡（秋篠切／東山切）（ごせんわかしゅうまきじゅうだんかん（あきしのぎれ／ひがしやまぎれ））	品　質	紙本墨書
作者等	伝民部卿局筆	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代・13世紀	寸法等	本紙 縦23.3cm 横15.6cm
作品概要	掛軸装。牙軸。『後撰和歌集』を書写したもとは綴葉装の冊子本。江戸時代に「秋篠切」と呼ばれはじめたが、昭和26年（1951）に発見された零本が分割された際、「東山切」と名付けられた。本作は、「東山切」と名づけた田中塊堂（1896～1976）による箱書に「秋篠切」とあるが、『後撰和歌集』巻十恋二の和歌二首と詞書部分で零本に収まっていたものである。		

13 名称	後撰和歌集巻二断簡（白河切）（ごせんわかしゅうまきにだんかん（しらかわぎれ））	品　質	紙本墨書
作者等	伝西行筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸法等	本紙 縦17.5cm 横15.0cm
作品概要	掛軸装。牙軸。『後撰和歌集』上下二帖にした枡型の冊子本だった。現在は、上帖しか伝わっておらず、本作は『後撰和歌集』巻二春中から詞書と和歌一首を書写した部分である。ほかのつれには、烏丸光広（1569～1638）による極めが附属するものがあり、江戸初期には分割されていたことがわかる。		

14　名称	後撰和歌集巻五断簡（烏丸切）（ごせんわかしゅうまきごだんかん（からすまるぎれ））	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原定頼筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙 縦20.5cm 横15.2cm
作品概要	掛軸装。牙軸。金銀の揉み箔を散らした料紙に『後撰和歌集』を書写している。本作は、『後撰和歌集』巻五秋上の巻末にあたり、和歌一首の左側に余白が広がっている。粘葉装の冊子本だったもので、下巻は伝わっていない。同種のつれの中に、江戸初期の古筆了佐による極札が伝わっており、藤原定頼（992～1045）筆としているものの、定頼とは時代が合わず、12世紀の「本願寺本三十六人家集」（国宝、西本願寺所蔵）の「元貞集」等と同筆である。		

15　名称	兼輔集断簡（砂子切）（かねすけしゅうだんかん（すなごぎれ））	品　質	彩箋墨書
作 者 等	藤原定信（1088～1154～?）筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙 縦19.1cm 横12.6cm
作品概要	掛軸装。牙軸。濃い藍色の染紙に金銀箔を散らした料紙を使っている。もとは冊子本の『兼輔集』で、ほかに素紙や濃茶色の染紙を使っている。同筆で同じ装飾を施した料紙を使った『業平集』『中務集』『公忠集』が伝わっており、もとは三十六人家集だった可能性が考えられる。伝称筆者は藤原公任だが、「本願寺本三十六人家集」（国宝、西本願寺所蔵）の「貫之集下」（石山切）などと同筆で藤原定信（1088～1154～？）筆である。		

16　名称	和漢朗詠集巻上断簡（益田本）（わかんろうえいしゅうまきじょうだんかん（ますだぼん））	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原公任筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙 縦23.9cm 横9.0cm
作品概要	掛軸装。牙軸。当館が所蔵する重要文化財「和漢朗詠集巻下断簡（益田本）」（B-2764） 一巻のつれである。その一巻が益田鈍翁（1847～1938）旧蔵のため、「益田本」と呼ばれる。本作は、七宝唐草文を施した蠟箋（中国製）に『和漢朗詠集』巻上春より「鶯」の漢詩を四首書写した部分。当館所蔵の一巻で確認すると、唐紙や染紙、雲紙などは色紙型で継いでいる中に、蠟箋だけはさらに縦半分に切断して継いでいる。本作はその縦半分の部分と考えられる。		

17　名称	和泉式部続集切（いずみしきぶぞくしゅうぎれ）	品　質	紙本墨書
作 者 等	伝藤原行成筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙 縦20.5cm 横13.0cm
作品概要	掛軸装。牙軸。『和泉式部続集』を書写している。もとは粘葉装の冊子本で、素紙や薄藍地に竜丸文や牡丹文を空摺りにした料紙を交用する調度手本として調製されたものである。現存の断簡は2種類の書風に分類され、本作は第2種にあたる。		

18　名称	業平集断簡（砂子切）（なりひらしゅうだんかん（すなごぎれ））	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原公任筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙 縦18.5cm 横11.4cm
作品概要	掛軸装。牙軸。濃い藍色の染紙に金銀箔を散らした料紙を使っている。もとは冊子本の『業平集』で、ほかに素紙や濃茶色の染紙を使っている。同筆で同じ装飾を施した料紙を使った『兼輔集』『中務集』『公忠集』が伝わっており、もとは三十六人家集だった可能性が考えられる。		

19　名称	二十巻本歌合断簡（二条切）（にじっかんぼんうたあわせだんかん（にじょうぎれ））	品　質	紙本墨書
作 者 等	伝藤原俊忠筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙 縦24.8cm 横13.3cm
作品概要	掛軸装。牙軸。上下に淡墨の界線を引いた素紙に、「出羽国郡名歌合」（天慶二年二月二八日貫之歌合カ）を書写している。近衛家（陽明文庫）に伝わった「二十巻本歌合（類聚歌合）」（巻第15）の断簡である。ただし、『古筆学大成』にも所収されず、『平安朝歌合大成』（萩谷朴、1958年）において本文が紹介されているが、主催者・開催年不明の歌合とされている。「二十巻本歌合」は、おおよそ書風によって伝称筆者・切名が二種類あり、本作は、藤原俊忠を伝称筆者とする「二条切」で、もう一方は伝藤原忠家筆「柏木切」である。		

20　名称	古今和歌集巻十七断簡（大江切）（こきんわかしゅうまきじゅうななだんかん（おおえぎれ））	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原定頼筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙 縦19.4cm 横13.0cm
作品概要	掛軸装。牙軸。金銀の砂子を撒いた料紙に『古今和歌集』を書写した元冊子本である。本作は、『古今和歌集』巻17雑歌を書写した部分。宮内庁に巻子本に装幀しなおされた巻13・巻14断簡が伝わるが、現存の断簡は巻11～20しか確認されておらず、元は上下2帖に仕立てられていた可能性が高い。		

21　名称	金銀箔歌集切（きんぎんはくかしゅうぎれ）	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原公任筆	員　数	1幅
時　代	平安～鎌倉時代・12～13世紀	寸 法 等	本紙 縦21.5cm 横6.3cm
作品概要	掛軸装。牙軸。『金葉和歌集』巻九雑部下に所収の和歌一首を書写した部分の断簡である。ただし、『金葉和歌集』（初度・二度本にはなし）では作者を藤原よしすけとして書写した古筆切の中につれがなく、『国歌大観』にも所収されていない。料紙には金銀箔が散らされていることから、「金銀箔歌集切」と呼ばれてきた。		

22　名称	記録切（きろくぎれ）	品　質	紙本墨書
作 者 等	藤原定家（1162～1241）筆	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代・13世紀	寸 法 等	本紙 縦14.7cm 横13.5cm
作品概要	掛軸装。牙軸。上部に三本、下部に一本の界線が引かれたほぼ正方形の料紙に、康治二年（1143）正月十八日に宮廷で行なわれた賭弓という行事について記している。このような記録は冷泉家時雨亭に「朝儀諸次第」として一群で伝わっており、本作と同類の料紙もみられることから、本作も元冊子本だったと推測できる。また、「朝儀諸次第」の中の藤原定家の筆跡と比較して、本作も定家自筆の記録と考えられる。記された内容は、当時の日記『台記別記』の中に詳しい記事があり、この時、右近衛次将は藤原公通一人のみが参仕したとなっているため、本作の内容と矛盾しない。「内府」は藤原頼長を指すが、「左中将雅通」とある源雅通は康治二年はまだ少将で、翌年正月二十七日に中将に昇進するため、誤記の可能性が高い。		

23　名称	讃岐切（さぬきぎれ）	品　質	紙本墨書
作 者 等	伝菅原道真筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・10世紀	寸 法 等	本紙 縦25.3cm 横2.6cm
作品概要	掛軸装。塗軸。『合部金光明経』巻八を一行45文字の細字で書写している。国宝「手鑑藻塩草」（京都国立博物館蔵）に押されている古筆切のつれである。菅原道真が讃岐守のときに讃岐国滝宮に納経したことにちなんでこの名で呼ばれる。		

24　名称	和漢朗詠集巻下断簡（法輪寺切）（わかんろうえいしゅうまきげだんかん（ほうりんじぎれ））	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原行成筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙 縦27.8cm 横4.0cm
作品概要	掛軸装。牙軸。『和漢朗詠集』巻下恋より漢詩を一首書写した部分。薄藍色の料紙と書風より、法輪寺切とわかる。筆者は、藤原行成と伝称するが、平安時代最高峰の仮名の名品である「高野切」（古今和歌集）を寄合書きした三人の筆者のうち第三種と同筆である。一行ながら、「粘葉本和漢朗詠集」（宮内庁三の丸尚蔵館蔵）にもみられるのびやかな墨線の美しさが際立つ断簡である。なお、横に添えられた装飾料紙は、当館所蔵の「敦忠集切」（伝藤原行成筆、益田鈍翁旧蔵、B-2462）の添え紙と同じ料紙を使っており、本作の伝来がわからないものの関係性がうかがわれる。		

25　名称	中務集断簡（砂子切）（なかつかさしゅうだんかん（すなごぎれ））	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原公任筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙 縦18.8cm 横10.0cm
作品概要	掛軸装。牙軸。掛軸装。牙軸。金銀箔を散らした料紙を使っている。もとは冊子本の『中務集』で、ほかに素紙や濃茶色の染紙を使っている。同筆で同じ装飾を施した料紙を使った『業平集』『兼輔集』『公忠集』が伝わっており、もとは三十六人家集だった可能性が考えられる。		

26　名称	歌合切（うたあわせぎれ）	品　質	紙本墨書
作 者 等	藤原定家（1162～1241）筆	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代・13世紀	寸 法 等	本紙 縦21.0cm 横15.0cm
作品概要	掛軸装。牙軸。藤原定家自詠の和歌と三男・為家の和歌を歌合として書写したもの。右の為家の和歌が勝ったことも記されている。管見の限りでこの和歌が所収される歌集や歌合集がなく、類似する古筆切も確認できないため、文学資料としても貴重な古筆切である。当館所蔵の藤原定家筆「歌合切」（B-2558）の筆跡と近く、定家自筆と考えられる。		

27　名称	書状（しょじょう）	品　質	紙本墨書
作 者 等	本阿弥光悦（1558～1637）筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦19.5cm 横42.0cm
作品概要	掛幅装（三段表具）。二十四日付、「予長左（未詳）」宛、本阿弥光悦自筆の書状。文中の「伊賀守」は板倉勝重（1545～1624）と推定され、伊賀守任官の慶長8年（1603）光悦46歳以降の筆と考えられる。		

28　名称	書状（しょじょう）	品　質	紙本墨書
作 者 等	本阿弥光悦（1558～1637）筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦28.5cm 横40.4cm
作品概要	掛幅装（三段表具）。日付に閏月を示す「後」の記載から、本作品は元和元年（1615）閏6月5日、光悦57歳の自筆書状と判明する。宛先の「加式少」は、加藤式部少輔明成（1592～1661）で、当時23歳。父嘉明共々、光悦と親交があった。書状冒頭で樽酒と麦麺の礼を述べ、次いで「すちけ（筋気）」という筋肉が痙攣により痛む病気のため手紙の執筆も、訪問もかなわなかったことを詫びる。光悦が元和年間に軽度の中風にかかったとの記載が『本阿弥行状記』にあり、これまで中風を記した光悦自筆書状としては、年未詳の加式少宛「書状」（G-182-2）や八月九日付十方院宛「書状（個人蔵）が知られていたが、これらと本作品は光悦の執筆が阻害される罹病に関して、深い関連が窺われるものである。元和年間に発症した光悦の中風は、慶長期以前と以後の書風変化の一因と考えられるため、本作品はこの罹病に関して年代特定でき、またその時点での書風を具体的に伝える点でも、学史上有益なだけでなく、光悦その人に迫る書として、展示効果も高い作品である。		

29　名称	一行書「老子云天長地久」（いちぎょうしょ「ろうしいわくてんちょうちきゅう」）	品　質	紙本墨書
作 者 等	慈雲（1718～1804）筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	本紙 縦130.0cm 横27.6cm
作品概要	筆者の慈雲が、『老子』第七章の「天長地久」の語句を、一行に揮毫したものである。類品として、この語句と「孔子云仁者寿」とで対幅とするもの（大阪中之島美術館所蔵、山本発次郎コレクション）や、この老子と孔子の句の中央に法華経を出典とする「福寿海無量」を一行に揮毫し三幅対とするもの（黒川古文化研究所所蔵）などが知られる。本作品は、関防印と落款印を備えているため当初から単独の幅として制作されたと考えられる。付属の箱書は上月諦了（1894～1959、大阪・長栄寺14世、新真言宗管長）筆で、「慈雲尊者墨蹟〈老子曰天長地久〉」と墨書される。		

30　名称	長歌（ちょうか）	品　質	江戸時代・19世紀
作 者 等	良寛（1758～1831）筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	本紙 縦20.0cm 横42.4cm
作品概要	掛幅装。良寛が晩年に老いを詠んだ長歌の作品である。なお、最末の「ねもごろの」以下1首は反歌である。全16行。書体としては草仮名で書かれる。相馬御風『良寛を語る』1974年の付録「良寛禅師歌集」によれば、長歌の後に続く反歌として次の2首が記される。 （１）うたてしきものにもあるか年月は山の奥までとめて来にけり （２）ねもごろのものにもあるかとし月はしづかねやまでとめてきにけり 本作品では、この2首の上句と下句を合わせて1首の反歌としている点が特徴的である。良寛は生涯に同じ詩歌を何度も書いており、書くたびに詩の字句が少し変化する傾向が見られる。このため本作品は、従来知られた「老をかなしむうた」の異本とみられる。		

31　名称	月自画賛（つきじがさん）	品　質	紙本墨書
作 者 等	松花堂昭乗（1584～1639）筆	員　数	1幅
時　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦124.0cm 横47.8cm
作品概要	掛幅装。紙面上方約三分の一に、淡墨で雲を刷き、塗り残して月をあらわし、残りの紙面に、唐の詩人李郢（りてい）の七言絶句「宿杭州虚白堂」を大師流の書法で4行に揮毫したもの。		

＜陶磁＞(1件)

32　名称	色絵枝垂桜図皿（いろえしだれざくらずさら）	品　質	磁器
作 者 等	鍋島	員　数	10枚
時　代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	高5.5cm 口径20.8cm 底径11.0cm
作品概要	白色磁質胎。木盃形と呼ばれる、やや高さのある高台のついた七寸皿。同規格のものが10枚一揃いで伝わる。 見込みには、染付と赤の上絵具で枝垂桜をあらわす。1本の幹から垂れ下がる枝葉を染付で、そこに咲くたくさんの桜の花と蕾を赤で描いている。背景は濃（だみ）で器面の上半分を塗り込んで夜の様子をあらわし、下半分には余白をとっている。 側面には染付で六つ玉の七宝結び文を3か所に配し、高台側面には櫛歯文がめぐる。		

＜東洋書跡＞(15件)

33　名称	行書七言律詩軸（ぎょうしょしちごんりっしじく）	品　質	絖本墨書
作 者 等	倪元璐（1593～1644）筆	員　数	1幅
時　代	明時代・崇禎3年(1630)	寸 法 等	本紙 縦193.2cm 横48.0cm
作品概要	掛幅装、牙軸。倪元璐が38歳時に自詠の七言律詩を行書で記した一幅。		

34　名称	草書五言律詩軸（そうしょごごんりっしじく）	品　質	彩箋墨書
作 者 等	劉墉（1719～1804）筆	員　数	1幅
時　代	清時代・18～19世紀	寸 法 等	本紙 縦76.9cm 横26.2cm
作品概要	掛幅装、塗（木）軸。劉墉が韋応物の五言律詩「寄全椒山中道士」を草書で書写した一幅。		

35　名称	行草書画詳軸（ぎょうそうしょがしょうじく）	品　質	紙本墨書
作 者 等	梁同書（1723～1815）筆	員　数	1幅
時　代	清時代・乾隆52年(1787)	寸 法 等	本紙 縦125.5cm 横28.4cm
作品概要	掛幅装、塗（木）軸。梁同書が65歳時に、董其昌『画禅室随筆』の一節を行草書で書写し、笠浦なる人物に贈った一幅。		

36　名称	臨争坐位稿軸（りんそうざいこうじく）	品　質	紙本墨書
作 者 等	胡震（1817～62）筆	員　数	1幅
時　代	清時代・19世紀	寸 法 等	本紙 縦166.2cm 横30.3cm
作品概要	掛幅装、塗（木）軸。胡震が顔真卿「争坐位稿」を任意に臨書した一幅。		

37　名称	行書七言絶句軸（ぎょうしょしちごんぜっくじく）	品　質	紙本墨書
作 者 等	謝无量（1884～1964）筆	員　数	1幅
時　代	清時代～中華人民共和国・20世紀	寸 法 等	本紙 縦131.0cm 横30.5cm
作品概要	掛幅装、木軸。謝无量が高駢の七言絶句「聞河中王鐸加都統」を行書で書写した一幅。		

38　名称	行書坳堂老友司臬貴州奉送小序軸（ぎょうしょおうどうろうゆうしげつきしゅうほうそうしょうじょじく）	品　質	紙本墨書
作 者 等	翁方綱（1733～1818）筆	員　数	1幅
時　代	清時代・嘉慶3年(1798)	寸 法 等	本紙 縦45.0cm 横35.8cm
作品概要	掛幅装、木軸。翁方綱は66歳時に、知友である坳堂の貴州への赴任に際して送別の律詩二篇を贈ったが、これはその序文「坳堂老友司臬貴州奉送小序」を書写した一幅。		

39　名称	草書五言律詩軸（そうしょごごんりっしじく）	品　質	紙本墨書
作 者 等	陳錫周（生没年不詳）筆	員　数	1幅
時　代	清～中華民国時代・19世紀～20世紀	寸 法 等	本紙 縦170.7cm 横44.7cm
作品概要	掛幅装、塗（木）軸。陳錫周が崔塗の五言律詩「過陶徴君隠居」を草書で書写した一幅。		

40　名称	行草書五言絶句軸（ぎょうそうしょごごんぜっくじく）	品　質	絖本墨書
作 者 等	王了望（1605?～1686?）筆	員　数	1幅
時　代	明～清時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦206.8cm 横52.0cm
作品概要	掛幅装、木軸。王了望が「過鳥鼠山」と題する五言絶句を行草書で書写した一幅。		

41　名称	書画扇面合璧軸（しょがせんめんがっぺきじく）	品　質	書：紙本墨書、画：紙本墨画淡彩
作 者 等	陸恢（1851～1920）筆	員　数	1幅
時　代	清時代・光緒21年(1895)	寸 法 等	書：本紙 縦18.4cm 横52.5cm 画：本紙 縦18.3cm 横53.0cm
作品概要	掛幅装、木軸。陸恢が耦卿に贈った書画合璧の扇面を合装した一幅。書は当時新たに出土した「韓顕宗墓誌銘」（北魏・太和23年（499））の一節の臨書。画は清初の王翬（字石谷）が重んじた元の高克恭（号房山）を倣った山水図。		

42　名称	草書七言律詩社集蜃舫軸（そうしょしちごんりっししゃしゅうしんほうじく）	品　質	絖本墨書
作 者 等	許友（1620～63）筆	員　数	1幅
時　代	清時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦147.0cm 横51.2cm
作品概要	掛幅装、木軸。許友が「社集蜃舫」と題する七言律詩を草書で書写した一幅。		

43　名称	行書五言律詩京北玄真廟軸（ぎょうしょごごんりっしけいほくげんしんびょうじく）	品　質	絖本墨書
作 者 等	王鐸（1592～1652）筆	員　数	1幅
時　代	明時代・崇禎12年(1639)	寸 法 等	本紙 縦314.3cm 横48.8cm
作品概要	掛幅装、木軸。王鐸が48歳時に、趙深甫のために自詠の七言絶句「京北玄真廟」を行書で書写した一幅。		

44　名称	臨王羲之帖軸（りんおうぎしじょうじく）	品　質	絹本墨書
作 者 等	王鐸（1592～1652）筆	員　数	1幅
時　代	明～清時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦172.5cm 横52.4cm
作品概要	掛幅装、塗（木）軸。王鐸が『淳化閣帖』等に所収される王羲之と王献之の書より、王献之「玄度何来遅帖」（『閣帖』巻10、「玄～耶」部分）、王羲之「汝不帖」（『閣帖』巻10、「前～也」部分）、王羲之「豹奴帖」（『二王帖』等、「豹～也」部分)などを任意に臨書し、潜夫なる人物に贈った一幅。		

45　名称	行草書五言律詩答厳侍郎軸（ぎょうそうしょごごんりっしとうげんじろうじく）	品　質	絖本墨書
作 者 等	宋曹（1620～1701）筆	員　数	1幅
時　代	清時代・17～18世紀	寸 法 等	本紙 縦190.5cm 横49.3cm
作品概要	掛幅装、牙軸。宋曹が「答厳侍郎」と題する五言律詩を行草書で書写し、存菴なる人物に贈った一幅。		

46　名称	行草書七言絶句軸（ぎょうそうしょしちごんぜっくじく）	品　質	絹本墨書
作 者 等	張瑞図（1570～1641）筆	員　数	1幅
時　代	明時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦182.4cm 横50.4cm
作品概要	掛幅装、牙軸。張瑞図が李夢陽の七言絶句「帝京篇十首」其四を行草書で書写した一幅。		

47　名称	草書五言律詩瑞芝咏軸（そうしょごごんりっしずいしえいじく）	品　質	絖本墨書
作 者 等	倪元璐（1593～1644）筆	員　数	1幅
時　代	明時代・17世紀	寸 法 等	本紙 縦159.0cm 横46.5cm
作品概要	掛幅装、牙軸。倪元璐が「瑞芝為呂豫石太常賦」と題する五言律詩を草書で記した一幅。		

＜東洋彫刻＞(1件)

48　名称	忿怒尊坐像（ふんぬそんざぞう）	品　質	銅造
作 者 等		員　数	1軀
時　代	15～16世紀	寸 法 等	高9.6cm 像高7.0cm 最大幅5.4cm 最大奥行5.5cm
作品概要	炎髪とし、両目を瞋らす。開口して上歯牙が上出する。額に飾りをつける。両耳に耳璫をつける。頭部、両肩、両腕、左手首、両足首に蛇を巻きつける。上半身は裸形で、下半身には裙及び天衣をまとう。右手は振りあげ、肘先を亡失する。左手は胸前で屈し、第二指以外を曲げて祈克印を表わし、羂索を執る。右脚を屈し、左脚を下ろして蓮華座上に坐す。蓮華座は、仰蓮及び八角五重とする。足元にはうつ伏せの裸形人物を表わし、左足先で踏みつける。背面に火炎状の光背を表わす（欠失）。台座を含む全身を一鋳とする。青銅製（蛍光Ｘ線分析による）。右手肘先を別鋳とする（亡失）。現状、鍍金は認められない。扇状の炎髪、各所に蛇を巻きつけた姿はチベット仏教における忿怒尊の典型的な姿であり、足下に大自在天を表わし、右手肘先に剣を執るとみれば、なかでも不動尊であったと考えられる。肉感的な表現から、チベット・ネパール製の可能性がある。		

＜東洋染織＞(1件)

49　名称	グリンシン（肩衣）ワヤン人形文様経緯絣（ぐりんしん（かたぎぬ）わやんにんぎょうもんようたてよこがすり）	品　　質	木綿、撚銀糸
作 者 等		員　　数	1枚
時　　代	19～20世紀	寸 法 等	縦216.0cm 横51.5cm
作品概要	あらかじめ藍や茜に染め分けた木綿の経糸と緯糸を用い、文様を織り上げた経緯絣である。高い技術を必要とする経緯絣は、インドネシアではバリ島東部のテンガナン村でのみ織られ、「グリンシン」と称される。円弧で囲まれた部分には、インドネシアの影絵芝居であるワヤンの一場面が表されており、3人の男女の人形文様が認められる。その間には、菱形の幾何学文様が大きく織り出されており、これらが反復されることで全体が構成される。いずれの文様も様式化されているが、菱形の頂点に配された尖頭形は鰥、中央の凹凸は犬の奥歯を示すと伝えられている。また、両端には、密な刺繍を施した別裂をはぎ合わせている。剥落が多いが、一部に撚銀糸が認められることから、この部分について、本来は銀の総刺繍であったと考えられる。		

＜東洋考古＞(3件)

50　名称	蓮華文軒丸瓦（れんげもんのきまるがわら）	品　　質	土製
作 者 等	伝朝鮮平壌土城洞出土	員　　数	1個
時　　代	三国時代(高句麗)・6世紀	寸 法 等	径15.0cm
作品概要	軒丸瓦の瓦当部。中房は二重の圏線がめぐり中心には突起がつく。内区の文様は、主文である立体的な蓮華文と、平面的で先端に膨らみをもたせた複弁の蓮華文からなる。これらは中房側の端部が圏線によって切られたような表現をとる。弁間には珠文を一つずつ配置する。内区文様の外側には一条の圏線がめぐる。周縁は中房と同程度の高さに突出させ、端面は無文とする。制作時期は、上述の諸属性の盛行時期から6世紀後半と判断する。本品と比較的近い型式の瓦は平壌市の長安城址で出土している。		

51　名称	蓮華文軒丸瓦（れんげもんのきまるがわら）	品　　質	土製
作 者 等	伝韓国慶州出土	員　　数	1個
時　　代	統一新羅時代・8世紀	寸 法 等	径13.1cm
作品概要	軒丸瓦の瓦当部。中房は連子を３＋９に配す。八葉の内弁は内部のパルメットが退化して十字状となる。この周囲に展開する外弁もまた八葉で、内部には三葉状の装飾を有す。外縁には珠文帯がめぐる。范の崩れにより精彩さを欠くものの、本品のような文様構成の瓦は統一新羅のなかでもその盛期である8世紀に位置づけられる。		

52　名称	蓮華文軒丸瓦（れんげもんのきまるがわら）	品　　質	土製
作 者 等	伝朝鮮平壌西平壌出土	員　　数	1個
時　　代	高麗時代・10～11世紀	寸 法 等	径19.5cm
作品概要	軒丸瓦の瓦当部。中房は無文で半球状とし、周囲に8個の珠文を配す。立体的な蓮弁を放射状に八葉配し、弁間には凸線で蕊を表現する。周縁は中房と同程度の高さに突出させ、端面は珠文帯とする。背面では下縁に沿って二条の溝をめぐらせる。同種の瓦は安鶴宮址をはじめ平壌市域の複数の地域から出土している。いずれも高句麗時代の遺跡と重なる地点であるが、周縁を珠文帯とする点から統一新羅時代から高麗時代前期、及び同型式の瓦の分布が統一新羅の勢力に含まれない平壌市域を中心とする点から、本品の製作時期は高麗時代前期、10世紀から11世紀と判断する。		

（３）編入（18件）

＜法隆寺献納宝物＞(2件)

1　名称	袍残欠（ほうざんけつ）	品　　質	絹製、平絹
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	奈良時代・8世紀	寸 法 等	丈134.0cm 裄142.0cm
作品概要	伎楽で用いられたとみられる袍の残欠。現状では右の前身頃と右袖が確認できる。黄色に染められた平絹を表地とし、白平絹を裏地としている。右の前身頃の裏面に帯紐が残ることから、左前に身頃を打ち合わせて着用したことがわかる。		

2　名称	経帙残欠（きょうちつざんけつ）	品　　質	竹ひご・絹糸製
作 者 等		員　　数	1巻
時　　代	飛鳥～奈良時代・7～8世紀	寸 法 等	縦29.0cm 横42.0cm
作品概要	経帙の残欠。御物にある聖徳太子筆「法華義疏」に付属する経帙と竹ひごの長さや直径が一致する。直径0.6㎜という細さの竹ひごで経帙を編んだ例は正倉院宝物中にもなく、御物の経帙が唯一確認される例である。このため、「法華義疏」と本来は一具であった「維摩経義疏」または「勝鬘経」（ともに正本は現存せず）に付属する経帙であった可能性がある。飛鳥時代に遡る我が国最古の経帙として貴重な作品。		

＜写真資料＞(16件)

3　名称	写真資料（しゃしんしりょう）	品　　質	鶏卵紙、ゼラチンシルバープリント、プラチナプリント等
作 者 等		員　　数	16件
時　　代	19世紀	寸 法 等	丈134.0cm 裄142.0cm
作品概要	写真資料として初めて重要文化財に指定された「旧江戸城写真帖」が含まれる。そのほかには古美術品のみの早期の展覧会として注目される明治13年(1880)に上野公園内博物局出張所で開かれた「観古美術会」出品写真、1873年開催のウィーン万国博覧会で購入または受贈した「澳国維府万国博覧会写真」他(№10～16)などがある。 また博物館として明治38年(1903)に購入した「万国写真帖(全21巻)」(内田正雄旧蔵)は2,308枚の写真すべてが慶応2年(1866)以前の撮影であることが確実な歴史的にも価値の高いもので、元年度に編入した「社寺建築写真帖」(工藤利三郎より明治41年に購入)と合わせ、購入した写真は少数ながら貴重である。		

【京都国立博物館】（計20件）

（１）購入（9件）

＜絵画＞（1件）

1　名称	竹石図（ちくせきず）	品　　質	紙本墨画
作 者 等	池大雅筆、宮崎筠圃賛	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代（18世紀）	寸 法 等	24.9×31.2cm
作品概要	18世紀の京都画壇を代表する画家の1人、池大雅（1723～76）による水墨画。大雅を尊崇した富岡鉄斎の旧蔵品で、すでに多くの展覧会出品歴、書籍掲載歴があり、小品ながら大雅の比較的初期の秀作として広く知られている。 竹は、東アジアにおいて神聖さや長寿の象徴など古来さまざまな吉祥的意味合いをもつモチーフとして造形化されてきたが、特に文人画の世界では高潔な人格の象徴としてとりわけ好まれたモチーフのひとつである。冬でも枯れず緑を保って真っ直ぐに伸び、節を有する（＝節操を保つ）竹と、永続性の象徴たる石を組み合わせる竹石図も、そうした人格の象徴を含意する画題として文人画の定番である。 与謝蕪村と並び日本における南画の大成者と称される大雅は数多くの墨竹図を描いているが、本作のように細く鋭い線描を用いる作品は珍しい。繊細できびきびした筆遣いが心地よく、特に竹葉はリズミカルな筆触の反復によってあらわされ、白さの際立つ紙地と墨色との対比が清新な趣を生み出している。こうした様式的特徴と落款の書体、用印（「碧梧翠竹山房」白文長方印、「无名」朱文長方印）から、大雅30歳前後の作と考えられる。 賛を記すのは、大雅と同時代に活躍した尾張出身の儒者宮崎筠圃（1717～74）。京に出て伊藤東涯らに学んだ儒者だが、自らも墨竹図を得意として有名だった（平安四竹の一人）。詩文集等は残していないものの、同時代の画家と活発な交流があったようで、筠圃の着賛を有する絵画作品は多い。本作の賛は「邀月落龍影、傳風作鳳音（月を邀へて龍影を落とし、風を伝へて鳳音を作す）」という五言古詩。月光に照らされ風に揺れる竹の様子を詠んだものだが、鋭い竹葉のシルエットはたしかに龍爪を思わせるし、澄んだ鳳音が聞こえてきそうな動感に満ちている。		

＜金工＞（2件）

2　名称	三足香炉（さんぞくこうろ）	品　　質	鉄・鋳造
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	江戸時代・元和8年（1622）	寸 法 等	口径28.2cm、高さ21.3cm
作品概要	上方に向かってやや外向する直線の胴に、短い獣脚を備えた鋳鉄製の三足香炉。胴部に「奉寄進／本能寺／御影堂常／元和第八壬戌暦／鴨月吉日／願主／長尾小左衛門尉□□／法名宗巴敬／（以下2文字ずつ13名分の法名）／為谷是□□菩提也」の寄進銘を陽鋳することから、かつては本能寺の御影堂に納められていたと思われる。		

3　名称	短刀　銘達磨（たんとう　めい だるま）	品　　質	鉄・鍛造
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	南北朝時代（14世紀）	寸 法 等	全長43.8cm、刃長32.4cm
作品概要	平造・三つ棟の寸延短刀。 この刀の作者である達磨派は南北朝時代・14世紀の半ばから後半にかけて綾小路周辺に居住していたとされる一派。記録の上では同派に所属する工人として、重光や正宗など数名の名前が挙げられているものの、その活動実体について確かなことが分からない流派の1つである。		

＜陶磁＞（1件）

4　名称	法花蓮池水禽図壺（ほうかれんちすいきんずつぼ）	品　　質	色絵磁器
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	中国・明時代（15～16世紀）	寸 法 等	高35.3cm、口径17.6cm、胴径31.2cm、高台径19.0cm
作品概要	青を基調として、胴周りに蓮や水鳥などを法花の技法を用いて描き出した壺である。法花とは、立体的に表した文様部分に色釉の鉛釉をかけわける技法のことである。三彩や銅胎七宝との関わりなどとの関わりがあるとされ、形や文様などが景徳鎮産の青花や五彩と共通する点が多い。壺の内側には緑釉が掛けられており、胎土は磁胎となっている。大振りな形状や蓮池水禽、瓔珞文や波濤文などの丁寧に表現された文様、そして釉色などからみて、現存する法花壺の中でも、優れた法花の大作のひとつといえる。こうした法花の優品は極めて少なく、稀少である。 さて、法花が生産された地域などの詳細は明らかとなっていないが、中国・清時代から中華民国時代にかけて陶磁器研究を行っていた、許之衡が著した中国陶磁の解説書である『飲流斎説瓷』によると、「法花の器は元に萌し、明に盛行す、大抵は北方窯なり。蒲州一帯より出ずる所の者最も佳」とある。蒲州とは現在の山西省辺りのことで、古くから三彩の生産も行われてきており、法花との関係性が考えられている。 また、本作品は明時代の中国陶磁を考える上で重要な作品であるとともに、京焼の技術系譜を考えていく上でも重要な作品といえる。江戸時代後半、水指や灰立などをはじめとした皆具や香合など、茶の湯道具としてつくられた陶磁器に法花の技法が多く用いられている。広い意味で交趾焼などとも呼ばれるもので、特に著名なものとしては、紀州徳川家のお庭焼として築窯された偕楽園焼の製品が挙げられる。この窯には、楽旦入や仁阿弥道八などとともに、江戸後期の名工として名高い、永樂保全（1795～1854）も招かれている。保全は、この窯で法花の技法を用いた浅黄釉や紫釉、青釉を基調とした茶道具を数多く制作している。この窯で焼かれた製品は、色調や技法などから考えると、本作のような中国・明時代の法花技法を用いた作品から着想を得ていることは明らかである。ただし、文様や形状などは茶道具や飲食器など、日本の趣向にあったものとなっており、単にそのものを写したものではなく、1つの技術として取り入れ、和様化していった様子が分かるものとなっている。		

＜漆工＞（3件）

5　名称	夾紵棺断片（きょうちょかんだんぺん）	品　　質	麻、漆
作 者 等		員　　数	1点
時　　代	飛鳥時代（7世紀）	寸 法 等	縦17.0cm、横15.0cm、厚さ2.3cm
作品概要	夾（きょう）は重ね合せることをいい、紵（ちょ）は麻布を意味する語で、合わせて麻布を貼り重ねて造形する漆芸技法を指す。乾漆（かんしつ）や塑（そく）と同義語であり、古代に中国から伝わった技法と考えられている。 本品は、粗い麻布を漆と下地剤で何層もはり重ね、表裏とも最上面に朱漆塗って仕上げた器物の断片である。類品から古墳時代（7世紀）の棺の一部と考えられ、伝承も「牽牛子塚古墳出土」という。夾紵棺の出土例は関西を中心に9件しか報告されておらず、そのいずれもが皇族などひときわ高貴な人物の墳墓と想定される古墳から出土している。なかでも本品の厚さとなるほどに贅沢に漆を用い入念に麻をはり重ねた例は少ない。		

6　名称	菊桐蒔絵耳盥（きくきりまきえみみだらい）	品　　質	木製、漆塗、蒔絵
作 者 等		員　　数	1面
時　　代	桃山時代（16世紀）	寸 法 等	幅36.0cm、径29.0cm、高13.3cm
作品概要	黒漆地に金平蒔絵（きんひらまきえ）と絵梨地（えなしじ）、付描（つけがき）、針描（はりがき）の技法で、しなやかな菊の株のあいまに露を散らし堂々たる五七の桐紋を配した、典型的な高台寺蒔絵（こうだいじまきえ）様式の耳盥である。把手には金銅製魚々子地に菊の枝と露を蹴り彫りした金具をつける。 耳盥は、近世の婚礼調度では、鉄漿(おはぐろ)の口すすぎに用いられた道具である。本品は桐紋の形や蒔絵粉の形状から桃山時代に遡る品と考えられ、婚礼調度の形式が確立するより前の、ともすれば現存最古の可能性も考えられる作例として位置づけられる。実は、北海道のアイヌの村に伝わった。祖先が大和から来た人に食料を分けたお礼にもらったという。本州から伝わった耳盥が、アイヌ民具としてパッチ（鉢）と呼ばれ、祭礼用の供物を入れる容器となった例はほかにもあるが、京都の古社寺にあってもおかしくないような美しい蒔絵で飾られた古例は極めて珍しい。		

7　名称	流水沢瀉蒔絵螺鈿香枕 （りゅうすいおもだかまきえらでんこうまくら）	品　　質	木製、漆塗、蒔絵、螺鈿
作 者 等		員　　数	1合
時　　代	桃山～江戸時代（17世紀）	寸 法 等	縦11.5cm、横22.5cm、高16.2cm
作品概要	香枕は、髪を乗せかけて香を燻らすための調度である。透かしのある木製の箱に引き出しを設け、中に小型の香炉を置くのが一般的だが、本品は上から蓋をする箱型である点が古風である。懸子（かけご）の側板を立ち上がりとした合口造（あいくちづくり）となっており、懸子の口縁は蓋の形状に合わせて反る。懸子は間仕切りで縦に二分され、火箸や匙などの細長い香道具を収納できるが、一方の区画の底板に梅鉢形の透かしを3つあけ、懸子を収めたままでも煙を通せるように作られている。 衣服のみならず髪にも香をたきしめる平安貴族の習慣は、武家の暮らしに引き継がれ、近世には遊女たちにも広まった。本品は、長側面に牡丹と蔦が透かし彫りにされ、蓋表には悪夢を食べるという霊獣「獏（ばく）」が彫られている。全体を黒漆塗とし、外面には螺鈿に付描（つけがき）で沢瀉の葉を描き、金平蒔絵（きんひらまきえ）に針描（はりがき）で沢潟の花や即興的な流水、ところどころの波頭や飛沫を描いている。この技法の組み合わせは近世初頭に西洋人向けに作られた輸出漆器にも通じる。		

＜染織＞（2件）

8　名称	鼠麻地柳に浮舟文様染繍帷子（ねずみあさじやなぎにうきふねもんようそめぬいかたびら）	品　　質	麻地　染・刺繍
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	江戸時代（19世紀）	寸 法 等	丈147.0cm、裄63.5cm　袖丈
作品概要	帷子は夏の衣料で、苧麻または大麻の平織地で裏地なしの単で仕立てられる。地色の多くは白または浅葱であるが、これは鼠色を地色とする珍しい作例で、当館ではこれまで一例が収蔵されるのみである。 江戸時代後期の文様構成の特色である、襟下の裾回りにのみ文様は配する裾文様で、柳の生える水辺の風景を糊置きによる白上げと刺繍であらわす。水面には小舟が浮かび、烏帽子が置かれているが、人物は配さない。このように、器物のみで人物の存在を暗示し、背景に古典文学を連想させる文様は留守文様と呼ばれ、江戸時代後期の主に武家小袖に多用された趣向である。本作も『源氏物語』浮舟の帖を踏まえた文様であろう。 袖丈が足されており、袖の丸みも2種類確認できることから、幾度かの仕立て替えが行われていることが明らかである。あるいは、極めて保存状態の良い刺繍部分にも後世の手が加えられているかもしれない。唐花風の刺繍による五つ紋も、候後補の可能性がある。このようにすべてが当初の姿をとどめているわけではないが、幾人もの手を経て受け継がれていくこともまた、江戸時代以前の着物の基本的な姿であり、衣服の受容のされ方を今に伝えている。		

9　名称	淡浅葱紗綾地菊花紋団扇文様染描絵夜着（うすあさぎさやじきっかもんだんせんもんようそめかきえよぎ）	品　　質	絹地　染・描
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	江戸時代（18世紀）	寸 法 等	総丈151.5cm（丈140.0cm）、総裄67.0cm（裄59.0cm）
作品概要	夜着とは現在で言うところの掛布団である。夜着は婚礼において重要な持参道具であったため、その文様については、江戸時代の小袖のデザインブックである雛形においても、しばしば取り上げられるほど、注目される品であった。 本作は背面の上段に大きな菊花の丸紋を、下段に団扇を、絞り染と型鹿の子（摺匹田）で配した夜着で、団扇の内部などには、墨書きによる描絵が加えられている。生地に用いる、紗綾形に椿を織り出した紗綾の地合いや、絞り染に型鹿の子と描絵で文様をあらわす施工技法は、享保20年（1735）の寄進銘を有する「山岳風景文様打敷（国立歴史博物館蔵）」に近似しており、この夜着の製作年代は江戸時代18世紀前半と考えられよう。 夜着は吉夢に通ずる文様が多用され、桐鳳凰文様が極めて多い。当館にも、綿を抜いて小袖に直された桐鳳凰文様夜着が3領存在する。本作はそれらとは異なる珍しい文様構成であり、さらに、当初の夜着の仕立てのまま残されている点も貴重である。		

（2）寄贈（11件）

＜絵画＞（6件）

1　名称	伏見人形図押絵貼屏風 （ふしみにんぎょうずおしえはりびょうぶ）	品　　質	紙本著色
作 者 等	伊藤若冲	員　　数	6曲1隻
時　　代	寛政10年（1798）	寸 法 等	各図縦 104.5cm、横 30.6cm
作品概要	京都の郷土玩具である伏見人形を描く作品で、定番の布袋のほか白狐などが描かれる。庶民の民間信仰と結びついた、土の手触りのある素朴な造形が魅力で、同じ著色画でも緻密な描写を旨とする花鳥画とはまた異なる独特の作画領域を形成している。若冲は特に晩年に伏見人形図を多く描いているが、本作のように屏風形式のものはほかに知られておらず貴重である。		

2　名称	薬師三尊像（やくしさんぞんぞう）	品　　質	
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	鎌倉時代（13世紀）	寸 法 等	縦76.1cm　横39.3cm
作品概要	正面に階のある基壇上に薬師如来に日光・月光の両脇侍菩薩を配し、中尊前に供養台を配した、薬師三尊像。尊像は身色に金泥を塗り込めた皆金色身とし、金箔（表箔・裏箔）・截金・金泥・銀泥といった技法を使い分け、金色に細かな表情をもたせた表現から、鎌倉時代13世紀末の作と見られる。鎌倉時代に遡る薬師画像の遺品は極めて限られており、本図は極めて貴重なものと考えられる。		

3　名称	大悲心陀羅尼并四十二臂図像　紙背ニ久安五年具注暦アリ（だいひしん だらにならびにしじゅうにひぞう　しはいにきゅうあんごねんぐちゅうれきあり）	品　　質	紙本白描・墨書
作 者 等	不明	員　　数	1巻
時　　代	平安時代（12世紀）	寸 法 等	縦30.2cm、全長670.5cm
作品概要	千手観音の功徳を説く『大悲心陀羅尼』と千手観音の大手四十二臂の持物・印相の図像を述べたもの。 巻首に千手観音十二眷属を白描で描き、次いで伽梵達摩訳『千手千眼観世音菩薩広大円満無碍大悲心陀羅尼』を書写し、続けて不空訳『大慈大悲千手千眼観世音菩薩摩薩四十二臂陀羅尼真言』に説く四十二臂の持物・印相を図像と共に収録している。 紙背には、久安4年11月1日に暦博士賀茂宣憲等により勘申された久安五年具注暦が存在し、図像は具注暦の反古を使用したものとわかる。具注暦は5月25日から年末までの約半年分が残っており、具注暦の余白には、天慶9年（946）4月28日村上天皇即位から久安6年（1150）5月12日の高野山金堂・大塔等の焼失までの、皇族・高僧・著名公家等の生没等の事跡が備忘として記載されている。よって、表面の図像は、この久安6年5月以降の制作になると考えられる。しかし、図像の暢達な線描や後述する様式からこれを隔たるものではないと推定される。 なお、巻頭には後補の表紙が付されており、本紙紙継下部に「寶菩提院」の墨書があることから、東寺寶菩提院の旧蔵と知られる。 図像は、作風が数手に分かれるが、いずれも鋒を立てた鋭い細線で、特に優れたものは宋人の手になるのではないかとの推測もかつてなされたほどであるが、技法的に共通していることから日本制作と考えられる。但し、千手観音十二眷属図像を含めて、宋の影響を受けたものであることは確実である。 平安時代の具注暦がこれほどまとまって存在している例は貴重であり、図像も基準作として平安時代後期図像の編年において重要な位置を占める。		

4　名称	地蔵菩薩図像断簡（じぞうぼさつずぞうだんかん）	品　　質	紙本白描
作 者 等	不明	員　　数	1幀
時　　代	鎌倉時代（13世紀）	寸 法 等	縦26.3cm、横34.8cm
作品概要	東寺観智院旧蔵品で、かつて『覚禅鈔』として紹介されたことがあったが、勧修寺本はもとより現行諸本に合致するものがなく、諸尊図像集の断簡と見るべきものと推測される。他に十一面観音像、五大虚空蔵菩薩像等の断簡の所在が確認されており、制作年代は鎌倉時代前期に遡ると推測される。 右手に錫杖、左手に宝珠を持つ地蔵像を中心に、宝蔵天王、大慈天女、摂天使者、焔魔使者、持宝童子、大力使者の六眷属を配置した一重院構成の曼荼羅を描き、続けて半跏持宝珠地蔵像及び結跏趺坐持宝珠地蔵像を上下2段に描く。 曼荼羅脇には「此図常喜院図集有之」とあることから、高野山常喜院心覚（1117～1180または1182）の『別尊雑記』から採られたものかとも推測されるが、重要文化財に指定されている仁和寺本『別尊雑記』弥勒・地蔵・持世巻には掲載されておらず、本図の他に例を見ない珍しい図像である。この六使者を描いたものとしては12世紀の作になる仁和寺蔵密教図像の内の地蔵菩薩曼荼羅（『大正新脩大蔵経　図像部』第六巻に「金色地蔵曼荼羅」として所収）が知られているが、これは曼荼羅構成をとらない。 この六使者の典拠については、近年、早稲田大学図書館教林文庫蔵『地蔵菩薩念誦儀軌』が紹介され、まさに本図がこれに合致することも指摘されている。この『地蔵菩薩念誦儀軌』は、治承4年（1180）には存在していたことが知られ、本図は、当時の地蔵信仰の実態を伝えるものとして極めて価値が高い。 一方、半跏持宝珠地蔵像及び結跏趺坐持宝珠地蔵像は、仁和寺本『別尊雑記』に掲載されており、確かに『別尊雑記』を参看していたことは明らかである。別尊雑記異本の存在の可能性を含めて、その成立事情を推知させる重要な作品といえる。なお、「智泉之筆/銘云地蔵菩薩衆」との墨書脇書がある半跏持宝珠地蔵像は、空海の甥で彼と共に入唐した智泉（789～825）の請来にかかる図像であることが判明する。 地蔵菩薩信仰研究に意義が大きいばかりではなく、『別尊雑記』という平安時代後期成立の重要な図像集の成立を考える上で貴重な史料といえる。		

5　名称	金剛童子図像断簡（こんごうどうじずぞうだんかん）	品　　質	各紙本白描　①六臂二侍者　②二臂七侍者　③六臂無侍者　④二臂二侍者
作 者 等	不明	員　　数	4幀
時　　代	平安時代　長寛元年（1163）	寸 法 等	①本紙縦45.7cm、横26.8cm　②本紙縦49.0cm、横30.5cm　③本紙縦52.0cm、横29.6cm　④本紙縦51.4cm、横30.2cm
作品概要	三井寺系で信仰を集めた金剛童子の一連の図像である。灰黄褐色の楮紙に、一部油を引いて図像を写し取っている。 本図は、『大正新脩大蔵経　図像部』第六巻に収載されており、東寺観智院旧蔵品である。元来は、六地蔵図像及び不動曼荼羅図と合巻にされて保管されていたが、戦後に東寺から流出し、切断の上分蔵されている。 金剛童子は五図存在していたが、巻頭の二臂像以外の四図がここに揃っており、枝番は『大正新脩大蔵経　図像部』所載の順に従い、（一）六臂像、（二）三井寺本二臂像、（三）三井寺本六臂像、（四）二臂像となる。切断改装によって端裏書を表面に切り改めている。また、『大正新脩大蔵経　図像部』の写真では折畳目が鮮明に見えており、上記の所見から元来は別々に書写されたものを後に貼り継いで巻子装に改めたものであることがわかる。但し、この金剛童子図像は一連のものと見てよく、制作年代も同時期と見てよい。 制作年代は、端裏書から判明する。以下に列記する。（一）右上隅「金剛童子像」、左下隅「長寛元年五月十一日於法勝寺追写之　俊寂御本也」、（二）左上隅「金剛童子曼荼羅（梵字）二本在之[三井寺御経蔵本/伝得実任]」（改装せず裏に存置）、（三）右上隅「金剛（梵字）童子[三井寺本/二本在之]」、（四）右上隅「金剛童子像」、左下隅「長寛元年」となる。 以上から、（一）・（四）、（二）・（三）がそれぞれセットになることが判明する。（一）・（四）のセットは、筆者を共にすると思われ、これが端裏書の示す長寛元年（1163）作であることは疑いない。（二）・（三）に関しては、手が若干異なるが、各端裏書に「二本在之」とあるように、これで本来の一具をなし、平安時代後期制作であることは動かし得ないと思われる。よって、以上は一連の作で、勧修寺実任から直接伝得した図像の可能性が極めて高いと判断される。平安時代後期の基準作であり、実任を中心とする当時の東密での宗派の枠を越えた図像収集の実態を示す貴重な作品である。		

6　名称	普賢延命菩薩図像（ふげんえんめいぼさつずぞう）	品　　質	紙本白描
作 者 等	不明	員　　数	1幀
時　　代	平安時代　治承2年（1178）	寸 法 等	縦53.8cm、横29.6cm
作品概要	普賢延命法の本尊である二臂普賢延命菩薩像を楮紙に油を引いて写し取り、色注を各所に墨書で添え書きしている。本図は、『大正新脩大蔵経　図像部』第六巻に収載されており、東寺観智院旧蔵品である。天台系によく見られる二臂像であるが、周囲に四天王を配する曼荼羅形式や千葉白蓮華座は他に所伝を見ない珍しいものである。この時期の東密における旺盛な図像収集活動の一端を伝えるものであろう。 画面向かって左下方に端裏書墨書があり、表からでも判読可能であり、「治承二年（一一七八）六月廿五日　以検校本写了解」とある。使用料紙等から見てこれを制作年代と見て間違いなく、平安時代後期の基準作であり、かつ図像的にも孤本であることから、重要な作品であると言える。		

＜染織＞（4件）

7　名称	五月人形　大将・旗持 （ごがつにんぎょう　たいしょう・はたもち）	品　　質	顔手足：桐塑胡粉塗　毛髪・衣裳：絹
作 者 等		員　　数	2軀1組
時　　代	江戸時代（19世紀）	寸 法 等	大将：高45.0cm　旗持：高37.0cm
作品概要	端午の節句に飾られた、大将と旗持従者という組み合わせの五月人形である。大将は床几に座し、弓・矢の入った胡籙・太刀・懐刀を帯び、兜をかぶって采配を手にする。旗持は懐刀を帯び、笠をかぶって違鷹羽紋を染めた旗を手にする。用いられる衣裳の裂地や甲冑の細工は見事で、丁寧な作ゆきをみせる。三井北家の大番頭をつとめた京都の旧家に伝来した。		

8　名称	白地檜垣に菊花文様織袖無羽織　附 白ﾌﾗﾝﾈﾙ帽子　1頭（しろじひがき　きっかもんようおりそでなしはおり　しろ　ぼうし）	品　　質	絹
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	明治時代	寸 法 等	総丈59.0cm　肩幅26.0cm
作品概要	檜垣の地文様のうえに菊花を織り出した生地は、さまざまな織組織が混在する様子からジャカード織機によって織り出されたと考えられ、背中心に白糸で男子の背守を縫い、綿入りの白い袖無羽織に仕立てられている。「明治卅六年十二月／迪宮殿下御下賜御羽織／書面」と表書きされた北海道庁の封筒に納められた書状一通が附属する。その書状は森という人物から小原という人物に宛てたもので、大磯にあった迪宮（昭和天皇）が着用した羽織を森氏が拝領したので、小原氏に保存を託すという内容である。このことから、この羽織は昭和天皇着用品であったことが判明する。本ネル地に毛糸で縁飾りを付けたボンネット帽子が附属する。		

9　名称	淡紫紋縮緬地朝顔文様友禅染着物（うすむらさきもんちりめんじあさがおもんようゆうぜんぞめきもの）	品　　質	絹
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	明治時代	寸 法 等	総丈58.5cm　総裄61.0cm
作品概要	朝顔文様を織り出した紋縮緬地に、織文様に重ねて、朝顔文様を無線友禅で描き出した子どもの着物である。鮮やかな色調から化学染料を使用するのであろう。背中心には白糸で男児の背守が縫われ、袖は僅かに振りを設けた筒袖とする。 寄贈者の祖母の妹は、昭和天皇の養育を任された川村純義伯爵の子息である鐵太郎夫人であり、この着物は、昭和天皇着用品として譲られた品という。このことから製作年代は、沼津御用邸で川村純義が昭和天皇を傅育していた明治34年から37年頃と推察される。無線友禅の技法的な発展を考えるうえで貴重な資料である。		

10　名称	糞掃衣断片（ふんぞうえだんぺん）	品　　質	絹
作 者 等		員　　数	2裂
時　　代	平安時代	寸 法 等	裂(大)：縦30.0cm　横29.5cm　裂(小)：縦14.0cm　横29.0cm
作品概要	二片の袈裟裂をガラスで挟み、四周を木枠でおさえる。表面には「傳/弘法大師将来/乾陀殻子/御袈裟一部/天平時代」「遠山袈裟裂」と墨書された二片の題箋を貼る。袈裟裂はいずれもいわゆる糞掃衣。現状では茶色を呈する平絹が最下層と思われ、その上に黄色・焦茶・萌葱・紫の平絹の断片を置き、浅葱の絹糸で刺納を施す。小さい方の裂には、行あるいは帖と思われる部分が残り、その部分には綾（経六枚綾・文様の有無は未明）が用いられている。いずれも浅葱平絹の裏地が付き、それぞれの中央には、大きい方の裂に「一―二」小さい方の裂に「三―一」の墨書がある。この墨書はこれら断片が、袈裟のどの部分に該当していたかを示すと考えられる。		

＜歴史資料＞（1件）

11　名称	スペンサー・ライフル銃（すぺんさー・らいふるじゅう）	品　　質	鉄・木
作 者 等	米国・ボストン製造	員　　数	1丁
時　　代	1860年	寸 法 等	銃全長約93.8cm, 銃身長約50.6cm, 銃番号M1867
作品概要	幕末の日本に輸入された米国製のライフル銃。1860年にボストンで製作されたとの銘がある。7連発が可能なもの。同時代の単発式の小銃に比べて銃身が短く、重量も3.77kgと軽量化されていて、騎兵銃として用いられたもの。幕末期の日本に輸入された銃器の一形式で、戊辰戦争などで用いられたとみられる。保存状態が良好で銃器としての機能がよく理解でき、幕末史の展示に充分活用できる資料である。		

【奈良国立博物館】　（計18件）

（１）購入（10件）

＜彫刻＞（1件）

1　名称	木造仏像背板 （もくぞうぶつぞうせいた）	品　　質	一枚板、吊り下げ用の鐶（鉄製）、一部白色下地及び朱色の彩色（後補）残る
作 者 等		員　　数	1点
時　　代	平安時代（9世紀）	寸 法 等	長102.5cm　幅13.5cm　厚1.5～2.5cm
作品概要	木彫仏の背板で、奈良・元興寺所蔵の国宝・薬師如来立像（当館寄託品）背面の背刳孔に法量が一致し、かつ衣文が同像のそれに連続するため、同像の背刳孔を塞いでいた背板と認められる。現状では、上下端を加工し壁掛け装飾に改変されているものの、元興寺薬師如来立像の背板として極めて貴重と言える。		

＜絵画＞（1件）

2　名称	重要美術品 東大寺戒壇院扉絵図 （とうだいじかいだんいんとびらえず）	品　　質	紙本墨画　掛幅装
作 者 等		員　　数	2幅
時　　代	鎌倉時代（12～13世紀）	寸 法 等	本紙：各縦121.2cm 横72.4cm（表具：各縦214.7cm　横88.1cm）
作品概要	各幅に梵天・帝釈天・四天王の計六尊の天部を三尊ずつ向かい合うように濃墨線で描かれる。奈良時代最盛期に描かれた絵画の姿を伝える希少な図像として以前から著名な品で、白描図像としては破格の大作である。当館寄託品である国宝・倶舎曼荼羅（奈良・東大寺蔵）中の諸尊と図像が一致するなど、南都の仏教絵画史を語る上で欠かせない存在であるとともに、各幅画面裏に捺された印から京都・高山寺旧蔵と判明することもその価値を高めている。		

＜書跡＞（1件）

3　名称	三社託宣 （さんしゃたくせん）	品　　質	紙本墨書　掛幅装
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	室町時代（15世紀）	寸 法 等	（本紙）縦130.7cm　横37.0cm　（装丁）縦197.5cm　横48.9cm
作品概要	中央に天照大神（伊勢）の神号と託宣を、その右・左にそれぞれ八幡神（石清水）と春日神の神号と託宣を書き記したもの。三社託宣は中世末以降に数多く作られ、写本・版本を問わず遺品も多く残るが、室町時代以前の作となると限定され、貴重である。また、筆者として興福寺大乗院の経覚が想定され、奈良の地で製作された可能性が高い品である。		

＜工芸＞（4件）

4　名称	金銅宝珠鈴 （こんどうほうじゅれい）	品　　質	銅製　轆轤挽き　金鍍金
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	鎌倉時代～南北朝時代（13～14世紀）	寸 法 等	口径6.8cm　現存高20.3cm　現存重866.43g
作品概要	装飾のない無地無文の鈴身部と縦長の大振りな鬼目が特徴的な宝珠鈴。静岡・尊永寺に伝わる五種鈴と同形式であるが、類例の極めて限られる大変希少性の高い品。火焔を欠失することは惜しまれるが、造形的にも優れており、密教法具の佳品として高く評価される。		

5　名称	金銅宝珠鈴 （こんどうほうじゅれい）	品　　質	銅製　轆轤挽き　金鍍金
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	鎌倉時代（13世紀）	寸 法 等	口径6.9cm　現存高14.2cm　重402.51g
作品概要	鈷部に宝珠を表す宝珠鈴で、かつては四方火焔を伴っていたとみられるが、現在は欠失している。鬼目や蓮弁飾りの表現は平安時代風であるが、宝珠の形状や裾の開きから鎌倉時代に位置づけ得る。当館所蔵の独鈷鈴に口径が一致し、意匠や表現が同様のものがあり、本品はそれと一具をなすと判断される。		

6　名称	金銅宝塔鈴 （こんどうほうとうれい）	品　　質	銅製　轆轤挽き　金鍍金
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	鎌倉時代（13～14世紀）	寸 法 等	口径7.4cm　高21.2cm　重603.68g
作品概要	肩が張って裾の開いた安定感のある鈴身に、鬼目部の太った把を合わせる、調和の良い中世前期の典型的な密教法具。鈴身、把、宝塔は別鋳で、組み合わせられている。優れた造形性、質実な作風から鎌倉時代後期の作とみられる。当館所蔵の独鈷鈴、三鈷鈴、宝珠鈴に口径が概ね一致し、意匠や表現などが一致するものがあり、本品はそれらと共に一具をなすと判断される。		

7　名称	金銅宝塔鈴 （こんどうほうとうれい）	品　　質	銅製　轆轤挽き　金鍍金
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	平安時代～鎌倉時代（12～13世紀）	寸 法 等	口径6.6cm　高11.4cm　重485.67g
作品概要	把の上端に丸い窪みが設けられ、内側に舎利を籠める宝塔鈴であった可能性が高いが、鈷部の宝塔は欠く。鈴身の丈が低く、肩を張らない形状や力強い蓮弁飾りの表現、大振りな鬼目は唐から将来された密教法具の特色を表すが、いずれも和様化が進んでいる。古式の制作技法である一鋳を採る一方で、鈴身の丈が低いという鎌倉時代に多い特徴から、平安～鎌倉時代初期の作と推測される。		

＜考古＞（3件）

8　名称	灰釉短頸壺 （かいゆうたんけいこ）	品　　質	陶製
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	奈良時代（8世紀）	寸 法 等	口径16.5cm　器高29.8cm　最大径37.2cm　高台径18.7cm　重量6.7g
作品概要	大型の短頸壺で、口縁の周りから方の上部を巡るように灰釉がかかる。産地は胎土や釉調などから、愛知県猿投窯の製品とみられる。肉厚な口縁、大きく膨らませた体部など、豪快な作りが目を惹く。また、現存する灰釉短頸壺のうち、本品は最大の法量を誇る。器壁外面の木炭の黒ずみ、骨灰を蔵していたことによる内面の汚れなどから、火葬骨蔵器であった可能性が高い。		

9　名称	須恵器　短頸壺 （すえき　たんけいこ）	品　　質	陶製（須恵器）
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	奈良時代（8世紀）	寸 法 等	壺：口径17.0cm　高29.7cm　最大径34.5cm　高台径20.0cm 蓋：口径18.7cm（復元）　高5.7cm（含復元）　つまみ径2.8cm　同高2.3cm
作品概要	大型の有蓋短頸壺で、肩には部分的に自然釉がかかる。正倉院に伝わる薬壺と同種の品で、肩の張った器形より制作時期はおよそ八世紀半ば頃と推測される。産地の同定には至らないが、精良な胎土、均整のとれた器形、良好な焼成など、大変質の良い伝統的な窯場の作とみてよい。なお、口縁と蓋が破損しているのは、本来火葬骨蔵器として使われ、土中埋納の間、あるいは発見時に破損したことによると考えられる。		

10　名称	伯牙弾琴鏡 （はくがだんきんきょう）	品　　質	青銅製鋳造
作 者 等		員　　数	1面
時　　代	中国・唐時代（8世紀）	寸 法 等	16.35cm
作品概要	八花形の鏡胎の背面に、竹林の中で琴を奏でる人物や鳳凰、飛鶴や亀などを表した鏡。奈良県五條市出土との伝来を持つ。伯牙弾琴鏡は中国・唐で盛唐後半から中唐（八世紀半ば～後半）にかけて流行した鏡種で、日本にも流入した。国内でも同型鏡が複数確認される中、本品は鋳上がりの良さが目を惹く品で、蛍光X線分析から表裏面に鍍錫が施されている可能性も窺われる貴重な品である。		

（2）寄贈（8件）

＜彫刻＞（1件）

1　名称	木造蔵王権現立像 （もくぞうざおうごんげんりゅうぞう）	品　　質	木造　素地（現状）
作 者 等		員　　数	1軀
時　　代	平安時代（11世紀）	寸 法 等	総高48.0cm
作品概要	両腕両脚を欠失した忿怒尊であるが、矧面の痕跡などの形状から、一面三目二臂の蔵王権現像と考えられる。体部に内刳りを施さない構造や、大ぶりな目鼻立ち、外側に反る耳朶、胸のふくらみを大きく表すなど古様な部分もあるが、動きが少なく均整の取れた表現から、平安時代後期、11世紀の制作とみられる。左胸を覆わず両胸の間を通る条帛の表現が珍しい。		

＜工芸＞（1件）

2　名称	紅牙撥鏤碁子 模造・紺牙撥鏤碁子 模造　村松親月作 （こうげばちるのきし　もぞう・こんげばちるのきし　もぞう　むらまつしんげつさく）	品　　質	象牙製
作 者 等	村松親月	員　　数	各5枚
時　　代	現代　令和2年（2020）	寸 法 等	各径1.5cm　厚0.8cm
作品概要	正倉院宝物の紅牙撥鏤碁子（北倉25）、紺牙撥鏤碁子（北倉25）の模造品。本品の製作者である象牙彫刻作家・村松親月氏（1934～）は平成8年頃より撥鏤技法の復元を手掛け、とりわけ染色材料及び染色工程について種々の実験を行いながら、これまで多くの模造製作に取り組んできた、本品は近年発表された撥鏤の染色材料に関する新たな調査成果を踏まえて新たに製作した作品で、現在もなお明瞭とは言えない撥鏤の制作過程の解明に資する品と評価される。		

＜考古＞（6件）

3　名称	六十六部経筒片 （ろくじゅうろくぶきょうづつへん）	品　　質	銅鍛造　鍍金
作 者 等		員　　数	1点
時　　代	室町時代　大永二年（1522）	寸 法 等	長8.6cm　残存幅5.6cm
作品概要	六十六部廻国聖によって、日本全国66カ国を巡礼し1国1カ所の霊場に『法華経』を1部ずつ納める際に用いられた経筒の残片。銘文より、大永二年（1522）二月、甲州甘梨庄（甲斐国巨麻郡の甘利庄）の僧が、旦那である駿州府中鳥坂の又四郎定重の依頼を受け、大乗妙典を納経したことが判明する貴重な作品。		

4　名称	六十六部納札片 （ろくじゅうろくおさめふだへん）	品　　質	銅鍛造　鍍金
作 者 等		員　　数	1点
時　　代	室町時代（16世紀）	寸 法 等	残存長3.8cm　残存幅4.4cm
作品概要	六十六部廻国聖によって、日本全国66カ国を巡礼し1国1カ所の霊場に『法華経』を1部ずつ納めた行為に伴う納札の残片。「六十六部」の陽刻銘をもつ。表面には鍍金が施され、字体は整然とし、高度な技術により入念に製作されたことが推測される。		

5　名称	礫石経（伝神倉山経塚出土）　附　軸端 （れきせききょう（でんかみくらやまきょうづかしゅつど）つけたり　じくばな）	品　　質	石製・墨書、（軸端）水晶製
作 者 等		員　　数	一括
時　　代	鎌倉時代～江戸時代（12世紀後半～19世紀）	寸 法 等	①群：縦2cm前後　②群：縦4～6cm前後　③群：縦2～3cm前後 ④群・⑤群：縦3～4cm前後　⑥群：縦6～8cm前後　軸端　長さ2.3cm、端部径2.1cm、軸部径1.2cm
作品概要	経典の文字を一字ずつ、あるいは複数字、河原石に記し、埋納経として用いたもの。「新宮市神倉山経塚出土」との伝来を持ち、水晶製の軸端1点と共に伝わる。礫石経は石の大きさや墨書の字体により6群に分けることができ、それぞれ製作者や時代が異なる可能性がある。中には『仁王経』の一節を書写したものがあり、礫石経に記される経典は『法華経』が一般的と理解される中、珍しい例と言える。		

6　名称	泥塔・泥塔経 （でいとう・でいとうきょう）	品　　質	土製　型抜　素焼
作 者 等		員　　数	6点（泥塔5点、泥塔経1点）
時　　代	平安時代～室町時代（12～16世紀）	寸 法 等	①高5.5cm　底径3.6cm　底面の円孔径約1.0cm　深さ2.0cm ②高6.3cm　底径3.8cm　底面の円孔径約0.8cm　深さ1.4cm ③高4.4cm　底径3.4cm　④残存高3.5cm　厚2.5cm　⑤高9.5cm　基部幅4.5cm　厚1.5cm　⑥高5.2cm　基部幅2.5cm　厚1.1cm
作品概要	古代から中世にかけて、天皇・貴族から民間にまで広く流行した造塔供養のために製作された土製小型の塔。いずれも型の中に粘土を詰め、型抜きする様式である。①～④は断面円形～楕円形をなす立体的な形状で、写経紙片を収めるためともいわれる円孔を底部にもつものともたないものがある。⑤は宝塔形。⑥は鳥取県東伯郡琴浦町竹内発見の経塚（いわゆる智積寺経塚。鎌倉時代）で1000点以上出土したとされる泥塔経に諸特徴が酷似しており、そのうちの1点とみることができる。これらは、泥塔供養の諸相を示す格好の資料群である。		

7　名称	切子碗 （きりこわん）	品　　質	ガラス製
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	地中海東岸ないしメソポタミア　3～4世紀	寸 法 等	口径9.5cm（外径）　高さ7.9cm　底部の円形の窪みの直径2.3cm　体部の円形の窪みの直径1.1cm
作品概要	やや小型の切子碗（カット・グラス）の完形品。器表面には銀化や剥離の様子がみられ、長期間土中していたことをうかがわせる。この種の切子碗は、正倉院宝物の白瑠璃碗をはじめ、ササン朝ペルシア産のものが広く知られるが、近年、地中海東岸付近で作られたローマ・ガラスの存在も確認されている。本品のように小型で薄手、カットの甘い切子碗は、ローマ・ガラスの属性に近いが、底部周辺の切子の数が７個とペルシアの切子碗の特徴に合致し、ササン・ガラスの工房製の可能性も否定できない。双方のガラスの影響関係を考える上で鍵となる重要な品。		

8　名称	長沙窯鳥文水注 （ちょさようちょうもんすいちゅう）	品　　質	陶製　轆轤挽き
作 者 等		員　　数	1口
時　　代	中国・唐時代（9世紀）	寸 法 等	口径11.2cm（後補・復元）　器高22.2cm（頸部以上は後補） 最大径15.5cm　底径13.4cm
作品概要	中国湖南省長沙窯産の釉下彩絵が施された壺形の水注。多面体に面取りした注口を突出させ、その反対側にアーチ形の把手を貼り付ける。器壁には、雀のような鳥が愛らしく、闊達な筆づかいで描かれている。絵は褐彩一色ではなく、葉の部分には緑彩も用いられる。鳥の目の周りを重弧で画し、胸に波線を引くなど、長沙窯の鳥文に典型の表現を持つ。		

【九州国立博物館】（計133件）

（１）購入（49件）

＜絵画＞（4件）

1　名称	春夏山水図屏風	品　　質	紙本墨画淡彩
作 者 等	鑑貞筆	員　　数	6曲1隻
時　　代	室町時代・16世紀	寸 法 等	本紙：縦125.0cm　横352.4cm　表装（折り畳み時）：縦140.2cm　横62.8cm　厚9.5cm
作品概要	水辺の景観のなかに紅梅と涼をとる高士が描かれる。本図は春夏の情景を題材としており、当初は四季山水図屏風（6曲1双）の右隻であったと考えられる。画面に落款や印章はないが、幹が真っすぐ伸びる車輪松や、幹が弧を描いて伸び点描で葉を表わす竹の描写、全体的に整理された平明な構成から、筆者は唐招提寺総持坊に住した律僧で奈良法眼と呼ばれた鑑貞と考えられる。鑑貞は足利将軍家の御用絵師・周文に学ぶと伝えられ、この屏風絵は樹木や岩塊の表現に彼の周文学習の成果が具体的に示されている。本図は、室町時代に活躍した水墨画家・鑑貞の唯一の大画面絵画として貴重であり、また約10件のみが現存する室町水墨画の周文系山水図屏風の1つとして大きな意義をもつ。		

2　名称	花鳥図	品　　質	絹本著色
作 者 等	山口宗季筆	員　　数	1幅
時　　代	琉球　第二尚氏時代・康熙45年(1706)	寸 法 等	本紙：縦105.8cm　横51.2cm　表装：縦192.6cm　横63.4cm 軸長：68.7cm
作品概要	太湖石と紅白の芍薬、花海棠などを描き、山鵲と小禽を配する。その作者は、花弁を隈取る描写や葉の表裏を塗り分ける彩色、奥行きを浅く設定する構図、落款印章などから、琉球の画家・山口宗季（呉師虔、1672-1743）と考えられる。山口宗季は琉球王国首里王府が所管した貝摺奉行所の絵師で、王府の命で福州に留学（1704-07）して中国の花鳥画家・孫億（1638-1712-?）に学んだ。本図は落款の年記から、山口宗季が王府の命により画法習得のため中国・福州（福建省）に滞在していた時期の制作であることが分かる。そのため本図は山口宗季の留学の成果を知るうえで重要であり、福建絵画に学んだ琉球絵画を理解するうえで大きな意義をもつ。		

3　名称	椿白鷹図	品　　質	絹本著色
作 者 等	山口宗季筆	員　　数	1幅
時　　代	琉球　第二尚氏時代・康熙55年(1716)	寸 法 等	本紙：縦91.7cm　横37.3cm　表装：縦172.5cm　横48.0cm　軸長54.0cm
作品概要	枯木にとまる白鷹の背後に、椿と雪持ちの笹を描く。その表現は、白鷹の眼や瞼の輪郭に金泥かと思われる絵具を用い、脚の凹凸を盛り上げて彩色するなど細やかな描写をもつ。その作者は、枯木の描法や形態、余白を生かす構成、落款印章などから、琉球の画家絵師・山口宗季(呉師虔、1672-1743)と考えられる。山口宗季は琉球王府の貝摺奉行所の絵師で、福州に留学して中国の花鳥画家・孫億（1638-1712-?）に学び、帰国後に絵師主取となって琉球画壇を代表する絵師として活躍した。近年新たに存在が確認された本図は、年記から彼が福州留学を終えて帰国してから9年後の制作と分かる。現存作品が極めて少ない山口宗季の画風展開を理解するうえで貴重な作品である。		

4　名称	布袋図	品　　質	絹本着色
作 者 等	河村若芝筆　悦山道宗賛	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・貞享4年(1687)	寸 法 等	本紙：縦67.2cm　横32.5cm　表装：縦148.3cm　横45.1cm
作品概要	長崎で活躍した河村若芝(1630-1707)晩年の新出作品で、中国において聖人として尊ばれた唐末五代の僧、布袋を描く。若芝は、唐絵の創始者ともされる逸然性融(1601-68)に師事し、明代絵画の影響を受けた逸然の画風を継承しながら、さらに発展させて癖のある道釈人物画を描いた。本図の賛者、悦山道宗(1629-1709)は福建省出身の黄檗僧で、明暦3 年(1657)に来日して隠元隆琦や木庵性瑫に師事し、萬福寺第7 代住持を務めた。能書家としても知られ、本図のほかに2 点の若芝作品に着賛をしている。逸然を祖とする長崎唐絵は、鎖国下の長崎という特殊な条件のもとに生まれた新しい画風として以後の絵画史に多大な影響を及ぼした。本図はその代表的画家である河村若芝の新出の基準作としてきわめて貴重である。		

＜書跡＞（2件）

5　名称	重要美術品　手鑑「筆陳」	品　　質	紙本墨書・彩箋墨書
作 者 等		員　　数	1帖
時　　代	平安-江戸時代／明時代・（平安-江戸時代）12-17世紀／（明時代）16世紀	寸 法 等	縦40.4cm　横48.8cm　厚4.2cm
作品概要	江戸時代・宝永6年（1709）までに長府藩主毛利家で作製され、同家に伝来した全41葉を収める手鑑。平安～江戸時代前期の宸翰・公家能書家の筆跡16葉、室町時代の連歌師筆跡4葉、鎌倉～安土桃山時代の武家文書・筆跡15葉、安土桃山～江戸時代前期の能書家筆跡4葉、伝張即之書1葉、中国・明の文人の書1葉からなる。主なものに伏見天皇宸筆の筑後切や書状、後柏原天皇宸翰書状、近衛信尹書状、伝後京極良経筆常知切、伝藤原公任筆砂子切、伝藤原定家筆儀式記録、足利尊氏・直義発給文書、織田信長黒印状、羽柴秀吉知行宛行状、本阿弥光悦書状、寧波の文人・方梅厓書などがある。種類・時代とも幅広く、良質の文書・筆跡が多く含まれる。		

6　名称	重要文化財　古文書手鑑	品　　質	紙本墨書・彩箋墨書
作 者 等		員　　数	1帖
時　　代	鎌倉-江戸時代・13-17世紀	寸 法 等	縦40.0cm　横50.0cm　厚5.5cm
作品概要	江戸時代・18世紀前半頃に長府藩主毛利家で作製され、同家に伝来した全78葉を収める手鑑。鎌倉幕府発給文書を主とする鎌倉時代の古文書20通、南北朝～室町時代にかけて周防・長門を本拠とした守護・戦国大名大内氏の発給文書38通、室町～江戸時代前期の禅僧による墨蹟12葉、その他室町幕府発給文書1、連歌懐紙1、伝張即之書2、朝鮮通信使書1、連歌切1、古筆切1、詩懐紙1からなる。特に宗像社領小呂嶋をめぐって宋商人・謝国明の名が登場する関東御教書や、蒙古襲来に際して石見の御家人に防戦のため下向を命じた関東御教書は貴重である。38通の大内氏発給文書は南北朝時代から弘治3年(1557)の滅亡まで歴代当主を網羅し、各文書の資料的価値とともに稀少性が高い。		

＜刀剣＞（2件）

7　名称	刀　銘藤原鎮清	品　　質	鉄鍛造
作 者 等	藤原鎮清	員　　数	1口
時　　代	安土桃山時代・16世紀後半	寸 法 等	刃長74.9cm　反1.7cm
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒。身幅やや広く鎬筋高い。重厚く、反浅めにつく。鍛は小板目よく約み、地沸つく。刃文は、総体に小乱となり、小互の目に小さな尖刃や小丁子風の刃が交じる。匂口締まりごころに沸やや叢つく。帽子は小さく乱れ込み、表は小丸、裏はやや尖って返る。茎は生、先刃上がり栗尻、鑢目勝手下り、目釘孔1つ開く。指表の目釘孔下の鎬地内に刀工銘を切る。本品は鍛よく匂口も明るく冴えて華やかで、刃文にたるみや崩れがみられず、しかも生茎であり、傑出した作行を誇る。研ぎ減りもなく、よく約んだ肌は精美な作風として知られる肥前刀にも一脈通ずるところであり、豊後刀を再評価する上で不可欠な作品である。		

8　名称	刀　銘伯耆守平朝臣正幸／文化四年卯二月七十五歳造	品　　質	鉄鍛造
作 者 等	伯耆守平朝臣正幸	員　　数	1口
時　　代	江戸時代・文化4年(1807)	寸 法 等	刃長72.1cm　反2.0cm
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒やや伸びる。鎬高く反りやや深くつき、身幅広く重ね厚い。鍛は小板目 肌よく約み、地沸厚くつき、地景細かく入る。刃文は湾れに互の目交じり、匂口深く沸厚くつく。砂流し、金筋かかる。帽子は浅く乱れ、表は小丸に 返り、裏は焼詰める。茎は生、尻は先細って入山形、鑢目勝手上がり、目釘孔1つ開く。表裏ともに鎬筋を中心に楷書体に銘を刻む。正幸(1733-1818)は、通称伊地知次右衛門、安永元年(1772)より作刀を始め、初銘 は祖父・父と同様正良と称し、薩摩藩のお抱え工となった。寛政元年(1789)には伯耆守を受領し、正良の名 を嫡男に譲り、自らは正幸と改銘した。平肉豊かにつき、地刃、茎ともに健全で、正幸の代表的な作品として評価しうる。薩摩藩を代表する刀工の円熟期の在銘作である。薩摩藩主島津家伝来。		

＜陶磁＞（3件）

9　名称	三彩壺	品　　質	三彩陶
作 者 等	中国	員　　数	1口
時　　代	唐時代・7-8世紀	寸 法 等	高19.2cm　口径11.5cm　胴径21.8cm
作品概要	胴部は量感豊かに膨らみ、その上の頸部から口縁部にかけては短くも力強く湾曲する。このような器形をもつ壺は7世紀から8世紀半ばにかけての中国で作られた唐三彩に多くの例が知られており、「万年壺」とも呼ばれた。素地の表面に白い化粧土を薄く掛け、緑釉を地とする梅花文を胴部全体に散らす。梅花文の花弁はいわゆる蝋抜き技法によって周囲の緑釉をはじき、化粧土を露出させることで白く見せ、花の中心に置かれた一点の褐釉で蕊を表現する。傾斜の大きな器面では、花弁と花弁の隙間を緑釉と褐釉が筋状に流れ落ちてたがいに滲み、見どころのひとつになっている。		

10　名称	重要文化財　法花蓮鷺文有蓋壺	品　　質	磁製法花
作 者 等		員　　数	1合
時　　代	中国　明時代・15-16世紀	寸 法 等	口径20.0cm　胴径34.6cm　底径21.9cm　総高47.5cm
作品概要	轆轤成形により、肩から胴部が外側に大きく張り出し、腰部にかけて絞った器形とする。全体の地を濃い藍釉で塗り込め、イッチン描きで、胴部に蓮華文をあらわし、腰部には、波濤文を、その間に白鷺文をあらわす。肩には、内に霊芝雲文描いたラマ式蓮弁文形の窓枠を廻らし、その下に、内に八吉祥文を描いた雲文形の窓枠を配する。文様はすべて、青・白・紫の色釉で描き、一部に白檀塗りを施す。金属製の鈕が付いた鍔縁の蓋を伴う。昭和11年(1936)に旧国宝、昭和25年(1950)に重要文化財の指定を受けた。昭和9年4月5日大阪美術倶楽部で開催された藤田香雪斎の売立に出品された（『香雪斎蔵品展覧図録』　大阪美術倶楽部　昭和9年4月5日）。池戸宗三郎が落札し、以後は、冨田熊作、戸田大三、繭山順吉などの手を渡った。		

11　名称	古染付葡萄棚文水指	品　　質	青花磁器
作 者 等	中国・景徳鎮窯	員　　数	1合
時　　代	中国　明時代・17世紀前半	寸 法 等	総高19.2cm　高18.3cm（身のみ）　口径8.0×8.2cm　底径13.0×13.0cm
作品概要	中国・景徳鎮の民窯で作られた古染付の水指。肩がなく、胴の中ほどから裾にかけて膨らんだ、丸みのある胴部を八角に面取りする。各八角の稜部分に呉須で柱をあらわし、胴の上部に交互に斜めに描いた棚組を配し、葡萄の蔓が絡んだ姿をあらわす。古染付は、明時代末期・天啓年間(1621-27)頃に、日本からの注文で作られた。轆轤成形ながら、意図的に歪みを加えたものや型造りのものがあり、それらは明らかに美濃焼の作行と共通する。虫喰いが見られるのも特徴である。「形物」と呼ばれる一定の器形・意匠を持つ製品があり、本作品は、その一つである「葡萄棚（文）水指」にあたる。通常共蓋があり、宝珠形と獅子形の鈕のものとがあり、本作品には獅子鈕が付く。元徳島藩士で、日本汽船や日本郵船社の社長であった、近藤廉平（其日庵）の旧蔵品である。		

＜漆工＞（2件）

12　名称	漆皮箱	品　　質	皮製漆塗
作 者 等	身は吉田立斎	員　　数	1合
時　　代	奈良時代（身は大正時代）・8世紀（身は20世紀）	寸 法 等	縦46.0cm　横40.0cm　高9.5cm
作品概要	皮製漆塗。被蓋造、丸隅の箱。やわらかく甲が盛り、蓋・身とも口縁を補強するために紐を廻らせている。素地は獣皮を木型に当てて成形したと考えられ、全面に目の粗い布を被(キ)せて、紐にも布を張り重ねている。黒漆を塗ったのち透漆を塗り重ねている。東大寺旧蔵の伝をもつ漆皮箱の蓋と、後補の身である。現存する漆皮箱は、正倉院宝物と法隆寺献納宝物（重要文化財、東京国立博物館所蔵）などにあるが、民間にあるものはごくわずかで蓋のみとはいえ大変稀少である。また、大正年間に吉田立斎によって制作された身も、当時の模造技術の高さが見て取れる点、貴重な作例といえる。		

13　名称	花鳥堆朱盤	品　　質	木製漆塗
作 者 等		員　　数	1枚
時　　代	中国　元-明時代・14世紀	寸 法 等	径30.5cm　高1.5cm
作品概要	木製漆塗。丸形の盤。厚手の口縁をもち、低い高台をそなえる。見込には、牡丹花と2羽の尾長鳥をあらわし、裏面立ち上がりには屈輪唐草文を廻らす。技法は彫漆で、黄漆地に朱漆を塗り重ねた層に、文様を細部に至るまで丁寧に彫り表わす。朱漆層には1層、黒漆層が見え、高台内は黒漆塗とする。一部、後補は認められるものの、状態は良好である。咲き誇る牡丹花を背景に、2羽の鳥が飛び交う双鳥様式の盤である。宋時代以来好まれた吉祥性あふれる意匠で、一尺ほどの盤面に破綻なく文様が配置されている。唐物漆器の中でも定番の作例であり、作行・状態とも大変優れた貴重な品である。		

＜染織＞（5件）

14　名称	裂帖「独楽帖」	品　　質	絹など
作 者 等	裂：中国、東南アジア、インド、ヨーロッパ　装丁：日本	員　　数	1帖
時　　代	装丁：明治-大正時代 19-20世紀　裂：7-19世紀	寸 法 等	縦27.5cm　横19.8cm　高9.8cm
作品概要	千家御用の袋師・土田家蒐集と伝わる裂を貼り集めた折本仕立の裂帖。近代数寄者として知られる益田孝（鈍翁、1848-1938）の妾、益田多喜子（紫明庵)旧蔵の裂帖。千家御用の袋師蒐集品にふさわしく、蜀江錦や臈纈染めなどの上代裂から、16世紀ごろまでの古裂の名品が含まれる。所収裂は「冨田」、「鶏頭」、「角之倉」、「嵯峨桐」など号を冠する名物が揃う。13世紀頃まで製作時期が上る「大燈金襴」や「二人静」も含まれており、大変貴重な手鑑。装丁も美しく、鑑賞を目的として作られた裂帖の好例である。また付属の目録には図入りで裂の名称とそれぞれの解説が記されており史料性も高い。		

15　名称	裂帖「古裂鑑」	品　　質	絹など
作 者 等	裂：中国、日本、インド、ヨーロッパ　装丁：日本	員　　数	1帖
時　　代	装丁：昭和時代 20世紀　裂：15世紀-20世紀	寸 法 等	縦24.4cm　横19.2cm　高4.3cm
作品概要	金紗や印金などの表装裂に用いられたと考えられる裂が比較的多く含まれる折本仕立の裂帖。一般的な裂手鑑よりも日本で産した古裂が多く含まれていて、染織史研究上貴重な作例。日本産の裂の中には、室町頃まで遡ると考えられる唐織の古い例や、江戸初期の腰巻裂、江戸中期の小袖裂、東京大学史料編纂所所蔵「足利義教像」の表具と共裂の描絵裂などが含まれる。また、更紗裂が多いことも特色の一つである。		

16　名称	裂帖「唐倭古織裂集」	品　　質	絹など
作 者 等	裂：中国、日本、インド、東南アジア、ヨーロッパ　装丁：日本	員　　数	1帖
時　　代	装丁：昭和26年(1951)　裂：15世紀-20世紀	寸 法 等	縦29.3cm　横25.0cm　高8.8cm
作品概要	絹織物生産で有名な桐生新町にあった織屋・吉田家旧蔵の折本仕立の裂帖。元禄10年(1697)までに集められた裂を中心に、江戸期に吉田家にて裂帖が編まれ、それを昭和26年(1951)に旧所有者が仕立て直したものと思われる。京都国立博物館所蔵の前田家旧蔵裂に見られる中国産古裂「替り蜀江文様黄綬」の共裂のほか、日本の室町時代頃の製作と思われる紋紗、ヨーロッパの天鵞絨など、多種多様の裂が含まれる。また、近世京都に産した織物も「京織」として貼り込まれており、時代性、地域性ともに幅広く、染織史研究上貴重な資料である。南方よりもたらされた縞裂や更紗、琉球の裂、紙布や西欧に産する裂などの希少な作例が多く含まれている。		

17　名称	革帖	品　　質	革
作 者 等	染韋：日本、ヨーロッパ　装丁：日本	員　　数	1帖
時　　代	染韋：江戸-大正時代（一部欧州製を含む）　装丁：昭和時代初期 20世紀　染韋：18-20世紀	寸 法 等	縦27.4cm　横20.0cm　高8.5cm
作品概要	染韋裂のみを集めた珍しい折本仕立の裂帖。技法や模様の異なる様々な種類の染韋が貼り込まれている。各革片の右肩にはそれぞれの名称が記されるほか、いくつかは伝来や技法、職人についても記載があり、革工芸史研究の上でも貴重な資料である。所収の染韋裂には、煙草入れや煙管入れ、紙入れ、仕覆に用いられたと思われるものの他、天平革と呼ばれる江戸期の画韋をはじめとした甲冑用の染韋、更紗の模様を写した更紗革、舶来の金唐革などが含まれる。蝦蟇口などに成形されていたと思われる和製の印伝や合成染料で染められた明治期大正期の染韋など新しい技法によるものも含まれており、近世・近代の染韋文化の多様さをうかがい知ることができる手鑑である。		

18　名称	西洋更紗裂	品　　質	木綿（銅版捺染/銅版捺染/蝋防染）
作 者 等	フランス、イギリス、イタリア	員　　数	26枚
時　　代	18世紀後半-19世紀	寸 法 等	1：2枚 各 縦24.0cm　横28.0cm 2：縦40.0cm　横40.0cm 3：縦57.0cm　横47.0cm 4：縦40.0cm　横117.0cm 5：縦31.0cm　横36.0cm 6：縦24.0cm　横118.0cm 7：縦50.0cm　横35.0cm 8：縦48.0cm　横36.0cm 9：縦67.5cm　横61.0cm 10：縦57.0cm　横33.0cm 11：縦32.0cm　横320.0cm 12：縦42.0cm　横33.0cm 13：縦45.0cm　横126.0cm 14：縦48.0cm　横40.0cm 15：縦45.0cm　横26.0cm 16：縦73.0cm　横39.0cm 17：縦54.0cm　横36.0cm 18：縦57.0cm　横33.0cm 19：縦55.0cm　横60.0cm 20：縦80.0cm　横27.0cm 21：縦34.0cm　横44.0cm 22：縦49.0cm　横81.5cm 23：縦59.0cm　横37.0cm 24：縦30.0cm　横55.0cm 25：縦27.0cm　横89.0cm
作品概要	本コレクションは、フランス染織史の研究者Elinor Merrell氏(1895-1993)が1940年代に蒐集した西洋更紗である。フランスの初期の木版更紗、ジュイ、ノルマンディー、ナント、ミュールーズなど各地の銅版更紗、さらにイギリスからアメリカに導入された染色技術を物語る蝋防染の作例などを含んでいる。銅板更紗の多くはヨーロッパにおける神話や物語、格言を題材にした内容が表わされいる。その染織技法からは、エッチング銅版による銅版捺染法、銅版ローラーによるシリンダー捺染法、紡績機械や織布機械による木綿の大量生産など、インド更紗を凌駕する技術革新を背景に見ることができる。本コレクションは当時のヨーロッパの好みを示すのみならず、世界交易史の視点からみれば、捺染技術伝播、近代産業の歴史を考える上で貴重な資料である。		

＜考古＞（27件）

19　名称	岩偶	品　　質	石製（砂岩製）
作 者 等	青森県三戸郡出土	員　　数	1軀
時　　代	縄文時代・6,000年前-5,000年前	寸 法 等	縦5.4cm　横4.9cm　厚2.0cm
作品概要	縄文時代前期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する岩偶。頭部や四肢を簡略化し、菱形の体部に正中線と両腕を胸に折り伏したような表現を持つ。土偶や岩偶などの人形祭祀具は、縄文時代後半期に発達するが、その起源は、縄文時代前半期にまで遡る。縄文時代前半期の人形祭祀具は、本品のように頭部と四肢を簡略化して表現するものが一般的であり、後半期のものとは異なる特徴を持つ。		

20　名称	大珠	品　　質	石製（翡翠製）
作 者 等	青森県三戸郡五戸町切谷内大久木出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代 5,000年前-4,000年前	寸 法 等	縦7.8cm　横2.7cm　厚1.5cm
作品概要	縄文時代中期・後期に発達する、大珠と呼ばれる大型で細長い形態の緑色石材製の垂飾。特に本品は、中期の東日本を中心に出土する翡翠製のもの。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定され、透明度の高い良質なものである。		

21　名称	大珠	品　　質	石製（翡翠製）
作 者 等	青森県下北郡東通村大利浜出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・5,000年前-4,000年前	寸 法 等	縦4.2cm　横4.0cm　厚1.8cm
作品概要	縄文時代中期・後期に発達する、大珠と呼ばれる大型で細長い形態を基本とする緑色石材製垂飾の一類型。球形のものは緒締型に分類され、翡翠製で、中期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する。翡翠は新潟県糸魚川産と推定される。凹部には鉄分が沈着し、全体的に摩滅している。		

22　名称	土偶	品　　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡出土	員　　数	1軀
時　　代	縄文時代・5,000年前-4,000年前	寸 法 等	縦8.5cm　横7.4cm　厚1.7cm
作品概要	縄文時代中期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する土偶。十字形土偶と呼ばれ、板状で脚部を省略した形態を持つ。この時期の土偶は、前半期の頭部や四肢を省略するものから、後半期の頭部や四肢を明瞭に表現するものへの過渡的様相を示し、頭部や四肢の一部を省略したものが多い。		

23　名称	深鉢形土器	品　　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡五戸町切谷内大久木出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代・5,000年前-4,000年前	寸 法 等	直径38.3cm　高55.0cm
作品概要	縄文時代中期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する土器。口縁部には粘土紐貼り付けによる幾何学的な文様と透かし、胴部には羽状文と呼ばれる鳥の羽状の縄文が特徴的である。口縁部の4つの突起の文様は、人面風に見える。この時期の日本列島では、新潟の火焔型土器をはじめとする立体感ある装飾を持つ土器が各地で流行したが、本品はその地域性を知る上で貴重である。		

24　名称	深鉢形土器	品　　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡五戸町切谷内大久木出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代・5,000年前-4,000年前	寸 法 等	直径23.0cm　高25.0cm
作品概要	縄文時代中期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する土器。口縁部には粘土紐貼り付けによる幾何学的な文様と透かし、胴部には羽状文と呼ばれる鳥の羽状の縄文が特徴的である。口縁部の4つの突起の文様は、人面を表現している。この時期の日本列島では、新潟の火焔型土器をはじめとする立体感ある装飾を持つ土器が各地で流行したが、本品はその地域性を知る上で貴重である。		

25　名称	台付浅鉢形土器	品　　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡五戸町蛯川出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸 法 等	直径19.3cm　高22.7cm
作品概要	縄文時代後期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する土器。粘土紐貼付によるS字状の入組文様と、脚部に施された対向するV字・逆V字状の1対の透かしが大変美しい。脚部には、縄文時代の補修痕である複数の穿孔が見られる。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、台付浅鉢、注口土器、壺などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。その背景には、社会や生活様式の大きな変化があったと考えられている。		

26　名称	鐸型土製品	品　　質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木	員　　数	10個
時　　代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸 法 等	1：高7.5cm 2：直径5.2cm　高7.1cm 3：短軸径5.2cm　長軸径3.7cm　高6.0cm 4：直径3.6cm　高5.8cm 5：短軸径2.0cm　長軸径4.3cm　高5.5cm 6：短軸径3.3cm　長軸径4.0cm　高5.4cm 7：短軸径3.5cm　長軸径3.8cm　高5.3cm 8：直径4.0cm　高5.0cm 9：縦6.3cm　横4.3cm　高3.4cm 10：縦4.8cm　横4.1cm　高3.5cm
作品概要	縄文時代後期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する釣鐘形の祭祀具。釣鐘形のものだけでなく、希少な靴形のものも見られる。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、台付浅鉢、注口土器、壺などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。一方で、祭祀具の中には、本品のように他地域に広がらなかった地域性の強いものも見られる。		

27　名称	注口土器	品　　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡五戸町切谷内大久木出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸 法 等	直径17.8cm　高18.0cm
作品概要	縄文時代後期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する土器。注口を動物の口に見立て、眼、耳、四脚を配し容器全体で動物を模し、さらに半肉彫技法による縦方向の弧状文、耳、四脚で編籠を模しているように見えるなど、縄文人の造形力の高さを示す品である。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、台付浅鉢、注口土器、壺などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。その背景には、社会や生活様式の大きな変化があったと考えられている。		

28　名称	壺形土器	品　　質	土製
作 者 等	伝岩手県出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸 法 等	直径24.0cm　高17.0cm
作品概要	縄文時代後期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する土器。算盤玉形の胴部をなし、半肉彫技法による環状文が印象的な土器である。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、台付浅鉢、注口土器、壺などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。その背景には、社会や生活様式の大きな変化があったと考えられている。		

29　名称	壺形土器	品　　質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸 法 等	直径32.5cm　高43.0cm
作品概要	縄文時代後期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する土器。口縁部の3つの橋状把手と胴部の沈線によるＳ字状入組文が特徴的である。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、台付浅鉢、注口土器、壺などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。その背景には、社会や生活様式の大きな変化があったと考えられている。		

30　名称	土偶	品　　質	土製
作 者 等	青森県五戸町切谷内字高森山出土	員　　数	1軀
時　　代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸 法 等	縦13.0cm　横9.2cm　厚3.1cm
作品概要	縄文時代後期の東北から出土する土偶。頭部と手先は表現されているものの、眼部や脚部は省略されている点が特徴である。省略した人体表現を持つ中期の十字形土偶から、頭部や四肢を明瞭に表現する後期・晩期の土偶への過渡的な形態を示す土偶である。		

31　名称	鳥形土器	品　　質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸 法 等	縦8.8cm　横16.8cm　高8.4cm
作品概要	縄文時代後期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する土器。羽を畳んだ鳥のような形態で、無文、粗製で、一端に注口が付く。内部には全面に赤色顔料が付着している。赤色顔料の生産、酒や水等の液体を使った儀礼などに用いられる土器と考えられている。		

32　名称	深鉢形土器	品　　質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸 法 等	直径28.0cm　高35.0cm
作品概要	縄文時代後期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する土器。輪花のような9単位の波状口縁と半肉彫技法によるS字状入組文が印象的である。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、台付浅鉢、注口土器、壺などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。その背景には、社会や生活様式の大きな変化があったと考えられている。		

33　名称	勾玉	品　　質	石製（翡翠製）
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・4,000年前-3,000年前	寸 法 等	縦2.0cm　横1.1cm　厚1.1cm
作品概要	側面に3本の刻みを持つD字形に近い形態の勾玉で、獣形勾玉と呼ばれる。縄文時代後期・晩期の東日本で発達し、九州にもみられるもの。同一系譜にあると考えらえる刻みを持つ玉類は、弥生時代の北部九州の首長墓に副葬されており、弥生文化を多角的に検討する上で貴重である。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。		

34　名称	勾玉	品　　質	石製（翡翠製）
作 者 等	青森県三戸郡三戸町出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・4,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦2.5cm　横1.4cm　厚0.8cm
作品概要	頭部側面に2本の刻みを持つ整った形態の勾玉で、定形勾玉と呼ばれる。縄文時代後期・晩期の東日本で発達し、九州にもみられる。同一系譜にあると考えらえる刻みを持つ玉類は、弥生時代の北部九州の首長墓に副葬されており、弥生文化を多角的に検討する上で貴重である。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。		

35　名称	勾玉	品　　質	石製（翡翠製）
作 者 等	青森県三戸郡三戸町出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・4,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦1.8cm　横1.0cm　厚0.6cm
作品概要	側面に数条の刻みを持つD字形に近い形態の勾玉で、獣形勾玉と呼ばれる。縄文時代後期・晩期の東日本で発達し、九州にもみられる。同一系譜にあると考えらえる刻みを持つ玉類は、弥生時代の北部九州の首長墓に副葬されており、弥生文化に組み込まれた縄文的祭祀を考える上で貴重である。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。		

36　名称	丸玉	品　　質	石製（翡翠製）
作 者 等	青森県むつ市出土	員　　数	9個
時　　代	縄文時代・4,000年前-2,300年前	寸 法 等	1：縦1.2cm 横1.1cm 厚0.7cm　6：縦0.9cm　横0.9cm　厚0.6cm 2：縦1.1cm 横1.1cm 厚0.8cm　7：縦0.9cm　横0.9cm　厚0.6cm 3：縦1.0cm 横1.0cm 厚0.7cm　8：縦0.8cm　横0.8cm　厚0.5cm 4：縦1.0cm 横1.0cm 厚0.5cm　9：縦0.5cm　横0.5cm　厚0.4cm 5：縦0.9cm 横0.9cm 厚0.6cm
作品概要	小形で球形の垂飾で、連珠で使用されたと想定される。翡翠製のものは、縄文時代後期・晩期の東日本で発達し、九州にもみられる。縄文時代後半期には緑色石材製の垂飾が流行したが、丸玉はその一例。翡翠製のものが日本各地で出土する一方、東北北部では在地の緑色凝灰岩製のものも流行した。九州では在地のクロム白雲母岩製のものも流行し、関東や北陸へ流通した。		

37 名称	岩偶	品　質	石製（白色軟質岩製）
作 者 等	青森県十和田市滝沢明戸出土	員　数	1軀
時　代	縄文時代・3,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦9.8cm　横12.0cm　厚4.0cm
作品概要	縄文時代晩期の東北で出土する岩偶で、遮光器土偶で著名な亀ヶ岡文化の品である。遮光器風の眼部、豊満な乳房、全面に施された双頭渦文が特徴的である。下半身と手先を欠失する。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、小形で精巧な造りの土器、土製や石製の呪術具が多数生産された。本品は、そのような亀ヶ岡文化を象徴するものである。		

38 名称	岩版	品　質	石製（白色軟質岩製）
作 者 等	秋田県北秋田市脇神高森岱出土	員　数	1個
時　代	縄文時代・3,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦10.3cm　横6.4cm　厚2.2cm
作品概要	縄文時代晩期の東北で出土する岩版で、遮光器土偶で著名な亀ヶ岡文化の品である。正中線と人面の表現が特徴的である。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、小形で精巧な造りの土器、土製や石製の呪術具が多数生産された。本品は、そのような亀ヶ岡文化を象徴するものである。		

39 名称	石刀	品　質	石製（粘板岩製）
作 者 等	青森県三戸郡南部町鳥谷青鹿長根出土	員　数	1本
時　代	縄文時代・3,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦33.0cm　横2.8cm　厚1.1cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部にかけて出土する刀形の石製祭祀具で、遮光器土偶で著名な亀ヶ岡文化の品である。柄頭と棟に彫刻されたS字状入組文と赤彩が特徴的である。刃は内反。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、小形で精巧な造りの土器、土製や石製の呪術具が多数生産された。本品は、そのような亀ヶ岡文化を象徴するものである。		

40 名称	壺形土器	品　質	土製
作 者 等	伝北海道出土	員　数	1口
時　代	縄文時代・3,000年前-2,300年前	寸 法 等	直径8.0cm　高11.5cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部にかけて出土する土器で、遮光器土偶で著名な亀ヶ岡文化の品である。全面に密に施された工字状の文様が特徴的である。内面には、全面に赤色顔料が付着しており、漆工芸に用いる顔料を保管したものと考えられる。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、小形で精巧な造りの土器、土製や石製の呪術具が多数生産された。本品は、そのような亀ヶ岡文化を象徴するものである。		

41 名称	土偶	品　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡出土	員　数	1軀
時　代	縄文時代・3,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦5.5cm　横4.3cm　厚1.4cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部にかけて出土する土偶で、その形態からX字土偶と呼ばれる。遮光器土偶で著名な亀ヶ岡文化のもので、小形で省略が著しいいものの遮光器土偶に見られる横一文字の眼部表現が見られる。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、小形で精巧な造りの土器、土製や石製の呪術具が多数生産された。本品は、そのような亀ヶ岡文化を象徴するものである。		

42 名称	土版	品　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡南部町鳥谷青鹿長根出土	員　数	1個
時　代	縄文時代・3,000年前-2,300年前	寸 法 等	縦12.5cm　横9.8cm　厚2.4cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部にかけて出土する土製祭祀具。遮光器土偶で著名な亀ヶ岡文化のもので、長側面から中央に向かう2個1対の重弧文が特徴的である。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、小形で精巧な造りの土器、土製や石製の呪術具が多数生産された。本品は、そのような亀ヶ岡文化を象徴するものである。		

43 名称	土偶	品　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡出土	員　数	1軀
時　代	縄文-弥生時代・3,000年前-2,200年前	寸 法 等	縦6.0cm　横4.0cm　厚1.6cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部にかけて出土する土偶で、その施文方法から刺突文土偶と呼ばれる。遮光器土偶で著名な亀ヶ岡文化のもので、遮光器土偶の大きな眼部表現が退化した段階のものである。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、小形で精巧な造りの土器、土製や石製の呪術具が多数生産された。本品は、そのような亀ヶ岡文化を象徴するものである。		

44 名称	独鈷状石器	品　質	石製
作 者 等		員　数	1個
時　代	縄文-弥生時代・3,000年前-2,000年前	寸 法 等	幅19.0cm　高5.0cm　厚4.0cm
作品概要	鶴嘴の頭部状の石製祭祀具。誂えて作ったとみられる神棚状の厨子が付属する。厨子は丸釘の使用や木部の劣化状態から、近代のものと考えられる。雷雨の後に土中から洗い出されて発見されることの多い石斧や石鏃等の石器については、古来より世界各地で雷や神、火等との関わりが考えられ、魔除け、防災、病気平癒等の信仰の対象となっていた。近世以前の日本においても石器は、雷斧、霹靂礎（雷神の道具）、神代石等と呼ばれ、信仰の対象になることがあった。歴史学や考古学に科学的な考え方が導入される明治時代以降においても、特異な形態を持つ石器は、超自然的な物体として民間で信仰されることが続いた。本品は、前近代において一般的であった考古資料の認識、発見、取り扱いの歴史を知る上で貴重である。		

45 名称	独鈷状石器	品　質	石製
作 者 等	（東日本）	員　数	1個
時　代	弥生時代・前4世紀-前1世紀	寸 法 等	幅17.4cm　高5.4cm　厚3.9cm
作品概要	弥生時代前半期の東日本で発達する鶴嘴の頭部状の石製祭祀具。縄文時代の同形石器に系譜が求められることから、縄文系の遺物と呼ばれることがある。縄文時代最末期の北部九州に最初に伝わった稲作文化は、東北まで一気に伝播し、本州以南で弥生時代が始まる。しかし、弥生時代になっても、縄文時代以来の祭祀が各地で続けられていた。その代表例が、東日本の独鈷状石器、近畿・四国の石棒、北部九州の刻みや長軸方向の穿孔を有する翡翠製玉類である。これら縄文系遺物は、縄文時代から弥生時代の連続性や弥生時代の地域性を考える上で重要である。		

＜民族資料＞（1件）

46　名称	財貨	品　　質	石製（粘板岩製）、植物繊維製、骨角製、皮革製
作 者 等	インドネシア共和国パプア州（旧イリアンジャヤ州）	員　　数	1個
時　　代	20世紀	寸 法 等	縦46.2cm　横13.0cm　厚4.0cm
作品概要	インドネシア共和国パプア州に住むダニ族が、結婚式や葬式に際し贈物として使用する石斧形の交換財である。大形で由緒のある財貨は、神聖なものとして畏敬の対象になることもあった。財貨は、本品のようなスカート風の装飾を持つ石斧形のものが一般的で、袋と帯を加えた3 点セットで構成されると言われているが、本品には伴っていない。縄文時代以降の日本列島では、石斧や石槍、銅鉾、銅戈、銅鐸など道具の大型化を伴う祭器化現象が認められる。特に縄文時代の開始期には、遠隔地石材で作られた大型の石斧や石槍が１遺跡から纏まって出土することがあり、交換財としての役割が考えられている。本品は、このような道具の祭器化やその装飾を考える上で参考となるものである。		

＜歴史資料＞（3件）

47　名称	豊臣秀吉領知宛行状	品　　質	紙本墨書
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	安土桃山時代・天正15年(1587)	寸 法 等	表装：縦106.5cm　横65.0cm　軸長70.0cm　本紙：縦22.8cm　横62.5cm
作品概要	本品は天正15年(1587)6月15日付、宗義調・宗義智宛に発給された豊臣秀吉の領知宛行状である。同年5月に九州平定を終え、筥崎に在陣する秀吉のもとに、6月に義調と義智が「父子」と称して伺候した。ここで宗氏の秀吉への服属が確定し、本品によって、対馬一国が安堵されたのであった。本品と同時にもう一通発給された判物には、朝鮮への出兵について記されていることはよく知られている。本品は江戸時代に対馬藩主の「奥御判物長持」で保管されていたが、大正15年(1926)に宗伯爵家は宗家に伝わった秀吉関係文書や徳川家康関係文書を朝鮮総督府朝鮮史編修会にした中に本品が含まれていたと考えられる。豊臣秀吉の九州平定後、対馬の宗氏を従え、朝鮮出兵へと進み始める段階の一次史料として重要なものである。		

48　名称	カルディム『日本殉教精華』	品　　質	紙本活版（金属活字）印刷、ヴェラム装
作 者 等	アントニオ・フランシスコ・カルディム編	員　　数	1冊
時　　代	ローマ 1646年刊	寸 法 等	縦19.8cm　横15.2cm　高4.4cm
作品概要	ポルトガル人イエズス会士で日本管区長であったカルディムが編纂した、16世紀から17世紀の日本におけるキリスト教徒の殉教録。本書は3部構成となっている。第1部は日本で宣教活動を行ったヨーロッパ人や日本人イエズス会士・会員、イエズス会を支援した大村純忠、大友宗麟、高山右近の3名のキリシタン大名、計87名の略伝と銅版画が掲載される。第2部は1557年から1640年まで、日本で殉教した人物の名簿。第3部は日本との交易再開を求めるため、1640年に長崎に来航したマカオ使節団が処刑された出来事に関する記録である。殉教録という性格上、本書には脚色された記述もあるが、一方で宣教師や日本人イエズス会士たちの容貌を視覚的に伝える。また、第3部については、状況を詳細に記す史料はオランダ語史料を除けばほとんどなく、日本・マカオ（ポルトガル）関係史を研究する上で重要な資料である。		

49　名称	モンタヌス『東インド会社遣日使節紀行』	品　　質	紙本活版（金属活字）印刷、革装
作 者 等	アルノルドゥス・モンタヌス著	員　　数	1冊
時　　代	アムステルダム 1669年刊	寸 法 等	縦31.2cm　横19.9cm　高5.9cm
作品概要	オランダ出身のカルヴァン派宣教師で歴史学者のモンタヌスの著作。モンタヌスは来日経験がないものの、ポルトガルやスペインのカトリック宣教師の報告書をはじめ、1650-60年代のオランダ東インド会社職員による複数の江戸参府日記を編纂し本書を著した。銅版画の挿図が豊富で、長崎・江戸の往復の道程に沿った視覚的な叙述を可能にしており、読者に臨場感を与えている。これら挿図は、商館員のスケッチをもとに、デフォルメしたものである。「鎖国」後、ヨーロッパにもたらされる日本情報は限定的になったが、本書はエンゲルベルト・ケンペル『日本誌』が登場する以前のヨーロッパにおける代表的な日本に関する著作と位置付けられる。		

（１）寄贈（84件）

＜書跡＞（30件）

1　名称	新撰類林抄断簡　南院切「問寇校書雙溪」	品　　質	彩箋墨書
作 者 等	伝空海筆	員　　数	1幅
時　　代	平安時代・9世紀	寸 法 等	本紙：縦27.1cm　横18.0cm　表装：縦140.5cm　横41.4cm　軸長46.0cm
作品概要	中国・唐時代の詩人の漢詩を類別聚集した詩集『新撰類林抄』の断簡。王維の「問寇校書雙溪」の漢詩を書写する。『新撰類林抄』の断簡は「南院切」と呼ばれる。本品は唐様の草書体で書写され、零巻である国宝「新撰類林抄巻第四残巻」（京都国立博物館蔵）の書風と同類のものであり、また、本品と「新撰類林抄巻第四残巻」の界線は類似する。空海請来説や日本で書写された説があるが、平安時代の初めに書写されたものと思われる。空海を伝承筆者とするが、筆跡は空海のものとは異なる。「新撰類林抄巻第四残巻」と同じく、唐代詩の遺篇として、また平安時代初期の草書として、貴重なものである。		

2　名称	貫之集断簡　自家集切「みとりなる」	品　　質	紙本墨書
作 者 等	伝紀貫之筆	員　　数	1幅
時　　代	平安時代・10世紀	寸 法 等	本紙：縦26.8cm　横8.7cm　表装：縦135.5cm　横27.0cm　軸長31.5cm
作品概要	装飾のない楮紙に、『貫之集』第一の和歌1首を書写した断簡。紀貫之が自らの歌集を自筆で書写したと伝えられることから、「自家集切」と呼ばれる。国宝「秋萩帖」（東京国立博物館蔵）などとともに、草仮名の典型として注目される。文字は扁平で筆力は強く、時に連綿を見せ、草仮名から女手への移行時の姿を示す。		

3　名称	重要美術品　興風集断簡　名家家集切「はるかすみ」	品　　質	彩箋墨書
作 者 等	伝紀貫之筆	員　　数	1幅
時　　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙：縦25.5cm　横21.1cm　表装：縦142.5cm　横40.0cm　軸長44.5cm
作品概要	藤原興風の私家集『興風集』の断簡を書写した断簡。書写される「はるかすみ」の和歌は、『寛平御時后宮歌合』にも収載される。「名家家集」は、平安朝に活躍した藤原兼輔、藤原興風、源公忠、坂上是則、在原元方、清原深養父の6人の家集を総称したもの。「名家家集切本」はすべて一筆の書写である。「高野切」第二種（源兼行筆と推定される）に似通った書風で、流麗さと温和な雰囲気を持つ。伝承筆者は紀貫之とされるが、11世紀半ばの書写であると推測される。また、「名家家集切本」の飛雲料紙は、11世紀半ば頃に見られるもので、他の時代には存在しないものである。		

4　名称	斎宮女御集断簡　小島切「秋をへて」	品　質	紙本墨書
作 者 等	伝小野道風筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙：縦22.5cm　横9.5cm　表装：縦140.5cm　横37.0cm　軸長41.8cm
作品概要	徽子女王の歌集『斎宮女御集』の和歌3首を書写した断簡。もとは綴葉装の冊子本。本阿弥光悦の門下で、「宗真流」という書風で知られた小島宗真が愛蔵したものとして、「小島切」と呼ばれる。「小島切」は藍や紫の飛雲を漉き込んだ鳥の子紙に、細かな雲母砂子を撒いた料紙を用いる。穂先の長めの筆で書かれたためか、繊細かつ流麗な筆致である。伝承筆者は小野道風とされるが、時代は下がり11世紀後半の書写と推定される。本品の最終行「さい京のかみの大君にきこえさせ給」は本来、歌番号95の詞書で、本品に書写された和歌に接続しない。この1行を記した紙は、別の「小島切」を掛幅装に改装する際に切断され、本品の末尾に継がれたものとみられる。		

5　名称	斎宮女御集断簡　小島切「うら水の」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝小野道風筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙：縦22.5cm　横9.5cm　表装：縦140.5cm　横37.0cm　軸長41.8cm
作品概要	徽子女王の歌集『斎宮女御集』の和歌3首を書写した断簡。もとは綴葉装の冊子本であったため、本品に書写された3首に続く和歌が反転して本紙に墨が残っている。本阿弥光悦の門下で、「宗真流」という書風で知られた小島宗真が愛蔵したものとして、「小島切」と呼ばれる。藍や紫の飛雲を漉き込んだ鳥の子紙に、細かな雲母砂子を撒いた料紙を用いる。穂先の長めの筆で書かれたためか、繊細かつ流麗な筆致である。伝承筆者は小野道風とされるが、時代は下がり11世紀後半の書写と推定される。		

6　名称	砂子切本和漢朗詠集「紅梅」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原行成筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙：縦25.1cm　横8.2cm　表装：縦138.0cm　横27.7cm　軸長32.4cm
作品概要	『和漢朗詠集』巻上「紅梅」の橘正通の漢詩1首を書写した断簡。もと巻子装で、江戸時代中期には切断分割されたと考えられている。特定の切名を冠しないが、銀の砂子を撒いたものを料紙に用いることから、小松茂美は「砂子切」としている。天地に引かれた墨界は、大部の詩歌を書写するためのもので、『和漢朗詠集』の書写の統一をはかるものである。その書はおおらかな楷書体であるが、細く鋭い筆線が見られる。書写年代は11世紀半ばから後半までと推定される。なお、墨筆による声点と訓点が加筆される。訓点の片仮名は本文書写よりも後世の時代のものと見られる。		

7　名称	道済集断簡　紙撚切「あさゆふに」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原佐理筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙：縦22.0cm　横145.0cm　表装：縦129.0cm　横36.5cm　軸長41.5cm
作品概要	藍漉き染め紙に金砂子を撒いた料紙に、源道済の家集『道済集』の和歌3首を書写した断簡。もとは縦長の冊子本であったと見られる。切名は、筆線が紙撚の形状に似ることから名付けられた。その書は、連綿が長く連なり、右上がりの細く鋭い筆線である。伝承筆者は藤原佐理であるが、書写年代は、料紙の装飾技法から、11世紀半ばから後半と推定される。		

8　名称	麗花集断簡　香紙切「とゝまらぬ」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝小大君筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙：縦20.3cm　横11.7cm　表装：縦122.0cm　横35.2cm　軸長39.7cm
作品概要	丁子で染めた料紙に、平安時代の私撰集『麗花集』の3首（そのうち1首目は後半、3首目は前半）を書写した断簡。『麗花集』は散佚歌集で、写本としては伝小野道風筆「八幡切」と「香紙切」が知られるのみである。「香紙切」の名は、防虫のため、香染め（丁字染め）の料紙を用いていることから名付けられた。伝承筆者の小大君は、三十六歌仙の一人として知られる女流歌人。その書は連綿を多用し、鋭い線質で、自由奔放・リズミカルな筆致で揮毫する。平仮名の字体が11世紀半ばに典型化された後、仮名の書風が多彩に展開する時期の作例の1つであり、11世紀末頃の筆写と考えられている。		

9　名称	和漢朗詠集断簡　太田切「閑居」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原公任筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀	寸 法 等	本紙：縦24.9cm　横16.6cm　表装：縦149.0cm　横43.2cm　軸長47.5cm
作品概要	胡粉を塗った具引き地に金銀泥で鳥や草花を描いた料紙に『和漢朗詠集』巻下「閑居」の漢詩と、それに続いて緑地の料紙に遍昭の和歌1首を書写した断簡。もとは上下2巻だったが、現在は静嘉堂文庫美術館所蔵の巻子のほか、断簡10数葉が伝存する。いずれも下巻のみで、上巻は早くに散逸したものと見られる。切名は、下巻が江戸時代後期に掛川藩主の太田家に伝来したことにちなむ。漢字は端正な世尊寺流の筆致を示す。一方、仮名は伸びやかな筆線で、爛熟期の仮名の姿を示す。藤原公任を伝承筆者とするが、確証はなく、11世紀末の書写とみられる。		

10　名称	小大君集断簡　御蔵切「うりふのゝ」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝小大君筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀-12世紀	寸 法 等	本紙：縦19.5cm　横36.7cm　表装：縦125.5cm　横59.2cm　軸長64.0cm
作品概要	布目打ちし、白の具引きをした唐紙に、『小大君集』の和歌4首を書写した断簡。本品は3頁分を残す断簡であり、また鎌倉時代に書写されたと思われる識語が残る貴重な断簡である。この識語によれば、当時11帖が確認されていたとわかる。識語に据えられた花押は、二条為氏(1222-86)と推定されている。繊細で丸味を帯びた筆致、連綿の美しさが女性の筆を想定させたため、歌集の作者である小大君を伝承筆者としたと考えられる。		

11　名称	下絵和漢朗詠集切「郭公」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原公任筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・11世紀-12世紀	寸 法 等	本紙：縦25.3cm　横11.7cm　表装：縦129.5cm　横36.5cm　軸長41.2cm
作品概要	鳥の子紙に金銀泥で鳥や草花の下絵を描き、金銀の揉み箔を撒いた料紙に、『和漢朗詠集』巻上の「郭公」を書写した断簡。切名は、近代に入ってから、その料紙の特徴をとらえてのものである。もとは上下2巻本であったが、江戸時代初期には解体が始まっていたとみられる。現存の古筆遺品に同筆のものは確認できないが、穂先が効いたリズミカルな運筆である。巧みな筆遣いと瀟洒で軽快な書風から、11世紀末期から12世紀初頭にかけての書写と考えられる。もと上下2巻本であったとき、片仮名の訓点や異本との校合が加えられたようだが、仕立ての際に、鑑賞の妨げにならないように抹消したものと考えられる。		

12　名称	三宝絵詞断簡　東大寺切「うつくしひの」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝源俊頼筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・保安元年(1120)	寸 法 等	本紙：縦24.3cm　横8.8cm　表装：縦143.5cm　横42.5cm　軸長47.3cm
作品概要	下地に胡粉を塗り、唐草文と二重菱の雲母摺りした唐紙に界線が引かれた料紙を用い、『三宝絵詞』の「忍辱波羅蜜」の一部を書写した断簡。『三宝絵詞』は、出家した冷泉天皇の皇女・尊子内親王のために、源為憲が撰述した仏教説話集。本来は絵を添えたものだが、詞書のみ残る。本品に書写されているのは、六波羅蜜の一つ「忍辱波羅蜜」の説話の一部。「東大寺切」は、重要文化財「三宝絵」（名古屋市博物館蔵）、いわゆる「関戸本三宝絵」から切り出されたもの。この「関戸本三宝絵」の奥書には、「保安元年六月七日書うつしおわんぬ」とあり、本品の書写年代を知ることができる。源俊頼を伝承筆者とするが、確証はない。軽快な運筆で、筆の転折にその技量が垣間見える。		

13　名称	雲紙本和漢朗詠集切「帝王」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原行成筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙：縦28.4cm　横14.0cm　表装：縦131.8cm　横33.5cm　軸長38.0cm
作品概要	本紙は天地に藍の打曇の料紙を用いる。『和漢朗詠集』巻下の「帝王」の末尾の断簡を書写した断簡。また、墨筆による声点と片仮名による訓点が加筆される。これは固有の切名を有しないが、打雲が入った料紙を用いることから、小松茂美は「雲紙本和漢朗詠集切」と称している。この「雲紙本和漢朗詠集切」に類するものは、いずれも巻下の断簡で、巻上は江戸時代初期には失われていたと考えられている。藤原行成を伝承筆者とするが、その書風から12世紀後半のものである写よりも後世に加えられたものとみられる。		

14　名称	古今和歌集断簡　筋切「おもふといふ」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	藤原定実筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙：縦22.2cm　横13.5cm　表装：縦137.5cm　横38.7cm　軸長43.5cm
作品概要	金銀の揉箔を撒いた料紙に、『古今和歌集』巻第19の和歌4首を書写した断簡。もとは粘葉装の上下2冊の冊子本。切名は、飛雲や羅紋を漉きこみ、金銀の揉箔を撒いた料紙に、銀泥の線が引かれているため「筋切」と称される。本来は両面書きで、その裏面は篩に似た、荒い布目の跡があるので、その断簡を「通切」と呼ぶ。本品では優美な料紙に流麗な書風が展開される。伝承筆者を藤原佐理とするが、佐理の筆跡とは異なる。書風から藤原定実筆と推定される。		

15　名称	古今和歌集断簡　通切「うくひすの」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	藤原定実筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙：縦22.1cm　横13.9cm　表装：縦139.0cm　横42.0cm　軸長47.4cm
作品概要	裏面に布目の跡が残る料紙に、『古今和歌集』巻第1の和歌2首を書写した断簡。もとは粘葉装の上下2冊の冊子本。装飾のある紙の表を使用した断簡を「筋切」、紙の裏面を使用した断簡を、篩に似た荒い布目の跡があることから「通切」と呼ぶ。本品には流麗で温和な書風が展開される。伝承筆者を藤原佐理とするが、佐理の筆跡とは異なる。書風から藤原定実筆と推定される。筋切が漢字の使用を控えているのに対し、通切は漢字の使用が見られる。見開きごとに、また和歌ごとに変化を見せようとした筆者の美意識が見いだせる。		

16　名称	古今和歌集断簡　本阿弥切「よのなかは」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝小野道風筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙：縦17.0cm　横15.1cm　表装：縦138.0cm　横41.3cm　軸長46.0cm
作品概要	布目打ちし、白の具引きした紙に唐草文様を雲母摺りした唐紙を本紙料紙に用いる。『古今和歌集』巻第18の「雑下」の和歌3首を書写した断簡。「本阿弥切」の名称は、本阿弥光悦が『古今和歌集』の一部を愛蔵していたと伝えていることにちなむ。もとは、天地約16センチメートルの20巻の巻子本であった。小野道風を伝承筆者とするが、院政期の12世紀頃の書写と考えられている。小型の巻子本であったため、文字も小さいが、変化に富んだ巧みな運筆である。リズミカルで弾力に富んだ筆致、洗練された連綿で揮毫される。		

17　名称	古今和歌集断簡　了佐切「わたのはら」	品　質	紙本墨書
作 者 等	藤原俊成筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙：縦22.4cm　横15.3cm　表装：縦139.5cm　横38.0cm　軸長42.3cm
作品概要	もと冊子本であった『古今和歌集』の断簡。『古今和歌集』巻第9の和歌3首を書写する。「了佐切」の名は、古筆家の祖である古筆了佐(1572-1662)が極札をしたためたと伝えられたことによる。藤原俊成(1114-1204)の独特な鋭く変化に富んだ筆跡がよくあらわれている。なお、箱内には本品とともに、実業家で古美術品蒐集家として著名な保阪潤治(1875-1963)宛の前島密(1835-1919)書翰が2通、前島密の所有品の鑑定書が1通、前島密宛の高田早苗（1860-1938、前島密長女の夫で早稲田大学総長などを歴任）書翰が1通保管される。本品が、前島密が所有していた俊成筆の古筆に該当するか不明だが、前島密が古筆に関心を寄せていたことを示す近代史料を付属品として有する点、非常に興味深い。		

18　名称	曽根好忠集断簡　曽丹集切「かせさむみ」	品　質	紙本墨書
作 者 等	伝西行筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙：縦22.9cm　横29.8cm　表装：縦112.5cm　横43.2cm　軸長47.5cm
作品概要	曽根好忠の歌集『曽根好忠集』（『好忠集』、『曽丹集』とも）の「毎月集」の「十二月中」の10首を書写した断簡。「毎月集」は、1日1首ずつ詠んだ計360首の和歌を旬・月・四季に分け、さらに春・夏・秋・冬の冒頭に長歌と反歌を1首ずつ配した、計368首から成るもの。本品は、もと2巻から成ると推定されている巻子本の断簡である。巻子本曽丹集切は、伝承筆者を西行とし、書風は緩急と肥痩の変化に富んでいる。本品は、もと巻子本の私家集として珍しい古写本であり、古筆鑑賞と国文学上の史料としても価値が高い。また書道史上にも重要な資料である。		

19　名称	貫之集断簡　村雲切「おもふこと」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝寂然筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙：縦16.8cm　横13.3cm　表装：縦129.0cm　横36.0cm　軸長40.0cm
作品概要	薄茶色の紙に銀の切箔をくまなく撒いた料紙に、『貫之集』の和歌3首を書写した断簡で、寂然を伝承筆者とするもの。村雲切の名称は、料紙に撒かれた銀の切箔の様子を群雲に見立てたことによる。藤原定家の加筆があることが知られ、本品の2首目の歌頭の「拾」字がそれである。「拾」字は『拾遺和歌集』の入集歌であることを示している。また、異本との校合を加えており、本品の3首目の見せ消ちのように訂正している箇所もある。書写年代は、定家の書き入れがあることから、定家の活躍期以前である。また、料紙の装飾技法から、12世紀半ばであると推測される。		

20　名称	二十巻本歌合断簡　柏木切「まつひとは」	品　質	紙本墨書
作 者 等	伝藤原忠家筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙：縦26.5cm　横12.1cm　表装：縦142.5cm　横35.5cm　軸長40.0cm
作品概要	源雅実が編纂を企画し、藤原忠通が加わって歌合の編纂事業が進行した「二十巻本歌合（『類聚歌合』）」の断簡。清書本は作成されずに草稿本が伝存した。その中から分割された断簡は、藤原忠家を伝承筆者とするものを「柏木切」、その子の俊忠を伝承筆者とするものを「二条切」と呼ぶ。この断簡は、延喜13年(913)3月13日、宇多法皇が自らの御所である亭子院で催した歌合を書写した断簡で、「夏廿首」と「恋廿首」の部分にあたる。ただし、本品に書写された和歌（「夏」の4首と「恋」の1首）は亭子院歌合の「夏」の撰外歌と「恋」の番外歌で、本品が示すように、左右の方に分けての歌合の形式となっていない。その書は小粒ながらリズミカルで筆力は強い。流麗な連綿で、筆者の能書ぶりがうかがえる。忠家筆と伝えるが、確証はない。本品は亭子院歌合の撰外歌と番外歌が書写されたものとして、非常に興味深い断簡である。		

21　名称	法華経断簡　戸隠切「舎利弗云々」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	藤原定信筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙：縦29.7cm　横14.7cm　表装：縦114.0cm　横39.0cm　軸長43.5cm
作品概要	薄墨色を帯びた本紙全面に1行8基の宝塔形を雲母で摺り出し、各宝塔の中に『法華経』の「方便品第二」の経文の一文字を書写した断簡。一部8巻に開結を添えた10巻が戸隠神社に伝来したと伝えられることから、「戸隠切」と呼ばれる。筆者の藤原定信は、一切経を一人で書写したといわれ、速筆かつ右肩上がりの独特な書風をなした。本品においても、宝塔形に一文字ずつ、安置するように筆を運ぶが、その運筆はスピード感あふれるダイナミックで躍動的なもので、勢いあまって宝塔からはみ出している文字もある。一文字一文字のバランスよりも、筆の流れや全体の調和を重視した書である。この右肩上がりの定信の書風「定信流」は、写経の一典型として流行した。		

22　名称	和漢朗詠集断簡　久松切「蝉」	品　質	彩箋墨書
作 者 等	伝藤原行成筆	員　数	1幅
時　代	平安時代・12世紀	寸 法 等	本紙：縦26.3cm　横23.7cm　表装：縦118.0cm　横57.0cm　軸長62.0cm
作品概要	藍と紫の飛雲を漉き込み、金銀の砂子を撒いた料紙に、『和漢朗詠集』巻上の「蝉」の漢詩と和歌を書写した断簡。もとは巻子本で、巻上は切断され、諸家に分蔵されたが、巻下は完本のまま、出光美術館に所蔵される。切名は、伊予松山藩主の久松松平家に伝来したことにちなむ。ゆっくりとした筆運びで温厚な雰囲気であり、世尊寺流の書風の特徴が見えるが、伝承筆者の藤原行成の筆とは異なる。料紙の特徴と書風から、12世紀初めの書写と考えられる。本文5行目「鳥下緑蕪秦苑寂蝉鳴黄葉漢宮秋〈許渾〉」は、原書写者が欠脱したため、のちに別の人物が淡墨で補記している。この補記の文字は原書写の文字に似せて記している。		

23　名称	千載和歌集断簡　日野切「いましはし」	品　質	紙本墨書
作 者 等	藤原俊成筆	員　数	1幅
時　代	平安時代-鎌倉時代・12世紀	寸 法 等	本紙：縦22.1cm　横15.0cm　表装：縦146.5cm　横39.3cm　軸長44.0cm
作品概要	藤原俊成(1114-1204)が素紙に自撰の『千載和歌集』巻第12の末尾3首を書写した冊子本の断簡。日野家に伝来したことから「日野切」の名を持つ。江戸時代初期には分断されていたとみられる。俊成の遺墨には「昭和切」や「了佐切」があるが、それらと比べて本品には、俊成の独特な鋭く変化に富んだ筆致がよくあらわれており、本品は俊成の老年期の代表的な遺墨であるといえる。		

24　名称	明月記断簡　建久五年十二月四日・五日・六日・七日条	品　質	紙本墨書
作 者 等	藤原定家筆	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代・建久5年（1194）	寸 法 等	本紙：縦29.0cm　横46.0cm　表装：縦109.5cm　横67.2cm　軸長62.5cm
作品概要	『明月記』の建久5年(1194)12月4日条から12月7日条までを記した断簡。12月4日条は、定家が大将殿（左近衛大将の九条良経）のもとに参上、殿下（九条兼実）と良経の「御堂御八講」行きに、藤原伊輔・源雅行・藤原高通・藤原家綱・藤原頼房が供奉する記事。5日条は、定家が九条殿に参上する記事。6日条は、定家が大炊殿に参上し、続いて頭中将に弓場始のこと、弓場始の装束の新調のことを申した後、女房に謁し、明年の叙位のことなどを申したと記す記事。7日条は、定家が良経のもとに参上した後、鳥羽殿に参上し、暗くなって帰宅したと記す記事。本品が収める12月4日条から7日条は、冷泉家時雨亭文庫に残る自筆本（国宝）の断簡で、自筆本に近いとされる徳大寺家本や、国書刊行会本には所収されていない。本品は自筆本を補う資料として貴重である。		

25　名称	公事次第書断簡「御着袴云々」	品　質	紙本墨書
作 者 等	伝藤原定家筆	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代・14世紀	寸 法 等	本紙：縦25.3cm　横28.4cm　表装：縦104.0cm　横38.1cm　軸長42.5cm
作品概要	「御着袴」以下、公事の項目を列記し、故実を漢文で割註したものの断簡。本品に列記された項目は『名目鈔』に合致する。『名目鈔』とは、洞院実熙(1409-59)がまとめた有職故実の書。本品記載の項目は『名目鈔』の「同臨時篇」の29項目と「私儀篇」の篇名の部分に該当するが、各項目の訓み方・呼び方が記されていない上に、列が整っておらず、崩れている。本品は15世紀以降の『名目鈔』の写本の一系統と考えられなくもないが、書風や料紙の風合いから見て、『名目鈔』成立以前にまとめられたもので、公事項目の整理以前のものと見るほうが蓋然性が高い。箱書きによれば、筆者を藤原定家としているが、本品は定家よりも時代が下がった頃のものと考えられる。本品の書風は藤原定家の手とは異なるが、独特な定家の書風に近付けようとしている。「定家様」と呼ばれる書風の時期に至るまでの段階にある作品といえる。		

26　名称	伏見天皇御集断簡　広沢切「うき世をは」	品　質	紙本墨書
作 者 等	伏見天皇筆	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代・14世紀	寸 法 等	本紙：縦30.4cm　横13.7cm　表装：縦148.5cm　横42.0cm　軸長46.5cm
作品概要	伏見天皇(1265-1317)の歌集の断簡。伏見天皇は好学かつ能書として知られる。切名の由来は不明だが、細井広沢に関係するものか。本品は巻子本が切断されたもので、巻子本で伝存するものは約20本ある。「広沢切」は、楮紙の素紙のほかに、具注暦や書状の紙背を転用しているものがある。不揃いの料紙を用いているのは、執筆が長期にわたったこと、また草稿本であることを示している。所々に本文を同筆で添削しているものも見られ、このことは草稿本であることの証左である。その書は、素紙に淡墨で速い筆致を示す。流麗で優雅な書風を展開させており、天皇の筆致が確認できるものとして貴重である。本品は書状の紙背を転用したもので、詳細は不明だが、官位に関する3行の文章が記される。		

27　名称	新古今和歌集断簡　北山切「たそかれの」	品　　質	紙本墨書
作 者 等		員　　数	1幅
時　　代	南北朝時代・14世紀	寸 法 等	本紙：縦23.1cm　横15.7cm　表装：縦145.5cm　横36.6cm　軸長41.7cm
作品概要	『新古今和歌集』巻第3の和歌2首と歌番号279の和歌の上の句を書写した断簡。「北山切」は、国宝「藻塩草」（京都国立博物館蔵）、国宝「見ぬ世の友」（出光美術館蔵）、国宝「翰墨城」（MOA美術館蔵）、いずれの古筆手鑑にも貼られている。関西大学図書館所蔵の「北山切本新古今和歌集」の識語には、「貞和六年二月十四日書写之」とあり、「北山切本」が貞和6年(1350)2月14日に書写されたことがわかる。貞和6年は足利尊氏の在世中であることをもって、江戸時代以来、「北山切」の筆者を尊氏と伝えるが、確証はない。歌頭には選者名を略記した記号がある。「ヤ」は藤原定家、「ß」は藤原家隆である。また、1行目右に「イかきね」とあり、選者の注記がある。本品の書風は、転折、細い線の運筆に気を遣った、端正でバランスのとれたものである。		

28　名称	書状	品　　質	紙本墨書
作 者 等	伝小野通女筆	員　　数	1幅
時　　代	安土桃山時代-江戸時代・16世紀-17世紀	寸 法 等	本紙：縦31.1cm　横46.3cm　表装：縦111.0cm　横60.2cm　軸長66.5cm
作品概要	豊臣家周辺に仕え、書画に秀でたことで知られる小野通女（お通）が記したと伝えられる書状。「かゝふせん」宛のもの。漢字と仮名で散らし書きされる。通女が描いたもの、あるいは着賛したものは現存するが、通女の書状は現在のところ見当たらない。通女の書は、繊細かつ鋭い筆致で、連綿が長く美しいことが特徴で、その書流は後世に「お通流」とされた。本品には差出人の名が記されていないため、通女の書である確証はないが、本品は細く鋭い筆致で、連綿の線が長く、上記の特徴を備えている。		

29　名称	書状	品　　質	紙本墨書
作 者 等	本阿弥光悦筆	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙：縦27.8cm　横44.2cm　表装：縦113.0cm　横57.4cm　軸長63.5cm
作品概要	6月3日付、宗貫老宛、本阿弥光悦の書状。宗貫老からの書状と塩漬けの雲雀を受領したことへの謝意を伝える。光悦の書風は、基本的には線の肥痩を巧みに用い、漢字と仮名が力強い調和を見せるのが特徴であるが、時期によって大きく二つの書き振りに分けられている。一つは慶長期のもので、筆を立てて、筆先が線の中心を通るような書き方である。もう一つは元和期以降のもので、筆を傾けて、線の片方に筆先が偏る書き方、つまり側筆が現れる筆遣いである。この書き方は寛永期により多く見られる。本品の書風は、かすれが目立ち、側筆を用いているが、行間や字間、字形はあまり乱れていないため、元和の頃の染筆であると推測される。		

30　名称	一行書「孤明歴々地」	品　　質	紙本墨書
作 者 等	慈雲筆	員　　数	1幅
時　　代	江戸時代・18世紀-19世紀	寸 法 等	本紙：縦113.8cm　横28.8cm　表装：縦195.0cm　横31.2cm　軸長36.0cm
作品概要	「孤明歴々地」の5字を1行で揮毫する。慈雲(1718-1804)は江戸時代後期の真言宗の僧。本品に揮毫する「孤明歴々地」は、『臨済録』の一節である。『臨済録』とは、中国の禅僧、臨済義玄(?-867)の言行録。慈雲の書は、肉太で荒々しい筆遣いが特徴であるが、暖かな情趣と品格を備えていることから、その高い人格をよく示すものとして尊ばれている。「孤明歴々地」と揮毫する書は数点現存しているが、本品も含めいずれも太い筆線で、墨の渇潤があらわになった力強い筆致を示す。		

＜彫刻＞（17件）

31　名称	天衣残欠	品　　質	木造（ヒノキ材）
作 者 等		員　　数	1本
時　　代	江戸時代・16世紀	寸 法 等	全長80.0cm
作品概要	本部材は観音菩薩立像（C6、重要文化財）の右手前膊より外側に垂下した天衣部材である。平成13年(2001)の文化庁購入時、右側垂下天衣は所在不明だったが、平成31年常盤山文庫倉庫内で存在が確認され、本作品の部材の一つとして寄贈を受けた。なお、像本体と著しく時代及び作行きが異なっており、江戸時代に蓮華座とほぼ同時期に補われたものと考えらえる。別保管中の天衣左材と同様、元の接合場所に復位させない方針である。		

32　名称	能面　翁	品　　質	木造彩色、ヒノキ材（板目）
作 者 等		員　　数	1面
時　　代	明治-大正時代か・19-20世紀	寸 法 等	縦18.7cm　横15.5cm　高7.7cm　重170.0g
作品概要	「式三番」において能役者が演じる「翁」に用いられる面で、狂言役者が演じる「三番叟」の黒色尉に対し、白色尉といわれる。この面は冠形が大きく単純化している点や皺の刻みに肉感がない点、また全体に古様な錆が感じられないことから、比較的近代の作と考えられる。		

33　名称	能面　小尉	品　　質	木造彩色、ヒノキ材（柾目）
作 者 等		員　　数	1面
時　　代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	縦20.6cm　横15.8cm　高8.4cm　重130.0g
作品概要	小尉は、観世形ともいわれる上品なタイプが主流であり、この面は、観世の面の温和でくせのない表情を写したものと考えられる。観世家の小尉の写しとして知られる愛媛・東雲神社所蔵の小尉（出目洞白〔満喬〕作　17-18世紀）や大倉集古館所蔵の小尉（出目甫閑〔満猶〕作　享保15年〔1730〕）に比べると、この面は頬骨の下の肉の削げ方が少なく、上唇の中央が尖っていない。上述の2面より時代がやや下がると考えられる。		

34　名称	能面　中将	品　　質	木造彩色、ヒノキ材（板目）
作 者 等	出目友閑満庸か	員　　数	1面
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	縦20.3cm　横13.5cm　高7.8cm　重139.0g
作品概要	中将は代表的な若い男の面として眉目秀麗な貴公子のほか、戦乱に散る平家の公達の役に用いられる。この面裏の焼印は、大野出目家二代出目友閑満庸(1578-1652)のものと一致し、鼻下の線刻は、大野出目家の是閑吉満(1527-1616)、友閑などの知らせ鉋の特徴を示すことから、本面は友閑作の可能性が高い。		

35 名称	能面　邯鄲男	品　質	木造彩色、ヒノキ材（柾目）
作者等		員　数	1面
時　代	江戸時代・18-19世紀	寸法等	縦19.7cm　横14.6cm　高8.5cm　重156.0g
作品概要	この面は永青文庫所蔵の邯鄲男（出目友閑・17世紀）や大倉集古館（出目甫閑〔満猶〕・享保7年〔1722〕）に比べると、やや細面で目の見開きが大きく、瞳孔も大きめである。人中の幅が広く、口の形が崩れているなど定型から離れている。面裏は細かく定期的な鑿痕が横に流れ、黒塗りされるが光沢はない。右目上に円形、左目上に縦長楕円形の枠の陰刻および花押らしき陰刻（印文は削った痕跡）がある。		

36 名称	能面　十六	品　質	木造彩色、ヒノキ材（板目）
作者等		員　数	1面
時　代	江戸時代・18世紀	寸法等	縦19.6cm　横13.5cm　高6.8cm　重93.0g
作品概要	十六は、わずか16歳で戦の露と消えた少年、平敦盛をかたどった面。『平家物語』に敦盛を「薄化粧して、かね黒なり」と記されるように十六の面も鉄漿をさしている。黒目がちな目や産毛のような眉など、少年の面影を色濃く伝える表情が通例であるが、この面の表情はやや硬く、永青文庫所蔵の友閑作とされる焼印と比べ、焼印の余白が大きいため、写しと考えられる。		

37 名称	能面　平太	品　質	木造彩色、ヒノキ材（柾目）
作者等		員　数	1面
時　代	江戸時代・18世紀	寸法等	縦20.4cm　横13.9cm　高7.2cm　重133.0g
作品概要	平太は修羅物のなかで『八島』の源義経、『田村』の坂上田村麻呂などの武将の亡霊に使われる。眼窩から頬骨のくぼみが深く、眉下に沿って鏑立っている。顔の右半分が細く、左半分は木屎漆で補修されている。面裏の鑿痕は横に流れ、黒塗りされるが光沢はない。額の左寄りに「天下一友閑」の焼印が見られるが、痩せた様子を表わす頬下のくぼみなどの彫りがやや不自然である。		

38 名称	能面　童子	品　質	木造彩色、ヒノキ材
作者等	出目庸久友水	員　数	1面
時　代	江戸時代・18世紀	寸法等	縦20.2cm　横13.8cm　高7.0cm　重98.0g
作品概要	能面における少年をあらわす面として、童子と慈童があり、どちらも本来は中国の神仙譚である『枕慈童』に用いられるように、普通の少年ではなく、永遠の生命を象徴する神性を帯びた面として用いられる。この面は、永青文庫所蔵の童子面（出目洞水作及び出目友閑作）に比べると、やや細身の瓜実型でおっとりとした趣がある。その作行から、大野出目家六代出目庸久友水(1714-66)の作と見てよいだろう。		

39 名称	能面　猿飛出	品　質	木造彩色、ヒノキ材（板目）
作者等		員　数	1面
時　代	江戸時代・18世紀	寸法等	縦21.0cm　横16.0cm　高10.2cm　重195.0g
作品概要	猿飛出は、鬼神面である小飛出の一種。猿に似ているので、この名がある。この面は、京都・北村美術館所蔵の猿飛出（出目洞白作・17世紀）の写しと考えられる。洞白作の面と比べると、本面は瞳孔が大きく、口の開き具合、目の力強さなどが弱まり、口と頬の間の段差が強くやや違和感を覚えるが、その作行は肉取豊かでメリハリのある佳作である。		

40 名称	能面　黒髭	品　質	木造彩色、ヒノキ材
作者等		員　数	1面
時　代	江戸時代・17世紀	寸法等	縦20.5cm　横14.9cm　高9.3cm　重198.0g
作品概要	黒髭は龍神をかたどった面。水中に住み、雨水をつかさどると考えられている龍は、中世の信仰の中で重要な位置を占めた。「竹生島」や「春日龍神」「白鬚」などに用いられる。下顎のしゃくれ具合や歯列の造形、髪の毛の表現など、大倉集古館所蔵の泥黒髭（出目洞水〔満昆〕・17-18世紀)や、佐野美術館所蔵の泥黒髭（出目友水〔庸久〕・18世紀）より自然な趣があり、制作時期はやや上がると考えられる。		

41 名称	能面　小面	品　質	木造彩色、ヒノキ材（板目）
作者等	出目満喬洞白か	員　数	1面
時　代	江戸時代・17世紀	寸法等	縦21.3cm　横13.6cm　高7.0cm　重112.0g
作品概要	面裏の特徴から、豊臣秀吉が手にいれた室町時代の龍右衛門作のひとつ、「雪の小面」を写したものと考えられる。焼印の「出目淡路」は、大野出目家三代出目満喬洞白(1633-1715)の焼印である。1682年天下一号は使用禁止となったので、それ以降の作か。天和3年(1683)頃出家して洞白と名乗るので「出目洞白」印に移行したと考えられている。面裏に認められる放射状の知らせ鉋は、洞白が尊敬していた河内のものとして知られる。		

42 名称	能面　小面	品　質	木造彩色、ヒノキ材か
作者等		員　数	1面
時　代	江戸時代・17-18世紀	寸法等	縦21.3cm　横13.6cm　高7.3cm　重154.0g
作品概要	女面のうちで最も若い面が小面である。「小」は愛らしさ美しさの接頭語といわれる。この面の彩色は新しいが、面裏の細かな鑿痕を浅く残して削り、茶色の漆を塗るといった特徴から、豊臣秀吉が手にいれた室町時代の龍右衛門作のひとつ、「雪の小面」を写したものと考えられる。		

43 名称	能面　孫次郎	品　質	木造彩色、ヒノキ材（柾目）
作者等		員　数	1面
時　代	江戸時代・18-19世紀	寸法等	縦20.7cm　横13.5cm　高6.5cm　重98.0g
作品概要	孫次郎は、やや大人びた女面。「孫次郎」と名乗った室町時代の能役者が、夭折した妻の面影をうつしたのがこの女面のはじまりという説がある。この面は、出目元休作の孫次郎（17-18世紀、愛知・豊橋魚町所蔵）に雰囲気が近く、塗は新しいようだが、出来栄えのよい写しである。		

44 名称	能面　万媚	品　質	木造彩色、ヒノキ材（柾目）
作 者 等		員　数	1面
時　代	江戸時代・17-18世紀	寸 法 等	縦21.5cm　横13.9cm　高7.0cm　重153.0g
作品概要	面裏に刻銘「萬媚　化生」、また釣鐘形の印形がある作例としては、東京国立博物館所蔵(16～17世紀)、根津美術館所蔵の2面（享保14年銘・出目休兵衛元休、出目元休満茂）、スイス・リートベルク美術館所蔵などが知られる。これらの面の特徴は、表のおくれ毛が三条で、そのうち一番前と中の毛が耳前で前後入れ替わり、前に出た一筋が細くなることなどが特徴としてあげられるが、この面はその通例から外れる。花押は下間少進の花押の粗放な写し、縦に割れ痕を写した線を刻む点から、上述の東京国立博物館所蔵面とリートベルク美術館所蔵面と同系統の写しであることがわかる。		

45 名称	能面　深井	品　質	木造彩色、ヒノキ材（柾目）
作 者 等		員　数	1面
時　代	江戸時代・18-19世紀	寸 法 等	縦21.1cm　横13.6cm　高7.8cm　重169.0g
作品概要	面裏の「天下一友閑」焼印は乱れており、永青文庫所蔵の友閑満庸(?-1652)真作と認められる面（姥、小喝食、大飛出、邯鄲男）の出来栄え、面裏の鑿痕、知らせ鉋、焼印などとの比較から、この面は友閑作とは判じ難い。一方、この面の二重瞼に見られる波打つ特徴を示す深井面としては、観世大夫家に伝来した古面の写し（17世紀、東京国立博物館所蔵 C-59）、愛媛・東雲神社所蔵の面がある。いずれも近江井関家、河内大掾家重(?-1657)の作として知られるもので、この面は河内と同系統の写しと考えられる。		

46 名称	能面　深曲	品　質	木造彩色、ヒノキ材（柾目）
作 者 等		員　数	1面
時　代	江戸時代・18-19世紀	寸 法 等	縦20.9cm　横13.8cm　高7.5cm　重132.0g
作品概要	中年の女面。深曲見ともいう。曲見のひとつで特に金春流では若曲見と深曲見にわけられるが、むしろ、その面相は深井に近い。具体的には、観世大夫家に伝来した古面の写しとして知られる深井（河内印、17世紀、東京国立博物館所蔵 C-59）に近く、特に面裏については、黒漆塗に頬の部分を一部茶色に塗分けている点などが共通している。		

47 名称	能面　泥眼	品　質	
作 者 等		員　数	1面
時　代	江戸時代・18-19世紀	寸 法 等	縦21.0cm　横13.8cm　高6.8cm　重134.0g
作品概要	中年の女面。髪の乱れたおくれ毛と、白目と歯先に金泥を塗っているところから、この面が鬼神の性格をもった面であることがわかる。「海士」の龍女や「当麻(ﾀｴﾏ)」の菩薩、「葵上」の生霊や「鉄輪(ｶﾅﾜ)」の復讐に燃える女などに使われる。 　この面は、金春家伝来の河内印の泥眼（東京国立博物館所蔵・17世紀）や出目洞水作の泥眼（大倉集古館所蔵・17-18世紀）に系統が近いが、額のボリュームが大きく、前歯が目立ち、下唇が厚くめくれるなどの特徴は通例から外れる。		

＜金工＞（1件）

48 名称	阮朝貨幣	品　質	銅鋳造
作 者 等	ベトナム	員　数	6枚
時　代	ベトナム　阮時代・19世紀	寸 法 等	（嘉隆通宝）径2.6cm　孔0.6×0.6cm　重3.0ｇ、（明命通宝）(1)径2.1cm　孔0.5×0.5cm　重1.0ｇ　(2)径2.4cm　孔0.6×0.6cm　重4.0ｇ　(3)径2.5cm　孔0.6×0.6cm　重4.0ｇ、（成泰通宝）径2.4cm　孔0.6×0.6cm　重4.0ｇ、（嗣徳通宝）径2.4cm　孔0.5×0.5cm　重2.0ｇ
作品概要	ベトナム・阮朝時代に制作流通した円形方孔の貨幣。嘉隆通寶1枚、明命通寶3枚、嗣徳通寶1枚、成泰通寶1枚の4種6枚からなる。このうち嗣徳通寶と成泰通寶は、裏面に「十文」を鋳出す。なお、明命通寶3枚のうち1枚は法量や厚みが他2枚と著しく異なっており、模鋳銭と思われる。東アジア地域最後の王朝である阮朝の歴代皇帝が発行した鋳造貨幣で、本品は、ベトナム統一を果たした初代嘉隆帝(在位：1802-20)、中央集権化を推進した2代明命帝(在位：1820-41)、フランスと対立した4代嗣徳帝(在：1847-83)、西洋文化の導入をはかるも最後はフランスによって退位させられた10代成泰帝(在位：1889-1907)が、それぞれの統治期に発行した制銭である。		

＜刀剣＞（9件）

49 名称	刀　朱銘長義	品　質	鉄鍛造
作 者 等	長義	員　数	1口
時　代	南北朝時代・14世紀	寸 法 等	全長87.4cm　刃長66.8cm　反1.5cm
作品概要	鎬造、大鋒、庵棟。鍛は大板目、沸出来、刃文は湾れ、互の目交じりで、帽子は尖り気味に返る。刀身の表裏には棒樋を掻き流す。大磨上の茎は角棟、尻はわずかに刃上がりで、鑢目は切。指表に朱漆で「長義」の二字銘を記す。目釘孔は3つ。本品は旧鞘の墨書にあるごとく作者については長義との鑑がなされている。南北朝時代、備前刀は相州伝の影響を受けるかたちで、板目に地沸厚く湾れの大乱となった刃文が生み出された。相伝備前と称されるこの作風は、刀剣需要の増大とも相まって備前刀に新風を吹きこむこととなった。この相伝備前の名工の一人が長義である。身幅広く、重ね薄く、反り浅い体配で、切先が伸びて帽子が乱れこんで突き上げ、返りの深いその姿は、長義系統の作とみて差し支えない。		

50 名称	短刀　銘吉光	品　質	鉄鍛造
作 者 等	吉光	員　数	1口
時　代	室町時代前期・14-15世紀	寸 法 等	全長24.9cm　刃長16.9cm　反（なし）
作品概要	平造、庵棟。身幅狭く重ね極めて厚い。表に素剣、裏に護摩箸を腰樋に彫り、ともに鏑上で剣先状に尖って留める。鍛は板目に柾がかり、肌は沸出来。刃文は細直刃。茎は丸棟、刃上がりの栗尻で、鑢目は不明。目釘孔は1つ開ける。指表孔下に刀工銘を刻む。吉光は、大和国の手掻派の流れを汲み、文献資料においても確認出来る土佐国最古の刀工である。長尺の作例は殆ど見られず、現存作例の大半が二字銘を伴う短刀である。なお、短刀の名手で同様に二字銘を切る山城国の粟田口吉光（藤四郎吉光）とも混同されることがあるが、土佐吉光は、本品のように細身ながら極めて重ねが厚く、頑丈に造り込んだ「鎧通し」とも称される姿に特徴がある。		

51 名称	短刀　銘関住人兼吉／明治三拾六年十月日	品　質	鉄鍛造
作 者 等	兼吉	員　数	1口
時　代	明治時代・明治36年(1903)	寸 法 等	全長40.5cm　刃長28.2cm　反（なし）
作品概要	片切刃造、庵棟、指表は打ち寄せる波のような濤乱刃を焼き、棟寄りに「明治三十六年／宮中御歌會始／新年海制歌　のとかにも年たつ浦のはつあひきおものの鯛やまつかかるらむ　孝之助」、一方指裏には鋒より「三十六歌仙」の字句を刻み、続いて全36首を上段11首、中段13首、下段12首の計3段に渡って刻し、さらにその下に上辺右を入隅形にした枠を設け、枠内に各歌人の名前と肖像をあらわす。区間に彫金師銘「彫工河田秋幸」を、茎の指表に刀工銘「関住人兼吉」、指裏に紀年銘「明治三拾六年十月日」をそれぞれ刻む。指表の一首は明治36年(1903)1月19日に宮中で催された歌会始で詠まれた撰歌であることから、本品は歌会始の詠進者自身が記念して地元の著名な刀工に制作を依頼したものと考えられる。		

52　名称	刀　銘肥前守藤原鎮忠	品　　質	鉄鍛造
作 者 等	藤原鎮忠	員　　数	1口
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	全長88.8cm　刃長70.0cm　反1.3cm
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒やや伸びる。重やや薄い。表裏ともに両チリ腰樋を掻き流す。地鉄は区上やや柾がかりつつ板目約む。刃文は丁子、互の目を交え、長足、葉よく入り、帽子は掃掛け乱れ込む。茎は生で、角棟、先入山形、鑢目は切、目釘孔1つ開く。指表に銘「肥前守藤原鎮忠」と刻す。鎮忠は豊後の高田派の流れを汲む刀工で、肥前に移住したのち、備前一文字派に代表される古刀の丁子刃に範を求めた石堂派に学び、兄の鎮政とともに伊賀名張の藤堂家に呼ばれて作刀を行ったことで知られる。一時絶えていた華やかな一文字派の丁子刃の特徴をよくとらえた鎮忠の代表作と言うべきものであり、江戸時代における刀工の移住と作風展開を知る上で貴重な作品である。		

53　名称	刀　銘藤原統行	品　　質	鉄鍛造
作 者 等	藤原統行	員　　数	1口
時　　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	全長91.9cm　刃長70.1cm　反1.6cm
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒。やや反り浅い。地鉄は板目よく約み、刃文は逆巻くような丁子乱で焼き幅極めて広く諸所に鎬地を越えて皆焼となり棟焼入る。茎は生で、角棟、先刃上がり栗、鑢目は筋違、目釘孔1つ開く。指表に銘「藤原統行」を刻す。統行は、高田派と総称される一群に属する豊後国の刀工である。なお、統行には天正頃の初代、慶長から寛永頃の二代がいるが、本品については体配並びに四字銘である点などから、二代作と考えられる。一般に豊後刀は他国物の特徴をよく取り入れていると言われるが、本品の場合も、備前一文字風を思わせる変化に富んだ乱刃を焼いており、その作風が多様であったことを具体的に示す作例である。また、磨上げを受けておらず健全な生茎である点も貴重である。		

54　名称	刀　銘奥和泉守忠重作	品　　質	鉄鍛造
作 者 等	奥忠重	員　　数	1口
時　　代	江戸時代・17-18世紀	寸 法 等	全長100.9cm　刃長78.3cm　反1.4cm
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒、身幅やや広く重は非常に厚い。表裏ともに両チリ丸留の腰樋を彫る。鍛は小板目で刃文は湾れに互の目がまじり、沸よく付く。帽子はやや不鮮明ながら掃掛け焼詰か。茎は生で、角棟、先入山形、鑢目は大筋違。目釘孔2つ開ける。銘は太刀銘で「奥和泉守忠重作」と刻す。忠重（主右衛門、?-1720）は、江戸時代中期に作刀を行った薩摩を代表する刀工。奥忠清の三男で、大坂に出て津田越前守助広（二代）に師事したと伝わる。身幅広く重ねの厚い豪刀が多く、その切れ味は高く評価されていた。元禄2年(1689)に和泉掾、その後和泉守を名乗った。様々な銘のなかで「奥和泉守忠重作」が最も多く、その作行を含めて本品は忠重の典型作と言いうる。		

55　名称	刀　銘肥前國住藤原行満	品　　質	鉄鍛造
	藤原行満	員　　数	1口
時　　代	江戸時代・17-18世紀	寸 法 等	全長89.7cm　刃長69.6cm　反2.3cm
作品概要	鎬造、庵棟、中鋒やや伸びる。地鉄は約み、小沸出来、匂口しまる。刃文は焼き幅広く、丁子乱にところどころ逆足掛かり、打ちのけ、飛焼交じる。帽子は表裏ともに尖りごころに返る。茎は生で、角棟、先入山形、鑢目は鷹の羽。目釘孔1つ開く。銘は太刀銘で「肥前住藤原行満」と刻す。行満（忠大夫、?-1733）は、備前伝の丁子乱を得意とした二代行広門下とされる。いわゆる脇肥前と呼ばれる分家や脇筋の刀工達はともすれば一段低く評価されることがある。その一方で、彼らのなかには精美な直刃よりもむしろ一文字風の乱刃を得意とした者が多く、特に行広はその上手であった。行満も師の作風を十分に受け継いだとみられる。現存作品が極めて少ない行満の作風を知る上で貴重な作品である。		

56　名称	脇差　銘薩州住直行	品　　質	鉄鍛造
作 者 等	直行	員　　数	1口
時　　代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	全長43.2cm　刃長32.2cm　反（なし）
作品概要	鋒近くで鎬が厚くなる鵜の首造の小脇差で、重極めて厚い。地鉄は板目で大きく沸つき、地にこぼれる。刃文は直に焼き出し、湾れて刃中に砂流しかかり、表裏とも物打ち下あたりで喰違刃を交える。帽子は掃掛け沸つく。茎は生のたなご腹で、角棟、先入山形。目釘孔1つ開く。指表の棟寄りに銘「薩州住平直行」を刻す。がっしりとした造り込み具合や、沸が荒く刃縁に沸が盛んにこぼれるさま、銘に「薩州住」とあることから、江戸時代後期以降における薩摩有縁の刀工とみて差し支えない。また、脇差には珍しい造りである鵜の首であるのに加え、あたかも村正系統にあるようなたなご腹の茎は同国にあって殆ど類例がなく、非常に特異な作である。これまで存在が殆ど知られていなかった薩摩刀工の作品である。		

57　名称	槍　銘薩州住元平	品　　質	鉄鍛造
作 者 等	元平	員　　数	1口
時　　代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	全長41.3cm　穂長11.2cm
作品概要	穂に枝のない直槍。正三角造で、丸首をなし、各面の平に丸留の棒樋を彫る。鍛は小板目よく約み、地沸つく。刃文は直刃で浅く湾れ、帽子は直に先小丸に返る。茎は穂に比して長く、鑢目は表を切、裏をせんすきに仕上げる。先は浅い栗尻。目釘孔1つ開く。表に銘「薩州住元平」を刻す。元平（孝左衛門、1744-1826）は、江戸時代後期の薩摩を代表する刀工のひとり。天明5年(1785)に薩摩藩から「薩藩臣奥元平」と銘切することを認められ、更に寛政元年(1789)12月には伯耆守正幸と同時に大和守を受領した。以後はこの受領銘を刻したことから、本品の制作は受領以前の作と推定される。なお、子に同名（元平）がある。打刀に比して槍は現存作例が少ないこともあり、江戸時代における薩摩刀工の槍の作風を知るうえで貴重な作品である。		

＜陶磁＞（1件）

58　名称	加彩武人俑	品　　質	加彩土製
作 者 等	中国出土	員　　数	1軀
時　　代	中国・唐時代・8世紀	寸 法 等	幅24.5cm　奥行13.0cm　高75.5cm
作品概要	鎧兜で身を固めた武人が、岩座の上で仰向けに転がる牛頭の邪鬼を踏みつける。口を真一文字に引き結ぶ風貌は胡人のように彫りが深い。兜は頂部に鳳凰の飾りをもち、顔の両側にある飾りには赤・黒・緑などで唐草文が描かれる。鎧は腹部に宝相華を中心とする文様が彩色され、肩部には龍頭が飾られる。中国では西晋時代から唐時代にかけて、有力者の中・大型墓に甲冑を身に着けた加彩陶の武人俑を副葬することが流行した。墓中に侵入する悪霊を追い払い、墓主の安寧な眠りを保つために作られたものと考えられる。本作はやや誇張された憤怒の形相、寸胴ながら力感みなぎる姿態、さらに、派手な飾りの甲冑など、盛唐末期の8世紀中頃に流行した加彩武人俑の特徴をよく備える。		

＜染織＞（1件）

59　名称	白地小花文様更紗間着	品　　質	木綿平織、媒染模様染め（木版）
作 者 等		員　　数	1領
時　　代	布地：ヨーロッパ・19世紀　仕立：日本・19世紀	寸 法 等	丈144.5cm　裄65.0cm
作品概要	木版更紗を用いた男性用間着。間着は防寒のほか、小袖や着物の下に着用し重ね着の美しさを演出するために用いられた。本品は西洋でインド更紗を模して作られたと考えらえる木版更紗を表地に使用したもので3種類の更紗が使用されている。西洋更紗は19世紀以降、インド更紗に代わってアジア各地で大いに受容されており、本品に使用されているものと同じ更紗は、九州国立博物館所蔵「端物切本帳」文政6年（I230-6）、文政11年（I230-9)にも確認でき、日本に舶載された時期がわかる。本品は、西洋からもたらされた新たな染織品が日本においてどのように受容されていったか、具体的に示すことが可能となる好例である。		

＜考古＞（25件）

60　名称	ビーズ	品　　質	ガラス鋳造他
作 者 等	中国、地中海地域、西アジア、インドネシア、アフリカほか	員　　数	126件
時　　代	紀元前4世紀～20世紀	寸 法 等	
作品概要	ガラス玉を主体とするビーズのコレクションで、その内訳は古代中国の重層貼眼玉、ローマのモザイク貼付玉、ビザンティン帝国のモザイク芯玉、ササン朝の折込モザイク玉、イスラムの折込モザイク玉、ヴェネツィアやオランダで作られたアフリカ交易用の玉、アフリカの再生玉、いわゆるアイヌ玉など、古今東西の代表的なガラス玉が網羅されている。ガラス玉は装身具・護符などとして普遍的に愛好されてきたが、その大半は生産地から遠隔地に運ばれ、金・銀・貴石・絹織物・香辛料など特産の物品や奴隷と交換する交易品でもあった。本コレクションはガラス玉の多様な色、形態、製作技法を示すだけでなく、ガラス玉を通しての人類の交流史・交易史や美に対する価値観の変遷とその多様性も照らし出すことが可能である。		

61　名称	須恵器平瓶	品　　質	須恵器
作 者 等	伝福岡県筑紫郡	員　　数	1口
時　　代	古墳時代・6-7世紀	寸 法 等	器高9.0cm　口径5.2cm　最大径10.5cm
作品概要	古墳時代後期の須恵器平瓶。色調は暗青灰色で、硬質に焼き上がっている。口縁部の一部に欠けがあるが完形品である。「風船技法」と呼ばれる瓶類の典型的な製作技法が用いられており、胴部を成形した後、成形時の開放部を円形粘土で塞いだ痕跡が残る。開放部を塞いだ後、新たに注ぎ口を付与するために、胴部斜め方向に孔をあけ、頸部を取り付ける。本品の場合、円形粘土と新たに付与した頸部が部分的に重複関係にある。底部から胴部下半にかけてカキ目、胴部中央は回転ヘラ削りで整えられる。胴部上半は注ぎ口取り付け位置を中心としたカキ目が施される。このカキ目は施文による器面調整とともに、新たに設置する注ぎ口取り付け場所の目印にもなっている。胴部中央には「＼」印のヘラ記号がある。		

62　名称	石器	品　　質	石製（主に頁岩）
作 者 等	伝岩手県花巻市東和町土沢出土	員　　数	200個
時　　代	縄文時代・10,000年前-2,300年前出土	寸 法 等	長2.9cm　幅1.7cm　厚0.3cmほか
作品概要	頁岩製の石鏃を中心とする剥片石器のコレクション。剥片石器の石材は、一般的に黒曜石等のガラス質のものが選択され、遺跡周辺の在地産石材だけでなく遠隔地産石材が用いられることもある。その組成は遺跡周辺の地質状況、交易圏、文化圏を知る手がかりとなる。東北地方では、地域内の奥羽山脈で産出する頁岩を用いて石器製作が行われることが多く、本品は当該地域の典型的な石材組成を示している。		

63　名称	石斧	品　　質	石製（緑色岩）
作 者 等	青森県東半出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・10,000年前-2,300年前	寸 法 等	長22.8cm　幅6.5cm　厚3.0cm
作品概要	側面に大きな板石を擦切って分割作製した痕跡を残すことから、擦切石斧と呼ばれる。擦切石斧は、新石器時代の極東ロシアや縄文時代から続縄文時代の主に北海道から東北北部に分布し、縄文時代後期の九州にもみられることから、大陸との広域交流の可能性を示す石器と考えられている。石材は、北海道産の緑色岩と推定される。		

64　名称	石斧	品　　質	石製（緑色岩）
作 者 等	青森県東半出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・6,000年前-3,000年前	寸 法 等	長25.2cm　幅6.8cm　厚3.8cm
作品概要	側面に大きな板石を擦切って分割作製した痕跡を残すことから、擦切石斧と呼ばれる。擦切石斧は、新石器時代の極東ロシアや縄文時代から続縄文時代の主に北海道から東北北部に分布し、縄文時代後期の九州にもみられることから、大陸との広域交流の可能性を示す石器と考えられている。石材は、北海道産の緑色岩と推定される。		

65　名称	三角柱状石製品	品　　質	石製（緑色凝灰岩）
作 者 等	青森県むつ市関根南関根出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・5,000-4,000年前	寸 法 等	縦5.6cm　横8.1cm　高5.4cm
作品概要	縄文時代中期から後期の東日本で出土する三角柱状の祭祀具。無文で、被熱により黒化した部分がある。縄文時代後半期には、石冠、土冠、三角柱状土製品、三角柱状石製品、烏帽子形石器等と呼ばれる石製や土製の三角柱状の祭祀具が発達した。		

66　名称	大珠	品　　質	石製（翡翠）
作 者 等	青森県むつ市関根出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・5,000-4,000年前	寸 法 等	縦4.2cm　横2.9cm　厚2.0cm
作品概要	縄文時代中期、後期に発達する、大珠と呼ばれる大型で細長い形態の緑色石材製垂飾。特に本品は、中期の東日本を中心に出土する翡翠製のもので、やや小ぶりのものである。被熱により部分的に黒く変色した部分がみられ、大珠製作時における火の使用や、大珠に関わる火を用いた儀礼などを示す可能性がある。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。		

67 名称	大珠	品　質	石製（翡翠）
作 者 等	青森県三戸郡五戸町切谷内タキヤ出土	員　数	1個
時　代	縄文時代・5,000-4,000年前	寸 法 等	縦4.4cm　横3.1cm　厚1.8cm
作品概要	縄文時代中期、後期に発達する、大珠と呼ばれる大型で細長い形態を基本とする緑色石材製垂飾。破片であるが、復元形状は球形で、緒締型に分類される。翡翠製で緒締型のものは、中期の東北北部から北海道南西部にかけて出土する。消費地において破片で出土する大珠は、大珠の破壊や分割に関わる儀礼によるものと言われることがある。翡翠は新潟県糸魚川産と推定される。		

68 名称	土偶	品　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡出土	員　数	1軀
時　代	縄文時代・5,000-4,000年前	寸 法 等	高4.4cm　幅3.2cm　厚1.0cm
作品概要	縄文時代中期の東北北部から北海道南西部で出土する土偶。十字形土偶と呼ばれ、板状で脚部を省略した形態を持つ。この時期の土偶は、前半期の頭部や四肢を省略するものから、後半期の頭部や四肢を明瞭に表現するものへの過渡的様相を示し、頭部や四肢の一部が省略されたものが多い。		

69 名称	浅鉢形土器	品　質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員　数	1口
時　代	縄文時代・4,000-3,000年前	寸 法 等	最大径30.0cm　高15.2cm
作品概要	縄文時代後期の東北北部から北海道南西部で出土する土器。沈線によるS字状の入組文様と、土器焼成前に文様部に施された赤彩が大変美しい。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、台付浅鉢、注口土器、壺などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。その背景には、社会や生活様式の大きな変化があったと考えられている。		

70 名称	烏帽子形石器	品　質	石製（安山岩）
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員　数	1個
時　代	縄文時代・4,000-3,000年前	寸 法 等	縦5.6cm　横10.6cm　高7.0cm
作品概要	縄文時代中期から後期の東日本で出土する烏帽子形の祭祀具。無文で、頭部は丁寧に研磨されている、縄文時代後半期には、石冠、土冠、三角柱状土製品、三角柱状石製品、烏帽子形石器等と呼ばれる石製や土製の三角柱状の祭祀具が発達した。		

71 名称	円形岩版	品　質	石製（安山岩）
作 者 等	青森県東半出土	員　数	1個
時　代	縄文時代・4,000-3,000年前	寸 法 等	縦4.1cm　横3.2cm　厚2.7cm
作品概要	円形岩版は、縄文時代後期の東北で出土する祭祀具。一般的な円形岩版は扁平であるが、本品は球形である。全面に縦横方向の線刻が廻る。		

72 名称	円形岩版	品　質	石製（白色凝灰岩）
作 者 等	青森県東半出土	員　数	1個
時　代	縄文時代・4,000-3,000年前	寸 法 等	縦4.2cm　横4.0cm　厚3.3cm
作品概要	円形岩版は、縄文時代後期の東北で流行する石製祭祀具。一般的な円形岩版は扁平であるが、本品は球形である。周縁に複数本の線刻が廻り、表裏面には鋸歯文が刻まれる。		

73 名称	三角柱状土製品	品　質	土製
作 者 等	青森県むつ市田名部品ノ木出土	員　数	1個
時　代	縄文時代・4,000-3,000年前	寸 法 等	縦6.3cm　横8.4cm　高9.0cm
作品概要	縄文時代中期から後期の東日本で出土する三角柱状の祭祀具。2本沈線による縁取りと三本沈線による弧線文様が施されている。縄文時代後半期には、石冠、土冠、三角柱状土製品、三角柱状石製品、烏帽子形石器等と呼ばれる石製や土製の三角柱状の祭祀具が発達した。		

74 名称	スタンプ形土製品	品　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡南部町鳥谷字青鹿長根出土	員　数	1個
時　代	縄文時代・4,000-3,000年前	寸 法 等	縦4.8cm　横2.0cm　高3.7cm
作品概要	縄文時代後期の東北で出土するスタンプ形をした土製品。その形態から、縄文クッキーと呼ばれるパン状に固めた保存食に印を付けるためのものと言われることがある。		

75 名称	壺形土器	品　質	土製
作 者 等	青森県三戸郡五戸町蛯川出土	員　数	1口
時　代	縄文時代・4,000-3,000年前	寸 法 等	最大径8.9cm　高13.6cm
作品概要	縄文時代後期の東北北部から北海道南西部で出土する土器。徳利形で、口縁部に２単位の波状口縁と胴部に沈線による入組文を持つ。縄文時代後期は、中期以来の深鉢に加え、鉢、浅鉢、台付浅鉢、注口土器、壺などの多彩な器種で構成された土器群が、初めて列島全域に展開する時期である。その背景には、社会や生活様式の大きな変化があったと考えられている。		

76 名称	翡翠原石	品　質	石製（翡翠）
作 者 等	青森県むつ市関根川代出土	員　数	1個
時　代	縄文時代・4,000-2,300年前	寸 法 等	縦4.3cm　横3.3cm　厚1.8cm
作品概要	縄文時代後期から晩期の垂飾品の原料となった翡翠原石。海岸出土とされており、表面には黄褐色の酸化鉄が沈着している。当該期の日本列島では、緑色石材製の丸玉を連ねた垂飾が流行し、各地で丸玉が生産された。本品は原石産地から遠く離れた地域での翡翠製丸玉の生産を物語るものである。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。		

77　名称	勾玉	品　　質	石製（翡翠）
作 者 等	青森県三戸郡五戸町出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・4,000-2,300年前	寸 法 等	縦2.1cm　横1.4cm　厚0.8cm
作品概要	縄文時代後期から晩期の翡翠製勾玉。D字形で、自然石に大きく手を加えることなく穿孔だけで製作されている。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。		

78　名称	勾玉	品　　質	石製（翡翠？）
作 者 等	青森県三戸郡五戸町出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・4,000-2,300年前	寸 法 等	縦1.6cm　横1.1cm　厚0.5cm
作品概要	縄文時代後期から晩期の翡翠製勾玉の未完成品。D字形で、自然石に大きく手を加えることなく穿孔を行っている。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。		

79　名称	イモガイ形石製品	品　　質	石製（滑石）
作 者 等	青森県三戸郡南部町鳥谷字青鹿長根出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・3,000-2,300年前	寸 法 等	直径4.1cm　厚1.6cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部で出土する亀ヶ岡文化に特徴的な装飾品で、同形のイモガイ製装飾がモデルとなったと考えられている。イモガイは、南島のみに生息することから、その入手は九州を経由した可能性が指摘されている。亀ヶ岡文化の後半期は、九州では弥生時代が始まっている。亀ヶ岡文化は九州にも伝わり、亀ヶ岡式土器が搬入されたり、弥生土器の製作技術に大きな影響を与えており、東西交流は活発化していた。		

80　名称	岩版	品　　質	石製（白色凝灰岩）
作 者 等	青森県三戸郡南部町鳥谷青鹿長根出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・3,000-2,300年前	寸 法 等	縦11.0cm　横7.2cm　厚1.9cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部で出土する亀ヶ岡文化の石製祭祀具。細い線刻により周縁から軽快なタッチで重弧文が刻まれている。亀ヶ岡文化では、工芸技術や祭祀が発達し、小形で精巧な造りの土器、土製や石製の呪術具が多数生産された。		

81　名称	石冠	品　　質	石製（安山岩）
作 者 等	（東日本出土）	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・3,000-2,300年前	寸 法 等	縦7.9cm　横5.7cm　厚4.4cm
作品概要	縄文時代晩期の東日本で出土する冠形の石製祭祀具。頭部は斧形で、底面に窪みを有する。縄文時代後半期には、石冠、土冠、三角柱状土製品、三角柱状石製品、烏帽子形石器等と呼ばれる石製や土製の三角柱状の祭祀具が発達した。		

82　名称	独鈷状石器	品　　質	石製
作 者 等	青森県三戸郡五戸町蛯川出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・3,000-2,300年前	寸 法 等	縦4.7cm　横17.6cm　厚3.3cm
作品概要	縄文時代晩期に出土する鶴嘴の頭部状の祭祀具で、柄に取り付けて使用されたと考えられる。型式変化したものが弥生時代前半期の東日本でも出土する。		

83　名称	丸玉	品　　質	石製（翡翠）
作 者 等	青森県つがる市木造亀ヶ岡出土	員　　数	1個
時　　代	縄文時代・3,000-2,300年前	寸 法 等	直径0.9cm　厚0.6cm
作品概要	縄文時代後期から晩期に出土する翡翠製の丸玉。翡翠は新潟県糸魚川産と推定され、特に本品は青緑色で大変美しい。翡翠製の玉類は主に東日本から出土するが、少数ながら沖縄でも出土しており、広域に流通していた。		

84　名称	台付浅鉢形土器	品　　質	土製
作 者 等	青森県つがる市木造亀ヶ岡出土	員　　数	1口
時　　代	縄文時代・3,000-2,300年前	寸 法 等	最大径15.7cm　高10.0cm
作品概要	縄文時代晩期の東北から北海道南西部で出土する亀ヶ岡文化の土器。現状では1口の台付浅鉢形土器に見えるが、元は鉢部と台部で別々の台付浅鉢形土器であったものが、近代以前の修理で接合されている。欠損した陶磁器類は、様々な手法で修理がなされるが、本品のように欠失部分に別個体の破片を接合する技法は、呼継と呼ばれる。		

1-(1)-②-5　有形文化財（美術工芸品）に関する取組状況（文化財購入費）

令和3年3月31日

	令和2年度 合計金額（千円）	総件数	内訳					
			運営費交付金（千円）	件数	寄附金（千円）	件数	目的積立金（千円）	件数
国立文化財機構	1,110,372	69	890,872	66	219,500	3	0	0
東京国立博物館	200,000	1	200,000	1	0	0	0	0
京都国立博物館	41,716	9	41,716	9	0	0	0	0
奈良国立博物館	284,500	10	175,000	8	109,500	2	0	0
九州国立博物館※	584,156	49	474,156	48	110,000	1	0	0

※九州国立博物館の購入分１件については、寄附金110,000千円と運営費交付金10,000千円の両方を財源としている。

1-(1)-②-6 寄託品一覧表

（単位：件）　令和3年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	12,495	197	1,201	2,651	54	262	6,547	88	618	1,988	53	309	1,309	2	12
絵画	3,766	56	420	396	12	62	2,317	29	249	558	15	106	495	0	3
書跡	1,678	69	276	394	10	36	876	42	200	365	16	37	43	1	3
彫刻	842	9	191	140	2	41	262	1	63	432	6	85	8	0	2
建築	5	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0
金工	997	14	84	128	5	17	565	2	36	211	7	30	93	0	1
刀剣	260	8	57	227	8	48				16	0	9	17	0	0
陶磁	1,450	1	7	114	0	2	1,022	1	4	8	0	0	306	0	1
漆工	738	15	57	82	6	14	510	4	16	120	5	26	26	0	1
染織	675	7	37	68	2	4	531	3	30	49	2	3	27	0	0
考古	968	13	35	161	4	13	424	6	10	227	2	11	156	1	1
民族資料	114	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	109	0	0
歴史資料	68	0	12	2	0	0	37	0	10	2	0	2	27	0	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	162	2	14	162	2	14									
東洋 書跡	51	2	8	51	2	8									
東洋 彫刻	11	0	0	11	0	0									
東洋 金工	2	0	1	2	0	1									
東洋 陶磁	168	1	1	168	1	1									
東洋 漆工	28	0	1	28	0	1									
東洋 染織	9	0	0	9	0	0									
東洋 考古	487	0	0	487	0	0									
東洋 民族	3	0	0	3	0	0									
黒田記念館収蔵品	13	0	0	13	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係」あり。京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。
＊列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。
＊東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-②-7 寄託品増減表

（単位：件）　令和3年3月31日現在

	国立博物館				東京国立博物館				京都国立博物館				奈良国立博物館				九州国立博物館			
	元年度	2年度			元年度	2年度			元年度	2年度			元年度	2年度			元年度	2年度		
	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計	計	新規	返却	計
合計	12,385	188	78	12,495	2,591	69	9	2,651	6,520	43	16	6,547	1,974	26	12	1,988	1,300	50	41	1,309
絵画	3,749	31	13	3,767	395	4	3	396	2,301	21	5	2,317	556	4	1	559	497	2	4	495
書跡	1,657	35	15	1,677	366	29	1	394	877	1	2	876	359	5	0	364	55	0	12	43
彫刻	824	15	1	838	135	5	0	140	262	0	0	262	419	10	1	428	8	0	0	8
建築	5	0	0	5	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	2
金工	992	11	6	997	133	0	5	128	559	7	1	565	207	4	0	211	93	0	0	93
刀剣	258	3	1	260	227	0	0	227					16	0	0	16	15	3	1	17
陶磁	1,453	3	6	1,450	114	0	0	114	1,025	3	6	1,022	8	0	0	8	306	0	0	306
漆工	732	10	0	742	81	1	0	82	504	6	0	510	121	3	0	124	26	0	0	26
染織	674	1	0	675	68	0	0	68	530	1	0	531	49	0	0	49	27	0	0	27
考古	955	49	36	968	161	0	0	161	422	4	2	424	237	0	10	227	135	45	24	156
民族資料	114	0	0	114	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	109	0	0	109
歴史資料	67	1	0	68	1	1	0	2	37	0	0	37	2	0	0	2	27	0	0	27
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画	162	0	0	162	162	0	0	162												
東洋 書跡	24	27	0	51	24	27	0	51												
東洋 彫刻	11	0	0	11	11	0	0	11												
東洋 金工	2	0	0	2	2	0	0	2												
東洋 陶磁	166	2	0	168	166	2	0	168												
東洋 漆工	28	0	0	28	28	0	0	28												
東洋 染織	9	0	0	9	9	0	0	9												
東洋 考古	487	0	0	487	487	0	0	487												
東洋 民族	3	0	0	3	3	0	0	3												
黒田記念館収蔵品	13	0	0	13	13	0	0	13												

1-(1)-②-8 登録美術品一覧表

（単位：件）　令和3年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	32	0	4	30	0	4	0	0	0	0	0	0	2	0	0
絵画	7	0	4	7	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
書跡	18	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
彫刻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陶磁	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
染織	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵画				1	0	0	0	0	0						
東洋 陶磁	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
複合資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

1-(1)-③　有形文化財の管理・保存・修理等

1-(1)-③-1 各収蔵庫、展示場の温湿度

【東京国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
本館	展覧会場	09：00～17：00	14～28℃	29～77%
	収蔵庫	09：30～17：00	16～26℃	31～73%
平成館	展覧会場	09：00～17：00	21～31℃	40～66%
	収蔵庫	09：30～17：00	22～30℃	48～72%
東洋館	展覧会場	09：30～17：00	21～31℃	39～58%
	収蔵庫	09：30～17：00	12～29℃	44～66%
法隆寺宝物館	展覧会場	24時間運転	22～23℃	53～59%
	収蔵庫	24時間運転	23～24℃	52～55%
黒田記念館	展覧会場	24時間運転	17～24℃	38～74%
	収蔵庫	24時間運転	22～24℃	53～58%

【京都国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
明治古都館	展覧会場	休止中		
	収蔵庫	2年12月より休止中		
平成知新館	展覧会場	8：40～17：20	19～25℃	50～60%
	収蔵庫	8：40～17：20	20～24℃	55～60%（金工収蔵庫のみ45～55%
北収蔵庫		9：00～17：30	19～25℃	50～60%
東収蔵庫		9：00～17：30	19～24℃	50～60%
文化財保存修理所		8：30～17：30	20～25℃	50～65%

【奈良国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度（年間）			湿度（年間）
			冬	夏	中	
なら仏像館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
青銅器館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
西新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
東新館	展覧会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±2%
地下回廊	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±2%

【九州国立博物館】

会場等	空調実施時間	温度（年間）	湿度（年間）
3階展覧会場	8:00～19:00	22～26℃	55±5%
4階展覧会場	7:00～21:00	22～26℃	55±5%
収蔵庫	8:40～21:30	22～24℃	材質別に50±2%、55±2%、60±2%

1-(1)-③-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

令和3年3月31日現在

東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館
画像	101件	画像	5,633件	画像	3,017件	
和古書・漢籍	16,628件			文字	4,408件	（完了）
洋古書	3,478件					

1-(1)-③-3 保存カルテ作成件数

【東京国立博物館】　　令和3年3月31日現在

合計		706		
計		列品貸与時	本格修理調査時	応急修理時
		446	22	238
絵画		95	1	85
書跡		12	2	11
彫刻		11	0	1
建築		1	0	0
金工		17	0	0
刀剣		15	0	2
陶磁		7	0	0
漆工		33	0	1
染織		18	1	0
考古		121	8	9
歴史資料		22	0	11
民族資料		0	0	0
和書		4	1	3
写真資料		0	0	86
東洋	絵画	26	1	3
	書跡	11	1	3
	彫刻	3	0	1
	金工	0	0	2
	陶磁	0	0	0
	漆工	2	1	0
	染織	0	0	0
	考古	1	5	0
	民族	0	0	0
法隆寺献納宝物		43	1	0
その他（黒田含）		4	0	20

【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】

計	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	191	84	83
絵画	56	19	1
書跡	10	17	2
彫刻	5	2	0
建築	0	0	0
金工	14	6	0
刀剣		0	1
陶磁	24	0	0
漆工	17	5	1
染織	41	3	2
考古	15	30	9
民族資料	0	0	0
歴史資料	9	0	7
和書	0	0	0
写真資料	0	0	0
その他	0	2	60

1-(1)-③-4 本格修理件数

令和3年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
合　計		83	44	12	7	20
絵　画		17	6	7	3	1
書　跡		6	4	0	0	2
彫　刻		1	0	0	1	0
建　築		0	0	0	0	0
金　工		2	1	1	0	0
刀　剣		0	0	0	0	0
陶　磁		0	0	0	0	0
漆　工		3	0	0	2	1
染　織		4	2	0	0	2
考　古		25	12	4	1	8
民族資料		0	0	0	0	0
歴史資料		6	0	0	0	6
和　書		1	1	0	0	0
写真資料		0	0	0	0	0
東洋	絵　画	3	3			
	書　跡	4	4			
	彫　刻	0	0			
	金　工	0	0			
	陶　磁	1	1			
	漆　工	1	1			
	染　織	1	1			
	考　古	6	6			
	民　族	0	0			
法隆寺献納宝物		2	2			
黒田記念館収蔵品		0	0			
館史資料(収蔵品外)		0	0			

※東京国立博物館(　)内は考古相互貸借経費、内数。

1-(1)-③-5 修理概況

【東京国立博物館】（計44件）

＜絵画＞（6件）

1 列品番号	A-1	品　質	絹本着色
名　称	普賢菩薩像（ふげんぼさつぞう）	員　数	1幅
時　代	平安時代	寸 法 等	縦159.1cm 横74.5cm
年代世紀	12世紀	施工会社	㈱半田九清堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂は、中廻し、一文字、風帯は修理して再使用、他の総縁、軸首は新調し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製二重箱、帙を新調する。（2年度は5の途中まで）		

2 列品番号	A-1155	品　質	紙本墨画着色
名　称	扇面雑画（せんめんざつが）	員　数	60面のうち15面
時　代	江戸時代	寸 法 等	36.5×63.8cm
年代世紀	18～19世紀	施工会社	㈱半田九清堂
修理内容	1. 本紙を取り外す。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 本紙裏面に付着した銀箔紙を除去し、増裏打ち紙を除去する。 4. 新規裏打ちを行う。 5. 中性紙ボードで落とし込みのマットを作製し、保管する。（元年度から4年度まで。各年度5面ずつ実施する。）		

3 列品番号	A-11090	品　質	紙本着色
名　称	月次風俗図屏風（つきなみふうぞくずびょうぶ）	員　数	8曲1隻
時　代	室町時代	寸 法 等	総寸 縦114.2cm 横301.0cm; 本紙　第1扇 41.8 × 61.4cm, 第2扇 42.2 × 61.0cm, 第3扇 40.3 × 61.1cm, 第4扇 42.0 × 61.3cm, 第5扇 42.1 × 61.9cm, 第6扇 40.3 × 61.8cm, 第7扇 39.9 × 61.5cm, 第8扇 40.1 × 61.7cm
年代世紀	16世紀	施工会社	㈱岡墨光堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行う。 5. 新調した骨木地に下張りを施し、いずれも新調した襲木、表装裂地、裏貼裂で屏風装に仕立てる。（2年度は4の途中まで）		

4 列品番号	A-12347	品　質	絹本着色
名　称	扇面散図（せんめんちらしず）	員　数	1幅
時　代	江戸時代	寸 法 等	本紙 縦51.5cm 横71.4cm
年代世紀	嘉永2年(1849)	施工会社	㈱岡墨光堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補絹を施す。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 新規補絹部分に補彩を施す。 6. 表装裂、軸首を新調して、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。（2年度は3の途中まで）		

5 列品番号	A-12453	品　質	紙本着色
名　称	渡唐天神図（ととうてんじんず）	員　数	1幅
時　代	室町時代	寸 法 等	本紙 縦92.3cm 横29.4cm
年代世紀	15世紀	施工会社	㈱修護
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去する。 4. 本紙の欠損部に補紙を施し、新規裏打ち、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂（上下のみ新調）、軸首を修理して再使用し、掛幅装（三段表具）に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		

6 列品番号	A-12454	品　質	紙本着色
名　称	渡唐天神図（ととうてんじんず）	員　数	1幅
時　代	室町時代	寸 法 等	本紙 縦79.3cm 横27.3cm
年代世紀	大永3年(1523)	施工会社	㈱修護
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去する。 4. 本紙の欠損部に補紙を施し、新規裏打ち、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂、軸首を修理して再使用し、掛幅装（三段表具）に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱（墨書のある旧箱蓋板は新調箱底に納める）を新調する。		

＜東洋絵画＞(3件)

7 列品番号	A-40	品　質	絹本墨画淡彩
名　称	第二十三天聖尊者図軸（だいにじゅうさんてんせいそんじゃずじく）	員　数	1幅
時　代	高麗時代	寸 法 等	縦60.2cm 横41.6cm
年代世紀	高宗22年(1235)	施工会社	㈱岡墨光堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 表打ちをして養生をしたのち、旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補絹を施す。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 新規補絹部分に補彩を施す。 6. 表装裂、軸首、端喰は再使用して、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、桐製保存箱、布貼覆帙を新調する。 （2年度は3の途中まで）		

8　列品番号	TA-355	品　　質	絹本墨画淡彩
名　　称	雛雀図（すうじゃくず）	員　　数	1幅
時　　代	南宋時代	寸 法 等	21.6×22.5cm
年代世紀	13世紀	施工会社	㈱修護
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙の欠損部に補絹を施す。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 新規補絹部分には補彩を施す。 6. 表装裂、軸首は再使用し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻添軸、桐製二重箱、中性紙布貼帙を新調して収納する。		

9　列品番号	TA-694	品　　質	紙本墨画淡彩
名　　称	五馬図巻（ごばずかん）	員　　数	1巻
時　　代	北宋時代	寸 法 等	本紙 縦27.8cm 長さ256.5cm
年代世紀	11世紀	施工会社	㈱岡墨光堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去し、現状の補紙は検討の上処置する。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 題簽・見返し・隔水・巻き込み紙・天地表装紙は補修の上再使用、爪、軸首も再使用する。紐は新調し、表紙は復元新調して巻子装に仕立てる。 6. 桐製太巻芯・桐材印籠箱を新調する。旧箱・旧八双をまとめて中性紙保管箱に収納し、作品を収めた収納箱と並置する外箱を新調し、中性紙布貼帙にまとめて収納する。（2年度は4まで）		

＜書跡＞(4件)

10　列品番号	B-3171	品　　質	紙本墨書、掛幅装
名　　称	山城切（秋興）（やましろぎれ（しゅうきょう））	員　　数	1幅
時　　代	平安時代	寸 法 等	本紙:縦25.8×横28.0cm、全体:縦118.8×横42.4cm
年代世紀	12世紀	施工会社	㈱文化財保存
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙に欠損部が認められれば補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 上下裂、軸首を新調し、中縁・柱裂地、一文字・風帯裂地は再使用し、現装の掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱(旧箱蓋活用)、布貼覆帙を新調する。 （2年度は2の途中まで）		

11　列品番号	B-3172	品　　質	紙本墨書、掛幅装
名　　称	山城切（春興）（やましろぎれ（しゅんきょう））	員　　数	1幅
時　　代	平安時代	寸 法 等	本紙:縦25.7×横30.0cm、全体:縦119.8×横45.6cm
年代世紀	12世紀	施工会社	㈱文化財保存
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙に欠損部が認められれば補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 上下裂、軸首を新調し、中縁・柱裂地、一文字・風帯裂地は再使用し、現装の掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱(旧箱蓋活用)、布貼覆帙を新調する。 （2年度は2の途中まで）		

12　列品番号	B-3178	品　　質	紙本墨書
名　　称	医心方(いしんぽう)	員　　数	30巻、1冊
時　　代	平安時代～江戸時代	寸 法 等	
年代世紀	12～17世紀	施工会社	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー、㈱修護、㈱半田九清堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙及び旧補紙を除去するが、補筆のある旧補紙は残す。 4. 本紙の欠損部に補紙を施す。 5. 傷みの著しい巻頭などは、必要に応じて新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 6. 表紙、軸首は修理して再使用し、巻子装に仕立てる。 7. 包裂、桐製保存箱を新調する。（平成27年度から28年度にかけて12巻、1冊、それ以後は年度ごとに6巻ずつ仕上げる。）		

13　列品番号	B-3493	品　　質	彩箋墨書
名　　称	色紙華厳経断簡（泉福寺経）（しきしけごんきょうだんかん(せんぷくじきょう)）	員　　数	1枚
時　　代	平安時代	寸 法 等	本紙 縦24.0cm 横50.0cm
年代世紀	12世紀	施工会社	㈱坂田墨珠堂
修理内容	1. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 2. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 3. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 4. 新規補紙部分に補彩を施す。 5. 台紙、表装裂、軸首を新調し、三段表具の掛幅装に仕立てる。 6. 桐製太巻添え軸、包裂、桐製印籠箱を新調する。		

＜東洋書跡＞(4件)

14　列品番号	TB-1215	品　　質	紙本墨書
名　　称	草書尺牘巻（そうしょせきとくかん）	員　　数	1巻
時　　代	明時代	寸 法 等	本紙 縦19.0cm×横91.0cm
年代世紀	洪武元年(1368)	施工会社	株式会社　光影堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 墨、印章の剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙上下部に足し紙、欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 旧表装裂は再使用し、覆輪、軸木、八双、紐、爪は新調し、中国式の巻子装に仕立てる。 7. 保存箱は再使用し、タトウは布貼覆帙を新調する。 （2年度は3の途中まで）		

15　列品番号	TB-1458	品　　質	紙本墨書
名　　称	行書三帖巻（ぎょうしょさんじょうかん）	員　　数	1巻
時　　代	北宋時代	寸 法 等	(1)叔晦帖：縦24.5cm 横29.6cm (2)李太師帖：縦26.0cm 横34.5cm (3)張李明帖：縦25.8cm 横31.3cm
年代世紀	11～12世紀	施工会社	㈱岡墨光堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 見返し、紐、コハゼ、軸首は補修の上再使用し、新調した表紙にて巻子装に仕立てる。 6. 桐製太巻添軸、桐製保存箱を新調して収納する。（2年度は4まで）		

16　列品番号	TB-1701	品　　質	紙本墨書
名　　称	行草書五言古詩軸（ぎょうそうしょごごんこしじく）	員　　数	1幅
時　　代	元時代	寸 法 等	縦28.0cm　横83.2cm
年代世紀	14世紀	施工会社	㈱修護
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分に補彩を施す。 6. 表装裂の中廻し、一文字、風帯、軸首は修理して再使用、上下は新調し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻、包裂、桐製二重箱を新調する。		

17　列品番号	TB-1706	品　　質	紙本墨書
名　　称	楷書八言聯（かいしょはちごんれん ）	員　　数	2幅
時　　代	清時代	寸 法 等	各 縦188.0cm 横36.0cm
年代世紀	同治4年（1865）	施工会社	株式会社　光影堂
修理内容	1. 表装を解体する。 2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。 3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙欠損部に補紙を施す。 4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。 5. 新規補紙部分には補彩を施す。 6. 軸首裂は再使用するほか、表装裂は新調し、掛幅装に仕立てる。 7. 桐製太巻き添え軸、桐製保存箱を新調し、収納する。		

〈金工〉(1件)

18　列品番号	E-14365	品　　質	鉄製
名　　称	経筒(きょうづつ)	員　　数	5合
時　　代	鎌倉時代～室町時代	寸 法 等	① 蓋口径6.2cm 蓋高1.5cm 筒身径6.5cm 筒身高10.8cm ； ② 蓋口径6.2cm 蓋高0.4cm 筒身径6.5cm 筒身高10.5cm ； ③ 蓋口径6.2cm 蓋高0.4cm 筒身径6.4cm 筒身高11.0cm ； ④ 蓋口径5.3cm 蓋高2.5cm 筒身径6.5cm 筒身高11.2cm ； ⑤ 蓋口径6.2cm 蓋高0.3cm 筒身径6.5cm 筒身高11.3cm
年代世紀	14～16世紀	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 脱塩処理する。 3. 強化する。 4. 欠失部分のうち、可能な部分のみ補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。		

〈東洋陶磁〉(1件)

19　列品番号	TG-2003	品　　質	陶製
名　　称	白釉黒地白花牡丹文枕（はくゆうくろじはくかぼたんもんまくら）	員　　数	1個
時　　代	北宋時代	寸 法 等	高19.3cm 長径29.5cm 短径27.0cm
年代世紀	12世紀	施工会社	東京藝術大学
修理内容	1. クリーニングする。 2. 解体する。 3. 接合する。 4. 破損箇所の強化を行う。 5. 除去した旧補填部の充填を行う。 6. 補填部の補彩を行う。 7. 保存箱を新調する。		

〈東洋漆工〉(1件)

20　列品番号	TH-388	品　　質	木製漆塗
名　　称	雲龍螺鈿机（うんりゅうらでんづくえ）	員　　数	1基
時　　代	朝鮮時代	寸 法 等	幅75.8cm 奥行34.3cm 高27.7cm
年代世紀	19世紀	施工会社	東京藝術大学
修理内容	1. 外れている破損部を、元の位置に接着する。欠失している部材を補う。 2. 剥離した漆塗膜を、可能な限り平滑となるよう漆等を含浸させて圧着する。 3. 亀裂開口部の空隙に漆下地等を充填し、強化する。 4. 全体を養生しクリーニングを行う。 （2年度は2まで）		

〈染織〉(2件)

21　列品番号	I-335	品　　質	絹製　錦、綾、羅、刺繍
名　　称	古幡(こばん)	員　　数	1旒
時　　代	奈良時代	寸 法 等	幡頭 幅41.3cm ； 幡身 幅27.8cm ； 総 丈246.5cm
年代世紀	天平勝宝9歳(757)	施工会社	独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館　澤田むつ代、三田覚之
修理内容	1. ガラス板を外す。 2. 紙の台を上から当てたうえで表裏を反転させる。 3. 幡頭・幡身・幡足に分離する。また幡足も各条に分離する。 4. 幡頭・幡身・幡足をそれぞれ加湿の上で成形。 5. 幡頭は内側に両面刺繍があるため、周囲を補強。劣化の激しい幡身・幡足には和紙で裏打ちを施す。 6. 幡の形状にそって和紙を裁断し、本来の形状に組み立てる。 7. 内部にクッション材を仕込み、幡の形状にそって窪みをつけた台に設置。 8. 上面からアクリル板を落とし込み、低加圧式ウィンドウマット装とする。(2年度は4まで)		

22　列品番号	I-721	品　　質	絹
名　　称	小袖 白綾地秋草模様	員　　数	1領
時　　代	江戸時代	寸 法 等	身丈147.2cm 裄65.1cm
年代世紀	18世紀	施工会社	㈱松鶴堂
修理内容	1. 解体する。 2. 補強、補修を行う。 3. 旧修理を除去する。 4. 表地に補修裂を綴じ付ける。 5. 裏地を新調する。 6. 仕立て　左右の袖を入れ替える。（現状変更） 7. 収納 （2年度は1の途中まで、3年度は3まで）		

〈東洋染織〉（1件）

23　列品番号	TI-421	品　　質	絹製、羅・繻絲
名　　称	九条袈裟　紫地唐草文様印金／草花文様繻絲（くじょうけさ むらさきじからくさもんようういんきん/くさばなもんようこくし）	員　　数	1肩
時　　代	元～明時代	寸 法 等	長231.5cm 幅：右端 101.5cm 中央89.8cm 左端92.0cm
年代世紀	14世紀	施工会社	㈱半田九清堂
修理内容	1. 解体する。 2. 表面に付着した汚れを除去する。 3. 旧裏打紙を除去し、新規裏打ちを行う。 4. 補修絹を加工し、欠損部に補絹を行う。 5. 裏地補強用の裂を染め、全面に留めつける 6. 芯地を新調し、本体裂を部位ごとに留め付け、表地を仕立てる。 7. 紐、紐座を補修し、元の位置に留め付ける。 8. 表地と裏地を合わせ、全体を仕立てる。 9. 中性紙製収納箱を作製し、袈裟を収める。		

〈考古〉（12件）

24　列品番号	J-1537	品　　質	土製
名　　称	甕形土器（かめがたどき）	員　　数	1個
時　　代	擦文時代	寸 法 等	器高14.5cm 口径12cm 底径5.5cm
年代世紀	7世紀	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 強化する。 3. 欠失部分を補填し復元する。 4. 補填箇所に補彩する。		

25　列品番号	J-7822	品　　質	土製
名　　称	埴輪 馬(はにわ うま)	員　　数	1個
時　　代	古墳時代	寸 法 等	高78.9cm 長77.2cm
年代世紀	6世紀	施工会社	繭山　隆司
修理内容	1. 解体し、石膏部分を除去する。 2. クリーニングする。 3. 破断、亀裂箇所を重点的に強化し、接合する。 4. 欠失部を補填し、復元する。 5. 補填箇所に補彩を施す。 6. 取り外し可能な支持具付きの展示台を作製し、頭部にかかる重心を分散し安定した展示を可能にする。（2年度は1の途中まで、3年度は4まで）		

26　列品番号	J-8395	品　　質	土製
名　　称	注口土器（ちゅうこうどき）	員　　数	1個
時　　代	続縄文時代	寸 法 等	器高8.5cm 口径9.2cm 底径4.8～5.0cm
年代世紀	7世紀	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 強化し接合する。 4. 欠失部分を補填し復元する。 5. 補填箇所に補彩する。		

27　列品番号	J-8897	品　　質	鉄製、金銅製
名　　称	方頭大刀（ほうとうたち）	員　　数	1口
時　　代	奈良時代	寸 法 等	刀身（残存長） 45.5cm ； 刀身（残存幅） 3.5cm ； 柄（残存長） 12.5cm ； 柄（残存幅） 3.5cm
年代世紀	8世紀	施工会社	公益財団法人　元興寺文化財研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 脱塩処理をする。 3. 樹脂含浸による補強をする。 4. 接合する。 5. 補強個所の補彩を施す。 6. 安定台（展示台）を作成する。		

28　列品番号	J-8898	品　　質	鉄製
名　　称	鉄板（てついた）	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦（残存） 31cm ； 横（残存） 16cm ； 厚（最大） 3cm
年代世紀	8世紀	施工会社	公益財団法人　元興寺文化財研究所
修理内容	1. クリーニングする。 2. 脱塩処理をする。 3. 樹脂含浸による補強をする。 4. 接合する。 5. 補強個所の補彩を施す。 6. 安定台（展示台）を作成する。		

29　列品番号	J-20254	品　　質	土製
名　　称	壺形土器（つぼがたどき）	員　　数	1個
時　　代	弥生時代(後期)	寸 法 等	高21.5cm 胴径12.6cm 底径7.4cm
年代世紀	1～3世紀	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 強化・接合する。 4. 欠失部を補填し、復元する。 5. 補填個所に補彩する。		

30　列品番号	J-21576	品　　質	土製
名　　称	埴輪 帽子を被る男子（はにわ　ぼうしをかぶるだんし）	員　　数	1個
時　　代	古墳時代	寸 法 等	高72.8cm
年代世紀	6世紀	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. 解体し、石膏部分を除去する。 2. クリーニングする。 3. 頭部と胴部の接合を中心に強化し、整形する。 4. 欠失部を補填し、復元する（ただし左腕と鞘尻の形状については類例がないため復元しない）。 6. 補填箇所に補彩を施す。 （2年度は1まで）		

31　列品番号	J-22780	品　　質	土製
名　　称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	員　　数	1個
時　　代	縄文時代(中期)	寸 法 等	高30cm 口径20cm
年代世紀	前3000～前2000年	施工会社	有限会社　武蔵野文化財修復研究所
修理内容	1. 解体し、石膏などを除去する。 2. クリーニングする。 3. 強化し、接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。 （2年度は2の途中まで）		

32　列品番号	J-23174	品　　質	土製
名　　称	壺形土器（つぼがたどき）	員　　数	1個
時　　代	縄文時代(中期)	寸 法 等	高40cm 口径33cm
年代世紀	前3000～前2000年	施工会社	有限会社　武蔵野文化財修復研究所
修理内容	1. 解体し、石膏などを除去する。 2. クリーニングする。 3. 強化し、接合する。 4. 欠失部分を補填、復元する。 5. 補填箇所に補彩する。 （2年度は1まで）		

33　列品番号	J-23765	品　　質	土製
名　　称	甕形土器（かめがたどき）	員　　数	1個
時　　代	擦文時代	寸 法 等	器高14.3cm 底径6.7cm
年代世紀	8世紀	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 強化し接合する。 4. 欠失部分を補填し復元する。 5. 補填箇所に補彩する。 （2年度は2まで）		

34　列品番号	J-38859-16	品　　質	土製
名　　称	土師器 S字状口縁甕（はじき えすじじょうこうえんかめ）	員　　数	1個
時　　代	古墳時代	寸 法 等	高9.3～26.0cm 口径10.2～17.0cm
年代世紀	3～4世紀	施工会社	繭山　隆司
修理内容	1. 解体し、石膏部分を除去する。 2. クリーニングする。ただし、表面の煤焦げは用途を証明する部位のため取り去らない。 3. 強化し、接合する。 4. 欠失部を補填し、復元する。この際、制作時本来の形状である脚台も復元する。 5. 補填箇所に補彩を施す。ただし、脚台は後補であることが明瞭な仕上げにする。 （2年度は1の途中まで）		

35　列品番号	J-38899-1	品　　質	土製
名　　称	土師器 二重口縁壺（はじき にじゅうこうえんつぼ）	員　　数	1個
時　　代	古墳時代	寸 法 等	口径21.5cm 現存高28.5cm 胴径28.0cm
年代世紀	3～4世紀	施工会社	繭山　隆司
修理内容	1. 接合する。 2. 欠失部分を補填、復元する。 3. 補填箇所に補彩する。		

〈東洋考古〉（6件）

36　列品番号	TJ-2976	品　　質	土製
名　　称	灰陶短頸壺（かいとうたんけいこ）	員　　数	1個
時　　代	後漢時代	寸 法 等	高18.7cm　口径9.8cm
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山　隆司
修理内容	1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 強化し、接合する。 4. 欠失部を補填し、復元する。 5. 補填箇所に補彩を施す。 （2年度は1まで）		

37　列品番号	TJ-2979	品　　質	土製
名　　称	灰陶窪（かいとうれん）	員　　数	1合
時　　代	後漢時代	寸 法 等	蓋：高18.5cm　径23.6cm／器身：高17.7cm　径19cm
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山　隆司
修理内容	1. 解体し、石膏を除去する。 2. クリーニングする。 3. 強化し、接合する。 4. 欠失部を補填し、復元する。 5. 補填箇所に補彩を施す。（2年度は1の途中まで）		

38　列品番号	TJ-2981	品　　質	土製
名　　称	灰陶盒（かいとうごう）	員　　数	1合
時　　代	後漢時代	寸 法 等	蓋：高12cm　長21.8cm／器身：高17.5cm
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山　隆司
修理内容	1. 解体し、石膏を除去する。 2. クリーニングする（魚骨が遺存する土は除去しない）。 3. 強化し、接合する。 4. 欠失部を補填し、復元する。 5. 補填箇所に補彩を施す。 （2年度は1の途中まで）		

39　列品番号	TJ-3006	品　　質	土製
名　　称	灰陶蓋（かいとうがい）	員　　数	1合
時　　代	後漢時代	寸 法 等	径11cm 高6.1cm
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山　隆司
修理内容	1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 強化し、接合する。 4. 欠失部を補填し、復元する。 5. 補填箇所に補彩を施す。 （2年度は2の途中まで）		

40　列品番号	TJ-4317	品　　質	鉄製鍛造
名　　称	鋏（はさみ）	員　　数	1個
時　　代	三国時代(新羅)	寸 法 等	推定復原長15cm、幅6cm（刃部：長7.5cm　環部：横6cm）
年代世紀	6世紀初頭	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. 旧接合部を除去する。 2. クリーニングする。 3. 脱塩及び強化処理をする。 4. 接合、補填をする。 5. 補填箇所に補彩を施す。 6. 展示台を作成する。		

41　列品番号	TJ-5824	品　　質	土製
名　　称	灰陶竈（かいとうかまど）	員　　数	1基
時　　代	後漢時代	寸 法 等	高12.5cm,長幅22.7cm,短幅12.7cm
年代世紀	2世紀	施工会社	繭山　隆司
修理内容	1. 解体する。 2. クリーニングする。 3. 強化し、接合する。 4. 欠失部を補填し、復元する。 5. 補填箇所に補彩を施す。 （2年度は2の途中まで）		

〈和書〉（1件）

42　列品番号	QB-30	品　　質	紙本墨摺
名　　称	大三川志（だいみかわし）	員　　数	109冊
時　　代	江戸時代	寸 法 等	縦26.4cm×横18.1cm
年代世紀	宝暦13年(1763)	施工会社	有限会社　東京修復保存センター
修理内容	リーフキャスティング（漉き嵌め）法による修理とする。 1. 修理前調査を行う。 2. 解体する。 3. リーフキャスティング前処置（本紙整形、虫糞等除去、脆弱部分を和紙と生麩糊で固定）をする。 4. リーフキャスティング（本紙に適した楮・三椏の混合液を原料として、作業後は十分な乾燥期間をおく） 5. 断裁作業（周囲を本紙保護に適した余白を残して裁断する） 6. 表紙を補修する。 7. 元の冊子装に製本する。（2年度は1まで、3～4年度は2～7を行なう）		

〈法隆寺献納宝物〉（2件）

43　列品番号	N-36	品　　質	絹製、平絹・絹綿
名　　称	御足印（ごそくいん）	員　　数	1枚
時　　代	奈良時代	寸 法 等	縦42.0cm 横34.0cm
年代世紀	8世紀	施工会社	独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館　澤田むつ代、三田覚之
修理内容	1. 慎重に箱及び包裂から取り出し、劣化した絹を残すことなく集める。 2. 太子足跡とされる部位を視認できるようにするため、表面に散乱する平絹の断片をできるだけ本来の位置に戻し、部位が特定しづらい断片は作品内で美観を整えたかたちで置き直す。足跡とされる窪み及び変色を維持するため、水を使った裏打ちは施さない。 3. 平絹のクッションとなっている真綿の調子を整え、別途製作した中性紙箱に収める。 4. 表面からアクリル板を設置し、低加圧式ウィンドウ・マット装とする。		

44　列品番号	N-326	品　　質	竹ひご・絹糸製
名　　称	経帙残欠（きょうちつざんけつ）	員　　数	1巻
時　　代	飛鳥時代	寸 法 等	竹ひごの長さ29.0cm　竹ひごの直径0.6mm
年代世紀	7世紀	施工会社	独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館　三田覚之、佐藤萌
修理内容	1. 竹ひごを分離したうえでクリーニング。 2. フェルトなどの芯を入れた絹の支持体に並べなおし、両端を糸で固定。 3. 中性紙箱に収めたうえでアクリル板により蓋をし、ウィンドウマット装とする。		

【京都国立博物館】（計12件）

＜絵画＞（7件）

1 名　称	天保九如図・四季草花図屏風 （てんぽうきゅうじょず・しきそうかずびょうぶ）	員　数	6曲1双
作者時代等	江戸時代（18世紀）	寸 法 等	160.4cm×363.6cm、172.0cm×375.6cm。
品　質	紙本着色／紙本金地着色	施工会社	株式会社松鶴堂
修理内容	① 損傷を調査し、記録する。 ② 危険個所の剥落止めを行う。 ③ 屏風装を解装し、下地から本紙を取り外す。 ④ 剥落止め及びクリーニングを行う。 ⑤ 彩色部分には有機系絵具が多用されていることから、水の使用は最小限に止める。 ⑥ 欠失部への補紙等、本紙の補修を行う。 ⑦ 「天保九如図」と「四季草花図」をそれぞれ独立した屏風装として仕上げる。 ⑧ 「天保九如図」は金具を再使用して取り付け、「四季草花図」は金具を新調する。 ⑨ 補彩ののち写真撮影を行う。		

2 名　称	阿弥陀八大菩薩図（あみだはちだいぼさつず）	員　数	1幅
作者時代等	朝鮮王朝時代（16世紀）	寸 法 等	縦148.2cm、横159.4cm。
品　質	絹本著色	施工会社	株式会社松鶴堂
修理内容	① 写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 ② 解体に先立ち、本紙表面の汚れを除去する。 ③ 本紙と表装裂地を取り外し、旧肌裏紙以外の裏打紙を除去する。 ④ 本紙の汚れを除去する。 ⑤ 絵具層の剥落止を行う。 ⑥ 本紙の肌裏紙を除去する。 ⑦ 本紙の欠損部分には、本紙と組成の近い補修絹を入れる。 ⑧ 各種裏打を施し、折れ伏せを入れる。 ⑨ 補修絹には補彩を施すが、違和感なく鑑賞できる処置とする。 ⑩ 掛幅装に仕立てる。表装裂地や軸首などは新調する。 ⑪ 桐太巻添軸、桐屋郎箱を新調し、納入する。 ⑫ 修理後の記録をとり、報告書を作成する。		

3 名　称	重要文化財　遠浦帰帆図（えんぽきはんず）	員　数	1幅
作者時代等	中国･南宋時代（13世紀）、伝牧谿	寸 法 等	縦32.5cm×横112.3cm
品　質	紙本墨画	施工会社	株式会社岡墨光堂
修理内容	① 修理前の本紙の状態を写真撮影し、調査を行う。 ② 掛軸装を解体し、肌裏紙を残して、旧裏打紙を除去する。 ③ 浄化水で本紙表面の汚れを除去する。 ④ 膠水溶液で墨及び印の朱の剥落止めを行う。 ⑤ 旧肌裏紙、旧補修紙を除去する。 ⑥ 本紙欠失箇所に補修紙にて補紙を施す。 ⑦ 本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。 ⑧ 本紙に美栖紙にて増裏打を行う。 ⑨ 折れ伏せを入れる。 ⑩ 表装裂地などはこれまでの伝来を示すものとして、できる限り再使用する。 ⑪ 本紙と表装裂地を掛軸装の形に付け廻す。 ⑫ 美栖紙にて中裏打を行う。 ⑬ 宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りして充分に乾燥させる。 ⑭ 桐製太巻添軸、旧箱を合わせて収納する二重箱をそれぞれ新調し、包裂に包む。 ⑮ 2か年修理で、総工費629万2,588円（見積額）の予定。		

4 名　称	重要文化財　山水図（さんすいず）	員　数	1幅
作者時代等	室町時代（15世紀）、拙宗	寸 法 等	縦98.2cm　×　横33.2cm
品　質	紙本墨画淡彩	施工会社	株式会社光影堂
修理内容	① 本紙の状態を調査、記録して損傷状況を精査する。 ② 掛軸装を解体し、本紙肌裏紙以外の旧裏打紙をおおよそ除去する。 ③ 本紙表面に数次の剥落止めを施す。 ④ 本紙の汚れを適切に除去する。 ⑤ 本紙の旧肌裏紙及び旧補紙を適切に除去する。 ⑥ 本紙欠失箇所に補紙を施す。 ⑦ 本紙の色合いにあわせ、薄美濃紙を用いて新たに肌裏打ちを行う。 ⑧ 増裏を施した上、折伏せを入れる。 ⑨ 新たに選定した表装裂を、三段表具として付け回す。 ⑩ 中裏、総裏を施す。 ⑪ 新たに補った補紙に本紙地色に合わせて補彩を施す。 ⑫ 新調した軸木、八双、金具類、掛緒、巻緒などを取り付ける。軸首のみは元のものを再使用する。 ⑬ 新調した包裂に包み、同じく新調した桐太巻及び屋郎箱に納める。軸木などをふくむ旧表装は旧箱におさめ、全体を中性紙の保存箱で保管する。 ⑭ 修理後の状態を記録し、修理報告書を作成して修理を完了する。		

5 名　称	重要文化財　琴棋書画図 山水図 （きんきしょがず さんすいず）	員　数	22面
作者時代等	室町時代（15～16世紀）、伝宗継	寸 法 等	(1)琴棋書画図 襖貼付 各縦169.3cm 横115.7cm（4面） 各縦169.3cm 横91.2cm（4面） (2)山水図 襖貼付 各縦169.3cm 横115.7cm（4面） (3)山水図 襖貼付 各縦169.3cm 横112.6cm（4面） (4)山水図 襖貼付 各縦169.3cm 横92.2cm（2面） (5)山水図 襖貼付 各縦169.3cm 横87.9cm（2面） (6)山水図 小襖貼付 各縦56.3cm 横88.1cm（2面）
品　質	紙本墨画淡彩	施工会社	一般社団法人国宝修理装潢師連盟
修理内容	① 本紙の状態を記録・調査し、損傷状況を精査する。 ② 襖貼付装を解体し、本紙肌裏紙以外の旧裏打紙をおおよそ除去する。 ③ 仮裏打を行ったのち、剥落止めを施す。 ④ 本紙の汚れを適切に除去する。 ⑤ 本紙の旧肌裏紙及び旧補紙を適切に除去する。 ⑥ 本紙欠失箇所に補紙を施す。 ⑦ 本紙の色合いにあわせ、薄美濃紙を用いて新たに肌裏打ちを行う。 ⑧ 美栖紙などを用い、さらに2層の裏打を施した上、折伏せ入れなども行う。 ⑨ 木製の組子下地を新調し、両面に6種8層の下張りを施して下地を作成する。 ⑩ 絵画4、5と合わせて作成した下地に本紙を貼り込む。表裏は修理前と同じ組み合わせとし、小襖2面のみは無地の鳥の子紙による白貼りとする。 ⑪ 新たに補った補紙に本紙の地色に合わせて補彩を施す。 ⑫ 新調した漆塗縁木を打ち、元の引手を使用して襖貼付装に仕立てる。 ⑬ 修理後の状態を記録し、修理報告書を作成して修理を完了する。		

6 名　称	重要文化財　芦雁図（ろがんず）	員　数	6面
作者時代等	室町時代（15世紀）、伝宗湛・宗継	寸 法 等	各縦169.3cm 横115.7cm（4面）、各縦169.3cm 横91.2cm（2面）
品　質	紙本墨画	施工会社	一般社団法人国宝修理装潢師連盟
修理内容	① 本紙の状態を記録・調査し、損傷状況を精査する。 ② 襖貼付装を解体し、本紙肌裏紙以外の旧裏打紙をおおよそ除去する。 ③ 仮裏打を行ったのち、剥落止めを施す。 ④ 本紙の汚れを適切に除去する。 ⑤ 本紙の旧肌裏紙及び旧補紙を適切に除去する。 ⑥ 本紙欠失箇所に補紙を施す。 ⑦ 本紙の色合いにあわせ、薄美濃紙を用いて新たに肌裏打ちを行う。 ⑧ 美栖紙などを用い、増裏・中裏を施す。 ⑨ 木製の組子下地を新調し、両面に6種8層の下張りを施して下地を作成する。 ⑩ 絵画3、5と合わせて作成した下地に本紙を貼り込む。表裏は修理前と同じ組み合わせとする。 ⑪ 新たに補った補紙に本紙の地色に合わせて補彩を施す。 ⑫ 新調した縁木を打ち、元の引手を使用して襖貼付装に仕立てる。 ⑬ 修理後の状態を記録し、修理報告書を作成して修理を完了する。		

7 名　称	四季花鳥図（しきかちょうず）	員　数	1式
作者時代等	江戸時代	寸 法 等	10面（大8面）　各縦169.5cm 横116.0cm
品　質	紙本金地著色	施工会社	一般社団法人国宝修理装潢師連盟
修理内容	① 本紙の状態を記録・調査し、損傷状況を精査する。 ② 襖貼付装を解体し、本紙肌裏紙以外の旧裏打紙をおおよそ除去する。 ③ 仮裏打を行ったのち、剥落止めを施す。 ④ 本紙の汚れを適切に除去する。 ⑤ 本紙の旧肌裏紙及び旧補紙を適切に除去する。 ⑥ 本紙欠失箇所に補紙を施す。 ⑦ 本紙の色合いにあわせ、薄美濃紙を用いて新たに肌裏打ちを行う。 ⑧ 美栖紙などを用い、増裏・中裏を施す。 ⑨ 木製の組子下地を新調し、両面に6種8層の下張りを施して下地を作成する。 ⑩ 絵画3、4と合わせて作成した下地に本紙を貼り込む。表裏は修理前と同じ組み合わせとする。 ⑪ 新たに補った補紙に本紙の地色に合わせて補彩を施す。 ⑫ 新調した縁木を打ち、元の引手を使用して襖貼付装に仕立てる。 ⑬ 修理後の状態を記録し、修理報告書を作成して修理を完了する。		

＜金工＞（1件）

1 名　称	短刀　銘勝家	員　数	1口
時　代	室町時代	寸 法 等	全長40.5cm　刃長28.5cm
品　質	鉄　鍛造	施工会社	玉置美術刀剣研磨処
修理内容	① 着手前及び修理途中に、現状調査(寸法・損傷状態等)・写真(デジタル)撮影により記録する。 ②　③に先立ち、表面の付着物に注意して汚れ等を除去し、現状記録を追加する。 ③ 本体を安全な工具・水・溶剤等を用いてクリーニングする。 ④ 作品保管のための白鞘を新調する。 ⑤ 修理後の写真(デジタル)撮影を行い、修理経過・使用材料等の記録をまとめた報告書を作成する。		

＜考古＞（4件）

1 名　称	西宮山古墳出土。 鉄剣残欠、金銅製飾金具残片	員　数	2ヶ
時　代	古墳時代	寸 法 等	現長58.6cm 身幅3.5cm。 長4.1cm。
品　質	鉄製・金銅・ガラス製	施工会社	公財）元興寺文化財研究所
修理内容	① 修理着手前に現状調査を行い、修理前、修理途中の写真(デジタル)撮影、及び現状を記録（寸法・損傷状態等）する。 ② 着手に先立ち、本体及び破片表面の付着物に注意して汚れ等を除去し、現状記録を追加する。 ③ 本体及び破片の旧修理補填材(泥･接着剤等)を除去する。 ④ 本体及び破片にアクリル系樹脂を樹脂含浸して強化する。 ⑤ 本体及び破片の接合関係調査を行い、仮接合して形状・変形等を確認する。 ⑥ 本体及び破片をアクリル系樹脂で接着する。 ⑦ 欠失部をエポキシ系樹脂等で補填・補強して復原する。 ⑧ 補填部に、周囲の色調に合わせた顔料を補彩して仕上げる。 ⑨ 修理後の写真(デジタル)撮影を行い、修理経過・使用材料等の記録をまとめた報告書を作成する。		

2 名　称	大阪府柏原市・藤井寺市 船橋遺跡出土品。 弥生土器 把手付埦、広口壺、無頸壺、蓋	員　数	4個
時　代	弥生時代・前2～前1世紀	寸 法 等	口径13.0cm、高6.7cm。胴径16.8cm、高21.8cm。胴径18.0cm、高13.0cm。直径12.6cm、高3.9cm。
品　質	土質	施工会社	㈱京都科学
修理内容	① 着手前及び修理途中に、現状調査(寸法・損傷状態等)・写真(デジタル)撮影により記録する。 ② ③に先立ち、表面の付着物に注意して除塵し、現状記録を追加する。 ③ 本体を石膏・泥・汚れなどを安全な工具・水・溶剤等を用いてクリーニングする。 ④ 欠失部は断面をアクリル系樹脂で保護した上で、エポキシ系樹脂等を用いて補填・補強し、復原する。 ⑤ 補填・復原部は内外面を周囲の色調に合わせた顔料で、違和感ないように補彩して仕上げる。 ⑥ なお、体部孔は③クリーニング後、状態検討の上、意図的な穿孔であれば④～⑥は施工しない。 ⑦ 修理後の写真(デジタル)撮影を行い、修理経過・使用材料等の記録をまとめた報告書を作成する。		

3 名　称	兵庫県宝塚市 長尾山丘陵古墳群出土品。 須恵器 短頸壺、提瓶、高杯、杯蓋、杯身、蓋	員　数	6個
時　代	古墳時代・6世紀	寸 法 等	口径6.0cm、高6.7cm。最大径13.5cm、高16.2cm、胴部厚9.0cm。口径11.2cm、高11.4cm。最大径15.2cm、高3.8cm。直径14.5cm、口径12.5cm、高4.3cm。直径14.5cm、高4.6cm、つまみ部径3.3cm。
品　質	陶質	施工会社	㈱京都科学
修理内容	① 着手前及び修理途中に、現状調査(寸法・損傷状態等)・写真(デジタル)撮影により記録する。 ② ③に先立ち、表面の付着物に注意して除塵し、現状記録を追加する。 ③ 本体を石膏・泥・汚れなどを安全な工具・水・溶剤等を用いてクリーニングする。 ④ 欠失部は断面をアクリル系樹脂で保護した上で、エポキシ系樹脂等を用いて補填・補強し、復原する。 ⑤ 補填・復原部は内外面を周囲の色調に合わせた顔料で、違和感ないように補彩して仕上げる。 ⑥ 修理後の写真(デジタル)撮影を行い、修理経過・使用材料等の記録をまとめた報告書を作成する。		

4 名　称	兵庫県たつの市日山に所在した西宮山古墳出土品。 須恵器 杯蓋、杯身、杯身	員　数	3個
時　代	古墳時代・6世紀	寸 法 等	直径15.2cm、高5.4cm。直径15.2cm、口径12.3cm、高3.6cm。直径15.5cm、口径13.0cm、高4.2cm。
品　質	陶質	施工会社	(株)東都文化財保存研究所
修理内容	①　着手前及び修理途中に、現状調査（寸法・損傷状態等）を行い、写真(デジタル)撮影画像と共に記録する。 ②　③に先立ち、表面の付着物に注意して除塵し、現状記録を追加する。 ③　本体及び破片の旧修理材料(接着剤等)を除去し、解体する。 ④　本体及び破片の石膏・泥・汚れなどを安全な工具・水・溶剤等を用いてクリーニングする。 ⑤　本体及び破片の接合関係を調査し、仮接合する。 ⑥　本体及び破片をアクリル系樹脂を用いて、接着する。 ⑦　欠失部をエポキシ系樹脂等を用いて補填・補強し、復原する。 ⑧　補填部は内外面を周囲の色調に合わせた顔料で、違和感ないように補彩して仕上げる。 ⑨　修理後の写真(デジタル)撮影を行い、修理経過・使用材料等の記録をまとめた報告書を作成する。		

【奈良国立博物館】（計7件）

＜絵画＞（3件）

1 名　称	絹本著色聖徳太子絵伝（けんぽんちゃくしょくしょうとくたいしえでん）	員　数	2幅
時　代	鎌倉時代　14世紀	寸 法 等	(第1幅)縦157.8cm　横86.5cm　(第2幅)縦157.2cm　横86.7cm
品　質	絹本著色	施工会社	(株)文化財保存
修理内容	解体修理。本紙料絹の欠失や折れ、裏打紙の劣化などの構造的な不具合を改善するために、表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。表装解体後、濾過水の噴霧によるクリーニングを施し、乾式肌上げ法によって旧肌裏紙を除去。膠着力の低下した絵具層に、膠などの接着剤を用いて剝落止めを行う。旧補絹を全て除去した後、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。横折れを軽減するために裏面から薄楮紙のごく細い帯を貼り付けて補強する折れ伏せを施し、本紙料絹の色調に合わせて新調した裏打紙（肌裏紙・中裏紙・増裏紙・総裏紙）をあてる。表装裂は全て新調して二段仏表具に仕立てる。上下軸・啄木・桐製太巻添軸も新調。桐製印籠箱を新調し、旧箱蓋と旧上巻絹の墨書を本紙とともに収納。（継続3か年事業のうち第2年目）		

2 名　称	絹本著色春日宮曼荼羅（けんぽんちゃくしょくかすがみやまんだら）	員　数	1幅
時　代	鎌倉時代　14世紀	寸 法 等	縦141.5cm　横41.4cm
品　質	絹本著色	施工会社	(株)文化財保存
修理内容	解体修理。本紙料絹の強い横折れ、裏打紙の劣化などの構造的な不具合を改善するために、表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。まず濾過水を噴霧して吸取紙に汚れを吸収させるクリーニングを施す。旧肌裏紙の除去に際しては乾式肌上げ法を採用する。膠着力の低下した絵具層に、膠などの接着剤を用いて剝落止めの処置を行う。旧補絹は全て除去して、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。新調した美濃紙による肌裏打ち、美栖紙による中裏打ち、宇陀紙による総裏打ちを施し、折れを軽減するために折れ伏せを施す。表装裂・上下軸木・啄木は新調し、軸首は再利用。桐太巻添軸・包裂・桐印籠箱・裂貼四方帙を新調。修理記録を整理し、報告書を作成する。		

3 名　称	絹本著色十二天像（けんぽんちゃくじゅうにてんぞう）	員　数	12幅
時　代	鎌倉時代　13～14世紀	寸 法 等	各縦199.7cm　横57.4cm
品　質	絹本著色	施工会社	(株)文化財保存
修理内容	解体修理。本紙料絹の強い横折れ、裏打紙の劣化等の構造的な不具合を改善するため、表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。まず濾過水を噴霧して吸取紙に汚れを吸収させるクリーニングを施す。旧肌裏紙の除去には乾式肌上げ法を採用する。膠着力の低下した絵具層に、膠などの接着剤を用いて剝落止めの処置を行う。旧補絹・旧補紙は全て除去して、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。新調した美濃紙による肌裏打ち、美栖紙による増裏打ち・中裏打ち、宇陀紙による総裏打ちを施し、折れを軽減するために折れ伏せを施す。表装裂・軸首は再使用、上下軸木・啄木等を新調して軸装に仕立てる。桐太巻添軸・包裂・桐印籠箱・裂貼四方帙を新調。修理記録を整理、報告書を作成する。		

＜彫刻＞（1件）

4 名　称	木造二十八部衆立像のうち迦楼羅王・五部浄居天（もくぞうにじゅうはちぶしゅうりゅうぞうのうちかるらおう・ごぶじょういてん）	員　数	2軀
時　代	鎌倉時代　13世紀	寸 法 等	像高　迦楼羅王53.5　五部浄居天55.5cm
品　質	木造	施工会社	（公財）美術院
修理内容	本格修理。［2軀共通］付着する埃は筆等で除去する。頭部や体側の矧目にみられる隙間や目違いは、必要に応じて解体し再接着を行う。解体が不要であれば、ヒノキ材等で隙間を埋め、形状を整える。過去の修理による変色等の見苦しい箇所は、古色や木屎漆をできるかぎり除去する。欠失箇所は、損傷進行の恐れがある場合は樹脂等で木質を強化、あるいはヒノキ材等で補足し安定を図る。損傷進行のおそれがない場合は、現状のままとする。足枘が緩く不安定な状態は、足枘または台座の足枘穴にヒノキ材の薄板等を補足して安定を図る。別保存される部材は調査を行い、制作当初のものがあれば位置を検討して取り付ける。 ［迦楼羅王］ 亡失する両手先、天衣垂下部、持物は補足しない。左右翼は一旦取り外し、過去の修理箇所を除去あるいは補修し、再接合する。右足下の後補の襠材は除去し、形状の適合する襠材を補足する。 ［五部浄居天］ 亡失する右手首先、天衣垂下部左方分、持物は補足しない。天衣垂下部右方分は、取り付け位置及び形状を検討し、形状が不適合であれば取り外して別保存とする。使用可能で、取り付け位置の変更が必要であれば、一旦取り外して適切な位置に付ける。象の鼻先及び左耳後方部は、後補材を除去し、ヒノキ材で新補する。左足先は、一旦取り外して、はみ出した接着剤を除去後、目違いを修整して再接合する。背面臀部左に貼り付けられた紙の符丁は取り外し、別保存とする。内側に落ち込んだ右目の玉眼は、可能であれば頭部を解体して位置を修整する。頭部の解体ができない場合は、できるかぎり玉眼が彫刻面に沿うよう補修する。		

＜漆工＞（2件）

5 名　称	金銅装山伏笈（こんどうそうやまぶしおい）	員　数	1背
時　代	室町時代（15～16世紀）	寸 法 等	笈：幅55.3cm 奥行27.5cm 高76.3cm　五仏：像高10.7～11.2cm
品　質	笈：木製 漆塗 金銅装　五仏：木造 漆箔 玉眼	施工会社	北村工房
修理内容	①笈本体は全体にクリーニングを行い、上段の扉は外して、割損部に刻苧漆を充塡して補強する。欠失した端喰の復元は行わない。木地接合部に生じた亀裂は、破損の進行が危惧される箇所に刻苧漆を充塡して補強する。虫蝕部は、状況に応じてアクリル系樹脂や刻苧漆を充塡して補強する。帖木の欠損部は補わず、刻苧漆等で形状を整える。脚部の木地損傷部分は、刻苧漆で形状を整える。金具の歪みやめくれは修整する。欠失した棚板は、ヒノキ材で補作し、色調を合わせて仕上げる。なお、刻苧漆による処置を行った箇所は、表面を研磨するなどして周囲と調和するように仕上げる。鋲や釘の欠失は、損傷移行に至らない場合は現状のままとし、補足は必要最小限とする。②扉絵は、ドライクリーニング、剝落止めを行った上で、全面に養生貼りした後に、加湿して扉板より外す。取り外した扉絵は、濾過水を使用したクリーニング、欠失箇所の補塡と裏打ちを行い、扉板に細かく浮け張りを施した後に、貼り戻す。基本的に料紙の皺は伸ばさず、現状を維持する。また補彩も行わない。③五仏は埃を除去した上で、樹脂等を用いて漆箔の剝落止めを行う。金具類は折れ・歪みを修整する。なお、欠失部の補塡は行わない。また胸部の釘痕は現状のままとし、胸飾の補足も行わないものとする。動揺する光背はいったん取り外し、取り付け部の調整を行った上で復位する。台座や指先、髻などの欠失部は、必要に応じて樹脂等で補強・修整するが、基本的に補足は行わず現状のままとする。台座蓮弁の割損箇所は、樹脂等で接着するが、欠失の補足は行わない。光背の接着痕は有機溶剤等で除去する。なお、別保存する光背の残欠は形状不適合のため復位しない。補修箇所には全て古色を施す。下水板付の保存箱を作製し、五仏を収める。なお、①～③のいずれの工程においても、事前に十分な調査を行い、事後には修理前・中・後を記録した報告書を作成する。（2か年事業のうち第2年目）		

6 名　称	藤松蒔絵軸箱（ふじまつまきえじくばこ）	員　数	1合
時　代	室町時代　15世紀	寸 法 等	縦64.1cm　横16.4cm　高14.2cm
品　質	木製　黒漆塗　金銀蒔絵　銀切箔　金銅金具	施工会社	北村工房
修理内容	①修理前の写真撮影と事前調査を行い、修理計画を確認する。②漆塗膜の欠失部周辺など二次的な破損の危険性のある箇所に雁皮紙と澱粉糊を用いて養生貼りを行う。③漆塗膜に負担のかからない範囲でクリーニングを行う。④亀裂の生じている箇所には希釈した麦漆を注入して内部を強化した上で、隙間に刻苧漆を充塡して補強する。⑤虫損部は木地を漆で強化した後、刻苧漆や漆下地を充塡して形状を補う。⑥全面に漆固めを行い、漆塗膜の強化を図る。⑦漆塗膜の剝離部分は、可能な限り平滑となるよう麦漆などで接着する。⑧小型の破損部は漆下地などで形状を整える。⑨新たに漆下地を施した部分の表面を研磨して整形した後、周囲と調和するよう仕上げる。⑩欠失する金具の釘は、新調した真鍮釘を補う。緩んだ釘は所定の位置で打ち直す。⑪破損した収納箱の蓋を接合し、補強する。⑫木製の保存箱を新調する。⑬修理後の写真撮影を行い、報告書を作成する。		

＜考古＞（1件）

7 名　称	金銅製龍文鋲帯金具・金銅製三葉文鋲帯金具（五條猫塚古墳出土） （こんどうせいりゅうもんかたいかなぐ・こんどうせいさんようもんかたいかなぐ ごじょうねこづかこふんしゅつど）	員　数	11片
時　代	古墳時代　5世紀	寸 法 等	金銅製龍文鋲帯金具：縦4.4×横6.3cm 金銅製三葉文鋲金具：縦3.9×横3.0cm
品　質	銅板製　鍍金	施工会社	(公財)元興寺文化財研究所
修理内容	①処理前の状態を写真撮影、肉眼・顕微鏡観察及び蛍光Ｘ線等の分析により銅板の品質把握と付着物の調査を行う。②銅錆や鉄錆、土、旧接着剤等のクリーニング。③樹脂含浸・塗布による強化処理、防錆処理を行う。④破断部分の強化処理。可能な部分は復元も試みる。⑤処理中に使用した薬剤名や写真記録、作業工程、費やした時間等の修理に関する情報を整理し、修理報告書を作成・納品する。		

【九州国立博物館】（計20件）

＜絵画＞（1件）

1 名　称	釈迦三尊図（しゃかさんぞんず）	員　数	3幅
時　代	中国　元時代　13-14世紀	寸 法 等	本紙：各 縦135.5cm　横77.2cm　表装：各 縦233.0cm　横99.1cm　軸長107.4cm
品　質	絹本著色　掛軸装	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、彩色の調査、料絹の情報について記録を行った後、本紙に負担がかからないように、掛軸装を解体し、少量の湿り（湿式）にて肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。その際、表装裂（中縁）や軸首は再使用するため慎重に解体する。2.洗浄 筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、吸取紙上に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行う。クリーニングによって微かな彩色の表現がより良く見えるようになることと、以降の作業において抱えている汚れによるシミや際付きを起こさないことを前提とし、過剰なクリーニングは行わない。3.強化・整形　工程毎に絵具層の膠著色のテストを行い、必要箇所に古典膠（東京文化財研究所　宇高健太郎氏作製）水溶液0.5～3%を用い剥落止めを行う。剥落止めは都度効果を確認し、必要に応じ繰り返し行う。膠水溶液を塗布する際にもその量は必要最低限に留め、膠による光沢などが出ないように細心の注意を払い行う。 4.補填 裏彩色が露出している箇所に、本紙と同組織の電子線劣化絹を選定し、本紙料絹の地色の色合いや周辺の色味を考慮した下染めを施した絹を用いて、画面表面より補絹を行う。5.解体 肌裏除去に際し、本紙表面に対して常温で抽出した布海苔水溶液にて3層の養生を施して本紙料絹を固定する。その後、裏面より作業箇所にのみ水分を与え最小限の湿りにて除去を行う乾式肌上法での肌裏除去を丁寧かつ慎重に行う。肌裏除去後、協議にて除去することとした旧補絹を除去する。 6.補填 本紙欠失箇所と本紙の周囲に、本紙と同組織の電子線劣化絹を選定し本紙料絹の色合いを考慮した下染めを施した絹を用いて、裏面より補絹を行う。7.強化・整形 本紙の色調に合わせ天然染料にて染色した薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。肌裏打ち後、さらに増裏紙においても本紙の色調を整えるため、天然染料を用いて染色した美栖紙にて古糊（新糊を10年程度涼暗所で保管した糊）を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。折れ伏せ後、もう一層増裏打ちを行う。8.接合・組立 再使用の表装裂地は補修を施し、新調裂地とともに薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊の混合糊を用いて本紙と裂との付け廻しを行う。9.強化・整形 本紙と裂の付け廻し後、掛軸装全体のバランスを整えるために、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻絹を用い、2段目以降は宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。10.補彩 本紙料絹の有する地色を基本として行い、それに加え現在の経年変化した料絹の状態を加味した色合いにも考慮し補彩を施す。最終的な調整としては欠失部周辺の状態にも応じ、鑑賞を行う上で支障のないように微調整を行う。11.接合・組立 座鎖、彫りを施した金鍍金金軸、八双、軸木、啄木等を新調し、掛軸装に仕立てる。12.収納 今後の新たな折れ・絵具層や画絹の損傷の進行を防ぐ為に、桐製太巻添軸を新調し、掛軸を太く巻き保存する。新調した羽二重の包み裂に本紙を包み、3幅入桐製印籠箱を新調し納める。（2年度より2か年継続事業）。		

＜書跡＞（2件）

2 名　称	重要文化財　鷹尾神社大宮司家文書 （たかおじんじゃだいぐうじけもんじょ）	員　数	93点（重要文化財341通のうち。このうち（91）～(94)の4点は令和元年に追加指定）
時　代	鎌倉～室町時代　13-16世紀	寸 法 等	(1)縦27.5cm横35.5cm　(2)縦25.6cm横33.5cm　(3)縦21.5横24.0cm　(4)縦26.1cm横39.0cm　(5)縦23.5cm横32.7cm　(6)縦30.3cm横34.2cm　(7)縦29.7cm横36.9cm　(8)縦32.2cm横57.8cm　(9)縦30.0cm横171.0cm　(10)縦32.2cm横48.3cm　(11)縦28.5cm横43.1cm　(12)縦28.1cm横71.5cm　(13)縦31.2cm横94.4cm　(14)縦33.2cm横52.6cm　(15)縦28.0cm横39.5cm(16)縦30.7cm横90.6cm　(17)縦27.2cm横72.2cm　(18)縦24.0cm横60.3cm　(19)縦24.5cm横26.7cm　(20)縦28.5cm横33.2cm　(21)縦28.0cm横38.2cm　(22)縦30.5cm横44.9cm　(23)縦27.9cm横45.7cm　(24)縦26.8cm横72.5cm　(25)縦27.6cm横41.2cm　※縦31.7cm横104.4cm(19号に続く)　(26)縦32.1cm横102.3cm　(27)縦30.5cm横43.3cm　(28)縦25.9cm横142.0cm　(29)縦26.8cm横35.2cm　(30)縦27.2cm横110.3cm　(31)縦29.9cm横41.9cm　(32)縦29.6cm横37.1cm　(33)縦31.7cm横51.3cm　(34)縦29.5cm横40.8cm　(35)縦26.2cm横69.4cm　(36)縦21.0cm横31.0cm　(37)縦25.8cm横32.1cm　(38)縦28.8cm横44.5cm　(39)縦30.3cm横189.4cm　(40)縦32.6cm横155.4cm　(41)縦30.5cm横232.8cm　(42)縦26.9cm横35.0cm　(43)縦28.4cm横46.1cm　(44)縦28.2cm横32.3cm　(45)縦31.8cm横117.2cm　(46)縦31.8cm横117.2cm　(47)縦27.5cm横30.0cm(48)縦30.0cm横36.8cm　(49)縦27.2cm横36.6cm　(50)縦28.5cm横38.5cm　(51)縦28.5cm横40.0cm　(52)縦26.5cm横43.8cm　(53)縦29.8cm横44.1cm　(54)縦29.8cm横43.3cm　(55)縦30.2cm横111.7cm　(56)縦46.9cm横43.0cm　(57)縦28.2cm横31.9cm　(58)縦27.4cm横36.8cm　(59)縦31.9cm横44.8cm　(60)縦29.3cm横37.9cm　(61)縦28.0cm横46.5cm　(62)縦32.5cm横38.8cm　(63)縦25.5cm横30.0cm　(64)縦23.4cm横46.3cm　(65)縦26.8cm横29.1cm　(66)縦27.5cm横34.0cm　(67)縦29.0cm横38.0cm　(68)縦29.2cm横26.8cm　(69)縦15.0cm横39.5cm　(70)縦25.6cm横34.1cm　(71)縦26.6cm横76.7cm　(72)縦26.2cm横39.4cm　(73)縦25.1cm横39.9cm　(74)縦22.4cm横43.9cm　(75)縦23.4cm横43.9cm　(76)縦28.6cm横109.2cm　(77)縦19.2cm横39.4cm　(78)縦24.0cm横37.2cm　(79)縦38.5cm横55.8cm　(80)縦27.7cm横123.1cm　(81)縦31.0cm横80.5cm　(82)縦27.0cm横37.2cm　(83)縦29.7cm横250.6cm　(84)縦27.9cm横227.9cm　(85)縦23.6cm横108.3cm　(86)縦21.4cm横120.6cm　(87)縦20.5cm横74.6cm　(88)縦29.2cm横982.6cm　(89)縦29.8cm横979.0cm　(90)縦24.6cm横19.1cm　(91)縦26.6cm横16.5cm　(92)縦27.0cm横76.0cm　(93)縦27.0cm横19.0cm
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体　本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や本紙のあらゆる情報について記録を行う。額装のものについては装丁を解体する。2.洗浄　筆や刷毛などによるドライクリーニングを行い、本紙に堆積した埃や塵を除去する。3.強化・整形（剥落止め）　墨の膠着力のテストを行い、必要に応じて膠水溶液を用いて剥落止めを行う。効果を確認し、必要に応じて都度繰り返し行う 。膠水溶液を塗布する際にもその量は必要最小限に留め、膠による光沢などが出ないようにする等細心の注意を払い行う。4.強化・整形（フラットニング）　折れや破損によって収縮した本紙を伸ばし、繊維の毛羽立ちを押さえて、あばれや皺を改善することで本紙を安全に扱えるようにするために、ゴアテックスを用いて軽い湿りを加えて軽い圧をかけ、平らに整える。5.解体　必要最小限の湿りを与え、裏打紙や旧補修・補強紙等を除去する。除去に際しては所有者や関係各所と協議の上で行う。6.補填　各本紙の紙質・状態に合わせて手漉きにて補修紙を作製し、欠失箇所 に手縫いにて補修を施す。竪帳については、漉き嵌めによる補修を、紙数が多い続紙についてはDIIPS法（象嵌式）による補修を施す。7.強化・整形　強度的に裏打ちが必要なものについては、所有者や関係各所との協議を行った上で裏打ちを行う。8.接合・組立　続紙については、所有者や関係各所との協議を行った上で、糊離れが生じていた紙継ぎ箇所を 新糊を用いて適正な位置に継ぎ直す。冊子については、新調した紙縒りを用い、元の形態に綴じ直す。9.収納等　竪紙（額装を解体した一紙を含む）、折紙、続紙、竪帳については、本紙を楮紙にて包み、新調した桐樫貪箱に収納し、油単を新調する。 2年度は6～9を施工。元年に追加指定された4点のうち竪帳3冊は以下の作業を行った。 1.修理前の写真撮影を行い、本紙の状態を調査記録する。2.綴じを外し、一紙の状態に解装する。3.必要に応じ、膠水溶液を用いて、墨の剥落止めを行う。4.漉き嵌めによる補修方法にて、欠失箇所に補修を施す。5.補修後、元の冊子装に仕立てる。6.本紙を楮紙で包み、竪紙等と同じ桐保存箱に納入する。7.修理後の写真撮影を行い、報告書を作成する（30年度より3ヵ年継続事業）		
所蔵者	個人蔵		

3 名　称	東大寺関係文書（とうだいじかんけいもんじょ）	員　数	1基
時　代	平安時代-安土桃山時代・11世紀-16世紀	寸 法 等	No.1：縦25.9cm　横22.7cm No.2：縦28.5cm　横42.7cm No.3：縦29.2cm　横42.0cm No.4：縦30.5cm　横40.0cm No.5：縦32.6cm　横54.0cm No.6：縦29.7cm　横45.6cm No.7：縦33.2cm　横50.4cm No.8：縦28.3cm　横43.1cm No.9：縦30.2cm　横33.6cm No.10：縦32.0cm　横48.5cm No.11：縦32.8cm　横44.8cm
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体 本紙を観察し、寸法・損傷状態を写真や記録に詳細に留め、本紙の繊維組成試験を含め、厚み・重量・密度・簀目・糸目・地合い等といった料紙情報について調査・記録を行う。2.洗浄（ドライクリーニング） 柔らかい刷毛や筆を使い、本紙表面に堆積した塵埃を除去する。3.強化・整形（剥落止め） 目視調査の限り、墨・朱の剥落止めは不要である可能性が高いが、修理前調査にて裏打紙除去等にあたっての水の使用に耐えうる膠着力を保持していないことが判明した場合は、膠水溶液を用いて剥落止めを行う。その場合、膠水溶液の塗布量は必要最小限に留め、膠による光沢などが出ないよう細心の注意を払って行う。4.解体及び洗浄（クリーニング） 裏面より濾過水（ポリプロピレン及び活性炭フィルターを通し水道水中の細かなゴミや塩素・ 鉄分を取り除いた水）を用いて湿りを与え、旧裏打紙を除去する。また、この際同時にクリーニングを行う。5.補填 各本紙の紙質に合わせて手漉きにて補修紙を準備・作製し、本紙欠失箇所に裏面より新糊を用いて手繕いにて補修を施す。6.強化・整形（フラットニング） 必要最小限の湿りにて本紙料紙の形状を整えた後、プレス乾燥させることにより全体の形状を整える。7.接合・組立 紙継ぎがある本紙（No.2）については、新糊を用いて継ぎ直す。8. 収納等 新調した中性紙ボードに修理後の本紙を一通ずつ収納してマット装とし、十一通をまとめて新調した中性紙箱に納入する。9.修理報告書 修理前・修理途中・修理後の画像、損傷状況、処置内容、使用材料、新知見等を掲載する。		

＜漆工＞（1件）

4 名　称	花鳥螺鈿箪笥（かちょうらでんたんす）	員　数	1基
時　代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	高142.3cm×縦42.0cm×横63.1cm
品　質	木製漆塗	施工会社	（同）大西漆芸修復スタジオ
修理内容	1.解体 箪笥の扉が開閉の際に下部で擦れている、蝶番の金具を取り外す。2.洗浄 クリーニング作業では、漆塗膜に傷が入らないように柔らかい毛棒で塵や汚れを払い落とす。漆塗膜に付着しているカビ汚れは、柔らかい木綿布や綿棒に極小量の水分を与えたもので少しずつ拭き取りながら除去作業を行う。必要に応じ弱いアルコールを使用した除去も行うが、高濃度での使用は行わない事とする。カビ汚れの下には、漆塗膜上に時代を感じさせる経年の汚れが残されていることから、必要以上にクリーニング作業は行わない事とする。過去の補修で塗られた黒色塗料は、溶剤を使用しながら柔らかい木綿布や綿棒で拭き取り、可能な限り除去を行う。ただし、螺鈿下に入り込んだ黒色塗料は除去が不可能なため現状のままとする。3.接合 木地構造の安定処置では、亀裂箇所に充填接着用に調合した麦漆を溶剤で希釈をして含浸し、構造の安定処置を行う。剥離塗膜の接着では、塗膜接着用に調合した麦漆を溶剤で希釈をして含浸し、圧着固定を行い塗膜の安定処置を行う。螺鈿の剥離箇所には、10%濃度の膠水を用いて剥離下に含浸し、圧着固定を行い螺鈿の安定処置を行う。4.強化・整形 箪笥を受ける甲板の隅金具が当たり木地が露出している箇所に生漆を含浸し強化する。5.補填 亀裂部と欠損部に刻苧の充填を行い形態の復元を行う。刻苧箇所に錆漆下地を付けて表面肌を整え、欠損部と周辺漆塗膜との段差を緩和させる。また、触手による再剥落を防止するため、塗膜際に極小量の錆漆下地を付ける。6.補彩 補填部分に漆固めを実施し、作品に合わせ色と質感を整える。7.組立 取り外していた扉は、開閉時に下部が擦れない位置で取り付けて仕上げる。その際、マイナスネジ頭の鋲は再利用をするか、オリジナルの釘に合わせて親補するか担当者と改めて協議をする必要がある。そのため、事前調査としてX線CT調査結果や解体時の状況、再利用が可能な耐久性であるのか検討した上で、担当者と相談して決定をする。8. 台脚上面には、箪笥設置時の損傷を回避するため養生板の新調を行う。扉の開閉時に、抽出の金具と扉裏が当たらないように薄紙や布を抽出上段から垂らして打損が生じないようにする。8.修理報告書 修理前・修理途中・修理後の画像、損傷状況、処置内容、使用材料、新知見等を掲載する。2年度は2～3を施工し、7のX線CT調査を行った。（31年度より2か年継続事業）		

＜染織＞（2件）

5 名　称	装飾布　幾何形結び文様更紗(ウンヤ手) （そうしょくふ　きかがたむすびもんようさらさ(うんやで)）	員　数	1枚
時　代	18世紀	寸 法 等	幅　226cm 長さ　322.5cm
品　質	木綿	施工会社	株式会社　松鶴堂
修理内容	1.解体糸での補修箇所の取り外しの際は生地や針穴の状態をよく観察し、縫い糸は短 く切りながら行う。欠失端口は本体の動きで崩れる可能性もあるため、必要な場合は薄葉紙などを一時的にあてて、糸で仮留めなどをして保護を行う。外した現補修糸は、紙包みかポリエチレン製袋に入れ別途保存し、作品と共に返　却する。現補修裂は、補修糸で縫い付けられているものは上記方法で糸を抜くことで取り外す。接着で留められている箇所は、接着剤の現状を見ながら、乾めくりと湿　り気の利用など方法を用いて取り外す。ピンセットを使用して接着の層を細かく砕きながら、補修裂の損傷と生地の伸びがおきないように留意して取り外す。2.洗浄ピンセットや柔らかい筆などを用いる。この表面清掃においても摩擦による本　体生地への影響も考えられるため、マイクロスコープなどによる生地表面の観察を行い、程度・方法を十分に検討する。工程を進めた上で生地の保存に対して、影響のある汚れの発見があった場合は、博物館に報告し、方針や方法を再度検討する。3.強化・整形（生地の折れ癖の緩和） 皺周囲の生地の織り目を整えつつ、少量の水を含ませた紙（蛍光染料不使用ティシュー）を不織布越しに本体に当てることで、皺の緩和に必要最低限の湿り気を本体生地に移す。少量の水分によって本体生地の繊維を柔らかくしたあと に、不織布越しに親水性の高い紙で本体生地を挟み、重しを置く。この紙を適宜交換し、与えた水分を取り除きつつ、折れ皺の緩和をする。工程の中では特に染色部分に留意し、染料の移動がないように作業を行う。生地、染料に影響が予想される場合には博物館修理担当者に報告し、方針や方法を再度検討する。使用による本体生地織り目の伸びが観察された場合は、博物館修理担当者に報告し形状を検討する。4.強化・整形（補修材料作製）一枚もので表裏に装飾がある作品の場合、補修材料は、作品への補強度や欠失周囲との視覚的な差などを考胞する必要がある。また作品全体の風合い、修理後の取り扱い時の順応性・安定性・軽量性とともに、保存性が高いことも材料に求められる。作品に直接触れることを考えると、その設定と作り方は本体に対して非常に重要な要素となる。上記を考慮した上で作製された補修裂及び補修糸を選択することで、必要以上に針・糸を入れることを避けることができ、結果的に作品の風合いの維持につながる要素の一つとなると考える。補修裂は、本作品の観賞上の妨げにならず、また風合いを損なわない生地を検討し、作製もしくは既存の生地から選択する。補修糸は、補強しつつも本体への負荷がない糸を目指し、しなやかで平ら目の糸形状で、その細さを経糸基準にして選択することで、生地に馴染む質感を持つ糸を作製する。また糸の撚りは、留め付けに必要な最低限の撚り（＝甘撚り）にすることで、さらに補修糸自体の本体への負荷も軽減する。現状では、上記に適するものとして補修糸は絹糸を想定する。補修糸、補修裂ともに候補を数種類用意し、博物館修理担当者と検討のうえ選択 する。選択された補強裂と補修糸は、本体生地の地色に合わせて視覚的に鑑賞を妨げることのない色に染色する。本体の文様に合わせて、同種の生地・糸で数種の色を用意することを想定する。染料は色合わせのしやすさと堅牢度を考慮して、化学染料（絹の場合は酸性染料、綿の場合は反応性染料もしくは直接染料が適切と考える）を選択する。色見本を染色して比較検討し、実際に使用するための染色を行う。5.強化・整形（補修）本体損傷部分の裏面から必要箇所のみに部分的または帯状に補修裂をあて、補修糸で縫い留めつける。この縫い留めも、縫いの位置や間隔・補修糸の引き具合が修理後の本体風合いに反映するため、必要最小限で効果が得られるような縫い方と補修裂の範囲を提案し、博物館修理担当者と検討し選択する。部分補修裂の周囲は、本作品が一枚ものであることから、裁ち目が修理後の取り扱いの妨げにならないように、補修裂の四辺を本体と補修裂の間に入れるように折り込んでから、本体に留め付ける。補修箇所と補修していない箇所のきわに、段差や風合いの差が極力僅少になるように、補修裂端の裁ち目の糸を数本抜いてほぐすなどの方法も施す。「修理工程1.解体」で取り外した現補修の更紗生地も、更紗の織り目を本体生地と合わせて元の位置に補修糸で留め付ける。この再用する更紗生地が、皺の緩和をおこなったあとの本体欠失箇所と寸法が合わない場合は、本修理の補修裂を当てるか否かを、博物館修理担当者と協議した上で進める。補修裂を裏面から縫い留めた後、表面から本体欠失箇所の端口を補修糸で綴じ付 ける。6.解体時に必要によって取り外した旧縫い糸や旧補修などは作品とともに返却する。		

6 名　称	朱地経縞衣裳（しゅじたてじまいしょう）	員　数	1領
時　代	琉球・第二尚氏時代　19世紀	寸 法 等	身丈116.0cm、肩幅・袖幅56.5（31.0/25.5）cm 、袖丈33.4cm、衿長99.0cm、衿幅14.5cm
品　質	単衣、琉服(返衿Ⅰ、付けづめ、マチあり、身幅はほぼ布幅)、袖口縫込み、揚げ 大別:織、織技法:平織、経縞、染技法:先染、形状:単衣、琉服(返衿Ⅰ、付けづめ、マチあり、身幅はほぼ布幅)、袖口縫込み、揚げ、布幅:34.5、経密:29.0、緯密:18.0、経糸素材:芭蕉・単・S、色糸絹、緯糸素材:芭蕉・単・撚無、模様:縞、配色:朱、淡朱、淡黄、緑、水色、紫	施工会社	株式会社　松鶴堂
修理内容	1.強化・整形（生地の折れ癖の緩和）少量の水を含ませた紙（蛍光染料不使用ティシュー）を不織布越しに本体に当てることで、皺の緩和に必要最低限の湿り気を本体生地に移す。少批の水分によって本体生地の繊維を柔らかくしたあとに、不織布越しに親水性の高い紙で本体生地を挟み、重しを置く。この紙を適宜に交換し、与えた水分を取り除きつつ、折れ皺の緩和をする。工程の中では染料と既存の染みなどの移動がないように留意して作業を行う。生地、染料に影響が予想される場合には博物館修理担当者に報告し、方針や方法を再度検討する。前述の通り、本工程は仕立ての解体をせずに行う。仕立て線に沿って、「左右袖」「左右身頃」「左右衽」「衿」といった部品ごとに、上記方法にて皺の緩和作業を進める。作品の前後で一枚の生地から成り立っている身頃と袖の山、そして衿周辺に、本工程の押しによる折れ線ができないように緩衝材を入れ、生地のワがつぶれないように作業を行う。2.強化・整形（補修材料作製）単衣である作品の場合、補修材料は、作品への補強度や欠失周囲との視覚的な差などを考慮する必要がある。また作品全体の風合い、修理後の取り扱い時の順応性・安定性・軽量性とともに、保存性が高いことも材料に求められる。作品に直接触れることを考えると、その設定と作り方は本体に対して非常に重要な要素となる。上記を考慮した上で作製された補修裂及び補修糸を選択することで、必要以上に針・糸を入れることを避けることができ、結果的に作品の風合いの維持につながる要素の一つとなると考える。補修裂は、本作品の観賞上の妨げにならず、また風合いを損なわない生地を検討し、作製もしくは既存の生地から選択する。補修糸は、補強しつつも本体への負荷がない糸を目指し、しなやかで平ら目の糸形状で、その細さを経糸基準にして選択することで、生地に馴染む質感のある糸を作製する。また糸の撚りは、留め付けに必要な最低限の撚り（＝甘撚り）にすることで、さらに補修糸自体の本体への負荷も軽減する。現状では、補修糸は絹糸を想定する。補修糸、補修裂ともに候補を数種類用意し、博物館修理担当者と検討のうえ選択する。選択された補強裂と補修糸は、本体生地の地色に合わせて視覚的に鑑賞を妨げることのない色に染色する。染料は色合わせのしやすさと堅牢度を考慮して、化学染料（絹の場合は酸性染料が適切と考える）を選択する。色見本を染色して比較検討し、実際に使用するための染色を行う。3. 強化・整形（補修）本体損傷部分の裏面から必要箇所のみに部分的に補修裂をあて、補修糸で縫い留めつける。この縫い留めは、縫いの位置や間隔・補修糸の引き具合が修理後の本体風合いに反映するため、必要最小限で効果が得られるような縫い方と補修裂の範囲を提案し、博物館修理担当者と検討し選択する。部分補修裂の周囲は、本作品が単衣であることから、裁ち目が修理後の取り扱いの妨げにならないように、本体と補修裂の間に入れるように四辺を折り込んでから、本体に留め付ける。補修箇所と補修していない箇所のきわに、段差や風合いの差が極力僅少になるように、補修裂端の裁ち目の糸を数本抜いてほぐすなどの方法も施す。補修裂を裏面から縫い留めた後、表面から本体欠失箇所の端口を補修糸で綴じ付ける。4.収納 養生の枕の大きさは、幅は左右の袖付、丈は衿下までの寸法を想定する。肩山と袖山については構造上、折れ線が生じ易いため、養生紙を入れるなどしてワを維持する方法を提案する。本体生地への摩擦による影響を考慮して、枕の外面となる材料には白絹羽二重を選択する。枕の中の材には、湿度を含みにくく、外側の羽二重生地の間から飛び出さないように加工をした薄いポリエステル製の綿を採用し、これを必要の厚みに調整する。枕で養生して折り畳まれた本体の大きさに合わせて、手がかり紐の付いた台紙を作製する。上記の台紙を内蔵する保存箱を作製する。共蓋の形式を想定する。台紙や箱に使用する材は、本作品が温湿度の管理された博物館環境で保存されること、また将来変更しやすいなどの点を考慮して、丈夫で軽量なボードを選択する。さらに、長期保存に適する材料のものを使用し、PAT試験に合格していることを念頭におく。修理中に回収した断片などは、作品と共に収納し返却する。		

＜考古＞（8件）

7 名　称	頭椎大刀（かぶつちのたち）	員　数	1振
時　代	古墳時代・7世紀	寸 法 等	全長117.0cm　刀身長97.0cm　茎長20.0cm　鞘元幅3.8cm　鍔幅9.8cm　柄幅3.7cm　身幅0.5cm
品　質	鉄製の刀身・金銅製の金具	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.洗浄　修理部分をアセトンや、綿棒やブラシ等を用いてクリーニングを行う。2.強化・整形　柄の銀線部分のほつれにパラロイドB72（アセトン希釈：15%程度）を塗布し、樹脂による強化を行う。その際、器表裏面の質感の変化を最小限となる様に注意する。3.接合・組立 外れている足金物と銀線のほつれ部分をパラロイドB72（アセトン希釈：30%程度）を塗布し接合する。4.収納等 大刀の形状に合わせて安定台座を製作する。台の基本材料は樹脂若しくは木材とし、アク リル塗装（艶消し黒）で仕上げる。大刀と台の調整は樹脂による受け（ベッド）製作する。5.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書を作成する。		

8 名　称	象嵌鉄刀　附　鞘 （ぞうがんてっとう　つけたり　さや）	員　数	1振
時　代	古墳時代・5-6世紀	寸 法 等	全長120.5cm　刀身長88.6cm　茎長23.3cm　ふくら幅3.2cm　関幅4.5cm 茎幅2.3cm　身厚0.7cm　鞘最大幅7.8cm
品　質	鉄刀・鞘　木片	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.洗浄 修理部分をアセトンや、綿棒やブラシ等を用いてクリーニングを行う。2.強化・整形 切先の断面にパラロイドB72（アセトン希釈：15%程度）を塗布し、樹脂による強化を行う。その際、器表裏面の質感の変化を最小限となる様に注意する。3.接合・組立 外れている切先をパラロイドB72（アセトン希釈：30%程度）を塗布し接合する。4.補彩 目立つ場合には行う。5.収納等 鉄刀と鞘の形状に合わせて安定台座を製作する。台の基本材料は樹脂若しくは木材とし、アクリル塗装（艶消し黒）で仕上げる。刀と台の調整は樹脂による受け（ベッド）製作する。また象嵌鑑賞用の鏡は、鉄刀を展示するケースの高さを御提示いただき、その高さで良く見える角度に固定する。6.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書を作成する。		

9 名　称	黄地鉢（きじはち）	員　数	1口
時　代	サーマーン朝時代・11-12世紀	寸 法 等	径19.0cm　高7.5cm　底径9.5cm
品　質	陶器	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.解体 接着剤や充填材料を、デザインカッターやリューターを用い除去して解体する。2.クリーニング 表面及び破断面に残る充填材料や泥を、アセトン、竹串、刷毛、綿棒等を用いて除去する。3.強化 破断面及び劣化した表面に、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン5%溶液）を塗布し、強化、養生する。4.接合 エポキシ樹脂（ハイスーパー5）を用いて破片を接合する。5.充填 欠落部へエポキシ樹脂（アラルダイドXNR-6504（主剤）XNH-6504（硬化剤））を充填した後、目地にアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン溶液）、マイクロバルーン、顔料を混合したものを充填する。6.補彩 樹脂充填部分にアクリル絵具で補彩を施す。7.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書を作成する。		

10 名　称	土偶（どぐう）	員　数	1点
時　代	縄文時代・前3000年～前2300年	寸 法 等	高17.8cm　幅13.4cm　厚6.3cm
品　質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.解体 接着剤や充填材料を、デザインカッターやリューターを用い除去して解体する。2.クリーニング 破断面に残る接着剤や充填材料を、アセトン、竹串、刷毛、綿棒等を用いて除去する。3.強化 破断面及び脆弱部分に、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン5%溶液）を塗布し、強化、養生する。4.充填 必要に応じて破断面にエポキシ樹脂（アラルダイドXNR-6504（主剤）XNH-6504（硬化剤））を充填した後、目地にアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン溶液）、マイクロバルーン、顔料を混合したものを充填する。5.補彩 樹脂充填部分にアクリル絵具で補彩を施す。6.台座作成 上半身に対して展示台を兼ねた安定台座を作成する。台座は木製で黒漆仕上げとする。土偶との接地面にはエポキシ樹脂製ベットを作成する。7.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書を作成する。		

11 名　称	土偶（どぐう）	員　数	1点
時　代	縄文時代・前3000年～前2300年	寸 法 等	高9.5cm　幅13.3cm　厚6.2cm
品　質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.クリーニング 表面の泥等の汚れを綿棒や刷毛等を用いて除去する。2.強化 亀裂部分と顔面欠失部分に、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン5%溶液）を塗布し、強化、養生する。3.復元・充填 残存部分を参考に、顔面の欠失部分をエポキシ樹脂（アラルダイドXNR-6504（主剤）XNH-6504（硬化剤））で復元する。目地にアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン溶液）、マイクロバルーン、顔料を混合したものを充填する。4.補彩 復元・充填部分にアクリル絵具で補彩を施す。5.台座作成 展示台を兼ねた安定台座を作成する。台座は木製で黒漆仕上げとする。土偶との接地面にはエポキシ樹脂製ペットを作成する。6.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書を作成する。		

12 名　称	壺形土器（つぼがたどき）	員　数	1点
時　代	続縄文時代・前2世紀～後1世紀	寸 法 等	最大径26.0cm、口径11.5cm、括部径8.0cm、底径8.0cm、高33.2cm
品　質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.クリーニング 内部や破断面の汚れを、デザインカッター、綿棒、刷毛等を用いて除去する。2.強化 破断面に、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン5%溶液）を塗布し、強化、養生する。3.復元・充填 残存部分を参考に、口縁部の欠失部分をエポキシ樹脂（アラルダイドXNR-6504（主剤）XNH-6504（硬化剤））で復元する。目地にアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン溶液）、マイクロバルーン、顔料を混合したものを充填する。4.補彩 復元・充填部分にアクリル絵具で補彩を施す。5.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書を作成する。		

13 名　称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	員　数	1点
時　代	続縄文時代・前2世紀～後3世紀	寸 法 等	最大径24.0cm、底径7.2cm、高27.0cm
品　質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.クリーニング 内部の汚れを、綿棒、刷毛等を用いて除去する。2.強化 剥離部分と亀裂部分に、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン5%溶液）を塗布し、強化、養生する。3.復元・充填 残存部分を参考に、剥離部分をエポキシ樹脂（アラルダイドXNR-6504（主剤）XNH-6504（硬化剤））で復元する。目地と亀裂部分にアクリル樹脂（パラロイドB72アセトン溶液）、マイクロバルーン、顔料を混合したものを充填する。4.補彩 復元・充填部分にアクリル絵具で補彩を施す。5.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書を作成する。		

14 名　称	福岡県指定有形文化財　重圏彩画鏡(1号甕棺) （じゅうけんさいがきょう（いちごうかめかん））	員　数	1点
時　代	弥生時代・前2世紀	寸 法 等	復元径27.3cm
品　質	青銅加彩	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.台座作成。作品の形状に合わせて安定台座を作成する。台の基本材料は木材もしくはアクリルとし、艶消し黒色等のアクリル塗装で仕上げるなどの方法が考えられるが、金属遺物に影響を与えない材料を念頭に博物館と協議の上、決定する。作品との接地部分はエポキシ樹脂で受けを作成する。作品の欠失部分の復元は、木板もしくはアクリル等でベースを作成し、その上に復元図面等を参考にしながら樹脂等で全体形状を簡略化して復元する。復元部分の彩色は、作品の基調色を単色で表現する。2.修理報告書作成。処置内容、使用材料、画像等を掲載する。		
所蔵者	九州歴史資料館所蔵		

＜歴史資料＞（6件）

15 名　称	広開土王碑拓本（こうかいどおうひたくほん）	員　数	4面
時　代	（採拓）昭和9年頃(1934年) （原碑）朝鮮・三国時代・414年	寸 法 等	第1面：上半分縦264.3cm　横148.0cm　下半分縦275.0cm　横145.0cm 第2面：縦528.0cm　横122.0cm　第3面：縦532.0cm　横178.0cm 第4面：縦530.0cm　横120.0cm
品　質	拓本　折り畳み	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体　本紙を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査紙のあらゆる情報について記録を行う。2.強化・整形（剥落止め）　膠着力の低下や、表面の擦れにより不安定になっている墨に、兔膠水溶液1～2%を用いて剥落止めを行う。膠水溶液を塗布する際、その量は必要最小限に留め、膠による光沢などが出 ないように細心の注意を払い行う。3.洗浄　筆や刷毛などによるドライクリーニングを行う。その後、本紙下に吸取紙を敷き、濾過水（水道水をポリプロピレン及び活性炭フィルターに通し、水道水中の細かなゴミや塩素・鉄分を取り除いた水。以下同）を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行う。その際、現状の作品の風合いを損なわないようにするため、過剰なクリーニングは行わず、以降の作業において抱えている汚れによりシミや際付きを起こさないことを前提とする。4.強化・整形（剥落止め）　再度、墨に兔膠水溶液1～2%を用い、剥落止めを行う。5.補填（補修）　本紙と同質の繊維による補修紙を準備・調整し、小麦澱粉糊（新糊）を用いて欠失箇所の補修を行う。また、補修紙を用いて本紙の四方周囲に足し紙をする。補修紙は、本紙と補修紙の重なりによる凹凸 が最小限になるように補修紙の糊代部分を削り、補修を行う。また、料紙の継ぎ及び旧補填箇所の重なりも最小限になるよう極力削り、平滑にする。6.強化・整形　本紙の色調に合わせ天然染料にて染色した薄美濃紙にて、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。7.接合・組立　肌裏打ち後、美栖紙にて古糊（新糊を10年程度涼暗所で保管した糊）を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。折れ伏せ後、もう一層増裏打ちを行う。表装裂地を新調し、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、美栖紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊の混合糊を用いて本紙と裂を付け廻し、袋表装の形に仕立てる。8.強化・整形　本紙と裂の付け廻し後、掛軸装全体のバランスを整えるために、美栖紙にて古糊を用いて中裏打ちを2層行う。中裏打ち後、宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。9.接合・組立　軸首、上下軸木、啄木、打込鐶等を新調し、掛軸装に仕立てる。10.収納等　新調した4幅入り中性紙箱に納入する。2年度は第3面を施工（30年度より4か年継続事業）。		

16 名　称	重要文化財 対馬宗家関係資料 （つしまそうけかんけいしりょう）	員　数	20箱1～9巻
時　代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	第一巻　縦20.3cm　横1,509.1cm 第二巻　縦20.2cm　横1,655.5cm 第三巻　縦20.2cm　横2,390.5cm 第四巻　縦20.0cm　横2,372.0cm 第五巻　縦21.9cm　横3,848.3cm 第六巻　縦20.7cm　横2,222.5cm 第七巻　縦20.3cm　横3,965.0cm 第八巻　縦20.1cm　横2,887.1cm 第九巻　縦34.4cm　横343.3cm
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損低状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や本紙のあらゆる情報について記録を行った後、本紙に負担が掛からないように巻子装を解体する。2.洗浄 筆や刷毛などによるドライクリーニングを行う。本紙下に吸取紙を敷き、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行う。その際、現状の作品の風合いを損なわないようにするため、以降の作業において抱えている汚れにより染みや際付きを起こさないことを前提として、過剰なクリーニングは行わず、必要最小限の水の量によるクリーニングに留めることとする。3.強化・整形（剥落止め） 墨の膠着力のテストを行い、必要に応じて免膠水溶液1～2%を用いて剥落止めを行う。膠水溶液を塗布についても必要最低限に留め、膠による光沢などが出ないように細心の注意を払い行う。4.解体 湿式肌上げ法により本紙の旧裏打紙を除去した後、旧補修紙を除去する。5.補填 本紙の紙質に合わせた補修紙を作製し本紙欠失箇所に補修を行う。補修紙の作製はDIPS法にて作製する。表紙裂については、表紙裂と同組成の補修絹に具引き加工を施し、欠失箇所に補絹を施した後に基調色による地色にて補彩を行う。6.強化・整形（裏打ち）。薄美濃紙を、自社で炊いた小麦澱粉糊（新糊）を用いて新たに肌裏打ちを行う。7. 接合・組立。肌裏打ち後、本紙折れ箇所及び今後折れが発生すると思われる箇所に細かく裁断した美濃紙にて折れ伏せを施す。総裏紙には強度が高く滑らかな楮と雁皮の混合紙（3：7）を採用し、十分な接着強度があり巻子装に必要な柔軟性を併せ持つ混合糊（新糊とフノリの混合）にて総裏を打ち、仮張りをして十分に乾燥させる。表紙、見返し、軸巻紙、中軸、八双、軸首、紐は全て再使用し、十分乾燥させた本紙を仮張りより取り外して全紙を継ぎ合わせ、表紙、見返しを貼り合わせて継ぎ、巻子装に仕立てる。8.補彩 表装裂の補修箇所に補彩を行う。欠失部（補絹箇所）周辺の状態を考慮し、巻子装の顔となる表紙の鑑賞を行う上で支障のないよう、所有者と協議の上で最終的な微調整を行う。8.収納等 折れの発生を防ぐため、修理後は桐太巻添軸を新調して太く巻き、これまでの納品仕様と合わせウコン染め包裂に包み元箱に納入する。（2年度より3か年継続事業）。		

17 名　称	豊臣秀吉朱印状（とよとみひでよししゅいんじょう）	員　数	1幅
時　代	安土桃山時代・天正18年(1590)	寸 法 等	本紙：縦21.5cm　横58.3cm 表装：縦105.0cm　横60.8cm　軸長（左軸首外れ)63.5cm
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.墨箇所に対し、膠水溶液を用いて剥落止めを行う。2.上下軸木を取り外し、表装の解体を行う。3.濾過水（オルガノ製活性炭及びコットンフィルターを使用し、水道水中のゴミや塩素・鉄分を取り除いた水）を画面表面に噴霧し、本紙下に敷いた吸取紙に汚れを移動させる方法にて汚れの除去を行う。4.汚れの除去後、再度墨箇所の剥落止めを行う。5.本紙裏面より最小限の湿りにて旧肌裏紙の除去を行う。6.本紙裏面より損傷箇所及び四方周囲に本紙と同質の補修紙にて補修を行う。7.薄美濃紙にて、新糊を用い新たに肌裏打ちを行う。8.美栖紙にて、古糊（新糊を10年間涼暗所で保管した糊）を用い増裏打ちを行う。9.折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、細く切った薄美濃紙にて、新糊を用い折れ伏せを施す。10. 全ての表装裂地を新調し、肌裏打ち及び増裏打ちを行う。11.本紙と表装裂地とを三段表具の形に付け廻しする。12.美栖紙にて、古糊を用いて中裏打ちを行い、仮張りをする。13.宇陀紙にて、古糊を用いて総裏打ちを行い、仮張りして充分な乾燥期間をおく。14.補修箇所に本紙基調色にて補彩を施す。15.新調した軸首、上下軸木、啄木等を取り付け、掛軸装に仕立てる。16.桐製太巻添軸、桐製印籠箱を新調し、本紙を納入する。		

18 名　称	島津氏関係文書（しまづしかんけいもんじょ）	員　数	38通
時　代	室町時代-江戸時代・15世紀-19世紀	寸 法 等	島津義久書状：縦24.5cm　横39.7cm、伊地知重周書状：縦28.3cm　横38.0cm 長崎内蔵助書状：縦28.9cm　横37.3cm、新納忠清書状：縦16.7cm　横49.0cm 山野田忠通書付：縦13.7cm　横39.4cm、市来宗友書状：縦27.8cm　横33.8cm 鎌田政良書状：縦16.1cm　横14.3cm、島津氏老中連署書状：縦15.5cm　横33.0cm 伊地知安心書状：縦15.7cm　横42.6cm、島津久慶書状：縦33.6cm　横45.9cm 島津維新書状写：縦34.0cm　横33.3cm、肝付兼続和歌書付：縦23.4cm　横3.2cm 島津久元書状：縦31.5cm　横45.0cm、相良頼兄書状：縦32.2cm　横50.5cm 渋谷重将書状：縦17.9cm　横52.8cm、川上久国書状：縦18.0cm　横50.8cm 島津氏家臣連署書状：縦30.2cm　横51.0cm、中西秀長書状：縦26.9cm　横37.3cm □□満静書状：縦17.9cm　横72.5cm、梅田木工書付：縦14.6cm　横62.5cm 本田親純書状：縦20.6cm　横26.5cm、樺山久初書状：縦15.6cm　横40.8cm 平山友知書状：縦30.2cm　横46.4cm、喜入久正覚：縦33.1cm　横35.0cm 長井利貢書状：縦26.0cm　横43.0cm、頴娃久秀書状：縦16.1cm　横42.3cm 伊勢貞昌書状：縦17.4cm　横50.8cm、某書状：縦28.2cm　横45.0cm 乍憚口上覚：縦26.2cm　横24.8cm、仁礼頼安書付：縦34.1cm　横19.2cm 新納久了書状：縦15.0cm　横26.7cm 長井利貢書状写：第1紙：縦18.4cm　横51.6cm、第2紙：縦18.4cm　横52.1cm、第3紙：縦18.6cm　横51.4cm、第4紙：縦18.0cm　横50.8cm 八木豊信書状：縦24.8cm　横30.5cm、伊勢貞長書状：縦30.4cm　横46.4cm 島津忠広書状：縦20.6cm　横34.5cm、島津公久書付：縦29.3cm　横42.5cm 仁礼頼景書状：縦32.0cm　横44.0cm、島津家久書状：縦32.9cm　横41.7cm
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体 本紙を観察し、寸法・損傷状態を写真や記録に詳細に留め、本紙の繊維組成試験を含め、厚み・重量・密度・簀目・糸目・地合い等といった料紙情報について調査・記録を行う。折帖装を解体し、本紙を一通ずつ裏打紙ごと台紙より取り外す。2.洗浄（ドライクリーニング）柔らかい刷毛や筆を使い、本紙表面に堆積した塵埃を除去する。3.強化・整形（剥落止め）目視調査の限り、墨の剥落止めは不要である可能性が高いが、修理前調査にて裏打紙除去等にあたっての水の使用に耐えうる膠着力を保持していないことが判明した場合は、膠水溶液を用いて剥落止めを行う。その場合、膠水溶液の塗布量は必要最小限に留め、膠による光沢などが出ないよう細心の注意を払って行う。4.解体及び洗浄（クリーニング）裏面より濾過水（ポリプロピレン及び活性炭フィルターを通し水道水中の細かなゴミや塩素・鉄分を取り除いた水）を用いて湿りを与え、旧裏打紙を除去する。また、この際同時にクリーニングを行う。その後、旧補修紙を除去し、本紙の形態を改変された箇所、封紙を取り外す。5.補填 各本紙の紙質に合わせて手漉きにて補修紙を準備・作製し、本紙欠失箇所に裏面より新糊を用いて手繕いにて補修を施す。6.強化・整形 裏打ちが必要なものについては、薄楮紙にて新糊を用いて裏打ちを施す。7.接合・組立本紙の形態が改変されているものについては、新糊を用いて元の形に継ぎ戻す。8.収納等 新調した中性紙ボードに修理後の本紙を一通ずつ納入してマット装とする。封紙・極札は補修を施して本紙と並べてマット装に納める。横寸法の長い本紙については、必要に応じて仮巻芯にて巻く。マット装に収納した本紙、仮巻した本紙を新調した中性紙箱に納入する。		

19 名　称	額字「松本寺」（がくじ「しょうほんじ」）	員　数	1幅
時　代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙：縦28.7cm　横53.9cm　裏貼紙「がく覚」：縦24.6cm　横35.5cm 表具：縦113.5cm　横54.0cm　軸張り70.0cm
品　質	紙本墨書	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.墨箇所に対し、膠水溶液を用いて剥落止めを行う。2.上下軸木を取り外し、表装の解体を行う。3.濾過水（オルガノ製活性炭及びコットンフィルターを使用し、水道水中のゴミや塩素・鉄分を取り除いた水）を画面表面に噴霧し、本紙下に敷いた吸取紙に汚れを移動させる方法にて汚れの除去を行う。4.汚れの除去後、再度墨箇所の剥落止めを行う。5.本紙裏面より最小限の湿りにて旧肌裏紙の除去を行う。6.本紙裏面より損傷箇所及び四方周囲に本紙と同質の補修紙にて補修を行う。7.薄美濃紙にて、新糊を用い新たに肌裏打ちを行う。8.美栖紙にて、古糊（新糊を10年間涼暗所で保管した糊）を用い増裏打ちを行う。9.折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、細く切った薄美濃紙にて、新糊を用い折れ伏せを施す。10.全ての表装裂地を新調し、肌裏打ち及び増裏打ちを行う。11.本紙と表装裂地とを三段表具の形に付け廻しする。12.美栖紙にて、古糊を用いて中裏打ちを行い、仮張りをする。13.宇陀紙にて、古糊を用いて総裏打ちを行い、仮張りして充分な乾燥期間をおく。14.補修箇所に本紙基調色にて補彩を施す。15.新調した軸首、上下軸木、啄木等を取り付け、掛軸装に仕立てる。16.桐製太巻添軸、桐製印籠箱を新調し、裏面文書と共に本紙を納入する。		

20 名　称	佐州金銀採製全図 （さしゅうきんぎんさいせいぜんず）	員　数	1巻
時　代	江戸時代・嘉永6年(1853)写	寸 法 等	本紙：縦30.0cm　横2591.9cm 表装：縦30.0cm　横2664.0cm　軸長32.5cm
品　質	紙本著色	施工会社	修理工房　宰匠株式会社
修理内容	1.解体 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や絵具の状態等の情報について記録を行った後、本紙に負担がかからないように巻子装を解体し、本紙の継ぎを取り外す。2.強化・整形（剥落止め） 膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている墨及び彩色絵具に、兔膠水溶液1～3%を用いて剥落止めを行う。膠水溶液を塗布する際は必要最低限の量に留め、膠による光沢などが出ないように細心の注意を払い行う。膿脂については、耐水性をテストし、必要に応じシクロドデカンを用いて防水加工を施した上で剥落止めを行う。3.洗浄 筆や刷毛などによるドライクリーニングを行う。4.強化・整形（剥落止め） 膿脂の耐水性をテストし、必要に応じシクロドデカンを用いて防水加工を施した上で剥落止めを行う。5.洗浄 吸取紙上に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行う。汚れの除去は以降の作業において抱えている汚れにより染みや際付きを起こさないことを前提とし、現状の作品の風合いを損なわないよう過剰なクリーニングは行わず、必要最小限の汚れの除去に留めることとする。6.強化・整形（剥落止め）絵具層の膠着力のテストを行い、必要に応じて墨、彩色絵具に兔膠水溶液1～3%を用い、再度剥落止めを行う。7.解体 裏打紙の糊浮きが著しいこともあり、基本的には湿りを与えずに裏打紙を除去する。湿りを与えずに除去できない部分にのみ、本紙裏面より必要最小限の湿りを与えて除去を行う。8.補填 本紙と同質の繊維による補修紙を準備調整し、自社で炊いた小麦澱粉糊（新糊）を用いて補修を行う。本紙と補修紙の重なりによる凹凸が最小限になるように、補修紙の糊代部分を削って補修する。9.強化・整形（肌裏打ち） 本紙の色調に合わせ天然染料にて染色した薄美濃紙を、新糊を用い肌裏打ちを行う。10.接合・組立 美栖紙にて古糊（新糊を10年程度涼暗所で保管した糊）を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。新調の表紙裂及び見返しを薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行う。仮張り後、表紙裂と見返しを合わせる。本紙を継ぎ合わせた後、楮と雁皮の混合紙を用い、新糊と布海苔抽出液の混合糊にて総裏打ちを行う。11.補彩 補修を施した箇所に視覚的に支障のないよう補彩を施す。本紙料紙の有する地色を基本とし、現在の経年変化した料紙の状態を加味した色合いを考慮し、地色補彩を施す。最終的な調整としては所有者と協議の上、鑑賞に支障のないように微調整を行う。12.接合・組立 軸首は再使用し、中軸、八双、紐は新調し、巻子装に仕立てる。13.収納等 今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐ為に、桐太巻添軸を新調し、巻子を太く巻き保存する。桐製印籠箱を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。		

1-(1)-③-6 文化財修理データのデータベース化件数

令和3年3月31日現在

		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館
合　計		220	13	137 (5,453)	70 (1,090)
絵　画		102	2	67 (2,258)	33 (391)
書　跡		37	0	27 (1,222)	10 (213)
彫　刻		39	0	22 (1,411)	17 (306)
建　築		0	0	0 (15)	0 (1)
金　工		0	0	0 (2)	0 (4)
刀　剣		102	1	0 (0)	0 (0)
陶　磁		1	1	0 (1)	0 (0)
漆　工		9	0	1 (40)	8 (117)
染　織		7	1	4 (197)	2 (23)
考　古		5	4	1 (18)	0 (0)
民族資料		2	0	2 (6)	0 (2)
歴史資料		9	0	9 (233)	0 (31)
和　書		1	1	0 (0)	0 (0)
写真資料		33	0	0 (0)	0 (0)
その他		5	1	4 (50)	0 (2)
東洋	絵　画	1	1		
	書　跡	1	1		
	彫　刻	0	0		
	金　工	0	0		
	陶　磁	0	0		
	漆　工	0	0		
	染　織	0	0		
	考　古	0	0		
	民　族	0	0		
法隆寺献納宝物		0	0		
黒田記念館収蔵品		0	0		
館史資料(収蔵品外)		0	0		

※ 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

※ 記載の件数は当年度新規入力件数、（ ）内は当年度までの新規入力件数の累計。

※ 京都国立博物館の（ ）内の記載については、24年度統計表まで、追加・更新件数を含む当年度のデータ入力の件数を記載していたが、25年度以降上記に統一している。

1-(2) 展覧事業
1-(2)-① 平常展
1-(2)-② 特別展等

1-(2)-①・②-1 来館者数推移（入館料別）(過去５か年 （後述の資料に記載）◎共通資料a-①

1-(2)-①・②-2 来館者数推移（展覧会別）(過去５か年 （後述の資料に記載）◎共通資料a-②

1-(2)-①・②-3 平常展・特別展・海外展 （後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-4 平常展の展示替件数 （後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-5 平常展の展示総件数 （後述の資料に記載）◎共通資料a-③

1-(2)-①-6 平常展来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-②-7 特別展来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-③ 観覧環境の向上等

1-(2)-③-1 観覧環境に関する来館者アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e
1-(2)-③-2 多言語表記に関する外国人アンケート （後述の資料に記載）◎共通資料e

1-(2)-③-3バリアフリー施設・設備の設置状況

令和3年3月31日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
トイレ(多目的トイレ、車いす対応)	18か所 （本館6、平成館3、東洋館2、法隆寺宝物館1、資料館1、黒田記念館2、正門プラザ2、庭園1）	8か所 （平成知新館4、明治古都館1、南門施設1（乳児ベッド併設）、屋外トイレ1、文化財保存修理所1）	3か所 （東新館1、地下回廊2）	9か所 （本体建物6、屋外3）
エレベータ(手すり、押しボタン、車いす対応)	10基 （本館1、平成館1、東洋館4、法隆寺宝物館1、黒田記念館2、表慶館1）	6基 （平成知新館4,東収蔵庫1） 昇降装置1基 （旧管理棟1）	4基 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、東新館1、西新館1）	2基 （本体建物）
スロープ	5か所 （本館、東洋館、法隆寺宝物館、表慶館、黒田記念館）	4か所 （平成知新館1、明治古都館1、南門施設1、文化財保存修理所1）	3か所 （なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、西新館1）	1か所 （通用口）
ハンディキャップ優先駐車	2台	3台	2台	23台
車椅子	27台 （正門・正門プラザ5、本館5、東洋館3、平成館11、法隆寺宝物館2、黒田記念館1）	15台 (検札2、平成知新館7、倉庫保管6)	16台	28台
乳幼児用設備	○ベビーカー 3台 ○ベビーシート 16か所 ○ベビーチェア 13か所 ○授乳室 1か所	○ベビーカー 8台 ○ベビーシート 12か所 ○ベビーチェア 11か所 ○授乳室 2か所	○ベビーシート 2か所 ○ベビーキープ 1か所 ○おむつ交換台 1か所	○ベビーカー 10台 ○ベビーシート 15か所 ○ベビーチェア 6か所 ○幼児用補助便座 6か所 ○授乳室 1か所
自動扉	61台(多目的トイレ含む)	33台(多目的トイレ含む)	13台	19台(多目的トイレ含む)
2年度整備事項			地図やピクトグラムなどを利用し、外国人来館者や障害者にもわかりやすい内容になるよう、館内看板などを更新した。また、館内看板などの4言語（日・英・中・韓）による表記を進めた。	ピクトグラムやユニバーサルデザインを取り入れた外国人や障がい者にもわかりやすい館内案内看板を作成した。また、以前より要望があった繁体字を追加した5言語（日・英・中（簡・繁）・韓）表記とした。

1-(2)-③-4 音声ガイド実施状況

令和3年3月31日現在

東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
2年度計（台）：	22,145台	2年度計（台）：	26,497台	2年度計（台）：	16,010台	2年度計（台）：	ー
・特別展「きもの KIMONO」	22,145台	・特別展「西国三十三所　草創1300年記念　聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」（日、英、中、韓）	9,961台	・御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」	4,333台	・特別展「中宮寺の国宝」（3.1.26～3.21）（貸出未実施）	ー
		うち日本語版	9,895台	うち日本語版	4,300台	うち日本語版	ー
（参考） 2年度ダウンロード件数		うち英語版	29台	うち英語版	14台	うち英語版	ー
・「トーハクなび」（リニューアル版）		うち中国語版	34台	うち中国語版	19台	うち中国語版	ー
Android版	1,875件	うち韓国語版	3台	うち韓国語版	0台	うち韓国語版	ー
iOS版	3,932件	・特別展「御即位記念　皇室の名宝」（日、英）	15,544台	・「第72回正倉院展」	9,960台		
アプリ端末貸出（日英）	12,307件	うち日本語版	15,479台	うち日本語版・一般向け	9,546台		
音声ガイド貸出（中韓）	18,655件	うち英語版	65台	うち日本語版・子供向け（東大寺博士版）	405台		
・「法隆寺宝物館30分ナビ」iOSアプリ	0件			うち英語版・一般向け	9台		
		名品ギャラリー（平常展）	992台	・なら仏像館名品展	1,717台		
		うち日本語版	936台	うち日本語版	1,660台		
		うち英語版	27台	うち英語版	22台		
		うち中国語版	27台	うち中国語版	34台		
		うち韓国語版	2台	うち韓国語版	1台		

1-(2)-③-5 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置

令和3年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
100%	100%	100%	100%
235件(外国語)	24件(外国語)	75件(外国語)	235件(外国語)
235件(日本語)	24件(日本語)	75件(日本語)	235件(日本語)

パネル等（パネルと同内容の配布資料・音声ガイドを含む）

【東京国立博物館】計235件(外国語)/235件(日本語)

・総合文化展（特集を除く）　141件（外国語）／141件（日本語）　含国宝室
・特集　94件（外国語）／94件（日本語）

【京都国立博物館】計24件(外国語)/ 24件(日本語)※1

・名品ギャラリー（特集展示等を除く）　7件（外国語）／7件（日本語）
・特別企画「文化財修理の最先端」　5件（外国語）／5件（日本語）
・特集展示「丑づくし―干支を愛でる―」　1件（外国語）／1件（日本語）
・特別企画「新聞人のまなざし―上野有竹と日中書画の名品―」　3件（外国語）／3件（日本語）
・特集展示「国宝「日本書紀」と東アジアの古典籍」　1件（外国語）／1件（日本語）
・特集展示「雛まつりと人形」　1件（外国語）／1件（日本語）
・パネル展示「修理工程　表装の構造」※2　1件（外国語）／1件（日本語）
・パネル展示「修理工程　仏画」※2　1件（外国語）／1件（日本語）
・パネル展示「修理工程　仏像」※2　1件（外国語）／1件（日本語）
・パネル展示「修理工程　漆工」※2　3件（外国語）／3件（日本語）

※1 26年9月より導入した4言語（日・英・中・韓）の音声ガイドを引き続き提供した。
※2 日・英・中・韓の4言語を併記

【奈良国立博物館】計75件(外国語)/75件(日本語)

・名品展（珠玉の仏たち）　7件（外国語）／ 7件（日本語）*1,*2
・名品展（珠玉の仏教美術）　4件（外国語）／ 4件（日本語）*2
・名品展（青銅器館）　12件（外国語）／12件（日本語）
・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」　4件（外国語）／ 4件（日本語）*2
・特別陳列「帝国奈良博物館の誕生」　3件（外国語）／ 3件（日本語）*2
・特集展示「新たに修理された文化財」　9件（外国語）／ 9件（日本語）*2(一部)
・特別陳列「お水取り」　3件（外国語）／ 3件（日本語）*2
・模型展示「仏像の手の形（印相）」　9件（外国語）／ 9件（日本語）
・模型展示「仏像の制作過程」　14件（外国語）／14件（日本語）
・パネル展示「奈良国立博物館の概要」　3件（外国語）／3件（日本語）*3
・パネル展示「奈良国立博物館の歴史」　3件（外国語）／3件（日本語）*3
・パネル展示「仏像の見方」　4件（外国語）／4件（日本語）*3

*1 28年4月よりなら仏像館において3言語（英・中・韓）の音声ガイドを提供。29年10月より日本語音声ガイドを追加提供した。
*2 日・英・中・韓の4言語を併記
*3 日・英・仏・中・韓の5言語を併記

【九州国立博物館】計 235 件(外国語)/ 235 件(日本語)

・文化交流展示（特集展示を除く）　159 件(外国語)/159 件(日本語)
・文化交流展示　特集展示等　76 件(外国語)/ 76 件(日本語)

特集展示「きゅーはく　どうぶつえん」　15 件(外国語)/ 15 件(日本語)
開館 15 周年記念特集展示　大宰府史跡指定 100 年記念「筑紫の神と仏」　8 件(外国語)/ 8 件(日本語)
開館 15 周年記念特集展示「しきしまの大和へ―奈良大発掘―」　28 件(外国語)/ 28 件(日本語)
「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ～」　2 件(外国語)/ 2 件(日本語)
開館 15 周年記念特集展示「織物に魅せられて　加賀前田家伝来の名物裂」8 件(外国語)/ 8 件(日本語)
新春特別公開「徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度」　5 件(外国語)/ 5 件(日本語)
特集展示「天神縁起の世界」　10 件(外国語)/ 10 件(日本語)

1-(3) 教育・普及活動等

1-(3)-① 教育活動の充実

1-(3)-①-1 学習機会の提供（過去5か年）

令和3年3月31日現在

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
○講演会等の回数					
東京国立博物館					
講演会等　実施回数	160回	125回	93回	97回	19回
講演会等　参加者数	21,453人	21,692人	12,206人	11,691人	52,032人
①講演会	32回	26回	23回	20回	10回
	9,153人	6,999人	6,249人	6,051人	29,875人
アンケート結果	88.00%	88.09%	86.16%	84.89%	―
（内訳）					
・月例講演会等	12回	12回	12回	10回	8回
	2,793人	2,716人	2,822人	2,630人	24,923人
アンケート結果	88.80%	89.57%	89.57%	84.75%	―
・記念講演会	14回	7回	7回	7回	0回
	5,048人	2,589人	2,189人	2,591人	0人
アンケート結果	93.00%	84.45%	85.24%	84.19%	―
・シンポジウム	2回(3日)	3回	1回	2回	2回
	579人	920人	250人	575人	4,952人
アンケート結果	―	83%	―	―	―
・テーマ別講演会	1回	0回	3回	1回	0回
	210人	0人	988人	255人	0人
アンケート結果	94.00%	―	84.20%	93.46%	―
・その他講演会	3回	4回	0回	0回	0回
	523人	774人	0人	0人	0人
アンケート結果	92.00%	―	―	―	―
②列品解説（ギャラリートーク等）	125回	96回	64回	71回	9回
	11,123人	14,026人	5,108人	4,791人	22,157人
③連続講座	1回（3日）	1回（2日）	1回（2日）	1回（2日）	0回
	947人	551人	728人	645人	0人
アンケート結果	96.80%	89.00%	88.50%	92.93%	―
④公開講座	2回	2回	5回	5回	0回
	230人	116人	121人	204人	0人
アンケート結果	100.00%	96.49%	100.00%	100.00%	―
京都国立博物館					
講演会等　実施回数	45回	32回	37回	28回	23回
講演会等　参加者数	5,132人	4,014人	4,357人	3,285人	1,435人
①土曜講座	38回	22回	19回	13回	7回
	4,123人	2,433人	1,969人	1211人	572人
アンケート結果	82%	83%	80%	85%	84%
②記念講演会	1回	4回	12回	9回	12回
	190人	800人	1,884人	1,465人	1,227
アンケート結果	―	86%	80%	81%	83%
③夏期講座	1回（3日）	1回（2日）	1回（2日）	1回（2日）	1回（2日）
	210人	212人	198人	201人	60人
アンケート結果	94%	90%	90%	78%	94%
④社会科教員のための向上講座	1回	1回	1回	1回	0回
	69人	49人	39人	50人	0人
⑤ギャラリートーク・シンポジウム等	4回	4回	4回	3回	3回
	540人	520人	267人	358人	248人
奈良国立博物館					
講演会等　実施回数	26回	26回	27回	25回	12回
講演会等　参加者数	3,518人	3,437人	3,569人	3,261人	847人
①特別展等講座	13回	13回	14回	13回	5回
	1,972人	2,141人	1,853人	1,838人	353人
アンケート結果	87%	91%	88%	92%	91%
②夏季講座	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	1回（3日）	0回
	555人	525人	478人	386人	―
アンケート結果	89%	91%	95%	94%	―
③サンデートーク	12回	12回	12回	11回	7回
	991人	771人	1,　238人	1,037人	494人
アンケート結果	88%	87%	88%	92%	90%
九州国立博物館					
講演会等　実施回数	77回	84回	80回	69回	13回
講演会等　参加者数	5,369人	6,024人	4,491人	4,862人	308人
①特別展記念講演会	3回	2回	2回	6回	0回
	675人	359人	150人	1,336人	0人
アンケート結果	―	―	―	―	―
②講演及びシンポジウム	25回	26回	16回	16回	0回
	3,293人	3,521人	2,166人	2,033人	0人
アンケート結果	-			―	―
③ミュージアムトーク	49回	56回	62回	47回	13回
	1,401人	2,144人	2,175人	1,493人	308人
○キャンパスメンバーズ					
東京国立博物館	52校	53校	56校	60校	61校
京都国立博物館	27校	29校	32校	32校	33校
奈良国立博物館	25校	27校	28校	27校	28校
九州国立博物館	25校	25校	23校	23校	21校

1-(3)-①-2 講座・講演会等の開催実績

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数※1	**回数計**	**19回**	**回数計**	**23回**	**回数計**	**12回**	**回数計**	**13回**
	参加者計	**52,032人**	**参加者計**	**2,107人**	**参加者計**	**847人**	**参加者計**	**308人**
	講演会	10回 29,875人	土曜講座	7回 572人	特別展等講座	5回 353人	特別展記念講演会	0回 0人
	列品解説（ギャラリートーク等）	9回 22,157人	記念講演会	12回 1,227人	夏季講座	0回 0人	講演及びシンポジウム	0回 人
	連続講座（2日間）	0回 0人	夏期講座（2日間）	1回 60人	サンデートーク	7回 494人	ミュージアムトーク	13回 308人
	公開講座	0回 0人	社会科教員のための向上講座	0回 0人				
			セミナー・シンポジウム等	3回 248人				
	その他展示に関連するイベント	— —	その他展示に関連するイベント	— —	その他展示に関連するイベント	6回 850人	その他展示に関連するイベント	1回 6人

※1実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。（実施回数は計上している。）

【東京国立博物館】

1） 講演会　　10回　　29,875人

①月例講演会

8回　　24,923人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	"良い"の割合
※1～4は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止。					
1	4月26日	敦煌・シルクロードの仏教美術	東洋室長　勝木言一郎	0人	-
2	5月30日	東京国立博物館における国際交流	国際交流室長　楊鋭	0人	-
3	6月6日	『動物のうごき』展ができるまで	デザイン室主任研究員　神辺知加	0人	-
4	7月25日	日本美術の記録と評価	東京文化財研究所文化財アーカイブズ研究室長　江村知子 京都工芸繊維大学教授　並木誠士 京都芸術大学非常勤講師　多田羅多起子	0人	-
※5～12は新型コロナウイルスの影響を勘案し、オンライン月例講演会として実施した（事前収録・YouTube配信）。開催日は配信日、参加者数は再生回数からの算定数値である。					
5	9月4日	漆のわざを読む	工芸室研究員　福島修	3,794人	実施せず
6	10月8日	レジェンドを語る	東洋室長　勝木言一郎 特別展室長　猪熊兼樹 平常展調整室主任研究員　小野塚拓造	5,210人	実施せず
7	11月16日	自在置物の魅力	博物館教育課長　伊藤信二	2,520人	実施せず
8	12月3日	文化財と複製	文化財活用センター企画担当研究員　小島有紀子	6,807人	実施せず
9	1月28日	仁清作色絵月梅図茶壺—半分青く、半分赤い	博物館情報課長　今井敦	2,356人	実施せず
10	3月25日	白描図像—祈りと魂の描線—	絵画・彫刻室研究員　古川攝一 絵画・彫刻室長　沖松健次郎	721人	実施せず
11	3月4日	中国古代の封泥　ハンコ行政のはじまり	特任研究員　谷豊信	2,848人	実施せず
12	3月31日	おじさん『むかしの話』をする—私とトーハクの25年—	学芸企画部長　田沢裕賀	667人	実施せず

②記念講演会

0回　　0人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	"良い"の割合
※1～3は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止。					
1	5月9日	きもの文化の歴史と未来を見つめて	工芸室長　小山弓弦葉	0人	-
2	6月27日	国宝 聖林寺十一面観音菩薩像の世界	文化庁主任文化財調査官　奥健夫	0人	-
3	7月12日	日本のスポーツ史と2020	筑波大学教授　真田久	0人	-

③シンポジウム

2回　　4,952人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	"良い"の割合
※1は新型コロナウイルスの影響を勘案し、オンライン国際シンポジウムとして実施した（事前収録・YouTube配信）。開催日は配信日、参加者数は再生回数からの算定数値である。					
1	2月26日	国際シンポジウム　日本文化としての『きもの』を考える	総合司会：京都国立博物館連携協力室専門職　マリサ・リンネ パネリスト：京都国立博物館名誉会員　切畑健 関西学院大学教授　河上繁樹 東京国立博物館工芸室長　小山弓弦葉 ロサンゼルス・カウンティ美術館染織部長　シャロン・サダコ・タケダ メトロポリタン美術館日本部学芸員　モニカ・ビンチク ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館アジア部長　アンナ・ジャクソン	3,665人	実施せず

2	1月30日	国際シンポジウム　「日本美術がつなぐ博物館コミュニティー：ウィズ／ポスト・コロナ時代の挑戦」	基調講演　東京都庭園美術館　樋田 豊次郎 発表　シアトル美術館　シャオチン・ウー ハンブルク美術工芸博物館　ウィブケ・シュラーペ メトロポリタン美術館　アーロン・リオ 東京国立博物館　猪熊 兼樹	1,287人	実施せず

④テーマ別講演会

0回　　0人

	実施日	テーマ	講師等	参加者数	"良い"の割合
※1～2は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止。					
1	4月4日	桜セミナー「金銀螺鈿の花づくし」	工芸室研究員　福島修	0人	-
2	7月18日	トークショー「アニメーションの世界から『鳥獣戯画』を読み解く」	映画監督　細田守 文化財活用センター企画担当課長　松島雅人	0人	-

⑤その他講演会

0回　　0人

2)　列品解説（ギャラリートーク等）　9回　　22,157人

①ギャラリートーク

9回　　22,157人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数
※1～25は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止。				
1	4月7日	X線CT装置の保存修理への活用	保存分析室専門職　宮田将寛	-
2	4月14日	文化財の保存と修理	保存修復室研究員　野中昭美	-
3	4月21日	表装された文化財の構造と修理	保存修復室アソシエイトフェロー　大山龍顕	-
4	4月24日	特集「令和2年新指定国宝・重要文化財」展への招待(考古資料)	文化庁文化財調査官　横須賀倫達	-
5	4月28日	シルクロードの美術探検	東洋室長　勝木言一郎	-
6	5月8日	特集「令和2年新指定国宝・重要文化財」展への招待(歴史資料)	文化庁文化財調査官　地主智彦	-
7	5月12日	長船長光の太刀	工芸室主任研究員　酒井元樹	-
8	5月19日（2回）	【国際博物館の日記念ガイダンス】トーハクへようこそ	教育講座室アソシエイトフェロー　阿部楓子	-
9	5月26日	動物のうごきのひみつ①	教育講座室長　井出浩正	-
10	6月9日	動物のうごきのひみつ②	教育講座室アソシエイトフェロー　阿部楓子	-
12	6月23日	横河民輔寄贈の朝鮮陶磁	特別展室主任研究員　三笠景子	-
13	6月30日	くらべてわかる！神と仏のふしぎな関係	登録室研究員　西木政統	-
14	7月3日	モノと情報のはなし	情報管理室アソシエイトフェロー　酒井晶	-
15	7月14日	特別展「スポーツ NIPPON」の見どころ①	工芸室主任研究員　佐藤寛介 秩父宮記念スポーツ博物館学芸員　青木祐一	-
16	8月18日	献納宝物最大の染織品！広東綾大幡	工芸室主任研究員　三田覚之	-
17	9月4日	特別展「スポーツ NIPPON」の見どころ②	絵画・彫刻室研究員　高橋真作 秩父宮記念スポーツ博物館学芸員　木村一貫	-
18	10月13日	仏画の中の伝統と先端	絵画・彫刻室長　沖松健次郎	-
19	10月30日	時代と人を映した17世紀の茶陶	特別展室主任研究員　三笠景子	-
20	11月10日	黄泉の国の入口～横穴式石室の祭り	特別展室研究員　山本亮	-
21	11月20日	「調和」のなかの仁清茶陶	保存修復室研究員　横山梓	-
22	12月8日	鉄錆に覆われた鏡に銀の文様が！－科学でわかる作品の魅力－	調査研究課長　河野一隆	-
23	12月15日	仁清作色絵月梅図茶壺―半分、青い。	博物館情報課長　今井敦	-
24	2月1日	日本文人画の世界	絵画・彫刻室研究員　大橋美織	-
25	2月16日	アイヌの織物と衣服（仮）	考古室研究員　飯田茂雄	-
※26～34は新型コロナウイルスの影響を勘案し、オンラインギャラリートークとして実施した（事前収録・YouTube配信）。開催日は配信日、参加者数は再生回数からの算定数値である。				
26	9月24日	狩猟具の変遷	考古室研究員　飯田茂雄	2,498人
27	10月11日	東洋館の彫刻とヨガ	絵画・彫刻室研究員　増田政史 ヨガインストラクター　渡辺美保	4,037人
28	10月18日	平安時代の書と紙	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	5,910人
29	10月28日	子どものためのギャラリートーク 「体を自在にうごかせる動物の『おきもの』」	博物館教育課長　伊藤信二	567人
30	10月28日	子どものためのギャラリートーク「縄文土器を観察しよう！」	教育講座室長　井出浩正	270人
31	11月16日	調和の美　17世紀の茶陶の魅力	特別展室主任研究員　三笠景子 保存修復室研究員　横山梓	2,058人
32	12月25日	世界と出会った江戸美術	絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂 特別展室長　猪熊兼樹	4,223人
33	1月22日	博物館に初もうで　ウシにひかれてトーハクまいり	文化財活用センター企画担当　高橋真作	2,092人
34	3月25日	X線CT装置の文化財保存への活用	調査分析室専門職　宮田将寛	502人

②特別展関連ギャラリートーク

0回　　0人

③東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク

0回　　0人

	実施日	回数	テーマ	氏名	参加者
新型コロナウイルスの影響を勘案し、東京藝術大学大学院インターンシップの受け入れを中止した。					

3)　連続講座　　2日間（計1回）　　0回　　0人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数	″良い″の割合
※1は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止。				
1	8月14日～15日	鳥獣戯画研究の最前線 第1講「鳥獣戯画の伝わった寺―高山寺と明恵上人をめぐる美術―」 ①明恵上人と高山寺の文化財　講師：京都大学大学院文学研究科教授　大槻信 ②明恵上人坐像の作者は誰か？―高山寺の彫刻と慶派仏師をめぐって―　講師：平常展調整室長　皿井舞 第2講「鳥獣戯画研究のこれまでとこれから」 ③鳥獣戯画八〇〇年の生命誌―伝来と研究史をたどる―　講師：特別展室主任研究員　土屋貴裕 ④欧米がみた鳥獣戯画―近代における海外出品をめぐって―　講師：広報室長　鬼頭智美 ⑤鳥獣戯画「平成の修理」の成果と展望　講師：宮内庁三の丸尚蔵館　朝賀浩 第3講「誰が描いたのか？―絵師をめぐる議論―」 ⑥宮廷絵師説の可能性―「伴大納言絵巻」との近さを視野に入れて―　講師：北九州市立大学文学部准教授　五月女晴恵 ⑦絵仏師説の可能性―鳥羽僧正覚猷説と当時の寺院の社会性の観点から―　講師：京都国立博物館保存修理指導室長　大原嘉豊 第4講「何が、どのように描かれているのか？―図様と表現の特質―」 ⑧平安絵巻としての鳥獣戯画―ストーリー展開の妙味―　講師：京都国立博物館企画室研究員　井並林太郎 ⑨白描画としての鳥獣戯画―線描の妙技―　講師：絵画・彫刻室研究員　古川攝一 ⑩正倉院宝物と鳥獣戯画　講師：神戸大学大学院人文学研究科准教授　増記隆介 第5講「何のために描かれたのか？―主題と制作背景を探る―」 ⑪鳥獣戯画は戯画なのか？　講師：絵画・彫刻室長　沖松健次郎 ⑫鳥獣戯画の主題解釈は可能か？　講師：山種美術館特別研究員　三戸信恵 第6講　パネルディスカッション「徹底討論！鳥獣戯画研究を究める」	0人	0.00%

4)　公開講座　　0回　　0人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数	会場
※1、2は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止。				
1	8月24日～28日	教育連携事業「博物館学講座」	0人	平成館小講堂、本館地下みどりのライオン（教育普及スペース）他
2	8月26日	教育連携事業「博物館セミナー」	0人	平成館大講堂

5) その他展示に関連する事業　　2回　　3880人

	実施日	内容	会場	参加者数
※1,2は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止。				
1	5月18日	国際博物館の日記念ツアー「上野の山で動物めぐり『うごき』と『しせい』」	恩賜上野動物園、国立科学博物館、東京国立博物館	0人
2	5月16日	おとなのためのワークショップ「友禅染に挑戦」	本館地下みどりのライオン	0人
※3,4は新型コロナウイルスの影響を勘案し、電子データのみ公開あるいはオンライン配信に変更して実施予定				
3	1月2日～	博物館で初もうで「2021丑」カレンダー配布	―	―
4	2月6日　(2回)	日本文化との出会い　浮世絵の摺り実演	本館地下みどりのライオンから配信	3,880人

【京都国立博物館】

1)　土曜講座　　7回　　572人

特別展覧会関連などの講座

	開催日	テーマ	講師	参加者数
1	1月16日	丑づくし―牛と日本人―	研究員　古谷毅	44人
2	1月23日	日本の文化財修理120年	研究員　森道彦	103人
3	1月30日	漆器の修理ってどんなん？	漆芸家　北村繁 教育室長　永島明子	100人
4	2月6日	上野家の贈り物 ―上野コレクションと上野記念財団―	名誉館員　赤尾栄慶	63人
5	2月13日	九州と近畿の弥生・古墳時代 ―弥生土器の成立と埴輪・須恵器―	研究員　古谷毅	70人
6	2月20日	上野コレクションの形成と中国絵画	調査・国際連携室長　呉孟晋	92人
7	2月27日	２つの国宝「日本書紀」	美術室長　羽田聡	100人

2)　記念講演会　　12回　　1,227人

	実施日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	7月23日	西国巡礼　慈悲の道	西国三十三所札所会　会長（兼今熊野観音寺山主）　藤田浩哉	100人
2	8月8日	資料からみる西国三十三所	美術室長　羽田聡	100人
3	8月22日	西国三十三所、観音めぐり	上席研究員　浅湫毅	100人
4	8月29日	信仰の息づく霊地 ―那智山経塚出土の立体曼荼羅―	工芸室主任研究員　末兼俊彦	100人
5	9月5日	経典にみる観音菩薩	美術室研究員　上杉智英	100人
6	10月10日	宮廷と日本文化 ―雅な文化、その継承のこころ	宮内庁三の丸尚蔵館　首席研究官　太田彩	100人

7	10月17日	皇室に伝わった絵巻の至宝 ―春日権現験記絵を中心に―	企画室研究員　井並林太郎	95人
8	10月24日	皇室を彩る絵画―旧桂宮家伝来品を中心に―	保存修理指導室主任研究員　福士雄也	95人
9	10月31日	宮内庁三の丸尚蔵館所蔵の書跡名品とその伝来	宮内庁三の丸尚蔵館　主任研究官　髙梨真行	97人
10	11月7日	伏見天皇と「屏風土代」 ―天皇の書風形成―	美術室長　羽田聡	96人
11	11月14日	御所をめぐる色とかたち	企画室長　山川曉	144人
12	3月27日	鑑真和上の教え	律宗管長・唐招提寺八十八世長老　西山明彦	100人

3)　夏期講座　　1回　　60人

	開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	7月31日	第1講 鳥獣人物戯画甲巻の成立背景 ―秋草と落葉した樹木の組み合わせ―	特任研究員　宮川禎一	60人
		第2講 色はどこから来たのか ―自然物から絵具をつくる―	教育室主任研究員　水谷亜希	
		第3講 盆栽の物語―自然と人をつなぐ芸術―	さいたま市大宮盆栽美術館　学芸員 田口文哉	
	8月1日	第1講 中国の絵画と自然 ―歴史・文学・思想―	東京大学東洋文化研究所　准教授 塚本麿充	
		第2講 中世絵画と本草学 ―花鳥の見分け・描き分け―	美術室研究員　森道彦	
		第3講 更紗と自然	福岡市美術館　館長　岩永悦子	

4)　社会科教員のための向上講座　　0回　　0人

5)　ギャラリートーク・シンポジウム等　3回　　248人

	開講日	テーマ・講師		参加者数(人)
1	9月26日	ICOM京都大会１周年記念シンポジウム「SDGsと博物館」	京都市長　門川大作 ICOM日本委員会副委員長　青柳正規　ほか	80人
2	10月25日	文化財の防災・減災　ー火災・地震に対する取り組みー	文化庁文化資源活用課調査官　森井順之　ほか	68人
3	12月19日	文化財保存修理所開所40周年記念シンポジウム　「文化財修理のいま、むかし」	文化庁文化財調査官　地主智彦　ほか	100人

※キャンパスメンバーズ限定講演会については1-(3)-①-4 大学生・大学院生を対象とした教育事業　に記載。

【奈良国立博物館】

1)　特別展等講座　　5回　　353人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	10月31日	「正倉院の石薬とその素材」	宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室員　鶴真美	75人
2	11月7日	「武器・武具の献納と薬物の献納について」	学芸部長　内藤栄	75人
3	1月9日	「春日大社と神鹿の造形」	春日大社国宝殿学芸員　渡邉亜祐香	62人
4	2月20日	「修二会について」	東大寺長老　筒井寛昭	68人
5	3月13日	「帝国奈良博物館の誕生―人と建築―」	学芸部情報サービス室長　宮崎幹子	73人

2)　夏季講座　※新型コロナウイルスの影響により中止

3)　サンデートーク　　7回　　494人

	実施日	テーマ	解説者	参加者数(人)
1	9月20日	「仏教絵画のきほん　表現様式を中心に」	学芸部主任研究員　北澤菜月	67人
2	10月4日	「描かれた東大寺大仏の姿」	学芸部アソシエイトフェロー　萩谷みどり	70人
3	11月29日	「奈良国立博物館所蔵の古写真にみる奈良公園周辺の景観」	学芸部資料室長　野尻忠	66人
4	12月20日	「売立目録と仏像研究」	学芸部主任研究員　山口隆介	70人
5	1月17日	「文化財を科学するⅦ」	学芸部保存修理指導室長　鳥越俊行	69人
6	2月21日	「仏都会津のみほとけたち」	学芸部研究員　内藤航	75人
7	3月21日	「舎利信仰の美術 ―舎利容器の形から信仰を読み解く―」	学芸部長　内藤栄	77人

4)　その他展示に関連するイベント　　6回　　850人

	実施日	内容	会場	参加者
1	12月9日～1月17日	春日若宮おん祭で使用される備品の展示	展示室	―
2	12月9日～1月17日	【特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」】関連ワークショップ　おうち de おん祭　『紙コップで作ろう！鼓』	Youtube	337人
3	12月9日～1月17日	【特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」】関連ワークショップ　おうち de おん祭　『動く！おん祭の絵巻！』	Youtube	404人
4	1月8日	文化財保存修理所特別公開	講堂・文化財保存修理所	70人
5	2月6日～3月21日	お水取り展　修二会お松明展示	展示室	―
6	2月11日	お水取り「講話」と「現地解説」の会	講堂、展示室	39人

【九州国立博物館】

1)特別展記念講演会　　0回　　0人

2)講演及びシンポジウム等　　0回　　0人

3)　ミュージアムトーク　　13回 参加者総数　　308人

・担当研究員数　　延べ 13人　　※うち夜間開催分は 0人

・事業内容　文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。

（原則として第1、3、5火曜日の15時より15～30分間、夜のミュージアムトークは原則として第2、4土曜日の18時より15～30分間）

	開催日	テーマ	解説者	参加者数（人）
1	11月10日	しきしまの大和へ-奈良大発掘-	展示課主任研究員　齋部　麻矢	15人
2	11月17日	伊能忠敬の日本地図	学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦　晃佑	31人
3	12月1日	対馬宗家文書の図書と木印	展示課主任研究員　一瀬　智	13人
4	12月8日	祈りと経典～ひとがお経を作るとき～	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　瓜生　翠	18人
5	12月15日	しきしまの大和へ-奈良大発掘-	展示課主任研究員　齋部　麻矢	22人
6	1月5日	のぞいてみよう！織物の世界	学芸部企画課アソシエイトフェロー　桑原有寿子	18人
7	1月13日	徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度	学芸部企画課特別展室長　川畑　憲子	18人
8	1月26日	X線CT調査報告―楽器の音と形の関係について―	学芸部博物館科学課環境保全室研究員　渡辺祐基	15人
9	2月2日	南蛮風―流行は長崎発―	学芸部企画課アソシエイトフェロー　杉田　真菜	20人
10	2月16日	いろいろなお姿の天神さま	学芸部文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀	49人
11	3月2日	本物の文化財とは？　　西洋の考え方、東洋の考え方とテセウスの船	学芸部博物館科学課長　木川　りか	21人
12	3月16日	天神縁起の世界	学芸部文化財課資料管理室長　森實　久美子	51人
13	3月30日	観世音寺の鐘	学芸部企画課研究員　望月　則史	17人

4)　その他展示に関連するイベント

1回　　6人

	展覧会名等	期間	内容	会場	参加者数（人）	備考
1	文化交流展	3年3月13日	絹の体験教室「KURUKURU SILK」	zoomによるオンライン	6人	

1-(3)-①-3 児童生徒を対象とした教育普及事業

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数 ※1 ※2	**回数計**	**146回**	**回数計**	**61回**	**回数計**	**23回**	**回数計**	**230回**
	参加者計	**44,633人**	**参加者計**	**7,904人**	**参加者計**	**866人**	**参加者計**	**4,618人**
	体験型プログラム等	129回 44,020人	体験型プログラム等	47回 7,102人	体験型プログラム等	19回 741人	体験型プログラム等	185回 499人
	学校との連携事業	17回 613人	学校との連携事業	14回 802人	学校との連携事業	4回 125人	学校との連携事業	45回 4,119人
	児童生徒を対象とした刊行物	3件 30,000部	児童生徒を対象とした刊行物	4件 122,100部	児童生徒を対象とした刊行物	1件 8,000部	児童生徒を対象とした刊行物	1件 2,200部
	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	児童生徒を対象とした音声ガイド	1件 43台	児童生徒を対象とした音声ガイド	1件 405台	児童生徒を対象とした音声ガイド	—件 —台

※1一定期間通して実施した事業については、期間の日数＝回数としてカウントする

※2実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。（実施回数は計上している。）

【東京国立博物館】

1)体験型プログラム等　　129回　　44,020人

①ハンズオン展示等

0回　　0人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1・2は、新型コロナウイルスの影響を勘案し、開催場所を閉室した。						
1	通年	総合文化展（東洋館）関連「アジアの占い体験」	東洋館6室	0回	0人	
2	通年	総合文化展（本館）「トーハクでデザイン」「トーハクで〇〇ができるまで」「トーハクで国宝をさぐろう」「トーハクをまわそう」	本館19室	0回	0人	

②ワークショップ

56回　　486人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
※1,2,3は新型コロナウィルスの影響を勘案し、中止した。						
1	5月16日	ファミリーワークショップ「友禅染に挑戦！」	本館地下教育普及スペース	回	—	
2	7月29日	ファミリーワークショップ「おどし体験！」	本館地下教育普及スペース	回	—	
3	10月31日	ファミリーツアー「トーハク劇場へようこそ！考古展示室編」	平成館考古展示室	回	—	
※4,5,6,7,8は新型コロナウィルスの影響を勘案し、オンライン形式に変更して実施した。						
4	10月31日～11月15日	おうちでワークショップ「トーハクオリジナル！ぬり絵シート」	—	16回	—	新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となったキッズデー関連イベントとして実施（回数は、特設ページ公開日数）
5	10月31日～11月15日	おうちでワークショップ「八橋蒔絵螺鈿硯箱をつくろう」	—	16回	319人	新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となったキッズデー関連イベントとして実施(回数は特設ページ公開日数、参加者数は、作り方動画の視聴回数)
6	10月31日～11月15日	なりきり！仮装フォトコンテスト	—	16回	15人	新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となったキッズデー関連イベントとして実施（回数は、特設ページ公開日数）
7	11月14日、15日	ファミリーワークショップ「なりきり光琳」	本館地下教育普及スペース+zoom	4回	76人	親と子のギャラリー「なりきり日本美術館リターンズ」関連プログラム
8	2月27日、28日	ファミリーワークショップ「ひいな遊び—立雛を作ろう!—」	本館地下教育普及スペース+zoom	4回	76人	

③その他の体験型プログラム　　— 回　　— 人

④児童生徒を対象とした展示

72回　　43,534人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	10月27日～12月6日	「親と子のギャラリー　トーハク×びじゅチューン！なりきり日本美術館リターンズ」	本館特別5室、特別4室	36回	26,064人	
2	1月19日～2月28日	「親と子のギャラリー　まるごと体験！日本の文化」	本館特別4室	36回	17,470人	

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

1回　　-人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	10月31日～11月15日	トーハクキッズデーオンライン	―	1回	-人	新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となった

2)学校との連携事業　　17回　　613回

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

16回　　610人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	通年	スクールプログラム	―	15回	608人	新型コロナウイルスの影響で対面プログラムを中止。事前視聴動画+自由見学を13回、オンラインでのプログラムを2回実施
2	1月22日	盲学校のためのスクールプログラム	ボランティア室＋東京都立葛飾盲学校＋Microsooft Teams	1回	2人	1校、新型コロナウイルスの影響で来館が不可になり、オンライン実施した

②出前授業等　　― 回　　― 人

③職場体験

1回　　3人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	2月24日	職場体験の受け入れ	本館地下教育普及スペース＋星美学園中学校＋zoom	1回	3人	新型コロナウイルスの影響で、対面プログラムを中止。1校。学校の希望により、オンライン実施した

④教員を対象とした研修　　0回　　0人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
※1～3は新型コロナウイルスの影響を勘案し、開催を中止した。 3は特別展自体が開催とりやめ。						
1	8月20日	「東京国立博物館スクールプログラム・ぶんかつアウトリーチプログラム」	本館地下教育普及スペースほか	0回	0人	
2	10月16日	特別展　「桃山 －天下人の１００年」教員研修	大講堂	0回	0人	
3	1月22日	特別展「ジパング　世界と出会った日本の美」教員研修	大講堂	0回	0人	

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

―回　　―人

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　　3件　　30,000部

	名　　称	発行部数	備　考
1	親と子のギャラリー「なりきり日本美術館リターンズ」ワークシート	20,000部	
2	親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化」ワークシート	10,000部	
3	博物館に初もうで　カレンダー	―	新型コロナウイルスの影響により、PDF版のみ公開。

②音声ガイド　　― 件　　― 台

③その他メディア　　― 件　　― 台

【京都国立博物館】

1)体験型プログラム等　47回　7,102人

①ハンズオン展示等

― 回　― 人

②ワークショップ

46回　6,967人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	7月23日～9月13日	おたのしみコーナー 「姿から見つける、私の好きな観音さま」	京都国立博物館　平成知新館	46回	6,967人	新型コロナウイルスの影響により中止となった、特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」関連ワークショップの代わりとして、パネル展示を行い、解説プリント（4言語）、七観音オリジナルぬりえを配布、ウェブサイトにも掲載した。 また中止となったワークショップの一部分を体験できる動画をウェブサイトで公開した。

③その他の体験型プログラム

― 回　― 人

④児童生徒を対象とした展示

― 回　― 人

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

1回　135人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	8月3日	記者体験in京都国立博物館	京都国立博物館　平成知新館	1回	135人	京都市立中学校の生徒（美術部員）を招き，特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」を鑑賞し、作品に対する考えや感想等を記事にまとめる「記者体験」を行った。 講師：京都国立博物館　文化財ソムリエ 主催：京都市教育委員会、京都市立中学校教育研究会 美術部会

2)学校との連携事業　14回　802人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

5回　315人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月19日、10月16日、3年1月22日	京都府立嵯峨野高等学校　2年生	京都国立博物館、京都府立嵯峨野高等学校	3回	14人	「京の文化財」をテーマとした探求活動に係るフィールドワークの受け入れ、活動への助言
2	11月27日	滋賀県立守山高等学校　2年生	京都国立博物館	1回	1人	書跡と博物館教育について、オンラインビデオ通話を用いたインタビュー対応
3	3年1月8日	大谷高等学校　3年生	京都国立博物館	1回	300人	団体見学のための事前の資料提供

②出前授業等

6回　304人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	9月15日	文化財に親しむ授業 京都市立上里小学校　6年生	京都市立上里小学校	1回	41人	教材：雪舟筆「天橋立図」（複製）、講師：文化財ソムリエ
2	10月9日	文化財に親しむ授業 京都市立醍醐小学校　6年生	京都市立醍醐小学校	1回	55人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、尾形光琳筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
3	10月27日	文化財に親しむ授業 京都市立向島小学校　6年生	京都市立向島小学校	1回	33人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、尾形光琳筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
4	11月24日	文化財に親しむ授業 京都市立正親小学校　6年生	京都市立正親小学校	1回	37人	教材：雪舟筆「四季花鳥図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
5	12月14日	文化財に親しむ授業 京都市立栗陵中学校　3年生	京都市立栗陵中学校	1回	102人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、尾形光琳筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ
6	12月21日	文化財に親しむ授業 京都市立御所東小学校　6年生	京都市立御所東小学校	1回	36人	教材：俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」（複製）、講師：文化財ソムリエ

③職場体験　― 回　― 人

④教員を対象とした研修

― 回　― 人

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

3回　183人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	10月23日	京都市立陵ヶ岡小学校　6年生 鑑賞の授業	京都市立陵ヶ岡小学校	1回	61人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
2	11月9日	京都市立嵐山東小学校　5年生 鑑賞の授業	京都市立嵐山東小学校	1回	50人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
3	3年1月25日	京都市立洛西中学校 1年生 鑑賞の授業	京都市立洛西中学校	1回	72人	複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物

4件　122,100部

	名　称	発行部数	備　考
1	特別展「皇室の名宝」関連鑑賞ガイド 「宮廷文化ことはじめ」	（日）56,000部 （英）4,200部 （中）700部 （韓）700部	10月発行。観覧者（子ども～大人）対象。4言語で作成し、ウェブサイトにも掲載。
2	特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」関連鑑賞ガイド「戒律と鑑真さん」	（日）45,000部 （英）1,500部 （中）500部 （韓）500部	3年3月発行。観覧者（子ども～大人）対象。4言語で作成し、ウェブサイトにも掲載。
3	博物館Dictionary No.206,221～223	8,000部	12月、3年2月発行。観覧者（子ども～大人）対象。206号は29年度発行だが、好評により第2版として2,000部印刷。 ウェブサイトにも掲載。
4	子ども向けリーフレット「京都国立博物館へようこそ」	5,000部	3年3月発行。観覧者（子ども～大人）対象。

②音声ガイド　1件　43台

	名　称	台数	備　考
1	名品ギャラリー ジュニア版音声ガイド（日本語・英語・中国語・韓国語）	43台	各言語につき、作品解説など24本作成。12月19日より運用開始。利用台数43台

③その他メディア　4件

	名　称	発行部数	備　考
1	虎BLOG	—	公式キャラクター「トラりん」のブログを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
2	トラりんツイッター	—	公式キャラクター「トラりん」のツイッターを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
3	トラりんFacebook	—	公式キャラクター「トラりん」のFacebookを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
4	トラりんYouTube	—	公式キャラクター「トラりん」のYouTubeを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
5	文化財修理の最先端（京博チャンネル）	—	

【奈良国立博物館】

1)体験型プログラム等　19回　741人

①ハンズオン展示等　— 回　— 回

②ワークショップ

2回　741人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	12月9日～1月17日	【特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」】関連ワークショップ　おうち de おん祭　『紙コップで作ろう！鼓』	Youtube	1回	337人	Youtube配信
2	12月9日～1月17日	【特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」】関連ワークショップ　おうち de おん祭　『動く！おん祭の絵巻！』	Youtube	1回	404人	Youtube配信

③その他の体験型プログラム　— 回　— 人

④児童生徒を対象とした展示　17回　— 人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	10月24日～11月9日	正倉院展短歌コンクール受賞作品展示	地下回廊	17回	—	2019度受賞作品を展示

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会　— 回　— 人

2)学校との連携事業　4回　125人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

0回　0人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	5月～3月	学校プログラム	講堂・なら仏像館	0回	0人	新型コロナウイルスの感染拡大により中止

②出前授業等　— 回　— 人

③職場体験　　— 回　　— 人

④教員を対象とした研修　　— 回　　— 人

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

4回　　125人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	6月～1月	奈良市世界遺産学習	講堂・なら仏像館	0回	0人	新型コロナウイルスの感染拡大により中止
2	3月15日	遠隔操作ロボットを活用した展示案内プログラム	大分市立判田中学校・なら仏像館	4回	125人	大分県商工観光労働部先端技術挑戦室との連携事業

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　　1件　　8,000部

	名　称	発行部数	備　考
1	御大典記念 特別展「よみがえる正倉院宝物-再現模造にみる天平の技-」ジュニアガイド「おしえて!!花ジカせんせい!」	8,000部	7月発行。観覧者（子ども～大人）対象。

②音声ガイド　　1件　　405台

	名　称	台数	備　考
1	第72回正倉院展（子供向け）	405台	

③その他メディア　　— 件

【九州国立博物館】

1)体験型プログラム等　　185回　　499人

①ハンズオン展示（あじっぱ・あじ庵・あじぎゃら）等

175回

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	9月1日～3月31日	おうちdeあじっぱ	あじっぱ	175回	—	展示日数

②ワークショップ　　1回　　6人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	3月13日	絹の体験教室「KURUKURU SILK」	zoomによるオンライン	1回	6人	

③その他の体験型プログラム　　9回　　493人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数（人）	備　考
1	11月1日	きゅーはくきゃらばん（工作体験、民族楽器体験、レプリカ触察体験）	太宰府市文化ふれあい館	1回	80人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
2	11月2日	きゅーはくきゃらばん（工作体験、民族楽器体験、レプリカ触察体験）	久留米市立篠山小学校	1回	80人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
3	11月13日	きゅーはくきゃらばん（博物館ガイダンス、工作体験、レプリカ触察体験）	大川市立宮前小学校	1回	25人	
4	11月23日	きゅーはくきゃらばん（民族楽器体験）	JR博多シティ屋上つばめの杜広場	1回	150人	
5	11月27日	きゅーはくきゃらばん（博物館ガイダンス、工作体験、民族衣装鑑賞）	うきは市立山春小学校（５年生）	1回	25人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
6	12月1日	きゅーはくきゃらばん（博物館ガイダンス、民族楽器体験、レプリカ触察体験）	大野城市立大野小学校	1回	30人	移動博物館車「きゅーはく号」運行
7	1月20日	きゅーはくきゃらばん（工作体験、民族楽器体験）	うきは市立山春小学校（２年生）	1回	21人	
8	2月16日	きゅーはくきゃらばん（博物館ガイダンス、民族楽器体験）	筑紫野市立筑紫東小学校	1回	82人	
9	2月26日	きゅーはくきゃらばん（博物館ガイダンス、民族楽器体験）	那珂川市立岩戸小学校	1回	24人	

④児童生徒を対象とした展示　　0回

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会　　0回　　0人

2)学校との連携事業　　45回　　4,119人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

― 回　　― 人

②出前授業等

4回　　59人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備　考
1	12月2日	歴史授業「江戸幕府初期の支配体制の確立」	福岡県大牟田市立宮原中学校	1回	33人	ゲストティーチャーとして研究員1名が授業に参加
2	12月21日、3年1月28日、2月8日	歴史授業「元寇」	富山県小矢部市立蟹谷中学校	3回	26人	文化交流展示室よりリモート授業

③職場体験

― 回　　― 人

④教員を対象とした研修

― 回　　― 人

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

41回　　4,060人

	開催日		開催場所	回数	参加者数	備　考
1	4月1日～3年3月31日	学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出し	―	41	4,060人	計56パック

3)児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物　　1件 2,200部

	名　　称	冊数	備　　考
1	小中学生向け九博紹介冊子	2,200部	

②音声ガイド　　―件　　―台

③その他メディア　　―件　　―回

1-(3)-①-4　大学生・大学院生を対象とした教育事業

令和3年3月31日現在

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	インターンシップ	0 人	インターンシップ	0 人	インターンシップ	0 人	インターンシップ	0 人
	大学との連携講座	0 件 0 人	大学との連携講座	1 件 11 人	大学との連携講座	2 件 3 人	大学との連携講座	0 件 0 人
	見学対応	0 回 0 人	見学対応	0 回 0 人	見学対応	0 回 0 人	見学対応	0 回 0 人
	その他	0 回 0 人	その他	20 回 18 人	その他	― 回 ― 人	その他	2 回 84 人

【東京国立博物館】

1)　インターンシップ　　0 人

受入期間			
受入部署			
参加者数	0 人	学校数	0 大学／　0 専門学校
担当研究員数	4 人		
事業内容	新型コロナウイルスの影響を勘案し、インターンシップ受け入れは中止した。		

2)　大学等との連携講座　　0 件　　0 人

期　　間	月　日～　月　日		
回　　数	0回		
開催場所	平成館大講堂、平成館小講堂、本館地下みどりのライオン、本館2階会議室		
参加者数	0 人	学校数	0 大学／　0 専門学校
担当研究員数	0 人		
事業内容	新型コロナウイルスの影響を勘案し、キャンパスメンバーズ校を対象とした教育連携事業「博物館学講座」を中止した。		

3)　見学対応　　0 回　　0 人

期　　間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	0 人	学校数	17 大学／　1 専門学校
担当研究員数	4人		
事業内容	新型コロナウイルスの影響を勘案し、見学対応は中止した。		

4)　その他　　0 回　　0 人

期　　間	月　日		
回　　数	0 回		
開催場所	平成館大講堂		
参加者数	0 人	学校数	0 大学／　0 専門学校
担当研究員数	0 人		
事業内容	新型コロナウイルスの影響を勘案し、キャンパスメンバーズ校を対象とした教育連携事業「博物館セミナー」を中止した。		

【京都国立博物館】

1)　インターンシップ　　0 人

受入期間	中止		
受入部署			
参加者数	0 人	学校数	0 大学／　0 専門学校
担当研究員数	0 人		
事業内容	文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた学生について、国宝修理装潢師連盟の協力を得て開催される予定であったが、新型コロナウイルスの影響により今年度は中止となった。		

2) 大学等との連携講座　　1 件　　11 人

内　　容	京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座
実施日	通年
開催場所	京都国立博物館
受入人数	11 人
担当研究員数	5 人

3) 見学対応　　0 回　　0 人

期　　間	年間		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	人	学校数	大学／　　0 専門学校
担当研究員数	人		
事業内容			

4) その他　　20 回　　18 人

期　　間	6月17日、6月24日、7月1日、7月8日、7月15日、9月2日、9月8日、9月16日、9月29日、10月7日、10月14日、10月21日、11月4日、11月11日、11月18日、12月1日、12月8日、12月16日、1月12日、2月24日		
回　　数	20 回		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	18 人	学校数	8 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	4 人		
事業内容	「文化財ソムリエに向けたスクーリング」 京都市内の小中学校で文化財の高精細複製品を用いた訪問授業を行う「文化財ソムリエ」養成のためのスクーリングを実施した。 参加者は、京都市内及びその周辺の大学で日本文化を専門に学ぶ大学生、大学院生。スクーリングでは、教材となる文化財の取り扱い方法や作品の専門的な知識について当館の研究員が解説をした。また、授業案の作成では文化財ソムリエ同士の主体的な議論を促し、必要に応じて助言をした。		

【奈良国立博物館】

1) インターンシップ　　0 人

2) 大学等との連携講座　　2 件　　3 人

内　　容	奈良女子大学大学院人間文化研究科との連携講座
実施日	前期、後期
開催場所	奈良女子大学、奈良国立博物館
受入人数	2 人　（前期1人、後期1人）
担当研究員数	1 人

内　　容	神戸大学大学院人文学研究科との連携講座（論文審査）
実施日	通年
開催場所	奈良国立博物館
受入人数	1 人
担当研究員数	2 人

3) 見学対応　　0 回　　0 人

期　　間			
開催場所			
参加者数	人	学校数	大学／　　専門学校
担当研究員数	人		
事業内容			

【九州国立博物館】

1) インターンシップ　　0 人

受入期間			
受入部署			
参加者数	人	学校数	大学／　　専門学校
担当研究員数	人		
事業内容			

2) 大学等との連携講座　　0 件　　0 人

内　　容	
実施日	
開催場所	
受入人数	
担当研究員数	

3) 見学対応　　0 回　　0 人

期　　間			
開催場所			
参加者数	人	学校数	大学／　　0 専門学校
担当研究員数	人		
事業内容			

4) その他　　2 回　　84 人

期　　間	8月19日～8月23日（5日間）		
回　　数	1回		
開催場所	全館		
参加者数	19 人	学校数	14 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	博物館実習		

期　　間	10月23日		
回　　数	1回		
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）		
参加者数	65 人	学校数	1 大学／　　0 専門学校
担当研究員数	2 人		
事業内容	カフェコンサート		

1-(3)-①-5 キャンパスメンバーズ

令和3年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
61校	33校（※）	28校（※）	21校

※うち京都国立博物館・奈良国立博物館共通加入23校

【東京国立博物館】

①加入校数（61校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	桜美林大学	10,839人	20年4月1日	
2	武蔵野美術大学	8,177人	20年4月1日	
3	文化学園（文化学園大学、 文化学園大学短期大学部、文化ファッション大学院大学、文化服装学院、文化外国語専門学校）	8,402人	20年4月1日	
4	東京学芸大学	6,191人	20年4月1日	
5	東京藝術大学	4,681人	20年4月1日	
6	東京大学	35,175人	20年4月1日	
7	お茶の水女子大学	3,456人	20年4月1日	
8	杉野学園（杉野服飾大学、杉野服飾大学短期大学部、杉野学園ドレスメーカー学院）	1,279人	20年4月1日	
9	大正大学	5,572人	20年4月1日	
10	東海大学	31,695人	20年4月1日	
11	青山学院大学・青山学院女子短期大学	22,211人	20年4月1日	
12	メイ・ウシヤマ学園（ハリウッド大学院大学、ハリウッド美容専門学校）	606人	20年4月1日	
13	多摩美術大学	5,438人	20年4月1日	
14	立教大学	23,504人	20年4月1日	
15	東京都立大学	9,804人	20年4月1日	
16	女子美術大学・女子美術大学短期大学部	3,869人	20年4月1日	
17	東京造形大学	1,962人	20年4月1日	
18	法政大学	39,837人	20年4月1日	
19	筑波大学	21,359人	20年4月1日	
20	昭和女子大学	6,697人	20年4月1日	
21	実践女子大学・実践女子短期大学	5,118人	20年5月1日	
22	東洋大学	34,151人	20年6月1日	
23	東洋美術学校	1,195人	20年6月1日	
24	日本大学（芸術学部・芸術学研究科）	4,812人	20年6月1日	
25	文教大学	9,552人	20年7月1日	
26	上智学院（上智大学、上智短期大学部、上智社会福祉専門学校）	16,876人	20年10月1日	
27	国際基督教大学	3,567人	21年4月1日	
28	学習院女子大学	1,880人	21年11月1日	
29	獨協大学	9,139人	22年4月1日	
30	学習院大学	10,926人	22年4月1日	
31	東京工業大学	12,484人	22年7月1日	
32	日本女子大学	8,279人	23年4月1日	
33	二松学舎大学	3,414人	23年5月1日	
34	東京家政大学・東京家政大学短期大学部	7,705人	23年6月1日	
35	神奈川大学	19,289人	24年6月1日	
36	日本工業大学	4,840人	24年7月1日	
37	東京女子大学	4,627人	24年8月1日	
38	尚美学園大学	3,028人	25年4月1日	
39	中央大学（文学部・文学研究科）	4,317人	25年6月1日	
40	麗澤大学	3,320人	25年6月1日	
41	慶応義塾大学	45,181人	25年8月1日	
42	共立女子大学・共立女子短期大学	5,843人	26年4月1日	
43	成城大学（文芸学部・文学研究科）	1,813人	26年4月1日	
44	日本文化大學	926人	27年4月1日	
45	鶴見大学（文学部・文学研究科）	1,460人	27年5月1日	
46	十文字学園女子大学	3,956人	27年6月1日	
47	早稲田大学	53,881人	27年6月1日	
48	横浜国立大学	10,499人	28年4月1日	
49	國學院大學・國學院大學北海道短期大学部	11,972人	28年4月1日	
50	聖心女子大学	2,800人	28年5月1日	
51	津田塾大学	3,819人	29年8月1日	
52	清泉女子大学	1,979人	29年10月1日	
53	立正大学（文学部）	2,328人	30年4月1日	
54	東京国際大学・東京国際大学付属日本語学校	7,132人	30年4月1日	
55	明治大学（文学部・文学研究科）	3,727人	30年5月1日	
56	大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部	8,521人	31年4月1日	
57	明星大学	9,028人	31年4月1日	
58	宝塚大学	998人	元年5月29日	
59	東洋英和女学院大学	2,581人	元年6月1日	
60	東京理科大学	21,178人	2年4月1日	
61	駒澤大学	16,448人	2年8月1日	

※キャンパスメンバーズ対象人数が学生＋教員数のため、学生数には教員の人数も含む。

【京都国立博物館】

① 加入校数（33校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	学校法人　瓜生山学園	12,626人	18年6月1日	京博のみ	
2	帝塚山大学	3,668人	18年6月1日	奈良博との共通加入	
3	奈良女子大学	2,686人	18年6月1日	奈良博との共通加入	
4	嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学	1,295人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
5	学校法人　京都女子学園	6,852人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
6	京都精華大学	3,154人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
7	京都橘大学	5,628人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
8	龍谷大学	20,605人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
9	成安造形大学	947人	18年8月1日	京博のみ	
10	京都大学	23,398人	18年9月1日	奈良博との共通加入	
11	近畿大学 文芸学部・総合文化研究科	2,132人	18年9月1日	奈良博との共通加入	
12	花園大学	1,766人	18年11月1日	京博のみ	
13	大谷大学	3,373人	18年12月1日	京博のみ	
14	佛教大学	14,295人	19年4月1日	奈良博との共通加入	
15	京都工芸繊維大学	4,026人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
16	学校法人　同志社	39,337人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
17	奈良大学	3,865人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
18	奈良先端科学技術大学院大学	1,131人	19年12月1日	奈良博との共通加入	
19	就実大学 人文科学部	1,058人	20年4月1日	奈良博との共通加入	
20	国立大学法人　京都教育大学	2,225人	20年7月1日	奈良博との共通加入	
21	京都市立芸術大学	1,070人	20年8月1日	京博のみ	
22	国立大学法人　大阪大学	24,483 人	20 年 12 月 1 日	奈良博との共通加入	
23	京都外国語大学　京都外国語大学短期大学	6,600人	21年8月1日	奈良博との共通加入	
24	学校法人　関西大学	33,429人	23年6月1日	奈良博との共通加入	
25	京都府立大学	2,142人	23年7月1日	京博のみ	29年4月に一時退会、10月に再入会
26	学校法人　京都産業大学	15,332人	24年8月1日	京博のみ	
27	学校法人　立命館	43,721人	26年4月1日	奈良博との共通加入	
28	学校法人　二本松学院	2,709人	29年4月1日	京博のみ	
29	四天王寺大学 人文社会学部	1,872人	29年5月1日	奈良博との共通加入	
30	学校法人　関西学院	27,720人	30年4月1日	奈良博との共通加入	
31	大手前大学	2,843人	30年6月1日	京博のみ	
32	大阪大谷大学	3,119人	30年11月1日	奈良博との共通加入	
33	滋賀大学	3,915人	2年4月1日	京博のみ	

【奈良国立博物館】

①加入校数（28校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	奈良教育大学	1,274人	18年4月4日	奈良博のみ	
2	帝塚山大学	3,668人	18 年 5 月 8 日	京博との2館併用	
3	奈良女子大学	2,681人	18年5月15日	京博との 2 館併用	
4	嵯峨美術大学、嵯峨美術短期大学	1,117人	18年6月9日	京博との 2 館併用	
5	京都精華大学	3,154人	18年6月28日	京博との 2 館併用	
6	京都橘大学	5,977人	18年6月30日	京博との 2 館併用	
7	龍谷大学、龍谷大学短期大学部	20,555人	18年6月30日	京博との 2 館併用	
8	京都大学	23,203人	18年8月22日	京博との 2 館併用	
9	近畿大学文芸学部、近畿大学大学院総合文化研究科	2,119人	18年8月24日	京博との 2 館併用	
10	奈良佐保短期大学	276人	18 年 11 月 29 日	奈良博のみ	
11	佛教大学	13,852人	19年4月1日	京博との 2 館併用	
12	奈良大学	4,045人	19 年 5 月 2 日	京博との 2 館併用	
13	京都工芸繊維大学	3,978人	19年6月1日	京博との 2 館併用	
14	学校法人　同志社　（同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校）	38,525人	19年6月1日	京博との 2 館併用	
15	奈良先端科学技術大学院大学	1,111人	19年11月7日	京博との 2 館併用	
16	就実大学　人文科学部	1,003人	20年4月1日	京博との 2 館併用	
17	天理大学	3,230人	20 年 7 月 1 日	奈良博のみ	
18	京都教育大学、京都教育大学附属高等学校	2,225人	20年7月1日	京博との 2 館併用	
19	大阪大学、大阪大学歯学部附属歯科技工士学校	24,283人	20年12月1日	京博との 2 館併用	
20	京都外国語大学、京都外国語短期大学	6,600人	21年8月1日	京博との 2 館併用	
21	関西大学、関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学高等部	33,069人	23年6月1日	京博との 2 館併用	
22	奈良工業高等専門学校	1,115人	23年7月1日	奈良博のみ	
23	立命館大学	36,691人	26年4月1日	京博との 2 館併用	
24	京都女子大学	6,832人	29年4月1日	京博との 2 館併用	
25	四天王寺大学　人文・社会学部	1,833人	29年5月1日	京博との 2 館併用	
26	学校法人　関西学院	27,325人	30年4月1日	京博との 2 館併用	
27	大阪大谷大学	3,036人	30年11月1日	京博との 2 館併用	
28	奈良県立大学	657人	2年6月1日	奈良博のみ	

【九州国立博物館】

① 加入校数（21校）

	学校名	学生数	入会日	備考
1	九州産業大学	10,634人	19年4月1日	
2	久留米大学	7,219人	19年4月1日	
3	筑紫女学園大学	2,565人	19年4月1日	
4	福岡教育大学	3,000人	19年4月1日	
5	福岡大学	20,119人	19年4月1日	
6	九州産業大学造形短期大学部	308人	19年4月1日	
7	福岡女子短期大学	332人	19年4月1日	
8	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	129人	19年4月1日	
9	久留米大学附設高等学校	621人	19年4月1日	
10	筑紫女学園高等学校	1,513人	19年4月1日	
11	筑紫台高等学校	1,587人	19年4月1日	
12	福岡大学附属大濠高等学校	1,918人	19年4月1日	
13	福岡大学附属若葉高等学校	888人	19年4月1日	
14	放送大学福岡学習センター	2,508人	19年5月1日	
15	九州大学	18,973人	20年5月1日	
16	九州情報大学	440人	21年4月1日	
17	日本経済大学（福岡キャンパス）	2,083人	21年5月1日	
18	第一薬科大学	1,017人	27年4月1日	
19	福岡工業大学	4,452人	2年10月1日	
20	福岡工業大学短期大学部	374人	2年10月1日	
21	福岡工業大学附属城東高等学校	1,992人	2年10月1日	

1-(3)-①-6 「留学生の日」

館名・日程	内容	アンケート結果概要
東京国立博物館 中止		
京都国立博物館 12 月 23 日(水) 9：30～17：00	○参加者数　68 人《38 人》 留学生　68 人《38 人》 ・名品ギャラリー（平常展示）観覧料無料 ・公式キャラクター「トラりん」ノベルティグッズプレゼント ・キャンパスメンバーズ対象講演会の開放	・留学生アンケート回答者数 17 人 （回収率 25%） ・来館頻度：来たことがある 29% ・「留学生の日」参加：初めて 100% ・認知経路：ポスター・チラシを見て 16%、HP を見て 6%、チラシをもらって 6%、友人・教師 72%　他 0% ・展示内容：とても良かった 65%、良かった 35%、普通以下 0% ・出身国：中国 76%、台湾 12%、韓国 6%、インドネシア 6%
奈良国立博物館 11 月 28 日(土) 9：30～17:00	○来館者数　196 人《12,175 人》 留学生　0 人《71 人》 ・「名品展」の無料観覧 ・留学生の日関連イベント「英語落語 in 奈良博」を実施	・留学生アンケート回答者数 0 人
九州国立博物館 11 月 3 日(火・祝) 9：30～17：00	○来館者数 文化交流展(平常展)　814 人《1,867 人》 留学生　8 人《8 人》 令和 2 年度留学生イベント 「チャレンジ文化交流展クイズ王！」 参加者 6 人 ※同伴者のカウントはなし ・文化交流展（平常展）のみ無料観覧 ・令和 2 年度留学生イベント 「チャレンジ文化交流展クイズ王！」	・留学生アンケート回答者数 6 人（回収率 75%） ・出身国：中国 1 人、イラン 1 人、アメリカ 2 人、アイルランド 1 人、オーストラリア 1 人 ・来館回数：1 回 4 人、2 回 2 人 ・認知経路（複数回答）：ホームページ 1 人、学校から 1 人、友達から 4 人、留学生イベントをきっかけに知った 2 人 ・満足度（文化交流展）とてもよかった 6 人 ・留学生イベントの流れやスタッフの対応：とてもよかった 6 人 ※アンケートは「チャレンジ文化交流展クイズ王！」参加者のみから回収。

＊来館者数、参加者数等：《　》内は令和元年度

1-(3)-①-7　ボランティア受入実績　　（後述の資料に記載）◎共通資料b

1-(3)-①-8 友の会・メンバーズパス等

1) 会員数

友の会(29年4月1日改定)　　令和3年3月31日現在

区分 / 館名	友の会会員数	(参考) 年会費
東京国立博物館	1,772 人	8,000 円
九州国立博物館	59 人	10,000 円

メンバーズプレミアムパス(29年4月1日より新設)　　令和3年3月31日現在

区分（年会費） / 館名	会員数	一般 (5,000 円)	一般 (3,100 円)	学生 (3,500 円)	学生 (3,000 円)	学生 (2,100 円)	家族 (10,000 円)
東京国立博物館	8,132 人	7,969 人	−	163 人	−	−	−
奈良国立博物館 (奈良博プレミアムカード)	1,285 人	1,260 人	−	−	22 人	−	3 人
九州国立博物館	2,300 人	−	874 人	−	−	1,426 人	−

国立博物館メンバーズパス（４館共通/29年4月1日より新設） 令和3年3月31日現在

区分（年会費） / 館名	会員数	一般 (2,000 円)	学生 (1,000 円)
東京国立博物館	1,926 人	1,867 人	59 人
京都国立博物館	489 人	462 人	27 人
奈良国立博物館	166 人	153 人	13 人
九州国立博物館	52 人	50 人	2 人

2)各種会員を対象とした事業

友の会会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

特別展無料観覧券6枚贈呈、総合文化展招待券6枚贈呈、『東京国立博物館ニュース』送付、当館ミュージアムショップ・レストラン・カフェでの割引。

【九州国立博物館】

当館特別展観覧券8枚贈呈、季刊情報誌「アジアージュ」、特別展示ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付、当館ミュージアムショップ・レストラン･カフェでの割引、入会時の記念品プレゼント。

メンバーズプレミアムパスを対象とした事業

【奈良国立博物館】（奈良博プレミアムカード）

①『奈良国立博物館だより』（年4回）の配布
②『奈良国立博物館展示案内』（年1回）の配布
③当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
④当館レストランでの飲食料金の割引
⑤近隣他館の入館料金割引または無料
⑥当館研究員による解説付きの別鑑賞会を実施
・8月5日（水）　御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物－再現模造にみる天平の技－」
特別鑑賞会　参加人数　77人
・10月27日（火）　特別展「第72回正倉院展」
特別鑑賞会　参加人数　90人

【九州国立博物館】

①当館特別展の無料観覧（計4回まで、うち同一展は２回まで）
②当館平常展の無料観覧

1-(3)-①-9 賛助会

1) 会員数

令和3年3月31日現在

館名	東京国立博物館	京都国立博物館		奈良国立博物館	九州国立博物館
		(一般社団法人 清風会)	(ﾐｭｰｼﾞｱﾑ･ ﾊﾟｰﾄﾅｰ)		
件数	588件	452件	8件	89件	49件
内訳	ﾌﾟﾚﾐｱﾑ会員(個人):5人 特別会員(団体):20団体 特別会員(個人):16人 維持会員(団体):32団体 維持会員(個人):515人	賛助会員(団体):32団体 特別会員(団体):26団体 特別会員(個人):40人 普通会員(団体):20団体 普通会員(個人):334人	団体会員:7 件 個人会員:1 件	特別支援会員:2団体 特別会員:4団体 一般会員(団体):16団体 一般会員(個人):67人	ﾌﾟﾚﾐｱﾑ会員(個人):1人 特別会員(個人):4人 維持会員(個人):21人 ﾌﾟﾚﾐｱﾑ会員(団体):1団体 特別会員(団体):1団体 維持会員(団体):21団体

2) 賛助会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

①当館総合文化展、特別展（維持会員及び特別会員個人は展覧会毎に1回）の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待
④『東京国立博物館ニュース』（年4回）の配布
⑤当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑥当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

【京都国立博物館】

①『京都国立博物館だより』（年4回）の配布
②当館平常展（平成知新館名品ギャラリー）、特別展の無料観覧
③清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
④当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑤国際シンポジウム（年1回）案内の発送

【奈良国立博物館】

①当館平常展、特別展の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③展覧会図録の1冊贈呈
④『奈良国立博物館カレンダー』（年1回）の贈呈
⑤『奈良国立博物館だより』（年4回）の配布
⑥当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
⑦当館レストランでの飲食料金の割引
⑧当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施
・8月4日（火） 御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物－再現模造にみる天平の技－」
特別鑑賞会 参加人数 30人
・10月26日（月） 特別展「第72回正倉院展」
特別鑑賞会 参加人数 88人

【九州国立博物館】

①当館文化交流展、特別展の無料観覧
②各特別展開会式へのご招待
③各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待
④特別展図録の贈呈
⑤季刊情報誌『アジアージュ』（年4回）の配布
⑥当館駐車場無料利用
⑦当館施設利用料割引
⑧当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

1-(3)-①-10 渉外活動

令和 3 年 3 月 31 日現在

【東京国立博物館】

1）会場提供　0 件

2）館主催・協力イベント　9 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者数（人）	備考
1	7 月 11 日	音楽会	東京国立博物館　初夏のコンサート	平成館ラウンジ	74	主催：東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
2	9 月 22 日	音楽会	東京国立博物館　秋のコンサート	平成館ラウンジ	87	主催：東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
3	10 月 30 日～ 11 月 3 日	イベント	創エネ･あかりパーク 2020 に伴うライトアップ	本館前庭	―	主催：「創エネ・あかりパーク 2020」実行委員会 協力：東京国立博物館
4	12 月 13 日	音楽会	東京国立博物館　クリスマスコンサート	平成館ラウンジ	62	主催：東京国立博物館、サロン・ド・ソネット
5	3 年 3 月 12 日～4 月 11 日	イベント	Daiwa Sakura Aid 写真展	平成館ガイダンスルーム	―	主催：東京国立博物館、大和ハウス工業
6	3 年 3 月 12 日、13 日 4 月 3 日、4 日	音楽会	Daiwa Sakura Aid コンサート	平成館エントランス、表慶館前、本館軒下	650	主催：東京国立博物館、大和ハウス工業
7	3 年 3 月 23 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2021「東博でバッハ vol.50」大萩康司	法隆寺宝物館	50	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館
8	3 年 3 月 29 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2021「東博でバッハ vol.52」木越洋	平成館ラウンジ	60	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館
9	3 年 3 月 30 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2021「東博でバッハ vol.53」菊池洋子	平成館ラウンジ	70	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館

【京都国立博物館】

1）会場提供　　23 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4 月 3 日、6 日	研修会	従事者研修	研修室、会議室	40	
2	6 月 27 日､7 月 11 日	茶道教室	茶道教室	茶室	10	
3	7 月 17 日	研修会	修理技術者資格制度 中級･上級講習会､新任者研究会、試験準備委員会	研修室、会議室	30	
4	7 月 22 日～9 月 13 日	イベント	特別展に係る音声ガイドの貸出等	平成知新館	15	
5	7 月 22 日～9 月 13 日	イベント	特別展に係る物販・図録の販売等	平成知新館	25	
6	8 月 13 日	茶道教室	茶道教室	茶室	10	
7	8 月 24 日	鑑賞会	協賛社特別鑑賞会	展示室、接客室 1	414	
8	9 月 2 日	研修会	修理技術者資格制度 試験準備委員会	研修室	11	
9	9 月 7 日	鑑賞会	協賛社特別鑑賞会	展示室、接客室 1	339	
10	9 月 25 日	研修会	修理技術者資格制度　主任技師/技師長第 1 次試験	研修室、会議室	19	
11	10 月 5 日	研修会	従事者研修	会議室	25	
12	10 月 9 日～11 月 23 日	イベント	特別展に係る音声ガイドの貸出等	平成知新館	25	
13	10 月 9 日～11 月 23 日	イベント	特別展に係る物販・図録の販売等	平成知新館	35	
14	10 月 10 日、11 日	イベント	臨時出張所開催（切手等販売所）	グランドロビー、接客室２、接客室３	4	
15	10 月 30 日	研修会	修理技術者資格制度　主任技師/技師長第 2 次試験	研修室、会議室	19	

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
16	11 月 16 日	鑑賞会	協賛社特別鑑賞会・講演会	講堂、展示室、接客室 1	274	
17	11 月 27 日、28 日	研修会	修理技術者資格制度　初級講習会	研修室、会議室	10	
18	11 月 29 日	結婚式	結婚式	明治古都館	60	
19	12 月 1 日～7 日	イベント	美術市（アートフェア）の実施	本館（玄関ホール・中央ホール・展示室）、敷地（本館前広場、南門エントランス、噴水前広場）、茶室、講堂、大型バス駐車場	1,742	
20	12 月 20 日	講演会	協賛社特別鑑賞会の講演会場	講堂	134	
21	12 月 21 日	イベント	京都アートツアー内での博物館貸切鑑賞	展示室、講堂、大型バス駐車場	20	
22	3 年 1 月 29 日～1 月 31 日	イベント	茶会及び染織文化財の鑑賞・解説	茶室	20	
23	3 年 3 月 15 日	研修会	会場運営従事者研修	講堂	55	

2)　館主催・協力イベント　　17 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	7 月 23 日	講演会	記念講演会「西国巡礼　慈悲の道」	講堂	100	特別展「西国三十三所 草創 1300 年記念 聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」関連イベント
2	8 月 1 日	コンサート	いのち奏でるコンサート＆トーク	明治古都館	50	主催：いのち奏でるコンサート　共催：当館
3	8 月 3 日	イベント	記者体験 in 京都国立博物館	講堂	135	中学生 110 名、引率教員 16 名、市教委 9 名
4	8 月 8 日	講演会	記念講演会「資料からみる西国三十三所」	講堂	100	特別展「西国三十三所 草創 1300 年記念 聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」関連イベント
5	8 月 22 日	講演会	記念講演会「西国三十三所、観音めぐり」	講堂	100	同上
6	8 月 29 日	講演会	記念講演会「信仰の息づく霊地―那智山経塚出土の立体曼荼羅―」	講堂	100	同上
7	9 月 5 日	講演会	記念講演会「経典にみる観音菩薩」	講堂	100	同上
8	9 月 5 日	コンサート	ヒジヤミュージッククラブコンサート	講堂	34	主催：Hijiya Music Club（京都国立博物館ミュージアムパートナー）　後援：当館
9	9 月 18 日	イベント	京都・らくご博物館（秋）	講堂	96	主催：当館　制作協力：米朝事務所
10	10 月 10 日	講演会	記念講演会「宮廷と日本文化―雅な文化、その継承のこころ」	講堂	100	特別展「御即位記念　皇室の名宝」関連イベント
11	10 月 17 日	講演会	記念講演会「皇室に伝わった絵巻の至宝―春日権現験記絵を中心に―」	講堂	95	同上
12	10 月 24 日	講演会	記念講演会「皇室を彩る絵画―旧桂宮家伝来品を中心に―」	講堂	95	同上
13	10 月 24 日、25 日	イベント	秋の華道	茶室	38	主催：当館　協力：池坊華道会
14	10 月 31 日	講演会	記念講演会「宮内庁三の丸尚蔵館所蔵の書跡名品とその伝来―“禁裏御物”と諸家献上―」	講堂	97	特別展「御即位記念　皇室の名宝」関連イベント
15	11 月 7 日	講演会	記念講演会「伏見天皇と「屏風土代」―天皇の書風形成―」	講堂	96	同上
16	11 月 14 日	コンサート	ヒジヤミュージッククラブコンサート	講堂	34	主催：Hijiya Music Club（京都国立博物館ミュージアムパートナー）　後援：当館
17	11 月 14 日	講演会	記念講演会「御所をめぐる色とかたち」	講堂	144	特別展「御即位記念　皇室の名宝」関連イベント

【奈良国立博物館】

1) 会場提供　　22 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	4 月 4 日	撮影	ウェディングフォト	茶室・仏美センター・応接室	6	Wakana style + 峪口治恵
2	毎週木曜日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため 史跡探訪部講座開催のため	講堂	各回 120 各回 50 総合計 1,000	奈良シニア大学　森田緑
3	7 月 4 日	撮影	VR・ドローン撮影	仏美センター	4	太陽企画（株）
4	9 月 30 日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	6	Studio TVB 奈良店
5	10 月 1 日	祭事	秋祭り	敷地内	60	氷室神社
6	10 月 12 日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	6	Studio TVB 奈良店
7	10 月 14 日	写生	小学生の写生会授業	敷地内	84	奈良育英小学校
8	10 月 19 日, 21 日, 26 日, 29 日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	6	(株)トライアングル
9	10 月 24 日～11 月 9 日	キャンペーン	正倉院展図録、グッズ等の販売	西新館・地下回廊	―	(財)仏教美術協会
10	10 月 24 日～11 月 9 日	キャンペーン	休憩所及びフード・ドリンクの販売	新館西側敷地	―	㈲日本クリーンシステムズ
11	10 月 24 日～11 月 9 日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	―	校倉な会
12	10 月 24 日～11 月 9 日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	―	なら和み館
13	11 月 3 日	イベント	秋の天平行列　東大寺参詣行列	敷地内	60	平城京天平祭実行委員会
14	11 月 6 日	講座・セミナー	法華寺　講演	会議室	20	法華寺
15	11 月 15 日	イベント	Cornes Osaka Showroom Exclusive Touring to NARA NATIONAL MUSEUM	敷地内	60	(株)ツーアンドフォー
16	11 月 23 日	撮影	ウェディングフォト	茶室、仏美センター	5	Wakana style + 峪口治恵
17	11 月 27 日	茶会	茶会	茶室	10	千葉桂司
18	11 月 29 日	イベント	奈良市ホストタウン事業「コトロゲ 2020」	敷地内	300	奈良市ポイント運営事務局
19	12 月 17 日	敷地提供	春日若宮おん祭執行に係る敷地提供	一の鳥居付近の敷地	―	春日大社
20	2 月 19 日	講座・セミナー	見学勉強会	仏美センター	16	王寺町教育委員会文化交流課文化福祉センター
21	3 月 19 日	撮影	ウェディングフォト	敷地内	4	Studio TVB 奈良店
22	3 月 31 日	撮影	雑誌「週刊新潮」の撮影	敷地内	5	新潮社　八尾久男

2) 館主催・協力イベント　　24 件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	6 月 9 日～9 月 7 日	展示	唐招提寺の蓮展示	敷地内の池	－	
2	7 月 6 日	法要	夏季仏像供養	なら仏像館	20	関係者のみ
3	8 月 4 日	鑑賞会	賛助会特別鑑賞会	講堂・展示室	30	
4	8 月 5 日	鑑賞会	奈良博プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂・展示室	77	
5	9 月 14 日	法要	秋季仏像供養	なら仏像館	－	
6	10 月 26 日	鑑賞会	賛助会員特別鑑賞会	講堂	88	
7	10 月 24 日～11 月 9 日	展示	正倉院展　法華寺御流のいけばな展示	西新館 1F ロビー	―	
8	10 月 27 日	鑑賞会	プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂	90	
9	11 月 14 日、15 日	特別鑑賞	関西文化の日	なら仏像館	1,847	
10	11 月 28 日	特別観覧	留学生の日	展示室	0	
11	11 月 28 日	イベント	英語落語	講堂	63	
12	12 月 7 日	法要	冬季仏像供養	なら仏像館	20	関係者のみ
13	12 月 9 日～1 月 17 日	展示	春日若宮おん祭で使用される備品の展示	展示室	－	
14	12 月 9 日～1 月 17 日	イベント	【特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」】関連ワークショップ　おうち de おん祭『紙コップで作ろう！鼓』	You Tube	337	

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
15	12月9日～1月17日	イベント	【特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」】関連ワークショップ　おうち　de　おん祭『動く！おん祭の絵巻！』	You Tube	404	
16	12月17日	茶会	おん祭「茶会」	茶室・庭園・西新館南側ピロティ	80	主催：裏千家　泉本宗悠
17	1月2日、3日、5日	特別鑑賞	おん祭展　無料チラシ配布	春日大社境内	688	
18	1月8日	特別公開	文化財保存修理所特別公開	講堂・文化財保存修理所	70	
19	2月6日～3月21日	展示	お水取り展　修二会お松明展示	展示室	―	
20	2月22日	法要	特別公開「金峯山寺　金剛力士立像」法要	なら仏像館	104	
21	2月28日	イベント	奈良国立博物館・特別陳列「お水取り」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	28,927	
22	3月8日	イベント	奈良国立博物館・特別陳列「帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―」＆なら仏像館・特別公開「金峯山寺 金剛力士立像」を巡ろう【ニコニコ美術館】	展示室	21,094	
23	3月10日～3月12日	特別鑑賞	お水取り展　無料チラシ配布	東大寺境内	583	
24	3月20日	イベント	お水取り「講話」と「現地解説」の会	講堂、展示室	39	

【九州国立博物館】

1）会場提供　0件（イベント、講演会等）

2）　館主催・協力イベント　18件

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
1	9月3日～13日	イベント	第71回太宰府天満宮七夕揮ごう大会	エントランスカフェ前	－	主催：（公財）太宰府顕彰会
2	10月23日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランスカフェ前	65	主催：九州国立博物館
3	11月3日	イベント	第11回留学生イベント 留学生向け「チャレンジ！クイズ王」	文化交流展示室	6	主催：九州国立博物館
4	11月13日～29日	イベント	宮地嶽第53回光の道全国競書大会	エントランスカフェ前	－	主催：宮地嶽光の道全国競書大会実行委員会
5	11月25日～3年1月11日	展示	開館15周年記念特別企画 「九博を彩った博多祇園山笠」	特別展示室前ロビー	－	主催：九州国立博物館、福岡県
6	3年1月13日～17日	展示	第36回筑紫地区中学校美術展	エントランス	－	主催：筑紫地区中学校美術教育研究会
7	3年1月3日	コンサート	弦楽四重奏ニューイヤーコンサート	ミュージアムホール前	130	主催：九州国立博物館
8	3年2月6日	コンサート	ミュージアムコンサート	カフェエリア	140	主催：九州国立博物館
9	3年2月13日	コンサート	ミュージアムコンサート	カフェエリア	130	主催：九州国立博物館
10	3年2月20日	コンサート	ミュージアムコンサート	カフェエリア	170	主催：九州国立博物館
11	3年2月27日	コンサート	ミュージアムコンサート	カフェエリア	140	主催：九州国立博物館
12	3年3月2日～14日	展示	ユネスコ無形文化財「伝統建築工匠の技」パネル展示	ミュージアムホール前	－	主催：文化庁・(独)日本芸術文化振興会・(株)NHKプロモーション
13	3年3月6日	イベント	手話通訳付きオンラインバックヤードツアー	ZOOMによるオンライン開催	24	主催：九州国立博物館
14	3年3月13日	コンサート	ミュージアムコンサート	カフェエリア	130	主催：九州国立博物館
15	3年3月13日	イベント	ワークショップ「絹の体験教室 KURUKURU SILK」	ZOOMによるオンライン開催	6	主催：九州国立博物館
16	3年3月20日	コンサート	ミュージアムコンサート	カフェエリア	110	主催：九州国立博物館
17	3年3月27日	コンサート	九博春の桜コンサート	屋外レストラン前広場	300	主催：九州国立博物館
18	3年3月28日	コンサート	九博春の桜コンサート	カフェエリア	170	主催：九州国立博物館

※以下に記載するイベントについては新型コロナウイルスの影響により中止

	期間	種類（イベント、講演会等）	イベント等の概要	会場	出席者（人）	備考
19	4月4日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	中止	主催：九州国立博物館
20	4月18日	イベント	スケッチしナイト☆どうぶつえんスペシャル	文化交流展示室	中止	主催：九州国立博物館
21	4月19日	講演会	講演会「どうぶつたちとくらそうーペットは一緒に、野生動物は地球規模でー」	研修室	中止	主催：九州国立博物館
22	4月25日	講演会	特別展「古代エジプト展」関連記念講演会 「太宰府とライデン：学問の地から探る古代エジプト文明の世界」	ミュージアムホール	中止	主催：九州国立博物館
23	5月3日	イベント	きゅーはくにどうぶつたちがやってくる！ 「モルモット・ウサギとのふれあい、えさやり体験」 「動物のお医者さんと飼育相談」 トークショー「どうぶつとのくらし、むかしもいまも」	屋外	中止	主催：九州国立博物館
24	5月3日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	中止	主催：九州国立博物館
25	5月4日	イベント	特別展：「古代エジプト展」関連イベント 古代エジプトのやきものを作ってみよう！	研修室	中止	主催：九州国立博物館
26	5月5日、6日	イベント	特別展：「古代エジプト展」関連イベント ミイラ作り体験教室	研修室	中止	主催：九州国立博物館
27	5月9日	イベント	第87回はじめての茶道体験	茶室	中止	主催：九州国立博物館
28	5月9日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっぱ	中止	主催：九州国立博物館
29	5月23日	講演会	「大宰府学研究」連続講座 「筑紫の水・人・祈り」第1回「水と祈り」 「風水思想と古墳・都市」 「水辺の祭祀」	研修室	中止	主催：九州国立博物館
30	5月24日	イベント	特別展：「古代エジプト展」関連イベント ナイトミュージアム	特別展示室	中止	主催：九州国立博物館
31	5月31日	イベント	特別展：「古代エジプト展」関連イベント ナイトミュージアム	特別展示室	中止	主催：九州国立博物館
32	5月31日	イベント	第93回親子で茶道体験	茶室	中止	主催：九州国立博物館
33	6月1日	イベント	特別展：「古代エジプト展」関連イベント 視覚に障がいをお持ちの方に向けた 特別展「古代エジプト展」観覧ツアー	特別展示室	中止	主催：九州国立博物館
34	6月4日	イベント	特別展：「古代エジプト展」関連イベント 視覚に障がいをお持ちの方に向けた 特別展「古代エジプト展」観覧ツアー	特別展示室	中止	主催：九州国立博物館
35	6月6日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	中止	主催：九州国立博物館
36	6月20日	講演会	「大宰府学研究」連続講座 「筑紫の水・人・祈り」第2回「水がつなげる」 「交流の島・対馬の仏」 「航路でつなげる信仰」	研修室	中止	主催：九州国立博物館
37	7月11日	講演会	「大宰府学研究」連続講座 「筑紫の水・人・祈り」第3回「水を制する」 「水制の技術と思想」 「水制工と信仰」	研修室	中止	主催：九州国立博物館
38	8月8日	講演会	「大宰府学研究」連続講座 「筑紫の水・人・祈り」第4回「水で守る」 「基肄城跡と水門」 「古代山城の水資源」	研修室	中止	主催：九州国立博物館

1-(3)-② 有形文化財に関する情報の発信と広報の充実

1-(3)-②-1 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

（前述の資料に記載）1-(1)-③-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

1-(3)-②-2 収集した情報資料数（総数）

令和3年3月31日現在

		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
		2年度新規	総数	2年度新規	総数	2年度新規	総数	2年度新規	総数
写真原板(フィルム)		64件	323,941件	0件	257,681件	0件	361,503件	0件	23,622件
デジタル撮影		5,726件	119,831件	6,319件	49,211件	1,835件	59,097件	3525件	28532件
資料	模造	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	模写	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	その他	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	計	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
図書	和書	3,867冊	216,456冊	747冊	154,203冊	1,476冊	93,378冊	5,262冊	198,781冊
	漢書	216冊	41,218冊	9冊	22,312冊	45冊	5,346冊	0冊	0冊
	洋書	129冊	14,924冊	58冊	4,820冊	34冊	2,071冊	102冊	2,933冊
	計	4,212冊	272,598冊	814冊	181,335冊	1,555冊	100,795冊	5,364冊	201,714冊
映画フィルム		0巻	0巻	0巻	0巻	0巻	30巻	0巻	0巻
スライド		0本	0本	0本	26本	0本	21本	0本	0本
		0コマ	0コマ	0コマ	2,779コマ	0コマ	2,192コマ	0コマ	12コマ
マイクロフィルム		0巻	3,601巻	0巻	643巻	0巻	68巻	0巻	515巻

*1 マイクロフィルムは劣化(ビネガーシンドローム)のため、30年度に59件を廃棄（デジタル化済）

*2 館外に別置しシステムに登録していなかった図書（70,312冊）も加えた。30年度に増えた和書は5,068冊、洋書は108冊の計5,176冊である。

東京国立博物館資料館の利用者数（過去5年間）

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
利用者数	4,730人	4,971人	4,616人	4,080人	1,219人
閉架図書（閲覧）	4,862件	4,905件	5,314件	4,649件	4,151件
マイクロフィルム（閲覧）	588件	502件	456件	398件	507件
レファレンスサービス	5,014件	4,861件	5,113件	5,152件	1,954件
コピーサービス	30,818枚	30,066枚	33,832枚	27,286枚	23,331枚

※23年9月1日より、従来からの西門入館利用に加え、正門からの来館者に対し資料館東口からの利用を開始した。以後の利用者数はこれを含む。

1-(3)-②-3 特別観覧件数

申請件数

令和3年3月31日現在

区　分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合　計	163	9	154	57	0	57	26	6	20	28	2	26	52	1	51
写真撮影	50	6	44	0	0	0	10	4	6	14	1	13	26	1	25
映画撮影	2	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
テレビ撮影							0	0	0		1	0	0	0	0
ビデオ撮影							0	0	0				1	0	1
模写	4	1	3	2	0	2	1	1	0	1	0	1	0	0	0
模造							0	0	0				0	0	0
熟覧	107	1	106	55	0	55	15	1	14	12	0	12	25	0	25

点数

令和3年3月31日現在

区　分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合　計	695	40	655	319	0	319	104	20	84	98	19	79	174	1	173
写真撮影	182	29	153	0	0	0	39	10	29	56	18	38	87	1	86
映画撮影	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影							0	0	0	1	1	0	0	0	0
ビデオ撮影							0	0	0				1	0	1
模写	9	5	4	2	0	2	5	5	0	2	0	2	0	0	0
模造							0	0	0				0	0	0
熟覧	502	5	497	317	0	317	60	5	55	39	0	39	86	0	86

1-(3)-②-4 画像利用件数（フィルムを含む）

申請件数

令和3年3月31日現在

区　分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	0	0	0										0	0	0
	デジタルデータ提供	モノクロ	948	643	305				498	388	110	326	191	135	17	5	12
		カラー													107	59	48
	プリントでの提供	モノクロ	38	33	5				37	33	4	1	0	1			
		カラー	2	0	2				0	0	0	2	0	2			
画像再利用			137	101	36							132	98	34	5	3	2

点数

令和3年3月31日現在

区　分			国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
			合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画像利用	フィルムでの提供	モノクロ	0	0	0	（画像提供業務を外部へ委託）									0	0	0
		カラー	0	0	0										0	0	0
	デジタルデータ提供	モノクロ	3,982	1,542	2,440				1,892	967	925	1,580	424	1,156	78	6	72
		カラー													432	145	287
	プリントでの提供	モノクロ	93	60	33				84	60	24	9	0	9			
		カラー	149	0	149				0	0	0	149	0	149			
画像再利用			304	194	110							284	190	94	20	4	16

1-(3)-②-5 広報実績一覧
【本部文化財活用センター】

・〈冬木小袖〉ミク　コラボレーショングッズ制作

会期	6月30日(火)～
ターゲット	一般の美術愛好者、若年層
重点項目	ライトユーザー
特記事項	〈冬木小袖〉修理プロジェクトの一環として実施
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ約5,000件、館内・グッズ制作会社にて配布
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイト特設ページでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計5回、ぶんかつブログでの紹介計1回
その他	協賛企業にてオフィシャルECサイト制作
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞
テレビ、ラジオ	ラジオ文化放送地上波(7月5日放送)
雑誌	―
インターネットメディア	和楽WEB
その他	本事業の告知として、アットPressによるプレスリリース配信を行った。

・高精細複製品によるあたらしい屏風体験「国宝 花下遊楽図屏風」

会期	7月1日(水)～2日(木)
ターゲット	古美術愛好者、歴史愛好者、経済（トレンド・デジタル）関連
重点項目	インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	キヤノン(株)綴プロジェクトによる高精細複製品を活用。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	特別展「体感！日本の伝統芸能」の一部として作成配布。
交通広告	特別展「体感！日本の伝統芸能」の一部として実施。
新聞・雑誌広告	特別展「体感！日本の伝統芸能」の一部として実施。
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	特別展「体感！日本の伝統芸能」の一部として掲載。
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計5回、ぶんかつブログでの紹介計2回
その他	この展示は、特別展「体感！日本の伝統芸能」（2年3月10日～5月24日／主催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、東京国立博物館、文化財活用センター、読売新聞社）の一部として企画されたが、新型コロナウイルス感染防止のため、同展が開催中止となったことに伴い、本コーナーのみ、体験モニターに限定して公開することとなった。 本事業の告知として、アットPressによるプレスリリース配信を行った。
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、日本経済新聞、産経新聞、時事通信
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	excite.ニュース、MdN Design Interactive、わつなぎ、和楽WEBなど、計60媒体
その他	

・寄附ポータルサイト

会期	8月7日(金)～
ターゲット	一般の美術愛好者
重点項目	―
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計3回、ぶんかつブログでの紹介計1回
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	本事業の告知として、アットPressによるプレスリリース配信を行った。

・びじゅチューン！× ちばしび　なりきり美術館

会期	7月11日(土)～9月6日(日)
ターゲット	ファミリー層、小学生などの子どもとその親
重点項目	夏休みの家族向け
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ館内配布
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計5回、ぶんかつブログでの紹介計1回
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	インターネットミュージアム
その他	―

・日本文化紹介映像「A GLIDE ON THE GREAT WAVE ～Experience Japanese Culture at TNM～」

会期	7月1日（水）～3年3月28日（日）（191日間）
ターゲット	古美術愛好者、歴史愛好者、経済（トレンド・デジタル）関連
重点項目	インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	文化財活用センターウェブサイトにて動画を先行公開
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―

「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計3回
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	ひらがなタイムズ
インターネットメディア	ウォーカープラス、Ameba News、LINEニュースほか、計60媒体
その他	―

・8Kで文化財「ふれる・まわせる名茶碗」

会期	7月29日（水）～8月2日（日）、11月10日（火）～23日（月・祝）（18日間）
ターゲット	古美術愛好者、歴史愛好者、経済（トレンド・デジタル）関連
重点項目	インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつ・東博ウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNS(Twitter/Instagram)の情報発信計7回、ぶんかつブログでの紹介計2回
その他	プレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	日経新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	共同通信、マイナビニュース、AV watch、和楽WEBほか50媒体
その他	―

・東京国立博物館所蔵の名品から複製きものが完成

会期	11月23日（月・祝）
ターゲット	一般の美術・歴史愛好者、経済（トレンド・デジタル）関連
重点項目	インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	文化財活用センター公開シンポジウム初開催
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	館内で来館者に配布（チラシ）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNS(Twitter/Instagram)の情報発信計4回
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	朝日新聞デジタル&M 、読売新聞オンライン、ニコニコニュース 、SankeiBiz 、SANSPO.COM ほか、計55媒体
その他	SNS関連掲載約20件

・親と子のギャラリー「トーハク×びじゅチューン！なりきり日本美術館リターンズ」

会期	10月27日（火）～12月6日（日）
ターゲット	ファミリー層、小学生などの子どもとその親
重点項目	家族向け、インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ約30,000件、ポスター約50件、関係企業配布、館内配布
交通広告	上野駅デジタルサイネージ（11月1日～30日）、鶯谷駅ポスター（10月26日～11月8日）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNS(Twitter/Instagram)の情報発信計24回、ぶんかつブログ計4本
その他	アットPressによるプレスリリース配信、報道内覧会実施（10月26日）、SNS(Twitter/Instagram)広告（10月26日～11月9日）、特設ページ開設、おうちコンテンツ動画制作8本、なりきり仮装フォトコンテスト開催
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	NHKおでかけ情報、NHKアートシーン（11月29日放送）
雑誌	月刊うえの
インターネットメディア	インターエデュ、ウェブ美術手帖、わつなぎ、るるぶKids、オリコンニュース、イベントマガジンBANZAI、シミズオクト実績ページ、ほか、計78 媒体
その他	文化庁広報誌ぶんかる、パナソニック導入実例紹介

・2年度東京国立博物館収蔵品貸与促進事業実施について

会期	9月26日（土）～3年5月5日（水・祝）（全国5施設にて開催）
ターゲット	各開催会場来場者、古美術愛好者、歴史愛好者、ファミリー層、小学生などの子どもとその親、観光客
重点項目	一般媒体、開催地域の地元向け媒体、インターネット媒体
特記事項	貸与促進事業全体の活動周知を目的とする広報
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	開催会場に貸与促進事業の説明及び年間の事業実施会場について掲載したパネルを掲出
交通広告	―
新聞・雑誌広告	Artscape(有料記事掲載)
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNS(Twitter/Instagram)の情報発信計1回、ぶんかつブログでの紹介
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	『美術の窓』（1月号）
インターネットメディア	LINEニュース、朝日新聞デジタル&M、読売新聞オンライン、BIGLOBEニュース 、@nifty ビジネス、Web版美術手帖ほか、計50 媒体
その他	

・2年度貸与促進事業　九州歴史資料館　開館10周年記念特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」

会期	10月6日(火)～11月29日(日)
ターゲット	古美術愛好者、考古愛好者、歴史愛好者、ファミリー層、小学生などの子どもとその親、観光客
重点項目	開催地域の地元向け媒体、インターネット媒体
特記事項	（※）は、文化財活用センターから支出された広報費による掲出
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	
交通広告	西鉄電車主要駅（26駅）でのポスター掲示（9月28日～11月30日）（※）
新聞・雑誌広告	

テレビ広告	
「東京国立博物館ニュース」掲載	
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計3回
その他	
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	西日本新聞、朝日新聞、読売新聞、熊本日日新聞
テレビ、ラジオ	「NHKはっけん」（11月20日、NHK、11:45から約10分）、NHKラジオ（スポット告知）複数回
雑誌	
インターネットメディア	
その他	

・びじゅチューン！× OPAM　なりきり美術館

会期	3年2月19日(金)～5月9日(日)
ターゲット	ファミリー層、小学生などの子どもとその親
重点項目	家族向け
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ館内配布、ポスター館内掲示
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつウェブサイトでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計8回、ぶんかつブログでの紹介計2回
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	大分合同新聞計7回、読売新聞大分版
テレビ、ラジオ	NHK大分
雑誌	―
インターネットメディア	大分経済新聞WEB版、ウォーカープラス他
その他	大分県芸術文化スポーツ振興財団広報誌掲載2回

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

・【中止】「博物館でお花見を」

会期	2年3月10日(火)～4月5日(日) 27日間
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層（学生など）
重点項目	マスコミ及びインターネット・スマートフォンサイトによる美術愛好家、訪日・在日外国人等への情報提供
特記事項	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1,311件発送(1都3県博物館・美術館・高校・中学･小学校(台東･墨田･文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	交通広告（B1駅貼り）：JR（上野・鶯谷)、東京メトロ(表参道、銀座駅、六本木駅、新宿駅、九段下、竹橋)、東急(中目黒駅、自由が丘駅、武蔵小杉駅、二子玉川駅) 交通広告（サイネージ）：東京駅一番街、新宿駅東口、六本木駅、秋葉原駅 ※臨時休館による、訂正シール貼り、データ差替作業を実施
新聞・雑誌広告	※臨時休館により掲載を取りやめ
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	@Pressによるリリース配信、LIVEJAPN（インバウンド向け情報発信サイト）へのイベント記事出稿（日本語・英語）

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	J:COM11チャンネル台東区広報番組「ニュースたいとう」
雑誌	ノジュール2月号、春walker首都圏版、「婦人画報」4月号
インターネットメディア	レッツエンジョイ東京、オズモール、ママともプラス、インターネットミュージアム、ファッションプレス、MdN Design Interactive、モモモサーバー、ウォーカープラス　ほか
その他	※開催できなかったクイズラリーを紹介する動画を広報室で内製しYouTubeチャンネルに公開

・「博物館でアジアの旅」

会期	9月8日（火） ～ 10月11日（日）(34日間)
ターゲット	一般の東洋美術愛好家、若年層（学生など）
重点項目	一般のマスコミ及びインターネット・SNSによる情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	新型コロナウイルス感染拡大による運営方法変更等に備え、チラシ・ポスター等の印刷物は制作見送り
交通広告	交通広告（サイネージ）：JR東日本（上野駅）
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事3回、メールマガジン・SNSでの情報配信など。
その他	ツイッター・フェイスブック・インスタグラムでの広告配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	全東京新聞、東洋経済日報社
テレビ、ラジオ	J:COM11チャンネル台東区広報番組「ニュースたいとう」
雑誌	―
インターネットメディア	ウェブ版美術手帖、ファッションプレス、Walkerplus、モモモサーバー、月刊うえのWEB版8・9月合併号
その他	―

・「博物館に初もうで」

会期	3年1月2日（土）～1月31日（日）（30日間）
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層（学生など）
重点項目	マスコミ及びインターネット・スマートフォンサイトによる美術愛好家、訪日・在日外国人等への情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	館内掲示用にポスターのみ作成
交通広告	池袋中央改札、新宿駅東口・南口・甲州街道改札、渋谷駅ハチ公口、高輪ゲートウェイ駅、東京駅新幹線北乗換口、高田馬場駅スマイルステーションビジョン、新橋駅南改札、横浜駅中央通路・南改札内、桜木町駅、浦和駅、大宮駅中央改札、品川駅中央改札、上野駅公園改札内、巣鴨駅、吉祥寺駅、横浜タワーアトリウム、東京駅丸の内地下中央通路・京葉通路、秋葉原新電気街口
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信、SNS広告など
その他	SNS広告、Yahoo!スマートフォン用広告、@Pressによるリリース発信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、産経新聞　ほか
テレビ、ラジオ	―
雑誌	美術手帖、婦人画報、冬ぴあ　ほか
インターネットメディア	ニコニコ動画、ファッションプレス、美術手帖、モモサーバー、インターネットミュージアム、レッツエンジョイほか
その他	―

・親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化」

会期	3年1月19日（火）～2月28日（日）（41日間）
ターゲット	小学生などの子どもとその親、若年層、外国人
重点項目	お子さんのいる家族向け媒体、インターネット媒体、SNSを通しての情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	上野駅デジタルサイネージ
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事2回、メールマガジン・SNSでの情報配信など
その他	ツイッター広告（@Press配信）、@Pressによるリリース発信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	ひらがなタイムズ、月刊うえの ほか
インターネットメディア	日経DUAL、OBIKAKE、kodomoe ほか
その他	―

(2) 特別展、共催展等

・【中止】特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」

会期	2年3月13日（金）～5月10日（日）（59日間）
ターゲット	仏像ファン、日本文化・美術愛好家全般
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約8,000件(美術館・博物館、古美術骨董、各種教室等)に送付、館内配布
交通広告	JR東日本SWハーフ、JR上野駅ホーム前3×4mボード、東京メトロUボードゴールド、京王電鉄駅貼り、東武鉄道日比谷線・半蔵門線乗り入れドア横、JR上野駅ADビジョン、上野さくらテラス柱巻シート　ほか
新聞・雑誌広告	朝日新聞、読売新聞にて展開
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、当館メールマガジンでの情報配信、公式サイト・共催者(朝日新聞社、NHKプロモーション)ウェブサイトでの紹介 SNS:公式フェイスブック・ツイッター、当館ツイッター・フェイスブックでの情報発信　ほか
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、毎日新聞、共同通信、日本経済新聞、秋田魁新報、上毛新聞社、茨城新聞社、河北新報社、埼玉新聞社、陸奥新報社ほか
テレビ、ラジオ	テレビ東京 「新美の巨人たち」（3/21放映）、NHK BS8K「国宝　百済観音の美」（4/12,19放映)、NHKEテレ「日曜美術館　法隆寺の至宝～金堂壁画をよみがえらせた人々～」（4/12放映）、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」（4/28放映）
雑誌	「芸術新潮」（2019年12月号）、「和楽」(12-1月号・4-5月号)、「東京ミュージアムBOOK」（1月発売）、「美術展ぴあ」(1月号)、「一個人」(1月号)、「サライ」(2月号)、「時空旅人」(2月号)、「美術の窓」(2月号)、「ホビージャパン」(2月号)、「フィギュア王」(2月号)、「エクラ」(4月号)、「STORY」(4月号)、「婦人画報」(4月号)、「Discover Japan」(4月号)、「ミセス」(4月号)　ほか
インターネットメディア	美術手帖、ファッションプレス、レッツエンジョイ東京、TimeOut、EYEAi、和楽WEB、大仙市ホームページ、Withnews、レッツ・エンジョイ東京、美術手帖オンライン、リビング東京WEB、イーヒルズ　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	元年9月24日（平成館大講堂）
人数等	85名出席
④報道内覧会	
実施日	3月16日（月）
人数等	199名出席（木村多江氏取材会も含む）

・【会期変更】特別展「きもの　KIMONO」

会期	6月30日（火） ～ 8月23日（日）（55日間）
ターゲット	きもの愛好家、ファッション関係者、日本文化・美術愛好家全般
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により会期変更
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約3,000件(美術館、博物館、美術団体・ギャラリー、きもの教室・呉服店、大学、カルチャーセンター等)に送付、館内配布
交通広告	JR上野駅ホーム向かいボード、JR東日本SWボード、東京メトロ表参道駅ADボード、私鉄5社フレコミボード（東急・小田急・京王・相鉄・京急の43駅）、東急線横浜駅メガセット（ボード）、京王線駅貼りB1ポスター、京王線電車内中吊りB3ポスター、京王線新宿駅ステラボード、上野エリアフラッグ
新聞・雑誌広告	朝日新聞、「おかずのクッキング」（227号・3月21日発売）
テレビ広告	テレビ朝日事業スポット、番組内PRロール（昼帯ドラマ枠）
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、当館メールマガジンでの情報配信、公式サイト・共催者(朝日新聞、テレビ朝日)ウェブサイトでの紹介・バナー告知 SNS:公式ツイッター、当館ツイッター・フェイスブックでの情報発信　ほか
その他	・ツイッター、フェイスブック、インスタグラム出稿（新会期情報告知など） ・テレ朝動画、Tver、GYAO！、AbemaTV、六本木ヒルズアリーナビジョンでスポット放映 ・本展広報大使IKKO氏と小山工芸室長による見どころ紹介動画「ギャラリートーク」（日本語字幕版/英語字幕版）を制作。トーハクYouTubeチャンネル等で4年度末まで公開予定　ほか
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、共同通信、繊研新聞、世界日報、文化通信、洋装産業新聞　ほか
テレビ、ラジオ	テレビ朝日「モーニングショー」「グッド！モーニング」「スーパーJチャンネル」(6/30放映)、NHK Eテレ「日曜美術館　アートシーン」(7/19放映)、J-WAVE「GOOD NEIGHBORS」（7/30放送）ほか
雑誌	「芸術新潮」（2019年12月号・2020年5月号（付録：山﨑零『恋せよキモノ乙女』×きもの展コラボ漫画特別小冊子））、「サライ」(1月号)、「日経おとなのOFF」(1月増刊号)、「美術の窓」（1月号）、「美術展完全ガイド2020」、「目の眼」(4月号)、「和楽」（6-7月号）、「七緒」（春号）、「美しいキモノ」（春号）、「VOGUE JAPAN」（5月号）、「Discover Japan」（4月号）、「AERA」（5/11号）ほか
インターネットメディア	ドワンゴ「ニコニコ美術館」（7/20配信）、ドワンゴ「YOSHIKIチャンネル」（7/25配信）、インターネットミュージアム、美術展ナビ、WEBきものサロン、WEB和樂、サライ.jp、ananWEB、Precious.jp、25ansオンライン、和楽WEB、ファッションプレス、芸術新潮WEB、日経doors、アートアジェンダ ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	元年10月17日（平成館大講堂）
人数等	51媒体　83名出席
④報道内覧会	
実施日	6月29日
人数等	138媒体　218名出席　※IKKO氏取材会14媒体19名

・特別展「工藝2020－自然と美のかたち－」

会期	9月21日（月・祝）～11月15日（日）（56日間）
ターゲット	一般の美術愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約130件（美術館・博物館等）
交通広告	B1ポスター駅貼り上野駅など含む10か所(9/21～最長10/6)、B1ポスター駅貼り乃木坂駅(9/16～11/10)、J-ADビジョン上野駅含む4か所(10月中予定)
新聞・雑誌広告	読売新聞にて展開
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、フェイスブック、ブログ関連記事4回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	日本教育新聞、東京新聞、朝日新聞、東洋経済日報ほか
テレビ、ラジオ	ぶらぶら美術・博物館
雑誌	月刊「ezpress」(10/1刊行)、「美術の窓」(生活の友社・10月号)、「江戸楽」(エー・アール・ティ株式会社・10月号)、月刊「いけ花龍生」(一般社団法人　龍生華道会・10月号)、茶の湯(淡交社・10月号)、日経おとなのOFF(日経BP社・9月号)、芸術新潮(新潮社・9月号)、月刊美術(実業之日本社・10月号)ほか

インターネットメディア	shareart、OBIKAKE、インターネットミュージアム、ArtAgenda、ArtJournal、ファッションプレス、レッツエンジョイ東京ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	―
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	9月20日(日)
人数等	63媒体86名

・特別展「桃山―天下人の100 年」

会期	10月6日（火）～11月29日（日）（55日間）
ターゲット	一般の美術愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約3,000件(美術館、博物館、公立施設、大学、カルチャーセンター等)に送付、館内配布
交通広告	東京メトロ駅看板（丸の内線大手町駅、赤坂見附駅、霞ヶ関駅、日比谷線上野駅、千代田線西日暮里駅）、SSアクセスボード（JR＋小田急など88駅88面）
新聞・雑誌広告	読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞
テレビ広告	日テレ、BS日テレスポット
「東京国立博物館ニュース」掲載	2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(読売新聞社)ウェブサイトでの紹介 SNS:公式フェイスブック、ツイッター　当館Twitter、Facebook、Instagramでの発信
その他	有楽町ビックビジョン
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、毎日新聞ほか
テレビ、ラジオ	NHKEテレ「日曜美術館　アートシーン」（10月25日放送）、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」（11月3日放送）、テレビ東京「新美の巨人たち」（11月7日放送）、J-WAVEほか
雑誌	日経おとなのOFF(日経BP社・9月号)、サライ(小学館・9月号)、Art Journal（アートジャーナル社・9月号)、家庭画報（世界文化社・9月号）、美じょん新報（ビジョン企画出版社・9月号）時空旅人MOOK（三栄・10月発売）STORY（光文社・10月号）、ミセス（文化出版局・11月号）など多数
インターネットメディア	美術手帖WEB、レッツエンジョイ東京、モモモサーバー、インターネットミュージアム、美術展ナビ、和楽WEBなど多数
その他	―
③報道発表会	
実施日	―
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	10月5日（月）
人数等	145媒体199名

・特別展「日本のたてもの―自然素材を活かす伝統の技と知恵」

会期	12月24日（木）～3年2月21日（日）（60日間）
ターゲット	一般の美術愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1,504件(博物館・美術館・学校、ギャラリー、図書館等)
交通広告	デジタルサイネージ(12月～3年1月　JR上野駅、12月JR新宿駅)、ポスター駅貼り(12月東京メトロ主要駅、3年1月)
新聞・雑誌広告	読売新聞ほか
テレビ広告	―
「東京国立博物館ニュース」掲載	3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事2回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト
その他	―

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社
テレビ、ラジオ	調布エフエム放送「ゆうがた5」、NHK Eテレ「日曜美術館 アートシーン」、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」
雑誌	2021年絶対に見逃せない美術展、週刊文春 12月24日号、ディティール1月号、美術の窓1月号、月刊美術1月号、江戸楽1月号、日経サイエンス 2月号、新建築 1月号ほか
インターネットメディア	Jタウンネット東京都、Tokyo Weekender、au webポータル、Yahoo!ニュース、TimeOut、Internet Museum、ニコニコ生放送「ニコニコ美術館」ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	―
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	12月23日(水)
人数等	75媒体96名

【京都国立博物館】
(1)名品ギャラリー（平常展）

・特別企画「文化財修理の最先端」

会期	12月19日（土）～3年1月31日（日）（34日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、古美術ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,846件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅)
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事2回・YouTube、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	京都新聞、毎日新聞、読売新聞、中日新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	美術の窓（生活の友社）、目の眼（目の眼）　ほか計8件
インターネットメディア	KOBE MEET TRIP、そうだ京都行こう（JR東海）、日本博SNS　ほか計2件
その他	―

・新春特集展示「丑づくし―干支を愛でる―」

会期	12月19日（土）～3年1月31日（日）（34日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、年末年始の観光客
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	しんぶん赤旗
テレビ、ラジオ	NHK京都放送局
雑誌	Kansai Walker（KADOKAWA）、おふたいむ（ひでみ企画）　ほか計8件
インターネットメディア	KOBE MEET TRIP、そうだ京都行こう（JR東海）　ほか3件
その他	―

・特別企画「新聞人のまなざし―上野有竹と日中書画の名品―」

会期	3年2月2日（火）～3月7日（日）（36日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、古美術ファン、文人画ファン、書道ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	美術の窓（生活の友社）
インターネットメディア	―
その他	―

・特集展示「国宝「日本書紀」と東アジアの古典籍」

会期	3年2月4日（木）～2月28日（日）（22日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、歴史ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんYouTube、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	美術の窓（生活の友社）
インターネットメディア	―
その他	―

・特集展示「雛まつりと人形」

会期	3年2月9日（火）～3月7日（日）（24日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、人形ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

(2)特別展覧会、共催展等

・特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」

会期	7月23日（木・祝）～9月13日（日）（46日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、仏像ファン、札所巡りファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,000件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(JR京都駅ほか京阪電車主要駅)、JR京都駅東改札バナー、JR京都駅サイネージ
新聞・雑誌広告	読売新聞
テレビ広告	読売テレビ
「京都国立博物館だより」掲載	告知1回、特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事6回・YouTube、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんフェイスブック・ツイッターでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、京都新聞
テレビ、ラジオ	アートシーン（NHK）
雑誌	日経おとなのOFF（日経BP社）、芸術新潮（新潮社）　ほか計28件
インターネットメディア	美術手帖Web版（BTCompany）　ほか9件
その他	『日本の聖地』（柵出版）
③報道発表会	
実施日	10月4日（金）
人数等	23媒体、45人出席（場所：読売新聞東京本社）
④報道内覧会	
実施日	7月22日（水）
人数等	40媒体、70人出席

・特別展「皇室の名宝」

会期	10月10日（土）～11月23日（月・祝）（39日間）
ターゲット	皇室ファン、日本美術ファン、若冲ファン
重点項目	広く一般のマスコミ及びSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,100件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(JR大阪駅、JR京都駅ほか京阪電車、大阪市営地下鉄、京都市営地下鉄主要駅)、JR京都駅東改札バナー
新聞・雑誌広告	読売新聞
テレビ広告	NHK　スポット枠
「京都国立博物館だより」掲載	予告1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事4回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト・ツイッター、共催者（読売新聞社）ウェブサイトでの紹介 SNS:当館ツイッター、トラりんフェイスブック・ツイッターでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、日本経済新聞　ほか55件
テレビ、ラジオ	日曜美術館（NHK）、8K特集（NHK）　ほか5件
雑誌	文藝春秋（文藝春秋）、女性セブン（小学館）、週刊新潮（新潮社）　ほか計88件
インターネットメディア	美術手帖Web版（BTCompany）、Yahoo！ニュース　ほか65件
その他	神姫バスで行くバス旅（神姫観光）　ほか2件
④報道内覧会	
実施日	10月9日（金）
人数等	63媒体、82人出席

・特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」

会期	3年3月27日（土）～5月16日（日）（44日間）
ターゲット	日本美術ファン、歴史ファン、彫刻ファン
重点項目	広く一般のマスコミ及びSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,100件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告(JR京都駅ほか京阪電車)、JR京都駅東改札バナー
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「京都国立博物館だより」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト、共催者（京都新聞）ウェブサイトでの紹介 SNS:当館ツイッター、トラりんフェイスブック・ツイッターでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	日経おとなのOFF（日経BP社）、美術展ぴあ　ほか
インターネットメディア	そうだ京都行こう（JR東海）
その他	―
③報道発表会	
実施日	12月18日（金）
人数等	34媒体、39人出席（場所：京都国立博物館）
④報道内覧会	
実施日	3年3月26日（金）
人数等	―

【奈良国立博物館】
(1)名品展(平常展)

・名品展　「珠玉の仏たち」

会期	4月1日～12月20日、3年2月23日～常時開催
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生向けに、マスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	外国人向け音声ガイド（英・中・韓）、日本語音声ガイドは29年10月28日から導入
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	近鉄奈良駅デジタルサイネージ広告
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、Youtubeで紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	『kita-colleART』、『ライトアッププロムナードならホームページ』、『おでかけカレンダー』、『ニコニコ美術館』
その他	『奈良県修学旅行パンフレット』、

・名品展　「珠玉の仏教美術」

会期	12月8日（火）～3年3月21日（日）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	『kita-colleART』
その他	―

・名品展　特別公開「金峯山寺仁王門　金剛力士立像」

会期	令和3年2月23日（火・祝）～
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	『旅の手帖』4月号、
インターネットメディア	―
その他	旅行会社のツアー（天満屋トラベル）

・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術　［特集］神鹿の造形」

会期	12月8日（火）～3年1月17日（日）
ターゲット	おん祭（12/17）前後及び年末年始の春日大社参拝客、一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン
重点項目	おん祭（12/17）前後及び年末年始の春日大社参拝客、一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約150件（近隣商店街、キャンパスメンバーズ校、賛助会員等） 約1,750件（博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（近鉄、大阪メトロ）、チラシ（近鉄、関西国際空港）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港、近鉄奈良駅）
新聞・雑誌広告	
テレビ広告	
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	YouTubeで紹介
その他	デジタルサイネージ（県庁、春日野国際フォーラム甍、図書情報館、スイムピア奈良、イオンモール大和郡山、JR王寺駅、西和医療センター、社会福祉総合センター、医大玄関ホール、南奈良総合医療センター、新奈良総合医療センター）
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	『朝日新聞』、『新美術新聞・美術館ギャラリーガイド』ほか
テレビ、ラジオ	―
雑誌	『美術の窓・アートコレクターズ』、『関西冬ウォーカー』、『近くて、いい旅　電車&ウォーク』12月号、『月刊大和路ならら』12月号、『近鉄ニュース』12月号、『週刊文春』、『yomiっこ』1月号　ほか
インターネットメディア	『BIGLOBE旅行』、『日本旅行』、『J:COM ZAQおでかけガイド』、『トラベルバリュー（たびゲーター）』、『大東建託 進化する暮らし』、『goo地図』、『ゆこゆこネット』、『Walkerplus（KADOKAWA）』、『いこーよ　（子ども向けイベント）』、『シュミカツ！』、『ART AgendA』、『JR西日本おでかけネット』、『じゃらんnet』、『Yahoo!Japan』　ほか
その他	

・特集展示「新たに修理された文化財」

会期	12月22日（火）～3年1月17日（日）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン、写真ファン
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	産経新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	『美術の窓・アートコレクターズ』、『yomiっこ』1月号ほか
インターネットメディア	―
その他	『アートの旅2021冬新年号』　ほか

・特別陳列「お水取り」

会期	3年2月6日（土）～3月21日（日）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、「お水取り」（お松明）を見に来る観光客。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約150件（近隣商店街、キャンパスメンバーズ校、賛助会員等） 約1,750件（博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（近鉄、大阪メトロ）、チラシ（近鉄、関西国際空港）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港、近鉄奈良駅）
新聞・雑誌広告	
テレビ広告	
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	YouTubeで紹介
その他	デジタルサイネージ（県庁、春日野国際フォーラム甍、図書情報館、スイムピア奈良、イオンモール大和郡山、JR王寺駅、西和医療センター、社会福祉総合センター、医大玄関ホール、南奈良総合医療センター、新奈良総合医療センター）
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	
テレビ、ラジオ	
雑誌	『美術の窓・アートコレクターズ』、『近くて、いい旅　電車&ウォーク』2月号、『近鉄ニュース』2月号、『yomiっこ』1月号　ほか
インターネットメディア	『BIGLOBE旅行』、『日本旅行』、『J:COM ZAQおでかけガイド』、『トラベルバリュー（たびゲーター）』、『大東建託 進化する暮らし』、『goo地図』、『ゆこゆこネット』、『Walkerplus（KADOKAWA）』、『いこーよ　（子ども向けイベント）』、『シュミカツ！』、『神戸観光コンシェルジュ』、『ニコニコ美術館』
その他	『アートの旅2021冬新年号』

・特別陳列「帝国奈良博物館の誕生」

会期	3年2月6日（土）～3月21日（日）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約150件（近隣商店街、キャンパスメンバーズ校、賛助会員等） 約1,800件（博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（近鉄、大阪メトロ）、チラシ（近鉄、関西国際空港）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港、近鉄奈良駅）
新聞・雑誌広告	
テレビ広告	
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、YouTubeで紹介
その他	デジタルサイネージ（県庁、春日野国際フォーラム甍、図書情報館、スイムピア奈良、イオンモール大和郡山、JR王寺駅、西和医療センター、社会福祉総合センター、医大玄関ホール、南奈良総合医療センター、新奈良総合医療センター）
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	
テレビ、ラジオ	
雑誌	『美術の窓・アートコレクターズ』、『関西春ウォーカー』、『和樂』2.3月号ほか
インターネットメディア	『BIGLOBE旅行』、『日本旅行』、『J:COM ZAQおでかけガイド』、『トラベルバリュー（たびゲーター）』、『大東建託 進化する暮らし』、『goo地図』、『ゆこゆこネット』、『Walkerplus（KADOKAWA）』、『いこーよ　（子ども向けイベント）』、『シュミカツ！』、『ニコニコ美術館』
その他	『アートの旅2021冬新年号』

(2)特別展、共催展等

特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」

会期	7月4日（土）～9月6日（日）（56日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供。
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約150件（近隣商店街、キャンパスメンバーズ校、賛助会員等） 約1,700件（博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（近鉄、大阪メトロ）、チラシ（近鉄、関西国際空港）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港、近鉄奈良駅）
新聞・雑誌広告	
テレビ広告	
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター
その他	6月29日・7月1日放送MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」生CM
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	『月刊目の眼』8月号、『編集サービス』7月号
インターネットメディア	『奈良ぶら』
その他	―
③報道発表会	
実施日	3月3日
人数等	3媒体、3人出席（場所：当館講堂）
④報道内覧会	
実施日	7月3日
人数等	22媒体、36人出席

・特別展「第72回正倉院展」

会期	10月24日（土）～11月9日（月）（17日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客向けにテレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約150件（近隣商店街、キャンパスメンバーズ校、賛助会員等） 約1,750件（博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（近鉄、大阪メトロ）、チラシ（近鉄、関西国際空港）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港、近鉄奈良駅）
新聞・雑誌広告	
テレビ広告	
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター
その他	10月19日・21日放送MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」生CM
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、奈良新聞、報知新聞　ほか
テレビ、ラジオ	『ならナビ』NHK 、『読売テレビ　ニュース』読売テレビ　ほか
雑誌	『月刊　目の眼』10月号、『関西冬ウォーカー　冬遊び』、『婦人画報』10月号、『月刊MAMOR』、『月刊大和路ならら』11月号、『美術の窓』、『JMS』、『フローリスト』ほか
インターネットメディア	『読売新聞オンライン』、『ART AgendA』、『ファッションプレス』、『私版・京都アート情報』、『OBIKAKE（美術展情報サイト）』、『Yahoo!JAPAN』、『JMIRAI』、『JR西日本』、『JR東日本』、『じゃらんnet』、『旅の友』、『ADF Web Magazine』、『るるぶWeb』、『ピアッツァホテル奈良HP』、『日刊webタウン情報ぱーぷる』、『華藝文化』、『神戸観光コンシエルジュ』、『美術展ナビ』　ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	
人数等	
実施日	
人数等	
④報道内覧会	
実施日	10月23日
人数等	37媒体、100人出席

【九州国立博物館】
(1)文化交流展（平常展）

・新収品展 開催中止

会期	5月26日（火）～7月5日（日）（36日間）
ターゲット	一般の考古学ファン、土器等文化財に関心のある一般市民等
重点項目	SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

・開館15周年記念特集展示 大宰府史跡指定100年記念 筑紫の神と仏

会期	6月2日（火）～8月30日（日）（79日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、地域の歴史に興味のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	104件（友の会会員等）
交通広告	西鉄太宰府駅、JR二日市駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッター・Youtube、本館刊行物のLINE配信含む電子配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置、webプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞
テレビ、ラジオ	KBC、ケーブルステーション福岡
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、ARTNE、九州walker、ふくおか経済、グラフふくおか、いーみる、にしてつニュース、でかなび、美術新聞、目の眼、ぐらんざ、ライフさせぼ、遊人、くまもと経済　ほか
インターネットメディア	小学館、財経新聞社、講談社、小倉経済新聞、西日本新聞社、産経デジタル、LINENEWS、プレシデント社、時事通信社、東洋経済新報社、楽天、朝日新聞社、読売新聞社、ドワンゴ、ジョルダン　ほか
その他	―

・特集展示「きゅーはく どうぶつえん」

会期	6月2日（火）～7月12日（日）（36日間）
ターゲット	一般の考古学ファン、動物好きな一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	102件（友の会会員等）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡駅、JR二日市駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッター・Youtube、本館刊行物のLINE配信含む電子配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置、webプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞
テレビ、ラジオ	KBC、KBCラジオ、ケーブルステーション福岡
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、ARTNE、九州walker、ふくおか経済、グラフふくおか、いーみる、にしてつニュース、でかなび、美術新聞、目の眼、ぐらんざ、ライフさせぼ、遊人、くまもと経済　ほか
インターネットメディア	小学館、財経新聞社、講談社、小倉経済新聞、西日本新聞社、産経デジタル、LINENEWS、プレシデント社、時事通信社、東洋経済新報社、楽天、朝日新聞社、読売新聞社、ドワンゴ、ジョルダン　ほか
その他	―

・開館15周年記念特集展示 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵品巡回特別展 しきしまの大和へ － 奈良大発掘 －

会期	7月28日（火）～12月20日（日）（129日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、土偶ファン、文化財に興味のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	109件（友の会会員等）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡駅、JR二日市駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッター、本館刊行物のLINE配信含む電子配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置、webプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、西日本新聞、聖教新聞
テレビ、ラジオ	ケーブルステーション福岡
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、ARTNE、九州walker、ふくおか経済、グラフふくおか、くまもと経済、広報だざいふ、ぐらんざ、ひととき、日経BP、ライフさせぼ、九州じゃらん、ほか
インターネットメディア	産経デジタル、財経新聞社、朝日新聞社、東洋経済新報社、読売新聞社、西日本新聞社、スカラコミュニケーションズ、九州インターネットメディア研究所、オリコン、小学館、iza、小倉経済新聞社、暮らしニスタ、イード、nifty、BIGLOBE、オリコン、ハピママ、日本ビジネスプレス、ジョルダン、マピオン、文芸春秋、トライシージャパン、プレシデント、LINENEWS、講談社、時事通信、イード、エキサイトニュース、とれまが、楽天、ブラストホールディング、インフォマート　ほか
その他	―

・ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ～

会期	9月8日（火）～11月23日（月・祝）（67日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、レプリカ・再現文化財に興味のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡駅、JR二日市駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッター、本館刊行物のLINE配信含む電子配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、プレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、日経新聞
テレビ、ラジオ	ケーブルステーション福岡、KBCラジオ
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、サンデー北九州 ほか
インターネットメディア	イベントバンク、フクオカーノ、だざいふなび、月刊いーみるほか
その他	―

・開館15周年記念特集展示　織物に魅せられて － 加賀前田家伝来の名物裂 －

会期	12月1日（火）～3年1月24日（日）（41日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、織物・染色ファン、手芸ファン、太宰府天満宮参拝客等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	83件（友の会会員等）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡駅、JR二日市駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッター・YouTube、本館刊行物のLINE配信含む電子配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置、webプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、西日本新聞
テレビ、ラジオ	ケーブルステーション福岡
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、ARTNE、和楽、ぐらんざ、広報だざいふ、FukuokaNow、美術手帖、ほか
インターネットメディア	産経デジタル、朝日新聞社、小倉経済新聞社、西日本新聞社、東洋経済新報社、読売新聞社、財経新聞社、スカラコミュニケーションズ、ドワンゴ、おたくま経済新聞、オールアバウト、講談社、オリコン、インフォマート、小学館、LINENEWS、日本ビジネスプレス、ぴあ、ビッグローブ、楽天、nifty、ベストセラーズ、プレシデント、ジョルダン、エキサイト株式会社、九州インターネットメディア研究所、イード、ほか
その他	―

・新春特別公開 徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度

会期	3年1月1日（金・祝）～1月24日（日）（21日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、漆工芸品ファン、大宰府天満宮参拝客等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	80件（友の会会員等）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡駅、JR博多駅、JR二日市駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッター、本館刊行物のLINE配信含む電子配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置、webプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、ARTNE、和楽、ぐらんざ、広報だざいふ、FukuokaNow、美術手帖、ほか
インターネットメディア	産経デジタル、朝日新聞社、小倉経済新聞社、西日本新聞社、東洋経済新報社、読売新聞社、財経新聞社、スカラコミュニケーションズ、ドワンゴ、おたくま経済新聞、オールアバウト、講談社、オリコン、インフォマート、小学館、LINENEWS、日本ビジネスプレス、ぴあ、ビッグローブ、楽天、nifty、ベストセラーズ、プレシデント、ジョルダン、エキサイト株式会社、九州インターネットメディア研究所、イード、ほか
その他	―

・特集展示　天神縁起の世界

会期	3年2月2日（火）～3月28日（日）（48日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、地域の歴史に興味のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	75件（友の会会員等）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡駅、JR博多駅、JR二日市駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッター、本館刊行物のLINE配信含む電子配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置、webプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―

(2)特別展、共催展等

・展覧会名：ライデン国立古代博物館所蔵　特別展 古代エジプト展 開催中止

会期	4月25日（土）～6月21日（日）（51日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、エジプトファン
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DMM送付	約1,160件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ会員校・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡駅、JR二日市駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッター、本館刊行物の電子配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、毎日新聞、読売新聞
テレビ、ラジオ	TVQ、RKB、ケーブルステーション福岡
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、九州walker、ふくおか経済、グラフふくおか、いーみる、にしてつニュース、でかなび　ノジュール、月刊アートコレクターズ、すごい美術展2020、日経サイエンス、サライ、くるめすたいる、ぐらんざ　ほか
インターネットメディア	フクオカーノ、イベントバンク、インターネットミュージアム、アートアジェンダ、プラスフクオカ、じゃらん、アルトネ、ManabiJapan、読売オンラインほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	2月7日
人数等	10媒体、20人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・開館15周年記念特別展 海幸山幸- 祈りと恵みの風景 - 開催延期

会期	7月21日（火）～9月13日（日）（49日間）
ターゲット	一般の歴史ファン、日本美術ファン等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	美術展ぴあ
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	―
人数等	―
実施日	―
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・開館15周年記念特別展 加耶　開催延期

会期	10月13日（火）～12月6日（日）（48日間）
ターゲット	―
重点項目	―
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	美術展ぴあ
インターネットメディア	―
その他	―

③報道発表会	
実施日	―
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・特別展　奈良・中宮寺の国宝

会期	3年1月26日（火）～3月21日（日）（48日間）
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、仏像ファン、仏教文化に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,170件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ会員校・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	西鉄太宰府駅、西鉄福岡駅、JR二日市駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッター、本館刊行物のLINE配信含む電子配信での情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置、webプレスリリース実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、西日本新聞
テレビ、ラジオ	―
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、ARTNE、和楽、ぐらんざ、広報だざいふ、FukuokaNow、美術手帖、プラスフクオカ、遊人、ふくおか経済、九州じゃらん、イセバ、地元新聞社、くまもと経済、ライフさせぼ　ほか
インターネットメディア	産経デジタル、朝日新聞社、小倉経済新聞社、西日本新聞社、東洋経済新報社、読売新聞社、財経新聞社、スカラコミュニケーションズ、ドワンゴ、おたくま経済新聞、オールアバウト、講談社、オリコン、インフォマート、小学館、LINENEWS、日本ビジネスプレス、ぴあ、ビッグローブ、楽天、nifty、ベストセラーズ、プレジデント、ジョルダン、エキサイト株式会社、九州インターネットメディア研究所、イード、ほか
その他	―
③報道発表会	
実施日	10月23日
人数等	13媒体、28人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	3年1月25日（月）
人数等	15媒体、39名出席（場所：3F特別展示室）

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

会期	6月2日（火）～3年3月31日（水）（254日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4月1日～5月31日の間、臨時休館とした。 また、改修工事のため3年2月23日～3月12日の間、臨時休館とした。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース展示紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

(2)特別展等

・ミニ展示「古代のいのり　—疫病退散！」

会期	6月16日（火）～7月19日（日）（30日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞　ほか
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—
③報道発表会	
実施日	4月26日
人数等	4媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・夏期企画展「奈良の都の考古学—発掘された平城2019」

会期	7月23日（木・祝）～8月30日（日）、9月5日（34日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞　ほか
テレビ、ラジオ	―
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	―
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・秋期特別展「地下の正倉院展－重要文化財　長屋王家木簡－」

会期	10月10日（土）～11月23日（月・祝）（39日間）
ターゲット	木簡ファン、正倉院展愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞　ほか
テレビ、ラジオ	奈良テレビ　ほか
雑誌	―
インターネットメディア	―
その他	―
③報道発表会	
実施日	10月9日
人数等	8媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・新春ミニ展示「平城京の丑」

会期	3年1月5日（火）～1月31日（日）（24日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	―
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—
③報道発表会	
実施日	—
人数等	—
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

【平城宮いざない館】

・平城宮跡歴史公園第一次大極殿院南門復原整備工事記念特別展「鬼神乱舞　―護る・祓う 鬼瓦の世界―Legend of Exorcism」

会期	3年1月23日（土）～3月28日（日）（64日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学･小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞　ほか
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—
③報道発表会	
実施日	3年1月22日
人数等	6媒体（場所：平城宮いざない館企画展示室）
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

会期	6月2日（火）～3年3月31日（水）（265日間）
ターゲット	特別史跡藤原宮跡等見学者、香具山等周辺遺跡への訪問者
重点項目	飛鳥・藤原地域での発掘・調査研究の成果と遺跡理解の促進
特記事項	新聞・インターネットメディア等で展示紹介記事掲載 新型コロナウイルスの影響で6月1日まで閉館、6・7月は土・日・祝休館。電気工事のため3年2月23日～3月7日休館。臨時休館とした。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈良県学習教材デジタルブック、旅行ガイドブック、奈良県ポータルサイト等に掲載
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	―
その他	橿原市観光案内所等にリーフレット配置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	KCN番組取材への協力
雑誌	
インターネットメディア	産経WEST、産経フォト、毎日新聞ニュース
その他	―

・速報展

①飛鳥寺旧境内の調査（飛鳥藤原197-6次）飛鳥寺所用軒瓦9点、鴟尾4点

②藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第200次）大極殿院出土軒瓦5点・軒平瓦3点

③石神遺跡土坑SK1244･1245出土土器（石神遺跡第7次）石神遺跡出土土器19点

【飛鳥資料館】

(1)平常展

会期	6月1日（月）～3年3月31日（水）（252日間）
ターゲット	飛鳥を訪れる観光客、歴史・考古学の愛好家など
重点項目	ホームページ、SNSの更新頻度アップによる告知効果をあげる
特記事項	新型コロナウイルス対策のため4月1日～5月31日を臨時休館とした。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	―
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	―
テレビ、ラジオ	―
雑誌	るるぶ奈良、奈良散策情報、DOkka!おでかけ探検隊、まっぷる情報、おしごとはくぶつかん情報館、東海歴史散歩、ミュージアムカフェ　ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット、日本政府観光局グローバルサイト、るるぶwebサイト、奈良のミュージアム
その他	―

(2)特別展等

・特別展「飛鳥の石造文化と石工」

会期	8月4日（火）～9月22日（火）（44日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	飛鳥を特徴づける古代の石造文化と、こんにちまで続く石工の技術を紹介した。
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,448件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事7回、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、奈良新聞ほか
テレビ、ラジオ	NHK奈良、奈良テレビ
雑誌	マイ奈良、広報あすか　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、Dookkaa! おでかけ探検隊、イベントバンク、チラシミュージアムほか
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス　橿原
③報道発表会	
実施日	8月3日
人数等	7媒体（場所：飛鳥資料館展示室及び庭園）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・秋期企画展「第11回 写真コンテスト作品展「飛鳥の祭」」

会期	10月16日（金）～12月6日（日）（45日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家、写真愛好家、飛鳥を散策したい観光客、
重点項目	写真投稿サイト、写真雑誌、地域の写真サークル、高校・大学の写真部などへの情報提供
特記事項	にぎわいを生み出す「祭」の写真を通して飛鳥の歴史や文化の奥深さを発信。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,041件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事17回、SNSでの情報配信
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、奈良新聞
テレビ、ラジオ	
雑誌	マイ奈良ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、あをによしなら旅ネット、イベントバンク、チラシミュージアムほか
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス 橿原
③報道発表会	
実施日	―
人数等	―
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

・冬期企画展 「飛鳥の考古学2020」

会期	3年1月22日（金）～3月14日（日）（45日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	飛鳥・藤原地域での発掘・調査研究の成果と遺跡理解の促進
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,393件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学･小学校（県内）・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
広報刊行物掲載	
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介
その他	―
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	
テレビ、ラジオ	
雑誌	広報あすか　ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、イベントバンク、Dookkaa! おでかけ探検隊 ほか
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス 橿原（予定）
③報道発表会	
実施日	3年1月21日
人数等	（場所：飛鳥資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	―
人数等	―

1-(3)-②-6 広報刊行物一覧

【本部】

刊 行 物 名	発 行 部 数	配 布 先
文化財活用センターパンフレット	3,000部	・視察者等に配布 ・国内の美術館・博物館等に配布
文化財活用センター事業報告書2018・2019年度	200部	・視察者、関係施設等に配布 ・関係省庁・機構に配布
2021年度ぶんかつアウトリーチプログラム募集　パンフレット	2,500部	・首都圏小中学校、地方公共団体、国内の美術館・博物館等に送付及び配布
文化財複製のお貸し出し　パンフレット	2,000部	・企業、地方公共団体、国内の美術館・博物館等に送付及び配布
2022年度　国立博物館貸与促進事業実施対象間募集　チラシ	2,000部	・地方公共団体、国内の美術館・博物館等に送付及び配布
なりきり日本美術館リターンズ　チラシ	30,000部	・来館者配布 ・マスコミ媒体等に配布
文化財防災センターパンフレット	4,500部	・国内の関係機関等に配布 ・マスコミ媒体等に配布

【東京国立博物館】

刊 行 物 名	発 行 部 数		配 布 先
東京国立博物館ニュース	6・7・8月号	50,000部	来館者、マスコミ媒体（新聞・雑誌・放送局各社）、定期郵送希望者、友の会・賛助会等会員、キャンパスメンバーズ会員校、国内外の美術館・博物館・大学・研究所等に送付
	9・10・11月号	50,000部	
	12月・3年1・2月号	50,000部	
	3年3・4・5月号	75,000部	
東京国立博物館「案内と地図」 3年3月改訂	日本語	46,000部	館内で来館者に無償配布
	英語	15,000部	
	中国語（簡体字）	7,500部	
	中国語（繁体字）	2,500部	
	韓国語	3,500部	
	フランス語	3,000部	
	スペイン語	1,000部	
	ドイツ語	1,000部	

【京都国立博物館】

刊 行 物 名	発 行 部 数		配 布 先
京都国立博物館だより	206号（4・5・6月）	20,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
	207号（7・8・9月）	10,000部	
	208号（10・11・12月）	25,000部	
	209号（3年1・2・3月）	10,000部	
Kyoto National Museum Letter Vol.145～148	Vol.145（4・5・6月）	3,000部	観覧者
	Vol.146（7・8・9月）	3,000部	
	Vol.147（10・11・12月）	3,000部	
	Vol.148（3年1・2・3月）	3,000部	
2021年度年間スケジュール		20,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
京都国立博物館 平成知新館 展示案内 改訂版	日本語	20,000部	観覧者
	英語	10,000部	
	中国語（簡体字）	5,000部	
	中国語（繁体字）	5,000部	
	韓国語	2,000部	
	ドイツ語	2,000部	
	スペイン語	2,000部	
	フランス語	2,000部	

【奈良国立博物館】

刊　行　物　名	発 行 部 数	配　　布　　先
奈良国立博物館だより （年4回）	春号　10,000部 夏号　20,000部 秋号　20,000部 冬号　20,000部	美術館・博物館・学校・研究所・郵送希望者等　約5,400件に発送 館内で来館者に配布
奈良国立博物館リーフレット	日本語版　30,000部 英語版　10,000部 フランス語版　1,500部 ドイツ語版　1,500部 中国語版（簡体字）　10,000部 中国語版（繁体字）　4,000部 韓国語版　1,000部 スペイン語版　1,500部	館内で来館者に配布
奈良国立博物館展示案内	35,000部	館内で来館者に配布

【九州国立博物館】

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
九州国立博物館案内リーフレット	日本語版　20,000部 中国語版　3,000部 韓国語版　3,000部 英語版　3,000部 ドイツ語版　2,000部 フランス語版　2,000部 スペイン語版　2,000部 合計　35,000部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
文化交流展示室案内マップ	日本語版　3,800部 合計　3,800部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
九州国立博物館概要	日本語版　1,800部 中国語版　200部 韓国語版　200部 英語版　300部 合計　2,500部	・視察者等に配布 ・学校関係へ郵送
季刊情報誌「アジアージュ」	春(56)号　50,000部 夏(57)号　50,000部 秋(58)号　50,000部 冬(59)号　50,000部 合計　200,000部	・館内で来館者に配布 ・美術館・博物館、近隣文化施設、県内市町村 近隣大学、太宰府市、友の会会員等へ郵送
九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内	毎月発行　各号16,500部	・館内で来館者に配布 ・郵便局、学校、図書館、ホテル、公共施設、道の駅等に配布
九州国立博物館　2020年間スケジュール	24,000部	・館内で来館者に配布 ・近隣駅、観光案内所等で配布
学校利用ガイド	1,500部	・館内で来館した学校に配布 ・アウトリーチ活動（きゅーはくきゃらばん）で出向いた学校・イベント先で配布

1-(3)-②-7 ウェブサイトアクセス件数　　（後述の資料に記載）◎共通資料d

1-(5) 国内外の博物館活動への寄与

1-(5)-① 国内外の博物館等への有形文化財の貸与

1-(5)-①-1国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与件数

令和3年3月31日現在

		国立博物館計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外
貸与先件数		204	200	4	85	82	3	73	73	0	28	28	0	18	17	1
合　計		1,235	1,222	13	806	794	12	286	286	0	107	107	0	36	35	1
絵画		278	278	0	133	133	0	105	105	0	30	30	0	10	10	0
書跡		67	67	0	20	20	0	21	21	0	24	24	0	2	2	0
彫刻		124	124	0	105	105	0	9	9	0	8	8	0	2	2	0
建築		16	16	0	13	13	0	0	0	0	2	2	0	1	1	0
金工		89	89	0	60	60	0	24	24	0	3	3	0	2	2	0
刀剣		26	26	0	20	20	0				4	4	0	2	2	0
陶磁		58	52	6	27	21	6	30	30	0	0	0	0	1	1	0
漆工		135	135	0	89	89	0	25	25	0	20	20	0	1	1	0
染織		105	102	3	54	52	2	45	45	0	5	5	0	1	0	1
考古		164	164	0	123	123	0	16	16	0	11	11	0	14	14	0
民族資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料		33	33	0	22	22	0	11	11	0	0	0	0	0	0	0
和書		8	8	0	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	30	30	0	30	30	0									
	書跡	8	8	0	8	8	0									
	彫刻	19	17	2	19	17	2									
	金工	0	0	0	0	0	0									
	陶磁	5	3	2	5	3	2									
	漆工	2	2	0	2	2	0									
	染織	0	0	0	0	0	0									
	考古	22	22	0	22	22	0									
	民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物		43	43	0	43	43	0									
黒田記念館収蔵品		3	3	0	3	3	0									

＊巡回展等で複数館に貸与する場合は、それぞれ館数と文化財件数をカウント。

付表・貸与件数の推移

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
貸与先件数		244	242	321	246	204
合　計		1,561	1,544	1,858	1,488	1,235
絵画		560	454	586	416	278
書跡		109	133	83	46	67
彫刻		136	185	192	205	124
建築		13	13	13	13	16
金工		85	88	83	90	89
刀剣		41	48	97	35	26
陶磁		80	98	77	91	58
漆工		99	114	58	66	135
染織		72	54	89	66	105
考古		193	211	214	243	164
民族資料		23	2	36	0	0
歴史資料		61	27	26	39	33
和書		19	39	30	21	8
写真資料		0	0	0	28	0
東洋	絵画	14	32	20	20	30
	書跡	18	7	28	5	8
	彫刻	3	6	12	1	19
	金工	0	0	48	4	0
	陶磁	8	20	44	29	5
	漆工	9	3	2	2	2
	染織	7	0	3	0	0
	考古	2	7	94	28	22
	民族	0	0	10	0	0
法隆寺献納宝物		2	1	11	0	43
黒田記念館収蔵品		7	2	2	40	3

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

1-(5)-①-2 国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与先別件数

○収蔵品

令和3年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計（国内+海外）	156	1,048	85	774	44	191	11	52	16	31
国内	152	1,035	82	762	44	191	11	52	15	30
国・国立	31	238	15	169	12	59	1	5	3	5
地方・公立	87	592	50	446	19	88	9	37	9	21
私立団体	34	205	17	147	13	44	1	10	3	4
海外	4	13	3	12	0	0	0	0	1	1

○寄託品

令和3年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計（国内+海外）	62	187	18	32	29	95	12	55	3	5
国内	62	187	18	32	29	95	12	55	3	5
国・国立	12	66	4	5	5	36	3	25	0	0
地方・公立	28	66	9	16	10	20	6	25	3	5
私立団体	22	55	5	11	14	39	3	5	0	0
海外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1-(5)-①-3 海外への列品貸与

令和3年3月31日現在

【東京国立博物館】　海外貸与先　3件　　海外貸与文化財12件[うち寄託品0件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
1	常設展示（長期貸与）	フランス国立ギメ美術館【フランス国立ギメ美術館（フランス共和国パリ市)】	平成14年1月1日～2年12月31日	東洋彫刻2件
2	「世界の龍泉：龍泉青磁とグローバライゼーション」	浙江省博物館 武林館区	元年11月3日 ～3年3月31日	8件 陶磁6,東洋陶磁2
3	「Kimono: Kyoto to Catwalk」	ヴィクトリア＆アルバート博物館	2年2月29日～12月3日	染織2件

【京都国立博物館】　海外貸与先 0件　　海外貸与文化財 0件[うち寄託品 0件]

【奈良国立博物館】　海外貸与先 0件　　海外貸与文化財 0件[うち寄託品 0件]

【九州国立博物館】　海外貸与先 1件　　海外貸与文化財 1件[うち寄託品 0件]

	展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数（件）
1	「Kimono: Kyoto to Catwalk」	ヴィクトリア＆アルバート博物館	2年2月4日～3年3月31日	染織1件

1-(5)-①-4 考古の相互貸借実績

【京都国立博物館】

	貸与先名	期間	貸与件数（件）	借用件数（件）
1	高槻市立今城塚古代歴史館	6月1日～3年3月31日	6（23点）	11
2	福岡県立九州歴史資料館	6月1日～3年3月31日	6（6点）	16
3	大分県立歴史博物館	6月1日～3年3月31日	16（16点）	16

【奈良国立博物館】

	貸与先名	期間	貸与件数（件）	借用件数（件）
1	青森県立郷土館	10月31日～3年3月31日	1（15点）	5
2	下関市立考古博物館	12月23日～3年3月31日	2（10点）	5
3	和歌山県立紀伊風土記の丘、大同寺	3年1月7日～3年3月31日	2（11点）	4

1-（5）-①-5　収蔵品貸与促進事業

【東京国立博物館】

	貸与先名	展覧会名称	期間	貸与件数（件）
1	東北歴史博物館	特別展「伝わるかたち/伝えるわざ―伝達と変容の日本建築」	9月26日～11月23日	16
2	九州歴史資料館	開館10周年記念特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」	10月6日～11月29日	27
3	千葉県立中央博物館	令和2年度企画展「ちばの縄文－貝塚からさぐる縄文人のくらし－」	10月10日～12月13日	44
4	古河歴史博物館	古河市合併15周年 開館30周年記念 特別展示「国宝参上。―鷹見泉石像と古河ゆかりの文化財―」	3年1月9日～2月7日	15
5	土浦市立博物館	第42回特別展「東城寺と「山ノ荘」－古代からのタイムカプセル、未来へ－」	3年3月20日～5月5日	14

1-(5)-② 国内外の博物館等への援助・助言等

1-(5)-②-1 国内外の博物館への援助・助言等に関する取組状況
（専門的・技術的な援助・助言の件数、行政、公私立博物館等の各種委員会等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

令和3年3月31日現在

計	本部文化財活用センター		本部文化財防災センター	
422件	60 件		16 件	
	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	78件	137件	50件	81件

【本部文化財活用センター】60件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	奈良県公園緑地課	飛鳥宮跡活用検討委員会　委員	4月～4年9月	文化財活用センター副センター長　小林牧
2	文化庁	古墳壁画の保存活用に関する検討会　委員	4月～3年3月	文化財活用センター副センター長　小林牧
3	文化庁	「文化財に係る先端技術活用映像コンテンツ」制作委託業務に係る技術審査専門委員	8月～3年1月	文化財活用センター副センター長　小林牧
4	文化庁	「高松塚古墳壁画保存管理施設（仮称）の設置にかかる基礎調査」ワーキング会議委員	5月～3年3月	文化財活用センター副センター長　小林牧
5	一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）デザイン委員会	文化財に親しむための体験型展示等の開発に関する意見交換	1月21日	文化財活用センター副センター長　小林牧、企画担当　松沼穂積
6	日本展示学会	第6回日本展示学会賞選考委員	5月23日	文化財活用センター企画担当課長　松嶋雅人
7	内閣府	デジタルアーカイブ・ジャパン推進委員会　実務者検討委員会　構成員	継続中	文化財活用センターデジタル資源担当課長　今井敦
8	内閣府	デジタルアーカイブ全体戦略ワーキンググループおよびジャパンサーチワーキンググループ　構成員	10月29日～継続中	文化財活用センターデジタル資源担当課長　今井敦
9	学校法人大妻学院	大妻女子大学非常勤講師	4月1日～3年3月31日	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
10	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会理事	4月～継続中	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
11	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」保存環境ワーキンググループ専門委員	4月～3年3月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
12	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第43回大会実行委員会委員	12月～継続中	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
13	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第43回大会プログラム作成委員	12月～継続中	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
14	日本文化財科学会	学会誌編集委員	4月～継続中	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
15	公益財団法人文化財虫菌害研究所	総合調整委員会委員	4月～3年3月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
16	三重県総合博物館	三重県総合博物館研究協力者	4月～3年3月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
17	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会理事	4月～継続中	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
18	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第43回大会実行委員会委員	12月～継続中	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
19	東京文化財研究所	第60号保存科学誌編集委員	12月7日～3年3月31日	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創

20	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第43回大会プログラム作成委員	12月1日～継続中	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
21	宮城県博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～8月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
22	京都市京セラ美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～10月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
23	足利市立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～11月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
24	三菱一号館美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～9月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
25	壱岐市立一支国博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
26	中津市歴史博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～7月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
27	東京都美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月～7月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
28	西都原考古博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～9月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
29	アーティゾン美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～10月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
30	京都府立京都学・歴彩館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	10月～11月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
31	印刷博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	10月～3年2月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
32	三重県立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	11月～3年1月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
33	大野城心のふるさと館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	3年1月～3年2月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
34	三菱一号館美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	3年1月～継続中	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
35	静岡県富士山世界遺産センター	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	3年3月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
36	那覇市立壺屋焼物博物館	貸与促進事業応募館の保存環境調査	12月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
37	やないづ町立斎藤清美術館	貸与促進事業応募館の保存環境調査	12月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
38	SOMPO美術館	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	4月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
39	京都府教育庁文化財保護課	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	4月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
40	文化庁文化資源活用課	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	5月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
41	神奈川県立公文書館・資料課	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	5月、9月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
42	旧田代家西洋館（佐賀県有田町文化財課）	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	5月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
43	公益財団法人三康文化研究所 附属三康図書館	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	5月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
44	東京都教育庁	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	5月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人

45	三菱一号館美術館	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	6月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
46	刀剣博物館	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	6月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
47	三鷹市山本有三記念館	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	6月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
48	川越市立美術館	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	6月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
49	姫路市役所　姫路城管理事務所	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	6月、3年3月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
50	江戸川区教育推進課文化係	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	6月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
51	伊勢神宮　神宮司庁奉賽部　内宮賽務課	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	6月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
52	台東区立書道博物館	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	7月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
53	日本芸術院	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	7月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
54	世田谷区教育委員会	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	7月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
55	坂の上の雲ミュージアム	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	8月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
56	貨幣博物館	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	9月	文化財活用センター保存担当研究員　間渕創
57	安岡家住宅	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	9月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
58	立命館大学国際平和ミュージアム	新型コロナウイルス感染防止対策に関する相談対応	10月	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人
59	学校法人学習院大学　学習院女子大学	非常勤講師	4月1日～9月20日	文化財活用センター貸与促進室長　髙橋美奈子
60	慶応義塾大学	ゲスト講師(オンライン)	5月8日、6月12日	文化財活用センター貸与促進室長　髙橋美奈子

【本部文化財防災センター】　16件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	川崎市市民文化局 （川崎市市民ミュージアム）	令和元年東日本台風(台風第19号)による被災美術作品及び文化財の救援に係る指導・助言	4月1日～3年3月31日	奈良文化財研究所客員研究員　浜田 拓志
2	川崎市市民文化局 （川崎市市民ミュージアム）	令和元年東日本台風(台風第19号)による被災美術作品及び文化財の救援に係る指導・助言	6月25日、10月8日	文化財防災センター東京分室長 岡田健
3	奈良県文化・教育・くらし創造部	「文化財防犯・防火・防災関係者連絡会議」講師	8月5日	文化財防災センター東京分室長 岡田健
4	大分県教育庁	大分県文化財保存活用大綱策定委員	7月29日～3年3月31日	文化財防災センター東京分室長 岡田健
5	文化庁	文化財等災害対策委員会委員	10月1日～3年3月31日	文化財防災センター長 髙妻洋成
6	岡山県教育庁	「令和2年度岡山県文化財等救済ネットワーク研修会」講師	11月1日	文化財防災センター長 髙妻洋成
7	津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会	シンポジウム「自然史標本レスキューの現在地点とこれから」講師	11月22日	文化財防災センター長 髙妻洋成
8	東京都教育委員会	東京都文化財保護審議会委員	12月1日～3年3月31日	文化財防災センター東京分室長 岡田健
9	岩手県教育委員会	平泉の総合研究に係る指導・助言	12月8日～11日	文化財防災センター東京分室長 岡田健
10	宮城県山元町	文化財被災状況調査	3年3月1日～3月3日	文化財防災センター研究員 上椙英之、水谷悦子
11	福島県新地町	文化財被災状況調査	3年3月4日	文化財防災センター研究員 上椙英之

12	東京都青梅市	文化財被災状況調査	3年3月8日～3月10日	文化財防災センター研究員 上椙英之
13	福島県教育委員会	被災文化財の修理・保存及び保管環境等に係る指導・助言	3年3月25日	文化財防災センター研究員 水谷悦子
14	宮城県	文化財被災状況調査	3年3月25日～3月26日	奈良文化財研究所都城発掘調査部遺構研究室主任研究員 前川歩
15	福島県	文化財被災状況調査	3年3月27日	奈良文化財研究所都城発掘調査部遺構研究室主任研究員 前川歩
16	東京都青梅市	被災文化財救援活動	3年3月30日	文化財防災センター研究員 上椙英之、文化財防災センターアソシエイトフェロー 黄川田翔、文化財防災プロジェクトチーム（東京国立博物館学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室研究員） 六人部克典

【東京国立博物館】78件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	宗教法人 浅草寺	宝蔵門のライトアップ改修に係る仕様等に関する対応・助言	11月2日～	学芸企画部上席研究員　木下史青
2	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	新博物館の展示照明に関する指導監修	6月～4年10月	学芸企画部上席研究員　木下史青
3	神宮の杜芸術祝祭実行委員会	「神宮の杜芸術祝祭」の次行に関する監修・助言	2年6月～10月	学芸企画部上席研究員　木下史青
4	独立行政法人日本芸術文化振興会	特別展「工藝2020―自然と美のかたち―」の設営、撤去業務に関する企画選定委員	7月8日	学芸企画部上席研究員　木下史青
5	奈良文化財研究所	出土土器の評価についての助言	11月27日	学芸企画部企画課特別展室研究員　山本亮
6	町田市立博物館	運営委員	元年7月1日～3年6月30日	学芸企画部博物館情報課長 今井敦
7	情報科学技術協会	ISO/TC46/SC4 国内委員会	4月1日～3年3月31日	学芸企画部博物館情報課情報管理室長　村田良二
8	東京弁護士会	裁判手続きのIT化に関する日本弁護士連合会のシンポジウムに向けた調査	10月2日	学芸企画部博物館情報課情報管理室長　村田良二
9	一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会	アーバンデータチャレンジ実行委員	7月1日～3年3月末	学芸企画部博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之
10	一般財団法人東京市立中学高等学校協会	講演「学習資源としての文化財デジタルコンテンツ」	11月27日	学芸企画部博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之
11	東京大学附属図書館U-PARLオンラインセミナー	ファシリテーター	3年2月6日	学芸企画部博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之
12	東京大学史料編纂所	共同研究員	4月1日～3年3月31日	学芸企画部博物館情報課情報資料室主任研究員　遠藤楽子
13	著作権に関する図書館団体懇談会（事務局：日本図書館協会）	文化庁文化審議会著作権分科会法制度小委員会「図書館関係の権利制限規定の見直し（デジタル・ネットワーク対応）に関する中間まとめ」に関する意見募集について	12月15日～	学芸企画部博物館情報課情報資料室専門職　山崎美和
14	愛知県教育委員会	愛知県文化財保護審議会委員	4月1日～3年3月31日	学芸企画部百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
15	埼玉県歴史と民俗の博物館	埼玉県資料評価委員	4月1日～3年3月31日	学芸企画部百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
16	文部科学省	教科用図書検定調査審議会臨時委員	4月1日～3年3月31日	学芸企画部百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
17	鎌倉市教育委員会	文化財審議委員	6月～	学芸研究部列品管理課平常展調整室長　皿井舞
18	仏教芸術学会	仏教芸術学会委員	29年6月～	学芸研究部列品管理課平常展調整室長　皿井舞

19	美術史学会	査読	9月	学芸研究部列品管理課平常展調整室長　皿井舞
20	東北大学	集中講義	3年2月	学芸研究部列品管理課平常展調整室長　皿井舞
21	二荒山神社	宝物館収蔵品の絵画作品に関する調査・助言	7月16日	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎
22	文化庁	調査員（文化財第一課）	6月15日～3年3月31日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
23	文化庁	文化審議会専門委員	4月17日～3年3月31日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
24	文化庁	美術工芸品買取審査会議の委員	7月20日～3年3月31日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
25	公益社団法人日本工芸会	第67回日本伝統工芸展審査委員	7月29日、30日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
26	徳川美術館	秋期講座　講師	9月26日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
27	経済産業省	講師	11月19日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
28	学校法人　清水学園	講師	11月29日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
29	尾道市教育委員会	尾道市史　編纂事業	4月～	学芸研究部調査研究課工芸室　主任研究員　佐藤寛介
30	行田市教育委員会	中世遺跡出土品　資料調査	6月24日	学芸研究部調査研究課工芸室　主任研究員　佐藤寛介
31	岡山県教育委員会	岡山県文化財保護審議会	7月～	学芸研究部調査研究課工芸室　主任研究員　佐藤寛介
32	島根県埋蔵文化財調査センター	中世遺跡出土品　資料調査	8月4日～6日	学芸研究部調査研究課工芸室　主任研究員　佐藤寛介
33	瀬戸内市備前長船刀剣博物館	日本刀の調査研究	11月20日	学芸研究部調査研究課工芸室　主任研究員　佐藤寛介
34	岡山県古代吉備文化財センター	中世遺跡出土品　資料調査	12月10日	学芸研究部調査研究課工芸室　主任研究員　佐藤寛介
35	米子市	米子城歴史講座	12月12日	学芸研究部調査研究課工芸室　主任研究員　佐藤寛介
36	沖縄県立博物館・美術館	琉球王国文化遺産集積・再興事業への助言・協力	10月9日	学芸研究部調査研究課考古室長　品川欣也
37	国立アイヌ民族博物館	渋谷区立松濤美術館における特別展「アイヌの装いとハレの日の着物・コソンテ－国立アイヌ民族博物館の開館によせて(仮)」　への助言・協力	10月28日	学芸研究部調査研究課考古室長　品川欣也
38	渋谷区立松濤美術館	渋谷区立松濤美術館における特別展「アイヌの装いとハレの日の着物・コソンテ－国立アイヌ民族博物館の開館によせて(仮)」　への助言・協力	10月30日	学芸研究部調査研究課考古室長　品川欣也
39	国立アイヌ民族博物館	国立アイヌ民族博物館運営会議への助言・協力	12月9日～4年3月31日	学芸研究部調査研究課考古室長　品川欣也
40	小平市役所	小平市文化財保護審議会委員	平成31年4月1日～3年3月31日	学芸研究部調査研究課東洋室長　勝木言一郎
41	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会保存環境ワーキンググループ専門委員	4月1日～3年3月31日	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩
42	国立歴史民族学博物館	共同研究員(研究課題「博物館における持続可能な資料管理および環境整備--保存科学の視点から」)	4月1日～3年3月31日	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩
43	神戸市立博物館	貸与先施設の文化財保存環境についての協議	10月8日	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩
44	大阪府立狭山池博物館	貸与先施設の文化財保存環境についての協議	11月18日	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩

45	長崎歴史文化博物館	貸与先施設の文化財保存環境についての協議	3年2月26日	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩
46	北海道立近代美術館	貸与先施設の文化財保存環境についての協議	12月9日	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩
47	新潟県立近代美術館	貸与先施設の文化財保存環境についての協議	3年1月26日	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩
48	陸前高田市立博物館	被災ミュージアム再興事業「被災美術工芸資料安定化処置方法の開発および修理（保管環境の保全）」	4月1日～3年3月31日	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩
49	鎌倉市教育委員会	鎌倉市文化財専門委員会	6月1日～7年5月31日	学芸研究部保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
50	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会・壁画ワーキンググループ・美術史班	4月1日～3年3月31日	学芸研究部保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
51	日本学術会議	連携会員	10月1日～7年9月30日	学芸研究部保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
52	陸前高田市立博物館	被災ミュージアム再興事業「被災美術工芸資料安定化処置方法の開発および修理（漆工品）」	4月1日～3年3月31日	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
53	陸前高田市立博物館	被災ミュージアム再興事業「被災美術工芸資料安定化処置方法の開発および修理（市指定）」	4月1日～3年3月31日	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
54	東京藝術大学大学院	文化財修理実務に関する特別講義	11月24日	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
55	東京藝術大学大学院	金属を含む染織作品の修復について	12月3～12月8日	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員　野中昭美
56	町田市国際工芸館	町田市国際工芸館新館建設に伴う展示室、展示ケース設計に関する助言	12月1日	企画課デザイン室長　矢野賀一
57	新宿区	新宿区文化財保護審議会委員	元年12月1日～3年11月30日	学芸企画部長　田沢裕賀
58	文化庁	登録美術品絵画・彫刻調査研究協力者	4月1日～3年3月31日	学芸企画部長　田沢裕賀
59	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月1日～3年3月31日	学芸企画部長　田沢裕賀
60	文化庁	美術工芸品買取監査会議委員	7月20日～3年3月31日	学芸企画部長　田沢裕賀
61	東京都江戸東京博物館	資料収蔵委員会資料評価部会(美術部会)臨時委員	11月4日	学芸企画部長　田沢裕賀
62	宮内庁三の丸尚蔵館	修理に掛かる企画競争審査委員	4月6日～3年3月31日	学芸企画部長　田沢裕賀
63	公益財団法人千葉市教育振興財団	千葉市美術館評価委員会委員	元年6月13日～3年6月12日	学芸企画部長　田沢裕賀
64	東京国立近代美術館	東京国立近代美術館評議員	8月17日～3年3月31日	学芸企画部長　田沢裕賀
65	一般社団法人 照明学会	第18回(2020)照明デザイン賞 審査委員	2年度	学芸企画部上席研究員　木下史青
66	東京大学附属図書館U-PARLオンラインセミナー	ファシリテーター	3年3月13日	学芸企画部博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之
67	国立国会図書館	機関情報の相互運用性の向上に係る意見聴取会	3年3月2日	学芸企画部博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之
68	関市文化財保護センター	講師	3年2月27日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
69	九州大学人文学国際研究センター	講師	3年3月13日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
70	公益社団法人日本工芸会	第55回日本伝統工芸染織展審査委員	3年3月18日	学芸研究部調査研究課工芸室長　小山弓弦葉

71	五條市	五條市史編集委員会専門部会員（美術工芸部会）	31年4月～3年3月	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員　清水健
72	薬師寺	薬師寺大講堂ご本尊白鳳練仏復興委員会委員	30年7月～	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員　清水健
73	国立歴史民俗博物館	展示プロジェクト委員	4月～3年3月	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員　清水健
74	第61回東日本伝統工芸展実行委員会	第61回東日本伝統工芸展実行委員会鑑査委員	3年2月24日	学芸研究部調査研究課工芸室研究員　福島修
75	埼玉県教育局文化資源課	埼玉県立博物館施設防災マニュアル改訂事業への助言・協力	3年2月7日	学芸研究部列品管理課登録室研究員　六人部克典
76	陸前高田市立博物館	被災ミュージアム再興事業「被災美術工芸資料安定化処置方法の開発および修理（漆工品）」	4月1日～3年3月31日	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員　野中昭美 学芸研究部保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛
77	陸前高田市立博物館	被災ミュージアム再興事業「被災美術工芸資料安定化処置方法の開発および修理（市指定）」	4月1日～3年3月31日	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員　野中昭美 学芸研究部保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛
78	筑波大学、東京美術倶楽部	アフガニスタン仏頭　型取り、製作方法について	9月29日～10月5日	学芸研究部保存修復課調査分析室専門職　宮田将寛

【京都国立博物館】137件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	公益社団法人企業メセナ協議会	助成認定制度審査委員会委員長 2021芸術・文化による社会創造ファンド選考委員会委員長	4月～12月	館長　佐々木丞平
2	京都古都文化保存協会	京都古文化保存協会評議員	4月～3年3月	館長　佐々木丞平
3	宮内庁京都事務所	御所離宮懇談会委員	4月～3年3月	館長　佐々木丞平
4	古典の日推進委員会	特別委員	4月～3年3月	館長　佐々木丞平
5	奈良国立博物館	奈良国立博物館評議員	4月～3年3月	館長　佐々木丞平
6	京都国立近代美術館	京都国立近代美術館評議員	4月～3年3月	館長　佐々木丞平
7	公益財団法人日本工芸会	日本伝統工芸展運営委員	4月～3年3月	館長　佐々木丞平
8	三菱財団	三菱財団理事	4月～3年6月	館長　佐々木丞平
9	京都創造者大賞顕彰委員会	「京都創造者大賞」選考委員会委員長	5月～3年3月	館長　佐々木丞平
10	清風会	清風会理事	6月～3年3月	館長　佐々木丞平
11	京都市	京都市文化功労者審査会委員	6月～3年3月	館長　佐々木丞平
12	きょうと障害者文化芸術推進機構	きょうと障害者文化芸術推進機構理事	6月～3年3月	館長　佐々木丞平
13	日本博物館協会	第68回全国博物館大会フォーラム講師	11月25日	館長　佐々木丞平
14	京都府	京都府文化賞専門家会議委員	11月～3年3月	館長　佐々木丞平
15	公益社団法人企業メセナ協議会	選考・審査委員長	3年1月～3月	館長　佐々木丞平
16	アール・ブリュットネットワーク	アール・ブリュットネットワーク企画委員	4月～3年3月	副館長　栗原祐司
17	兵庫県立考古博物館	兵庫県立考古博物館運営委員	4月～3年3月	副館長　栗原祐司
18	田川市世界遺産活用活性化推進委員会事務局	田川市世界遺産活用活性化推進委員会委員	4月～3年3月	副館長　栗原祐司
19	南九州市	南九州市世界の記憶推進会議アドバイザー	4月～3年3月	副館長　栗原祐司
20	水平社博物館	「人権ネットを活用した地域活性化事業」実行委員会実行委員	4月～3年3月	副館長　栗原祐司
21	古典の日文化基金賞顕彰委員会	古典の日文化基金賞候補者情報調査委員会委員	4月～3年3月	副館長　栗原祐司
22	大阪市	大阪市地方独立行政法人大阪市博物館機構評価委員会	4月～3年3月	副館長　栗原祐司

23	ICOM日本委員会	ICOM日本委員会理事	6月～3年3月	副館長　栗原祐司
24	田川市教育委員会	田川市石炭・歴史博物館等運営協議会委員	6月～3年3月	副館長　栗原祐司
25	国際基督教大学	非常勤講師	9月～11月	副館長　栗原祐司
26	國學院大學	非常勤講師(集中)	9月～3年3月	副館長　栗原祐司
27	徳島県	「坂東俘虜収容所関係資料」ユネスコ「世界の記憶」調査検討委員会委員	12月～3年11月	副館長　栗原祐司
28	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター 文化遺産保護協力事務所	2年度国際会議「博物館と地域社会」講演者	12月22日	副館長　栗原祐司
29	京都大学大学院人間・環境学研究科	客員教授・客員准教授	4月～3年3月	学芸部長　尾野善裕 学芸部上席研究員　淺湫毅 学芸部企画室長　山川曉 学芸部教育室長　永島明子 学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
30	仏教美術研究上野記念財団	研究委員会委員	4月～3年3月	学芸部上席研究員　淺湫毅 学芸部企画室長　山川曉 学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
31	祇園祭山鉾連合会	祇園祭山鉾装飾品等専門委員	4月～3年3月	学芸部上席研究員　淺湫毅 学芸部企画室長　山川曉
32	国宝修理装潢師連盟	修理技術者資格制度委員会委員	4月～3年3月	学芸部美術室長　羽田聡 学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
33	日本芸術文化振興会	「（仮称）京の国宝－守り伝える日本のたから－」企画説明、出品依頼	10月1日	学芸部長　尾野善裕 学芸部美術室研究員 森道彦
34	一般社団法人　清風会	見学会（無鄰菴、對龍山荘）	10月3日、6日、7日	学芸部調査・国際連携室長 呉孟晋 学芸部調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男 学芸部美術室研究員　上杉智英 学芸部調査・国際連携室専門職　リンネ・マリサ 学芸部教育室　河合優香
35	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究（特別調査会「工芸」）の開催	3年1月21日～22日	学芸部長　尾野善裕 学芸部調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男
36	九州大学人文学国際研究センター	2000-2021公開講座「東洋染織品の移動と変容」での講演	3年1月16日、3月13日	学芸部企画室長　山川曉 学芸部調査・国際連携室専門職　リンネ・マリサ
37	九州国立博物館	九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会委員	4月～3年3月	学芸部長　尾野善裕
38	奈良国立博物館	奈良国立博物館文化財保存修理所運営委員会委員	4月～3年3月	学芸部長　尾野善裕
39	岐阜市	史跡岐阜城跡整備委員会委員	5月～3年3月	学芸部長　尾野善裕
40	野崎家塩業歴史館	評議員	5月～3年3月	学芸部長　尾野善裕
41	公益財団法人大和文華館	公益財団法人大和文華館評議員	6月～3年3月	学芸部長　尾野善裕
42	岐阜市	市内遺跡調査出土遺物の指導	7月10日	学芸部長　尾野善裕
43	文化財活用センター	3年度東京収蔵品貸与促進事業選定委員会	8月31日	学芸部長　尾野善裕
44	岐阜市	史跡岐阜城跡保存活用計画及び整備基本計画作成における個別指導	9月2日	学芸部長　尾野善裕
45	奈良国立博物館	奈良国立博物館ホームページリニューアル等業務一式に係る候補者選定委員会	9月18日	学芸部長　尾野善裕
46	野崎家塩業歴史館	所蔵資料の調査	12月1日～2日	学芸部長　尾野善裕
47	静岡市教育委員会	静岡市文化財保護審議会委員	4月～3年3月	学芸部上席研究員　淺湫毅
48	京都美術工芸大学	非常勤講師	10月～3年3月	学芸部上席研究員　淺湫毅
49	智山専修学院	特別講義講師	11月17日	学芸部上席研究員　淺湫毅
50	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会委員	4月～3年3月	学芸部企画室長　山川曉
51	京都府教育委員会	京都府文化財保護審議会委員	4月～3年3月	学芸部企画室長　山川曉
52	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月～3年3月	学芸部企画室長　山川曉

53	草津市教育委員会	青花紙保存継承懇話会委員	7月～3年3月	学芸部企画室長　山川暁
54	朝日新聞社	特別展「きもの KIMONO」展示替え	7月27日	学芸部企画室長　山川暁
55	株式会社NHKエンタープライズ近畿	公開講演会講師	10月16日、30日	学芸部企画室長　山川暁
56	第50回日本伝統工芸近畿展実行委員会	第50回日本伝統工芸近畿展実行委員会鑑査委員	3年1月17日	学芸部企画室長　山川暁
57	京友禅協同組合連合会	講演会講師	3年2月16日	学芸部企画室長　山川暁
58	草津青花紙製造技術保存会	草津青花紙製造技術保存会伝承者養成講座　講師	3年3月3日	学芸部企画室長　山川暁
59	京都府京都文化博物館	寄附申出資料（人形）の評価	3年3月4日	学芸部企画室長　山川暁
60	一般社団法人日本染織作家協会	第44回日本染織作家展審査委員	3年3月10日	学芸部企画室長　山川暁
61	真宗佛光寺派	真宗佛光寺派所蔵の経錦裂の記者プレスでの説明及び質疑応答	3年3月19日	学芸部企画室長　山川暁
62	真宗大谷派	宗宝宗史蹟保存会委員	4月～3年3月	学芸部美術室長　羽田聡
63	花園大学	非常勤講師	4月～3年3月	学芸部美術室長　羽田聡
64	近畿大学	非常勤講師	4月～3年3月	学芸部美術室長　羽田聡
65	和歌山市立博物館	特別展「紀三井寺展」の関連講演会講師	11月14日	学芸部美術室長　羽田聡
66	三重県教育委員会	三重県文化財保護審議会委員	4月～3年3月	学芸部教育室長　永島明子
67	同志社女子大学	嘱託講師	4月～3年3月	学芸部教育室長　永島明子
68	学校法人裏千家学園	2年度　裏千家学園オムニバス講座講師	10月12日	学芸部教育室長　永島明子
69	鶴見大学	博士学位論文審査委員会委員	12月～3年3月	学芸部教育室長　永島明子
70	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	令和2年度第7回鑑査委員会出席	3年1月18日	学芸部教育室長　永島明子
71	公益財団法人天門美術館	天門美術館評議員	4月～3年3月	学芸部調査・国際連携室長 呉孟晋
72	京都市立芸術大学大学院	2年度博士論文審査委員	9月10日	学芸部調査・国際連携室長 呉孟晋
73	嵯峨美術大学	非常勤講師	9月21日～23日	学芸部調査・国際連携室長 呉孟晋
74	国立大学法人東京藝術大学大学美術館	企画展示論講師	11月17日	学芸部調査・国際連携室長 呉孟晋
75	関西大学東西学術研究所	研究例会講演	3年1月15日	学芸部調査・国際連携室長 呉孟晋
76	佛教大学(通信学部)	非常勤講師（集中）	4月～9月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
77	佛教大学	非常勤講師	4月～9月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
78	越前市教育委員会	越前市文化財保護委員会委員	4月～3年3月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
79	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」壁画ワーキンググループ（美術史班）専門委員	4月～3年3月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
80	九州歴史資料館	特別展で展示予定の「重要文化財玉垂宮縁起」の作品展示指導及び展示環境の確認	9月29日～30日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
81	越前市教育委員会	歴史講座	9月26日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
82	智山専修学院	特別講義講師	12月1日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
83	丸亀市教育委員会	丸亀市史跡快天山古墳保存整備委員会委員	4月～3年3月	学芸部保存科学室長 降幡順子
84	同志社女子大学	嘱託講師	4月～3年3月	学芸部保存科学室長 降幡順子
85	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」壁画（材料調査班）ワーキンググループ専門委員	4月～3年3月	学芸部保存科学室長 降幡順子
86	奈良文化財研究所	専門研修講師	6月10日	学芸部保存科学室長 降幡順子
87	鳥取県地域づくり推進部	とっとり弥生の王国調査整備活用委員会委員	7月20日～3年3月	学芸部保存科学室長 降幡順子
88	犬山市教育委員会	犬山祭車山懸装幕復元新調のための組成分析調査	7月27日	学芸部保存科学室長 降幡順子
89	名古屋市教育委員会文化財保護室	山車大幕修理事業における分析調査	7月27日	学芸部保存科学室長 降幡順子
90	津島市教育委員会	尾張津島天王祭車楽舟屋台幕の分析調査	8月19日	学芸部保存科学室長 降幡順子
91	国立大学法人神戸大学	非常勤講師	8月22日、23日、29日、30日	学芸部保存科学室長 降幡順子
92	宮内庁京都事務所	大嘗会御屏風の分析調査	8月24日～25日	学芸部保存科学室長 降幡順子

93	北海道博物館協会学芸職員部会	2年度　学芸職員部会研修会講師	9月24日	学芸部保存科学室長 降幡順子
94	長浜曳山文化協会	長浜曳山祭曳山錺金具および懸装品附属の金具・ガラスの成分分析調査	10月6日	学芸部保存科学室長 降幡順子
95	滋賀県文化スポーツ部文化財保護課	滋賀県指定有形文化財（美術工芸品）の指定にかかる調査指導	11月25日	学芸部保存科学室長 降幡順子
96	大津祭保存会	国指定重要無形民俗文化財大津祭の曳山行事の曳山修理事業にかかる調査指導	11月25日	学芸部保存科学室長 降幡順子
97	長浜曳山文化協会	長浜曳山祭 壽山の舞台高欄親柱錺金具成分分析調査	3年3月31日	学芸部保存科学室長　降幡順子
98	京都府立嵯峨野高等学校	特別講師	6月19日	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
99	国立大学法人東京大学大学院経済学研究科	歴史家ワークショップ連続講座講師	12月19日	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
100	京都府立嵯峨野高等学校	特別講師	3年1月22日	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
101	京都市教育委員会京都市学校歴史博物館	原稿執筆	3年3月	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
102	京都市教育委員会京都市学校歴史博物館	ワークショップでの講演	3年3月7日	学芸部教育室主任研究員 水谷亜希
103	奈良大学（通信教育）	非常勤講師	4月～3年3月	学芸部調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男
104	神戸市立博物館	特別展「和のガラスーくらしを彩ったびいどろ、ぎやまん」にかかる展示作業立ち会い	9月29日	学芸部調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男
105	一般財団法人秋水美術館	学芸アドバイザー	10月～3年5月	学芸部調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男
106	京都市京セラ美術館	京都市京セラ美術館開館記念展「京都の美術　250年の夢第1部～第3部総集編江戸から現代へ」の展示立ち合い	10月5日	学芸部調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男
107	福井県立美術館	美術資料審査・評価委員会審査委員	3年3月26日	学芸部調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男
108	京都造形芸術大学	非常勤講師	4月～9月	学芸部保存修理指導室主任研究員　福士雄也
109	京田辺市史編さん委員会	京田辺市史編さん専門部会会員	6月27日～3年3月	学芸部保存修理指導室主任研究員　福士雄也
110	京都橘大学	非常勤講師	9月～3年3月	学芸部保存修理指導室主任研究員　福士雄也
111	神戸市立博物館	購入候補資料評価委員会への出席	11月12日	学芸部保存修理指導室主任研究員　福士雄也
112	公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館	「琳派と印象派 東西都市文化が生んだ美術」展示作業立ち会い	12月21日、3年1月25日	学芸部保存修理指導室　主任研究員　福士雄也
113	鶴見大学	非常勤講師	4月～3年3月	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
114	(株)よみうり文化センター	講師	6月～3年3月	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
115	大阪府教育委員会	大阪府文化財保護審議委員会委員	7月15日～3年3月	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
116	東大阪市	石切劔箭神社祓殿奉納大太刀調査	8月21日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
117	一般財団法人林原美術館	講座講師	3年2月21日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
118	福井ライフ・アカデミー本部	講座講師	3年3月14日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
119	佛教大学	非常勤講師	9月～3年3月	学芸部美術室研究員 上杉智英
120	静岡県博物館協会	静岡県博物館協会講習会「これからのミュージアムを考えよう（仮）」講師	11月3日	学芸部美術室研究員 森道彦
121	京都大学大学院	非常勤講師	10月～3年3月	特任研究員　宮川禎一
122	京都大学総合博物館	外部評価委員	10月～3年3月	特任研究員　宮川禎一
123	聖心女子大学	非常勤講師	4月～3年3月	研究員　古谷毅
124	國學院大學	非常勤講師	4月～3年3月	研究員　古谷毅
125	國學院大學	客員教授	4月～3年3月	研究員　古谷毅
126	野田市	野田市史編さん委員会委員	4月～3年3月	研究員　古谷毅
127	大分県立歴史博物館	企画展「青銅の燦めきー京博所蔵の銅剣・銅矛里帰り展ー」展示の打合せ及び関連講座	9月5日～6日	研究員　古谷毅
128	大分県立歴史博物館	2年度京都国立博物館考古資料相互活用促進事業借用資料調査	11月30日～12月1日	研究員　古谷毅
129	奈良文化財研究所	「デジタル写真・マルチフェイル保管データベースシステム」仕様策定委員会	7月10日	学芸部列品管理室主任 岡田愛
130	東京国立博物館	小山科研にかかる打合せ	8月19日	学芸部調査・国際連携室専門職　リンネ・マリサ
131	京都市芸術大学	非常勤講師	9月～3年3月	学芸部調査・国際連携室専門職　リンネ・マリサ

132	京都女子大学	教養科目講師	11月12日	学芸部調査・国際連携室専門職　リンネ・マリサ
133	文化庁	博物館等の文化施設インバウンド強化事業審査委員会委員	11月～3年3月	企画室アソシエイトフェロー　趙ウニル
134	奈良国立博物館	「令和まほろばプラン」広報PR等業務候補者選定委員会	9月4日	総務課長　西尾佐枝子
135	一般社団法人　清風会	見学会（無鄰菴、對龍山荘）	10月6日	総務課環境整備係長 大西征爾
136	杉野服飾大学	非常勤講師	4月～3年3月	総務課総務・人事係員 落合 広倫
137	杉野服飾大学	2年度　博物館実習引率	9月5日	総務課総務・人事係員 落合 広倫

【奈良国立博物館】50件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	宮内庁	正倉院懇談会会員	4月1日～3年3月31日	館長　松本伸之
2	中宮寺奉賛会	参与	4月1日～3年3月31日	館長　松本伸之
3	公益財団法人松伯美術館	理事	4月1日～3年3月31日	館長　松本伸之
4	公益財団法人大和文華館	理事	4月1日～3年3月31日	館長　松本伸之
5	公益財団法人日本博物館協会	参与	4月1日～3年3月31日	館長　松本伸之
6	公益社団法人日本工芸会	顧問	4月1日～3年3月31日	館長　松本伸之
7	奈良女子大学	経営協議会委員	4月1日～3年3月31日	館長　松本伸之
8	公益社団法人日本工芸会	日本伝統工芸展運営委員	4月1日～3年3月31日	館長　松本伸之
9	京都国立博物館	評議員	4月1日～3年3月31日	館長　松本伸之
10	公益財団法人髙梨学術奨励基金事務局	理事	4月1日～6月	館長　松本伸之
11	九州国立博物館	九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会委員	4月1日～3年3月31日	学芸部長　内藤栄
12	京都国立博物館	京都国立博物館文化財保存修理所運営委員会委員	4月1日～3年3月31日	学芸部長　内藤栄
13	奈良県	奈良県文化財保護審議会委員	4月1日～3年3月31日	学芸部長　内藤栄
14	放送大学	客員教授	4月1日～3年3月31日	学芸部長　内藤栄
15	奈良女子大学	非常勤講師	4月1日～3年3月31日	学芸部長　内藤栄
16	高野山大学	非常勤講師	4月1日～3年3月31日	学芸部長　内藤栄
17	岐阜市歴史博物館	展覧会開催に関する助言	4月1日～3年3月31日	学芸部長　内藤栄
18	神戸市教育委員会	神戸市文化財保護審議会委員	4月1日～3年3月31日	特任研究員　岩田茂樹
19	大津市教育委員会	大津市文化財専門委員会委員	4月1日～3年3月31日	特任研究員　岩田茂樹
20	神戸大学	神戸大学大学院人文学研究科准教授	4月1日～3年3月31日	企画室長　吉澤悟
21	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ専門委員	4月1日～3年3月31日	情報サービス室長　宮崎幹子
22	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ専門委員	4月1日～3年3月31日	教育室長　谷口耕生
23	天理市文化財保護審議会	天理市文化財保護審議会委員	4月1日～3年3月31日	教育室長　谷口耕生
24	奈良女子大学	奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科客員教授	4月1日～3年3月31日	資料室長　野尻忠
25	鳥取県	鳥取県文化財保護審議会委員	4月1日～3年3月31日	列品室長　中川あや
26	山口市教育委員会	山口市文化財審議会委員	4月1日～12月31日	美術室長　岩井共二
27	神戸大学	神戸大学大学院人文学研究科教授	4月1日～3年3月31日	美術室長　岩井共二
28	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ専門委員	4月1日～3年3月31日	保存修理指導室長　鳥越俊行
29	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館	国立民族学博物館共同研究員	4月1日～3年3月31日	保存修理指導室長　鳥越俊行
30	高野山大学	非常勤講師	4月1日～3年3月31日	主任研究員　山口隆介
31	島根県教育委員会教育長	石見銀山遺跡客員研究員	5月31日～3年3月31日	保存修理指導室長　鳥越俊行

32	公益財団法人大和文華館	評議員	6月30日～3年3月31日	学芸部長　内藤栄
33	文化庁	仁和寺聖教調査	7月29日	主任研究員　斎木涼子
34	文化庁	仁和寺聖教調査	7月29日～7月31日	アソシエイトフェロー　佐藤稜介
35	文化庁	仁和寺聖教調査	7月30日～7月31日	資料室長　野尻忠
36	奈良文化財研究所	当麻寺所蔵の経典の調査	8月7日	主任研究員　斎木涼子
37	奈良文化財研究所	当麻寺所蔵の経典の調査	8月12日	資料室長　野尻忠
38	奈良文化財研究所	当麻寺所蔵の経典の調査	8月14日	アソシエイトフェロー　佐藤稜介
39	三重県教育委員会	三重県文化財保護指導会議での講演	9月17日	保存修理指導室長　鳥越俊行
40	三重県教育委員会	三重県文化財保護指導会議での講演	9月18日	アソシエイトフェロー　佐藤稜介
41	京都府立大学	非常勤講師	9月28日～3年3月31日	情報サービス室長　宮崎幹子
42	神戸市文化スポーツ局文化財課	神戸市文化財保存活用計画協議会委員	10月1日～3年3月31日	特任研究員　岩田茂樹
43	奈良県文化・教育・くらし創造部	なら歴史芸術文化村コミッション委員	11月1日～3年3月31日	学芸部長　内藤栄
44	長野県埋蔵文化財センター	講演会講師	12月12日	学芸部長　内藤栄
45	松坂屋美術館	展覧会開催に関する指導・助言	4月1日～3年3月31日	列品室長　中川あや 研究員　三本周作
46	沖縄県立博物館・美術館	展覧会開催に関する指導・助言	4月1日～3年3月31日	列品室長　中川あや 研究員　三本周作
47	神戸市	神戸市内神社所有品の現地調査	3年1月14日	特任研究員　岩田茂樹
48	神戸市	神戸市内神社所有品の現地調査	3年1月29日	特任研究員　岩田茂樹
49	仁和寺	仁和寺所蔵史料の調査	3年3月22日～3月26日	アソシエイトフェロー　佐藤稜介
50	美術史学会	2020年度美術館博物館委員会東西合同シンポジウム発表報告	3年3月27日	館長　松本伸之

【九州国立博物館】81件

	機　関	内　容	期　間	担　当　者
1	立正大学	立正大学ウズベキスタン学術交流プロジェクト　外部評価委員	4月1日～5月31日	館長　島谷弘幸
2	三重県文化会館事業課	2020年度みえ文化芸術祭・第71回みえ県展・書部門審査員	4月1日～7月1日	館長　島谷弘幸
3	九州ベトナム友好協会	特別顧問	4月1日～8月31日	館長　島谷弘幸
4	高知城歴史博物館	研究顧問	4月1日～3年3月2日	館長　島谷弘幸
5	公益財団法人陽明文庫	理事	4月1日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
6	西南学院大学博物館	協議会委員	4月1日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
7	文化庁	文化審議会正委員（文化財分科会）	4月1日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
8	公益社団法人日本伝統工芸会	日本伝統工芸展運営委員	4月1日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
9	外務省	日米文化教育交流会議（カルコン）パネル委員	4月1日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
10	文化庁	「日本博」企画委員会委員	4月1日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
11	福岡市博物館	協議会委員	4月1日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
12	文部科学省	日本ユネスコ国内委員会文化活動小委員会調査委員	4月1日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
13	文化庁	文化観光拠点を中核とした地域における文化観光の推進に係る計画認定等委員会委員	4月1日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
14	福岡県立美術館	協議会委員	4月1日～9月6日	学芸部長　小泉惠英
15	熊本県	平成28年熊本県地震被災文化財等復興基金活用動産文化財検討委員会委員	4月1日～10月18日	学芸部長　小泉惠英
16	独立行政法人日本芸術文化振興会 大型文化催事準備チーム	独立行政法人日本芸術文化振興会 大型文化催事準備チーム連携員	4月1日～3年3月31日	学芸部長　小泉惠英
17	長崎県松浦市教育委員会	松浦市鷹島海底遺跡調査指導委員会委員	4月1日～3年3月31日	学芸部長　小泉惠英
18	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館	展示プロジェクト委員	4月1日～7月6日	学芸部企画課長　白井克也

19	九州歴史資料館	協議会委員	4月1日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
20	宇佐市教育委員会	宇佐市平和ミュージアム（仮称）建設準備委員会委員	4月1日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
21	福岡県教育庁 教育総務部文化財保護課	福岡県文化財保護審議会臨時専門委員	4月1日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
22	熊本市教育委員会	熊本博物館協議会委員	4月1日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
23	日本文化財科学会	日本文化財科学会第37回大会実行委員会委員	4月1日～10月9日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
24	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館	運営会議委員	4月1日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
25	法隆寺	「法隆寺金堂壁画　保存活用委員会」 保存環境ワーキング・グループ専門委員	4月1日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
26	公益財団法人文化財虫菌害研究所	文化財IPMコーディネータ委員会委員	4月1日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
27	公益財団法人文化財虫菌害研究所	総合的防除対策検討委員会委員	4月1日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
28	日本文化財科学会	第20期評議員	4月1日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
29	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立民族学博物館	令和2年度国立民族学博物館共同研究員	4月1日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
30	大分県立歴史博物館	協議会委員	4月1日～3年3月31日	学芸部文化財課長　原田あゆみ
31	福岡市美術館	美術資料収集審査員	4月1日～3年3月31日	学芸部文化財課長　原田あゆみ
32	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県文化財保護審議会専門委員	4月1日～3年3月31日	学芸部文化財課長　原田あゆみ
33	武雄市教育委員会	武雄鍋島家洋学関係資料策定委員会委員	4月1日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長　志賀智史
34	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県文化財保護審議会専門委員	4月1日～3年3月31日	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子
35	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県銃砲刀剣類登録審査会補助員	4月1日～3年3月31日	学芸部企画課特別展室研究員　望月規史
36	同志社大学文化遺産情報科学調査研究センタ	研究員	4月1日～3年3月31日	本部文化財活用センターデジタル資源担当（併）九州国立博物館学芸部文化財課専門職　竹内俊貴
37	一般社団法人文化財保存修復学会	講師	5月16日	学芸部博物館科学課長（兼） 環境保全室長　木川りか
38	一般社団法人公園財団	研究顧問	5月27日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
39	福岡県	新福岡県立美術館基本計画策定支援業務委託公募型プロポーザル審査会委員	6月1日～3年3月31日	学芸部長　小泉惠英
40	公営財団法人福岡文化財団	評議員	6月5日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
41	公営財団法人福岡文化財団	評議員選定委員	6月5日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
42	ICOM日本委員会	理事	6月10日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
43	文化庁	技術審査委員	6月17日～6月30日	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
44	東京国立博物館	修理監督	6月19日	副館長　富田淳
45	東京国立博物館	修理監督	6月30日	副館長　富田淳
46	福岡県	福岡県文化芸術振興審議会委員	7月1日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
47	文化庁	博物館などを中核とした文化クラスター推進事業に係る協力者会議委員	7月6日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
48	芦屋町	資料購入委員	7月17日	学芸部長　小泉惠英
49	神奈川県立歴史博物館	翻訳作業員	7月18日～9月18日	学芸部企画課特別展室研究員　大澤信
50	芦屋町	資料評価委員	7月24日	学芸部企画課特別展室研究員　望月規史
51	考古学研究会	テクニカル・サポーター	8月1日～3年3月31日	本部文化財活用センターデジタル資源担当（併）九州国立博物館学芸部文化財課専門職　竹内俊貴
52	公益社団法人日本工芸会	第67回日本伝統工芸展審査委員	8月14日	館長　島谷弘幸
53	岐阜県県民文化局・ 公益財団法人岐阜県教育文化財団	審査員	8月23日～3年3月31日	副館長　富田淳
54	文化財活用センター	令和3年度収蔵品貸与促進事業選定委員会出席のため	8月31日	学芸部長　小泉惠英
55	九州日中文化協会	第23回日中青少年書画音楽交流大会・審査委員会審査委員長	9月1日～11月1日	館長　島谷弘幸
56	対馬市	講師	9月1日～3年3月31日	学芸部企画課特別展室研究員　大澤信
57	文化庁	「国有文化財等（美術工芸品）保存修理事業協力者会議」協力者	9月8日～3年3月31日	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
58	文化庁	「国有文化財等（美術工芸品）保存修理事業協力者会議」協力者	9月8日～3年3月31日	学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦晃佑

59	九州産業大学	講師	9月8日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
60	福島県立博物館	講師	9月26日～9月28日	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
61	一般社団法人文化財保存修復学会	理事	9月28日～3年3月31日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
62	九州大学大学院人文科学研究院	講師	10月7日	学芸部企画課特別展室研究員　大澤信
63	一般社団法人対馬観光物産協会	講師	10月10日～10月11日	学芸部企画課特別展室研究員　大澤信
64	福岡県環境部	令和2年度自然公園施設活用促進事業委託業務選定委員会委員	10月16日	学芸部企画課長　白井克也
65	福岡県人づくり・県民生活部	県内美術館関係者連絡会議出席のため	10月20日	学芸部長　小泉惠英
66	文化庁	博物館・文化財等におけるナイトタイム充実支援事業選定委員会委員	10月27日～3年3月31日	館長　島谷弘幸
67	文化財防災センター	令和2年度並びに3年度の文化財防災センター事業に関する協議のため	10月28日	学芸部長　小泉惠英
68	直方市教育委員会	資料調査員	11月5日	学芸部企画課特別展室研究員　望月規史
69	東京国立博物館	修理監督	11月17日	副館長　富田淳
70	広島県立文書館	講師	11月19日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
71	文化庁	文化財調査のため	11月25日～11月27日	学芸部博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー　瓜生翠
72	博悠会	講師	12月6日	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史
73	福岡県伝統的工芸品振興協議会	第44回福岡県伝統的工芸品展表彰式　出席者	12月10日	学芸部企画課特別展室長　川畑憲子
74	福岡市博物館	収集予定資料に係る調査指導のため	12月18日	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男
75	佐賀県博物館協会	講師	12月21日	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
76	九州大学人文学国際研究センター	講師	3年1月23日	学芸部企画課文化交流展室アソシエイトフェロー　桑原有寿子
77	九州国立博物館を愛する会	講師	3年2月3日	学芸部長　小泉惠英
78	宮崎県教育委員会	指導助言	3年2月1日～3月31日	学芸部長　小泉惠英
79	同上	同上	同上	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
80	同上	同上	同上	学芸部文化財課長　原田あゆみ
81	同上	同上	同上	学芸部博物館科学課環境保全室研究員　渡辺祐基

2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働

2-(3)-① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進

2-(3)-①-1 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況
（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数、諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の満足度）

令和3年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
6件	3件	3件

【東京文化財研究所】3件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数（日）	回数（回）	満足度（%）	備考
1	オンライン国際研修「3次元写真測量による文化遺産の記録」	11月12日、25日	パキスタン・ネパール・カンボジア・イラン、文化財保存専門家	2	2	-	
2	国別テーマ研修：ブータン「リビングヘリテージの側面に着目した伝統的民家の保存と活用」（オンライン）	3年1月11日～22日	ブータン・内務文化省文化局職員	12	1	80.1	受講者アンケート全体評価6項目の平均値
3	国際研修Webinar: Experiences and reflections on International Course of Paper Conservation in Latin America. Meeting the East, 2012-2019.	12月4日～12月11日	文化遺産保護の学芸員及び保存修復専門家	6	1	100	

【奈良文化財研究所】3件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数	回数	満足度（%）	適用
1	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2020（集団研修）「考古遺跡の調査記録と保存活用」	9月2日～10月1日	アジア太平洋地域の政府機関、大学、研究所などに勤務し、文化遺産の管理、保護、修復に携わっているもの	30	1	―	
2	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2020（個別テーマ研修）「リビングヘリテージの管理活用」	11月9日～11月20日	ブータンの専門家	12	1	―	
3	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する「文化遺産ワークショップ」（スリランカ）	3年1月25日～1月27日	スリランカの専門家	3	1	―	

2-(3)-①-2 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況（諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数）

【東京文化財研究所】　1件
【奈良文化財研究所】　1件

	名称	機関名	備考
1	アンコール遺跡群の保存に関する共同協力事業に関する覚書	アンコール・シェムリアップ地域保存整備機構（APSARA）・東京文化財研究所・奈良文化財研究所	3年3月29日締結

2-(3)-② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究

2-(3)-②-1 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（刊行物件数）

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-2 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際会議等開催件数）

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】5件

令和3年3月31日現在

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数（日間）	回数（回）	摘要
1	“Research on the Safeguarding of ICH in the Asia-Pacific Region: Establishing New Sustainable Mechanism for Systematic Research Data Collection” FY2020 The National Workshop in Indonesia at Gadjah Mada University （オンライン）	7月27日～28日	インドネシアの専門家、研究者	2日	1	文化庁受託経費
2	The National Workshop on “Research on the Safeguarding of ICH in the Asia-Pacific Region: Establishing New Sustainable Mechanism for Systematic Research Data Collection” （オンライン）	8月4日	マレーシアの専門家、研究者	1日	1	文化庁受託経費
3	第9回IRCI運営理事会 （オンライン）	10月30日	IRCI運営理事	1日	1	文化庁受託経費
4	国際シンポジウム 「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する研究：教育とまちづくり」（オンライン）	3年1月28日～29日	フィリピン、ベトナム、日本、インドネシア、バングラデシュ、キルギスの専門家、研究者	2日	1	文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」経費
5	Sustainable Research Data Collection for ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region The Third Working Group Meeting in FY2020 （オンライン）	3年2月9日	マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピンの専門家、研究者	1日	1	文化庁受託経費

2-(3)-②-3 研究交流実績一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-①

2-(3)-②-4 調査研究テーマ一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-②

2-(3)-②-5 学会、研究会等発表実績一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-③

2-(3)-②-6 シンポジウム開催実績一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-④

2-(3)-②-7 論文等発表実績一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑤

2-(3)-②-8 調査研究刊行物一覧 （後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-9 ウェブサイトアクセス件数 （後述の資料に記載） ◎共通資料d

2-(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

2-(4)-① 文化財情報基盤の整備・充実

2-(4)-①-1 図書、雑誌等の公開に関する取組状況

令和3年3月31日

		東京文化財研究所			奈良文化財研究所		
資料閲覧室・図書資料室の開室日数（日）		67日			147日		
資料閲覧室・図書資料室の利用者数（人）		660人			161人		
		元年度末	2年度追加	2年度末	令和元年度末	令和2年度追加	令和2年度末
文化財に関する資料・図書の受入件総数（件）	図書	124,229件	1,087件	125,316件	377,407件	6,132件	383,539件
	雑誌	166,976件	1,086件	168,062件	102,616件	2,259件	104,875件
	その他（図録・報告書等）	46,169件	1,526件	47,695件	20,229件	—	20,229件 *
	計	337,374件	3,699件	341,073件	480,023件	8,391件	488,414件

＊奈良文化財研究所においては、その他（図録・報告書等）は図書に含む。

2-(4)-①-2 文化財に関するデータベースの状況

令和3年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
文化財に関するデータベースの公開件数（件）	33件	30件
データベースのデータ件数（件）	1,715,186件	1,385,920件
データベース等へのアクセス件数（件）	4,078,322件	14,183,774件
（ホームページへのアクセス件数（件））	5,094,252件	909,369件

2-(4)-② 調査研究成果の発信

2-(4)-②-1 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-⑥

2-(4)-②-2 講演会等の開催実績

【東京文化財研究所】　2件　34人　令和3年3月31日

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数	備考
1	第54回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」	10月30日	東京文化財研究所	東京文化財研究所	美術史研究の成果を一般に公表する講座を開催した。	34人	
2	第15回無形民俗文化財研究協議会「無形文化遺産の新たな活用を求めて」	（12月25日～3年1月31日オンラインにて公開）	オンライン	東京文化財研究所	ユネスコ無形文化遺産に関する研究協議会を開催した。	―	

【奈良文化財研究所】　2件　1,086人

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数	備考
1	興福寺鐘楼・東金堂院の発掘調査(平城第625次）現地見学会	9月28日	奈良市登大路町	奈良文化財研究所	興福寺鐘楼・東金堂院の発掘調査(平城第625次）現地見学会を開催した。	606人	
2	藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第205次)現地見学会	11月7日	橿原市高殿町	奈良文化財研究所	藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第205次)現地見学会を開催した。	480人	

2-(4)-②-3 シンポジウム開催実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料c-④

2-(4)-②-4 ウェブサイトアクセス件数

（後述の資料に記載）◎共通資料d

2-(4)-②-5 学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数

令和3年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数（件）	3,726件	6,962件

2-(4)-③ 展示公開施設の充実

2-(4)-③-1 来館者数推移（入館料別）（過去５か年）

（後述の資料に記載）◎共通資料a-①

2-(4)-③-2 来館者数推移（展覧会別）（過去５か年）

（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

2-(4)-③-3 平常展・特別展・海外展

（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

2-(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
2-(5)-① 文化財に関する研修の実施
2-(5)-①-1 文化財に関する研修の実施実績

【本部文化財防災センター】　2件　受講者 103人

No.	研修課程	研修期間	日数（日）	研修対象	研修内容	参加者数	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	文化財レスキューと心理社会的支援	10月19日	1	北海道内の文化財担当職員、学芸員等	講演2件「歴史資料保存と災害支援～歴史資料保存活動がなぜ、災害に強い 地域づくりに貢献できるか」、「歴史資料レスキュー活動と心理社会的支援」	15人	100%	100%	会場：国立アイヌ民族博物館
2	文化財防災セミナー「共に助け合う地域・ミュージアム」	12月11日	1	文化財の保存・活用に従事している自治体や博物館・図書館・文書館等の職員、ボランティア団体（史料ネット）、建築士会等	講演3件「川崎市市民ミュージアム 台風被害に係る災害対応検証及び今後のあり方について」、「長野市立博物館における令和元年東日本台風による被災資料の保全活動」、「九州・山口ミュージアム連携事業と文化財防災の広域連携モデル」	Zoomウェビナー当日参加31人、YouTubeライブ視聴（最大同時接続数）57人、10日間アーカイブ配信期間を含むYouTube視聴回数464回	98%	100%	会場：Zoomウェビナー、YouTube

【東京文化財研究所】　1件　受講者 17人

No.	研修課程	研修期間	日数（日）	研修対象	研修内容	参加者数	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修	10月5～15日	9	博物館・美術館等の文化財の保存担当者	文化財の保存科学の基礎と実践上の諸問題についての講義と実習	17人	100%	94%	

【奈良文化財研究所】　4件　受講者 32人

No.	研修課程	研修期間	日数（日）	研修対象※	研修内容	参加者数	満足度	研修成果の活用実績	備考
1	文化財担当者専門研修「自然科学分析外注課程」	9月24日～25日	2	地方公共団体の文化財担当職員※	動植物遺体などの自然科学分析を外注する際に必要な基礎知識の習得や留意点の理解を目的とする研修。	10人	100%	100%	
2	文化財担当者専門研修「文化的景観調査計画課程」	9月28日～10月2日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	文化的景観の保護にこれから取り組む担当者を対象に、文化的景観の歴史・概念、保護制度、調査手法及び保存計画立案等についての基礎知識を習得することを目的とする研修。	5人	100%	100%	
3	文化財担当者専門研修「保存科学Ⅰ（金属製遺物）課程」	10月13日～10月21日	7	地方公共団体の文化財担当職員※	本研修では、金属製遺物の保存処理を実施または外注する際の方法や仕様の選定、並びに金属製遺物の展示・保管環境の調整といった、現場での実務をおこなう上で必要な知識及び技術について、実習を交えながら学ぶ。	8人	100%	100%	
4	文化財担当者専門研修「地質・考古調査課程」	10月26日～10月30日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	地質や探査・計測、動植物遺存体について、基礎知識や調査法など、知っていれば発掘調査の現場で役に立つ実践的な基礎技術の習得や、発掘調査に求められる多分野協業の視点について実習を交えながら学ぶ。	9人	100%	100%	

※地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者

2-(5)-② 文化財に関する協力・助言等

2-(5)-②-1 専門的・技術的な援助・助言の取組状況
（行政、公私立博物館等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

令和3年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	本部 文化財活用センター
529件	180件	230件	119件

【東京文化財研究所】　180件

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の収集、保管に関する指導助言	18件
2	無形文化遺産に関する助言	25件
3	文化財の虫菌害に関する調査・助言	41件
4	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	43件
5	文化財の材質・構造に関する調査・助言	12件
6	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	41件

【奈良文化財研究所】　230件

	プロジェクト名称	件数
1	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	183件
2	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	7件
3	地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	39件
4	地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する調査研究	1件

【本部文化財活用センター】　119件

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の保存環境に関する相談対応・助言、協力	119件

2-(5)-③　平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

2-(5)-③-1　ボランティア受入実績　（後述の資料に記載）◎共通資料b

2-(5)-⑤　文化財等の防災・救援等への寄与

2-(5)-⑤-1　研究交流実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-①1）・3）

2-(5)-⑤-2　シンポジウム開催実績一覧　（後述の資料に記載）　◎共通資料c-④

2-(5)-⑤-3　ウェブサイトアクセス件数　（後述の資料に記載）　◎共通資料d

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務改善の取組

1-(5)一般管理費の削減

1-(5)-① 施設の有効利用件数

令和3年3月31日現在

○件数

（単位：件）

		国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
			計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	総件数	2,641	2,473	2,150	125	84	114	168	125	43
	うち有償	695	684	534	111	35	4	11	0	11
	うち無償	1,946	1,789	1616	14	49	110	157	125	32
茶室	総件数	81	81	72	3	4	2			
	うち有償	34	34	26	3	3	2			
	うち無償	47	47	46	0	1	0			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	総件数	1,793	1,637	1,591	12	28	6	156	125	31
	うち有償	48	46	21	5	20	0	2	0	2
	うち無償	1,745	1,591	1570	7	8	6	154	125	29
その他（左記以外の建物、敷地）	総件数	188	176	23	11	44	98	12	0	12
	うち有償	48	39	23	7	9	0	9	0	9
	うち無償	140	137	0	4	35	98	3	0	3
撮影利用	総件数	579	579	464	99	8	8	0	0	0
	うち有償	565	565	464	96	3	2	0	0	0
	うち無償	14	14	0	3	5	6	0	0	0

○有償利用の利用金額

（単位：千円）

	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所		
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
合 計	54,812	53,306	41,188	11,657	440	21	1,506	0	1,506
茶室	1,846	1,846	1,645	151	40	10			
講堂等（講堂、会議室、研修室）	1,434	1,414	1,188	68	158	0	20	0	20
その他（左記以外の建物、敷地）	23,195	21,709	12,340	9,178	191	0	1,486	0	1,486
撮影利用	28,337	28,337	26,015	2,260	51	11	0	0	0

※アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、堺市博物館の施設の一部を使用しているため、外部利用は行っていない。

◎共通資料
a 展示

a-① 来館者数推移（入館料別）（過去5か年）

令和3年3月31日現在

年度				28	29	30	元	2
国立文化財機構	総来館者数			3,810,178	4,875,133	3,977,125	4,358,044	858,177
	平常展	計		1,577,811	1,736,421	1,706,401	1,753,198	344,392
		有料	一般	653,711	778,185	747,422	713,037	132,915
			大学生	71,850	76,093	73,196	66,176	14,005
			小・中・高生	0	159	0	0	0
			友の会	152,643	185,553	192,482	189,313	53,579
		無料	一般(黒田含む)	108,272	107,824	116,321	78,584	33,306
			小・中・高・大生	183,375	206,900	204,691	193,984	24,623
		招待者等		407,960	381,707	372,289	512,104	85,964
	特別展	計		2,232,367	3,138,712	2,270,724	2,604,846	513,785
		有料	一般	1,404,313	2,049,172	1,510,156	1,721,359	362,251
			高・大生	76,242	105,410	112,381	91,077	25,289
			小・中生	31,337	29,312	22,558	26,793	2,715
			友の会	56,725	56,008	22,245	20,405	4,834
		無料	小・中生・一般	82,184	98,848	91,328	94,201	32,499
		招待者等		581,566	799,962	512,056	651,011	86,197
東京国立博物館	総来館者数			1,907,647	2,569,585	2,142,960	2,588,632	375,575
	平常展	計		761,709	1,030,180	989,508	1,030,652	166,639
		有料	一般	381,817	525,037	478,770	435,389	65,236
			大学生	41,159	48,052	43,486	37,542	7,137
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	119,573	160,739	172,646	170,236	46,389
		無料	高校生	24,623	32,714	27,701	21,911	3,183
			小・中生	55,176	70,686	66,933	62,703	8,519
		招待者等		101,677	143,888	145,696	258,794	22,290
		黒田記念館(無料)		37,684	49,064	54,276	44,077	13,885
	特別展	計		1,145,938	1,539,405	1,153,452	1,557,980	208,936
		有料	一般	733,704	995,261	764,691	1,038,356	158,484
			高・大生	36,115	41,210	54,270	51,783	11,591
			小・中生	—	—	—	—	—
			友の会	10,714	11,684	1,988	1,642	760
		無料	小・中生	26,992	20,051	37,968	37,024	5,244
		招待者等		338,413	471,199	294,535	429,175	32,857
京都国立博物館	総来館者数			384,340	941,931	477,884	376,061	170,494
	平常展	計		186,162	136,862	146,314	158,664	18,941
		有料	一般	110,054	80,789	87,013	95,014	8,525
			大学生	14,192	12,016	13,028	12,370	779
			友の会	15,248	9,341	7,058	6,552	1,562
		無料	小・中・高生	10,773	13,069	14,608	14,943	862
		招待者等		35,895	21,647	24,607	29,785	7,213
	庭園開放	計		11,417	15,676	11,168	13,908	9,932
		有料	一般	5,572	8,082	6,114	7,688	5,383
			大学生	—	—	—	—	572
			友の会	635	505	196	256	505
		無料	大学生	1,040	436	362	689	—
			小・中・高生	2,117	2,777	1,638	1,815	588
		招待者等		2,053	3,876	2,858	3,460	2,884
	特別展	計		186,761	789,393	320,402	203,489	141,621
		有料	一般	109,451	579,728	227,508	130,145	105,811
			高・大生	8,885	31,654	29,472	10,227	7,327
			友の会	10,511	13,192	3,166	3,291	1,175
		無料	小・中生	7,233	17,566	10,023	6,240	1,547
		招待者等		50,681	147,253	50,233	53,586	25,761
奈良国立博物館	総来館者数			449,322	549,211	527,786	612,755	122,452
	平常展	計		145,676	135,776	140,829	160,869	43,262
		有料	一般	63,886	60,294	63,675	75,109	17,695
			大学生	7,431	6,518	6,534	7,981	1,251
			小・中・高生	0	159	0	0	0
			友の会	5,290	4,250	3,196	3,414	3,062
		無料	小・中・高生	31,133	28,257	28,492	34,407	5,876
		招待者等		37,936	36,298	38,932	39,958	15,378
	特別展	計		303,646	413,435	386,957	451,886	79,190
		有料	一般	219,776	298,133	284,723	342,015	57,939
			高・大生	12,674	17,109	15,684	14,385	4,199
			小・中生	7,685	11,792	13,443	11,045	1,497
			友の会	15,750	16,058	3,901	2,970	1,278
		無料	小・中生	202	420	269	0	595
		招待者等		47,559	69,923	68,937	81,471	13,682
九州国立博物館	総来館者数			922,468	668,269	700,391	674,277	131,662
	平常展	計		393,590	350,848	349,114	348,563	81,230
		有料	一般	89,006	101,029	109,272	97,786	33,727
			大学生	8,766	9,253	9,950	8,068	4,181
			小・中・高生	—	—	—	—	—
			友の会	11,897	10,718	9,386	8,855	2,061
		無料	高校生	23,788	22,730	28,868	24,056	1,441
			小・中生	33,435	34,789	34,730	32,905	3,537
		招待者等		226,698	172,329	156,908	176,893	36,283
	特別展	計		528,878	317,421	351,277	325,714	50,432
		有料	一般	333,172	168,511	226,615	205,067	35,721
			高・大生	17,722	14,820	12,369	14,180	1,883
			小・中生	23,652	17,520	9,115	15,748	1,218
			友の会	19,750	15,074	13,190	12,502	1,621
		招待者等		134,582	101,496	89,988	78,217	9,989
平城宮跡資料館	総来館者数			102,053	104,279	90,558	71,408	37,913
	平常展	無料	一般	62,210	50,598	53,775	26,562	15,004
	特別展	無料	一般	39,843	53,681	36,783	44,846	22,909
藤原宮跡資料館	総来館者数			8,378	8,162	8,270	7,945	4,417
	平常展	無料	一般	8,378	8,162	8,270	7,945	4,417
飛鳥資料館	総来館者数			35,970	33,696	29,276	26,966	15,664
	平常展	計		8,669	8,319	7,423	6,035	4,967
		有料	一般	3,376	2,954	2,578	2,051	2,349
			大学生	302	254	198	215	85
		無料	小・中・高生	1,290	1,442	1,359	555	617
		招待者等		3,701	3,669	3,288	3,214	1,916
	特別展	計		27,301	25,377	21,853	20,931	10,697
		有料	一般	8,210	7,539	6,619	5,776	4,296
			大学生	846	617	586	502	289
		無料	小・中・高生	7,914	7,130	6,285	6,091	2,204
		招待者等		10,331	10,091	8,363	8,562	3,908

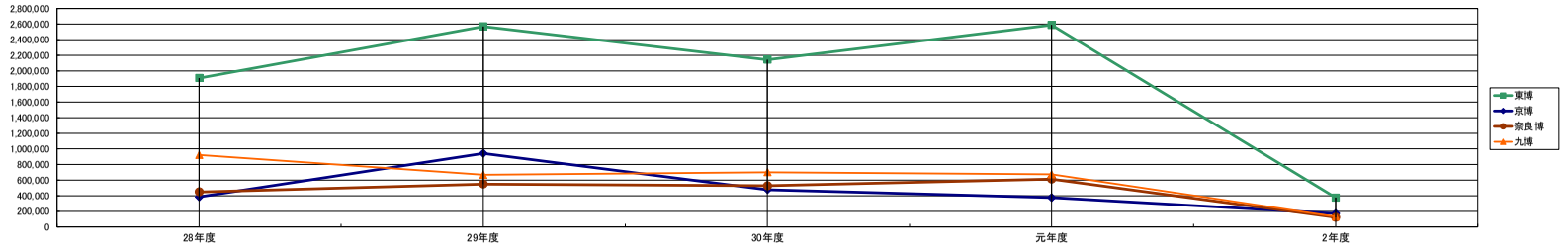
※飛鳥資料館特別展有料高校生入場者数は、ｷﾄﾗ公開(25)のみ有料(大学生)に含み、それ以外は無料(小・中・高生)に含む。
※京都国立博物館における平常展、庭園開放については高校生以下の区別せず。
※京都国立博物館における庭園開放は、平常展に含む。

独立行政法人国立文化財機構　展覧会別来館者数（平成28～令和2年度）

国立文化財機構　合計

	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度	
合計	総　合　計	3,810,178	総　合　計	4,876,133	総　合　計	3,977,125	総　合　計	4,358,044	総　合　計	859,177
	平常展のみの来館者	1,577,811	平常展のみの来館者	1,736,421	平常展のみの来館者	1,706,401	平常展のみの来館者	1,753,198	平常展のみの来館者	344,392
	特別（共催）展計	2,232,367	特別（共催）展計	3,139,712	特別（共催）展計	2,270,724	特別（共催）展計	2,604,846	特別（共催）展計	513,755

1）国立博物館

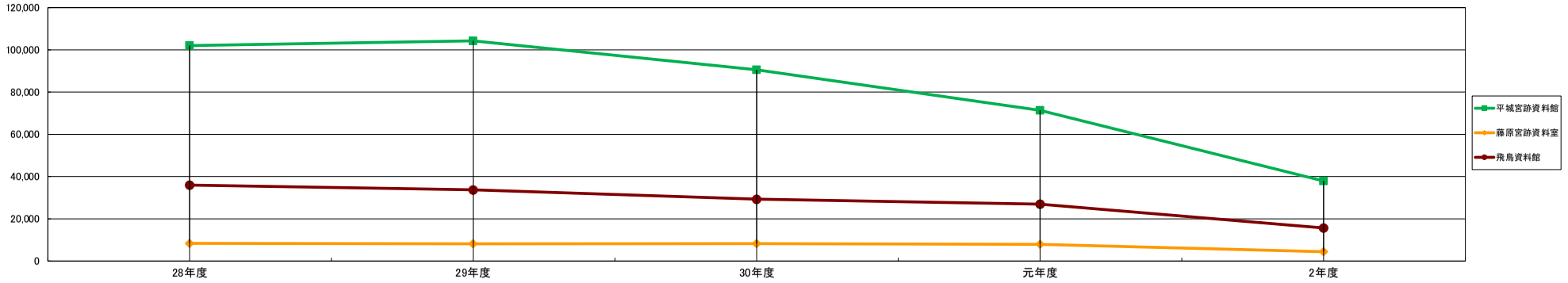


	28年度		29年度		30年度		令和元年度		令和2年度	
計	総　計	3,663,777	総　計	4,728,996	総　計	3,849,021	総　計	4,251,725	総　計	800,183
	平常展のみの来館者	1,498,554	平常展のみの来館者	1,689,342	平常展のみの来館者	1,636,933	平常展のみの来館者	1,712,656	平常展のみの来館者	320,004
	特別（共催）展計	2,165,223	特別（共催）展計	3,039,654	特別（共催）展計	2,212,088	特別（共催）展計	2,539,069	特別（共催）展計	480,179
東博	総計（黒田記念館含む）	1,907,647	総計（黒田記念館含む）	2,569,585	総計（黒田記念館含む）	2,142,960	総計（黒田記念館含む）	2,588,632	総計（黒田記念館含む）	375,575
	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	761,709	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	1,030,180	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	989,508	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	1,030,652	平常展のみの来館者（黒田記念館含む）	166,639
	特別（共催）展計	1,145,938	特別（共催）展計	1,539,405	特別（共催）展計	1,153,452	特別（共催）展計	1,557,980	特別（共催）展計	208,936
	特別展「生誕150年　黒田清輝―日本近代絵画の巨匠」	157,589	特別展「茶の湯」	245,795	「アラビアの道－サウジアラビア王国の至宝」	67,263	特別展　御即位30年記念「両陛下と文化交流－日本美を伝える－」	74,424	ユネスコ無形文化遺産「体感！日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」	中止
	特別公開「国宝土偶　縄文の女神」	※2　－	日タイ修好130周年記念特別展「タイ　～仏の国の輝き～」	116,100	創刊記念『国華』130周年・朝日新聞140周年　特別展「名作誕生―つながる日本美術」	173,995	特別展「国宝　東寺-空海と仏像曼荼羅」	430,511	特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」	中止
	特別展「黄金のアフガニスタン　―守りぬかれたシルクロードの秘宝―」	154,875	「フランス人間国宝展」	70,192	特別展「縄文―1万年の美の鼓動」	354,259	特別展「美を紡ぐ　日本美術の名品－雪舟、永徳から光琳、北斎まで－」	106,593	特別展「きもの　KIMONO」	91,830
	日韓国交正常化50周年記念　特別展「ほほえみの御仏―二つの半跏思惟像―」	78,562	興福寺中金堂再建記念特別展「運慶」	600,439	特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」	197,004	特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」	※1(330,598)	特別展「聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」	延期
	特別展「古代ギリシャ展―時空を超えた旅―」	199,567	特別展「仁和寺と御室派のみほとけ-天平と真言密教の名宝-」	324,042	東京国立博物館・フィラデルフィア美術館交流企画特別展「マルセル・デュシャンと日本美術」	80,191	日中文化交流協定締結40周年記念　特別展「三国志」	337,639	東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念特別展「スポーツNippon」	延期
	特別展「平安の秘仏―滋賀・櫟野寺の大観音とみほとけたち」	212,144	「アラビアの道－サウジアラビア王国の至宝」	182,837	日中平和友好条約締結40周年記念特別企画「中国近代絵画の巨匠　斉白石」	※1(62,405)	住友財団修復助成30周年記念「文化財よ、永遠に」	※1(138,502)	日中韓国立博物館共同企画特別展「東アジアのうるしの世界」	延期
	臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念　特別展「禅―心をかたちに」	133,629			顔真卿　王羲之を超えた名筆	198,920	御即位記念特別展「正倉院の世界－皇室がまもり伝えた美－」	362,076	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」	延期
	特別展「春日大社－千年の至宝」	209,572			特別展　御即位30年記念　両陛下と文化交流　－日本美を伝える－	48,340	特別展「人、神、自然―アール・サーニ コレクションの名品が語る古代世界―」	※1(139,737)	特別展「工藝2020―日本の工藝と自然―」	13,851
					特別展「国宝 東寺―空海と仏像曼荼羅」	33,480	特別公開「高御座と御帳台」	110,484 ※4(204,801)	特別展「桃山―天下人の100年」	82,808
							日本書紀成立1300年　特別展「出雲と大和」	136,054	特別展「日本のたてもの―自然素材を活かす伝統の技と知恵」	20,447
							特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」	199 （報道内覧会のみ）	特別展「ジパング　世界と出会った日本の美」	中止
							ユネスコ無形文化遺産　特別展「体感！ 日本の伝統芸能―歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界―」	中止	日本美術の魅力（在外古美術品保存修復協力事業による修復作品里帰り展）	延期
京博	総　計	384,340	総　計	941,931	総　計	477,884	総　計	376,061	総　計	170,494
	平常展のみの来館者	186,162	平常展のみの来館者	136,862	平常展のみの来館者	146,314	平常展のみの来館者	158,664	平常展のみの来館者	18,941
	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	11,417	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	15,676	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	11,168	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	13,905	庭園のみ（全館閉館期、庭園のみ開放）	9,932
	平常展のみ+庭園のみ	197,579	平常展のみ+庭園のみ計	152,538	平常展のみ+庭園のみ	157,482	平常展のみ+庭園のみ	172,572	平常展のみ+庭園のみ	28,873
	特別（共催）展計	186,761	特別（共催）展計	789,393	特別（共催）展計	320,402	特別（共催）展計	203,489	特別（共催）展計	141,621
	臨済禅師1150年・白隠禅師250年遠諱記念　特別展覧会「禅－心をかたちに－」	88,228	開館120周年記念　特別展覧会「海北友松」	164,900	特別展「池大雅―天衣無縫の旅の画家―」	67,399	特別展　時宗二祖上人七百年御遠忌記念「国宝－遍聖絵と時宗の名宝」	66,678	西国三十三所　草創1300年記念　特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」（※今夏に延期）	52,164
	特別展覧会　没後150年「坂本龍馬」	98,533	開館120周年記念　特別展覧会「国宝」	624,493	特別展「京のかたな―匠のわざと雅のこころ―」	253,003	特別展「流転100年　佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」	136,811	御即位記念　特別展「皇室の名宝」	85,315
									没後国師没後七百年特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」	4,142
奈良博	総　計	449,322	総　計	549,211	総　計	527,786	総　計	612,755	総　計	122,452
	平常展のみの来館者	145,676	平常展のみの来館者	135,776	平常展のみの来館者	140,829	平常展のみの来館者	160,869	平常展のみの来館者	43,262
	特別（共催）展計	303,646	特別（共催）展計	413,435	特別（共催）展計	386,957	特別（共催）展計	451,886	特別（共催）展計	79,190
	特別展「国宝　信貴山縁起絵巻－朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝－」	55,198	特別展「快慶」	123,842	創建1250年記念特別展「国宝 春日大社のすべて」	95,950	国宝の殿堂　藤田美術館展	158,078	御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」	42,846
	生誕800年記念特別展「忽性　－叡尊に捧げた生涯－」	39,834	1000年忌特別展「源信　地獄・極楽への扉」	72,540	修理完成記念特別展「糸のみほとけ　―国宝 綴織當麻曼荼羅と繍仏」	45,175	特別展　御即位記念　第71回正倉院展	277,133	仏教美術名品展（仮称）	延期
	特別展 第68回正倉院展	208,614	特別展 第69回正倉院展	217,053	特別展 第70回正倉院展	245,832	特別展　毘沙門天―北方鎮護のカミ―	16,675	特別展 第72回正倉院展	36,344
									特別展「国宝　聖林寺十一面観音―三輪山信仰のみほとけ」	延期
九博	総　計	922,468	総　計	668,269	総　計	700,391	総　計	674,277	総　計	131,662
	平常展のみの来館者	393,590	平常展のみの来館者	350,848	平常展のみの来館者	349,114	平常展のみの来館者	348,563	平常展のみの来館者	81,230
	特別（共催）展計	528,878	特別（共催）展計	317,421	特別（共催）展計	351,277	特別（共催）展計	325,714	特別（共催）展計	50,432
	特別展「始皇帝と大兵馬俑」	158,738	日タイ修好130周年記念特別展「タイ　～仏の国の輝き～」	56,314	特別展「王羲之と日本の書」	14,971	特別展「京都　大報恩寺　快慶・定慶のみほとけ」	53,524	特別展「ライデン国立古代博物館所蔵　古代エジプト展」	中止
	特別展「東山魁夷展　自然と人、そして町」	133,002	特別展「世界遺産　ラスコー展」	118,555	特別展「至上の印象派展　ビュールレ・コレクション」	198,489	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代」	86,399	開館15周年記念特別展「海幸山幸―祈りと恵みの風景―」	延期
	特別展「京都 高山寺と明恵上人―特別公開 鳥獣戯画―」	161,172	特別展「新・桃山展―大航海時代の日本美術」	87,413	明治150年記念　特別展「オークラコレクション」	63,069	特別展「三国志」	140,155	開館15周年記念特別展「加耶（仮称）」	中止
	特別展「宗像・沖ノ島と大和朝廷」	75,966	特別展「王羲之と日本の書」	55,139	特別展「京都・醍醐寺―真言密教の宇宙―」	74,748	特別展「ルネ・ユイのまなざし　フランス絵画の精華　大様式の形成と変容」	45,636	特別展「奈良・中宮寺の国宝」	50,432

※1　この特別展は、平常展料金のため、平常展のみの来館者に計上
※2　この特別展、特別公開の会場は平常展の一部で、別途カウントを行っていない。
※3　この特別展観は平常展の一部として開催しているため、特別展計には計上しない。
※4　()内の数値は、総合文化展や同時期開催の特別展チケットによる来場者を含んだ数

独立行政法人国立文化財機構　展覧会別来館者数（平成28～令和2年度）

2）研究成果公開施設



	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度	
計	**総　合　計**	**146,401**	**総　合　計**	**146,137**	**総　合　計**	**128,104**	**総　合　計**	**106,319**	**総　合　計**	**57,994**
	平常展のみの来館者	**79,257**	**平常展のみの来館者**	**67,079**	**平常展のみの来館者**	**69,468**	**平常展のみの来館者**	**40,542**	**平常展のみの来館者**	**24,388**
	特別（共催）展計	**67,144**	**特別（共催）展計**	**79,058**	**特別（共催）展計**	**58,636**	**特別（共催）展計**	**65,777**	**特別（共催）展計**	**33,606**
平城宮跡資料館	総　計	102,053	総　計	104,279	総　計	90,558	総　計	71,408	総　計	37,913
	平常展のみの来館者	62,210	平常展のみの来館者	50,598	平常展のみの来館者	53,775	平常展のみの来館者	26,562	平常展のみの来館者	15,004
	特別（共催）展計	39,843	特別（共催）展計	53,681	特別（共催）展計	36,783	特別（共催）展計	44,846	特別（共催）展計	22,909
	ロビー展示「震災復興調査とその支援」	※1 －	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1 －	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1 －	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1 －	ロビー展示「震災復興調査とその支援」（26.3.12より継続展示）	※1 －
	夏のこども展示「ナント！おいしい！？平城京！！―奈良の都の食事情―」	9,532	平城宮跡資料館春期企画展「発掘速報展　平城2016」	927	夏のこども展示　「たいけん！なぶんけん　―平城宮の考古学―」	9,205	平城宮跡資料館2019年度特別展「高御座」	14,456	ミニ展示「古代のいのり―疫病退散！」	2,846
	秋期特別展「地下の正倉院展 式部省木簡の世界―役人の勤務評価と昇進―」	17,653	平城宮跡資料館 春期企画展「永野太造作品展―草創期の奈文研を支えた写真家―」	21,811	秋期特別展「地下の正倉院展－荷札木簡をひもとく－」	15,853	夏のこども展示「ならのみやこのしょくぶつえん」	9,162	夏期企画展「奈良の都の考古学―発掘された平城2019」 「古代のいのり―疫病退散！」	3,968
	平城宮跡資料館春期企画展「発掘速報展　平城2016」	12,658	夏のこども展示　「ナント！　すてきな！？　平城生活♪」	10,882	平城宮跡資料館　冬季企画展「発掘された平城2017・2018」	11,725	秋期特別展「地下の正倉院展-年号と木簡-」	13,257	秋季特別展「地下の正倉院展」	14,670
			秋期特別展「地下の正倉院展-国宝 平城宮跡出土木簡-」	14,841			平城宮跡資料館新春ミニ展示「平城京の子」	4,456	平城宮跡資料館新春ミニ展示「平城宮の丑」	1,425
			平城宮跡資料館ミニ展示「平城京の戌」	5,220			平城宮跡資料館「発掘された平常2019」	3,515	平城宮跡歴史公園第一次大極殿院南門復元整備工事記念特別展「鬼神乱舞-護る・祓う・鬼瓦の世界-」	※2 31,530
藤原宮跡資料室	総　計	8,378	総　計	8,162	総　計	8,270	総　計	7,945	総　計	4,417
	平常展のみの来館者	8,378	平常展のみの来館者	8,162	平常展のみの来館者	8,270	平常展のみの来館者	7,945	平常展のみの来館者	4,417
	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0	特別（共催）展計	0
飛鳥資料館	総　計	35,970	総　計	33,696	総　計	29,276	総　計	26,966	総　計	15,664
	平常展のみの来館者	8,669	平常展のみの来館者	8,319	平常展のみの来館者	7,423	平常展のみの来館者	6,035	平常展のみの来館者	4,967
	特別（共催）展計	27,301	特別（共催）展計	25,377	特別（共催）展計	21,853	特別（共催）展計	20,931	特別（共催）展計	10,697
	春期特別展「文化財を撮る―写真が遺す歴史―」	9,974	春期特別展「藤原京を掘る―藤原京一等地の調査―」	9,613	春期特別展「あすかの原風景」	8,816	春期特別展「骨ものがたり―環境考古学研究室のお仕事」	10,024	奈良国立博物館・奈良文化財研究所　合同企画　夏期特別展「日本人と古代仏教―仏教徒文字文化の考古学（仮称）」	中止
	夏期企画展　飛鳥資料館第7回写真コンテスト作品展「飛鳥の石」	3,383	夏期企画展　飛鳥資料館第8回写真コンテスト作品展「飛鳥の路」	2,930	夏期企画展　飛鳥資料館第9回写真コンテスト作品展「飛鳥のいきもの」	2,428	夏期企画展飛鳥資料館第10回写真コンテスト作品展「飛鳥の古墳」	3,070	特別展「飛鳥の石造文化と石工」	3,212
	秋期特別展　「祈りをこめた小塔」	9,373	秋期特別展「高松塚古墳を掘る-解明された構築過程-」	9,877	秋期特別展「よみがえる飛鳥の工房－日韓の技術交流を探る」	7,492	秋期特別展「飛鳥－自然と人と－」	6,506	秋期企画展　飛鳥資料館第11回写真コンテスト作品展「飛鳥の祭」	5,114
	冬期企画展　「飛鳥の考古学2016-飛鳥むかしむかし早川和子原画展-」	4,571	冬期企画展「飛鳥の考古学2017」	2,957	冬期企画展「飛鳥の考古学2018」	3,117	冬期企画展「飛鳥の考古学2019」	1,331	冬期企画展「飛鳥の考古学2020」	2,371

※1　平常展の一部として実施
※2　平城宮跡資料館ではなく、平城宮跡内のいざない館にて開催のため、合計の数値には含まない。（参考値として記載。）

a-③ 平常展・特別展・海外展

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

①開館日数　251 日間（平常展のみの開館日数　96 日間）
②会　　場
(1)本　館　1階、2階
(2)東洋館　1階、2階、3階、4階、5階
(3)法隆寺宝物館　1階、2階
(4)平成館　1階
(5)黒田記念館
③展示総件数　9,048件（うち国宝376件、重要文化財1,025件）
(1)本館・平成館企画展示室　3,106件（うち国宝259件、重要文化財395件）
(2)東洋館　1,279件（うち国宝14件、重要文化財89件）
(3)法隆寺宝物館　232件（うち国宝 19件、重要文化財362件）
(4)平成館考古展示室　461件（うち国宝 84件、重要文化財164件）
(5)黒田記念館　97件（うち国宝　0件、重要文化財15件）
④展示替件数　5,041 件　・　展示替回数　延べ 392 回
⑤入場料金
黒田記念館以外　　一般1,000円、大学生410円

黒田記念館　無料
⑥特集　全17件（●国宝、◎重要文化財、○重要美術品）
※新型コロナウイルス蔓延防止策として、2月26日～6月1日まで臨時休館。

場所	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
平成館 企画展示室	親と子のギャラリー　ツノのある動物	月　日 ～　月　日	0件
＜主な作品＞ 蓮華葡萄彫犀角杯、春日鹿曼荼羅図、自在龍置物、風神雷神図（模本）			
新型コロナウイルスの影響を勘案し、東京都恩賜上野動物園と国立科学博物館と協議の上、当該展覧会並びに関連イベントを中止した。			
本館 14 室	日本の仮面　舞楽面　行道面	6 月 19 日 ～ 7 月 12 日	24 件（重文 22 件）
＜主な作品＞ 舞楽面　崑崙八仙、舞楽面　童舞、行堂面 菩薩、追儺面 鬼			
雅楽の一種で、舞を伴う舞楽に用いるのが舞楽面。練供養や、これに類似した法会に用いた仮面を行道面という。奈良・手向山八幡宮、愛知・熱田神宮、愛知・真清田神社などが所蔵の舞楽面、丹生都比売神社（天野社）伝来の舞楽面と行道面を中心に展示し、古代、中世の芸能の多様性と、仮面の彫刻的魅力を紹介した。 新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため、人を集めて展示室で実施するギャラリートークが中止されたことから、映像を配信するオンラインギャラリートークを実施した。			
本館 14 室	日本美術の記録と評価－調査ノートに見る美術史研究のあゆみ－	7 月 14 日 ～ 8 月 23 日	21 件
＜主な作品＞ 中殿御会図調査ノート、中殿御会図（摸本）			
美術作品は先人たちの永年の営みによって守り伝えられ、評価、鑑賞されてきた。この企画ではこんにち広く知られるような美術作品がどのように調査研究され、美術史研究が形作られてきたのかを、調査ノートと実際の作品によって紹介した。東京文化財研究所が所蔵する、今泉雄作・平子鐸嶺による明治期の調査ノートに始まり、広範かつ膨大な調査研究を行った田中一松資料、さらに細部に着目して実証的な研究を展開した土居次義資料によって、日本の美術作品が記録され、評価されてきた歴史を示した。東京文化財研究所文化財情報資料部による展示を実施した新しい試み。			
本館 14 室	大野出目家と越前出目家の能面	8 月 25 日 ～ 10 月 4 日	23 件（重文 1 件）
＜主な作品＞ 能面　安達女、能面 三日月、能面 阿古父尉			
大野出目家、越前出目家はともに近世世襲面打の家系である。近世はすでに新たな能面を創り出す創作の時代から、古面を写す時代に移っていたが、名手が生まれ、個性が垣間見える部分もある。この展示はふたつの世襲面打家の作品をまとめて展示し、それぞれの造形の特色を紹介した。			
平成館 企画展示室	令和元年度新収品展	10 月 6 日 ～ 11 月 15 日	25 件（重文 1 件）
＜主な作品＞ 浜松図屏風、佐野昭肖像、染付竹虎			
令和元年度に新たに収蔵品に加わった文化財のうち、寄贈分、購入分より主だった作品を公開する。新収品を通じ、当館のもっとも重要な事業のひとつに位置づけられる「文化財の収集」について、その成果と意義を紹介した。			

本館 特別 1 室	書と紙－平安時代の美しい紙－	9月24日 ～ 11月23日	22件(国宝1件、重文3件、重美3件)

＜主な作品＞
●古今和歌集（元永本）上帖、継色紙、◎法華経（久能寺経）法師品

国宝「古今和歌集（元永本）」は元永 3 年（1120）の奥書があり、本年は 900 年の節目にあたる。平安時代には、元永本のように美しく装飾された料紙を使って、能書が詩歌を揮毫した調度手本が、貴族の間の贈答品とされた。その料紙は、文様を版木で摺り出した唐紙（中国製・日本製）や、染紙、繊維を漉き込む雲紙などあるが、10～12 世紀の装飾料紙は中国にもあまり残されていない貴重な遺品である。さまざまな装飾料紙とその技法をとりあげながら、その料紙と書との調和を感じていただけるような展示を実施した。

東洋館 8 室	中国書画精華－古典の魅力－	9 月 24 日 ～ 11 月 15 日	70 件(国宝 10 件、重文 19 件、重美 2 件)

＜主な作品＞
●夏景山水図軸、●出山釈迦図軸、●雪景山水図軸、●寒山拾得図軸、●法語（破れ虚堂）

毎年秋の恒例となっている中国書画の名品展を開催する。宋・元時代の宮廷文化、禅文化の中で生み出された作品は、その格調高い表現から、中国のみならず、東アジア世界全体における規範となっていく。その造形的魅力を紹介しつつ、明時代以降にこれらに倣って作られた作品とともに展示することで、古典としての歴史的重要性も示した。日本人にとっての古典でもある中国書画の精華を楽しんでもらう展示とした。

本館 14 室	破格から調和へ―17 世紀の茶陶	10 月 6 日 ～ 11 月 29 日	19 件(重文 2 件)

＜主な作品＞
◎馬蝗絆茶甌記、◎色絵牡丹図水指、黒楽茶碗

本特集は、特別展「桃山―天下人の100年」に関連して、安土桃山時代に続く17世紀の茶陶をとりあげるものである。千利休（1522～91）によって大成された桃山期の茶の湯、そこにみとめられる美意識は、一般に、それまでの価値観を壊すような「豪壮」または「破格」という表現に象徴される。しかし、利休及び豊臣秀吉没後、次の時代を迎えた17世紀には、「調和」を重視する洗練された美意識のもとに新しい茶陶が登場する。ここでは館蔵品のなかから、三代道入、四代一入の樂茶碗や綺麗さびと謳われた小堀遠州の道具、そして公家好みの瀟洒な仁清のうつわなどを中心に紹介した。

東洋館 ８室	中国近代の上海－海上派の書・画・印	11月17日 ～ 12月23日	63件

＜主な作品＞
行書七言古詩四屏、楷書八言聯、葡萄図軸

アヘン戦争(1840～42)後の南京条約(1842)を機に開港した上海は、イギリス、フランス、アメリカが租界を設け、近代化が急速に進展した。経済発展、安全保障を背景に、富裕層は上海に移り、それにしたがって多くの芸術家が上海を拠点に活動した。海上派と称される彼ら芸術家の書、画、印は、明治から昭和の日本の墨客も熱い眼差しを向け、海上派の芸術家たちと師弟関係を結んだ者もみられる。本展では日本にも影響を与えた海上派の書画と印譜を紹介した。

平成館 企画展示室	世界と出会った江戸美術	11 月 25 日 ～ 3 年 1 月 11 日	36 件（重文 9 件）

＜主な作品＞
IHS 七宝繋蒔絵螺鈿書見台、◎悲しみの聖母（親指のマリア）、◎浅間山図屏風

海外への自由な往来が禁止されていた江戸時代、日本を訪れる外国人は非常に限定され、異国の地を踏む日本人はさらに限られていた。しかし、厳しい制約のなかでも、日本とヨーロッパの間を多くの交易品が行き来し、異国の技術や表現に学んだ美術工芸品が双方の地で誕生した。東京国立博物館は、南蛮漆器や洋風画、輸出陶磁器のほか、長崎奉行所旧蔵キリシタン遺物、紅葉山文庫や蕃書調所などの江戸幕府関連施設に伝来した地図や洋書、シーボルト旧蔵書といった歴史的に重要な資料を収蔵している。本展では、江戸時代における東西交流から生まれた所蔵品及びご寄託品を紹介した。世界的な鎖国状態の最中にある現在、改めて江戸時代の人々に思いを馳せつつ、外国に対する好奇心を自国の文化、美術のなかで昇華させた過去を振り返った。

本館 14 室	珠玉の中国彫刻	12 月 1 日 ～ 3 年 2 月 21 日	20 件（重文 1 件）

＜主な作品＞
◎十一面観音菩薩立像、龍樹思惟像台座、三彩神王

中国彫刻といえば雲岡石窟や龍門石窟の美しい石仏をイメージしがちであるが、仏教美術が伝来する以前の中国では人体をリアルに表現することがなく、墓をまもる俑や石人むしろ抽象的な造形にその特性があるといえる。しかし、この抽象性は、西方起源の仏像を中国が受け入れていく過程において常に大切なエッセンスとして作用した。南北朝時代には、謎めいた微笑と複雑な衣文をもつ独特の仏像を生み出し、唐時代に到ると、肉体と衣文が見事に調和した中国仏像が完成した。いっぽう、玉石を用いて彩色を施した玉像や、白檀に細密な彫刻を施した檀像、さらに道教神の像や田舎風の素朴な作品も数多く残っている。今回の特集陳列では、館蔵品の中から漢～唐時代の仏教彫刻、道教像、俑など多彩な作品を展観し、東洋館の常設展示作品も合せた内容として、中国彫刻の奥深い世界を紹介したい。日本美術を展示する本館で中国彫刻を紹介することにより、古来、密接な関係があった日本と中国との美術の交流についてあらためて思いを馳せる一助となれば幸いである。

本館 15 室	表慶館の建築図面	12 月 8 日 ～3 年 2 月 14 日	19 件

＜主な作品＞
表敬完成予想図、奉献美術館計画断面図、奉献美術館基礎煉瓦工事写真、奉献美術館建設工事写真

本特集は表慶館で開催される「日本のたてもの」展(日本博、12 月から)に合わせ、収蔵する表慶館関連資料のなかから建築図面を中心に展示する。表慶館は大正天皇御成婚を記念し、御祝するため明治 33 年 3 月に東宮御慶事奉祝会が組織され、寄付により建造された奉献美術館である。明治 41 年 9 月 29 日に竣工、10 月 10 日に奉祝会から献納された。ついで 11 月 30 日、この奉献美術館は「表慶館」と命名され東京帝室博物館が管理することとなった。帝国奈良博物館・帝国京都博物館に続き、建築家片山東熊によって設計されたネオバロック様式の明治後期を代表する建築として知られる。現存する建築図面は平面図、立面図、断面図、構造図、現寸図などであり、明治期の建築造営の一端を図面によって紹介した。

本館 特別 1・2 室	博物館に初もうで　ウシにひかれてトーハクまいり	3 年 1 月 2 日 ～ 1 月 31 日	61 件(重文 3 件. 重美 2 件)

＜主な作品＞
◎阿弥陀如来および両脇侍立像（善光寺式）、●片輪車蒔絵螺鈿手箱、◎駿牛図断簡

令和 3 年（2021）の干支にちなみ、「牛」をテーマとした特集展示を行う。力強く従順で、人の営みを傍らで支え続けてきた牛は、身近な家畜である一方、神の乗り物となる聖性をそなえ、仏教における悟りの象徴ともみなされた。また貴族の生活と密着して牛車の文化を生み、後々まで王朝文化への憧憬をもたらした。本展示では、「牛にまつわる信仰史」「牛と共同した暮らし」「牛車と王朝の様式美」「描写された牛の姿形」と複数のテーマにわけて構成し、人と牛をめぐる豊かな文化を紹介した。

東洋館 8 室	清朝書画コレクションの諸相―高島槐安収集品を中心に―	3 年 1 月 2 日～2 月 28 日	85 件(国宝 1 件、重美 1 件)

＜主な作品＞
行書「槐安」軸、山水図巻、花卉図四屏、●瀟湘臥遊図巻

毎年開催している台東区立書道博物館との連携企画第 18 弾として、2 年度は中国書画のコレクションをテーマとする。中国書画は作者の手を離れたのち、所蔵者や鑑賞者の手で、本紙やその前後に鑑蔵印が捺されたり、題跋がしたためられたり、時には著録にまとめられたりした。それらは作品の来歴を示すとともに、題跋の書や印自体が、鑑賞の対象ともなる。清朝の皇帝や高官、民間の富裕層が所蔵した書画の名品は、辛亥革命(1911～12)を契機として日本にも流入し、質の高いコレクションが少なからず形成された。世界的に知られる台東区立書道博物館所蔵の中村不折（1866～1943）による収集品と当館所蔵の高島槐安(菊次郎、1875～1969)による収集品には、中国歴代の収蔵家や書画家が収蔵・鑑賞した作品が数多く含まれる。本展では、台東区立書道博物館で中村不折、当館で高島槐安の収集品に焦点をあてる。作品にみられる題跋や鑑蔵印等から、清時代から中華民国時代にかけて形成された官・民の書画コレクションの系譜をたどるとともに、それらを受け継ぐ両コレクションの特色をご紹介した。

本館 特別 1・2 室	木挽町狩野家の記録と学習	3 年 2 月 9 日 ～ 3 月 21 日	23 件

＜主な作品＞
瀟湘八景図（摸本）、有徳院吉宗加筆鷹画草稿、観音経絵（模本）

江戸時代、幕府に仕えた御用絵師のうち、狩野家の中橋・鍛冶橋・木挽町・浜町の四家は奥絵師と称され、旗本に匹敵する特別な存在であった。中でも筆頭の木挽町狩野家は絶大な権力を持ち、江戸城障壁画や国内外への贈答用絵画の制作、将軍家子女の絵画教育、古画の鑑定などを行った。また屋敷に併設した画所において、全国から集めた 5、60 人を超える弟子を教育しており、ここから狩野芳崖や橋本雅邦、木村立岳ら明治期の日本画を牽引する人物を輩出している。本展示では、当館が収蔵する 5,000 件近い木挽町狩野家資料の一部を「記録と学習」というキーワードで紹介する。

平成館 企画展示室	東京国立博物館コレクションの保存と修理	3 年 3 月 23 日～4 月 18 日	9 件

＜主な作品＞
四季花鳥図巻、玄奘三蔵像、五彩人物文長方合子、突線紐 3 式銅鐸

本特集では、東京国立博物館が手がける保存と修理の成果をより分かりやすく紹介するため、近年に解体を含む根本的な修理を終えた絵画、考古、歴史資料、陶磁などさまざまな分野から、形態、技法が異なる作品を取り上げる。作品とともに修理過程で得られた情報もパネルなどを用いて公開し、博物館が担う文化財修理の役割を広く理解していただく。 本年度は、本格修理完了品として「四季花鳥図巻」「玄奘三蔵図」や「突線鈕 3 式銅鐸」など 9 件を展示した。なお本展は、元年度の特集展示が非常事態宣言を受けて開催できなかったため、総合文化展での展示が決まっていたものを除き、基本的に展示作品を踏襲し、新たに 2 件を加えたものである。

本館 14 室	おひなさまと日本の人形	3 年 2 月 23 日～3 月 21 日	105 件

＜主な作品＞
厨子棚 、黒棚、書棚 、三揃、古今雛 、享保雛、古式次郎左衛門雛、衣裳人形 吉弥、内裏雛（芥子雛、束帯・十二単姿）

3月3日は桃の節供。雛祭にちなんで恒例となった特集を行う。2年度は、前川冨士子氏寄贈の雛飾りと日比谷家伝来の古今雛を中心に展示する。特に前川氏寄贈の雛飾りは江戸時代の江戸で作られた細密雛道具の優品であり、江戸の雛文化の頂点を示す作品が一堂に展示される貴重な機会である。また天児・這子や立雛によって、雛人形の発展を概観するとともに、当館所蔵の衣裳人形の優品を展示することで、オリンピックイヤーでもあることから、日本の人形文化を海外にも発信するに相応しい内容としたい。これらの作品を通じ、繊細で美しく、そしてかわいらしいものを尊び、高い技術を駆使して作品を作り上げてきた日本の美意識を、華やかに楽しく伝えたい。

本館 14室・特別1・2室	鳥獣戯画展スピンオフ	3年3月23日～6月6日	47件（重美1件）

＜主な作品＞
藍釉兎、兎形香油壺、鳥獣戯画甲巻（摸本）、獣形帽額縮図

本特集は、平成館で開催される特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」（3年4月13日～5月31日）の関連企画である。鳥獣戯画は、抜群の人気をほこる絵巻でありながら、実のところ謎だらけである。主題は何か、誰が描いたのか、何のために描かれたのかという、基本的な問いについてはいまだ論争が続いている。そこで本特集では、この絵巻の中心的モチーフである動物に改めて注目した展示を行う。はじめに、動物が古今東西どのように表現されてきたかをたどり、そのかたちに込められた意味を探る（14室）。最も知名度の高い甲巻の動物が何をしているのか、どのような道具を持っているかを器物や絵巻を通して図解し（特別2室）、鳥獣戯画が成立する背景にあった作品群とそこから派生した作例を紹介（特別1室）することで、鳥獣戯画の魅力により深く、多角的に迫る。

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	**特別展「きもの KIMONO」**
会　　期	6月30日(火)～8月23日(日)　48日間
会　　場	東京国立博物館　平成館特別展会場
主　　催	東京国立博物館、朝日新聞社、テレビ朝日、文化庁、日本芸術文化振興会
協　　賛	タカラレーベン、竹中工務店、凸版印刷、トヨタ自動車
協　　力	神戸ファッション美術館
作品件数	294件
来館者数	91,830人(目標100,000人、達成率：91.83%)
入場料金	一般1,700円、大学生1,200円、高校生900円、中学生以下無料
アンケート結果　満足度	93.1%
担当研究員数	2名
展覧会の内容	日本の伝統衣装として知られる「きもの」が身分の差や老若男女を問わず人々の日常着として着られるようになった室町時代から現代までの歴史を、そのファッション性や日本独自の工芸としての視点でとらえ、着物を着用した人物を描いた絵画、マネキンに着付けた着装展示などを交えて、それぞれの時代の優品を中心に5章で構成し、展覧した。
講演会等	当初は当館の大講堂において国際シンポジウム「日本文化としての『きもの』を考える」の開催を予定していたが、新型コロナ感染予防のため、ギャラリートーク及び国際シンポジウムの動画配信をYouTubeで行った。

展覧会名	**特別展「工藝2020－自然と美のかたち－」**
会　　期	9月21日（月）～11月15日(日)(48日間)
会　　場	東京国立博物館　表慶館
主　　催	文化庁、日本芸術文化振興会、東京国立博物館、読売新聞社
特別協賛	キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協　　賛	清水建設、髙島屋、竹中工務店、三井住友銀行、三菱商事
協　　力	田島ルーフィング、竹尾、トキ・コーポレーション
会場構成	伊東豊雄建築設計事務所
作品件数	82件
来館者数	13,851人(目標50,000人、達成率36%)
入場料金	一般　1,500円、大学生　1,000円、高校生　600円
アンケート結果　満足度	78.4%
担当研究員数	1人
展覧会の内容	日本では、自然との共生による密接な精神的感性と固有の生命観が芽生えて我が国特有の工芸を発展させてきた。それは長い歴史と文化が形成されるなかで、変化に富む地形と四季折々の気候、そして豊かな風土に育まれた自然観を要因とすることが大きい。本展では、日本が世界に発信する芸術文化を牽引する現代の工芸作家82名による優れた近年の制作品を紹介する。
講演会等	特別展「工藝2020」オンライン国際シンポジウムの動画配信をYouTubeで行った。

展覧会名	**特別展「桃山―天下人の100年」**
会　　期	10月6日（火）～11月29日(日)(48日間)
会　　場	東京国立博物館　平成館
主　　催	東京国立博物館、読売新聞社、文化庁
特別協賛	キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス

協　　賛	清水建設、髙島屋、竹中工務店、三井住友銀行、三菱商事
作品件数	231件
来館者数	82,808人(目標120,000人、達成率69.0%)
入場料金	一般2,400円、大学生1,400円、高校生400円、中学生以下無料
アンケート結果　満足度	91.2%
担当研究員数	4人
展覧会の内容	安土桃山時代を中心に花開いた豪壮華麗な「桃山文化」を、室町時代末から江戸時代初期にかけての約100年間の美意識の変化に着目して7章に分け、絵画、書跡、武具、茶道具などの時代を代表する優品約230件の展示によって示した。
講演会等	なし

展覧会名	**特別展「日本のたてもの―自然素材を活かす伝統の技と知恵」**
会　　期	12月23日（水）～3年2月21日(日)(53日間)
会　　場	東京国立博物館　表慶館
主　　催	文化庁、日本芸術文化振興会、東京国立博物館、国立科学博物館、読売新聞社
特別協賛	キヤノン、JR東日本、日本たばこ産業、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協　　賛	清水建設、髙島屋、竹中工務店、三井住友銀行、三菱商事
協　　力	国立歴史民俗博物館、金沢工業大学
作品件数	19件
来館者数	20,447名（目標50,000人、達成率：40.9%）
入場料金	一般1,500円、大学生1,000円、高校生600円
アンケート結果　満足度	78.4%
担当研究員数	1名
展覧会の内容	本展は、木材・土・石など多様な自然素材を優れた造形物へ昇華させた日本の伝統建築のうち、その縮小表現によって高い美意識と加工技術を際立たせた「建築模型」に焦点をあて、自然素材を活かした造形的特徴を飛鳥時代から現代建築まで通史的に俯瞰するものである。
講演会等	なし

【京都国立博物館】

(1)平常展(名品ギャラリー)

①開館日数　183日(名品ギャラリー開館日数： 0日、特別展（西国）開館日数：47日、特別展（皇室）開館日数：39日、特別展（鑑真）開館日数：4日 、庭園のみ開館日数：93日)
②展示総件数　467件
③展示替件数　458件
④入場料金　一般700円、大学生350円　※庭園のみ開館時は一般300円
⑤特集展示等：全5件

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特別企画	文化財修理の最先端	12月19日～3年1月31日	54件(国宝6件、重要文化財29件)
新春特集展示	丑づくし―干支を愛でる―	12月19日～3年1月31日	15件（重要文化財2件）
特別企画	新聞人のまなざし―上野有竹と日中書画の名品―	3年2月2日～3月7日	50件（国宝4件、重要文化財11件、重要美術品2件）
特集展示	国宝「日本書記」と東アジアの古典籍	3年2月4日～2月28日	13件（国宝8件、重要文化財2件）
特集展示	雛まつりと人形	3年2月9日～3月7日	44件

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	**特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」**
会　　期	7月23日(木・祝)～9月13日(日)（47日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、西国三十三所札所会、読売新聞社
協　　賛	清水建設、非破壊検査
作品件数	170件（うち国宝12件、重要文化財45件）
来館者数	52,164人（目標来館者数70,000人・達成率74.5%）
入場料金	一般1,600円、大学生1,200円、高校生700円
アンケート結果　満足度	満足度82.7%
講演会等	・記念講演会 7月23日「西国巡礼　慈悲の道」講師：藤田浩哉氏（西国三十三所札所会 会長・今熊野観音寺 山主） 8月 8日「資料からみる西国三十三所」講師：羽田聡（京都国立博物館 美術室長兼列品管理室長） 8月22日「西国三十三所、観音めぐり」講師：淺湫毅（京都国立博物館 上席研究員） 8月29日「信仰の息づく霊地―那智山経塚出土の立体曼荼羅―」講師：末兼俊彦（京都国立博物館 主任研究員） 9月 5日「経典にみる観音菩薩」講師：上杉智英（京都国立博物館 研究員）

展覧会名	特別展「皇室の名宝」
会　　期	10月10日(土)～11月23日(日)（39日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、宮内庁、読売新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿
協　　賛	岩谷産業、きんでん、清水建設、大和ハウス工業、パナソニック、非破壊検査
作品件数	98件（うち国宝4件、重要文化財3件、重要美術品2件）
来館者数	85,315人（目標来館者数100,000人・達成率85.3%）
入場料金	一般1,800円、大学生1,200円、高校生700円
アンケート結果　満足度	満足度81.8%
講演会等	・記念講演会 10月10日「宮廷と日本文化―雅な文化、その継承のこころ―」講師：太田彩氏（宮内庁三の丸尚蔵館 首席研究官） 10月17日「皇室に伝わった絵巻の至宝―春日権現験記絵を中心に―」講師：井並林太郎（京都国立博物館 研究員） 10月24日「皇室を彩る絵画―旧桂宮家伝来品を中心に―」講師：福士雄也（京都国立博物館 主任研究員） 10月31日「宮内庁三の丸尚蔵館所蔵の書跡名品とその伝来―"禁裏御物"と諸家献上―」講師：髙梨真行氏（宮内庁三の丸尚蔵館 主任研究官） 11月 7日「伏見天皇と「屏風土代」―天皇の書風形成―」講師：羽田聡（京都国立博物館 美術室長兼列品管理室長） 11月14日「御所をめぐる色とかたち」講師：山川曉（京都国立博物館 工芸室長兼企画室長）

展覧会名	特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」
会　　期	3年3月27日(土)～5月16日(日)（44日間）
会　　場	平成知新館
主　　催	京都国立博物館、律宗総本山 唐招提寺、日本経済新聞社、京都新聞、NHK京都放送局
特別協力	華厳宗大本山 東大寺、真言宗泉涌寺派総本山 御寺 泉涌寺、真言律宗総本山 西大寺
協　　賛	岩谷産業、カシオ計算機、NISSHA、日本通運、三井不動産
作品件数	160件（うち国宝13件、重要文化財65件、重要美術品3件）
来館者数	3,696人（3月31日現在、目標来館者数50,000人）
入場料金	一般1,800円、大学生1,200円、高校生700円
講演会等	・記念講演会 3月27日「鑑真和上の教え」講師：西山明彦師（律宗管長、唐招提寺八十八世長老） 4月 3日「律とは何か」講師：上杉智英（京都国立博物館 研究員） 4月10日「日本の戒律運動と日本人」講師：大原嘉豊（京都国立博物館 保存修理指導室長） 4月17日「俊芿と宋代戒律の日本への影響」講師：西谷功氏（泉涌寺宝物館「心照殿」学芸員） 5月 8日「鑑真和上とゆかりのみ仏たち」講師：淺湫毅（京都国立博物館 上席研究員）

【奈良国立博物館】

(1)名品展（平常展）

①開館日数：263日(名品展のみの開館日数：190日)
②展示総件数：490件
③展示替件数：261件
④入場料金：一般　700円　大学生　350円　（3年1月19日～2月5日は、一般350円、大学生200円）
⑤特別陳列等：全120件
名品展
　珠玉の仏たち（なら仏像館）149件
　珠玉の仏教美術（西新館）206件
　特集展示「新たに修理された文化財」（西新館）11件
　中国古代青銅器（青銅器館）124件
※新型コロナウイルス蔓延防止策として、4月1日から6月1日まで臨時休館。

特別陳列

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特別陳列	おん祭と春日信仰の美術―特集　神鹿の造形―	12月8日～3年1月17日	46件（国宝2件、重要文化財4件）
特別陳列	お水取り	3年2月6日～3月21日	67件（重要文化財19件）
特別陳列	帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―	3年2月6日～3月21日	7件

(2)特別展、共催展等

展覧会名	御大典記念　特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」
会　　期	7月4日(土)～9月6日(日)（56日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	宮内庁正倉院事務所、奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局
学術協力	九州国立博物館
後　　援	奈良県教育委員会、奈良市教育委員会、日本工芸会
特別協賛	―
協　　賛	ダイキン工業、竹中工務店、ライブアートブックス
協　　力	日本香堂、仏教美術協会
作品件数	86件
来館者数	42,846人(目標来館者数 50,000人・達成率 85.7%)

入場料金	一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
アンケート結果　満足度	90.8%
担当研究員数	2名
展覧会の内容	明治時代以来製作された数百点におよぶ正倉院宝物の再現模造作品の中から、芸術性・学術性に優れた選りすぐりの一品を一堂に公開した。再現された天平の美と技に触れていただくとともに、日本の伝統技術を継承することの意義を紹介した。
講演会等	

展覧会名	**第72回正倉院展**
会　　期	10月24日（土）～11月9日（月）（17日間）
会　　場	奈良国立博物館　東新館・西新館
主　　催	奈良国立博物館
特別協賛	―
協　　賛	岩谷産業、NTT西日本、関西電気保安協会、近畿日本鉄道、JR東海、JR西日本、シオノギヘルスケア、ダイキン工業、大和ハウス工業、中西金属工業、丸一鋼管、大和農園
特別協力	読売新聞社
協　　力	NHK奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、読売テレビ
作品件数	59件
来館者数	36,344人(目標来館者数180,000人・達成率 20.2%)
入場料金	一般2,000円、中学・高校・大学生1,500円
アンケート結果　満足度	91.3%
担当研究員数	2名
展覧会の内容	8世紀の東アジア文化の至宝である正倉院宝物59件を公開する。
講演会等	○公開講座 2回　参加者数合計　258人 10月31日(土)「正倉院の石薬とその素材」鶴真美（宮内庁正倉院事務所保存課保存科学室員）/参加者数　141人 11月 7日(土)「武器・武具の献納と薬物の献納について」内藤栄（学芸部長）/ 参加者数　117人

【九州国立博物館】

(1)文化交流展（平常展）

①開館日数254日(うち平常展のみ開館日数206日)＊新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため臨時休館(4月1日～6月1日(62日間))、大雨のため（7月7日12時以降）、台風のため（9月2日15時以降、9月6日14時以降）臨時休館
②展示総件数：1,964件(うち国宝64件、重要文化財234件)
③展示替件数：1,671件
④入場料金：一般700円、大学生350円
⑤特集展示・特別公開等：全7件

展示名称	特集展示「きゅーはく　どうぶつえん」				
開催期間	6月2日(火)～ 7月12日(日)	開催場所	文化交流展示室 第3室、第11室	陳列件数（うち指定品件数）	84件（うち重文5件）
内容	九博所蔵品のなかから動物を表現した作品を一堂に公開した。				
展示名称	開館15周年記念特集展示　太宰府史跡指定100年記念「筑紫の神と仏」				
開催期間	6月2日(火)～ 8月30日(日)	開催場所	文化交流展示室 基本展示室2 テーマ、3 テーマ、第6室、第7室	陳列件数（うち指定品件数）	107件（うち国宝17件、重文4件）
内容	九州国立博物館開館15周年・大宰府史跡指定100年を記念し、発掘調査出土品や寺社に伝わる貴重な文化財を公開した。				
展示名称	開館15周年記念特集展示　奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵品巡回特別展「しきしまの大和へ － 奈良大発掘 －」				
開催期間	7月28日(火)～ 12月20日(日)	開催場所	文化交流展示室 第2室、第3室	陳列件数（うち指定品件数）	188件
内容	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館の所蔵品から、特に縄文～中世の出土資料の優品を公開した。				
展示名称	ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ～				
開催期間	9月8日(火)～ 11月23日(月・祝)	開催場所	文化交流展示室 第7室	陳列件数（うち指定品件数）	14件（うち重文1件）
内容	ユニバーサル・ミュージアムへの取り組みの一環として、実物展示に加えてレプリカや再現文化財を公開した。				
展示名称	開館15周年記念特集展示「織物に魅せられて―加賀前田家伝来の名物裂―」				
開催期間	12月1日(火)～ 3年1月24日(日)	開催場所	文化交流展示室 第9室	陳列件数（うち指定品件数）	34件
内容	九博所蔵の裂帖の修理完了にあたり、裂帖を中心に前田家に伝わった名物裂の数々を公開した。				
展示名称	新春特別公開　徳川美術館所蔵　国宝　初音の調度				
開催期間	3年1月1日(金・祝)～ 24日(日)	開催場所	文化交流展示室 第11室	陳列件数（うち指定品件数）	27件（うち国宝3件）
内容	徳川美術館に所蔵される国宝「初音の調度」のうち、貝桶、昆布箱、楊枝箱の3件と、婚礼行列を描いた絵巻や大揃いの婚礼調度も合わせて公開した。				
展示名称	特集展示「天神縁起の世界」				
開催期間	3年2月2日(火)～ 3月28日(日)	開催場所	文化交流展示室 第11室	陳列件数（うち指定品件数）	19件（うち重文4件）
内容	天神さまとして親しまれる菅原道真の生涯や北野天満宮の始まりなどを描いた天神縁起にまつわる作品を公開した。				

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	特別展「奈良・中宮寺の国宝」
会　　期	3年1月26日(火)～3月21日(日) (48日間)
会　　場	九州国立博物館　特別展示室
主　　催	中宮寺、九州国立博物館・福岡県、日本経済新聞社、西日本新聞社、テレQ
作品件数	16件(うち、国宝3件、重要文化財13件)
来館者数	50,432人(目標来館者数60,000人・達成率84.0%)
入場料金	一般1,800円、高大生1,200円、小中生800円
アンケート結果　満足度	89.2%
講演会等	

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

①開館日数：254日 （平常展のみの開館日数：180日）
②展示総件数：560件
③展示替回数：2回
④入場料金：無料
⑤平常展のみの来館者数：15,004人

(2)特別展、企画展等：５件

展覧会名	特別企画展「古代のいのり―疫病退散！」		
会　　期	6月16日（火）～7月19日（日）(30日間)	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	52件（0件）
来館者数	2,846人	入場料金	無料
講演会等	なし		

展覧会名	夏期企画展「奈良の都の考古学―発掘された平城2019/古代のいのり―疫病退散！」		
会　　期	7月23日（木・祝）～8月30日（日）(34日間)	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	104件（0件）
来館者数	3,968人	入場料金	無料
講演会等	なし		

展覧会名	秋期特別展「地下の正倉院展　―重要文化財　長屋王家木簡―」		
会　　期	10月10日（土）～11月23日（月・祝）（39日間）	会　場	平城宮跡資料館　企画展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	55件（重要文化財　47件）
来館者数	14,670人	入場料金	無料
講演会等	なし		

展覧会名	新春ミニ展示「平城京の丑」		
会　　期	3年1月5日（火）～1月31 日（日）（24日間）	会　場	平城宮跡資料館　出口ロビー
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	5件（0件）
来館者数	1,425人	入場料金	無料
講演会等	なし		

展覧会名	関連展示「鬼神乱舞―護る・祓う・鬼瓦の世界―」		
会　　期	3年1月23日（土）～3月28日（日）（64日間）	会　場	平城宮いざない館
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	46件（0件）
来館者数	31,530人	入場料金	無料
講演会等	2回		

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

①開館日数：265日　（新型コロナウイルスで6月1日まで閉館、6・7月は土・日・祝休館。電気工事のため3年2月23日～3月7日休館。）
②展示総件数：534件
③展示替回数：1回
④入場料金：無料
⑤特集陳列等　：3件
⑥平常展来館者数　：4,417人

名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
【特集陳列】		
飛鳥寺旧境内の調査（飛鳥藤原197-6次）	12月4日～12月28日	飛鳥寺所用軒瓦9点、鴟尾4点
藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第200次）	12月4日～12月28日	大極殿院出土軒瓦5点・軒平瓦3点
石神遺跡土坑SK1244･1245出土土器（石神遺跡第7次）	12月4日～12月28日	石神遺跡出土土器19点

【飛鳥資料館】

(1)平常展

①開館日数：252日（平常展のみの開館日数：118日）
②展示総件数：143件
③展示替回数：1回
④入場料金：一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料
⑤平常展のみの来館者数：4,967人

(2)特別展、企画展等：3件

展覧会名	**特別展「飛鳥の石造文化と石工」**		
会　　期	8月4日（火）～9月22日（火）（44日間）	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
主　　催	奈良文化財研究所	陳列件数（うち指定品数）	182点（2件）
来館者数	3,212人		
入場料金	一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料		
講演会			

展覧会名	**秋期企画展「第11回写真コンテスト作品展「飛鳥の祭」**	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
会　　期	10月16日（金）～ 12月6日（日）（45日間）	陳列件数（うち指定品数）	65件（0件）
主　　催	奈良文化財研究所		
来館者数	5,114人		
入場料金	一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料		
講演会			

展覧会名	**冬期企画展「飛鳥の考古学2020」**	会　場	飛鳥資料館　特別展示室
会　　期	3年1月22日（金）～3月14日（日）（45日間）	陳列件数（うち指定品数）	103件（0件）
主　　催	奈良文化財研究所		
来館者数	2,371人		
入場料金	一般350円　大学生200円　高校生及び18歳未満、70歳以上は無料		
講演会	―		

b ボランティア受入実績

1 受入人数

令和3年3月31日現在

国立文化財機構計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
961人	102人	239人	143人	325人	152人

2 活動内容

【東京国立博物館】 計102人

種別 （登録人数）	概 要
生涯学習ボランティア （102人）	1)各種教育普及事業の補助活動の充実を図る 新型コロナウイルスのへの影響を勘案し、来館者に対面での活動を休止 【教育普及事業の補助】 ・スクールプログラム「はじめての東博」のオンライン動画の視聴とアンケートを実施(1回) ・オンラインワークショップの事前トライアルへの参加（2回） ・オンラインギャラリートーク・オンライン講演会の視聴とアンケートを実施（1回） ・ボランティア執筆の投稿冊子を発行（8回） ・オンライン機器利用研修会（18回） ・自主的な学習による活動室利用（のべ388人） 【保存修復事業の補助（令和2年度は休止）】 【資料印刷・作成】 ・点字パンフレットの印刷（7冊） ・たんけんマップの作成・オンライン化準備 【職場体験実施活動補助】 対面での受け入れを中止したかわりに、オンライン等での職場インタビューを実施 受入数：1校 生徒数：3人 （中学、高校合計数） 【障がい者対応】 ・バリアフリー対応班の発足（29人） ・東京国立博物館紹介パンフレットの点訳版作成(7冊) ・盲学校のためのスクールプログラムの実施（1回） ・バリアフリー班への情報発信による研修（通年） 【ボランティアデー開催】 ボランティアデーの中止のかわりに、ボランティアの投稿による「誌上ボランティアデー」と自主企画グループの活動紹介冊子を発行した。 2)来館者参加型ガイドツアー 来館者に向けたツアーを中止したかわりに、各グループでの勉強会を実施（46回） 自主企画グループ勉強会（40回）・曜日グループ勉強会(6回) ホームページ内の「ライオン オンライン」でのオンライン動画「自主企画グループ活動紹介」の作成協力（1回）
東京藝術大学大学院インターンシップ （0人）	新型コロナウイルスの影響を勘案し、2年度の受け入れを中止した。 ※「東京藝術大学大学院インターンシップ」は、従前との比較のため、ボランティア数の内数として計上している。従前の「東京芸術大学学生ボランティア」を25年4月より名称変更し、現在は「1(3)① 3」大学との連携事業等の実施」の事業である。詳細は処理番号1313Aを参照。

【生涯学習ボランティアに対する研修の実施】 計25回
・基本活動関連研修 18回
・バリアフリー班研修 7回

【京都国立博物館】 計239人

種 別 （登録人数）	概 要
京博ナビゲーター（198人）	活動中の第2期京博ナビゲーターの任期は6月末までの予定であったが、新型コロナウイルスの影響により9月末まで延期した。ワークショップ等は実施できなかったが、『京博ナビゲーター活動記録 2014(平成26)～2020（令和2）年』に、72人が活動中のエピソードを投稿した。
調査・研究支援ボランティア(23人)	各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。
文化財ソムリエ(18人)	「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生が、当館研究員によるスクーリング（20回）を受けたのち、下記の活動で講師を務めた。 ・文化財に親しむ授業 6回・304人 ・記者体験in京都国立博物館 1回・135人

【奈良国立博物館】　計143人

種　別　(登録人数)	概　　要
世界遺産グループ(43人)	【動画の制作】 なら仏像館に展示されている作品の見どころを紹介する動画（子ども対象）　1本 【ワークシートの制作】 以下4種のテーマのワークシートの制作 ・「奈良国立博物館の歴史と建物の魅力」（子ども対象）　1部 ・「仏像の見方」（子ども対象）　1部 ・「仏像の造り方と材質」（子ども対象）　1部 ・「おうちで楽しむ ならはく工作キット」1部
解説グループ(54人)	【動画の制作】 なら仏像館に展示されている作品の見どころを紹介する動画（大人対象）　2本 【ワークシートの制作】 以下5種のテーマのワークシートの制作 ・「奈良国立博物館の歴史と建物の魅力」（大人対象）　1部 ・「仏像の造り方と材質」（大人対象）　1部 ・「仏像の時代変遷」（大人対象）　1部 ・「青銅器の種類と文様」（大人対象）　1部 ・「特別陳列 お水取り」（大人対象）　1部
サポートグループ（46人）	【動画の制作】 当館の敷地内にある庭園・茶室の見どころを紹介する動画（大人対象）　1本 【ワークシートの制作】 以下2種のテーマのワークシートの制作 ・「奈良国立博物館の全体案内MAP」（大人対象）　1部 ・「庭園の魅力案内MAP」（大人対象）　1部 【ボランティア通信誌の制作】 ・奈良国立博物館内で配布するボランティア通信誌『ブリッジ』　1部

【ボランティアに対する研修の実施】
・特別展の研修　1回（Teams利用）
【グループ活動進捗報告会の実施】計44回
・世界遺産グループ　　14回
・解説グループ　　19回
・サポートグループ　　11回

【九州国立博物館】　計325人（第6期登録予定者198人を含む）

種　別　(登録人数)	概　　要
展示解説ボランティア(65人)	文化交流展示室内及び展示室入口において来館者の質問や案内依頼等に対応。 予約団体(一般・学校)、当日受付(個人・グループ)に対応。
教育普及ボランティア(39人)	体験型展示室「あじっぱ」で来館者への対応。参加体験型のものづくり教室などを企画・実施。 来館者と展示物を介して交流し、体験を通してアジアの文化を伝える。
館内案内日本語ボランティア(42人)	館内の施設案内(ガイド)およびバックヤードツアーの案内。 予約団体(一般・学校)、及び当日来館者に対応。 バックヤードツアーは毎週火・金曜は予約団体のみ、日曜は当日受付で実施。
館内案内外国語ボランティア(63人)	英語・韓国語・中国語での施設案内(ガイド)及びバックヤードツアーの案内。
環境ボランティア(29人)	IPM(総合的有害生物管理)活動に関する支援。
資料整理ボランティア(9人)	郷土人形(土人形)の調書の作成・データ化。 あじぎゃらでの郷土人形の企画展示。
イベント・サポートボランティア(10人)	ボランティア主催イベントや他館ボランティアとの交流の企画・立案・実施。 ボランティア広報紙の作成（年4回）。
学生ボランティア(21人)	高校生・大学生による子供向けイベントの企画・実施。 他館学生ボランティアとの連携。
フィールドボランティア（20人）	博物館周辺の自然環境（山林及び水辺、遊歩道）の保全。
手話ボランティアグループ（27人）	地域のボランティアグループにより構成。聴覚障がいのある来館者の対応。

・この他博物館周辺の環境整備グループとして35人が活動（NPO法人「九州国立博物館を愛する会」所属のためボランティアには含まない）。
・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から2年度のボランティアの活動は休止している。

【奈良文化財研究所】　計152人

種　別　（登録人数）	概　　要
解説ボランティア（152人）	平城宮跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説

・各種ボランティアに対する学習会等

平城宮跡資料館企画展・特別展の展示研修　0回

解説ボランティア向け現地説明会　0回

解説ボランティア勉強会　0回

※新型コロナウイルスの影響により、対面での研修会等は中止せざるを得なかったが、代替策として展示解説資料等を各ボランティアに送付し各人の独習による形で研修を実施した。

c 調査研究

c-① 研究交流実績一覧

1) 海外研究者招聘・受入実績（延べ人数）

令和3年3月31日現在

<table>
<tr><td rowspan="6">国立文化財機構合計</td><td>博物館計</td><td>東京国立博物館</td><td>京都国立博物館</td><td>奈良国立博物館</td><td>九州国立博物館</td></tr>
<tr><td>0人</td><td>0人</td><td>0人</td><td>0人</td><td>0人</td></tr>
<tr><td>文化財研究所計</td><td colspan="2">東京文化財研究所</td><td colspan="2">奈良文化財研究所</td></tr>
<tr><td>0人</td><td colspan="2">0人</td><td colspan="2">0人</td></tr>
<tr><td colspan="2">アジア太平洋無形文化遺産研究センター</td><td colspan="2">本部文化財活用センター</td><td>本部文化財防災センター</td></tr>
<tr><td colspan="2">0人</td><td colspan="2">0人</td><td>0人</td></tr>
<tr><td colspan="6">0人</td></tr>
</table>

【本部文化財活用センター】　0人

【本部文化財防災センター】　0人

【東京国立博物館】　0人

【京都国立博物館】　0人

【奈良国立博物館】　0人

【九州国立博物館】　0人

【東京文化財研究所】0人

【奈良文化財研究所】0人

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0人

2）他機関の共同研究への参画実績

科学研究費助成事業の研究分担者等として参画（延べ人数）

令和3年3月31日現在

<table>
<tr><th rowspan="2">国立文化財機構合計</th><th>博物館計</th><th>東京国立博物館</th><th>京都国立博物館</th><th>奈良国立博物館</th><th>九州国立博物館</th></tr>
<tr><td>63 人</td><td>28人</td><td>15人</td><td>9人</td><td>11人</td></tr>
<tr><td rowspan="3">143人</td><td>文化財研究所計</td><td colspan="2">東京文化財研究所</td><td colspan="2">奈良文化財研究所</td></tr>
<tr><td>80 人</td><td colspan="2">29人</td><td colspan="2">51人</td></tr>
<tr><td colspan="2">アジア太平洋無形文化遺産研究センター</td></tr>
<tr><td colspan="2">0 人</td></tr>
</table>

【東京国立博物館】延べ　28人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	大阪大学教授　藤岡穣	列品管理課平常展調整室長　皿井舞
2	九州国立博物館	中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究	九州国立博物館副館長　富田淳	企画課出版企画室研究員　植松瑞希
3	九州国立博物館	中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究	九州国立博物館副館長　富田淳	列品管理課登録室　六人部克典
4	九州国立博物館	アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用	町田市立博物館長・愛知県立陶磁美術館総長　伊藤嘉章	調査研究課長　河野一隆
5	九州国立博物館	公武の信仰を統合した足利将軍家の宗教政策からみる室町時代の宗教絵画の包括的研究	九州国立博物館主任研究員　畑靖紀	調査研究課絵画・彫刻室研究員　古川攝一
6	九州国立博物館	平成３１年度基盤研究（Ｂ）「公武の信仰を統合した足利将軍家の宗教政策からみる室町時代の宗教絵画の包括的研究」（19113559、2019年度～2021年度）	九州国立博物館主任研究員　畑靖紀	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂
7	慶應義塾大学	挑戦的研究(萌芽)「博物館の新たな在り方を模索するための体験学習・ワークショップ評価の構築」	慶應義塾大学特任講師　鳥谷真佐子	博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之
8	公益財団法人古代学協会	弥生時代高地性集落の列島的再検証	公益財団法人古代学協会客員研究員　森岡秀人	企画課特別展室研究員　山本亮
9	国立歴史民俗博物館	研究プロジェクト「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」	国立歴史民俗博物館長　西谷大	博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之
10	筑波大学	恒久的保存に向けた災害被災資料の特性解明と保存環境の構築	筑波大学教授　松井敏也	保存修復課環境保存室長　和田浩
11	筑波大学	平成３１年度基盤研究（Ｂ）「「儒教美術史」構築のための発展的研究―東アジア文化圏の構造解釈と研究資源化」（19090313、2019年度～2023年度）	筑波大学芸術学系助教　水野裕史	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂
12	筑波大学	平成３１年度基盤研究（Ｂ）「「儒教美術史」構築のための発展的研究―東アジア文化圏の構造解釈と研究資源化」（19090313、2019年度～2023年度）	筑波大学芸術学系助教　水野裕史	調査研究課東洋室長　勝木言一郎
13	天理大学	日本学術振興会、科学研究費助成事業・基盤研究（B）「地中海東岸地域における青銅器・鉄器時代移行期の再検討」	天理大学文学部教授　桑原久男	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造
14	東京藝術大学	基盤研究(C)美術解剖学教育の交流と展開 ―独、UK、USA、NZの教育・研究の比較を通して	東京藝術大学美術学部 助教　宮永美知代	上席研究員　木下史青
15	東京工業大学	基盤研究(B)「片山東熊と宮内省内匠寮の日本近代建築発展に果たした役割－明治宮廷建築の研究－」（18H01615）	東京工業大学環境・社会理工学院特任准教授　平賀あまな	企画課デザイン室長　矢野賀一
16	東京女子大学	平安時代における「国風」的文化現象についての学際的研究	東京女子大学教授　佐藤全敏	列品管理課平常展調整室長　皿井舞
17	東京大学	西洋中世における境界地域の統治システムに関する比較史的研究	東京大学大学院人文社会系研究科(文学部)教授　高山 博	企画課特別展室アソシエイトフェロー　村松綾
18	東京大学	基盤研究（A）「コンテキストに応じた人文科学データパッケージ化に関する研究」	東京大学史料編纂所教授　山家浩樹	博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之
19	東京大学史料編纂所	東博所蔵写真史料（高精細データ）の解析	東京大学史料編纂所長　保谷徹	博物館情報課情報資料室主任研究員　遠藤楽子

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
20	東京大学史料編纂所	摂関家伝来史料群の研究資源化と伝統的公家文化の総合的研究	東京大学史料編纂所教授　尾上陽介	百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
21	名古屋大学	中世拠点寺院の蔵書と美術に基づく人と知のネットワーク解明	名古屋大学教授　近本謙介	保存修復課保存修復室長　瀬谷愛
22	奈良文化財研究所	埴輪の生産・流通体制の総合的検証にもとづく王権中枢部巨大古墳群造営過程の解明	奈良文化財研究所都城発掘調査部主任研究員　廣瀬覚	企画課特別展室研究員　山本亮
23	奈良国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	奈良国立博物館長　松本伸之	保存修復課環境保存室長　和田浩
24	立教大学	日本学術振興会、二国間交流事業「王国から行政州へ　―鉄器時代からペルシア時代のイスラエル北部の考古学的研究」	立教大学文学部教授　長谷川修一	列品管理課平常展調整室研究員　小野塚拓造
25	早稲田大学	特別テーマ研究「新型コロナウイルス感染症の影響下における日本演劇界の調査研究」	早稲田大学演劇博物館助教　後藤隆基	博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之
26	埼玉大学	基盤研究（B）（一般）初期遊牧社会における社会複雑化とユーラシア東西交易路の復元に関する包括的研究	埼玉大学人文社会科学研究科准教授　中村大介	客員研究員　高濱秀
27	京都大学人文科学研究所	共同研究（課題公募班〔一般Ａ班〕）「見えるもの」や「見えないもの」に関わる東アジアの文物や芸術についての学際的な研究	班長：ヴュルツブルク大学教授　外村中	調査研究課工芸室主任研究員　清水健
28	東京文化財研究所	基盤研究（Ａ）アジア螺鈿文化交流史の構築―物質文化史の視点から	東京文化財研究所文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	企画課特別展室長　猪熊兼樹

【京都国立博物館】延べ　15人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	奈良国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長　松本伸之	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
2	奈良県立橿原考古学研究所	三次元デジタル・アーカイブを活用した青銅器製作技術解明の総合的研究	企画部資料課係長　水野敏典	研究員　古谷毅
3	東京国立博物館	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	学芸研究部長　田沢裕賀	学芸部保存修理指導室主任研究員 福士雄也
4	東京国立博物館	失われた古代・中世絵巻の復元的研究-作品伝来情報の検討から-	学芸企画部主任研究員　土屋貴裕	学芸部企画室研究員 井並林太郎
5	大阪大谷大学	新義真言系聖教の形成と教学的交流に関する基礎的研究	文学部教授　宇都宮啓吾	学芸部美術室長　羽田聡
6	奈良文化財研究所	古代都城から出土する製塩土器の生産地推定	都城発掘調査部室長　神野恵	学芸部長　尾野善裕
7	名古屋大学	古代における谷底平野および周辺丘陵部の開発と宗教施設の展開に関する研究	人文学研究科准教授　梶原義実	学芸部長　尾野善裕
8	奈良文化財研究所	蛍光Ｘ線分析と鉱物組成分析による大和の古代寺院・宮都出土瓦の生産・供給体制の研究	都城発掘調査部副部長　清野孝之	学芸部保存科学室長　降幡順子
9	国際仏教学大学院大学	「奈良朝勅定一切経」の総合的研究ー漢文仏教テクストの資料的基盤の再構築に向けて	仏教学研究科教授　落合俊典	学芸部美術室研究員　上杉智英
10	東京文化財研究所	アジア螺鈿文化交流史の構築―物質文化史の視点から	文化財情報資料部室長　小林公治	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
11	国際仏教学大学院大学	日本現存宋版大蔵経の基礎的研究とその受容・展開に関する総合的な研究	日本古写経研究所研究員　牧野和夫	学芸部美術室研究員　上杉智英
12	東北学院大学	平泉仏教文化の諸相とその社会的基盤に関する資料学的研究	文学部教授　七海雅人	学芸部美術室研究員　上杉智英
13	東京文化財研究所	白鳳時代の壁画の構造と材料に関する研究	保存科学研究センター室長 犬塚将英	学芸部保存科学室長　降幡　順子
14	早稲田大学	中世仏教美術における霊性の発生と継承に関する基礎的研究	文学学術院教授　山本聡美	学芸部企画室研究員 井並林太郎
15	東京国立博物館	仏教儀礼的観点に基づく明兆作品の総合的研究	学芸研究部研究員　高橋真作	学芸部美術室研究員　森道彦

【奈良国立博物館】延べ　9人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	九州大学	唐絵の中の朝鮮絵画－半島由来絵画の越境移動と受容史に関する包括的研究－	教授　井手誠之輔	教育室長　谷口耕生
2	九州大学	唐絵の中の朝鮮絵画－半島由来絵画の越境移動と受容史に関する包括的研究－	教授　井手誠之輔	情報サービス室主任研究員 北澤菜月
3	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	教授　藤岡譲	特任研究員　岩田茂樹
4	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	教授　藤岡譲	保存修理指導室長　鳥越俊行
5	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	教授　藤岡譲	企画室主任研究員　山口隆介
6	奈良大学	古代～中世の「鎰石」と「真鍮」の研究－金に等しい価値があったころ－	名誉教授　西山要一	資料室長　野尻忠
7	東京文化財研究所	アジア螺鈿文化交流史の構築-物質文化史の視点から-	室長　小林公治	保存修理指導室長　鳥越俊行
8	島根大学	器物の「伝世・長期保有」・「復古再生」の実証的研究と倭における王権の形成・維持	准教授　岩本崇	企画室長　吉澤　悟
9	北九州市立自然史・歴史博物館	藕糸織の基礎的研究－非破壊調査による藕糸織の再検討を中心に－	学芸員　富岡優子	情報サービス室主任研究員 北澤菜月

【九州国立博物館】　延べ　11人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	奈良大学	古代～中世の「鎰石」と「真鍮」の研究―金に等しい価値があったころ―	名誉教授　西山要一	学芸部企画課特別展室研究員 望月規史
2	東京大学史料編纂所	摂関家伝来史料群の研究資源化と伝統的公家文化の総合的研究	教授　尾上陽介	館長　島谷弘幸
3	奈良国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長　松本伸之	学芸部長　小泉惠英
4	東京国立博物館	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	学芸企画部長　田沢裕賀	学芸部文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀
5	国立民族学博物館	博物館における持続可能な資料管理よび環境整備－保存科学の視点から	人類基礎理論研究部教授 園田直子	学芸部博物館科学課長（兼）環境保全室長　木川りか
6	大阪大学	地方基幹寺院に於ける文献資料調査と経蔵ネットワークの研究	文学研究科招へい研究員 中山一麿	学芸部文化財課資料登録室長 森實久美子
7	九州大学	唐絵の中の朝鮮絵画―半島由来絵画の越境移動と受容史にかんする包括的研究―	人文科学研究院教授 井手誠之輔	学芸部文化財課資料登録室長 森實久美子
8	同上	同上	同上	学芸部文化財課資料管理室主任研究員　畑靖紀
9	東京外国語大学	東南アジア「古代史」の下限としての14・15世紀に関する地域・分野横断的研究	総合国際学研究院教授 青山亨	学芸部文化財課長　原田あゆみ
10	奈良県立橿原考古学研究所	日本における初期王陵の実態解明－「国産化という産業革命」の視点から－	副所長　岡林孝作	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
11	奈良国立博物館	明治時代の文化財保護法制と帝国博物館の成立に関する総合的研究	学芸部情報サービス室長 宮崎幹子	学芸部文化財課資料管理室アソシエイトフェロー　樋笠逸人

【東京文化財研究所】延べ　29人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	筑波大学	アンコール遺跡群における石材劣化の新展開とその集学的研究	芸術系　教授　松井　敏也	保存科学研究センター　客員研究員 片山　葉子
2	筑波大学	恒久的保存に向けた災害被災資料の特性解明と保存環境の構築	芸術系　教授　松井　敏也	保存科学研究センター　客員研究員 片山　葉子
3	東京国立博物館	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	学芸研究部絵画・彫刻室　主任研究員　皿井　舞	保存科学研究センター　センター長 早川　泰弘
4	東京国立博物館	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	学芸研究部絵画・彫刻室　主任研究員　皿井　舞	文化財情報資料部　専門職員　城野誠治
5	京都大学	歴史的組積造建物及び遺跡の塩類風化メカニズム解明と予防的保存対策の開発	工学研究科　教授　小椋　大輔	保存科学研究センター　保存環境研究室研究員　水谷　悦子
6	千葉大学	デザイン実装を目的とした歴史的人工物に集積されるアイデア・工夫のモジュール化	大学院工学研究院　教授　久保光徳	無形文化遺産部　主任研究員　今石みぎわ
7	奈良大学	古代～中世の「鎰石」と「真鍮」の研究―金に等しい価値があったころ―	名誉教授　西山　要一	保存科学研究センター　センター長 早川　泰弘
8	九州国立博物館	アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用	客員研究員　伊藤　嘉章	保存科学研究センター　修復材料研究室長　早川　典子
9	徳島大学	伊能図の成立過程に関する学際的研究－忠敬没後200年目の地図学史的検証－	大学院社会産業理工学研究部 非常勤講師　平井　松午	保存科学研究センター　センター長 早川　泰弘

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
10	大阪大学	美術市場とその国際化に関する制度論的、交流史的研究。西洋から日本・アジアへの展開	文学研究科　教授　園府寺　司	文化財情報資料部　主任研究員 安永　拓世
11	東海大学	天文学との連携にもとづく考古学・古代史学研究法の構築	文学部　教授　北條 芳隆	無形文化遺産部　音声映像記録研究室長　石村　智
12	愛知県立芸術大学	膠を中心とする伝統的材料の持続性に関する調査研究および研究ネットワーク形成	美術学部　教授　北田　克己	保存科学研究センター　修復材料研究室長　早川　典子
13	愛知県立芸術大学	膠を中心とする伝統的材料の持続性に関する調査研究および研究ネットワーク形成	美術学部　教授　北田　克己	保存科学研究センター　客員研究員 宇高　健太郎
14	早稲田大学	デジタル･アーカイブを活用した最盛期義太夫節浄瑠璃作品の総合的研究	坪内博士記念演劇博物館　名誉教授　鳥越 文蔵	特任研究員　飯島　満
15	大谷大学	モンゴルの世界遺産ブルカン･カルドゥン山に関する歴史文献学及び文化遺産学的研究	社会学部　教授　松川　節	文化財情報資料部　文化財情報研究室長　二神　葉子
16	龍谷大学	文化財建造物の伝統的塗装彩色材料・技術の系譜解明と修理施工・資料活用に関する研究	文学部　教授　北野　信彦	保存科学研究センター　保存環境研究室　吉田　直人
17	東京国立博物館	失われた古代･中世絵巻の復原的研究―作品伝来情報の検討から―	学芸企画部企画課　主任研究員 土屋　貴裕	文化財情報資料部　主任研究員 安永　拓世
18	東海大学	「模する」技術の発展と伝統的習俗の変容についての学際的研究	工学部　助教　野口　直人	無形文化遺産部　主任研究員 今石　みぎわ
19	早稲田大学	ネクロポリス・テーベにおける岩窟墓のライフ・ヒストリー	文学学術院　教授　近藤　二郎	文化遺産国際協力センター　研究員 前川　佳文
20	天理大学	地中海東岸地域における青銅器・鉄器時代移行期の再検討	文学部　教授　桑原　久男	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー　間舎　裕生
21	金沢大学	中東部族社会の起源:アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究	国際文化資源学研究センター 特任教授　藤井 純夫	文化遺産国際協力センター　研究員 安倍　雅史
22	岡山大学	心・身体・社会をつなぐアート/技術	社会文化科学研究科　教授　松本 直子	無形文化遺産部　音声映像記録研究室長　石村　智
23	日本女子大学	長唄の旋律形成に関する学際的研究	文学部　学術研究員　配川　美加	特任研究員　高桑　いづみ
24	日本女子大学	長唄の旋律形成に関する学際的研究	文学部　学術研究員　配川　美加	無形文化遺産部　客員研究員 星野　厚子
25	九州国立博物館	ガラス外壁を有する博物館建造物における衝突野鳥の傾向分析と適合する対策の検討	学芸部博物館科学課　課長　木川　りか	保存科学研究センター　保存環境研究室長　秋山　純子
26	東京藝術大学	絹本著色絵画の技法史的展開に関する研究	社会連携センター　専門研究員 京都　絵美	保存科学研究センター　修復材料研究室長　早川　典子
27	東京農工大学	真菌類が硫化カルボニル代謝により気体状硫黄を固定する生理的意義と代謝経路の解明	(連合)農学研究科(研究院)　教授　吉田　誠	保存科学研究センター　客員研究員 片山　葉子
28	総合地球環境学研究所	オマーン南部海港都市の着尺な社会環境下にあるリビングヘリテージの復興と継承	研究基盤国際センター　准教授 近藤　康久	無形文化遺産部　音声映像記録研究室長　石村　智
29	九州大学	文化遺産保護の統合的ガバナンス方法論開発のための国際共同研究　（日本学術振興会　課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業）	大学院法学研究院　教授　河野俊行	文化財情報資料部　文化財情報研究室長　二神　葉子 文化遺産国際協力センター　国際情報研究室長　西　和彦 同　アソシエイトフェロー 境野　飛鳥

【奈良文化財研究所】延べ　51人

○科学研究費補助金　延べ　39人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	東京大学	天皇家・公家文庫収蔵資料の高度利用化と日本目録学の進展―知の体系の構造伝来の解明	教授 田島　公	都城発掘調査部史料研究室長　馬場　基
2	琉球大学	蒙古襲来沈没船の保存・活用に関する学際研究	教授 池田　栄史	副所長　高妻　洋成
3	琉球大学	蒙古襲来沈没船の保存・活用に関する学際研究	教授 池田　栄史	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員　柳田　明進
4	愛媛大学	4カ国アルタイ地域を対象とした初期鉄器時代の鉄器生産に関する実証的研究	教授 村上　恭通	都城発掘調査部主任研究員　丹羽　崇史
5	東京大学	統合史資料画像データの生成と駆動方式の確立による人文科学研究基盤の創出	准教授 山田　太造	都城発掘調査部史料研究室長　馬場　基
6	東京都立大学	考古学・人類学・文化財科学の学際的研究による縄文社会論の再構築	教授 山田　康弘	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長　山崎　健
7	東京大学	ホモ・サピエンス躍進の初源史：東アジアにおける海用進出のはじまりを探る総合的研究	教授 海部　陽介	都城発掘調査部主任研究員　森先　一貴
8	京都大学	古代・中世東西回廊－東南アジア大陸部交流網の歴史的動態）	研究員 柴山　守	企画調整部国際遺跡研究室専門職　佐藤　由似
9	東京大学	デジタル技術による金石文史料の研究資源化と学融合的歴史叙述への応用研究	准教授 菊地　大樹	埋蔵文化財センター遺跡･調査技術研究室アソシエイトフェロー　上椙　英之
10	東京大学	筆跡・花押情報の高度利活用研究―収集スキームの錬成と関連歴史情報との統合による―	教授 末柄　豊	都城発掘調査部主任研究員　桑田　訓也
11	国際仏教学大学院大学	「奈良朝勅定一切経」の総合的研究ー漢文仏教テクストの資料的基盤の再構築に向けて	教授 落合　俊典	都城発掘調査部客員研究員　杉本　一樹
12	近畿大学	東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較史的研究	教授 網　伸也	都城発掘調査部主任研究員　小田　裕樹
13	東京医療保健大学	東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病	教授 三舟　隆之	都城発掘調査部史料研究室長　馬場　基
14	東京医療保健大学	東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病	教授 三舟　隆之	都城発掘調査部主任研究員　小田　裕樹
15	東京医療保健大学	東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病	教授 三舟　隆之	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長　山崎　健
16	東京医療保健大学	東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病	教授 三舟　隆之	都城発掘調査部主任研究員　森川　実
17	東京医療保健大学	東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病	教授 三舟　隆之	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田　慎矢
18	東京大学	コンテキストに応じた人文科学データパッケージ化に関する研究	教授 山家　浩樹	都城発掘調査部史料研究室長　馬場　基
19	東北大学	石材構築文化財の保全のための３次元デジタルアーカイブの標準化の研究	教授 藤澤　敦	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長　金田　明大
20	帝京大学	牛馬文化の渡来と変容過程の解明による新たな列島史像の構築	准教授 植月　学	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田　慎矢
21	埼玉大学	初期遊牧社会における社会複雑化とユーラシア東西交易路の復原に関する包括的研究	准教授 中村　大介	都城発掘調査部主任研究員　田村　朋美
22	京都大学大学院	歴史的組積造建物及び遺跡の塩類風化メカニズム解明と予防的保存対策の開発	教授 小椋　大輔	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長　脇谷　草一郎
23	鹿児島大学	小規模島嶼群における文化適応と潜在性の考古学的研究	助教 新里　貴之	企画調整部国際遺跡研究室長　庄田　慎矢
24	東京大学	古代東アジアにおける建築技術体系・技術伝播の解明と日本建築の特質	准教授 海野　聡	都城発掘調査部遺構研究室アソシエイトフェロー　李　暉
25	岩手大学	複数遺跡関連性調査のための石器接合資料生成自動化と接合手順可視化手法の確立	教授 今野　晃市	埋蔵文化財センター客員研究員　野口　淳
26	大谷大学	モンゴルの世界遺産ブルカン・カルドゥン山に関する歴史文献学及び文化遺産学的研究	教授 松川　節	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員　山口　欧志
27	京都大学	「消滅」首長墳の再評価による古墳時代研究資料の基盤整備	助教 阪口　英毅	都城発掘調査部主任研究員　廣瀬　覚
28	東海大学	東南アジア港市の船体考古資料調査と保存研究	講師 木村　淳	副所長　高妻　洋成
29	九州歴史資料館	船原古墳からみた古墳副葬有機物製品の立体的復元研究	研究員 加藤　和歳	都城発掘調査部考古第一研究室アソシエイトフェロー　片山　健太郎
30	三重大学	日本古代の都市造営をめぐる土木技術史的研究	教授 小澤　毅	都城発掘調査部考古第三研究室長　今井　晃樹
31	三重大学	日本古代の都市造営をめぐる土木技術史的研究	教授 小澤　毅	都城発掘調査部主任研究員　石田　由紀子
32	京都橘大学	日本古代土器の複眼的編年検証に基づく通時代的特質の解明	准教授 中久保　辰夫	都城発掘調査部主任研究員　小田　裕樹
33	東北大学	中世禅院を拠点に流通した建築の形態・空間・技法に関する学際的・対外交渉史的研究	准教授 野村　俊一	都城発掘調査部主任研究員　鈴木　智大
34	東北大学	新たな長期年輪幅標準年輪曲線ネットワークの構築とそのオープンアクセス化	助教 野村　俊一	埋蔵文化財センター年代学研究室長　星野　安治
35	金沢大学	高句麗・渤海を東部ユーラシア史に位置づけるための基礎的研究	教授 古畑　徹	埋蔵文化財センター客員研究員　中村　亜希子
36	独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所	白鳳時代の壁画の構造と材料に関する研究	分析科学研究室長 犬塚　将英	副所長　高妻　洋成

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
37	金沢大学	中国文明起源解明の新・考古学イニシアティブ	教授 中村　慎一	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田　慎矢
38	東京大学	アジアにおけるホモ・サピエンス定着プロセスの地理的編年的枠組み構築	教授 西秋　良宏	企画調整部長 加藤　真二
39	南山大学	三次元データベースと数理解析・モデル構築による分野統合的研究の促進	准教授 中尾　央	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長　金田　明大

○学術研究助成基金助成金　延べ　12人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	大阪大学	東部モンゴル新発見の突厥・ウイグル期の定住遺跡に関する歴史・考古学的調査研究	教授 大澤　孝	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員　山口　欧志
2	奈良大学	3Dデータを利用した東アジアにおける文化遺産の保存と活用	教授 今津　節生	副所長　高妻　洋成
3	帝塚山学院大学	災害伝承を活用した災害復興と持続可能性に関する研究	教授 安田　政彦	埋蔵文化財センター遺跡･調査技術研究室アソシエイトフェロー 上椙　英之
4	早稲田大学	衛星画像のGIS分析による隋唐都城とシルクロード都市の空間構造の比較考古学的研究	教授 城倉　正祥	都城発掘調査部考古第二研究室 研究員　山藤　正敏
5	奈良女子大学	玉類の流通からみた威信財システム脱却過程に関する考古科学的研究	特任講師 大賀　克彦	都城発掘調査部主任研究員 田村　朋美
6	京都府立大学	山口県域の銅生産・銅銭鋳造関係古代出土文字資料を用いた政治・社会的地域特質の解明	特任准教授 竹内　亮	都城発掘調査部上席研究員 山本　崇
7	金沢大学	ロシア沿海地方における渤海（６９８～９２６年）遺跡出土遺物編年の基礎的研究	客員教授 小嶋　芳孝	埋蔵文化財センター客員研究員 中村　亜希子
8	独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館	御室仁清窯跡出土陶片の科学的特徴－野々村仁清が受容した生産技術と陶工必用－	室長 降幡　順子	文化遺産部歴史研究室長 吉川　聡
9	鹿児島国際大学	超・高密度三次元発掘記録法（悉皆的3D発掘）の開拓と展開を目指す実践的研究	教授 中園　聡	埋蔵文化財センター客員研究員 平川　ひろみ
10	近畿大学	X線CTを用いた多孔質材料内部の歪の分布測定と熱＆水分移動・応力・歪連成解析	准教授 安福　勝	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長　脇谷　草一郎
11	慶應義塾大学	博物館の新たな在り方を模索するための体験学習・ワークショップ評価の構築	特任講師 鳥谷　真佐子	埋蔵文化財センター客員研究員 野口　淳
12	大阪市立自然史博物館	自然史系文化財を社会の中で維持・保全できるか？次世代ネットワーク管理の模索	課長代理 佐久間　大輔	埋蔵文化財センター客員研究員 松崎　哲也

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ　0人

3）研究者海外派遣実績（延べ人数）

令和3年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
1人	1 人	0人	0人	1人	0人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	0 人	0人		0人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	本部文化財活用センター		本部文化財防災センター	
	0 人	0 人		0 人	

【本部文化財活用センター】延べ　0人

【本部文化財防災センター】延べ　0 人

【東京国立博物館】延べ　0人（科学研究費助成事業を除く）
（参考：科学研究費助成事業を含む合計人数は0人）

【京都国立博物館】延べ　0人

【奈良国立博物館】延べ　1人

・その他の調査等のための海外渡航実績

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	野尻　忠	中国	9月19日～10月12日	上海博物館「鑑真和上と唐招提寺東山魁夷作品」展出陳文化財の点検・梱包・輸送	他機関負担	上海博物館

【九州国立博物館】延べ　0人

【東京文化財研究所】延べ　0人

【奈良文化財研究所】延べ　0人

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ　0人

c-② 調査研究テーマ一覧

令和3年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
148 件	70 件	25 件	12 件	15 件	18 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	75 件	22 件	53 件	0 件	
	本部文化財活用センター・東京国立博物館		アジア太平洋無形文化遺産研究センター		
	2 件		1 件		

【本部文化財活用センター・東京国立博物館】　2件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究	文化財活用センター	副センター長　小林牧

○その他有形文化財に関連する調査研究　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	文化財活用センター	保存担当室長　吉田直人

【東京国立博物館】　25件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　22件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	特別調査「法隆寺献納宝物」（第42次）	学芸研究部	博物館教育課長　伊藤信二
2	特別調査「工芸」第12回	学芸研究部	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
3	特別調査「彫刻」第10回	学芸研究部	企画課長　浅見龍介
4	特別調査「絵画」第5回	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎
5	関東地域の社寺所蔵文化財に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課長　河野一隆
6	列品および寄託品に関連する有形文化財にかかる調査研究	学芸研究部	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁
7	仏教美術等の光学的手法による共同研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎
8	美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎
9	東洋民族資料に関する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室長　猪熊兼樹
10	特集「書と紙－平安時代の美しい紙－」に関連する調査研究	学芸研究部	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子
11	特集「大野出目家と越前出目家の能面」に関連する調査研究	学芸研究部	企画課長　浅見龍介
12	特集「令和元年度新収品展」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁
13	特集「世界と出会った江戸美術」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂
14	特集「館蔵　珠玉の中国彫刻」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室研究員　増田政史
15	特集「表慶館の建築図面」に関連する調査研究	学芸研究部	企画課デザイン室長　矢野賀一
16	特集「博物館に初もうで　ウシにひかれてトーハクまいり」に関連する調査研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室研究員　高橋真作
17	特別展「きもの　KIMONO」に関連する調査研究	学芸企画部	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉
18	館内調査研究「中近世風俗図の調査研究」	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂
19	博物館環境デザインに関する調査研究	学芸企画部	企画課デザイン室長　矢野賀一
20	博物館教育に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　伊藤信二
21	凸版印刷と共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課長　今井敦
22	ICTを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　伊藤信二

○その他有形文化財に関連する調査研究　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	博物館の環境保存に関する調査研究	学芸研究部	保存修復課長（書跡・歴史室長）冨坂賢
2	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課情報管理室長　村田良二
3	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	学芸企画部	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子

【京都国立博物館】　12件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　9件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	近畿地区を中心とする社寺文化財の調査研究	学芸部	調査・国際連携室長　呉孟晋
2	訓点資料としての典籍に関する調査研究	学芸部	美術室長　羽田聡
3	旧家伝来の工芸品に関する調査研究	学芸部	工芸室長　山川曉
4	京都周辺出土の考古遺物に関する調査研究	学芸部	学芸部長　尾野善裕
5	特集展示・特別企画に関連する調査研究	学芸部	学芸部長　尾野善裕
6	考古資料相互活用促進事業に関する調査研究	学芸部	特任研究員　宮川禎一 研究員　古谷毅
7	特別展「皇室の名宝」に関する調査研究	学芸部	工芸室長　山川曉
8	特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」に関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊
9	博物館教育及びボランティアに関する調査研究	学芸部	教育室主任研究員　水谷亜希

○その他有形文化財に関連する調査研究　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	学芸部	保存修理指導室長　大原嘉豊
2	文化財の製作・技法等に関わる材質構造調査・研究	学芸部	保存科学室長　降幡順子
3	文化財情報システム・資料情報処理に関する調査研究	学芸部	列品管理室研究員　近藤無滴

【奈良国立博物館】 15件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　11件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
2	古代の写経と聖教に関する基礎的研究	学芸部	資料室長　野尻忠
3	仏教工芸・上代工芸の総合的調査	学芸部	学芸部長　内藤栄
4	墳墓出土品の調査研究	学芸部	企画室長　吉澤悟
5	南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究	学芸部	美術室長　岩井共二
6	東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生
7	特別展「第72回正倉院展」に関する調査研究	学芸部	学芸部長　内藤栄
8	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術―特集　神鹿の造形―」に関する調査研究	学芸部	列品室長　中川あや
9	特別陳列「帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―」に関する調査研究	学芸部	情報サービス室長　宮崎幹子
10	聖徳太子1400年遠忌記念　特別展「聖徳太子と法隆寺」に関する調査研究	学芸部	主任研究員　山口隆介
11	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究	学芸部	教育室長　谷口耕生 主任研究員　斎木涼子

○その他有形文化財に関連する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
2	文化財修理の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
3	保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	学芸部	保存修理指導室長　鳥越俊行
4	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究	学芸部	資料室長　野尻忠

【九州国立博物館】18件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究　14件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	X線CTスキャナ等による文化財の構造技法解析に関する調査研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか
2	近世キリスト教に関する研究	学芸部文化財課	研究員　松浦晃佑
3	高等学校が所蔵する歴史資料に関する研究	交流課	主任研究員　今井涼子
4	「天神縁起の世界」ほか特集展示等に関連する調査研究	学芸部文化財課	資料登録室長　森實久美子
5	水中遺跡の保存活用に関する調査研究	学芸部	学芸部長　小泉惠英
6	特集展示「きゅーはくどうぶつえん」に関する調査研究	展示課	主任研究員　小澤佳憲
7	特集展示「大宰府史跡指定100年記念・九州国立博物館開館15周年記念特集展示　筑紫の神と仏」に関連する調査研究	展示課	研究員　小嶋篤
8	「九州国立博物館開館15周年記念　特集展示　織物に魅せられて　加賀前田家伝来の名物裂」に関連する調査研究	学芸部企画課	ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ　桑原有寿子
9	「九州国立博物館　開館15周年記念特集展示　奈良県立橿原考古学研究所附属博物館蔵品巡回特別展　しきしまの大和へ　奈良大発掘」に関連する調査研究	展示課	主任研究員　齋部麻矢
10	特別展「奈良中宮寺の国宝」に関連する調査研究	学芸部	学芸部長　小泉惠英
11	特別展「琉球展」に関連する調査研究	学芸部文化財課	課長兼資料管理室長　原田　あゆみ
12	特別展「最澄と天台宗のすべて」に関連する調査研究	学芸部文化財課	資料登録室長　森實久美子
13	特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究	学芸部企画課	主任研究員　西島亜希子
14	身体障がい者向けの展示解説プログラムに関する調査研究	展示課	主任研究員　加藤小夜子

○その他有形文化財に関連する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財の材質・構造等に関する共同研究	学芸部博物館科学課	研究員　渡辺祐基
2	博物館における国内・アジア地域の文化財保存修復に関する研究	学芸部博物館科学課	保存修復室長　志賀智史
3	博物館危機管理としての持続的IPMシステムの研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか
4	展示ケース内の環境に関する調査研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長　木川りか

【東京文化財研究所】　22件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　7件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長　江村知子
2	日本東洋美術史の資料学的研究	文化財情報資料部	日本東洋美術史研究室長　小林達朗
3	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	文化財情報資料部	近・現代視覚芸術研究室長　塩谷純
4	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	文化財情報資料部	広領域研究室長　小林公治

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　山梨絵美子
2	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　山梨絵美子
3	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　山梨絵美子

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　8件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	文化財情報資料部	文化財情報研究室長　二神葉子

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　7件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	保存科学研究センター	生物科学研究室長　佐藤嘉則
2	保存と活用のための展示環境の研究	保存科学研究センター	保存環境研究室長　秋山純子
3	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	保存科学研究センター	分析科学研究室長　犬塚将英
4	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	保存科学研究センター	修復計画研究室長　朽津信明
5	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	保存科学研究センター	修復材料研究室長　早川典子
6	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	保存科学研究センター	近代文化遺産研究室長　早川泰弘
7	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	保存科学研究センター	保存科学研究センター長　早川泰弘

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　5件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	文化遺産国際協力センター	国際情報研究室長　西　和彦
2	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長　金井健
3	保存修復技術の国際的応用に関する研究	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人
4	在外日本古美術品保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人
5	国際研修	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長　加藤雅人

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　2件

○文化財情報基盤の整備・充実　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長　江村知子
2	文化財情報基盤の整備・充実	文化財情報資料部	文化財情報研究室長　二神葉子

【奈良文化財研究所】　53件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　22件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	文化遺産部	建造物研究室長　島田敏男
2	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部	歴史研究室長　吉川　聡

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　20件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡等整備）	文化遺産部	遺跡整備研究室長　内田和伸
2	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	文化遺産部	遺跡整備研究室長　内田和伸
3	平城宮東方官衙地区の調査（平城第621次）	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
4	東大寺東塔院跡地区の発掘調査（平城第626次）	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
5	法華寺旧境内の発掘調査（平城第631次）	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
6	平城京左京一条二坊十五坪の発掘調査（平城第634次）	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
7	東院南方遺跡の発掘調査（平城第636次）	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
8	平城宮北方遺跡の発掘調査（平城第637次）	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
9	藤原宮大極殿院地区の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	副部長　清野孝之
10	飛鳥地域等の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	副部長　清野孝之
11	平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
12	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	副部長　清野孝之
13	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	飛鳥資料館	学芸室長　石橋茂登
14	中国との共同研究	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
15	韓国との共同研究	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
16	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部	景観研究室長　中島義晴
17	全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究	埋蔵文化財センター 企画調整部 都城発掘調査部	埋蔵文化財センター 遺跡・調査技術研究室長　金田明大
18	古代官衙、集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書の刊行	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
19	古代瓦研究会に関する研究集会の開催	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
20	水中文化遺産に関する調査研究	埋蔵文化財センター 都城発掘調査部	センター長　高妻洋成

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　8件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長　金田明大
2	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター	年代学研究室長　星野安治
3	動植物遺体の分析方法の研究開発	埋蔵文化財センター	環境考古学研究室長　山崎健

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成
2	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成
3	建造物の彩色に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成
4	高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成
5	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　6件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　6件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化遺産の保存・修復に関する人材育成（ユネスコ等）	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢
2	文化遺産の保存・修復に関する人材育成（イギリス等）	企画調整部	都城発掘調査部長　玉田芳英
3	文化財保護に関する国際協力の推進	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢
4	西アジア・中央アジア諸国等における文化財修復保存協力事業	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢
5	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢
6	ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力	企画調整部	国際遺跡研究室長　庄田慎矢

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　5件

○文化財情報基盤の整備・充実　　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財に関するデータベースの充実	企画調整部	文化財情報研究室長　高妻洋成
2	図書の収集・整理・公開・提供	研究支援推進部	連携推進課長　貴村好隆

○調査研究成果の発信　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催、ウェブサイトの充実	研究支援推進部	連携推進課長　貴村好隆

○展示公開施設の充実　2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	企画調整部・飛鳥資料館・ 都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	企画調整部部長　加藤　真二 飛鳥資料館学芸室長　石橋　茂登
2	平城宮跡解説ボランティアの研修内容の充実及び運用改善	研究支援推進部	連携推進課長　貴村好隆

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　12件

○文化財に関する研修の実施　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財担当者研修	企画調整部 研究支援推進部	企画調整部長　加藤真二

○文化財に関する協力・助言等　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	地方公共団体が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
2	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	副部長　清野孝之
3	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	奈良文化財研究所	所長　松村恵司
4	他機関等との共同研究及び受託研究	奈良文化財研究所	所長　松村恵司
5	地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長　高妻洋成

○平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力　5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・管理等への協力	研究支援推進部	研究支援課長　不藤忠義
2	国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原、整備・活用等への協力	都城発掘調査部　平城地区	部長　箱崎和久
3	国土交通省が行う平城宮いざない館での公開・活用事業への協力	企画調整部	展示企画室長　加藤真二

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
4	文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力	飛鳥資料館	学芸室長　石橋茂登
5	NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	研究支援推進部	研究支援推進部連携推進課長 貴村好隆

○連携大学院教育の推進　1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　（役職・名前）
1	京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進	研究支援推進部	所長　松村恵司

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

（参考）受託研究一覧

合計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
41 件	5 件	35 件	1 件

【東京文化財研究所】　5件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	保存科学研究センター
2	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	保存科学研究センター
3	被災資料有害物質発生状況調査業務	保存科学研究センター
4	文化遺産国際協力コンソーシアム事業	文化遺産国際協力センター
5	令和2年度文化遺産国際協力拠点交流事業「ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」	文化遺産国際協力センター

【奈良文化財研究所】　35件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	平城宮いざない館詳覧ゾーンにかかる学芸業務および解説案内等業務	企画調整部
2	令和2年度文化遺産国際協力拠点交流事業実施委託業務（カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存に関する技術移転を目的とした拠点交流事業）	企画調整部
3	令和2年度 文化資源活用事業費補助金（文化財多言語解説整備事業）「平城宮跡資料館　特別史跡平城宮跡に関する多言語解説情報発信強化事業」	企画調整部
4	高野山地区建造物調査	文化遺産部
5	京都市の文化的景観にかかる調査業務	文化遺産部
6	高野町文化財保存活用地域計画調査	文化遺産部
7	松江神社建造物調査業務委託	文化遺産部
8	智頭の林業景観整備計画策定調査	文化遺産部
9	犬伏家住宅保存活用計画策定業務	文化遺産部
10	東大寺東塔復元案作成にかかる調査研究業務	都城発掘調査部　平城地区
11	薬師寺東塔周辺防火設備整備に伴う発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
12	興福寺東金堂院伽藍整備に伴う発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
13	西大寺旧境内の発掘調査①	都城発掘調査部　平城地区
14	西大寺旧境内の発掘調査②	都城発掘調査部　平城地区
15	平城京右京三条一坊八坪の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
16	興福寺旧境内・奈良町遺跡の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
17	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託	都城発掘調査部　平城地区
18	薬師寺東塔の解体修理に伴う発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
19	第一次大極殿院東楼復原整備に伴う発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
20	史跡 法華寺旧境内及び名勝法華寺庭園の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区
21	令和2年度水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業	埋蔵文化財センター 都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
22	平成31年度（2019年度）二国間交流事業共同研究 物質文化に見る前期青銅器時代１期南西カナンにおけるエジプト人居留地	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
23	藤原宮跡（四分町店舗建設）発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
24	藤原京跡（下八釣町個人住宅建築）発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
25	明日香村西橘遺跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究	埋蔵文化財センター 都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区
26	木造金剛力士立像2躯の製作年代調査	埋蔵文化財センター
27	高知県定福寺所蔵仏像群の年輪年代調査	埋蔵文化財センター
28	木造源頼朝坐像解体修理にともなう年輪年代調査	埋蔵文化財センター
29	特別史跡キトラ古墳の保存・活用にかかる研究等業務	埋蔵文化財センター
30	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務	埋蔵文化財センター
31	松帆銅鐸・舌の調査研究	埋蔵文化財センター
32	「中世・近世石づくりのまち」調査研究	埋蔵文化財センター
33	令和2年度 史跡闘鶏山古墳の調査保存に資する基礎的調査	埋蔵文化財センター
34	考古・文献史料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開ならびにその地質考古学的解析	埋蔵文化財センター
35	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務	埋蔵文化財センター

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	令和2年度　無形文化遺産保護パートナーシッププログラム（受託）	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

c-③ 学会、研究会等発表実績一覧

令和3年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
197件	108件	38件	25件	29件	16件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	77件	37件	40件	0件	
	本部文化財活用センター	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		本部文化財防災センター	
	3件	0件		9件	

【本部文化財活用センター】　3件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　1件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	「文化財の複製と〈新しい展示〉」	文化財活用センター企画担当課長　松嶋雅人	10月9日	令和2年度山形県博物館連絡協議会研修会

○展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	展示ケース等で使用されるクロスから発生するアンモニアの簡便な検出とリスク評価方法の検討	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人、同研究員　間渕創	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
2	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	バンドパスフィルターで抽出した特定波長による有機染料の変退色挙動	東京文化財研究所保存科学研究センター研究補佐員　相馬静乃、文化財活用センター保存担当室長　吉田直人　他	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会

【本部文化財防災センター】　9件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財等の防災・救援等への寄与	博物館・美術館における災害リスク軽減の現状と課題-日本、タイ、フランス、台湾の比較から-	文化財防災センターアソシエイトフェロー　黄川田翔 文化財防災プロジェクトチーム（東京国立博物館　学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室研究員）　六人部克典 文化財防災プロジェクトチーム（東京国立博物館　学芸研究部保存修復課環境保存室長）　和田浩 文化財防災プロジェクトチーム（東京国立博物館　学芸企画部企画課デザイン室長）　矢野賀一	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
2	同上	市町村における文化財防災の現状と課題―関東甲信越地域の事例から―	文化財防災センターアソシエイトフェロー　黄川田翔 文化財防災プロジェクトチーム（東京国立博物館学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室研究員）　六人部克典 文化財防災プロジェクトチーム（東京国立博物館　学芸研究部保存修復課環境保存室長）　和田浩	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
3	同上	ICCROM の非常時における文化財救出と応急処置研修とその展開	文化財防災センターアソシエイトフェロー　林美木子、他2名	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
4	同上	文化財防災に向けた分野横断型連携の構築―関東甲信越地域における取り組み―	文化財防災センターアソシエイトフェロー　黄川田翔 文化財防災プロジェクトチーム（東京国立博物館学芸研究部保存修復課環境保存室長）和田浩 文化財防災プロジェクトチーム（東京国立博物館学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室研究員）　六人部克典	7月20日	日本建築学会2020年度大会（関東）
5	同上	想定を超える水平加速度をもつ地震波を受けた際の博物館用免震装置の挙動	文化財防災センターアソシエイトフェロー　黄川田翔 文化財防災プロジェクトチーム（東京国立博物館学芸研究	9月5日	日本文化財科学会第37回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
			部保存修復課環境保存室長）和田浩 文化財防災プロジェクトチーム（東京国立博物館学芸企画部企画課デザイン室長）　矢野賀一 東京国立博物館学芸企画部企画課デザイン室アソシエイトフェロー　荻堂正博		
6	同上	博物館・美術館における災害リスク軽減に向けた異業種間連携の試み	文化財防災センターアソシエイトフェロー　黄川田翔	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
7	同上	社寺等における立体的な文化財資料の減災―シミュレーションを利用した転倒防止対策―	文化財防災プロジェクトチーム（京都国立博物館学芸部保存科学室長）　降幡順子 文化財防災プロジェクトチーム（京都国立博物館学芸部列品管理室研究員）　近藤無滴 文化財防防災センターアソシエイトフェロー　中屋菜緒	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
8	同上	文化財防災のための連携体制構築の現状と課題	文化財防災プロジェクトチーム（奈良国立博物館　学芸部保存修理指導室長）　鳥越俊行	9月17日	三重県文化財保護指導委員会議・津会場
9	同上	文化財防災のための連携体制構築の現状と課題	文化財防災センターアソシエイトフェロー　佐藤稜介	9月18日	三重県文化財保護指導委員会議・尾鷲会場

【東京国立博物館】　38件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　18件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	実践編 ⑨文化財を見せる照明のデザイン	企画課上席研究員　木下史青	9月28日～10月2日	日本建築学会 光環境ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ　空間を魅せる光と色 2020
2	同上	日本工藝在近代建築中的照明方式―日本東京國立博物館「工藝2020」特展的照明設計	企画課上席研究員　木下史青	10月22日	2020博物館展示新趨勢國際研討會（台湾）
3	同上	16世紀ドイツ語圏の金工をめぐる技術と交流	企画課特別展室アソシエイトフェロー　村松綾	10月4日	西洋中世学会第12回大会
4	同上	出雲と大和、そして九州―倭王権と日本海文化―	調査研究課長　河野一隆	9月7日	奈良シニア大学
5	同上	筑紫君磐井と装飾古墳	調査研究課長　河野一隆	9月12日	東アジアの古代文化を考える会
6	同上	『南方録』の名物盆	調査研究課工芸室研究員　福島修	9月19日	茶の湯文化学会
7	同上	东京国立博物馆的近况及后疫情时代的博物馆活动思考	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁	7月15日	上海博物館：博物馆的力量：国际博物馆线上对话
8	同上	埼玉県北本市デーノタメ遺跡出土縄文時代の漆塗腕輪X線CT観察事例報告	保存修復課調査分析室長　荒木 臣紀、保存修復課調査分析室　専門職　宮田将寛、ほか外部研究者	9月5日～9月13日	日本文化財科学会第37回大会
9	同上	エックス線ＣＴからみた塑像の構造	保存修復課調査分析室　専門職　宮田将寛	9月29日	アフガニスタン・仏頭に関する研究会（場所：東京芸術大学）
10	同上	2020年2～3月南ウラル旅行	客員研究員　高濱秀	9月12日	草原考古研究会
11	同上	コメント／「「国風文化」の再定義にむけて」	列品管理課平常展調整室長　皿井舞	3年3月27日	ミニ・シンポジウム「「国風文化」の再定義にむけて」
12	同上	法隆寺金堂における四天王の世界	調査研究課工芸室主任研究員　三田覚之	11月7日	研究討論会「日本の仏教彫刻―作品生成の場」
13	同上	「雪に耐えて梅花麗し　コロナ禍における東京国立博物館の特別展」	部企画課特別展室長　猪熊兼樹	3年1月30日	北米・欧州ミュージアム日本専門家連携・交流事業　国際シンポジウム「日本美術がつなぐ博物館コミュニティー：ウィズ／ポスト・コロナ時代の挑戦」
14	同上	The Xiaoxiang Region in Heian Period Literature:New Perspectives on the Reception of the "Eight View of the Xiaoxiang Region" in Japan	企画課国際交流室アソシエイトフェロー　武瀟瀟	3年3月21日	AAS(アジア研究協会) パネル：Recontextualizing East Asia in Premodern Japanese Art History
15	同上	Global Circulation and Transformation of Japanese Folding Screens	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	3年2月9日	International Online Symposium “Beyond the Southern Barbarians: Repositioning Japan in the First Global Age”, Kyushu University and Yale University

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
16	同上	法隆寺献納宝物聖徳太子絵伝と平安時代の太子伝	絵画・彫刻室長　沖松健次郎	3年3月21日	「聖徳太子1400年御遠忌記念シンポジウム　聖徳太子伝とその視覚化」　主催：美術史学会（西支部大会）・仏教芸術学会
17	特集「書と料紙―平安時代の美しい紙―」に関連する調査研究	博物館にとっての複製品	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	9月22日	〝日本文学展 ～文学とメディアの千年譚～ 文化財リマスター シンポジウム
18	特別展「きもの KIMONO」に関連する調査研究	きもの―ファッションと工芸のあいだ―	工芸室長・小山弓弦葉	3年2月26日～（オンラインによる配信）	特別展「きもの　KIMONO」開催記念国際シンポジウム「日本文化としての「きもの」を考える」

〇その他有形文化財に関連する調査研究　20件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	博物館の環境保存に関する調査研究	市町村における文化財防災の現状と課題―関東甲信越地域の事例から―	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔、列品管理課貸与特別観覧室研究員　六人部克典、保存修復課環境保存室長　和田浩	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
2	同上	博物館・美術館における災害リスク軽減の現状と課題-日本、タイ、フランス、台湾の比較から-	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔、列品管理課貸与特別観覧室研究員　六人部克典、保存修復課環境保存室長　和田浩、企画課デザイン室長　矢野賀一	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
3	同上	文化財防災に向けた分野横断型連携の構築―関東甲信越地域における取り組み―	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔、列品管理課貸与特別観覧室研究員　六人部克典、保存修復課環境保存室長　和田浩	7月20日	日本建築学会2020年度大会（関東）
4	同上	想定を超える水平加速度をもつ地震波を受けた際の博物館用免震装置の挙動	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔、学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩、学芸企画部企画課デザイン室長　矢野賀一、学芸企画部企画課デザイン室アソシエイトフェロー　荻堂正博	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
5	同上	老朽化した収蔵施設における生物被害状況及びその対策の事例報告	保存修復課環境保存室　相川悠、学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
6	同上	施設内での文化財輸送時に台車上で生じる振動への対策	保存修復課環境保存室長　和田浩	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
7	同上	美術品レプリカを用いた加振実験について	保存修復課環境保存室長　和田浩	7月15日	日本包装学会第29回年次大会研究発表会
8	同上	東京国立博物館の新型コロナウイルス対策事例	保存修復課環境保存室長　和田浩	8月7日	博物館における新型コロナウイルス感染拡大防止対策(国立民族学博物館主催シンポジウム)
9	同上	法隆寺金堂収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究-数値解析による小屋裏の吸放湿を用いた室の除湿による環境調整方法の検討-	保存修復課環境保存室長　和田浩、九州国立博物館博物館科学課長　木川りか、東京文化財研究所保存科学研究センター　佐野千絵、東京文化財研究所保存科学研究センター　吉田直人、ほか外部研究者	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
10	同上	博物館・美術館における災害リスク軽減に向けた異業種間連携の試み	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
11	同上	輸送時に屏風構造を持つ美術品に発生する共振現象に関する基礎的研究	保存修復課環境保存室長　和田浩	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
12	同上	屏風構造を持つ美術品の振動応答に関する基礎的研究	保存修復課環境保存室長　和田浩	9月16日	日本機械学会2020年度年次大会
13	同上	展示室内の滞留者数と室内環境について	保存修復課環境保存室長　和田浩	9月20日	第39回日本展示学会研究大会
14	同上	東京国立博物館の新型コロナウイルス対策事例	保存修復課環境保存室長　和田浩	10月12日	文化財保存修復学会オンライン研究会「博物館における新型コロナウイルス感染拡大防止対策」
15	同上	美術品に用いられる包装資材の評価に関する現状と課題	保存修復課環境保存室長　和田浩	11月25日	JPI北海道支部2020年度包装懇話会
16	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	提言：デジタル・アーカイブの観点から	博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之	9月12日	考古学・文化財のためのデータサイエンス・サロン online #02

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
17	同上	クラウドワークによる図書館・博物館の休館動向調査：新たな全国的動向把握のかたちへ	博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之	10月23日	第29回地理情報システム学会研究発表大会
18	同上	デジタルデータの保存・管理 － 現場視点からの共有課題を考える	博物館情報課情報管理室長　村田良二	10月24日	デジタルアーカイブ学会　第 5 回研究大会サテライト・ワークショップ
19	同上	Digitizing Disparity in the Museum: the Object Based Research in the Tokyo National Museum	博物館情報課情報管理室アソシエイトフェロー　酒井晶	12月10日	ICOM International Committee for Documentation (CIDOC)
20	同上	考古学・文化財資料のデータ・情報流通を進めていきませんか	博物館情報課情報管理室主任研究員　阿児雄之	12月12日	考古学・文化財のためのデータサイエンス・サロン online #05

【京都国立博物館】25件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　20件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	特別展「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」に関する調査研究	聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―	美術室長　羽田聡	7月27日	一般社団法人清風会総会
2	同上	文字資料から読み解く西国三十三所	同上	11月14日	和歌山市立博物館
3	特別展「皇室の名宝」に関する調査研究	御所をめぐる色とかたち	企画室長　山川曉	10月16日	NHK公開講演会（芦屋ルナホール）
4	同上	御所をめぐる色とかたち	同上	10月30日	NHk公開講演会（宇治市文化会館）
5	同上	皇室の名宝	同上	11月9日	一般社団法人清風会記念講演会
6	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	仏教染織品の移動と変容-袈裟と打敷-	同上	3年1月16日	九州大学人文学国際研究センター公開講座
7	同上	打敷からみるキモノ	同上	3年2月16日	京友禅協同組合連合会総合研修会
8	同上	輸出漆器　東洋らしさを纏うもの	教育室長　永島明子	9月27日	徳川美術館　蓬左文庫　2020年秋季特別展「殿さまが好んだヨーロッパ」関連秋期講座「工芸をめぐる近世ヨーロッパとアジアの交流」
9	同上	漆器に親しむ	同上	10月14日	裏千家学園茶道専門学校オムニバス講座
10	同上	Reconstructing the Style of Literati Painting: the Paintings of Wang Yemei and Hu Tiemei, Chinese Artists Who Came to Japan in the Early Meiji Period	調査・国際連携室長　呉　孟晋	9月3日	Rethinking Modernity in Modern east Asian Art (Panel 1370), AAS in Asia 2020（オンライン開催）（英語：王舒津氏代読）
11	同上	上野コレクションにある羅振玉資料について	同上	3年1月15日	第7回関西大学東西学術研究所研究例会「羅振玉の学術と藝術への新しいアプローチ」（オンライン開催）
12	同上	全体討論	保存修理指導室長　大原嘉豊、列品管理室研究員　森道彦	12月19日	文化財保存修理所開所40周年記念シンポジウム「文化財修理のいま、むかし」
13	同上	伝記の読み方を考える Vol.2 円山応挙	教育室主任研究員　水谷亜希	12月19日	東京大学大学院経済学研究科　歴史家ワークショップ連続講座（オンライン開催）
14	同上	茶碗　その種類と価値観	調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男	11月16日	日本文化勉強会「くらし・空間研究会」、京都国立博物館
15	同上	文化財保護と博物館 ―近現代の京都を事例として―	列品管理室研究員　森道彦	11月3日	静岡県博物館協会シンポジウム「これからのミュージアムを考えよう」
16	同上	松岡経塚と都の文化	特任研究員　宮川禎一	3年3月27日	秋田県湯沢市文化会館「里帰り文化財展」関連講演会
17	同上	京都国立博物館とおおいたの青銅器－近世～近現代における考古資料の収集と保護	研究員　古谷毅	9月5日	大分県立歴史博物館 令和2年度企画展「青銅の燦めき-京博所蔵の銅剣・銅矛里帰り展-」関連講座
18	同上	シンポジウム 古墳時代における沖出古墳の意義」（コーディネーター）	同上	10月25日	福岡県嘉麻市教育委員会・筑豊文化財行政連絡協議会主催シンポジウム「徹底解剖！ 沖出古墳とその被葬者像」

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
19	同上	日本原始古代の考古学 -日本列島における先史・原史・古代文化の展開-	同上	12月23日	京都大学国際高等教育院 日本語・日本文化研修プログラム日本文化研修「博物館見学」
20	博物館教育及びボランティアに関する調査研究	美術と社会の関係を考える	教育室主任研究員　水谷亜希	3年3月7日	京都市学校歴史博物館　ワークショップ「美術を作る・見る・語る―作家・研究者と考える美術の情報発信―」

〇その他有形文化財に関連する調査研究　5件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	その他有形文化財に関連する調査研究	黄色上絵付顔料について―16世紀後半から20世紀の日本と中国―	保存科学室長　降幡順子	6月30日	文化財保存修復学会第41回大会
2	同上	社寺等における立体的な文化財資料の減災―シミュレーションを利用した転倒防止対策―	同上	9月4日	日本文化財科学会第36回大会
3	同上	資料の適切な保存環境とカビ対策	同上	9月24日	北海道博物館協会学芸職員部会研修会
4	同上	立体的な文化財資料の減災-転倒シミュレーションを利用して-	同上	10月25日	シンポジウム「文化財の防災・減災―火災・地震に対する取り組み―」京都国立博物館
5	同上	浄土宗大本山増上寺所蔵元版大蔵経、画像公開の意義	調査・国際連携室研究員　上杉智英	3年3月8日	令和2年度浄土宗総合研究所公開講座「仏教の智慧を開く」

【奈良国立博物館】　29件

〇有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　21件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	収蔵品・寄託品等に関連する調査研究	塔鋺形合子がたどった道	学芸部長　内藤栄	12月12日	掘るしんinながの2020　塔鋺形合子は何を語る
2	同上	舎利信仰の美術―舎利容器の形から信仰を読み解く―	学芸部長　内藤栄	3年3月21日	奈良国立博物館サンデートーク
3	同上	「特別陳列　お水取り」展示解説	資料室長　野尻忠	3年3月20日	お水取り「講話」と「現地解説」の会
4	同上	「唐」から「和」へのうつろい～銅鏡にみる平安時代～	列品室長　中川あや	10月25日	黒川古文化研究所講演会
5	同上	快慶と阿弥陀仏造像	企画室主任研究員　山口隆介	11月7日	京都大学人文科学研究所「東アジアにおける阿弥陀如来の表象」班研究討論会 「日本の仏教彫刻-作品生成の場」
6	同上	私の好きな奈良の仏像	企画室主任研究員　山口隆介	12月19日	歴史文化連続講座「奈良へ」
7	同上	売立目録と仏像研究	企画室主任研究員　山口隆介	12月20日	奈良国立博物館サンデートーク
8	同上	仏教絵画のきほん―表現様式を中心に―	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	9月20日	同上
9	同上	仏都会津のみほとけたち	教育室研究員　内藤航	3年2月21日	同上
10	同上	描かれた東大寺大仏の姿	美術室アソシエイトフェロー　萩谷みどり	10月4日	同上
11	特別点等の開催に伴う調査研究	「御大典記念　特別展　よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」解説	工芸考古室研究員　三本周作	8月4日	賛助会員特別鑑賞会
12	特別展「第７２回正倉院展」に関する調査研究	至宝からひもとく天平の祈り～第七二回正倉院展～	館長　松本伸之	11月1日	NHK日曜美術館
13	同上	正倉院宝物の歴史と魅力、そして今年の正倉院展から	学芸部長　内藤栄	9月18日	京都市生涯学習センター・京都アスニー
14	同上	正倉院宝物の歴史と魅力、そして今年の正倉院展から	学芸部長　内藤栄	9月30日	高槻市三箇牧公民館
15	同上	せいぶ正倉院講座	学芸部長　内藤栄	10月28日	奈良市西部公民館
16	同上	武器・武具の献納と薬物の献納について	学芸部長　内藤栄	11月7日	「第七十二回　正倉院展」公開講座
17	同上	魅惑の正倉院鏡の世界	列品室長　中川あや	9月4日	文化パルク城陽プラネタリウム講座
18	同上	正倉院宝物と奈良の工芸	工芸考古室研究員　三本周作	7月14日	奈良教育大学・奈良女子大学共働科目「奈良と教育」
19	同上	「第七十二回　正倉院展」解説	工芸考古室研究員　三本周作	10月27日	プレミアムカード会員特別鑑賞会
20	同上	「第七十二回　正倉院展」　研究員による宝物の解説　パートー～五	工芸考古室研究員　三本周作	10月26日～11月30日	ならはくチャンネル

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
21	特別陳列「奈良国立博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―」に関する調査研究	帝国奈良博物館の誕生―人と建築―	情報サービス室長　宮崎幹子	3年3月13日	「特別陳列　帝国奈良博物館の誕生」公開講座

〇その他有形文化財に関連する調査研究　8件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	沖縄県に所在する梵鐘の蛍光Ｘ線分析―小倉鋳物師との関連について	保存修理指導室長　鳥越俊行	6月20～21日	文化財保存修復学会（誌面開催）
2	同上	ファイバースコープによる木造毘沙門天立像（島根県奥出雲町岩屋寺旧蔵）の調査	同上	9月5～6日	日本文化財科学会（ウェブ開催）
3	同上	文化財の防災のための連携体制構築の現状と課題	同上	9月17日	令和二年度三重県文化財保護指導者会議
4	同上	文化財を科学するⅦ	同上	3年1月17日	奈良国立博物館サンデートーク
5	同上	文化財防災のための連携体制構築の現状と課題	保存修理指導室アソシエイトフェロー　佐藤稜介	9月18日	三重県尾鷲庁舎
6	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究	奈良国立博物館所蔵の古写真にみる奈良公園周辺の景観	資料室長　野尻忠	11月29日	奈良国立博物館サンデートーク
7	博物館情報、文化財情報に関する調査研究	博物館情報・メディア論　資料のドキュメンテーションとデータベース	情報サービス室長　宮崎幹子	7月14日、11月20日	同志社大学（オンライン）
8	同上	博物館情報・メディア論	同上	12月19,25,26日	京都府立大学（一部オンライン）

【九州国立博物館】　16件

〇有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　5件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	国宝「初音の調度」のうち乱箱、長文箱、短冊箱の構造・技法のX線CT調査	学芸部博物館科学課研究員渡辺祐基、学芸部企画課特別展室長　川畑憲子、徳川美術館　吉川美穂、学芸部博物館科学課長　木川りか	9月5日～13日	日本文化財科学会第37回大会
2	同上	Inclusive Programs in Kyushu National Museum	学芸部企画課特別展室主任研究員　西島亜木子	10月15日	IV International Festival of Inclusion, Everybody is Present, the Pushkin State Museum of Fine Arts（オンライン開催）
3	同上	九州国立博物館展示品解説講座第４回「縄文文化の魅力」	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	12月6日	博悠会（於：太宰府市いきいき情報センター）
4	同上	漢代銅盂小考－とくに吉祥の銘文と文様をめぐって－	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男	3年1月8日	日本中国考古学会大会（会場：駒澤大学　リモート開催）
5	ユニバーサル・ミュージアム、ハンズ・オン展示に関する調査・研究	コロナ禍におけるハンズ・オン展示とユニバーサル・ミュージアムの取り組み－九州国立博物館の事例から－	展示課研究補佐員 茂泉千尋 展示課主任研究員 加藤小夜子	12月12日	日本アートマネジメント学会 第22回全国大会

○その他有形文化財に関連する調査研究　11件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	その他有形文化財に関連する調査研究	Analysis of larval development and feeding of an Anobiid beetle using X-ray computed tomography	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、学芸部博物館科学課長　木川りか、京都大学大学院農学研究科　藤原裕子、京都大学大学院農学研究科　藤井義久	6月10日～11日	The 51st Scientific Conference of International Research Group on Wood Protection
2	同上	伝統的な灰汁を利用した固着被災文書等の修復処置と効果の検討	学芸部博物館科学課長　木川りか、長崎歴史文化博物館　富川敦子、長崎歴史文化博物館　久保憲司、高知県立紙産業技術センター　有吉正明、東京文化財研究所秋山純子、東京文化財研究所早川典子	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会〈紙上開催〉
3	同上	八代平野および宇土半島基部の墳墓で採用されたベンガラについて	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会〈紙上開催〉
4	同上	湿度制御した温風処理に用いる供試虫の耐熱性と殺虫効果判定への適用	東京文化財研究所　小峰幸夫、東京文化財研究所　佐藤嘉則、日光社寺文化財保存会　原田正彦、トータルシステム研究所　北原博幸、学芸部博物館科学課長　木川りか、京都大学大学院農学研究科　藤井義久	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会〈紙上開催〉
5	同上	アクリル絵具の光劣化に関する自然科学的研究	東京藝術大学大学院　塚田全彦、学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　和泉田絢子	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会〈紙上開催〉
6	同上	別府の古墳から出土したベンガラについて	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	9月5日～13日	日本文化財科学会第37回大会〈Web開催〉
7	同上	法隆寺金堂収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究-数値解析による小屋裏の吸放湿を用いた室の除湿による環境調整方法の検討	京都大学　和田拓也、京都大学　小椋大輔、東京文化財研究所　佐野千絵、学芸部博物館科学課長　木川りか、東京国立博物館　和田浩、東京国立博物館　吉田直人 京都大学　伊庭千恵美	9月5日～13日	日本文化財科学会第37回大会〈Web開催〉

8	同上	ガラス外壁を有する博物館建造物における衝突野鳥の傾向分析と照明・音声を利用した対策について	学芸部博物館科学課長木川りか、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、学芸部博物館科学課富松志帆、学芸部博物館科学課　松尾実香、東京文化財研究所　秋山純子、九州環境管理協会岡部海都・柿本大典・大城戸博文	11月28日	日本環境動物昆虫学会第32回大会（オンライン開催）
9	同上	「資料保存」	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか	9月8日	2019年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」博物館マネジメント人材育成研修会、新中津市学校・中津市歴史博物館
10	同上	役場庁舎・博物館・図書館書庫のＩＰＭ（総合的有害生物管理）について	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか	11月19日	令和2年度行政文書・古文書保存管理講習会、広島県立文書館・広島県市町公文書等保存活用連絡協議会、広島県情報プラザ
11	同上	ＩＰＭ（総合的有害生物管理）について	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長　木川りか	12月21日	令和2年度佐賀県博物館協会研修会　佐賀県立名護屋城博物館ホール

【東京文化財研究所】　37件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　13件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　11件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	葛飾北斎絵入り版本群・織田一磨文庫のオープンアクセス事業-ゲッティ研究所との協同による書誌情報国際発信の実践（古典籍書誌整備と資料保全）	文化財情報資料部主任研究員・橘川英規他	11月28日	アート・ドキュメンテーション学会第13回秋季研究集会
2	日本東洋美術史の資料学的研究	近代の大礼と有職故実	文化財情報資料部客員研究員・田中潤	6月23日	文化財情報資料部研究会
3	同上	江戸初期狩野派史料の研究―探幽縮図を中心に―	文化財情報資料部主任研究員・小野真由美	7月28日	文化財情報資料部研究会
4	日本東洋美術史の資料学的研究	片野四郎旧蔵の羅漢図について	文化財情報資料部研究員・米沢玲、文化財情報資料部主任研究員・安永拓世	3年2月25日	文化財情報資料部研究会
5	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	ゲッティ研究所が所蔵する矢代幸雄と画商ジョセフ・デュヴィーンの往復書簡	副所長　山梨絵美子	8月25日	文化財情報資料部研究会
6	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	キリスト教の布教と南蛮漆器―理化学的分析の検討、メダイ研究との対比から―	文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	10月10日	「BVNGO NAMBAN―宗麟の愛した南蛮文化」企画展オープニング記念講演会
7	同上	初期洋風画と幕末洋風画、形を変えた継承―日本における油彩技術の変遷と歴史的評価の検証―	武田恵理	11月24日	文化財情報資料部研究会
8	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	文化財写真で大切なこと	文化財情報資料部専門職員・城野誠治	8月24日	ハンズオン・セミナー「文化財写真入門―文化財の記録としての写真撮影実践講座」
9	同上	ディジタル画像の基礎　講演2	文化財情報資料部専門職員・城野誠治	12月23日	シリーズ「ディジタル画像の圧縮～画像の基本から動画像まで～」その１　ディジタル画像の基礎
10	同上	記録作成の意義	文化財情報資料部文化財情報研究室長　二神葉子	3年3月12日	ハンズオン・セミナー「文化財写真入門―文化財の記録としての写真撮影実践講座」
11	同上	文化財写真の基礎	文化財情報資料部専門職員　城野誠治	3年3月12日	ハンズオン・セミナー「文化財写真入門―文化財の記録としての写真撮影実践講座」

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	民俗事例に見る模型-小正月に見るツクリモノを中心に	民俗事例における伝統的模型の在り方について検討した	無形文化遺産部主任研究員　今石みぎわ	9月5日	科研費基板B「模する」技術の発展と伝統　2020年度第1回研究会
2	民俗技術における素材と加工技術一箕を中心に	民俗技術における多様な素材とその加工方法に関する調査報告	無形文化遺産部主任研究員　今石みぎわ	3年1月12日	東京文化財研究所　令和2年度第4回総合研究会

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　21件

○文化財の調査手法に関する調査研究　0件

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　21件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	人為的攪乱により形成された鍾乳洞内照明植生の微生物生態学的解析	生物科学研究室長・佐藤嘉則、修復計画研究室長・朽津信明他	6月5日	日本土壌微生物学会2020年度大会
2	同上	虎塚古墳の壁画剥落片から分離された微生物の群集構造解析	生物科学研究室長・佐藤嘉則、分析科学研究室長・犬塚将英他	9月5～13日	日本文化財科学会第37回大会
3	同上	虎塚古墳の壁画剥落片の微生物群集構造解析	生物科学研究室長・佐藤嘉則、分析科学研究室長・犬塚将英他	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
4	同上	湿度制御温風処理に用いる供試虫の熱耐性と殺虫効果判定への適用	生物科学研究室長　佐藤嘉則、保存科学研究センターAF・小峰幸夫他	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
5	同上	収蔵庫内で実施したカビ除去事例―重要文化財 大蔵経（元版）に対する保存修理事業から―	生物科学研究室長・佐藤嘉則他	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
6	保存と活用のための展示環境の研究	バンドパスフィルターで抽出した特定波長による有機染料の変退色挙動	保存科学研究センター研究補佐員　相馬静乃他2名	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
7	同上	Environmental Research on Conservation Conditions of the Hagia Sophia Part 2: Numerical Analyses of Heat and Moisture Transfer to Study Deterioration of Outer walls	保存科学研究センター研究員　水谷悦子	9月24日	International Hagia Sophia Symposium: Architecture and Preservation
8	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	蛍光X線分析における分析値の信頼性－金箔試料の定量分析に関する共同実験－	保存科学研究センターセンター長　早川泰弘　他	9月5～13日	日本文化財科学会第37回大会
9	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	博物館における化学物質の放散試験方法の検討　－サンプリングバッグのブランク濃度低減方法	保存科学研究センター室長　犬塚将英　他	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
10	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	天草市アンモナイト館における照明調整による緑色生物の軽減	朽津信明、森井順之、柳沼由可子、廣瀬浩司	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
11	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	三次元計測に基づく富山市大山の恐竜足跡化石の劣化評価	朽津信明，酒井修二，藤田将人	9月5～13日	日本文化財科学会
12	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	過去の写真に基づく恐竜足跡化石の風化速度の検証	朽津信明，酒井修二，藤田将人	10月1～2日	日本応用地質学会
13	文化財修復材料と伝統技法び関する調査研究	ミャンマーで採取された漆に関する研究	保存科学研究センター研究員　倉島玲央、室長　早川典子	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
14	文化財修復材料と伝統技法び関する調査研究	深さ方向による紫外線劣化させた漆塗膜の強度変化	保存科学研究センター研究員　倉島玲央、室長　早川典子	11月21日	漆サミット2020
15	文化財修復材料と伝統技法び関する調査研究	古典的膠の調製方法及び性状	保存科学研究センター客員　宇髙健太郎、室長　早川典子　他	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
16	文化財修復材料と伝統技法び関する調査研究	呉春「白梅図」に使用された絵画基底材料と自然布系基底材に関する研究	保存科学研究センター室長　早川典子　他	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
17	文化財修復材料と伝統技法び関する調査研究	作製条件の異なる補修絹の劣化特性評価	保存科学研究センター研究補佐員　岡部迪子、室長　早川典子	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
18	文化財修復材料と伝統技法び関する調査研究	漆塗膜上の油脂系汚損除去を目的としたゲルクリーニングの検討	保存科学研究センターAF藤井佑果、室長　早川典子他	7月10日	文化財保存修復学会第42回大会
19	文化財修復材料と伝統技法び関する調査研究	On-site Surface Cleaning of Japanese Architecture Using Gels Incorporating Organic Solvents	保存科学研究センター室長　早川典子　他	11月4日	IIC Edinburgh Congress 2020
20	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	近代文化遺産の保存と活用	中山俊介	12月4日	龍谷大学文化遺産学シンポジウム
21	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	X線透過撮影による泥に覆われたキトラ古墳壁画の調査	保存科学研究センター室長　犬塚将英　他	9月5～13日	日本文化財科学会第37回大会

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　2件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	アンコール・タネイ寺院遺跡の保存整備	文化遺産国際協力センター長 友田正彦、アソシエイトフェロー 間舎裕生、淺田なつみ、ヴァル エリフ ベルナ	12月12日	東南アジア考古学会2020年大会
2	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	Conservation and Sustainable Development of Ta Nei: Restoration of the East Gate	アソシエイトフェロー ヴァル エリフ ベルナ	3年1月26日	ICC-Angkor

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　1件

○文化財情報基盤の整備・充実　0件

○調査研究成果の発信　1件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財情報基盤の整備・充実	デジタルコンテンツと継続性：明治大正期書画家番付データベースを例に	文化財情報資料部研究員・小山田智寛他	7月6日	デジタルアーカイブ学会第4回研究大会スピンオフ研究発表会

【奈良文化財研究所】　40件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　7件

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　7件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	奈良文化財研究所所蔵『覚城院・萩原寺等関係中世聖教類』について―覚城院資料の調査・研究における可能性を中心に―	歴史研究室アソシエイトフェロー　橘悠太	12月13日	科学研究費補助金基盤研究(A)「地方基幹寺院に於ける文献資料調査と経蔵ネットワークの研究」（研究代表者中山一麿 課題番号19H00529）の第五回寺院資料調査研究報告（オンライン開催）
2	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	地域の風景と文化財の活用	景観研究室研究員　恵谷浩子	11月7日	景観まちづくりセミナー
3	同上	北山林業と民家の庭―京都市中川地区における文化的景観調査から	景観研究室研究員　恵谷浩子	12月12日	第24回常民文化研究講座　景観の総合資料学-「漁場図」を読む２-
4	同上	芦津集落の変遷と現在	景観研究室研究員　恵谷浩子	12月17日	「智頭の林業景観」調査報告会
5	同上	京都圏のなかの宇治と宇治茶	景観研究室研究員　恵谷浩子	12月19日	宇治茶の文化的景観地域フォーラム
6	我が国の記念物に関する調査研究(遺跡等整備)	歴史的脈絡に因む遺跡の活用方法―主として平城宮跡を例に―	遺跡整備研究室長　内田和伸	10月26日	奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会
7	古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書の刊行	古代集落の諸類型　－集落研究の現状と方向性	都城発掘調査部考古第三研究室アソシエイトフェロー 道上祥武	12月12日	第24回　古代官衙・集落研究集会

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　24件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　5件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	動植物遺存体の分析方法の研究開発	東京湾東岸における律令国家形成期の貝類	環境考古学研究室長　山崎健	8月22日	近江貝塚研究会第321回例会
2	同上	動物の骨からわかること	環境考古学研究室長　山崎健	9月13日	「古代食の総合的復元と疾病との関係解明」シンポジウム
3	同上	ホネ考古学―古代の都の動物利用―	環境考古学研究室長　山崎健	10月24日	第２回文化財講演会「リケイ考古学」
4	同上	戦国秦の養馬技術	環境考古学研究室客員研究員　菊地大樹（6名中1番）ほか	8月27日	第63回大韓体質人類学会
5	年輪年代学研究	年輪年代学的手法による平城宮第一次大極殿院西楼出土木簡の同一材推定	員数3(1番目）年代学研究室長 星野安治	9月5日	日本文化財科学会第37回大会

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　19件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	建造物の彩色に関する調査研究	モンゴル国突厥時代Zaamar古墳出土人型塑像顔料の調査	保存修復科学研究室アソシエイトフェロー　柳成煜 ほか3名	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
2	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	水分飽和から不飽和土を再現したカラム実験による鉄製文化財の腐食挙動の検討	保存修復科学研究室研究員 柳田明進 保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎 埋蔵文化財センター長　高妻洋成	5月20日	材料と環境2020
3	同上	千石コレクションの古代中国銅鏡の科学的研究(2)	保存修復科学研究室客員研究員　難波洋三　ほか4名	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
4	同上	ヒスイ製玉類のXRF分析の多変量統計による定量的産地同定法の開発	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美　ほか3名	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
5	同上	ウズベキスタン出土ガラス玉の科学的研究	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美　ほか1名	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
6	同上	中世アイヌ文化期におけるガラス玉の時期変遷に関する予備研究	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美　ほか1名	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
7	同上	蛍光X線分析における分析値の信頼性－金箔試料の定量分析に関する共同実験－	都城発掘調査部主任研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美 保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎　ほか5名	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
8	同上	色差分析・調整による損傷木簡解読のための改善方法の研究	保存修復科学研究室アソシエイトフェロー　柳成煜 ほか1名	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
9	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	大分市高瀬石仏の保存環境分析と対策の評価　その４）液水拡散係数の異方性を考慮した２次元熱水分移動の数値解析	保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎 保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔　ほか3名	当初4月21日開催予定、のち紙面開催	日本建築学会近畿支部
10	同上	電荷を有する多孔質材料中の熱水分塩同時移動と浸透現象	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎　ほか３名	当初4月21日開催予定、のち紙面開催	日本建築学会近畿支部
11	同上	大分市高瀬石仏の保存環境調査～その4）液水拡散係数の異方性を考慮した2次元熱水分移動の数値解析	保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎 保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔　ほか3名	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
12	同上	元町石仏における脱塩を用いた塩類風化抑制手法に関する研究－浸透現象による脱塩の利用可能性の検討－	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎 奈良文化財研究所副所長・埋蔵文化財センター長　高妻洋成　ほか3名	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
13	同上	約5年間屋外暴露した葺込銅板のあるこけら葺屋根モデルの劣化状態と銅元素分布	奈良文化財研究所副所長・埋蔵文化財センター長　高妻洋成　ほか2名	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
14	同上	Deterioration mechanism of Japanese sandstone during the drying and wetting cucles	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎 副所長　高妻洋成　ほか１名	9月7日	ICOMOS-ISCS Stone2020
15	同上	Influence of heat and moisture environment inside the shelter on sodium and calcium sulfate behavior	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎 保存修復科学研究室客員研究員　肥塚隆保 副所長　高妻洋成　ほか２名	9月7日	ICOMOS-ISCS Stone2020
16	同上	大分市高瀬石仏の保存環境に関する研究～その５液水拡散係数の異方性を考慮した熱・水分移動の数値解析	保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎 保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔　ほか3名	9月8日	日本建築学会2020年度大会（関東）
17	同上	熱水分塩同時移動方程式に基づいた数値解析による粘土中における塩溶液の浸透現象の再現性の検討	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎　ほか２名	9月8日	日本建築学会2020年度大会（関東）
18	高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	X線透過撮影による泥に覆われたキトラ古墳壁画の調査	奈良文化財研究所副所長・埋蔵文化財センター長　高妻洋成　ほか4名	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
19	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	文化財の調査・保存・活用に関する取り組みについて	保存修復科学研究室客員研究員アソシエイトフェロー 中田愛乃	11月28日	東京都市大学 キャリアデザイン

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　7件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　7件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	Why Humans Invented Pottery? -An Approach from Mass Spectrometry	国際遺跡研究室長　庄田慎矢	5月11日	第68回質量分析総合討論会
2	文化財保護に関する国際協力の推進	土器残存脂質からみた平安時代の牧における動物利用	国際遺跡研究室長　庄田慎矢	9月5日	日本文化財科学会第37回大会
3	文化遺産の保存・修復に関する人材育成等	カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存に関する技術移転を目的とした拠点交流事業	国際遺跡研究室長　庄田慎矢	9月16日	文化遺産国際協力コンソーシアム 第31 東アジア・中央アジア分科会
4	西アジア文化遺産保存協力	東アジア先史時代の土器の用途をさぐる	国際遺跡研究室長　庄田慎矢	9月19日	新学術領域研究「都市文明の本質」A01-計画研究01 第11回研究会
5	文化財保護に関する国際協力の推進	土器に入れられた食材の多様性 - 新石器時代と青銅器時代の比較 -	国際遺跡研究室長　庄田慎矢	11月7日	第44回韓国考古学会全国大会
6	文化財保護に関する国際協力の推進	アンコール王朝末期西トップ遺跡の調査成果とその検討	国際遺跡研究室専門職　佐藤由似	12月12日	東南アジア考古学会大会
7	西アジア文化遺産保存協力	Prehistoric Pottery and Beyond: Biomarker and Isomeric Identification of Crop Consumption Across Eurasia	国際遺跡研究室長　庄田慎矢, 国際遺跡研究室アソシエイトフェロー 村上夏希	11月7日	8th McDonnell Academy International Symposium

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　2件

○文化財情報基盤の整備・充実　2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関するデータベースの充実	考古学・文化財資料３D計測の意義を考える 知的財産権・著作権の観点から	文化財情報研究室研究員　高田祐一	9月12日	考古形態測定学研究会
2	文化財に関するデータベースの充実	文化財と著作権・所有権	文化財情報研究室研究員　高田祐一	12月12日	考古形態測定学研究会

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0件

c-④ シンポジウム開催実績一覧

令和3年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
8件	5件	2件	3件	0件	0件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	1件	1件		0件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		本部文化財活用センター	本部文化財防災センター	
	1件		0件	1件	

【本部文化財活用センター】　0件

【本部文化財防災センター】　1件

○シンポジウム「文化財の防災・減災―火災・地震に対する取り組み―」
開 催 日　10月25日
開催場所　京都国立博物館　講堂
主　　催　京都国立博物館
後　　援　京都府、京都市
参加者数　68人
事業内容　文化財を火災及び地震から守る取り組みを講演テーマとして、火災では首里城火災における取り組み、京都市消防局の防火への取り組みを取り上げ、地震では国立民族学博物館の事例、京都国立博物館の転倒防止に関する研究事例を取り上げた。

【東京国立博物館】　2件

○国際シンポジウム　日本美術がつなぐ博物館コミュニティー：ウィズ/ポスト・コロナ時代の挑戦
開 催 日　3年1月30日
開催場所　東京国立博物館　平成館大講堂（オンラインでのライブ配信を実施）
主　　催　ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業実行委員会2020
参加人数　1,287人（参加者数はYouTube再生回数）
事業内容　欧米のミュージアムの日本美術専門家とともに、コロナ禍の状況下で、ミュージアムはいかなる未来像を描いて活動し、日本美術を研究し、成果を発信するのか、その意義について展望した。

○国際シンポジウム　日本文化としての『きもの』を考える
開 催 日　3年2月26日
開催場所　事前収録・YouTube配信
主　　催　東京国立博物館
参加人数　3,665人（参加者数はYouTube再生回数）
事業内容　日本文化の象徴として世界中に知られている「きもの」を研究されてきた研究者とともに、「きもの」が日本の文化として展覧会に取り上げられる意味を提示し、現在を生きる文化としての「きもの」の過去と現在を考察した。

【京都国立博物館】　3件

○ICOM京都大会１周年記念シンポジウム「SDGsと博物館」
開 催 日　9月26日
開催場所　京都国立博物館　平成知新館講堂
主　　催　ICOM日本委員会、日本博物館協会、京都国立博物館
後　　援　京都府、京都市、京都市教育委員会、京都市内博物館施設連絡協議会
参加人数　80人
事業内容　ICOM京都大会2019開催1周年を記念し、SDGsのために博物館が果たすべき役割を再認識し、博物館政策の課題と展望について考察した。
基調講演「京都市におけるSDGsの取り組みについて」「博物館とSDGｓ」
パネリスト4人によるパネルディスカッション

○シンポジウム 文化財の防災・減災 ―火災・地震に対する取り組み―
開 催 日　10月25日
開催場所　京都国立博物館　平成知新館講堂
主　　催　京都国立博物館
後　　援　京都府、京都市
参加人数　68人
事業内容　文化財を火災及び地震から守る取り組みを講演テーマとして、火災では首里城火災における取り組み、京都市消防局の防火への取り組みを取り上げ、地震では国立民族学博物館の事例、京都国立博物館の転倒防止に関する研究事例を取り上げた。

○文化財保存修理所開所40周年記念シンポジウム「文化財修理のいま、むかし」
開 催 日　12月19日
開催場所　京都国立博物館　平成知新館講堂
主　　催　京都国立博物館、京都新聞、京都へのいざない実行委員会
協　　力　国宝修理装潢師連盟、美術院
参加人数　100人
事業内容　文化財修理の過去、現在そして未来について考えるため、文化庁文化財調査官による基調講演、修理技術者による発表、全体討論を行った。
基調講演「書跡・古文書の修理の進展と展望」
発表「文化財保存修理所創立期の思い出と書画修理のこれまで」、「絵画修理のこれから」、「文化財修理と科学技術の応用」、
「彫刻修理のあゆみと美術院」、「彫刻修理のこれから」

【奈良国立博物館】　0件

【九州国立博物館】　0件

【東京文化財研究所】　1件

○国際シンポジウム「東南アジアにおける木造建築遺産の保存修理」

開 催 日	11月21日
開催場所	オンライン／東京文化財研究所
主　　催	東京文化財研究所
参加者数	56人
事業内容	東南アジア地域における木造建築保存の方法論の特徴や課題を議論する国際シンポジウムを開催した。

【奈良文化財研究所】　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　1件

○国際シンポジウム「無形文化遺産の持続可能な開発に関する研究：教育とまちづくり」

開 催 日	3年1月28日～29日
開催場所	オンライン
主　　催	アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)
参加者数	34人
事業内容	無形文化遺産が、持続可能な開発目標(SDGs)の目標4「質の高い教育」及び目標11「住み続けられるまちづくり」に果たす役割に関して、提携機関である、インドネシア、キルギス、バングラデシュ及び日本各地の事例研究を共有し、今後の展望や課題を検討した。

c-⑤ 論文等発表実績一覧

令和 3 年 3 月 31 日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
388 件	225 件	107 件	51 件	31 件	36 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	141 件	35 件	106 件	0 件	
	本部文化財活用センター	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		本部文化財防災センター	
	16 件	0 件		6 件	

【本部文化財活用センター】16件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　11 件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	本部文化財活用センター副センター長　小林牧	「文化遺産の未来へのまなざし」（座談：矢野和之×西村幸夫×小林牧×マルティネス・アレハンドロ×海野聡）	「建築雑誌」	日本建築学会	11月1日	無
2	同上	本部文化財活用センター副センター長　小林牧	なりきり日本美術館リターンズ	月刊「うえの」	上野のれん会	11月1日	無
3	同上	本部文化財活用センター副センター長　小林牧	なりきり日本美術館リターンズ	文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」№78	文化庁	11月30日	無
4	同上	本部文化財活用センター企画担当課長　松嶋雅人	美を紡ぐ　芥子　小林古径筆	『月刊経団連』2020 年 4 月号	日本経済団体連合会	4月1日	無
5	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員　高橋真作	東国の個性派画人－雪村と式部	特別展『桃山－天下人の 100 年』図録	読売新聞社	10月6日	無
6	同上	本部文化財活用センター企画担当研究員　高橋真作	博物館に初もうで　ウシにひかれてトーハクまいり	文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」№79	文化庁	12月25日	無
7	同上	本部文化財活用センター企画担当研究員　高橋真作	博物館に初もうで　ウシにひかれてトーハクまいり	月刊「うえの」740 号	上野のれん会	1月1日	無
8	同上	本部文化財活用センター企画担当研究員　高橋真作	美を紡ぐ 重要文化財 四季山水図屏風	『月刊経団連』2021 年 2 月号	日本経済団体連合会	2月1日	無
9	同上	本部文化財活用センター企画担当研究員　高橋真作	絵画作品の展示と取扱い	『21 世紀の博物館学・考古学』	雄山閣	2月25日	無
10	同上	本部文化財活用センター企画担当研究員　高橋真作	雪舟と明代宮廷画壇	特集『宮廷から地方へ―明時代の絵画と書跡』小冊子	東京国立博物館	3月2日	無
11	同上	本部文化財活用センター企画担当研究員　高橋真作	狩野元信印「富士曼荼羅図」の構造と機能	『造形のポエティカ―日本美術史を巡る新たな地平』	青簡舎	3月31日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　5件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	文化財活用センター保存担当室長　吉田直人、同研究員　間渕創	展示ケース等で使用されるクロスから発生するアンモニアの簡便な検出とリスク評価方法の検討	文化財保存修復学会第 42 回大会研究発表集	文化財保存修復学会	7月10日	無
2	同上	本部文化財活用センター保存担当室長　吉田直人	博物館等における新型コロナウイルス感染拡大防止対策について	月刊文化財 2020 年 11 月号	第一法規株式会社（文化庁監修）	11月1日	無
3	同上	東京文化財研究所保存科学研究センター研究補佐員　相馬静乃、文化財活用センター保存担当室長　吉田直人　他	特定波長域を遮光した光照射下における黄色系染料を主とした有機染料の変退色挙動	保存科学第 60 号	東京文化財研究所	3年3月	有
4	同上	本部文化財活用センター保存担当研究員　間渕創、東京文化財研究所生物科学研究室長・佐藤嘉則	博物館等における ATP 拭き取り検査によるカビ集落の活性評価について	保存科学第 60 号	東京文化財研究所	3年3月	有
5	同上	本部文化財活用センター保存担当研究員　間渕創、同保存担当室長　吉田直人	塩素系消毒剤からの揮発物質が文化財へ与える影響について	保存科学第 60 号	東京文化財研究所	3年3月	有

【本部文化財防災センター】6件

○文化財防災に関する調査研究　6 件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財防災に関する調査研究	文化財防災センターセンター長　髙妻洋成	文化財防災センターの設立と今後の活動について	月刊文化財 12 月号	第一法規	12月1日	無
2	同上	文化財防災センター長 髙妻洋成	文化財防災の現状と課題	文化財の虫菌害 80 号	文化財虫菌害研究所	12月26日	無
3	同上	文化庁文化資源活用課文化財調査官　森井順之、文化財防災センター長 髙妻洋成	首里城火災と文化財保存に向けた取り組み	令和 2 年度文化財防災センター事業　シンポジウム　文化財の防災・減災 火災・地震に対する取り組み　報告書	京都国立博物館	3年2月25日	無
4	同上	文化財防災センターアソシエイトフェロー　林美木子、東京文化財研究所保存科学研究センター研究補佐員　内田優花、東京文化財研究所名誉研究員 佐野千絵、元岩手県立博物館 赤沼英男	Amélioration du procédé de stabilisation des documents altérés par le tsunami sous l’angle du contrôle microbiologique	Support/Tracé	ARSAG	3年3月31日	有
5	同上	はこだて未来大学准教授 村井源、文化財防災センターアソシエイトフェロー 林美木子、文化財防災プロジェクトチーム（東京文化財研究所文化財情報資料部文化財情報研究室長）ニ神葉子、国立文化財機構 内藤百合子、東京文化財研究所副所長　山梨絵美子	阪神・淡路大震災の日報分析と三つの震災における文化財レスキュー活動の比較	保存科学	保存科学研究センター	3年3月31日	有
6	同上	文化財防災センター長 髙妻洋成	文化財防災センターの設立とその取り組み	群馬の歴史資料を未来へ	群馬歴史資料継承ネットワーク	3年3月	無

【東京国立博物館】107件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　87件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	明恵上人の右耳	本郷 148 号	吉川弘文館	7 月 1 日	無
2	同上	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	ここまでわかった鳥獣戯画（特集 謎解き 鳥獣戯画）	芸術新潮 71 巻 7 号	新潮社	7 月 25 日	無
3	同上	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕		もっと知りたい鳥獣戯画	東京美術	7 月 30 日	無
4	同上	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	和魂漢才―書画のススメ　国宝「地獄草紙」	美術の窓 443 号	生活の友社	8 月 20 日	無
5	同上	企画課特別展室主任研究員　土屋貴裕	中世最後のやまと絵師　土佐光茂の革新性	特別展「桃山―天下人の 100 年」図録	読売新聞社	10 月 6 日	無
6	同上	企画課特別展室研究員 山本亮	土器からみた古墳出現期の布留川流域	研究紀要第 24 集	公益財団法人由良大和古代文化研究協会	6 月 28 日	無
7	同上	調査研究課長　河野一隆	Fine-tuned Pre-trained Mask R-CNN Models for Surface Object Detection	ESTOCON2021	Cornell University	10 月 22 日	有
8	同上	企画課特別展室研究員 山本亮	Fine-tuned Pre-trained Mask R-CNN Models for Surface Object Detection	ESTOCON2021	Cornell University	10 月 22 日	有
9	同上	調査研究課長　河野一隆	DetectorAlgorithmsof Bounding Box andSegmentation Maskof a Mask R-CNN Model	ESTOCON2021	Cornell University	10 月 26 日	有
10	同上	企画課特別展室研究員 山本亮	DetectorAlgorithmsof Bounding Box andSegmentation Maskof a Mask R-CNN Model	ESTOCON2021	Cornell University	10 月 26 日	有
11	同上	企画課特別展室研究員 山本亮	古墳出現期の鴨田・馬場遺跡の検討	古墳出現期土器研究第 7 号	古墳出現期土器研究会	11 月 30 日	有
12	同上	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	「馬琬筆「幽居図巻」の伝来をめぐって」「高島槐安コレクションの中国絵画」	「清朝書画コレクションの諸相」図録	台東区立書道博物館	3 年 1 月 2 日	無
13	同上	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	作品解説ほか	「アジアのレジェンド」小冊子	東京国立博物館	9 月 8 日	無
14	同上	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	作品解説ほか	「特集　宮廷から地方へ」小冊子	東京国立博物館	3 年 3 月 2 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
15	同上	企画課国際交流室アソシエイトフェロー　武瀟瀟	Un paysage chinois dans le Japon de l’époque Muromachi (1333-1573) A propos des huit vues de la région de Shôshô(「室町時代の住宅に描かれた異国風景：瀟湘八景を例として」)	Mutations paysagères de l’espace habité au Japon : De la maison au territoire（論集『日本における風景の変遷 ――住宅空間から都市まで』）	Bibliothèque de l’institut des hautes études japonaises, Collège de France	10月1日	有
16	同上	博物館情報課長　今井敦	中国陶磁における吉祥意匠について―意味に根ざした造形・造形に根ざした意味	『美術フォーラム21』第41号	一般社団法人美術フォーラム21	5月30日	無
17	同上	博物館情報課長　今井敦	《研究ノート》仁清作　色絵月梅図茶壺について	『MUSEUM』第686号	東京国立博物館	8月15日	有
18	同上	博物館情報課長　今井敦	《研究ノート》宝暦・明和・安永期の京都のやきものについて―楽を中心に―	『MUSEUM』第687号	東京国立博物館	9月1日	有
19	同上	列品管理課登録室研究員　六人部克典	作品解説ほか	博物館でアジアの旅　アジアのレジェンド	東京国立博物館	9月8日	無
20	同上	列品管理課登録室研究員　六人部克典	「高島槐安の生涯とコレクション、そして蘭亭序」「高島槐安の手控え帳」「高島槐安コレクションの中国書跡」「高島槐安略年譜」	清朝書画コレクションの諸相－中村不折・高島槐安収集品を中心に－	公益財団法人台東区芸術文化財団	3年1月2日	無
21	同上	列品管理課平常展調整室長　皿井舞	国風文化期の美術の諸相	シリーズ古代をひらく国風文化	岩波書店	3年3月29日	有
22	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　金井裕子	美を紡ぐ 国宝　檜図屏風	『月刊経団連』2020年10月号	日本経済団体連合会	10月1日	無
23	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　金井裕子	十六世紀土佐派の源氏絵	特別展『桃山―天下人の100年』図録	読売新聞社	10月6日	無
24	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　金井裕子	守護大名大内氏の文化と「桃山」	特別展『桃山―天下人の100年』図録	読売新聞社	10月6日	無
25	同上	調査研究課長　河野一隆	装飾墓の比較研究序説	考古学雑誌第103巻第２号	考古学会	3年3月10日	有
26	同上	調査研究課絵画・彫刻室長　沖松健次郎	約1000年前の国宝「聖徳太子絵伝」、デジタル技術による再現の裏側	ダイヤモンド・オンライン	ダイヤモンド社	10月11日	無
27	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	遊ぶ南蛮人―新出個人蔵本およびサントリー美術館本の南蛮屏風について―	板倉聖哲・高岸輝編『日本美術のつくられ方――佐藤康宏先生の退職によせて』	羽鳥書店	12月18日	無
28	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	16～17世紀の欧文史料にみる日本の絵画受容	『鹿島美術財団年報』37号別冊	鹿島美術財団	11月15日	無
29	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	コラム：キリスト教宣教師たちが見た桃山絵画	特別展「桃山―天下人の100年」図録	読売新聞社	10月6日	無
30	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	Envisioning the West: European-style Paintings in Late 16-17th century Japan	Toward the Future: Museums and Art History in East Asia, Proceedings of the 2019 CIHA Colloquium in Tokyo	Japanese committee for CIHA, the Otsuka Museum of Art, Tokyo	6月	無
31	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員　大橋美織	美を紡ぐ 重要文化財 風神雷神図屏風	『月刊経団連』2020年7月号	日本経済団体連合会	7月1日	無
32	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員　古川攝一	矢代幸雄と大和文華館の設立－文化交流の場としての美術館	江川温・田邊めぐみ他編『東西中世のさまざまな地平－フランスと日本の交差するまなざし－』	知泉書館	6月30日	有
33	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員　古川攝一	作品解説「地蔵菩薩像（マニ像）」	国華	国華社	5月20日	有
34	同上	調査研究課工芸室　主任研究員　佐藤寛介	東京国立博物館所蔵 十二間星兜鉢の歴史的意義―東京都足立区伊興経塚出土品の再評価	「MUSEUM」689号	東京国立博物館	12月20日	有
35	同上	調査研究課工芸室　主任研究員　佐藤寛介	コラム：当世具足の成立	特別展「桃山―天下人の100年」図録	読売新聞社	10月6日	無
36	同上	調査研究課工芸室　主任研究員　佐藤寛介	日本の甲冑	東京国立博物館セレクション	東京国立博物館	3年1月29日	無
37	同上	調査研究課工芸室研究員　福島修	「水指分類大全」	『淡交別冊』第77号	淡交社	7月17日	無
38	同上	調査研究課工芸室研究員　福島修	コラム「うつわと「振舞」の根もと」	特別展「桃山―天下人の100年」図録	読売新聞社	10月6日	無
39	同上	調査研究課東洋室長　勝木言一郎	「ギリシャ神話の英雄ヘーラクレース」「インド神話の英雄―インドの細密画」	『博物館でアジアの旅　アジアのレジェンド』図録	東京国立博物館	9月8日	無
40	同上	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁	夜郎の伝説	『アジアのレジェンド』	東京国立博物館	9月8日	無
41	同上	調査研究課東洋室主任研究員　市元塁	汉三国考古备忘录	『寻踪三国』	中信出版集团	3年1月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
42	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩、ほか外部研究者	The separation of softwood and hardwood in historical wooden statues of the Nazenji-temple in Japan using NIR spectroscopy	IAWA Journal 41(4)	International Association of Wood Anatomists	9月15日	有
43	同上	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美	「津波の被害を受けた皮革資料「カワノフク」の処置」	文化財保存修復学会　第42回大会　研究発表集	一般社団法人文化財保存修復学会	7月10日	無
44	同上	保存修復課保存修復室研究員　野中昭美	「津波の被害を受けた木製彩色資料「算額」の脱塩処理」	文化財保存修復学会　第42回大会　研究発表集	一般社団法人文化財保存修復学会	7月10日	無
45	同上	客員研究員　高濱秀	Two technical traditions of casting horse bits in China and their relationships with the steppe area	Asian Archaeology 2020-3, pp.47-57	吉林大学、辺疆考古研究中心	2年	有
46	同上	調査研究課考古室主任研究員　河野正訓	山口県萩市見島ジーコンボ古墳群の被葬者像	柳本照男さん古稀記念論文集ー忘年之交の考古学ー	柳本照男さん古稀記念論集刊行会	12月26日	無
47	同上	調査研究課考古室主任研究員　河野正訓	日本列島における古墳時代の鉄柄斧	考古学雑誌第103巻2号	日本考古学会	3年3月10日	有
48	同上	調査研究課考古室主任研究員　河野正訓	岐阜県船来山古墳群の渡来系移住民ー生産用具の検討を中心にー	昼飯の丘に集う―中井正幸さん還暦記念論集―	中井正幸さん還暦記念論集刊行会	3年3月31日	無
49	同上	列品管理課平常展調整室長　皿井舞	仏像写真の歴史と未来	ものの記憶-読み解き　伝え　遺す-	東京文化財研究所	3年3月31日	無
50	同上	調査研究課工芸室主任研究員　三田覚之	《研究ノート》各種の模写を通じてみた法隆寺金堂六号壁画の化生菩薩像	MUSEUM第685号	東京国立博物館	4月15日	有
51	同上	調査研究課東洋室長　勝木言一郎	人面鳥像	『MUSEUM』690号	東京国立博物館	3年2月20日	無
52	同上	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	染織の模様と文化	ハルオ・シラネ編『東アジア文化講座4　東アジアの自然観』	文学通信	3年2月28日	無
53	同上	調査研究課工芸室長　小山弓弦葉	根津美術館所蔵「誰が袖図屏風」「誰が袖美人図屏風」に関する一考察 ー日本服飾史・染織史の視点からー	根津美術館紀要『此君』第十二号	根津美術館	3年3月31日	無
54	同上	学芸企画部長　田沢裕賀	変革の時代の絵画	特別展「桃山―天下人の100年」図録	読売新聞社	10月6日	無
55	同上	学芸企画部長　田沢裕賀	京（みやこ）のすがた	特別展「桃山―天下人の100年」図録	読売新聞社	10月6日	無
56	同上	学芸企画部長　田沢裕賀	「変容する絵画表現」ー室町・安土桃山・江戸の水墨花鳥図	特別展「桃山―天下人の100年」図録	読売新聞社	10月6日	無
57	同上	学芸企画部長　田沢裕賀	永徳のライバルと後継者	特別展「桃山―天下人の100年」図録	読売新聞社	10月6日	無
58	同上	学芸企画部長　田沢裕賀	自娯の造形ー本阿弥光悦	特別展「桃山―天下人の100年」図録	読売新聞社	10月6日	無
59	同上	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕	鳥獣戯画のここがすごい！	時空旅人別冊	三栄	3年2月12日	無
60	同上	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕	国宝鳥獣戯画がやって来る！	ノジュール73号	JTBパブリッシング	3年2月28日	無
61	同上	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕	特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」	うえの742号	うえののれん会	3年3月12日	無
62	同上	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕	鳥獣戯画の全貌を知る、史上空前の展覧会　特別展「国宝　鳥獣戯画のすべて」	美術の窓451号	生活の友社	3年3月20日	無
63	同上	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」によせて	茶道雑誌	河原書店	8月3日	無
64	同上	企画課特別展室長　猪熊兼樹	コラム：近世初期の蒔絵	特別展「桃山―天下人の100年」図録	読売新聞社	2年10月6日	無
65	同上	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕	ここまでわかった鳥獣戯画/全巻通しで一気に観る！	謎解き　鳥獣戯画	新潮社	3年3月26日	無
66	同上	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕	鳥獣戯画　制作年代の再検討	ユリイカ2021年4月号	青土社	3年3月27日	無
67	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　金井裕子	特別展「桃山」をみる	クロワッサン11月10日号	マガジンハウス	11月10日	無
68	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　金井裕子	木挽町狩野家の記録と学習	特集リーフレット「木挽町狩野家の記録と学習」	東京国立博物館	3年2月9日	無
69	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　金井裕子）	コラム　伝禅月筆「羅漢図」の世代を超えた模写	特集リーフレット「木挽町狩野家の記録と学習」	東京国立博物館	3年2月9日	無
70	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　金井裕子員）	コラム　木挽町画所での門人教育	特集リーフレット「木挽町狩野家の記録と学習」	東京国立博物館	3年2月9日	無
71	同上	列品管理課平常展調整室主任研究員　金井裕子	コラム　「公用日記」にみる長篠・長久手合戦図屏風の新図制作	特集リーフレット「木挽町狩野家の記録と学習」	東京国立博物館	3年2月9日	無
72	特別調査「法隆寺献納宝物」（第42次）	調査研究課工芸室主任研究員　三田覚之	法隆寺献納宝物特別調査概報　刺繍	法隆寺献納宝物特別調査概報　刺繍	東京国立博物館	3年3月31日	無
73	東洋民族資料に関する調査研究	企画課出版企画室研究員研究員　植松瑞希	「中国絵画史研究と画絹調査」	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究報告書Ⅲ　絹織製作技術	東京文化財研究所	3年3月22日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
74	同上	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕	画絹の調査研究が目指すところ	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究報告書Ⅲ　絹織製作技術	東京文化財研究所	3 年 3 月 22 日	無
75	特集「書と料紙―平安時代の美しい紙―」に関連する調査研究	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	奈良時代の書 3 光明皇后御願五月一日経	ビオ・シティ 82 号	ブックエンド	4 月 6 日	無
76	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	平家納経を考える 1 提婆品	ビオ・シティ 83 号	ブックエンド	7 月 7 日	無
77	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	元永本古今和歌集の魅力とその伝来について	墨 265 号	芸術新聞社	8 月 1 日	無
78	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長　恵美千鶴子	平家納経を考える２　宝塔品	ビオ・シティ 84 号	ブックエンド	10 月 10 日	無
79	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長・恵美千鶴子	平家納経を考える３　平清盛筆願文	ビオ・シティ 85 号	ブックエンド	3 年 1 月 7 日	無
80	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長・恵美千鶴子	近衛信尹筆「源氏物語和歌色紙貼交屏風」	陽明文庫講座 図録２	東京大学資料編纂所・公益財団法人陽明文庫	3 年 2 月 13 日	無
81	同上	東京国立博物館百五十年史編纂室長・恵美千鶴子	嚴島神社蔵「平家納経」受容の歴史	東京国立博物館紀要 56 号	東京国立博物館	3 年 3 月 31 日	無
82	特集「世界と出会った江戸美術」に関連する調査研究	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	作品解説	リーフレット：特集「世界と出会った江戸美術」	東京国立博物館	11 月 25 日	無
83	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員　鷲頭桂	作品解説	リーフレット：特集「世界と出会った江戸美術」	東京国立博物館	11 月 25 日	無
84	同上	東京国立博物館学芸企画部企画課特別展室長・猪熊兼樹	解説	リーフレット：特集「世界と出会った江戸美術」	東京国立博物館	11 月 25 日	無
85	特別展「きものKIMONO」に関連する調査研究	調査研究課絵画・彫刻室研究員　大橋美織	江戸時代の風景画の流行ときもの	特別展「きもの KIMONO」図録	朝日新聞社	4 月 14 日	無
86	同上	企画課特別展室長・猪熊兼樹	コラム：男性の根付・印籠	特別展「きもの KIMONO」図録	朝日新聞社	4 月 4 日	無
87	博物館環境デザインに関する調査研究	企画課上席研究員　木下史青	美術館・博物館の照明技術指針（執筆担当項「保守・メンテナンス」）	照明学会技術指針番号：JIEG-012(2021)	照明学会	3 年 3 月 1 日	有

○その他有形文化財に関連する調査研究　20件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	博物館の環境保存に関する調査研究	保存修復課環境保存室長 和田浩	走行中の美術品輸送専用車両荷台上で生じた衝撃加速度値と荷台上の位置との関係についての考察	文化財科学　第 82 号	日本文化財科学会	3年2月1日	有
2	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	施設内での文化財輸送時に台車上で生じる振動への対策	文化財保存修復学会第 42 回大会研究発表集	文化財保存修復学会	7月10日	無
3	同上	保存修復課環境保存室相川悠、保存修復課環境保存室長　和田浩	老朽化した収蔵施設における生物被害状況及びその対策の事例報告	文化財保存修復学会第 42 回大会研究発表集	文化財保存修復学会	7月10日	無
4	同上	保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔、学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室研究員　六人部克典、学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩、学芸企画部企画課デザイン室長　矢野賀一	博物館・美術館における災害リスク軽減の現状と課題-日本、タイ、フランス、台湾の比較から-	文化財保存修復学会第 42 回大会研究発表集	文化財保存修復学会	7月10日	無
5	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔、学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室研究員　六人部克典、学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩	市町村における文化財防災の現状と課題	文化財保存修復学会第 42 回大会研究発表集	文化財保存修復学会	7月10日	無
6	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩	美術品レプリカを用いた加振実験について	日本包装学会第 29 回年次大会研究発表会予稿集	日本包装学会	7月15日	無
7	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔、学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩、学芸研究部列品管理課貸与特別観覧室研究員　六人部克典	文化財防災に向けた分野横断型連携の構築―関東甲信越地域における取り組み―	日本建築学会 2020 年度大会（関東）学術講演梗概集	日本建築学会	7月20日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
8	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩	輸送時に屏風構造を持つ美術品に発生する共振現象に関する基礎的研究	日本文化財科学会第 37 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	9月5日	無
9	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔、学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩、学芸企画部企画課デザイン室長　矢野賀一、学芸企画部企画課デザイン室アソシエイトフェロー　荻堂正博	想定を超える水平加速度をもつ地震波を受けた際の博物館用免震装置の挙動	日本文化財科学会第 37 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	9月5日	無
10	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩	法隆寺金堂収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究-数値解析による小屋裏の吸放湿を用いた室の除湿による環境調整方法の検討-	日本文化財科学会第 37 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	9月5日	無
11	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩	屏風構造を持つ美術品の振動応答に関する基礎的研究	日本機械学会 2020 年度年次大会講演論文集	日本機械学会	9月7日	無
12	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩	展示室内の滞留者数と室内環境について	第 39 回日本展示学会研究大会研究発表梗概集	日本展示学会	9月20日	無
13	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室長　和田浩	資料の展示で用いられる支持具における保存と演出の両立に関する課題	教職課程センター紀要 第 5 号	大東文化大学	12月1日	無
14	同上	学芸研究部保存修復課環境保存室アソシエイトフェロー　黄川田翔	博物館・美術館における災害リスク軽減に向けた異業種間連携の試み	日本文化財科学会第 37 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	9月5日	無
15	同上	保存修復課環境保存室長・和田浩	書跡資料の保存と展示	桐墨第 12 号	大東文化大学	3年3月20日	無
16	同上	保存修復課環境保存室長・和田浩	展示環境の保全と新型コロナウイルス感染拡大防止策	長崎県博物館協会会報	長崎県博物館協会	3年3月31日	無
17	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	博物館情報課情報資料室 専門職　山﨑美和	（『専門図書館と著作権 Q&A2012』改訂原稿分担執筆・編集）	専門図書館と著作権 Q&A 第 4 版	専門図書館協議会	5月1日	無
18	同上	博物館情報課情報資料室 専門職　山﨑美和	時間と空間を越えて伝え続けるために 東京国立博物館資料館紹介	専門図書館	専門図書館協議会	12月末予定	無
19	同上	博物館情報課情報資料室 専門職　山﨑美和	博覧会資料とシーボルト旧蔵本～日本の近代化に貢献した資料群～（連載：ウチの図書館お宝紹介！　東京国立博物館資料館）	図書館雑誌	日本図書館協会	3年1月予定	無
20	同上	博物館情報課情報管理室 主任研究員　阿児雄之	考古学・文化財資料のデータ・情報流通を進めていきませんか	考古学・文化財のためのデータサイエンス・サロン online 予稿集#5	考古形態測定学研究会	12月31日	無

【京都国立博物館】51件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　40件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	特別展 「聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―」に関する調査研究	上席研究員　淺湫毅、企画室長　山川曉、美術室長　羽田聡、教育室長　永島明子、調査・国際連携室長　呉孟晋、保存修理指導室長　大原嘉豊、保存修理指導室主任研究員　福士雄也、工芸室主任研究員　末兼俊彦、企画室研究員　井並林太郎、美術室研究員　上杉智英、特任研究員　宮川禎一	作品解説等	『西国三十三所 草創一三〇〇年記念 特別展 聖地をたずねて―西国三十三所の信仰と至宝―』（展覧会図録）	京都国立博物館	7月	無
2	特別展 「皇室の名宝」に関する調査研究	企画室長　山川曉、美術室長　羽田聡、教育室長　永島明子、調査・国際連携室長　呉孟晋、保存修理指導室長　大原嘉豊、保存修理指導室主任研究員　福士雄也、工芸室主任研究員　末兼俊彦、企画室研究員　井並林太郎、美術室研究員　上杉智英	作品解説等	『御即位記念 特別展 皇室の名宝』（展覧会図録）	京都国立博物館	10月	無
3	特別企画「文化財修理の最先端」に関する調査研究	上席研究員　淺湫毅、企画室長　山川曉、美術室長　羽田聡、教育室長　永島明子、調査・国際連携室長　呉孟晋、保存修理指導室長　大原嘉豊、保存科学室長　降幡順子、保存修理指導室主任研究員　福士雄也、企画室研究員　井並林太郎、美術室研究員　上杉智英、美術室研究員　森道彦	作品解説等	『特別企画　文化財保存修理所開所 40 周年記念 文化財修理の最先端』（展覧会図録）	京都国立博物館	12月	無
4	特別企画「新聞人のまなざし―上野有竹と日中書画の名品―」に関する調査研究	美術室長　羽田聡、調査・国際連携室長　呉孟晋、保存修理指導室長　大原嘉豊、保存修理指導室主任研究員　福士雄也、調査・国際連携室主任　降矢哲男、企画室研究員　井並林太郎、美術室研究員　上杉智英、美術室研究員　森道彦	作品解説等	『仏教美術研究 上野記念財団設立五十周年記念誌 新聞人のまなざし 上野有竹と日中書画の名品』	公益財団法人 仏教美術研究上野財団	3年2月	無
5	特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」に関する調査研究	上席研究員　淺湫毅、企画室長　山川曉、美術室長　羽田聡、教育室長　永島明子、調査・国際連携室長　呉孟晋、保存修理指導室長　大原嘉豊、保存修理指導室主任研究員　福士雄也、工芸室主任研究員　末兼俊彦、企画室研究員　井並林太郎、美術室研究員　上杉智英、美術室研究員　森道彦、特任研究員　宮川禎一	作品解説等	『凝然国師没後七百年 特別展　鑑真和上と戒律のあゆみ』（展覧会図録）	京都国立博物館	3年3月	無
6	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	学芸部長　尾野善裕	「前近代東アジア窯業技術系統論―ロクロの回転を視座として―」	『韓日文化財論集Ⅳ』	（大韓民国）國立文化財研究所	12月4日	無
7	同上	同上	「茶道具・会席食器と考古学―陶磁器を中心に―」	『季刊考古学別冊』33	雄山閣	3年2月25日	無
8	同上	上席研究員　淺湫毅	「京都東山・正法寺の木造阿弥陀如来立像」	『学叢』第 42 号	京都国立博物館	6月	無
9	同上	同上	「岐阜・長福寺の銅造双身天立像」	『学叢』第 42 号	京都国立博物館	6月	無
10	同上	教育室長　永島明子 保存科学室長　降幡順子 （共著：池田素子氏）	「平安時代の蒔絵箱三合について―宝相華迦陵頻伽蒔絵壜冊子箱（仁和寺蔵）・宝相華蒔絵宝珠箱（仁和寺蔵）・宝相華蒔絵経箱（延暦寺蔵）―」	『学叢』第 42 号	京都国立博物館	6月19日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
11	同上	教育室長　永島明子	「夕顔蒔絵象嵌料紙・硯箱」	『なにわ』8 月号	大阪府警察	7月	無
12	同上	同上	「もっとあなたを知りたくて」	『京都国立博物館だより』207 号	京都国立博物館	7月	無
13	同上	調査・国際連携室長　呉孟晋	「（動向）美術」	『中国年鑑 2020』	中国研究所	5月	無
14	同上	同上	「李仲生的「超現実主義」」	『日殖時期現代文芸的共時与差異論壇専輯』（電子書籍）	国立台湾美術館	7月	無
15	同上	同上	（作品解説）「花鳥図　沈銓筆」	『創建 550 年記念　御堂陽願寺の名宝』	越前市武生公会堂記念館	8月	無
16	同上	同上	「長尾雨山と鄭蘇戡の交友：京都国立博物館と「長尾雨山関係資料」にある鄭孝胥の作品と資料について」	『書論』46 号	書論研究会	10月	無
17	同上	同上	「斉白石和徐悲鴻合作的一個機縁―以須磨旧蔵的《松上老鼠図》談起」	『斉白石研究第八輯』	広西師範大学出版社（北京画院編）	12月	無
18	同上	保存修理指導室長　大原義豊	愛知・林泉寺所蔵「釈迦三尊像」に関する考察	『学叢』第 42 号	京都国立博物館	6月	無
19	同上	保存科学室長　降幡順子 企画室研究員　井並林太郎	「佐竹本三十六歌仙絵　科学分析結果報告」	『学叢』第 42 号	京都国立博物館	6月19日	無
20	同上	保存科学室長　降幡順子 研究員　古谷毅 （共著：小山和浩氏）	鳥取県立博物館蔵宇部神社経塚出土経筒の科学的調査―X 線 CT・蛍光 X 線調査による構造および材質分析―	『学叢』第 42 号	京都国立博物館	6月19日	無
21	同上	調査・国際連携室主任研究員　降矢哲男	「遺跡は語る 京三条せともの屋町」	『淡交』12 月号	淡交社	12月1日	無
22	同上	同上	「色絵栄花物語冊子形硯箱」	『なにわ』3 月号	大阪府警	3年3月	無
23	同上	保存修理指導室主任研究員　福士雄也	「賢聖障子　住吉広行筆」	『なにわ』1 月号	大阪府警	3年1月	無
24	同上	同上	「画題を知る　子日遊・七福神・歳寒三友」	『絵の掛物』1 号	淡交社	12月	無
25	同上	美術室主任研究員　末兼俊彦	「日本の刀剣（일본도）」	『武士무사　SAMURAI Patrons of Japanese art and culture』展覧会図録	韓国国立中央博物館	12月	無
26	同上	企画室研究員　井並林太郎	「後白河院政期の絵画制作と蓮華王院宝蔵―『治承三十六人歌合』を手がかりに―」	『美術フォーラム 21』42 号	一般社団法人美術フォーラム 21	12月	無
27	同上	美術室研究員　森道彦	「近世における障壁画の保存と継承」	岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人編『日本の表装と修理』	勉誠出版	3月25日	無
28	同上	同上	作品解説等	『公益財団法人渡辺美術館所蔵品調査報告書 中近世絵画（第六回）』	渡辺美術館	3月	無
29	同上	同上	「ある学芸職員の手紙」	『京都国立博物館だより』206 号	京都国立博物館	4月	無
30	同上	同上	「舟行送別図」	『なにわ』7 月号	大阪府警察	7月	無
31	同上	同上	「装潢の系譜と現在」	『月刊文化財』684 号	第一法規	10月1日	無
32	同上	同上	松平定信と天神信仰の絵画 ―『天満宮御署傳』の紹介を兼ねて―	板倉聖哲・髙岸輝編『日本美術のつくられ方　佐藤康宏先生の退職によせて』	羽鳥書店	12月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
33	同上	研究員　古谷毅	古墳時代山岳信仰の空間構成	『山岳信仰と考古学』Ⅲ（菅谷文則先生追悼論文集）	同成社	6月18日	無
34	同上	同上	「京都鴨沂会 第５１回教養講座要旨　埴輪と古墳時代の人々 －古代国家成立前夜の社会像-」	『鴨沂会誌』第 157 号	公益財団法人京都鴨沂会	7月25日	無
35	同上	同上	「甲冑資料と芸術―末永雅雄と前田青邨交流の淵源」	『美術史と考古学』（季刊考古学　別冊 33）	雄山閣出版	3年2月25日	無
36	近畿地区を中心とする社寺文化財の調査研究	企画室長　山川曉	「南宋時代における袈裟へのまなざし」	『アジア仏教美術論集 東アジアⅣ　南宋・；大理・金』	中央公論美術出版社	12月	無
37	博物館教育に関する調査研究	教育室主任研究員　水谷亜希（共著：烏賀陽梨沙氏）	京都国立博物館におけるボランティア活動の展開とその意義―京博ナビゲーター―	『学叢』第 42 号	京都国立博物館	6月	無
38	同上	教育室長　永島明子	「あみめ」	『総人・人環広報』61	京都大学総合人間学部／人間・環境学研究科	10月	無
39	同上	企画室長　山川曉	「ステイホームと博物館」	『茶道雑誌』	河原書店	3年3月	無
40	同上	教育室主任研究員　水谷亜希	「〈作る・見る・語る〉が交錯する場所」	『美術を作る・見る・語る』	京都市学校歴史博物館	3年3月	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　11件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	その他有形文化財に関する調査研究	学芸部長　尾野善裕	藤原京左京九条・十条三坊整地土の土器	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
2	同上	学芸部長　尾野善裕	甘樫丘東麓遺跡 SK189 の土器	同上	同上	同上	無
3	同上	学芸部長　尾野善裕（共著：奈良文化財研究所 大澤正吾）	法華寺庭園の調査	同上	同上	同上	無
4	文化財の保存修復に関する調査研究	学芸部長　尾野善裕 保存科学室長　降幡順子（共著：奈良文化財研究所　神野恵ほか）	平城京出土須恵器の胎土分析	同上	同上	同上	無
5	同上	保存科学室長　降幡順子	黄色上絵付顔料について－16 世紀後半から 20 世紀の日本と中国－	『文化財保存修復学会第 41 回大会』研究発表要旨集	文化財修復学会	6 月 30 日	無
6	同上	保存科学室長　降幡順子	社寺等における立体的な文化財資料の減災－シミュレーションを利用した転倒防止対策－	『日本文化財科学会第 36 回大会』研究発表要旨集	日本文化財科学会	9 月 4 日	無
7	その他有形文化財に関連する調査研究	学芸部長　尾野善裕（共著：奈良文化財研究所 神野恵ほか）	「討議」（司会）	『第 23 回古代官衙・集落遺跡研究会報告書　灯明皿と官衙・集落・寺院』	奈良文化財研究所	12 月 11 日	無
8	同上	特任研究員　宮川禎一	鳥獣戯画甲巻の画題と主旨に関する研究	『鳥獣戯画のヒミツ』	淡交社	3 年 2 月 22 日	無
9	同上	保存科学室長　降幡順子	金勝寺所蔵　独鈷杵及び五鈷杵の科学的調査報告	研究紀要第 37 号	滋賀県立琵琶湖文化館	3 年 3 月	無
10	同上	保存科学室長　降幡順子	教王護国寺蔵木造観音菩薩・梵天・帝釈天立像（二間観音）の資源科学的調査	『美術院紀要』第 13 号	公益財団法人美術院	3 年 3 月	無
11	同上	調査・国際連携室研究員 上杉智英	日本における法蔵『起信論疏』の流伝	『佛教学報』94	韓国、東国大学校仏教文化研究院	3 年 3 月 31 日	無

【奈良国立博物館】31件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　30件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	収蔵品・寄託品等に関連する調査研究	館長　松本伸之	濱野年宏作《「聖徳太子絵伝」四季図大屏風》を見る	『濱野年宏展』展覧会図録	パリ日本文化会館	4 月	無
2	同上	同上	小金銅仏とは	『目の眼』六月号	株式会社　目の眼	6 月	無
3	同上	学芸部長　内藤栄	東京国立博物館、奈良国立博物館所蔵の古代刺繍・綴織作品の染料調査	『鹿園雑集』第 22 号	奈良国立博物館	7 月 31 日	無
4	同上	学芸部長　内藤栄	當麻寺西塔発見の舎利容器について（共著）	『國華』第 1502 号	國華社	12 月 20 日	有
5	同上	資料室長　野尻忠	奈良国立博物館所蔵『華厳経』巻第七十（紫紙金字）について	『古代東アジア史料論』	同成社	6 月 30 日	無
6	同上	企画室主任研究員　山口隆介	資料紹介 個人蔵地蔵菩薩立像	『ＭＵＳＥＵＭ』第 687 号	東京国立博物館	9 月	有
7	同上	同上	兵庫・浄土寺裸形阿弥陀如来立像（調査報告）	『鹿園雑集』第 23 号	奈良国立博物館	3 年 3 月 31 日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
8	同上	情報サービス室主任研究員　北澤菜月	平安～鎌倉期における阿弥陀浄土図の展開―「和様化した阿弥陀浄土図」の実像とその成立背景	『鹿島美術研究』年報第37号別冊	公益財団法人鹿島美術財団	11月15日	無
9	同上	同上	大徳寺伝来五百羅漢図に認められる説話的主題について	『アジア仏教美術論集東アジアⅣ　南宋・大理・金』	中央公論美術出版	12月	無
10	同上	美術室主任研究員　斎木涼子	太元帥法の伝授―十一・十二世紀の転換―	『鹿園雑集』第22号	奈良国立博物館	7月31日	無
11	同上	特任研究員　岩田茂樹	クリーブランド美術館　木造釈迦如来坐像	『國華』第1502号	國華社	12月20日	有
12	同上	同上	クリーブランド美術館と綱敷天満宮の伎楽面―補遺と訂正―（研究ノート）	『鹿園雑集』第23号	奈良国立博物館	3年3月31日	無
13	同上	美術室アソシエイトフェロー　萩谷みどり	グラビア解説　五尊像	『聖徳』第244号	聖徳宗教学部	8月8日	無
14	同上	同上	榮山寺八角堂内陣飛貫にみられる騎獅菩薩について	『鹿島美術研究』年報第37号別冊	公益財団法人鹿島美術財団	11月15日	無
15	同上	保存修理指導室アソシエイトフェロー　佐藤稜介	三宝院持厳考	『鹿園雑集』第22号	奈良国立博物館	7月31日	無
16	同上	同上	戦国期幕府奉行人の経済基盤	『日本中世の政治と制度』	吉川弘文館	12月	無
17	同上	同上	家原寺縁起附属文書一巻について―狩野内膳書状・片桐且元奉行人書状・山内忠義寄進状ほか―（研究ノート）	『鹿園雑集』第23号	奈良国立博物館	3年3月31日	無
18	古代の写経と聖教に関する基礎的研究	資料室長　野尻忠	日本の写経の始まりと歩み	『JAPONisme（ジャポニスム）』vol.25（2020年夏・秋）	一般財団法人本願寺文化興隆財団・ジャポニスム振興会	8月	無
19	墳墓出土品の調査研究	企画室長　吉澤悟	二つの忍性骨蔵器―大和・額安寺と同・竹林寺出土の銅製骨蔵器の調査―（調査報告）	『鹿園雑集』第22号	奈良国立博物館	7月31日	無
20	同上	企画室長　吉澤悟	行基墓誌断片からみた行基集団	『ザ・グレイトブッダシンポジウム論集　第18号東大寺と行基菩薩』	東大寺	12月25日	無
21	同上	企画室長　吉澤悟 保存修理指導室長　鳥越俊行	大和・額安寺の忍性五輪塔に納められた骨蔵器群	『鹿園雑集』第23号	奈良国立博物館	3年3月31日	無
22	特別点等の開催に伴う調査研究	列品室長　中川あや	奈良博覧会と正倉院宝物の模造（コラム）	『御大典記念　特別展よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―』展覧会図録	朝日新聞社	4月18日	無
23	特別展「第72回正倉院展」に関する調査研究	学芸部長　内藤栄	概説　聖武天皇の武器・武具の献納と薬物の献納	『第七十二回 正倉院展』展覧会図録	奈良国立博物館	10月24日	無
24	同上	企画室長　吉澤悟	犀文様について（宝物寸描）	『第七十二回 正倉院展』展覧会図録	奈良国立博物館	10月24日	無
25	同上	特任研究員　岩田茂樹	延均師の童子面をめぐって（宝物寸描）	『第七十二回　正倉院展』展覧会図録	奈良国立博物館	10月24日	無
26	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術―特集神鹿の造形―」に関する調査研究	列品室長　中川あや	展示概説　おん祭と春日信仰の美術―特集　神鹿の造形―	『特別陳列　おん祭と春日信仰の美術―特集　神鹿の造形―』展覧会図録	一般社団法人仏教美術協会	12月8日	無
27	特別陳列「帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―」に関する調査研究	情報サービス室長　宮崎幹子	帝国奈良博物館の誕生―博物館をつくった人と組織―	『特別陳列　帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―』	奈良国立博物館	3年2月6日	無
28	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究	ボランティア室アソシエイトフェロー　翁みほり	子どもを主対象とした展覧会の実践的考察―わくわくびじゅつギャラリー『いのりの世界のどうぶつえん』を事例として―	『鹿園雑集』第22号	奈良国立博物館	7月31日	無
29	教育活動等に関する調査研究	同上	博物館におけるオンラインボランティア活動―奈良国立博物館を事例に―	『鹿園雑集』第23号	奈良国立博物館	3年3月31日	無
30	文化財を活用した効果的な展示や教育活動等に関する調査研究	情報サービス室アソシエイトフェロー　朴株顯	奈良国立博物館におけるキャプションの韓国語訳について―仮名のハングル表記・キャプション翻訳のルール・学芸員とのコミュニケーションの取り方―	『鹿園雑集』第23号	奈良国立博物館	3年3月31日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　1件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	博物館情報、文化財情報に関する調査研究	情報サービス室長　宮崎幹子	（分担執筆）	『図書館情報学用語辞典第五版』	丸善出版	8月	無

【九州国立博物館】　36件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究　11件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	大西漆芸修復スタジオ　大西智洋、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、浦添市美術館　當山綾乃	黒漆山水人物螺鈿料紙箱の修復報告	『浦添市美術館紀要』16号	浦添市教育委員会　教育部　浦添市美術館	3年3月	無
2	同上	学芸部企画課研究員　望月規史、学芸部展示課主任研究員　齋部麻矢、学芸部博物館科学課研究補佐員　田中麻美、同アソシエイトフェロー　和泉田絢子、同研究員　渡辺祐基	「国宝　観世音寺梵鐘」調査報告	紀要『東風西声』16号	九州国立博物館	3年3月	無
3	同上	学芸部展示課長　楠井隆志、学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基	長崎・聖福寺の関帝像	紀要『東風西声』16号	九州国立博物館	3年3月	無
4	同上	学芸部企画課特別展室主任研究員　西島亜木子、同研究補佐員　山室翔子、井上祥子	新たな来館者層開拓の試み「きゅーはく女子考古部」の成果と課題	紀要『東風西声』16号	九州国立博物館	3年3月	無
5	特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技」に関する調査研究	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子	作品解説	『よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技』（展覧会図録）	朝日新聞社	4月	無
6	同上	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子	木内家と木画双六局	『よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技』（展覧会図録）	朝日新聞社	4月	無
7	特別展「奈良　中宮寺の国宝」に関する調査研究	学芸部企画課特別展室長 川畑憲子	作品解説	『奈良　中宮寺の国宝』（展覧会図録）	九州国立博物館	3年1月26日	無
8	同上	学芸部企博物館科学課アソシエイトフェロー　瓜生翠	作品解説	『奈良　中宮寺の国宝』（展覧会図録）	九州国立博物館	3年1月26日	無
9	ユニバーサル・ミュージアム、ハンズ・オン展示に関する調査・研究	展示課研究補佐員 茂泉千尋 展示課主任研究員 加藤小夜子	コロナ禍におけるハンズ・オン展示とユニバーサル・ミュージアムの取り組み―九州国立博物館の事例から―	紀要『東風西声』第16号	九州国立博物館	3年3月	無
10	高等学校所在考古資料に関する調査研究	交流課主任研究員 今井涼子	高等学校所在考古資料の活用に向けて―九州国立博物館の取り組みを中心に―	紀要『東風西声』第16号	九州国立博物館	3年3月	無
11	アウトリーチ活動に関する調査研究	交流課主任研究員 上野光裕 交流課交流･教育普及担当補助員 土屋和美	いつでもどこでも博物館体験を！―九州国立博物館アウトリーチ活動「きゅーはくきゃらばん」―	紀要『東風西声』第16号	九州国立博物館	3年3月	無

○その他有形文化財に関連する調査研究　25件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	その他有形文化財に関連する調査研究	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、学芸部博物館科学課長　木川りか、京都大学大学院農学研究科　藤原裕子、京都大学大学院農学研究科　藤井義久	Analysis of larval development and feeding of an Anobiid beetle using X-ray computed tomography	Proceedings IRG Annual Meeting 2020	International Research Group on Wood Protection	6月	無
2	同上	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基、京都大学大学院農学研究科　簗瀬佳之、京都大学大学院農学研究科　藤井義久	Nondestructive evaluation of oviposition behavior of the bamboo powderpost beetle, Dinoderus minutus, using X-ray computed tomography and acoustic emission	Journal of Wood Science 66	Springer Nature	7月1日	有
3	同上	学芸部博物館科学課長木川りか、長崎歴史文化博物館　富川敦子、長崎歴史文化博物館　久保憲司、高知県立紙産業技術センター　有吉正明、東京文化財研究所秋山純子、東京文化財研究所早川典子	灰汁を利用した固着被災文書等の修復処置：灰汁の有効成分の検討と酸性紙・和紙へ及ぼす影響の調査	『文化財保存修復学会誌』64	文化財保存修復学会	3年3月31日	有
4	同上	東京文化財研究所小峰幸夫、東京文化財研究所　篠崎（矢花）聡子、東京文化財研究所　佐藤嘉則、日光社寺文化財保存会　原田正彦、千葉県立中央博物館　斉藤明子、学芸部博物館科学課長　木川りか、京都大学大学院農学研究科　藤井義久	文化財建造物を加害したシバンムシ科甲虫のＤＮＡバーコーディングに基づく同定法	『保存科学』60	東京文化財研究所	3年3月31日	有
5	同上	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基	第51回国際木材保存会議（IRG51）オンライン会議に参加して	木材保存 64(4)	日本木材保存協会	7月	無
6	同上	学芸部博物館科学課研究員　渡辺祐基	九州国立博物館における多種文化財用Ｘ線ＣＴスキャナの更新について	紀要『東風西声』16号	九州国立博物館	3年3月	無
7	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	熊本県の弥生時代～古墳時代の墳墓出土ベンガラの分類と変遷	『遺跡学研究の地平―吉留秀敏氏追悼論文集―』	同刊行会	6月	無
8	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	八代平野および宇土半島基部の墳墓で採用されたベンガラについて	文化財保存修復学会第42回大会研究発表集	同学会	7月	無
9	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	別府の古墳から出土したベンガラについて	日本文化財科学会第37回大会発表要旨集	同学会	9月4日	無
10	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	猫迫１号墳及び周辺遺跡から出土した赤色顔料について	田川市内埋蔵文化財試掘・確認・発掘調査報告書（２）	福岡県田川市教育委員会	3年3月31日	無
11	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	前橋市0107遺跡から出土した赤色顔料について	前橋市0107遺跡発掘調査報告書	群馬県埋蔵文化財調査事業団	3年3月31日	無
12	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長　志賀智史	石川原遺跡から出土した赤色顔料について	石川原遺跡発掘調査報告書	群馬県埋蔵文化財調査事業団	3年3月31日	無
13	同上	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー　瓜生翠	「大内氏家臣安富氏関係文書」について	紀要『東風西声』16号	九州国立博物館	3年3月	無
14	同上	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男	『西清古鑑』所載で日本に所在する青銅器の解説	『西清古鑑　今訪　宮外巻』	Katherine & George Fan	8月	無
15	同上	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男 学芸部企画課文化交流展アソシエイトフェロー崔英花（訳）	簡論日本藏清宮舊藏青銅器	『西清古鑑　今訪　宮外巻』	Katherine & George Fan	8月	無
16	同上	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男	漢代銅盂小考－とくに吉祥の銘文と文様をめぐって－	『日本中国考古学会大会発表予稿集』	日本中国考古学会	3年1月	無
17	同上	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男	漢代青銅器の研究前史	『21世紀の博物館学・考古学』	青木豊先生古稀記念発起人会	3年2月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
18	同上	学芸部企画課文化交流展室長　川村佳男	松浦武四郎旧蔵の中国青銅器	『好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究　Ⅳ』	近代博物館形成史研究会	3年2月	無
19	同上	学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦晃佑	徳川家康御内書	『日本歴史』865号	吉川弘文館	6月	無
20	同上	学芸部文化財課資料登録室研究員　松浦晃佑	寛永十七年マカオ使節の嘆願書に関する一考察（下）	紀要『東風西声』16号	九州国立博物館	3年3月	無
21	同上	学芸部企画課研究員　酒井田千明	《新収蔵品紹介》　重要文化財　法花蓮鷺文有蓋壺について	紀要『東風西声』16号	九州国立博物館	3年3月	無
22	同上	学芸部企画課研究員　酒井田千明	交易と南蛮物 ： 大航海時代がもたらした南海からの舶来品	『なごみ』2020年5月号	淡交社	2年5月	無
23	文化財の材質・構造等に関する研究	学芸部企画課特別展室長　川畑憲子、同博物館科学課研究員　渡辺祐基、同研究補佐員　田中麻美	叢梨地牡丹唐草向鶴紋散蒔絵調度の木地構造について（1）文房具	紀要『東風西声』16号	九州国立博物館	3年3月	無
24	同上	学芸部企画課特別展室長　川畑憲子	東京国立博物館所蔵　模造紫檀五弦琵琶について	紀要『東風西声』16号	九州国立博物館	3年3月	無
25	同上	学芸部企画課長　白井克也	百済の蓮華文塼と鳳凰文塼	紀要『東風西声』16号	九州国立博物館	3年3月	無

【東京文化財研究所】35件

（1）新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　11件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　3件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	文化財情報資料部アソシエイトフェロー　野城今日子	小室達《伊達政宗騎馬像》の制作とその社会的背景をめぐって	美術研究第431号	東京文化財研究所	8月	有
2	同上	文化財情報資料部部長　塩谷純他	書簡にみる黒田清輝・久米桂一郎の交流　ー	美術研究第433号	東京文化財研究所	3年3月	有
3	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	文化財情報資料部広領域研究室長　小林公治	キリスト教の布教と南蛮漆器―理化学的分析の検討、メダイ研究との対比から―	『BVNGO　NAMBAN―宗麟の愛した南蛮文化』オープニング記念講演会資料集	大分県立埋蔵文化財センター	10月10日	無

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　　8件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	文化財情報資料部文化財情報資料研究室長　二神葉子	無形文化遺産の保護に関する第15回政府間委員会における議論の概要と今後の課題	無形文化遺産研究報告　第15号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
2	同上	無形文化遺産部音声映像記録研究室長　石村智	Issues regarding the protection of intangible cultural heritage related to religion in Japan	*Heritage and Religion in East Asia*	Routledge	12月30日	有
3	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	コロナ禍における無形の民俗文化財の現状と課題	無形文化遺産研究報告　第15号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
4	同上	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長　久保田裕道	民俗芸能を記録する―映像記録の可能性	継承される地域文化	臨川書店	3年3月31日	無
5	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	無形文化遺産部無形文化財研究室長　前原恵美	伝統芸能における新型コロナウイルス禍の影響―調査研究とその課題―	無形文化遺産研究報告　第15号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
6	同上	無形文化遺産部無形文化財研究室長　前原恵美・客員研究員　橋本かおる	楽器を中心とした文化財保存技術調査報告4	無形文化遺産研究報告　第15号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
7	同上	無形文化遺産部無形文化財研究室長　前原恵美	老舗三味線メーカー廃業の危機、音楽界への衝撃　コロナ禍の苦境、逆回転させる発想を	朝日新聞デジタルサイト『論座』	朝日新聞社	9月2日	無
8	同上	無形文化遺産部無形文化財研究室長　前原恵美	常磐津節《子宝三番叟》の音楽分析	桐朋学園大学研究紀要　第46集	桐朋学園大学音楽学部	10月15日	有

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　19件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　5件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	保存科学研究センター副センター長　早川泰弘他	春日権現験記絵の彩色材料調査（巻九・巻十）〈巻九〉	春日権現験記絵巻九・巻十光学調査報告書	東京文化財研究所	3年3月31日	無
2	同上	保存科学研究センター副センター長　早川泰弘他	春日権現験記絵の彩色材料調査（巻九・巻十）〈巻十〉	春日権現験記絵巻九・巻十光学調査報告書	東京文化財研究所	3年3月31日	無
3	同上	副所長　山梨絵美子	春日権現験記絵を見る新たな試みーこのたびの光学調査の背景	春日権現験記絵巻九・巻十光学調査報告書	東京文化財研究所	3年3月31日	無
4	同上	ユキオ・リピット	「春日権現験記絵」巻九・巻十の概要	春日権現験記絵巻九・巻十光学調査報告書	東京文化財研究所	3年3月31日	無
5	同上	田中潤	春日権現験記」巻九・巻十にみられる装束表現ー女性の装束を中心に	春日権現験記絵巻九・巻十光学調査報告書	東京文化財研究所	3年3月31日	無

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　14件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	生物科学研究室長・佐藤嘉則他	Mycoavidus sp. Strain B2-EB: Comparative Genomics Reveals Minimal Genomic Features Required by a Cultivable Burkholderiaceae-Related Endofungal Bacterium	Applied and Environmental Microbiology	American Society for Microbiology	7月2日	有
2	同上	生物科学研究室長　佐藤嘉則、保存科学研究センターAF・小峰幸夫、研究補佐員・矢花聡子他	文化財建造物を加害したシバンムシ科甲虫の DNA バーコーディングに基づく同定法	『保存科学』第60号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
3	同上	生物科学研究室長・佐藤嘉則、分析科学研究室長・犬塚将英、研究補佐員・岡部迪子他	低酸素濃度殺虫法に用いる RP 剤 K タイプからの有機酸発生	『保存科学』第60号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
4	同上	生物科学研究室長・佐藤嘉則、文化財活用センター・間渕創	博物館等における ATP 拭き取り検査によるカビ集落の活性評価について	『保存科学』第60号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
5	同上	生物科学研究室長・佐藤嘉則、研究補佐員・小野寺裕子他	空調設備のない収蔵施設の保存環境調査ー岐阜県関市春日神社の取り組みー	『保存科学』第60号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
6	保存と活用のための展示環境の研究	保存科学研究センター研究補佐員　相馬静乃他 2名	シャープカットフィルターで特定波長を遮光した条件下における有機染料の変退色挙動	『保存科学』第60号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
7	同上	保存科学研究センター研究員　水谷　悦子他 3名	Preliminary investigation of change of pore structure due to salt precipitation during evaporation in brick with X-ray computed tomography	MONUMENT FUTURE : Decay and Conservation of Stone (ISBN 978-3-96311-172-3)	International Congress on the Deterioration and Conservation of Stone	9月1日	有
8	同上	保存科学研究センター研究員　水谷　悦子他 4名	Influence of wall composition on moisture related degradation of the wall surfaces in Hagia Sophia, Istanbul	Journal of Building Physics	SAGE	12月23日	有
9	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	保存科学研究センターセンター長　早川泰弘他	国宝久能寺経における真鍮泥の利用について	『保存科学』第60号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
10	同上	保存科学研究センター室長　犬塚将英他	収蔵庫の空気環境が鉛金属に与える影響に関する調査事例	『保存科学』第60号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
11	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	朽津信明、森井順之、栁沼由可子、廣瀬浩司	天草市アンモナイト館における緑色生物の制御	『保存科学』第60号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
12	同上	朽津信明	文化財の現地保存を考える	『保存科学』第60号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
13	文化財修復材料と伝統技法び関する調査研究	保存科学研究センター研究員　倉島玲央 他	タンパク質を混和させた漆塗膜の化学構造と物性の検証	『保存科学』第60号	東京文化財研究所	3年3月31日	有
14	同上	保存科学研究センター修復材料研究室長　早川典子 他	On-site Surface Cleaning of Japanese Architecture Using Gels Incorporating Organic Solvents	Studies in Conservation 65 (sup1)	IIC	11月4日	有

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　3件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　3件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	札幌市立大学准教授　森朋子、文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　淺田なつみ、立命館大学歴史都市防災研究所准教授　Lata Shakya	カトマンズ盆地内歴史的集落保全における法的枠組み-2015 年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告　その 13-	日本建築学会大会学術講演梗概集	日本建築学会	9 月	無
2	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	立命館大学歴史都市防災研究所准教授　Lata Shakya、札幌市立大学准教授　森朋子、文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー　淺田なつみ	カトマンズ盆地内歴史的集落における建築条例-2015 年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナいおける被災状況調査報告　その 14-	日本建築学会大会学術講演梗概集	日本建築学会	9 月	無
3	保存修復技術の国際的応用に関する研究	文化遺産国際協力センター研究員・前川佳文、Associazione Bastioni・ダニエラ・マリア・マーフィー他	ミャンマー共和国バガン遺跡　ロカティーパン寺院壁画の保存修復と国際協力事業	『保存科学』第 60 号	東京文化財研究所	3 年 3 月	有

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　2件

○調査研究成果の発信　2件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財情報基盤の整備・充実	文化財情報資料部研究員　小山田智寛他	デジタルコンテンツと持続性：明治大正期書画家番付データベースを例に	『デジタルアーカイブ学会誌』2020 年 4 巻 2 号	東京文化財研究所	3 年 3 月 31 日	有
2	文化財情報基盤の整備・充実	文化財情報資料部文化財情報研究室長　二神葉子	尾高鮮之助撮影バーミヤーン西大仏の写真による三次元空間画像の作成	『保存科学』第 60 号	東京文化財研究所	3 年 3 月 31 日	有

【奈良文化財研究所】106件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　54件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　7件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部歴史研究室長　吉川聡	興福寺二条家記録「文亀三年引付」の紹介	奈文研論叢 2	奈良文化財研究所	3 年 3 月	無
2	同上	文化遺産部歴史研究室ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ　橘悠太	奈良文化財研究所所蔵『覚城院・萩原寺等関係中世聖教類』について	奈文研論叢 2	奈良文化財研究所	3 年 3 月	無
3	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	文化遺産部部長　島田敏男	湯浅町の歴史的建造物－調査概要とみかん農家の特徴－	奈良文化財研究所紀要 2020	中央公論美術奈良文化財研究所出版	9 月	無
4	同上	都城発掘調査部主任研究員　鈴木智大	高野山の歴史的建造物にみる復興の履歴	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月	無
5	同上	都城発掘調査部研究員　福嶋啓人	近代高山の料亭建築と大工・施工業者について－料亭州さきを事例として－	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月	無
6	同上	都城発掘調査部主任研究員　前川歩	昭和初期の倶楽部建築における家具の様相－綿業会館を事例として－	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月	無
7	同上	都城発掘調査部主任研究員　大林潤	西トップ遺跡の建築調査－2019 年度の成果－	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月	無

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　47 件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	景観研究室研究員　惠谷浩子	園芸農林業がつくる京都周縁の風景	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月	無
2	同上	景観研究室研究員　惠谷浩子	風景を読みとく技術	区画整理 63（11）	公益社団法人街づくり区画整理協会	11 月 5 日	無
3	同上	景観研究室研究員　惠谷浩子	Les paysages culturels au Japon : concepts et pratiques	Projets de paysage, 23	École nationale supérieure de paysage (ENSP)	2 月 15 日	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
4	同上	景観研究室研究員　恵谷浩子	KOFUNSCAPE02 男山丘陵	遺跡学研究 17	日本遺跡学会	2 月 26 日	無
5	同上	景観研究室長　中島義晴	胡宮神社社務所庭園	敏満寺遺跡総合調査報告書	多賀町教育委員会	令和 3 年 3 月	無
6	我が国の記念物に関する調査研究(庭園)	景観研究室長　中島義晴	韓国庭園史略とその代表的な事例	日韓文化財論集Ⅳ	奈良文化財研究所	3 年 3 月	無
7	我が国の記念物に関する調査研究(遺跡整備)	遺跡整備研究室長　内田和伸	韓国庭園史略とその代表的な事例	日韓文化財論集Ⅳ	奈良文化財研究所	3 年 3 月	無
8	同上	遺跡整備研究室長　内田和伸	歴史的脈絡に因む遺跡の活用	奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会報告書	奈良文化財研究所	3 年 3 月	無
9	同上	遺跡整備研究室長　内田和伸	歴史的脈絡に因む平城宮跡の活用方法	奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会報告書	奈良文化財研究所	3 年 3 月	無
10	同上	遺跡整備研究室長　内田和伸	遺跡現地の活用の促進ー平城宮跡の活用に関する実践的研究—	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月	無
11	同上	遺跡整備研究室研究員　高橋知奈津	奈良文化財研究所による古代食・再現展示	奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会報告書	奈良文化財研究所	3 年 3 月	無
12	東大寺東塔復元案作成にかかる調査研究業務	都城発掘調査部研究員　目黒新悟	鎌倉時代再建の東大寺東塔ー東大寺東塔の復元研究２ー	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
13	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　李　暉	古代鋳銅製建築金具の線彫り工程の検証第一次大極殿院の復原研究 29ー	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
14	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　坪井久子	第一次大極殿院における扁額の検討ー第一次大極殿院の復原研究 30ー	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
15	平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究	都城発掘調査部研究員　大澤正吾ほか	平城宮東院地区における埴輪生産の契機と供給先	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
16	同上	都城発掘調査部考古第二研究室長　神野　恵ほか	須恵器の墨ぼかしは「炭」ぼかし	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
17	同上	都城発掘調査部主任研究員　桑田訓也ほか	年輪年代学的手法による平城宮第一次大極殿院西楼出土木簡の検討	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
18	同上	都城発掘調査部主任研究員　丹羽崇史	唐代以前における三叉トチンの変遷	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
19	同上	都城発掘調査部主任研究員　桑田訓也ほか	平城宮第一次大極殿院東方の調査ー第 612 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
20	同上	都城発掘調査部主任研究員　前川　歩ほか	平城宮東方官衙地区の調査ー第 615 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
21	同上	都城発掘調査部主任研究員　林　正憲ほか	平城京左京二条二坊十一坪の調査ー第 611 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
22	同上	都城発掘調査部主任研究員　丹羽崇史ほか	法華寺旧境内の調査ー第 616 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
23	同上	都城発掘調査部研究員　大澤正吾ほか	法華寺庭園の調査－第 618 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
24	同上	都城発掘調査部主任研究員　小田裕樹ほか	東大寺東塔院の調査－第 617 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
25	同上	都城発掘調査部考古第二研究室長　神野　恵	平城京右京北辺北方の調査－第 610 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
26	同上	都城発掘調査部主任研究員　小田裕樹	平城京出土の外面同心円叩きを有する甕ー第 149 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
27	同上	都城発掘調査部研究員　浦　蓉子	平城京出土の燃えさしー第 524 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
28	同上	都城発掘調査部研究員　浦　蓉子ほか	年輪年代学的手法を用いた出土木製品の検討ー第 601 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
29	同上	都城発掘調査部考古第二研究室長　神野　恵ほか	平城京出土須恵器の胎土分析	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
30	同上	都城発掘調査部主任研究員　小田裕樹	平城宮・京出土の遊戯具（1）	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
31	古代官衙・集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書の刊行	都城発掘調査部考古第二研究室長　神野　恵	古代都城の灯火器ー灯火痕観察のススメー	灯明皿と官衙・集落・寺院	奈良文化財研究所	12 月 11 日	無
32	古代瓦研究会に関する研究集会の開催	都城発掘調査部考古主任研究員　岩戸晶子	大和の一本づくり・一枚づくり	古代瓦研究Ⅹ	奈良文化財研究所	3 年 2 月 6 日	無
33	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部上席研究員　山本崇	いわゆる音義木簡とその依拠原典—律令国家成立期の経典将来をめぐって	『國學院雑誌』第 121 巻 11 号	國學院大學	11 月	有
34	同上	都城発掘調査部上席研究員　山本崇	二〇一九年出土の木簡　奈良・藤原宮跡	『木簡研究』第 42 号	木簡学会	12 月	無
35	地方公共団体等が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査等への指導助言	都城発掘調査部主任研究員　石田由紀子ほか	「藤原京左京三条三坊東南坪・西南坪ー第 204-6 次」	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	3 年 6 月予定	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
36	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部主任研究員　石田由紀子ほか	奥山廃寺の調査―第 204-7 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	3 年 6 月予定	無
37	同上	都城発掘調査部主任研究員　鈴木智大・若杉智宏ほか	藤原宮大極殿院の調査-第 205 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	3 年 6 月予定	無
38	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　道上祥武	藤原宮東方官衙南地区の調査－第 204-1 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	3 年 6 月予定	無
39	同上	都城発掘調査部主任研究員　森川実	藤原京右京六条二・三坊、四分遺跡の発掘調査―204-2 次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	3 年 6 月予定	無
40	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　片山健太郎	日高山 1 号墳出土の木心鉄板張輪鐙	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	3 年 6 月予定	無
41	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　片山健太郎	飛鳥・藤原地域出土の弓	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	3 年 6 月予定	無
42	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　片山健太郎ほか	飛鳥・藤原地域出土の青銅製・銅製の馬具・帯金具	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	3 年 6 月予定	無
43	同上	都城発掘調査部研究員　山藤正敏	石神遺跡 SD1347・SD1476 出土の土器群―石神遺跡第８・９次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	3 年 6 月予定	無
44	同上	都城発掘調査部研究員　福嶋啓人	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 205 次）	『奈文研ニュース』No.78	奈良文化財研究所	9 月	無
45	同上	都城発掘調査部主任研究員　鈴木智大・若杉智宏	藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第 205 次）	『奈文研ニュース』No.79	奈良文化財研究所	12 月	無
46	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー　片山健太郎	飛鳥地域出土の風鐸	『奈文研ニュース』No.79	奈良文化財研究所	12 月	無
47	同上	都城発掘調査部主任研究員　森川実	片埦から片坏へ―土師器杯Ｃの法量変化からみた実用器種の変容について―	『奈文研論叢』2 号	奈良文化財研究所	3 年 3 月	無

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　41 件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進　21 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	動植物遺存体の分析方法の研究開発	環境考古学研究室長　山崎健（７名中１番）ほか	東京都前田耕地遺跡から出土した動物遺存体の再検討	旧石器研究 16	日本旧石器学会	5 月 22 日	有
2	同上	環境考古学研究室客員研究員　丸山真史	海浜部の集落における動物利用	紀伊考古学研究 23	紀伊考古学研究会	8 月 31 日	無
3	同上	環境考古学研究室客員研究員　松崎哲也	Faunal Remains at the Basilica in Tlos	The City Basilica of Tlos	Koc University Press	10 月 1 日	無
4	同上	環境考古学研究室客員研究員　菊地大樹ほか	良渚文化の畜産戦略	中国考古学 20	日本中国考古学会	12 月 1 日	有
5	同上	環境考古学研究室長　山崎健	上総国・下総国の貝類利用―地域における生業研究の一試論―	奈文研論叢 2	奈良文化財研究所	3 年 3 月 31 日	有
6	年輪年代学研究	員数 3(1 番目）年代学研究室長 星野安治	年輪年代学的手法による平城宮第一次大極殿院西楼出土木簡の検討	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
7	同上	員数 3(3 番目）年代学研究室長 星野安治	年輪年代学的手法を用いた出土木製品の検討－第 601 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
8	同上	員数 3(2 番目）年代学研究室長 星野安治	魚梁瀬スギの標準年輪曲線（1768～2004）	植生史研究 29(1)	植生史学会	3 年 2 月 24 日	有
9	同上	年代学研究室長 星野安治	年輪が明かした薬師寺東塔の建立年代	よみがえる白鳳の美－国宝薬師寺東塔解体大修理全記録	朝日新聞出版	3 年 2 月 28 日	無
10	同上	年代学研究室長 星野安治	長岡京跡右京六条三坊三町大型掘立柱建物出土木材の年輪年代調査	長岡京市文化財調査報告書 76	長岡京市教育委員会	3 年 3 月 29 日	無
11	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	遺跡・調査技術研究室主任研究員　村田　泰輔	災害痕跡データベースの構築―災害の軽減に向けた考古学の新たな挑戦―	學士會会報　第 942 号	一般社会法人学士会	5 月 1 日	有
12	同上	遺跡・調査技術研究室長　金田　明大　ほか 7 名	北海道常呂郡置戸町置戸山 2 遺跡の第 4 次発掘調査概要報告	日本考古学協会第 86 回総会研究発表要旨	日本考古学協会	6 月	無
13	同上	遺跡・調査技術研究室研究員　山口　欧志	文化財の多様な記録を結ぶ超域情報基盤の検討	日本文化財科学会第 37 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	9 月	無
14	同上	遺跡・調査技術研究室客員研究員　中村　亜希子	フォトグラメトリーによる三次元計測データの比較	日本文化財科学会第 37 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	9 月	無
15	同上	遺跡・調査技術研究室長　金田　明大	遺跡と周辺地形情報の三次元計測	月刊文化財 12 月号	第一法規株式会社	12 月	有
16	同上	遺跡・調査技術研究室主任研究員　村田　泰輔	遺跡調査における地質学的手法の適用	月刊文化財 12 月号	第一法規株式会社	12 月	有
17	同上	遺跡・調査技術研究室主任研究員　村田　泰輔	災害痕跡データベースの構築・公開に向けて～考古学の新たな挑戦	地域防災　2021 年 2 月号(通巻 36 号)	一般財団法人日本防火・防災協会	3 年 2 月 15 日	無
18	同上	遺跡・調査技術研究室研究員　山口　欧志	モンゴル国ドンゴイン・シレー遺跡の三次元記録	金大考古　2021 年　79 号	金沢大学考古学研究室	3 年 3 月	有

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
19	同上	遺跡・調査技術研究室主任研究員　村田　泰輔	藤原宮下層運河 SD1901A の層序	奈文研論叢 第 2 号	奈良文化財研究所	3 年 3 月	有
20	同上	遺跡・調査技術研究室長 金田　明大	上中城跡の地中レーダー探査について	上中城跡の研究 龍谷大学文学部考古学実習調査報告書　第 1 冊	龍谷大学文学部考古学実習室	3 年 3 月 12 日	無
21	同上	遺跡・調査技術研究室長 金田　明大	元寇防塁の地中レーダー探査について	九州大学箱崎キャンパス発掘調査報告 4　箱崎遺跡 九州大学埋蔵文化財調査室第 5 集	九州大学埋蔵文化財調査室	3 年 3 月 31 日	無

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　20 件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	保存修復科学研究室研究員　柳田明進 保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎 埋蔵文化財センター長 高妻洋成	水分飽和から不飽和土を再現したカラム実験による鉄製文化財の腐食挙動の検討	材料と環境 2020	腐食防食学会	5 月 20 日	無
2	同上	飛鳥資料館学芸室室長 石橋茂登 考古第一研究室アソシエイトフェロー　片山健太郎 考古第一研究室主任研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美	飛鳥寺地域出土の風鐸-第 197-2 次、大官大寺第３・５次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
3	同上	国際遺跡研究室客員研究員　杉山洋 国際遺跡研究室研究員 佐藤由似 考古第一研究室主任研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美	A STUDY ON THE STRUCTURE AND SIGNIFICANCE OF THE NORTH SANCTUARY AT WESTERN PRASAT TOP	Preah Nokor	APSARA	3 年 3 月	無
4	同上	考古第一研究室主任研究員（保存修復科学研究室兼任)田村朋美　ほか 3 名	Scientific Analysis on the glass and sotne artifacts in Ulaanbaatar State University	埼玉大学紀要(教養学部)第 56 巻第 2 号	埼玉大学	3 年 3 月	無
5	同上	考古第一研究室主任研究員（保存修復科学研究室兼任)田村朋美　ほか 1 名	兵庫県出土鉛製耳環の鉛同位体比とその考古学的評価	『研究紀要』第 14 号	兵庫県立考古博物館	3 年 3 月	無
6	同上	考古第一研究室主任研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美	金井下新田遺跡出土のガラス玉類の自然科学的調査	『金井下新田遺跡発掘調査報告書』	群馬県埋蔵文化財調査事業団	3 年 3 月	無
7	同上	考古第一研究室主任研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美	第６章　第１節　出土ガラス玉の材質調査	『天王塚古墳発掘調査報告書』	和歌山県教育委員会	3 年 3 月	無
8	同上	考古第一研究室主任研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美	猪ノ鼻(1)遺跡のガラス玉の分析	『猪ノ鼻(1)遺跡発掘調査報告書』	青森県埋蔵文化財調査センター	3 年 3 月	無
9	同上	考古第一研究室主任研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美	金比羅山古墳出土ガラス小玉の自然科学的調査	『金比羅山古墳発掘調査報告書』	京都府教育庁	3 年 3 月	無
10	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	保存修復科学研究室研究員　柳田明進	海底遺跡における銅製文化財の腐食が抑制される発掘後の埋め戻し法の検討	銅と銅合金 59	日本銅学会	8 月 1 日	有
11	同上	保存修復科学研究室長 脇谷草一郎 副所長　高妻洋成　ほか１名	Deterioration mechanism of Japanese sandstone during the drying and wetting cucles	Proceedings of 14th International Congress on the Deterioration and Conservation of Stone	ICOMOS-ISCS	9 月 7 日	有
12	同上	保存修復科学研究室長 脇谷草一郎 保存修復科学研究室客員研究員　肥塚隆保 副所長　高妻洋成　ほか２名	Influence of heat and moisture environment inside the shelter on sodium and calcium sulfate behavior	Proceedings of 14th International Congress on the Deterioration and Conservation of Stone	ICOMOS-ISCS	9 月 7 日	有
13	同上	保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎 保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔　ほか 3 名	大分市高瀬石仏の保存環境分析と対策の評価　その４）液水拡散係数の異方性を考慮した２次元熱水分移動の数値解析	日本建築学会近畿支部研究発表会梗概	日本建築学会近畿支部	紙面開催	無
14	同上	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎　ほか３名	電荷を有する多孔質材料中の熱水分塩同時移動と浸透現象	日本建築学会近畿支部研究発表会梗概	日本建築学会近畿支部	紙面開催	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
15	同上	保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎 保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔　ほか3名	大分市高瀬石仏の保存環境に関する研究～その５液水拡散係数の異方性を考慮した熱・水分移動の数値解析	日本建築学会2020年度大会（関東）梗概	日本建築学会	9月8日	無
16	同上	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 保存修復科学研究室室長 脇谷草一郎　ほか２名	熱水分塩同時移動方程式に基づいた数値解析による粘土中における塩溶液の浸透現象の再現性の検討	日本建築学会2020年度大会（関東）梗概	日本建築学会	9月8日	無
17	同上	保存修復科学研究室長 脇谷草一郎 副所長　高妻洋成　ほか１名	乾湿風化による軟岩製石造文化財の劣化メカニズムの検討(その１：下浦砂岩の不飽和領域に生じる劣化のモデル化を目的とした物性値の実測)	『文化財科学』第81号	日本文化財科学会	9月24日	有
18	建造物の彩色に関する調査研究	保存修復科学研究室アソシエイトフェロー　柳成煜　ほか２名	モンゴル国・ウグンヒド寺院遺跡出土の壁画顔料に関する科学的調査	『文化財科学』第81号	日本文化財科学会	9月24日	有
19	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	保存修復科学研究室客員研究員　小椋大輔 保存修復科学研究室長 脇谷草一郎 保存修復科学研究室研究員　柳田明進　ほか１名	【連載】模擬古墳 ー遺構・遺物の保存と活用を考えるための実験的取り組みー ②模擬古墳を用いた研究の紹介とそこから見えてきた現状と課題	『考古学研究』第67巻	考古学研究会	9月30日	無
20	同上	奈良文化財研究所副所長・埋蔵文化財センター長 高妻洋成 保存修復科学研究室長 脇谷草一郎 保存修復科学研究室研究員　柳田明進　ほか２名	A study on the preservation and opening of the Hasugaike Yokoana tomb based on the environmental survey	『文化財科学』第82号	日本文化財科学会	3年2月26日	有

(3) 文化遺産保護に関する国際協働　5件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　5件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化遺産の保存・修復に関する人材育成等	国際遺跡研究室長　庄田慎矢	Investigating the formation and diagnostic value of ω-(o-alkylphenyl)alkanoic acids in ancient pottery	Archaeometry	Wiley	11月7日	有
2	文化遺産の保存・修復に関する人材育成等	国際遺跡研究室長　庄田慎矢	東北アジアにおける土器の起源についての新知見	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	9月30日	無
3	文化財保護に関する国際協力の推進	都城発掘調査部主任研究員　大林　潤	西トップ遺跡建築―2019年度の成果―	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	9月30日	無
4	文化財保護に関する国際協力の推進	国際遺跡研究室専門職佐藤由似・客員研究員杉山洋	西トップ遺跡の調査と修復―中央祠堂基壇部の解体・再構築―	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	9月30日	無
5	西アジア・中央アジア諸国等における文化財修復保存協力事業	国際遺跡研究室長　庄田慎矢，国際遺跡研究室アソシエイトフェロー　村上夏希	甘樫丘東麓遺跡出土コムギ炭化種子のユーラシア考古植物学的位置づけ	奈文研論叢第2号	奈良文化財研究所	3年3月31日	有

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　6件

○調査研究成果の発信　2件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	平城宮いざない館詳覧ゾーンにかかる学芸業務および解説案内等業務	展示企画室アソシエイトフェロー　廣瀬智子	奈良県小学校社会科副読本の改訂と平城宮跡　ーESDにもとづく総合学習の教材としてー	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	9月30日	無
2	平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	飛鳥資料館主任研究員　西田紀子	文化財研究と地域をつなぐ実践ー飛鳥資料館の取り組みからー	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	9月30日	無

○文化財情報基盤の整備・充実　4件

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財に関するデータベースの充実	都城発掘調査部主任研究員　国武貞克，文化財情報研究室研究員　高田祐一，文化財情報研究室技術補佐員　村上蛍	遺跡抄録情報の現状と可能性	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	9月30日	無
2	文化財に関するデータベースの充実	文化財情報研究室研究員高田祐一，客員研究員　野口淳	画像認識技術の文化財データへの適用実験	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	9月30日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
3	文化財に関するデータベースの充実	都城発掘調査部史料研究室アソシエイトフェロー 畑野吉則，都城発掘調査部史料研究室長　馬場基，都城発掘調査部史料研究室主任研究員　桑田訓也，文化財情報研究室研究員 高田祐一	史的文字データベース連携検索ポータルサイトの公開	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無
4	文化財に関するデータベースの充実	文化財情報研究室アソシエイトフェロー　ヤナセ ペーテル	全国の模範となる多言語化に向けて-関西での文化財機構の取り組みについて-	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	9 月 30 日	無

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0件

c-⑥ 調査研究刊行物一覧

令和3年3月31日現在

【本部文化財活用センター】

○調査研究刊行物　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	公開シンポジウム2019「複製がひらく文化財の未来」報告書	500	美術館・博物館・大学・研究所等
2	2019年度ぶんかつアウトリーチプログラム報告書	200	文化庁、都道府県教育委員会、博物館等

【本部文化財防災センター】

○調査研究刊行物　5件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	元年度文化財防災ネットワーク推進事業シンポジウム『地域社会と文化財―身近にある文化財、それをまもり伝える意味』報告書	1,000	連携協力機関、関係者・協力者等
2	文化財防災ネットワーク推進事業活動報告書　本編	300	連携協力機関、関係者・協力者等
3	文化財防災ネットワーク推進事業活動報告書　資料編	300	連携協力機関、関係者・協力者等
4	2年度 文化財防災に関する研究協議会（書面開催）	50	関係自治体、関係者・協力者等
5	無形文化遺産の防災のための動態記録作成に関する調査研究事業　民俗技術の記録作成事業報告書３	50 PDF公開	協力機関、関係者・協力者等

【東京国立博物館】

○調査研究刊行物　4件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	「MUSEUM」685号～690号	各1,900	美術館・博物館・大学・研究所等 2,988件 (各498件×6)
2	「東京国立博物館紀要」56号	500	美術館・博物館・大学・研究所等　352件
3	「東京国立博物館文化財修理報告」XXI(21)	500	美術館・博物館・大学・研究所等　152件
4	「法隆寺献納宝物特別調査概報」XLI(41) 染織1 刺繍	500	美術館・博物館・大学・研究所等　95件

○展覧会図録等　14件

	刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展図録	特別展『桃山―天下人100年』	―	―
2		特別展『工芸2020 自然と美のかたち』	―	―
3		特別展『日本のたてもの 自然素材を活かす伝統の技と知恵』	―	―
4	特集陳列 そのほか	『博物館でアジアの旅 アジアのレジェンド』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等
5		「日本美術の記録と評価―調査ノートに見る美術史研究のあゆみ」リーフレット	3,000	美術館・博物館・大学・研究所等
6		「書と料紙―平安時代の美しい紙」リーフレット	3,000	
7		「世界と出会った江戸美術」パンフレット	5,000	
8		「館蔵 珠玉の中国彫刻」パンフレット	3,000	
9		「博物館に初もうで ウシにひかれてトーハクまいり」リーフレット	5,000	
10		「木挽町狩野家の記録と学習」パンフレット	3,000	
11		「前川家伝来の雛飾り―華麗なる江戸の極小雛道具」リーフレット増刷	3,000	
12		「東京国立博物館コレクションの保存と修理」リーフレット	3,000	
13		『宮廷から地方へ―明時代の絵画と書跡』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等
14		『東京国立博物館セレクション 日本の甲冑』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等

【京都国立博物館】

○調査研究刊行物　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	研究紀要「学叢」第42号	800	美術館・博物館・大学等
2	文化財保存修理所　修理報告書18	450	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等

○展覧会図録等　5件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	西国三十三所 草創一三〇〇年記念 特別展 聖地をたずねて―西国さんの信仰と至宝―	―	美術館・博物館・大学等
2	御即位記念 特別展 皇室の名宝	―	同上
3	特別企画 文化財保存修理所開所40周年記念 文化財修理の最先端	3,000	同上
4	仏教美術研究 上野記念財団設立五十周年記念誌 新聞人のまなざし 上野有竹と日中書画の名品	1,000	同上
5	凝然国師没後七百年 特別展 鑑真和上と戒律のあゆみ	600	同上

※「博物館だより」、「Newsletter」の発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【奈良国立博物館】

.○名品図録　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	なら仏像館名品図録 2020	1,000	美術館・博物館・大学・研究機関等

○調査研究刊行物　　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	奈良国立博物館研究紀要「鹿園雑集」第22号	700	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書 第2号	630	美術館・博物館・大学・研究機関等・教育委員会等

○展覧会図録　　5件

	刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展	御大典記念　特別展『よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―』	1,550	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	特別展	『第72回正倉院展』	3,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
3	特別展	『The 72th Annual Exhibition of Shoso-in Treasures』	2,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
4	特別陳列	特別陳列『おん祭と春日信仰の美術―特集　神鹿の造形―』	1,300	美術館・博物館・大学・研究機関等
5	特別陳列	特別陳列『帝国奈良博物館の誕生―設計図と工事録にみる建設の経緯―』	1,280	美術館・博物館・大学・研究機関等

※「博物館だより」の発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【九州国立博物館】

○調査研究刊行物　3件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	九州国立博物館　文化財修復報告　第3号(平成21年度～平成22年度)	750	文化財所有者・博物館・行政機関・研究機関等
2	九州国立博物館アジア文化交流センター研究論集　第2集『大宰府史跡指定100年と研究の歩み』	500	大学・研究機関、図書館等、Web掲載
3	九州国立博物館　研究紀要『東風西声』第16号	900	美術館・博物館・大学・研究機関等

○展覧会図録等　4件

	刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
1	特別展	「奈良・中宮寺の国宝」	974	美術館・博物館・大学・研究所等
2	特集展示等	「天神縁起の世界」	1,600	美術館・博物館・大学・研究所等
3	特集展示等	九州国立博物館開館15周年記念・大宰府史跡指定100年記念特集展示『筑紫の神と仏』	1,500	博物館・美術館・大学・研究機関等
4	その他	九州国立博物館ユニバーサル・ガイドブック　銅印「大宰之印」(再現文化財)	1,000	展示室内で配布

※「アジアージュ」の発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【東京文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　16件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	タイ所在日本製漆工品に関する調査研究ーワット・ラーチャプラディットの漆扉ー（幕末期伏彩色螺鈿の調査研究）	600	大学・研究機関、図書館等

・無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究　15件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『無形文化遺産（工芸技術）の伝承に関する研究報告書Ⅲ「絹織製作技術」』	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	『おながわ北浦民俗誌』	1,000	関連地域コミュニティ・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『箕のかたち―自然と生きる日本のわざ』	500	関連コミュニティ・研究機関・教育委員会・図書館等
4	【映像】「映像資料　日置箕をつくる一鹿児島県日置市日吉町」	1	所内限定公開
5	【映像】「北条箕（タツ箕）一兵庫県加西市北条町黒駒」	1	インターネットにて公開
6	【映像】「戸隠箕一長野県長野市」	1	インターネットにて公開
7	【映像】「阿波箕一徳島県徳島市」	1	インターネットにて公開
8	【映像】「皮箕をつくる一福島県大沼郡昭和村」	1	インターネットにて公開

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
9	【映像】「日置の飾り箕ー鹿児島県日置市日吉町」	1	所内限定公開
10	『日本の芸能を支える技Ⅵ三味線　東京和楽器』	1,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
11	『日本の芸能を支える技Ⅶ箏　国井久吉』	1,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
12	『無形文化財の保存・継承に関する調査研究プロジェクト報告書「伝統芸能における新型コロナウイルス禍の影響」をめぐる課題	200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等（ネット公開含む）
13	【シリーズ】無形文化遺産と新型コロナウイルス フォーラム1「伝統芸能と新型コロナウイルス報告書」	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等（ネット公開含む）
14	【映像】「邦楽器原糸製造の記録（短編）」	1	インターネットにて公開
15	『及川尊雄収集　紙媒体資料目録』	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等（ネット公開含む）

(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　11 件

・文化財の調査手法に関する研究開発の推進　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	春日権現験記絵巻九・巻十　光学調査報告書	500	大学・研究機関、図書館等

・文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究　10件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究』成果報告書	-	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	『国宝久能寺経薬草喩品第五　光学調査法報告書』	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『国宝孔雀明王像　光学調査法報告書』	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	『屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究報告書』	30	関係市町村等
5	『文化財修復処置に関するワークショップ- ゲルやエマルションを使用したクリーニング方法 -』	400	大学・研究機関・教育委員会・図書館等（ネット公開含む）
6	『文化財修復処置に関する研究会　―クリーニングとゲルの利用について―』	400	大学・研究機関・教育委員会・図書館等（ネット公開含む）
7	『文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究』	200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
8	『内部造作の保存と修復』	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
9	『Conservation and Restoration of Steel Structures』	200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
10	『保存と活用のための展示環境の研究』成果報告書	150	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(3)文化遺産保護に関する国際協働　23 件

・文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進　23件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	Attributes - a way of understanding OUV -	400	官公庁、自治体、国際機関等
2	令和２年度世界遺産研究協議会　「整備」をどう説明するか（第一部）	450	官公庁、自治体、国際機関等
3	各国の文化財保護法令シリーズ［25］英国（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国）	20	官公庁、図書館等
4	CONSERVATION & SUSTAINABLE DEVELOPMENT PROJECT OF TA NEI TEMPLE: RESTORATION OF THE EAST GATE Progress Report and Work Plan	1 （オンライン配布）	the ICC-Angkor
5	CONSERVATION & SUSTAINABLE DEVELOPMENT PROJECT OF TA NEI TEMPLE: RESTORATION OF THE EAST GATE Progress Report June-November 2020	1 （オンライン配布）	the ICC-Angkor
6	アジア諸国等文化遺産保存修復協力　令和2年度成果報告書	50	外部評価委員会
7	研究会記録　東南アジアにおける木造建築遺産の保存修理	20	外部評価委員会
8	ペルシア湾岸諸国における文化遺産保護の現状　報告書	50	外部評価委員会、事業関係者等
9	Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor - Progress Report of 2020 -	260	大学、研究機関、関係団体（国内、カンボジア）等
10	Me-taw-ya Temple Project “Capacity Building; a Conservation Project for the Repair, Strengthening and Recovery of Temple 1205a Archaeological Area and Monuments of Bagan, Myanmar 2016-2020”	55	外部評価委員会および研究機関、関係団体等
11	Lokahteikpan Wall painting Project, pagoda 1580 “Capacity Building Report; study, risk assessment and intervention proposal of the wall paintings decorating the southern wall of Lokahteikpan 'adorning the world from above' Pagoda 1580, Archaeological zone of Bagan, Myanmar”	55	外部評価委員会および研究機関、関係団体等
12	旧和宇慶家墓の保存に向けた調査研究　令和2年度成果報告書	50	外部評価委員会および研究機関、関係団体等
13	在外日本古美術品保存修復協力事業	250	関係者・大学・研究機関・博物館等

14	平成29年度在外日本古美術品保存修復協力事業　檜・八橋図　No.2017-1　修復報告	250	関係者・大学・研究機関・博物館等
15	平成29年度在外日本古美術品保存修復協力事業　林和靖・太公望図　No.2017-2　修復報告	250	関係者・大学・研究機関・博物館等
16	平成29年度在外日本古美術品保存修復協力事業　煙寺晩鐘図・平沙落雁図　No.2017-3　修復報告	250	関係者・大学・研究機関・博物館等
17	国際研修「紙の保存と修復」2019	250	関係者・大学・研究機関・博物館等
18	令和2年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業　ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業　報告書	20	文化庁ほか
19	VERNACULAR HOUSES in Bhutan, Western Central Area, Thimphu, Punakha, Paro, Haa	100	ブータン内務文化省文化局ほか
20	第27回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会　コロナ禍における文化遺産国際協力のあり方	300	大学・研究機関・図書館等
21	第28回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会　文化遺産とSDGs III	300	大学・研究機関・図書館等
22	文化遺産国際協力コンソーシアム令和２年度国際協力調査　海域交流ネットワークと文化遺産（その１）	300	大学・研究機関・図書館等
23	文化遺産の国際協力	1,000	大学・研究機関・図書館等

(4)文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　12 件

・調査研究成果の発信 12件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『東京文化財研究所年報』2019年度版	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
2	『東京文化財研究所概要』2020年度版	2,700	博物館・美術館・大学・研究機関等
3	『東文研ニュース』72号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
4	『東文研ニュース』73号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
5	『令和元年版　日本美術年鑑』	600	大学・研究機関、図書館等
6	『美術研究』431号	400	大学・研究機関、図書館等
7	『美術研究』432号	400	大学・研究機関、図書館等
8	『美術研究』433号	400	大学・研究機関、図書館等
9	『無形文化遺産研究報告』第15号	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
10	『第15回無形民俗文化財研究協議会報告書』	700	博物館・美術館・大学・研究機関等
11	『保存科学』60号	650	博物館・美術館・図書館・大学・研究機関等
12	売立目録デジタルアーカイブの公開と今後の展望―売立目録の新たな活用を目指して	1,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

【奈良文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究　13件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究4件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	仁和寺史料　目録編〔稿〕4	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	『「あわの至宝」調査研究報告書(建造物編)』(8月)	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『料亭州さき建造物調査報告書』(3年3月)	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	『松江神社建造物調査報告書』(3年3月)	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

・記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究　9件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	奈良文化財研究所遺跡整備・活用研究集会報告書『歴史的脈絡に因む遺跡の活用―儀式・行事の再現と地域間交流の再構築―』	400	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	『薬師寺東塔基壇発掘調査報告書』３年３月	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『地下の正倉院展－重要文化財長屋王家木簡－』2年 10 月	3,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	『第 24 回古代官衙・集落研究集会　古代集落の構造と変遷(古代集落を考える1)　研究報告資料』2 年 12 月	100	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
5	『第 23 回　古代官衙・集落研究会報告書　燈明皿と官衙・集落・寺院』(奈良文化財研究所研究報告第 26 冊)2 年 12 月	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
6	『古代瓦研究Ⅹ　8 世紀の瓦づくりⅧ――本づくり・一枚づくりの展開 2(西日本編)－』Ⅰ報告編・Ⅱ資料編　3 年 2 月	850	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
7	平城宮跡歴史公園第一次大極殿院南門復原整備工事記念特別展 『鬼神乱舞　護る・祓う・鬼瓦の世界』3 年1月	3,000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
8	『瞿義黄冶窯発掘調査報告』奈良文化財研究所学報第 99 冊　3 年 3 月	700	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
9	『日韓文化財論集Ⅳ』３年３月	700	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究　0 件

(3)文化遺産保護に関する国際協働　5 件

・文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信　5件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	『西トップ遺跡調査修復中間報告 10』	500	文化庁・大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	『Survey and Restoration of Western Prasat Top Interim Report 10』	300	文化庁・大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	『寄贈岸良コレクション図録2』	800	文化庁・大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	『現場のための環境考古学』ロシア語版	300	文化庁・大学・研究機関・教育委員会・図書館等
5	『現場のための環境考古学』英語版	500	文化庁・大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(4)文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用　3件

・文化財情報基盤の整備・充実　0件

・調査研究成果の発信　1件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	埋蔵文化財ニュース第184号『花粉分析からみた古代都城の植生変化』	3,000	教育委員会など文化財関係機関

・展示公開施設の充実　2件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	飛鳥資料館図録第73冊『飛鳥の石造文化と石工』	1,800	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	飛鳥資料館カタログ第37冊『飛鳥の考古学2020』	1,800	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等　0件

・平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○調査研究刊行物　4件

	刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
1	「無形文化遺産のSDGsへの貢献」事業におけるベトナムのフォーマル教育向けガイドライン（英語版）	100 オンラインでも公開	研究協力依頼機関（ベトナム）等
2	「無形文化遺産のSDGsへの貢献」事業におけるフィリピンのノンフォーマル教育向けガイドライン（サバネン版）	100 オンラインでも公開	フィリピンのSLT（ノンフォーマル教育施設）
3	「無形文化遺産（ICH）のSDGsへの貢献プロジェクト」プロジェクトレポート	オンラインのみ	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
4	「アジアのポストコンフリクト等を対象とした無形文化遺産の緊急保護支援の研究」事業プロジェクトレポート	オンラインのみ	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等

c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究

令和3年3月31日現在

件数	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所			アジア太平洋無形文化遺産研究センター
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	
合計	144	50	31	6	6	7	94	25	69	0
科学研究費補助金のみ	46	16	9	1	2	4	30	7	23	0
学術研究助成基金助成金のみ	98	34	22	5	4	3	64	18	46	0
科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※各施設に所属する研究員が研究代表者として交付された研究課題のみ記載している。（日本学術振興会特別研究員を除く）
※科学研究費助成事業の研究分担者等として参画しているものについてはc①2）他機関の共同研究への参画実績参照
※科学研究費の交付決定額には間接経費を含む。

【東京国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　9件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額（千円）
1	日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究	小山　弓弦葉	学芸研究部調査研究課工芸室長	基盤研究(A)【令和元年度繰越】	1,250
2	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	田沢　裕賀	学芸企画部長	基盤研究(A)【令和元年度繰越】	900
3	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	田沢　裕賀	学芸企画部長	基盤研究(A)	10,530
4	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	皿井　舞	学芸研究部平常展調整室長	基盤研究(B)【令和元年度繰越】	500
5	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	皿井　舞	学芸研究部平常展調整室長	基盤研究(B)	2,990
6	能狂言面の制作年代および作者に関する総合的研究	浅見　龍介	学芸企画部企画課長	基盤研究(B)	2,300
7	失われた古代・中世絵巻の復原的研究―作品伝来情報の検討から―	土屋　貴裕	学芸企画部企画課特別展室主任研究員	基盤研究(B)	3,510
8	ユーラシア草原地帯と東アジアの青銅器と鋳造技術の比較研究	高浜　秀	客員研究員	基盤研究(B)	4,420
9	輸送中の振動を受ける美術品の蓄積疲労予測システムの理論構築	和田　浩	学芸研究部保存修復課環境保存室長	基盤研究(B)	5,330

2）学術研究助成基金助成金のみ　22件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	中世律宗絵画に関する基礎的研究	瀬谷　愛	学芸研究部保存修復課保存修復室長	基盤研究(C)	1,430	4,420〈平成30～2年度〉
2	金属製幡の基礎的研究－特に密教における灌頂道具としての用途と機能	伊藤 信二	学芸企画部博物館教育課長	基盤研究(C)	650	2,860〈元～3年度〉
3	文書・典籍料紙における繊維の再利用に関する基礎的研究	高橋 裕次	客員研究員	基盤研究(C)	520	2,210〈元～4年度〉
4	縄文時代の地域間交流の研究－CADを用いた土器容量の比較―	井出 浩正	学芸企画部博物館教育課教育講座室長	基盤研究(C)	1,040	4,160〈元～3年度〉
5	白描図像の分析から帰納する仏画研究―玄証本を起点に―	古川　攝一	調査研究課研究員	基盤研究(C)	910	4,290〈元～4年度〉
6	藤原定家の和歌に基づく「定家詠十二ヶ月和歌花鳥図」の歴史的展開の解明	遠藤　楽子	学芸企画部博物館情報課情報資料室主任研究員	基盤研究(C)	2,210	4,420〈2～6年度〉
7	仏教儀礼的観点に基づく明兆作品の総合的研究	高橋　真作	学芸研究部研究員	基盤研究(C)	1,040	4,420〈2～6年度〉
8	高精細複製絵画による屏風絵を中心とする実験的展示照明による基盤的理論の構築	松嶋　雅人	調査研究課絵画・彫刻室	基盤研究(C)	1,690	4,160〈2～5年度〉
9	東アジアの宮廷工芸に関する物質文化研究－相対的文化史観に基づいて－	猪熊　兼樹	学芸企画部企画課特別展室長	基盤研究(C)	1,560	4,160〈2～4年度〉
10	海外博物館の日本美術展示にみる現代「日本」観の研究	鬼頭　智美	学芸企画部上席研究員	基盤研究(C)	1,820	4,290〈2～4年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
11	16・17世紀中国江南地域における旅行と絵画の関係についての事例研究	植松　瑞希	学芸企画部企画課出版企画室研究員	若手研究(B)	741	3,250 〈平成29～3年度〉
12	日本刀における連続と変容の表現に着目した歴史的展開の考察	酒井　元樹	学芸研究部調査研究課工芸室主任研究員	若手研究(B)	650	4,160 〈平成29～2年度〉
13	江戸時代後期における風景表現に関する研究	大橋　美織	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	若手研究	1,300	4,030 〈平成30～2年度〉
14	農工具からみた古代東アジアにおける技術交流の研究	河野　正訓	学芸研究部調査研究課考古室主任研究員	若手研究	910	2,080 〈平成30～2年度〉
15	黒染め染織文化財に対する脱酸化・抗酸化・強化処置法の開発	佐藤 萌	学芸研究部保存修復課保存修復室研究員	若手研究	650	3,900 〈平成30～5年度〉
16	日本陶磁における金銀彩の特殊性について	三笠 景子	学芸企画部企画課特別展室主任研究員	若手研究	650	2,080 〈元～3年度〉
17	ICT技術を用いた個人的コンテキストに応じた展示解説の研究	中村 麻友美	学芸企画部博物館教育課教育普及室研究員	若手研究	780	3,900 〈元～3年度〉
18	天台宗における仏像の模刻と信仰上の意義	西木　政統	学芸研究部研究員	若手研究	2,210	4,290 〈2～5年度〉
19	中近世ドイツ語圏の金工の社会史的研究－W.ヤムニッツァーを中心に	村松　綾	学芸企画部企画課アソシエイトフェロー	若手研究	1,690	4,290 〈2～5年度〉
20	鎌倉時代における文殊菩薩造像の伝播に関する調査研究	増田　政史	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	研究活動スタート支援	0	1,430 〈元～2年度〉
21	地中海世界の大転換期（前12世紀～前10世紀）と「フェニキア人」の出現	小野塚　拓造	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員	国際共同研究強化(A)	15,210	15,210 〈2～4年度〉
22	人類遺産としての先史壁画の保存と公開活用にむけた研究基盤の確立	河野　一隆	学芸研究部調査研究課課長	国際共同研究強化(B)	3,640	18,330 〈元～5年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【京都国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	埴輪生産組織の構造分析と古代手工業論による古墳時代日韓交渉史再構築の基礎的研究	古谷　毅	研究員	基盤研究（B）	2,340

2）学術研究助成基金助成金のみ　5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	対話とハンズ・オン教材を組み合わせた博物館教育の実践と研究	水谷　亜希	学芸部教育室主任研究員	若手研究（B）	520	3,900 〈平成28～3年度〉
2	近世期に作成された、書画の「極書」に関する基礎的研究	福士　雄也	学芸部保存修理指導室主任研究員	若手研究（B）	0	3,770 〈平成28～2年度〉
3	思渓版大蔵経刊行実態の解明－目録と遺例による実証的研究－	上杉　智英	学芸部美術室研究員	若手研究（B）	0	3,900 （平成28～2年度）
4	西日本を中心とした来舶清人の書画交流に関する基礎的調査研究	呉　孟晋	学芸部調査・国際連携室長	基盤研究（C）	1,040	4,290 （平成30～2年度）
5	御室仁清窯跡出土陶片の科学的特徴―野々村仁清が受容した生産技術と陶工必用―	降幡　順子	学芸部保存科学室長	基盤研究（C）	1,040	4,290 （令和2～5年度）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【奈良国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	松本　伸之	館長	基盤研究（A）	7,020
2	明治時代の文化財保護法制と帝国博物館の成立に関する総合的研究	宮崎　幹子	学芸部情報サービス室長	基盤研究（B）	4,290

2）学術研究助成基金助成金のみ　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	叡尊・忍性による中世的救済ネットワークの研究	吉澤　悟	学芸部企画室長	基盤研究（C）	0	2,990 〈平成29～2年度〉 （補助事業期間延長）

2	密教聖教に基づく護国修法の基礎的研究	斎木　涼子	学芸部美術室 主任研究員	若手研究（B）	0	1,560 〈平成29～2年度〉 （補助事業期間延長）
3	仏師快慶の工房制作と分業体制に関する基礎的研究-三尺阿弥陀を中心に-	山口　隆介	学芸部企画室 主任研究員	若手研究	1,040	4,030 〈平成30～2年度〉
4	戦国期の権門寺院における宗教秩序の復元的研究	佐藤　稜介	文化財防災センター　アソシエイトフェロー	若手研究	650	1,820 〈2～4年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【九州国立博物館】

1）科学研究費補助金のみ　4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用	伊藤　嘉章	客員研究員	基盤研究（A）	9,880
2	在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究	畑　靖紀	学芸部文化財課資料管理室主任研究員	基盤研究（B）	2,340
3	中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究	富田　淳	副館長	基盤研究（B）	3,510
4	東南アジアにおける聖地誕生の諸相：古代から近世にいたる仏教文化交流網の研究	小泉　惠英	学芸部長	基盤研究（B）	6,890

2）学術研究助成基金助成金のみ　3件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額 （採択時）（千円）	全研究期間での 交付決定額　（千円） 〈研究期間〉
1	ガラス外壁を有する博物館建造物における衝突野鳥の傾向分析と適合する対策の検討	木川　りか	学芸部博物館科学課長 （兼）環境保全室長	基盤研究（C）	1,170	4,420 〈平成30～2年度〉
2	博物館における文化財害虫管理への個体群動態モデルの応用	渡辺　祐基	学芸部博物館科学課環境保全室研究員	若手研究	1,430	4,160 〈元～3年度〉
3	名物裂を中心とした日本伝世古渡裂の歴史的・技法的成立過程を探る研究	桑原　有寿子	学芸部企画課アソシエイトフェロー	若手研究	2,210	4,160 〈2～5年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【東京文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　7件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	アジア螺鈿文化交流史の構築―物質文化史の視点から	小林　公治	文化財情報資料部　広領域研究室長	基盤研究(A)	8,710
2	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究ー大航海時代を中心にー	小林　公治	文化財情報資料部　広領域研究室長	基盤研究(B)	0
3	日本美術の記録と評価についての研究ー美術作品調書の保存活用	江村　知子	文化財情報資料部　文化財アーカイブズ研究室長	基盤研究(B)	7,280
4	絵画に使用された絹・自然布の非破壊分析方法の開発と製法・修復に関する総合的調査	早川　典子	保存科学研究センター　修復材料研究室長	基盤研究(B)	2,340
5	ポンペイ遺跡壁画における無機物を主体とした保存修復材料による補強技法の確立	前川　佳文	文化遺産国際協力センター研究員	基盤研究(B)	4,160
6	白鳳時代の壁画の構造と材料に関する研究	犬塚　将英	保存科学研究センター　分析科学研究室長	基盤研究(B)	4,160
7	日本の無形文化遺産保護におけるジェンダーに関する研究	久保田　弘道	無形文化遺産部　無形民俗文化財研究室長	特別研究員奨励費(外国人)	100

2）学術研究助成基金助成金のみ　18件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額 （採択時）（千円）	全研究期間での 交付決定額　（千円） 〈研究期間〉
1	常磐津節の音楽分析のための基盤研究	前原　恵美	無形文化遺産部　無形文化財研究室長	基盤研究(C)	1,430	4,290 （平成30～2年度）
2	江戸時代の絵画における基底材に関する基礎的研究	安永　拓世	文化財情報資料部　主任研究員	基盤研究(C)	1,300	4,420 （平成30～2年度）
3	ポスト１９６８年表現共同体の研究：松澤宥アーカイブズを基軸として	橘川　英規	文化財情報資料部　主任研究員	基盤研究(C)	650	4,420 （平成30～2年度）
4	DNA塩基配列情報に基づく文化財害虫の新規データベース構築	佐藤　嘉則	保存科学研究センター　生物科学研究室長	基盤研究(C)	1,300	4,030 （平成30～2年度）

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額 （千円）〈研究期間〉
5	博物館IPMへのATP拭き取り検査活用に向けた基礎的な研究	間渕　創	保存科学研究センター	基盤研究(C)	520	3,770（平成30～2年度）
6	白色LED光照射に伴う蛍光性有機染料の変退色挙動とその抑制	吉田　直人	保存研究センター　保存環境研究室付	基盤研究(C)	650	2,860（平成30～2年度）
7	鍾乳洞における照明植生を軽減する光環境に関する実験的研究	朽津　信明	保存科学研究センター　修復計画研究室長	基盤研究(C)	1,170	4,290（元～3年度）
8	様々な文化財に使用された彩色材料への赤外線画像による画的調査の検討	秋山　純子	保存科学研究センター　保存環境研究室長	基盤研究(C)	1,040	4,290（元～5年度）
9	地域文化の表象としての「箕」の形態に関する学際的研究	今石　みぎわ	無形文化遺産部　主任研究員	基盤研究(C)	1,560	4,290（2～4年度）
10	従属栄養性微生物による硫黄化合物の分解とそれに伴う腐食性ガス生成	片山　葉子	保存科学研究センター　客員研究員	基盤研究(C)	1,690	4,420（2～4年度）
11	マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究	五木田　まきは	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー	若手研究	1,040	4,160（平成30～3年度）
12	中世日本における中国美術の受容と羅漢の作例に関する調査研究	米沢　玲	文化財情報資料部　研究員	若手研究	780	1,560（元～2年度）
13	木材からの化学物質放散挙動の解明と博物館における選定指標の提案	古田嶋　智子	保存科学研究センター　客員研究員	若手研究	1,950	4,160（元～3年度）
14	古典的膠の製造方法と各用途適性の体系化	宇高　健太郎	保存科学研究センター　客員研究員	若手研究	1,300	4,160（元～4年度）
15	南西諸島における風葬の定着過程に関する研究	牛窪　彩絢	文化遺産国際協力センター　アソシエイトフェロー	若手研究	1,170	3,770（2～4年度）
16	組積造建造物の通電による脱塩の適応可能性に関する検討	水谷　悦子	保存科学研究センター　研究員	若手研究	1,430	4,160（2～4年度）
17	近現代建造物に適応した文化財保存理念の展開に向けた基礎的研究	金井　健	文化遺産国際協力センター　保存計画研究室長	研究活動スタート支援	1,430	2,470（元～2年度）
18	歴史的煉瓦造建造物の保存に資する、煉瓦の電気的特性が塩類風化に及ぼす影響の解明	水谷　悦子	保存科学研究センター　研究員	研究活動スタート支援	1,430	2,860（元～2年度）

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【奈良文化財研究所】

1）科学研究費補助金のみ　23件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	木簡等の研究資源オープンデータ化を通じた参加誘発型研究スキーム確立による知の展開	馬場　基	都城発掘調査部史料研究室長	基盤研究（S）	25,090
2	平城宮・京跡出土木簡とその歴史環境のグローバル資源化	渡辺　晃宏	都城発掘調査部客員研究員	基盤研究（A）	12,610
3	災害で埋没した建物による民家建築史の研究	箱崎　和久	都城発掘調査部部長	基盤研究（A）	13,130
4	木簡の年輪年代学：同一材推定による再釈読と荷札木簡を用いた地域標準年輪曲線の構築	星野　安治	埋蔵文化財センター年代学研究室長	基盤研究（B）	4,250
5	南都の未整理文書聖教にもとづく寺社とその周辺社会の調査研究	吉川　聡	文化遺産部歴史研究室長	基盤研究（B）	2,990
6	松帆銅鐸発見を契機とする銅鐸論の再構築	難波　洋三	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（B）	2,990
7	和同開珎の生産と流通をめぐる総合的研究	松村　恵司	所長	基盤研究（B）	4,160
8	中央アジア 天山－パミール地域における後期旧石器文化成立過程の研究	国武　貞克	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（B）	2,470
9	３次元データによる瓦の同笵認識技術の基礎的研究	林　正憲	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（B）	6,630
10	災害碑アーカイブ構築を目的とした市民参加型調査の実践	上椙　英之	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室アソシエイトフェロー	基盤研究（B）	2,340
11	ユーラシア東部における細石刃石器群の出現と拡散：中国北部クロスロード仮説の検証	加藤　真二	企画調整部長	基盤研究（B）	5,850
12	蛍光Ｘ線分析と鉱物組成分析による大和の古代寺院・宮都出土瓦の生産・供給体制の研究	清野　孝之	都城発掘調査部副部長	基盤研究（B）	1,170
13	埴輪の生産・流通体制の総合的検証にもとづく王権中枢部巨大古墳群造営過程の解明	廣瀬　覚	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（B）	4,160
14	古代都城から出土する製塩土器の生産地推定	神野　恵	都城発掘調査部考古第二研究室長	基盤研究（B）	3,770
15	土製鋳型を中心とした冶金関連資料による東アジア冶金史学の構築	丹羽　崇史	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（B）	2,730
16	古建築用語の相互訳及び英訳を通した系統的把握による東アジア木造建築史の基盤構築	鈴木　智大	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（B）	4,550

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
17	土器残存脂質分析を用いた縄文－弥生移行期における土器利用と食性変化の追跡	庄田　慎矢	企画調整部国際遺跡研究室長	若手研究（A）	2,600
18	植物考古学から探るイネ、雑穀、ムギ食文化の交流と変容	庄田　慎矢	企画調整部国際遺跡研究室長	学術変革領域研究（A） 計画研究	17,550
19	中央アジアにおける後期旧石器時代初頭（IUP)石器群の探求	国武　貞克	都城発掘調査部主任研究員	新学術領域研究（研究領域提案型）公募研究	3,900
20	3D石器形態系統分類学による日本列島およびサフル大陸における人類進出の解明	野口　淳	埋蔵文化財センター客員研究員	新学術領域研究（研究領域提案型）公募研究	910
21	植物遺体群調査解析システムの新構築による古代都城の植物資源利用と集落生態系の解明	上中　央子	埋蔵文化財センター特別研究員（PD）	特別研究員奨励費	780
22	全国遺跡報告総覧	高田　祐一	企画調整部文化財情報研究室研究員	研究成果公開促進費（データベース）	1,900
23	奈良の都の木簡に会いに行こう！２０２０	馬場　基	都城発掘調査部史料研究室長	ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI	490

2）学術研究助成基金助成金のみ　46 件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額（千円）〈研究期間〉
1	律令制下の土器生産－須恵器・土師器群別分類の再構築	神野　恵	都城発掘調査部考古第二研究室長	基盤研究（C）	－	4,420 〈平成27～2年度〉
2	古代の灯火―先史時代から近世にいたる灯明具に関する研究	深澤　芳樹	都城発掘調査部客員研究員	基盤研究（C）	－	4,810 〈平成27～2年度〉
3	６世紀の埴輪生産からみた「部民制」の実証的研究－奈良盆地を中心に－	廣瀬　覚	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	－	4,680 〈平成28～2年度〉
4	地理情報システムを用いた古代日本における移動コスト算出の基礎的研究	清野　陽一	飛鳥資料館学芸室研究員	若手研究（B）	－	3,770 〈平成28～2年度〉
5	古代における食生活の復元に関する環境考古学的研究	山崎　健	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長	基盤研究（C）	910	4,420 〈平成29～3年度〉
6	Sr同位体比分析による日本出土「ナトロンガラス」の産地に関する考古科学的研究	田村　朋美	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	－	4,550 〈平成29～2年度〉
7	展示施設を拠点とする地域住民参加型の歴史的建造物の調査	西田　紀子	飛鳥資料館主任研究員	基盤研究（C）	650	4,550 〈平成29～3年度〉
8	呪符木簡の時代的地域的特質からみた「木に文字を記す文化」の史的考究	山本　崇	都城発掘調査部上席研究員	基盤研究（C）	1,300	4,550 〈平成29～2年度〉
9	彩色文化財のTHz Imaging及びμFocusX線CTを用いた非破壊界面調査	金　旻貞	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究（B）	－	2,860 〈平成29～2年度〉
10	地震痕跡を残す災害遺構の保存と公開活用に関する研究	小沼　美結	飛鳥資料館客員研究員	若手研究（B）	－	1,950 〈平成29～2年度〉
11	古墳時代中期王権中枢部における埴輪生産体制の実証的研究―奈良市佐紀古墳群を中心に	大澤　正吾	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究（B）	650	4,160 〈平成29～2年度〉
12	渤海遺跡出土建築部材の基礎的研究－三次元計測データの活用－	中村　亜希子	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究（B）	－	4,030 〈平成29～2年度〉
13	奈良時代に用いられた色材・素材のナノ構造解明	杉岡　奈穂子	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究（B）	－	4,160 〈平成29～2年度〉
14	先端技術による未発見遺跡の探査・研究および保護手法の開発	金田　明大	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長	挑戦的研究（開拓）	2,730	25,610 〈平成29～3年度〉
15	初期官衙における空間構造の成立と展開に関する実証的研究	小田　裕樹	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	650	4,420 〈平成30～3年度〉
16	飛鳥時代・奈良時代の土器様式からみた日本古代の食具様式および食事法の復元的研究	森川　実	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,365	4,420 〈平成30～2年度〉
17	藤原宮造営に伴う造瓦の新技術とその導入経路に関する総合的研究	石田　由紀子	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,170	4,550 〈平成30～3年度〉
18	近世における北前船と東北産木材の流通に関する年輪年代学的研究	光谷　拓実	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（C）	1,300	4,420 〈平成30～2年度〉
19	近世末期から近代に生じた日本庭園の意匠の地域性と現代への継承―出雲地方を中心に	中島　義晴	文化遺産部景観研究室長	基盤研究（C）	650	3,250 〈平成30～3年度〉
20	シルクロード天山北路の形成過程に関する考古学的研究	山藤　正敏	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究	1,040	4,160 〈平成30～3年度〉
21	アンコール王朝の終焉と陶磁器需要の変容に関する考古学的研究	佐藤　由似	企画調整部国際遺跡研究室専門職	若手研究	910	3,770 〈平成30～2年度〉

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額（採択時）（千円）	全研究期間での交付決定額 （千円）〈研究期間〉
22	発掘後の劣化特性の予測技術に基づく出土鉄製文化財の新たな保存管理システムの構築	柳田　明進	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究	650	4,030 〈平成30～2年度〉
23	昭和初期における歴史的建造物保存修理の構造補強体系の構築	前川　歩	都城発掘調査部主任研究員	若手研究	780	4,030 〈平成30～3年度〉
24	カザフスタンにおける現生人類北回り拡散ルートの解明に関する国際共同研究の基盤強化	国武　貞克	都城発掘調査部主任研究員	国際共同研究強化（B）	3,640	18,200 〈平成30～4年度〉
25	セット論・生産流通論からみた古代国家成立期の馬装体系の変化に関する研究	片山　健太郎	都城発掘調査部考古第一研究室アソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	－	2,470 〈平成30～元年度〉
26	歴史災害の実像解明への考古・歴史・地質学的複合解析による災害履歴検索地図の開発	村田　泰輔	埋蔵文化財センター主任研究員	挑戦的研究（開拓）	3,900	22,880 〈平成30～5年度〉
27	鎖国期日本のマジョリカ陶器色絵フォグリー文アルバレルロとカトリック修道院	松本　啓子	都城発掘調査部客員研究員	基盤研究（C）	780	3,640 〈元～4年度〉
28	塩類風化が進行する遺跡構成材料からの効果的な脱塩方法の開発	脇谷　草一郎	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長	基盤研究（C）	780	3,250 〈元～3年度〉
29	ポスト・バイヨン期のクメール建築の建築的特徴に関する研究	大林　潤	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,170	3,510 〈元～3年度〉
30	日本と中国における大工道具の比較による東アジア木造建築技術史の基盤構築	李　暉	都城発掘調査部遺構研究室アソシエイトフェロー	基盤研究（C）	910	4,420 〈元～5年度〉
31	機械学習による画像自動分類を活用した考古学ビッグデータの構造化と情報探索への適用	高田　祐一	企画調整部文化財情報研究室研究員	挑戦的研究（萌芽）	2,990	5,720 〈元～2年度〉
32	墨書木製品の分類を手がかりとした日本における木簡利用全史の解明	藤間　温子	都城発掘調査部客員研究員	若手研究	780	2,860 〈元～4年度〉
33	古代壁画の制作技法の伝習に関する研究-シルクロード近隣地域と日本の壁画を中心に	中田　愛乃	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー	若手研究	520	2,600 〈元～4年度〉
34	文化的景観における棚田集落の相対的価値の解明にむけた比較研究	恵谷　浩子	文化遺産部景観研究室研究員	若手研究	780	3,900 〈元～3年度〉
35	絵画表現の多様性を生みだす彩色材料のナノ構造	杉岡　奈穂子	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（C）	1,560	4,420 〈2～4年度〉
36	東アジア出土の植物灰ガラスは西アジア産か？－ガラス交易路解明に向けての基礎研究－	田村　朋美	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	1,690	4,290 〈2～4年度〉
37	石造物からみるブリテン島における古代と初期中世の境界	岩永　玲	都城発掘調査部考古第三研究室研究員	若手研究	650	1,560 〈2～4年度〉
38	西日本集落遺跡の分析に基づく古代地域社会の実証的研究	道上　祥武	都城発掘調査部考古第三研究室アソシエイトフェロー	若手研究	1,950	4,290 〈2～5年度〉
39	飲食物表現からみた古代東アジアにおける古墳葬送儀礼の考古学的研究	松永　悦枝	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究	780	2,210 〈2～5年度〉
40	群青の緑青化が起こる環境的要因の検証	荻山　琴美	飛鳥資料館学芸室アソシエイトフェロー	若手研究	1,950	2,600 〈2～5年度〉
41	文化財修理に用いられる和紙の膨潤収縮挙動	金　旻貞	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究	1,300	3,900 〈2～4年度〉
42	出土木製遺物の保存処理の飛躍的効率化を実現する溶媒蒸発を用いた薬剤含浸技術の確立	松田　和貴	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	若手研究	2,990	4,160 〈2～4年度〉
43	考古系展示施設における観覧行動分析とそれに基づく多様な「学び」の構築と実践	廣瀬　智子	企画調整部展示企画室アソシエイトフェロー	若手研究	1,560	4,030 〈2～4年度〉
44	越後大工・小黒杢右衛門一族の作風―近世在方大工の作家論的研究	目黒　新悟	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究	1,300	4,160 〈2～5年度〉
45	『築山庭造伝』前編・後編にみる作庭技術とその流布に関する基礎的研究	高橋　知奈津	文化遺産部遺跡整備研究室研究員	若手研究	650	2,340 〈2～5年度〉
46	埴輪生産からみた古墳時代労働力編成システムに関する考古学的研究	木村　理	都城発掘調査部考古第二研究室アソシエイトフェロー	研究活動スタート支援	1,300	1,950 〈2～3年度〉

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

1）科学研究費補助金のみ　0件

2）学術研究助成基金助成金のみ　0件

3）科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究　0件

c-⑧ 客員研究員一覧

令和3年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
148人	41 人	28人	3人	6人	4人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	107 人	49人		58人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター				
	0 人				

【東京国立博物館】　28人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	松原　茂（公益財団法人根津美術館理事・学芸部長）	絵画に関する研究
2	宮永 美知代（東京藝術大学美術学部助教）	解剖学・美術解剖学及び医学関係の館史資料に関する調査研究
3	東野　治之（公益財団法人武田科学振興財団杏雨書屋館長）	法隆寺献納宝物の資料の研究
4	田辺　龍太（一般財団法人切手の博物館主任）	切手に関する調査研究
5	水上　嘉代子（元公益財団法人遠山記念館学芸員）	小袖形を中心とする日本近世染織の調査・研究
6	小笠原　小枝（日本女子大学家政学部名誉教授）	インド更紗に関する研究
7	金子　浩昌（日本考古学協会員）	原始・古代骨角製品に関する研究
8	湊　信幸（元東京国立博物館副館長）	絵画に関する研究
9	鍋島　稲子（台東区立書道博物館主任研究員）	中国書跡の調査研究
10	西岡　康宏（元東京国立博物館副館長）	東洋漆工に関する研究
11	田中　淑江（共立女子大学家政学部教授）	江戸時代を中心とする小袖に関する研究
12	佐々木　利和	アイヌ・琉球民族資料に関する調査研究
13	望月　幹夫（松戸市立博物館長）	考古資料（原史・有史、構内出土品）に関する調査研究
14	澤田　むつ代（名誉館員）	法隆寺献納宝物のうち法隆寺裂などの上代裂の保存と修理に関する調査研究
15	松井　敏也（筑波大学大学院人間総合科学研究科教授）	文化財の保存環境に関する調査研究
16	佐藤　サアラ（公益財団法人常盤山文庫主任学芸員）	東洋陶磁（宋・元代）に関する研究
17	高濱　秀	中央ユーラシア青銅器に関する研究
18	加藤　雅久（居住技術研究所主宰）	帝室博物館・復興本館建設における技術史的考察
19	池田　宏（元東京国立博物館上席研究員）	工芸品、歴史資料に関する調査研究
20	田中　公明（公益財団法人中村元東方研究所専任研究員）	チベット・ネパール仏教美術の調査研究
21	日高　慎(東京学芸大学教育学部文化財科学分野(考古学)教授)	埴輪 挂甲の武人 についての調査と修理における助言
22	石松 日奈子 (文化庁文化審議会専門委員(文化財分科会))	日本所在の中国彫刻に関する調査研究
23	田澤　恵子 (公益財団法人古代オリエント博物館研究部主任研究員)	エジプト・コレクションの整理と基礎的研究
24	赤沼　多佳	茶陶の調査
25	西脇　康（東京大学史料編纂所学術支援専門職員）	埋蔵文化財としての金銀貨鑑別・完全非破壊品位測定
26	高橋　裕次（公益財団法人大倉文化財団大倉集古館学芸部長）	東京国立博物館百五十年史に関わる研究
27	石川　岳彦（東京大学大学院人文社会系研究科助教）	漢代土器の調査研究
28	藤田　晴啓（新潟国際情報大学経営情報学部経営学科教授）	考古資料からみた日本と東南アジアの文化交流の研究

【京都国立博物館】　3人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井上　一稔（同志社大学文学部教授）	彫刻に関する調査研究
2	宇都宮　啓吾（大阪大谷大学文学部教授）	訓点資料としての典籍に関する調査研究
3	後藤　真（国立歴史民俗博物館准教授）	文化財情報に関する調査研究

【奈良国立博物館】　6人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	井出誠之輔（九州大学大学院人文科学研究院教授）	仏教絵画の調査及び整理
2	清水昭博（帝塚山大学文学部教授）	飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理
3	根立研介（京都大学大学院文学研究科教授）	仏教彫刻の調査と整理
4	板倉聖哲（東京大学東洋文化研究所教授）	中国・朝鮮絵画の調査及び整理
5	橋詰　文之（和泉市久保惣記念美術館副館長）	金工品の調査及び研究
6	澤田　むつ代（東京国立博物館名誉館員	染織品の調査及び研究

【九州国立博物館】　4人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	伊藤嘉章（愛知県陶磁美術館総長/町田市立博物館館長）	アジアの文化財の伝統的制作・修理技法に関する調査研究
2	山下善也（元九州国立博物館文化財課主任研究員）	日本美術、特に近世絵画に関する調査研究
3	赤司善彦（大野城心のふるさと館館長）	水中遺跡の保存活用に関する調査研究
4	佐々木蘭貞(福岡市埋蔵文化財センター文化財教育普及専門員)	水中遺跡の保存活用に関する調査研究

【東京文化財研究所】　49人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	三上　豊（和光大学表現学部教授）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
2	丸川雄三（国立民族学博物館先端人類科学研究部准教授）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
3	中野照男（成城大学特任教授）	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究
4	田中　淳（大川美術館長）	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
5	片山まび（東京藝術大学美術学部教授）	『売立目録』工芸部門の調査研究
6	齋藤達也	黒田清輝をはじめとするフランスで学んだ美術家の調査研究、及び当研究所のアーカイブ構築
7	永崎研宣（一般財団法人人文情報学研究所主席研究員）	刊行物アーカイブズシステムの運用・評価に関する調査研究
8	津田徹英（青山学院大学文学部比較芸術学科　教授）	日本東洋古美術に関する資料整理とウェブ公開
9	田所　泰（杉並区立郷土博物館分館学芸担当）	研究プロジェクト「近・現代美術に関する調査研究と資料集成」、とくに近代の女性画家に関する調査研究
10	田中　潤（学習院大学非常勤講師）	古文書の解読や絵画等に見られる服飾の解析
11	川瀬由照（早稲田大学教授）	仏教美術作品の専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充
12	星野厚子（東京大学文学館技術支援職員）	無形文化財（芸能）に関する調査研究
13	永井美和子	無形文化財の記録作成
14	今岡謙太郎（武蔵野美術大学造形学部教授）	無形文化財の記録作成
15	原田一敏（ふくやま美術館長）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
16	山崎　剛（金沢美術工芸大学教授）	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
17	俵木　悟（成城大学文芸学部准教授）	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
18	大西秀紀（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター客員研究員）	音声映像記録に関する調査研究
19	松山直子	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
20	菊池健策（都留文科大学非常勤講師）	無形民俗文化財の調査
21	鎌田紗弓（東京大学総合文化研究科博士研究員）	無形文化遺産部所蔵写真資料の整理
22	齊藤裕嗣	無形民俗文化財の調査
23	宮澤京子（有限会社海工房取締役）	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
24	森下愛子（公益財団法人泉屋博古館分館学芸課学芸員）	工芸技術（主に陶芸分野）に関する調査研究
25	宮田繁幸（東京福祉大学大学院特任准教授）	ユネスコ無形文化遺産条約に関わる調査研究及び情報収集
26	神野知恵（国立民族学博物館非常勤研究員）	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
27	赤井紀美（武蔵野美術大学講師）	無形文化財（近現代演劇）に関する調査研究
28	谷垣内和子（日本芸能実演家団体協議会実演芸術振興部企画室長）	伝統芸能に関わる選定保存技術の調査研究及び情報収集
29	伊藤　純（川村学園女子大学講師）	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
30	橋本かおる（東京藝術大学音楽学部楽理科教育研究助手）	無形文化財の保存・活用に関する調査研究
31	吉澤　望（東京理科大学理工学部建築学科教授）	新世代光源の展示照明への適用条件検討
32	山内泰樹（山形大学大学院理工学研究科教授）	有機EL光源の展示照明への導入条件の検討
33	酒井清文（園田学園女子大学　非常勤講師）	文化財の伝統的修復に関する調査研究
34	大場詩野子（絵画保存修復家）	絵画修復を中心とした新規修復手法に関する調査研究
35	藤井義久（京都大学大学院農学研究科教授）	木造建造物の生物被害対策の研究
36	稲葉政満（東京藝術大学教授）	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
37	本多貴之（明治大学理工学部准教授）	伝統的修復材料に関する分析調査研究
38	北原博幸（トータルシステム研究所代表）	湿度制御温風殺虫処理の処理システムに関するプロジェクト研究を進める上での工学技術的な指導・助言及び基礎研究
39	山本記子（一般社団法人国宝修理装潢師連盟代表理事）	日本画修復に使用される材料及び技法の研究
40	貴田啓子（東京藝術大学准教授）	日本における絵画の劣化要因に関する研究
41	岡田　健（文化財防災センター東京分室長）	法隆寺金堂壁画をはじめとする文化財の化学分析調査
42	片山葉子	高松塚・キトラ古墳壁画及び他の装飾古墳等における微生物生態学的調査研究
43	苅田重賀（日本航空協会専任課長）	近代文化遺産（特に航空関連）の保存修復に関する調査・研究
44	古田嶋智子（国立アイヌ民族博物館ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）	文化財を取り巻く空気環境の成分分析
45	宇髙健太郎	文化財構成材料としての墨，煤，膠並びに修理材料としての膠の研究と，修理用膠の製造あるいは関連技術供与等
46	簡　佑丞（台湾中央学院ポストドクター）	台湾の近代文化遺産の保存活用に関する調査・研究
47	大河原典子（鎌倉女子大学児童学部児童学科准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業の修復研究及び技術移転の手法研究
48	杉山恵助（東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科准教授）	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復手法研究、国際研修での技術移転方法に関する研究
49	山田大樹(株式会社都市環境研究所計画グループ研究員)	ネパールをはじめとする南アジア・西アジア地域等における歴史的都市・集落保存に関する研究

【奈良文化財研究所】　58人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	山田　徹（同志社大学文学部准教授）	近畿を中心とする古寺社等が所蔵する古文書・古典籍等の釈読・内容分析作業
2	林　良彦	受託調査等の調査・研究業務
3	難波　洋三	考古遺物の調査研究
4	浜田　拓志	文化遺産防災総合シミュレーション調査
5	中村　亜希子	遺跡探査のための三次元計測による位置決定及び計測技術と成果の連携に関する研究及び山内考古資料の整理
6	渡辺　伸行（神戸市立大日丘児童館館長）	大規模災害の復興調査支援等への指導助言
7	羽生　淳子（総合地球環境学研究所研究部客員教授）	研究所の研究活動へ国際的な視野と新たな研究課題の点から指導助言
8	小林　謙一	遺物及びその調査技術、文化財情報の蓄積に関する指導助言
9	Shaun Ian Mackey	東アジアの文化財や多言語化に関する専門的な助言
10	森本　晋（公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長）	文化財保護に関する国際協力についての助言、海外調査資料の整理
11	杉山　洋（龍谷大学文学部教授）	カンボジアプロジェクトを中心とした国際遺跡研究室事業への助言

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
12	綾村　宏	歴史研究室所蔵の調書・写真類の調査
13	小野　健吉（和歌山大学観光学部教授）	庭園史研究・遺跡整備研究についての指導・助言
14	中野　祥子（市立枚方宿鍵屋資料館学芸員）	平城宮・京及び関連遺跡出土漆工具に関する研究協力、及び助言
15	青木　敬（國學院大學文学部教授）	薬師寺東塔の発掘調査報告書作成業務に関わる指導・助言
16	黒田　洋子（奈良女子大学古代学・聖地学研究センター協力研究員）	正倉院文書の文字画像データベース構築における研究協力及び助言
17	杉本　一樹（宮内庁正倉院事務所調査員）	都城発掘調査部史料研究室における木簡の整理・解読などに対する指導・助言
18	舘野　和己（奈良女子大学名誉教授／大阪府立近つ飛鳥博物館長）	木簡の整理・釈読等に関する指導・助言
19	方　国花	主として木簡に見える古代日本の漢字の字形に関する研究
20	渡邉　晃宏（奈良大学文学部教授）	都城発掘調査部史料研究室における木簡の整理・解読などに対する指導・助言
21	諫早　直人（京都府立大学文学部歴史学科准教授）	中国遼寧省文物考古研究所と行う共同研究「３－６世紀日中古代遺跡出土遺物の比較研究」に参加
22	上原　眞人（公益財団法人辰馬考古資料館長）	都城発掘調査部考古第一研究室の出土木器整理、研究及び出土木器の資料集作成にむけた指導、助言
23	巽　淳一郎	中国河南省文物考古研究所との共同研究「東アジアにおける生産遺跡の調査研究協力」に参加
24	深澤　芳樹	学報の編集作業に携わり、歴史考古学の観点からの助言
25	松本　啓子	奈良・大阪両地域の宮殿・京域の情報をもとに類似点・相違点を比較するうえでの専門的知識の供与及び助言
26	黒羽　亮太（京都大学非常勤講師）	飛鳥地域出土木簡の整理研究に関する専門的知識の供与及び助言
27	竹内　亮（奈良県立万葉文化館主任研究員）	連携研究において、古代但馬地域出土文字資料集成作成のための専門的知識を供与
28	藤間　温子	削屑の整理と保存処理に関する専門的知識の供与、墨書木製品等の調査研究
29	青木　政幸（公益財団法人辰馬考古資料館学芸員）	考古遺物の調査
30	大賀　克彦（奈良女子大学大和･紀伊半島学研究所特任講師）	古代における玉類の生産と流通に関する調査研究
31	小椋　大輔（京都大学大学院工学研究科教授）	文化財の保存展示環境の研究
32	北田　正弘	考古遺物等の調査分析
33	金　旻貞（株式会社修美）	彩色文化財の材料調査業務
34	肥塚　隆保	古墳壁画の保存修理業務
35	澤田　正昭（東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター長）	考古遺物及び遺跡の保存科学に関する調査研究
36	杉岡　奈穂子	壁画等の材料調査業務
37	辻本　與志一（株式会社文化財保存）	古墳壁画の保存修理業務
38	中島　志保	文化財防災ネットワーク推進事業に係る業務
39	中村　力也（宮内庁正倉院事務所保存整理室長）	奈良時代の遺物及び古代壁画等の材料調査業務
40	福永　香（国立研究開発法人情報通信研究機構電磁波研究所電磁波応用総合研究室長）	文化財の非破壊診断調査
41	三村　衛（京都大学大学院工学研究科教授）	文化財の保存環境の研究
42	上中　央子	微化石の調査研究、花粉分析
43	大江　文雄	遺跡出土資料の指導助言や調査研究
44	菊地　大樹（総合研究大学院大学特別研究員）	遺跡出土資料の分析、骨格標本の収集と公開
45	茂原　信生（京都大学名誉教授）	遺跡出土人骨の指導助言と調査分析
46	中橋　孝博（九州大学名誉教授）	遺跡出土人骨の指導助言
47	松崎　哲也	現生標本の整理・管理
48	丸山　真史（東海大学海洋学部特任講師）	遺跡出土資料の指導助言・調査分析
49	伊東　隆夫（京都大学名誉教授）	木造文化財の木材組織学的研究
50	児島　大輔（大阪市立美術館学芸課学芸員）	美術工芸品の年輪年代学的研究
51	光谷　拓実	木造文化財の年輪年代学的研究
52	小澤　毅（三重大学人文学部教授）	遺跡及びその調査技術に関する研究
53	岸田　徹（同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター）	迅速かつ安定的な遺跡探査のための機器システムの構築及び迅速な探査手法と取得データ解析・解釈法の研究
54	狭川　真一（公益財団法人元興寺文化財研究所副所長）	遺跡及びその調査技術に関する研究
55	西口　和彦	遺跡探査の研究
56	野口　淳（NPO法人南アジア文化遺産センター事務局長）	遺跡の三次元計測技術と成果の連携に関する研究
57	平川　ひろみ（同志社大学文化遺産情報科学調査研究センター）	三次元計測手法の開発及び民族学的知見からの考古学研究の推進
58	小沼　美結	災害遺構に関わる文献資料の調査・現地の視察等

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】　0人

d ウェブサイトアクセス件数

令和3年3月31日現在

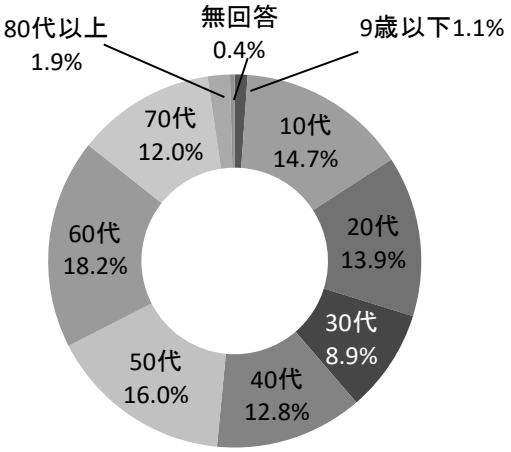
	H28	H29	H30	R1	R2
国立博物館計	13,053,220	15,795,489	15,131,386	16,937,495	12,409,706
東京国立博物館	6,433,867	7,014,006	7,679,851	8,235,810	7,021,923
京都国立博物館	3,334,335	5,788,678	4,382,078	4,948,829	3,480,100
奈良国立博物館	1,167,926	1,385,404	1,316,654	1,704,901	1,082,864
九州国立博物館	2,117,092	1,607,401	1,752,803	2,047,955	824,819
文化財研究所計	7,558,441	14,224,921	18,425,847	20,594,179	20,232,450
東京文化財研究所	2,567,780	3,337,734	4,494,214	2,989,314	5,094,252
奈良文化財研究所	4,990,661	10,887,187	13,931,633	17,604,865	15,138,198
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	7,856	9,469	10,779	13,261	13,284
機構本部	220,638	272,228	336,016	362,356	302,279
e国宝	2,854,622	3,605,534	3,471,727	4,247,236	1,952,296
国立博物館所蔵品統合検索システム（ColBase）	6,452	26,914	54,338	76,875	140,553
文化財活用センター	－	－	29,320	42,733	124,300
文化財防災ネットワーク	62,004	75,375	93,817	182,485	219,544

・アクセス件数の単位は、ユーザーセッション数である。
・文化財防災ネットワークは平成27年3月にサイトを開設、同年4月よりアクセス件数のカウントを開始した。
・文化財活用センターは平成30年7月にサイトを開設し、アクセス件数のカウントを開始した。
・28年度より、東京国立博物館及び奈良文化財研究所の数値には、データベースのアクセス件数を含めている。
　27年度以前の下段※1の数値は、上段の本体サイトアクセス件数にデータベースアクセス件数を含めた数値。（他施設は、27年度以前からデータベースのアクセス件数を含む。）

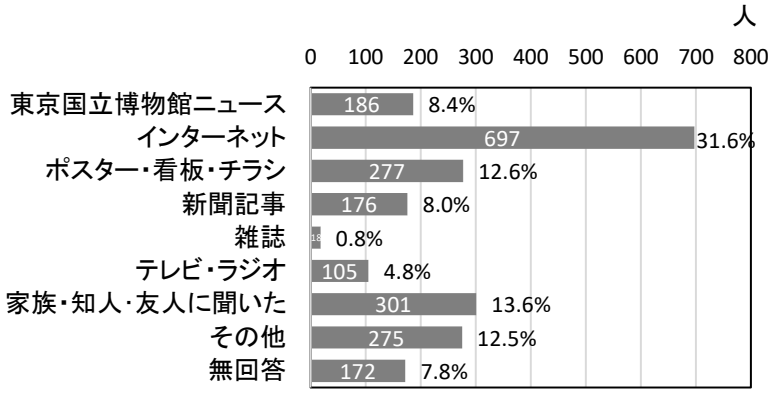
平常展（総合文化展）
アンケート集計結果

開催期間：令和2年6月2日（火）～令和3年3月31日（水） 開館日数：251日間
アンケート実施日：1か月に1日程度、日を決めて実施。（計8回）
回答者数： 1,717人
アンケート実施日来館者数：4,491 人
アンケート回収率：38.2%

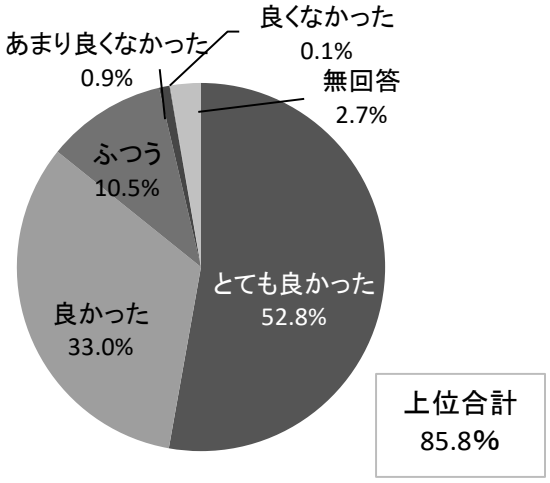
①アンケート回答年齢層



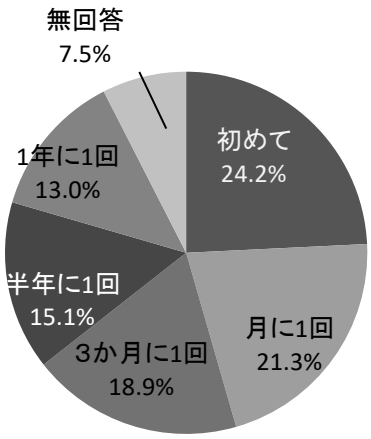
②認知経路 （複数回答）



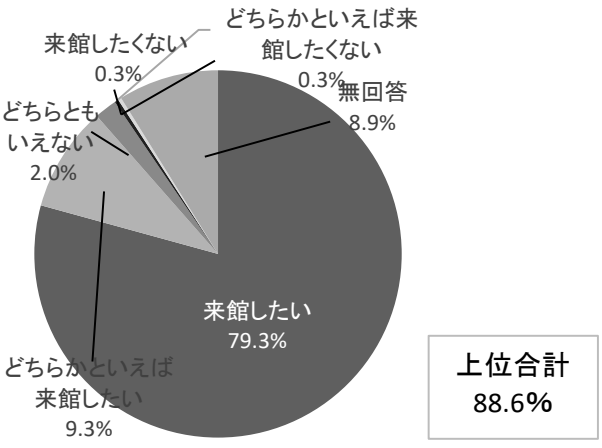
③展示に関する満足度



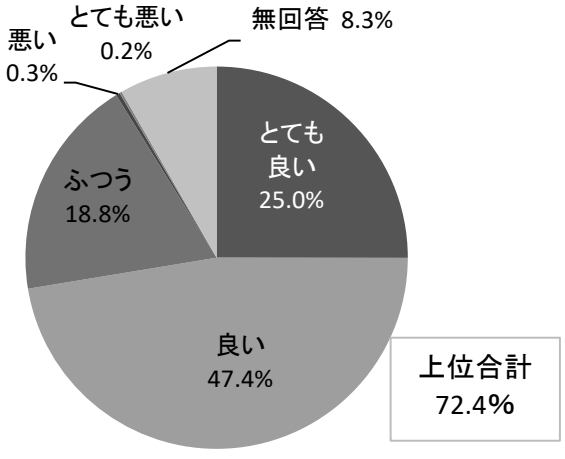
④来館頻度



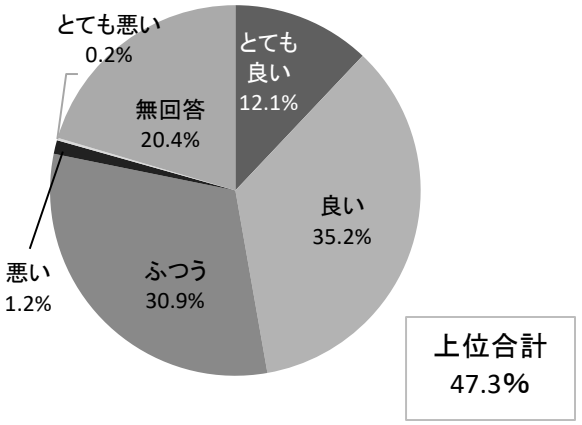
⑤再来館希望率



⑥ミュージアムショップに対する満足度

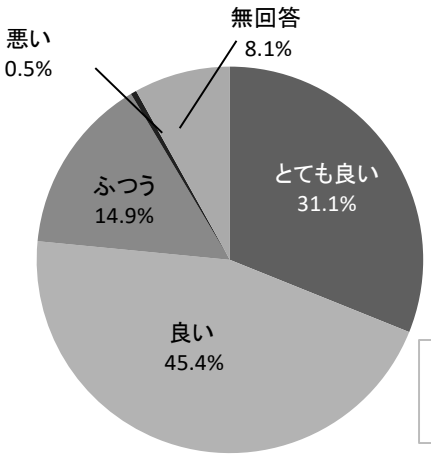


⑦レストランに対する満足度



上位合計
47.3%

⑧館内スタッフの対応について



上位合計
76.5%

主な意見・感想

・見入ってしまうようなすばらしい展示物がたくさんあってとてもよかった。
・コロナ予約制のため、静でゆっくり見られたのがよかった。
・刀剣の種類をふやしてほしい。
・ラインの外にたつと説明が小さくて見づらい。
・高齢者のために説明の文字を大きくしてほしい。
・もっとSNS等で頻繁に展示替えの告知をして欲しい。
・見どころを教えてほしい。

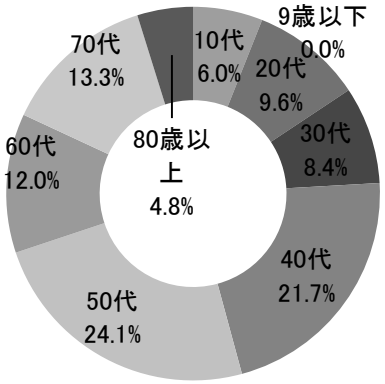
《外国人アンケート集計結果》

※新型コロナウイルス感染症の影響で、外国人の来館を見込めないため、実施していない。

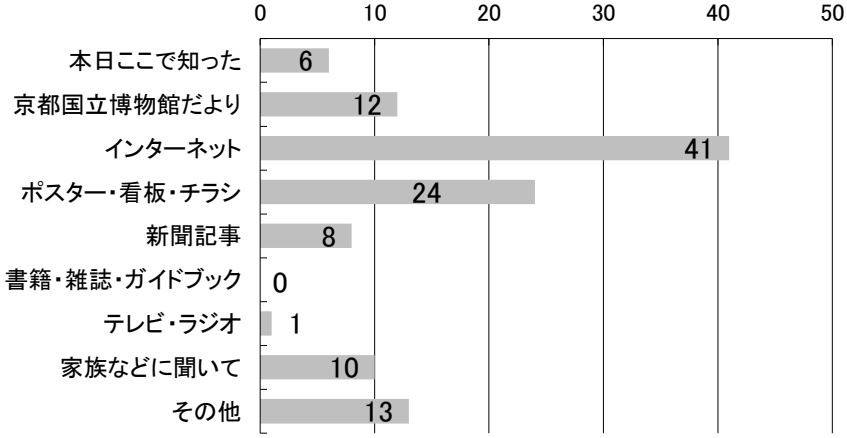
平常展（名品ギャラリー）
アンケート集計結果

開催期間：令和2年12月19日（火）～令和 3年3月7日（日）　開館日数：64日間
回答者数：103人
来館者数：18,941人（平常展開催期間のみ）
アンケート回収率：0.5%

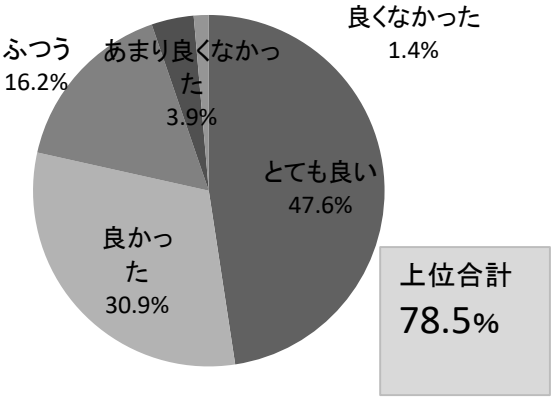
①アンケート回答年齢層



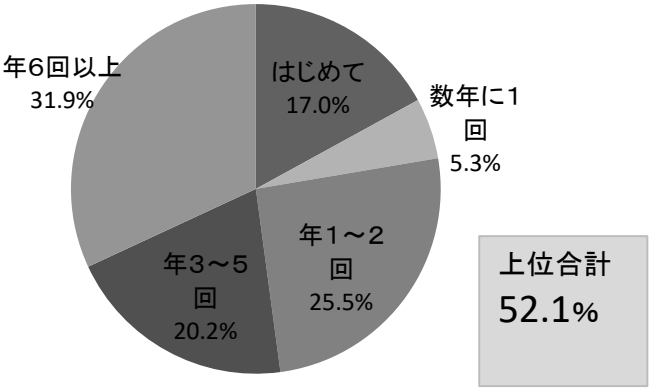
②認知経路 （複数回答）



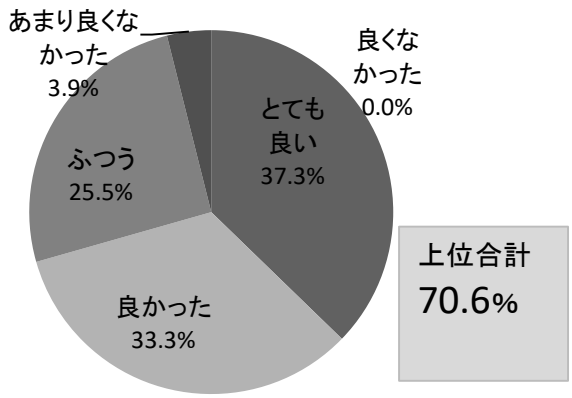
③展示に関する満足度



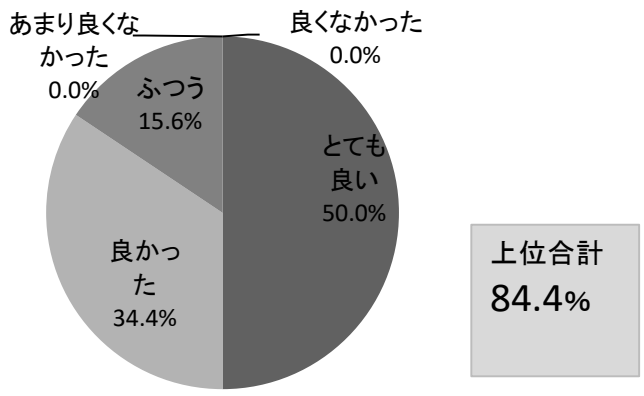
④来館頻度



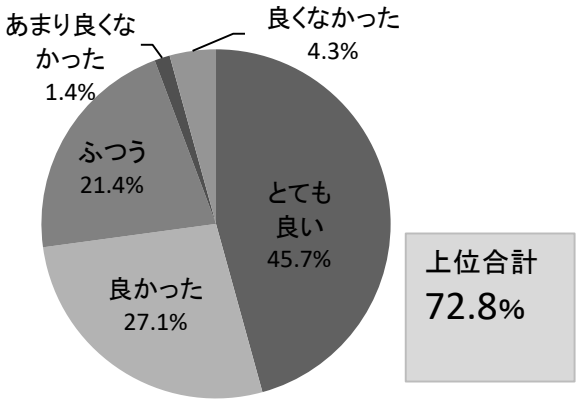
⑤ミュージアムショップに対する満足度（2年度）



⑥レストランに対する満足度（2年度）



⑦館内スタッフの対応について（292年度）

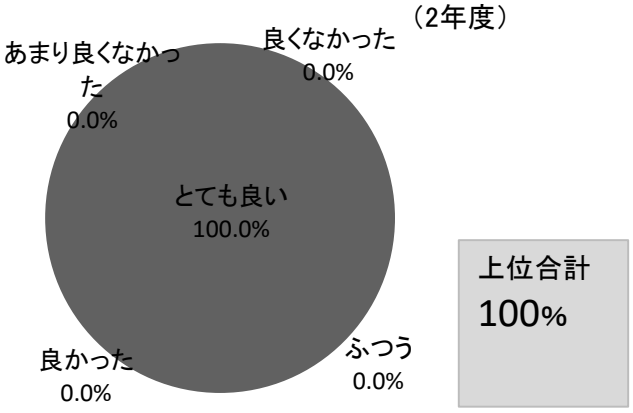


主な意見・感想

・贅沢な時間を過ごせた
・入場制限がなく入館しやすい
・椅子がたくさんあったので疲れることなく見れた
・トラりんが好きになって京博展示に興味が持てた
・本館を展示会場として使用してほしい

《外国人アンケート集計結果》
回答者数：1人

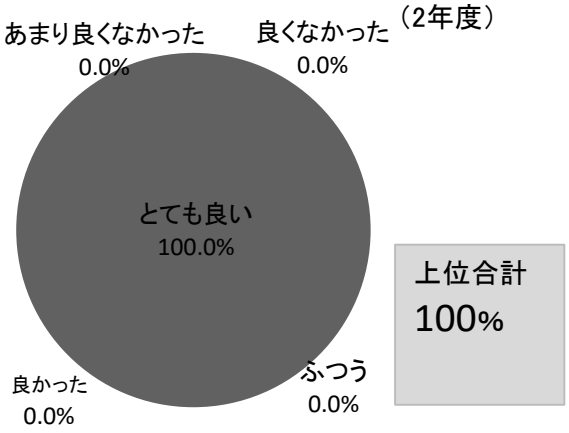
1．平常展示の全体的な印象について



主な意見・感想

（主な意見・感想　記入無し）

2．解説について

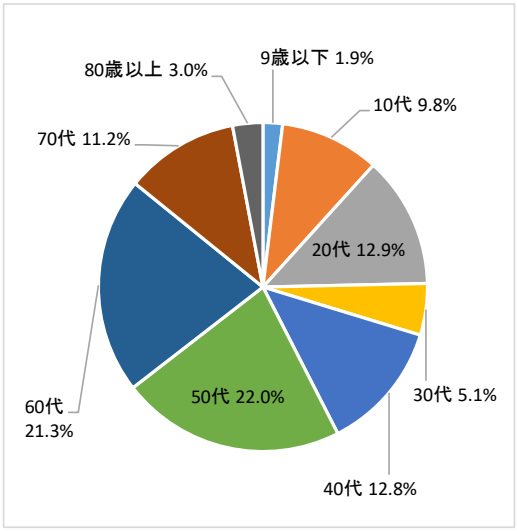


奈良国立博物館

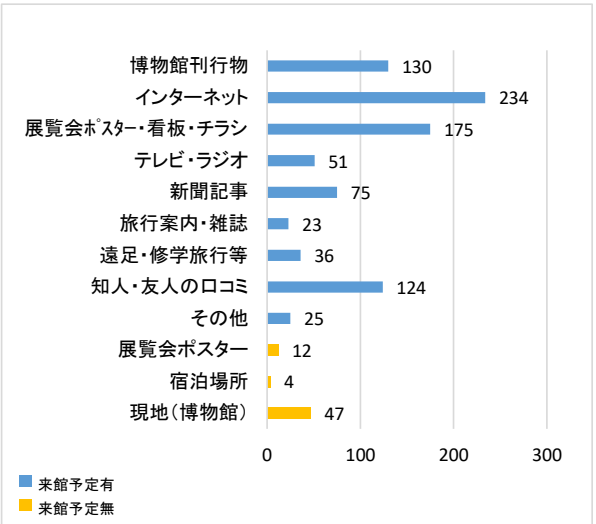
平常展（名品展）
アンケート集計結果

開催期間：令和2年6月2日(火)～令和3年3月31日(水)　開館日数：263日間
（回答者数：651人　入館者数：61,049人　アンケート回収率：1.07%）

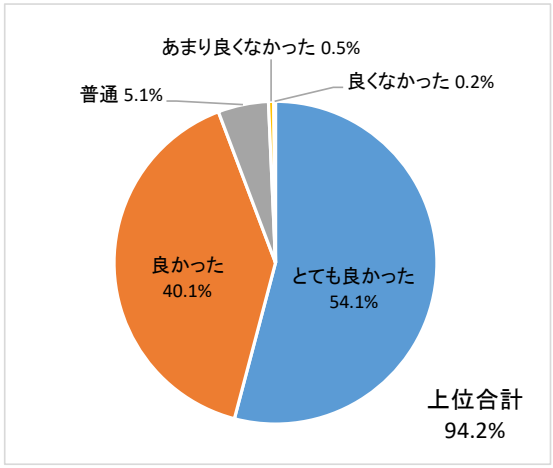
①年齢層



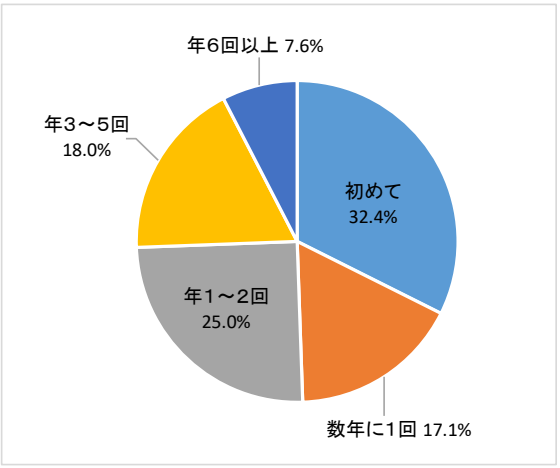
②認知経路（複数回答）



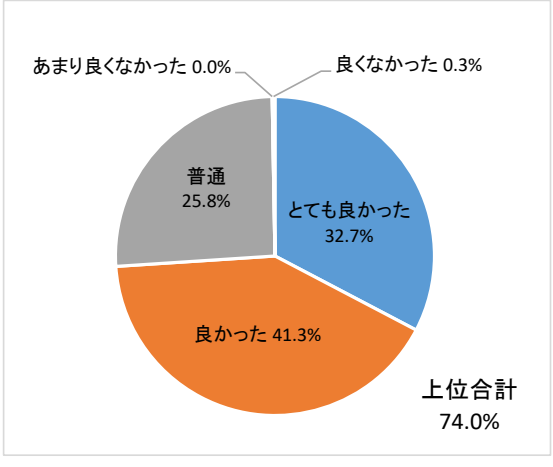
③展示に関する満足度



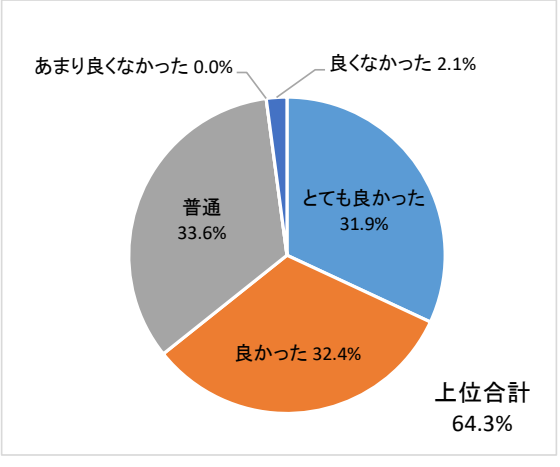
④来館頻度



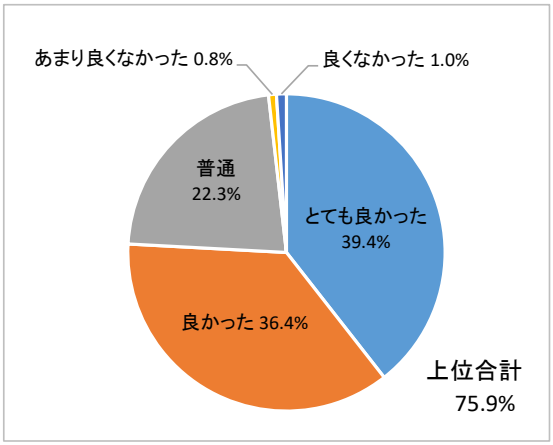
⑤ミュージアムショップに対する満足度



⑥レストランに対する満足度



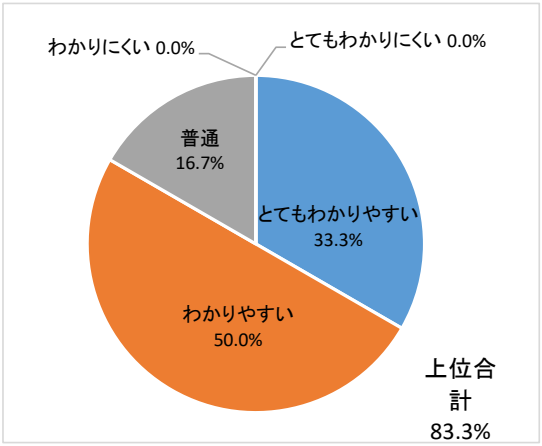
⑦スタッフ対応に関する満足度



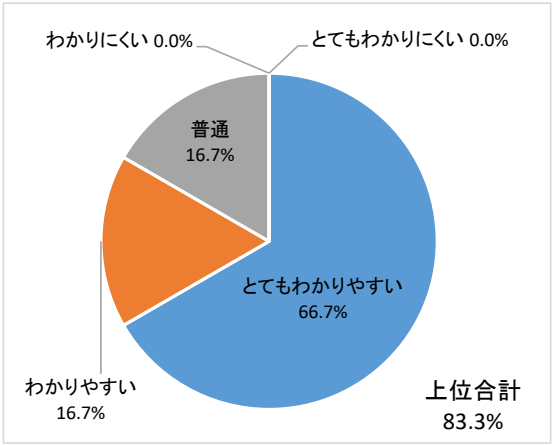
⑧主な意見・感想
・仏像を見に来ました。また来たい。
・今後も充実した内容の企画を期待しています。
・平常展、大きな仏像が増えてよかった。
・建築物自体が良く、照明も非常に良い。静かなコトも良い。
・毎年、展示のパターンが同じなので少し変えては。
・解説文の文字がもう少し大きいともっとよいです。
・椅子がなくて困る。

《外国人アンケート集計結果》
回答者数:12人

1.（外国人アンケート）
施設の案内・説明・看板について



2.（外国人アンケート）
展示のパネル・キャプションについて

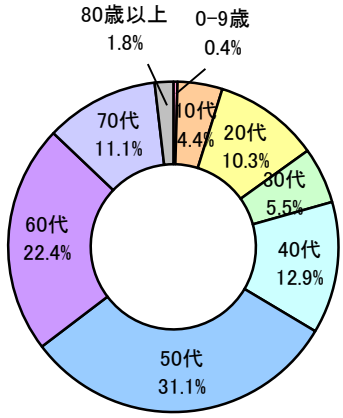


主な意見・感想
・また訪れたいです！！
・一番素晴らしい博物館です。
・他の美術館（日本各地）と比較しても、英語の翻訳は非常に優れており、
文法的にも正しく、詳細で、言語の知識を十分に発揮しています。
・いつも興味深い経験をさせてもらっています。

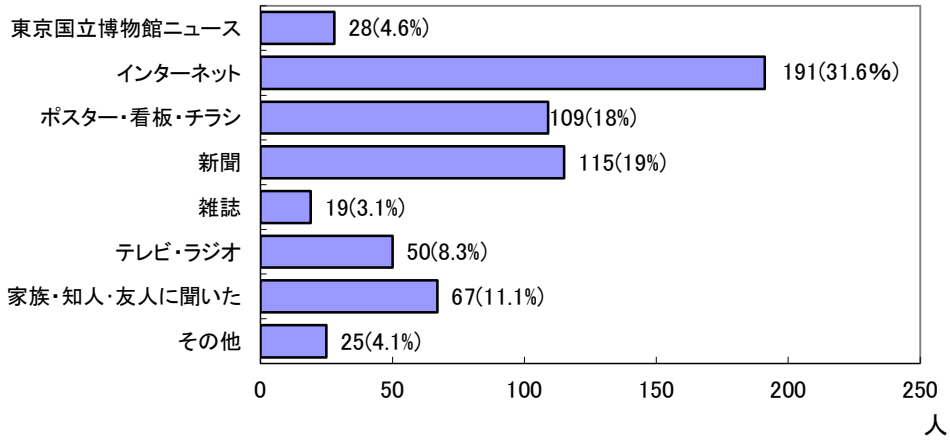
特別展「きもの　KIMONO」
アンケート集計結果

開催期間：令和2年6月30日（日）～8月23日（日）（48日間）
回答者数：496人（総入館者数：91,830人　アンケート回収率：20.88%）

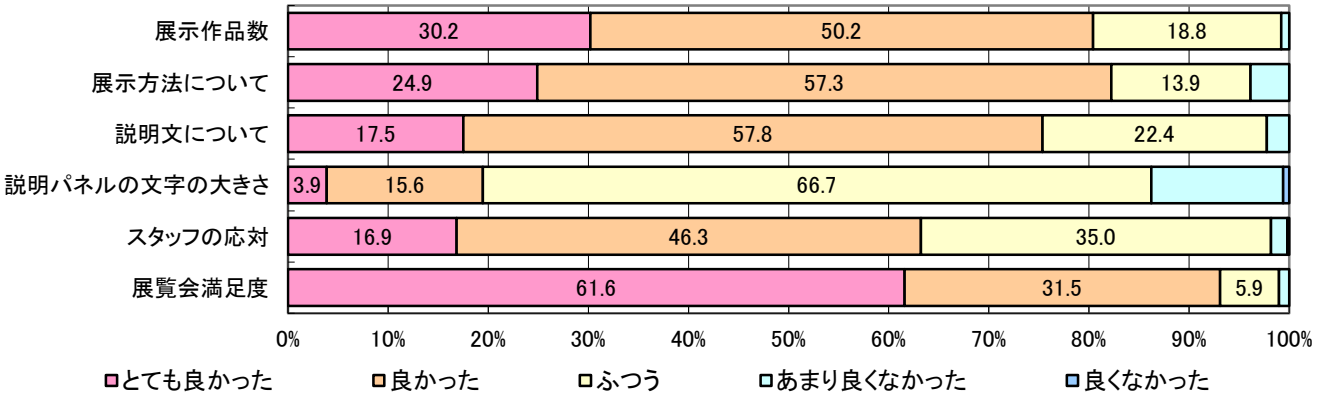
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・コロナ対策による予約制のため今までより展示室内の人が少なく、ゆっくり見ることができてよかった。
・コロナ禍の中、安心して展示を見ることができた。
・見ごたえがあり、きものがとてもきれいで良かった。
・きものの良さをさらに感じた。
・順路が分かりづらかった。
・音声ガイドを聞くポイントが分かりづらかった。
・説明文が少し難しかった。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	0.8	0.0
展示方法	3.9	0.0
説明文	2.2	0.0
文字サイズ	13.2	0.6
スタッフの応対	1.6	0.2
展覧会の満足度	1.0	0.0

（%）

本展は、信長・秀吉・家康・篤姫など歴史上の著名人が着用したきものや、尾形光琳（おがたこうりん）直筆の小袖に加え、きものが描かれた国宝の絵画作品、さらに現代デザイナーによるきものなど約300件の作品を一堂に展示しました。そして800年以上を生き抜き、今なお新たなファッション・シーンを繰り広げる「きもの」を、現代を生きる日本文化の象徴として展覧し、その過去・現在・未来を見つめる機会としました。新型コロナウイルスの影響により、会期の変更や事前予約制（日時指定券）の導入など特異な状況での開催となりましたが、本展覧会を観覧しアンケートに答えた93%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。また印象に残った作品として、信長の陣羽織、篤姫の着物、火消半纏、久保田一竹氏の作品やYOSHIKIMONOをあげられるお客様が多くいました。

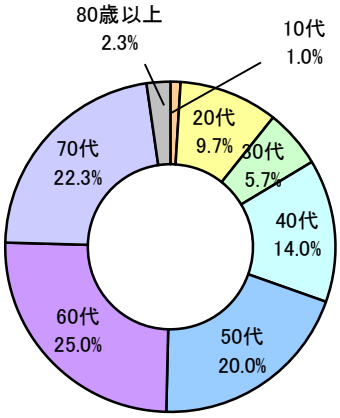
その一方で、順路が分かりづらかった、音声ガイドを聞くポイントが分かりづらかった、説明文が少し難しかったなどのご意見をいただきました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

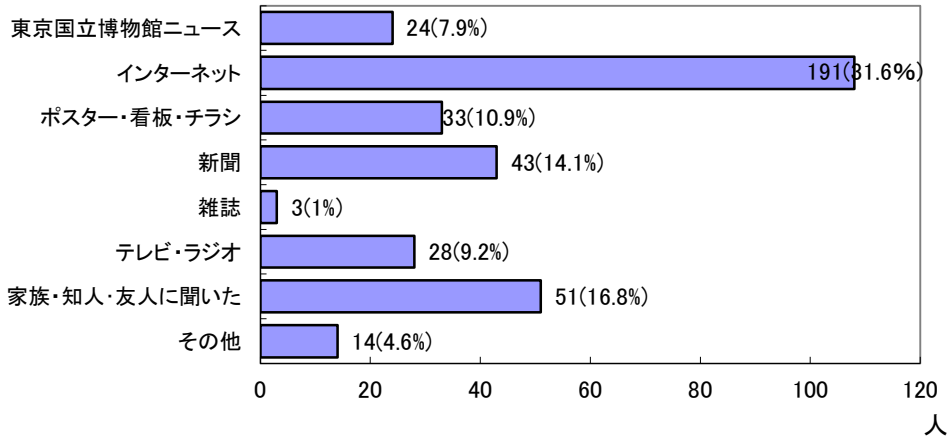
特別展「工藝2020－自然と美のかたちー」
アンケート集計結果

開催期間：令和2年9月21日（月）～11月15日（日）（48日間）
回答者数：300人（総入館者数：13,851人　アンケート回収率：64.79%）

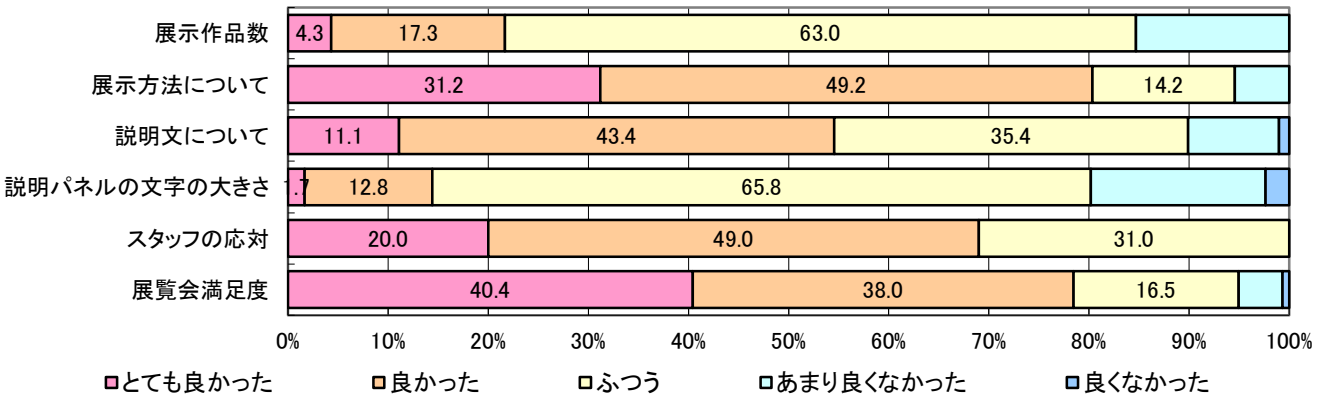
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・事前予約（日時指定券）のため、とても静かでゆっくり観覧することができた。
・表慶館が美しかった。
・照明・作品展示台含め工藝展の世界観がよかった。
・作品の解説シートが欲しい。
・文字をもう少し大きくしてほしい。
・休憩用の椅子が欲しい。
・もう少し近づいて鑑賞したい。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	15.3	0.0
展示方法	5.4	0.0
説明文	9.1	1.0
文字サイズ	17.4	2.3
スタッフの応対	0.0	0.0
展覧会の満足度	4.4	0.7

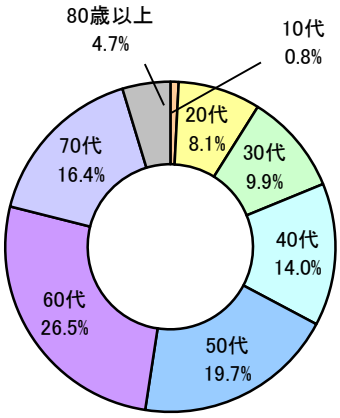
（%）

日本では、自然との共生による密接な精神的感性と固有の生命観が芽生えて我が国特有の工芸を発展させてきまた。それは、長い歴史と文化が形成されるなかで、変化に富む地形と四季折々の気候、そして豊かな風土に育まれた自然観を要因とすることが大きいと考えられます。日本が世界に発信する芸術文化を牽引する現代の工芸を一堂に会する本展では、82名の作家らが自由な感性によって多彩な芸術表現を発揮した、優れた近年の制作品82件を鑑賞いただきました。新型コロナウイルスの影響により、オンラインによる事前予約制（日時指定券）など特異な状況での開催となりましたが、本展覧会を観覧しアンケートに答えた78.4%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。また宮田亮平作の「生と静」、室瀬和美作の「柏葉蒔絵螺鈿六角合子」をはじめ、非常に多くの作品が印象に残った作品として挙げられていました。また、今回は表慶館という建物をはじめ、照明・展示ケース含めた展示構成の美しさについての感想が非常に多く寄せられました。　その一方で、解説、作品名称の文字をもう少し大きくしてほしい、休憩用の椅子が欲しいというご意見も寄せられました。

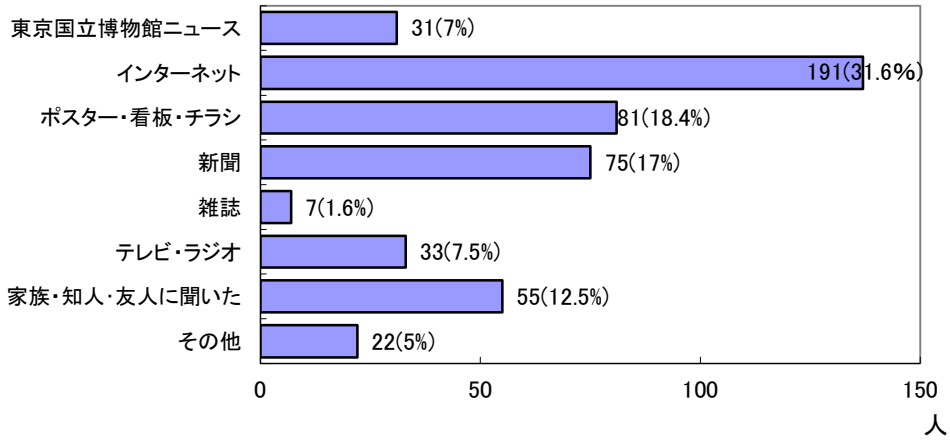
特別展「桃山―天下人の100年」
アンケート集計結果

開催期間：令和2年10月6日（火）～11月29日（日）（48日間）
総入館者数：82,068人
回答者数：388人

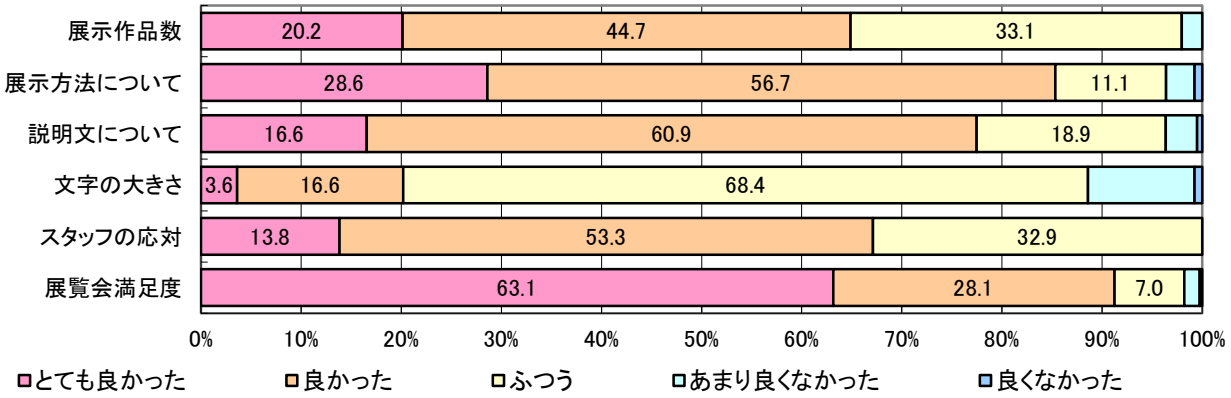
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・事前予約（日時指定券）のため、ゆっくり観覧することができて非常に充実していた。
・教科書で見たことのある名品揃いでとても見ごたえがあった。
・行灯型ケースの展示が多く、360度作品を見ることができ分かりやすかった。
・古文の概略説明が欲しい。
・音声ガイドが欲しい。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	2.1	0.0
展示方法	2.8	0.8
説明文	3.1	0.5
文字サイズ	10.6	0.8
スタッフの応対	0.0	0.0
展覧会の満足度	1.5	0.3

（%）

本展は、室町時代末期から江戸時代初期にかけての激動の時代に生まれた美術を概観し、美術史上「桃山時代」として語られるその美術の特質を、約230件の優品によってご覧いただくことを目的としました。そして激動の時代に、「日本人」がどう生き、どのように文化が形作られていったのか、約100年間の美術作品を一堂に集め概観することで、日本美術史のなかでも特筆される変革の時代の「心と形」を考える展覧会となりました。

新型コロナウイルスの影響により、オンラインによる事前予約制（日時指定券）の継続、観覧料金の高騰により入場者数は伸び悩みましたが、本展覧会を観覧しアンケートに答えた91.2%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。これは多くのお客様が印象に残ったと回答された松林図屏風、洛中洛外図屏風、唐獅子図屏風をはじめ、本展覧会が量・質ともに非常に充実していたことに加え、事前予約制によりゆっくり1点1点、ご観覧いただける環境であったため思われます。

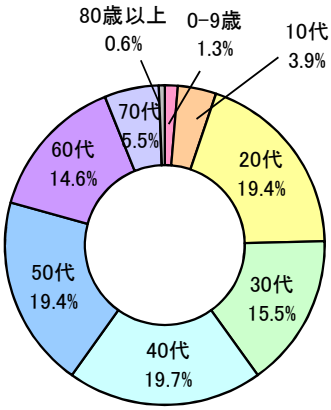
その一方で、観覧料金の値下げ、音声ガイドが欲しいというご意見が寄せられました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

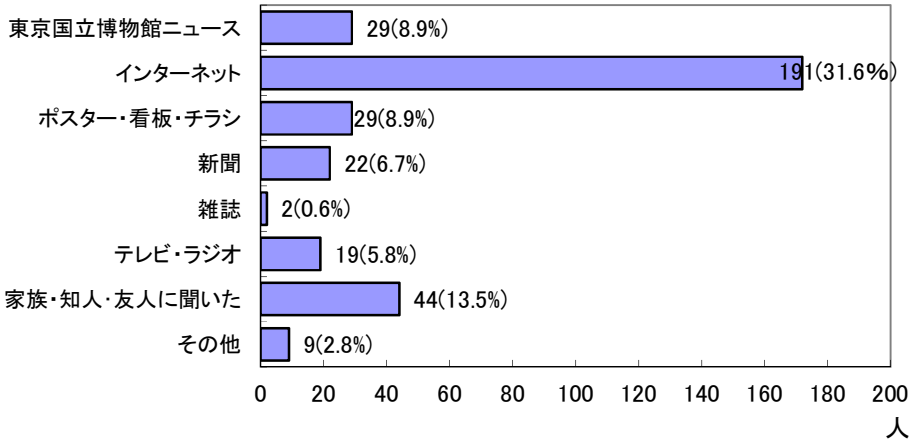
特別展「日本のたてもの―自然素材を活かす伝統の技と知恵」
アンケート集計結果

開催期間：令和2年12月24日（木）～令和3年2月21日（日）（46日間）
総入館者数　：　20,447人
回答者数：311人

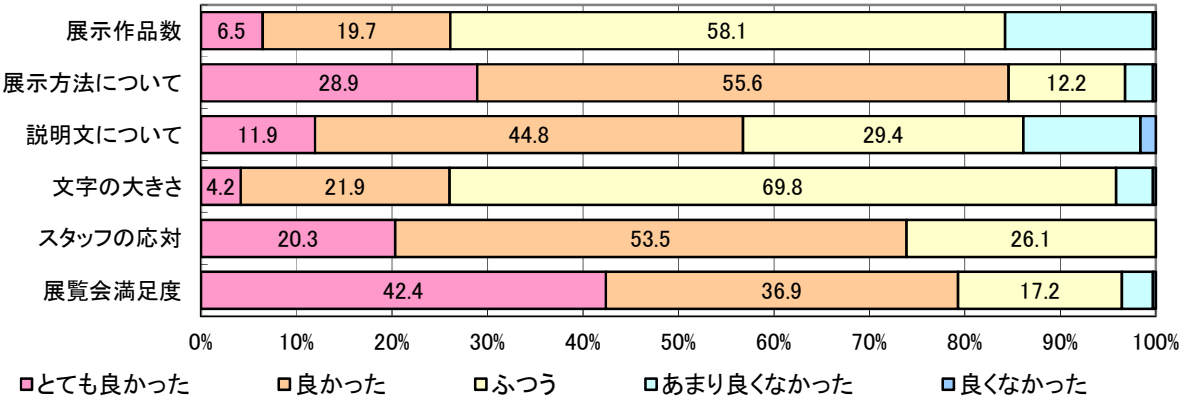
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・事前予約（日時指定）のため、密にならずゆっくり観覧することができた。
・通常みることのできない建物の構造や細部を模型を通して学ぶことができた。
・模型だけでなく、実物も見たくなった。
・大人だけでなく、小学生でも楽しめる展示だった。
・作品名にフリガナが欲しい。
・専門用語多かったので、解説がほしい。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	15.5	0.3
展示方法	2.9	0.3
説明文	12.3	1.6
文字サイズ	3.9	0.3
スタッフの応対	0.0	0.0
展覧会の満足度	3.2	0.3

（%）

本展は、「日本博」および「日本美を守り伝える『紡ぐプロジェクト』」の一環として、国立科学博物館、国立近現代建築資料館との3館合同で開催した展覧会で、日本の建築を、高い美意識と加工技術を際立たせて縮小表現した建築模型、図面、道具など貴重な資料の展示を通して、自然素材を活かした造形的な特徴を古代から現代まで見ることのできるものとなりました。当館では、1964年の東京オリンピックに併せて開催された「日本古美術展」出品模型や、文化庁が国宝・重要文化財建造物を修理する際に、形態、技法などを検討し、その技を伝承するために製作してきた模型を活用し、古代から近世までの日本建築の成り立ちについて紹介しました。本展会期中は緊急事態宣言の発令などもあり、夜間開館の開催を中止し、オンラインによる事前予約制（日時指定券）、館内消毒の徹底をはじめお客様のご協力もあり、無事に閉幕することができました。

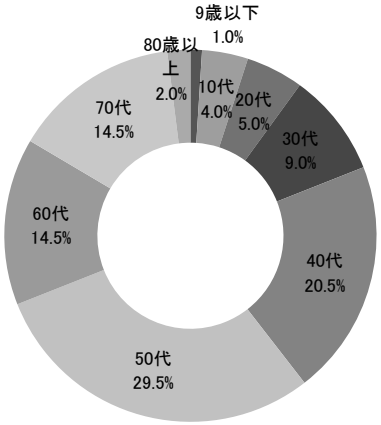
本展覧会を観覧しアンケートに答えた79.3%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。普段見ることのできない建物の構造や細部を模型をとおして学べることに面白さを感じ、実際に実物を見たいとのご意見をいただくことができました。その一方で、作品名へのフリガナや専門用語の解説が欲しいというご意見が寄せられました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

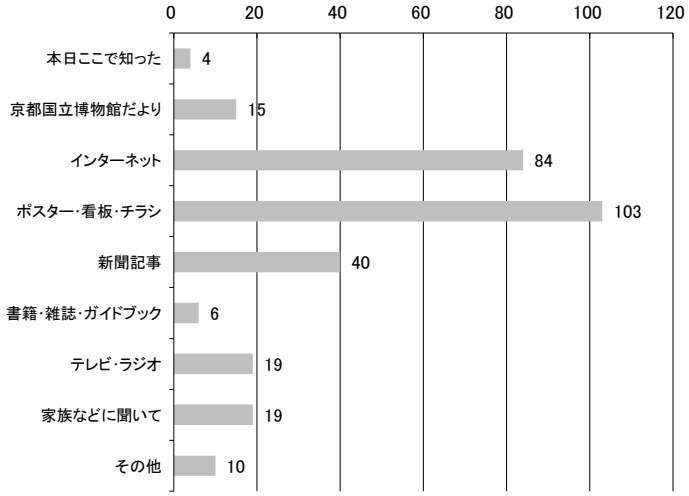
特別展覧会「聖地をたずねて」
アンケート集計結果

開催期間：令和 2年 7月 23日（木・祝）～ 9月13日（日）（46日間）
回答者数： 220人（総来館者数 52,164人 アンケート回収 0.4%）

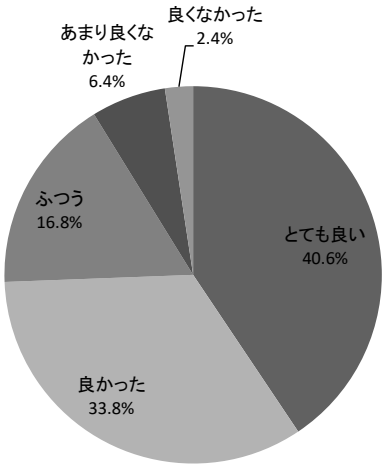
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
74.4%

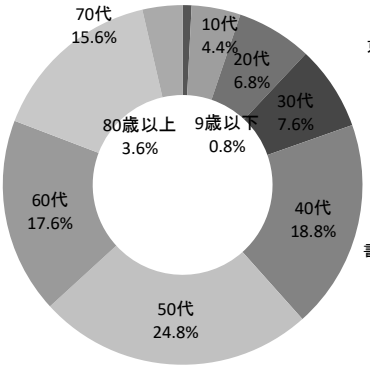
④主な意見・感想

・面白かった。
・見ごたえがあった。
・これからも素晴らしい翻訳を楽しみにしている。
・座れる場所を増やしてほしい。
・照明は角度により眩しい。

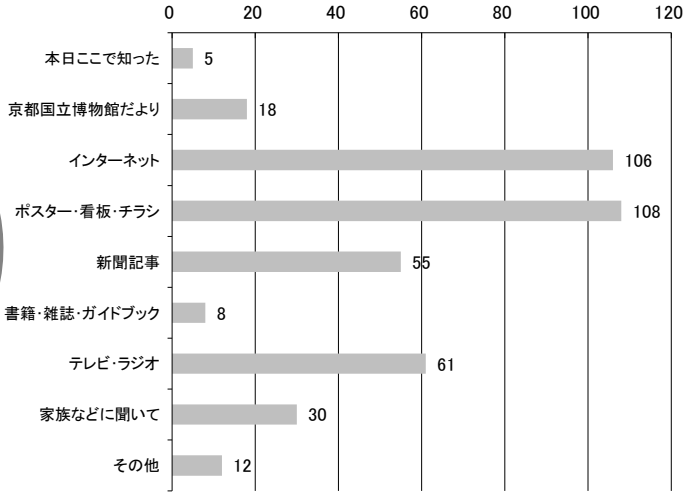
特別展覧会「皇室の名宝」
アンケート集計結果

開催期間：令和 2年 10月 10日（土）～ 11月 23日（月・祝）（39日間）
回答者数：272人（総来館者数 85,315人　アンケート回収率 0.3%）

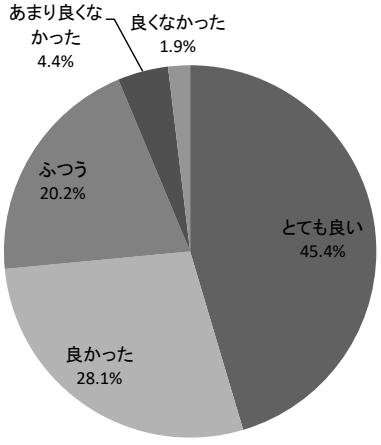
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
（とても良かった+良かった）
73.5%

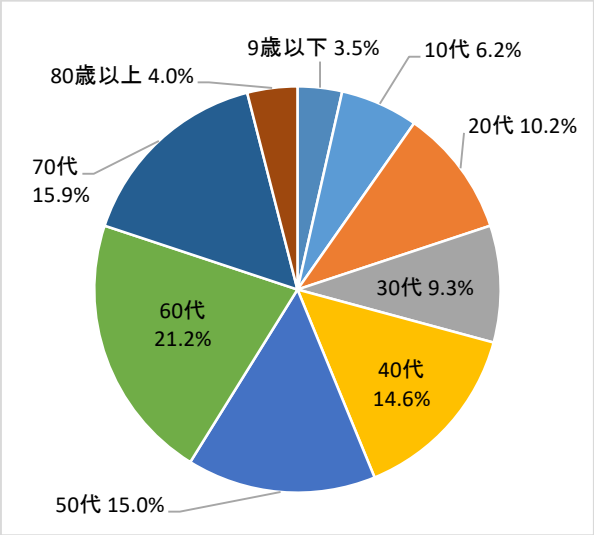
④主な意見･感想
･順序に関わらず自由に観覧できるとの声かけがあってよかった。
･配置が工夫されている。
･観覧料が高い。
･密になっている場所があった。

御大典記念 特別展「よみがえる正倉院宝物　ー再現模造にみる天平の技ー」

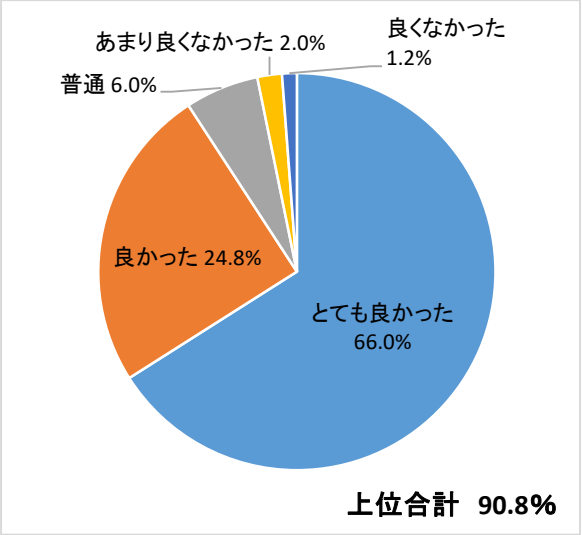
アンケート集計結果

開催期間：令和2年7月4日（土）～9月6日（日）（56日間）
回答者数：262人　入場者数：42,846人　回収率：0.61％

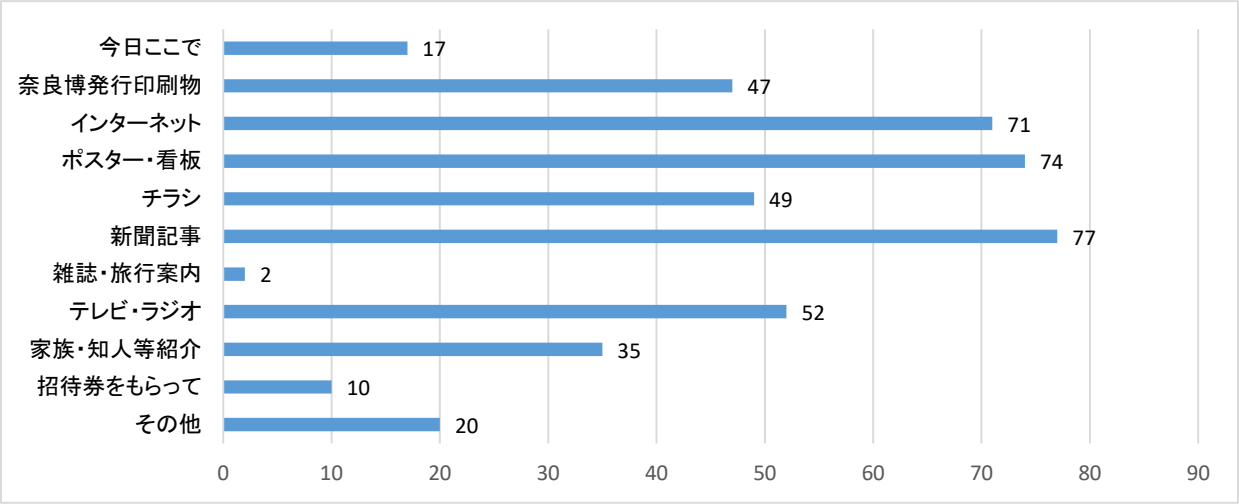
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答あり）



④主な意見・感想

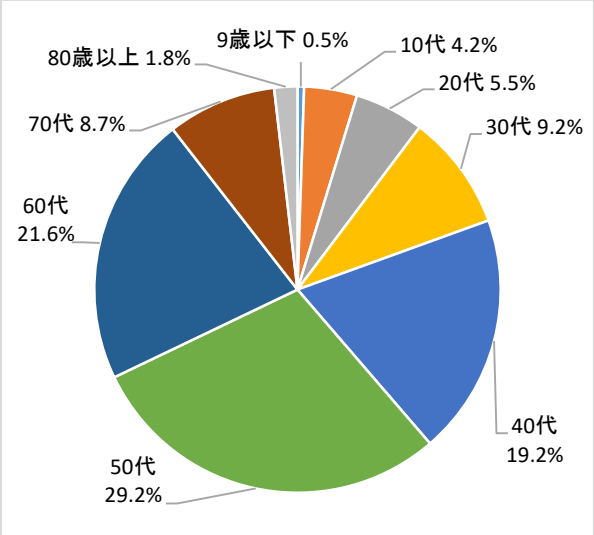
・五絃琵琶がとてもよかったです。ありがとうございました。
・大好きな五絃琵琶がじっくりと見られたし、製作技法も知ることができた。とてもうれしかった。
・ゆっくりと見れて良かったです。模造の過程がビデオ等で良くわかりました。
・コロナの影響で様々な文化が危機を迎えていると思うが、その継承の重要さや努力について改めて考えさせられた。
・解説文自体は良かったがケースの壁のパネルは字が小さくよみづらかった。
・古文書に解説を付けてもらえれば、もっと理解が出来ておもしろいと思います。
・空調が効きすぎて寒く感じられた。

第72回正倉院展

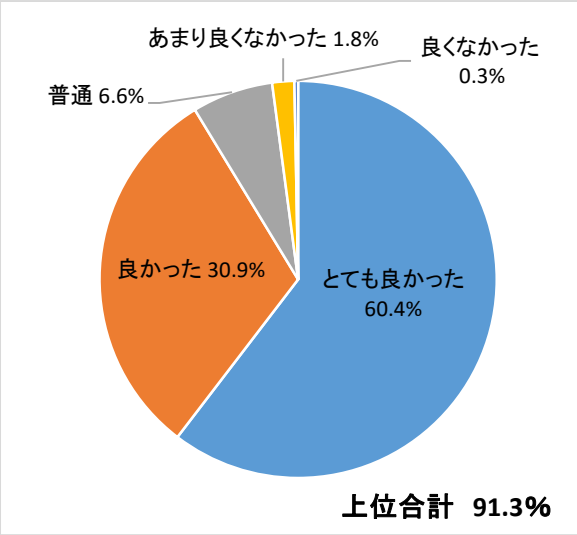
アンケート集計結果

開催期間：令和2年10月24日（土）～11月9日（月）（17日間）
回答者数：437人　入場者数：36.344人　回収率：1.20%

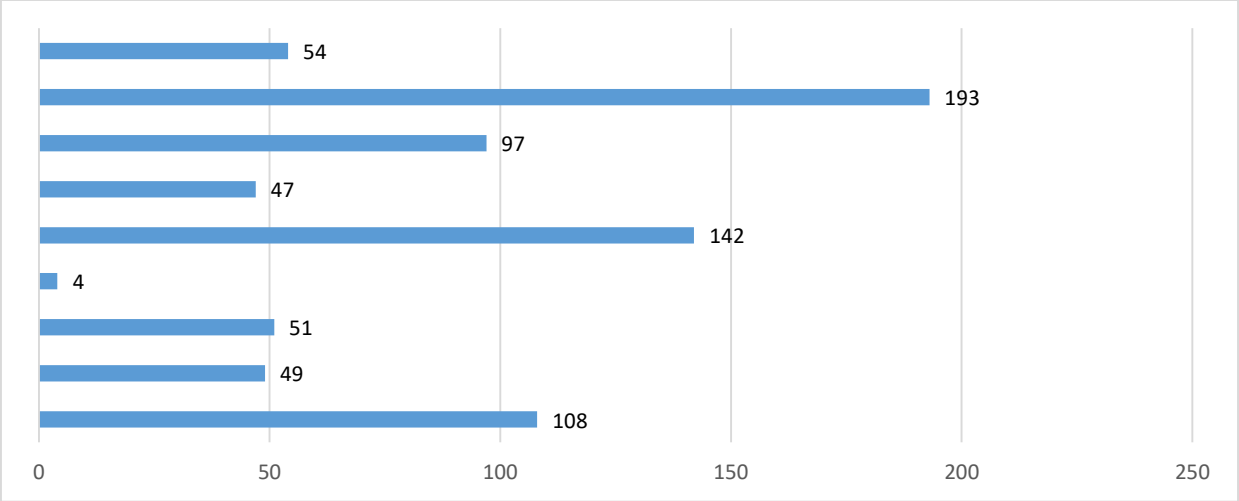
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答あり）

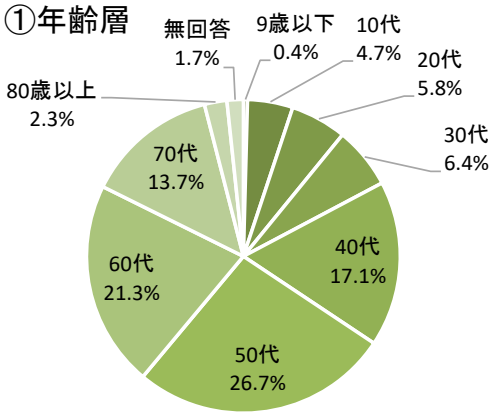


④主な意見・感想
・毎年良い作品が出陳されていて楽しかったです
・毎年来ているが、すごく混雑していて見れなかったので今年はゆっくり見れて、とてもよかった。
・今後も前売券制度で人数を限って開催して欲しい
・薬の展示はめずらしかったと思う。今年の状況で当時の光明皇后の想いを感じられた。
・説明文が2ヶ所あるので混雑しなくてよかった
・暗くて細かい所が見にくい
・容器など中身の見えにくい品があった。

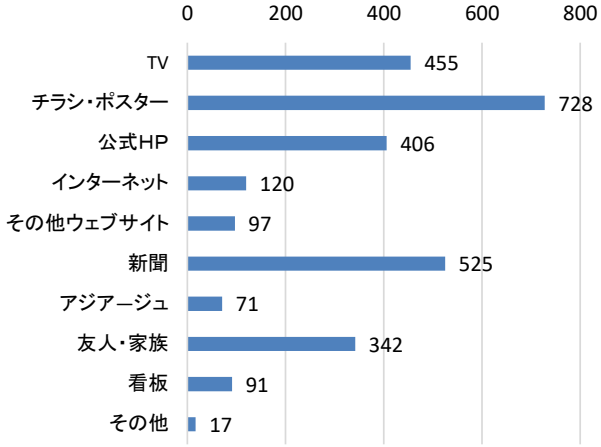
特別展「奈良・中宮寺の国宝」
アンケート集計結果

開催期間：3年1月26日(火)～3月21日(日)（48日間）
総回答者数：1,901人（総来館者数：50,324人　アンケート回収率：3.77%）

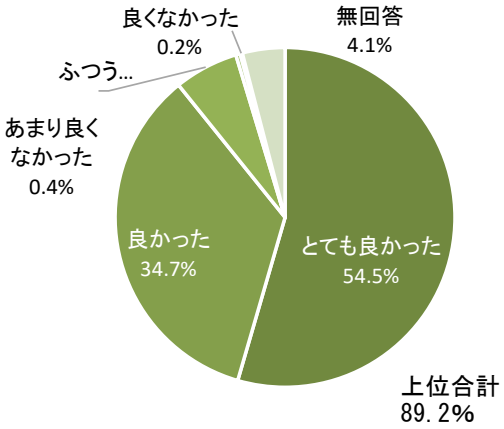
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・全ての展示物の状態がとても良く、素晴らしかったです。
・菩薩半跏思惟像を前から後ろから隅々まで見ることが出来て良かったです。
・見やすいように工夫してあるのはすごく良かった。展示の順番も、見やすくて良かった。
・ライトのあてかたがとても柔らかくて、像の質感が分かりやすくて良かった。
・解説文の文字をもう少し大きくしてほしいです。
・音声ガイドが無い分、説明がもう少し詳しくあってほしかった。